衝撃!! 船木誠勝がプロレス&格闘技復帰宣言!?

紙のプロレス RADICAL

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

62
2003



"キラー"ヒョードル降臨!
藤田と新日本を一刀両断!!
エメリヤーエンコ・ヒョードル

野獣再覚醒!!
ヒョードル戦の先に見据えるモノは何か?
藤田和之

5・2大成功! & 5・5大爆発!
5月のマット界MVPはこの男だ!!
橋本真也

地上波放送、絶好調発進!!
ZERO-ONE大進撃特集!!

全日本内紛再ボッ発!?
悩める"大型新人俳優"を直撃!!
武藤敬司

冬木弘道を背負い壮絶爆破!!
金村キンタロー

メイン以外も見どころ満載!!
6・8『PRIDE.26 REBORN』直前情報!!

誰でもいいからミルコの首をカッ斬ってみろ!!

"REBORN"

すべてはここから始まる!!

ヴァーッと『紙プロ』初登場!!
佐々木健介

闘龍門発世界へ!!
ウルティモ・ドラゴン、WWE出撃!!

7月再上陸決定!!
さらなる日本侵略へ向け、
王者ブロック・レズナー来襲!!

5・5『DEEP』で大波乱!!
それでもやっぱりビバ・メヒコ!
プラソ・デ・プラタ

新日本を完全制圧!!
IWGP&NWF二冠王!!
高山善廣

アントン&新間の闘魂劇場炸裂!!
5・2新日ドーム徹底検証!!

紙のプロレス RADICAL WANIMAGAZIN MOOK 227 2003 NO.62 この夏、マット界に大爆発の予兆アリ!!

発売元:(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話/03-3357-2911
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188
ワニマガジン社

世界最強の男の

『PRIDE』ヘビー級王者
エメリヤーエンコ・ヒョードル
オフィシャルロゴ&
待画、絶賛配信中!!



待画あります。

中川画伯のイラスト待画毎月アップ!! 未公開イラストもあり!!







※写真はイメージです。実際の待画とは異なります ※着メロ・待画は一部機種には対応しておりません

ユーザーとプロレスする携帯サイト
紙のプロレス Hand iモード 月額¥300

★着メロ・待画は毎月1日アップ!! 要チェック!!
★マット界の事件・ニュースを毎日更新!! メルマガも毎日配信!!
★吉田豪、山口日昇のコラム（※これだけ不定期）も絶賛更新中!!
★レスラーの"友達の輪"コラム「『紙プロ』いいとも」、小島聡の意外なお友達紹介!!

iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技／大相撲 ▶ 紙プロHand

ez-web版も、もちろん毎日更新!! メルマガも毎日配信ダーッ!!

紙のプロレス Hand ez-web 月額¥200

メニュー
- ●動画対応の機種なら、動画も見れる!!
- ●日々のニュースをどこよりも早くドラマチックに送る「メガNEWS速攻」
- ●マット界の流れをもう一度見たい時に「メガNEWS保存版」
- ●リニューアルして見やすくなりました「試合結果速報」
- ●『紙プロ』認定要注目団体の細かな情報を随時アップ!!「団体別TOPICS」
- ●会見・試合写真等、写真つきニュースを毎週公開!!「ビジュアルニュース」
- ●もちろんヒョードル待画&中川画伯イラスト待画あります!
- ●1カ月ごとに見れる「試合スケジュール」で観戦計画もバッチリ!

こちらも6月1日着メロ&待画追加ダーッ!!

トップメニュー ▶ 遊ぶ・楽しむ or ezインターネット ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶ 紙プロHand



さまよえる

共犯関係

マット界は凪の状態――。
だが、大地殻変動は間近だ!!

「そんなもん、アンタ、これはこうなるに決まっとるよ！」と一編集長（井上義啓氏）なら断言するところだが、ここは申し訳ないが〝予感〟の話である。

数年前なら、プロレスのメジャーは新日本、全日本。立ち技はK―1、総合は『PRIDE』という図式が確立していたが、いまやマット界は確実に再編成の時代に突入している。いや、すでにその予兆は以前からあったもので、いま現在がその最大の渦中なのかもしれない。

格闘技の二大メジャーである『PRIDE』とK―1は、石井元館長の一件や、故・森下社長の急逝という事態が予想以上に影響があったのか、遠心力は残しているものの、『PRIDE』とは別派の総合格闘技大会が今夏開かれるという噂もあったように、何かの拍子で良くも悪くも暴発を起こしかねない。だが、現在は無風というか、凪の状態が続いているかのようにも見える。

この二つのメジャーが渦を起こす場になっていないような印象を与えるのも、また確かなのだ。

その間隙を突くかのように、5・2東京ドームには、新日本、ノア、パンクラスが、それぞれが別のベクトルを見据えながらの暫定的協調路線を形にし、不完全ながらも問題提起という渦を起こした。

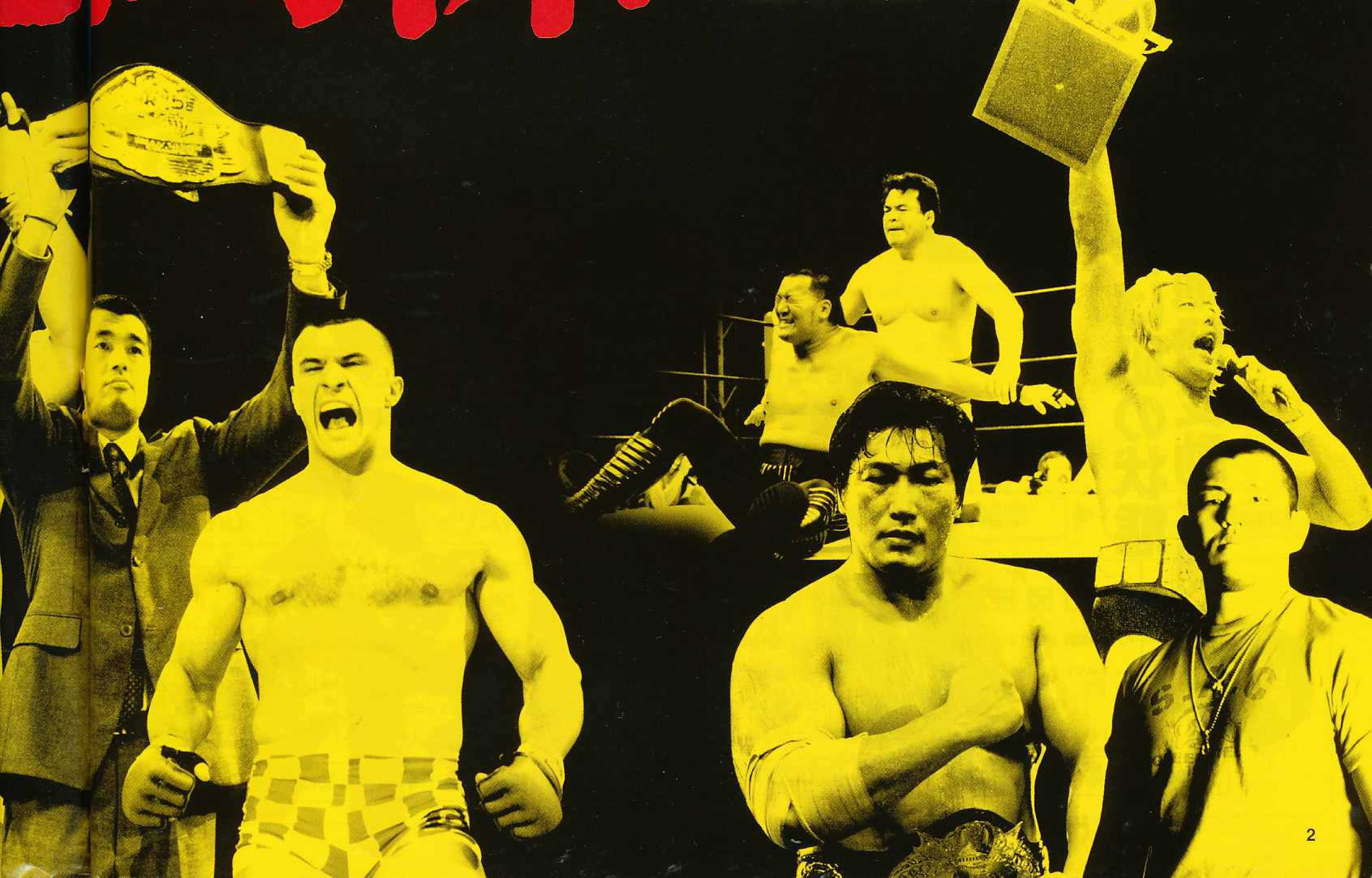
同日のZERO―ONE後楽園大会も、リング上での対抗戦とは違う意味で、ZERO―ONE、UFO、全日本が興行的に協調路線を形にし、こちらも小さいながら瞬発力&爆発力のある渦を巻き起こした。

その他、たとえばZERO―ONEのガイジン勢はノアのリングに上がったりもしているし、極地的には、この〝渦〟には入りきらない動きも活発だ。

その上空を、フリーの大物である高山善廣や、その他の団体が様子を見ながら、その渦に巻き込まれないように、あるいは巻き込まれてもいいような準備をしている状態だと言っていいだろう。

マット界全体の方向性やイデオロギーという部分に関しては〝意思の統一感〟を持たないものの、いまは各々の団

関係がマット界を動かす!!



体や場がメリットorデメリットを考えていく中で、暫定的協調路線を取らざるをえないという側面もある。そういったことは抜きにして、結果的に5・2は二つの小さいながらも強力な渦がぶつかったのだ。

今後、この二つの渦は別々に巨大化していくかもしれないし、していかないかもしれない。場合によっては、一つの渦になるシーンもあるかもしれない。

しかし、それでもマット界の今後にとって一番重要なのは『PRIDE』とK―1の動きだ。

巨大な渦を巻き起こすには、暫定的協調路線という生やさしいものではない、大きな意味での〝共犯関係〟が必要である。マット界をこういうベクトル、方向性に導きたいという、〝強烈な動機の塊〟みたいなものが渦を起こすのだ。むしろ、そういった強烈な動機の塊がないと、渦なんて起こせるはずもない。

いまは、〝共犯関係〟がさまよっている。

〝さまよえる共犯関係〟の時代だ。

ここ2年くらい、いまや業界最大手といってもいいK―1と『PRIDE』の〝共犯関係〟がマット界の中心となる渦をつくり出してきた。それは〝野望〟と言い換えてもよかった。その渦の中から『猪木祭り』や『Dynamite!』が生まれた。

しかし、そういった動きや角度とは違う、大きな意味でのハード面、ソフト面両面に関するマット界の再編成が、いま水面化で進行している気がする。これは、あくまでも〝予感〟である。

新日本のバーリ・トゥード参入。ZERO―ONEのブレイク、『PRIDE』のREBORN――。

とにかく今年後半には大きな波が来そうな予感がする。

〝強烈な動機の塊〟が、悪い意味ではない〝共犯関係〟として目の前に立ち昇ったとき、マット界の再編成、地殻変動はアッと驚く形で、ファンの前に姿を現すことになるだろう。たぶん。

ん〜っ、キョーハンッ!!

テーマある共犯



藤田和之

王者に〝天敵〟現る！



6・8「PRIE.26
RE-BORN」野獣
復活祭となるか!?



「一番のご馳走が目の前にあるのに、誰も食いついていかないんで。ヒョードル戦を自分からオーダーしました」そんな台詞と共に、絶妙すぎるタイミングでヒョードル戦に名乗りを上げた藤田和之。実に2年ぶりとなる『PRIDE』での闘いを、なぜこのタイミングでブチ挙げたのか？　そこには、この野獣の恐るべき嗅覚と、天性の計算があったような気がしてならない。ズバリ、藤田は「勝てる」と踏んでこの闘いに名乗り出たハズだ。王者・ヒョードル危うし！　6・8『REBORN』が野獣復活祭と化す！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／森鷹博
協力／“Show”大谷泰顕
designed by hisa (Two Three)



6月8日、ヒョードルが野獣に喰われる!?

この男、知能犯なり!

まず、このインタビューを読むにあたって、読者の皆さんに注意をしておきたい。「藤田和之の言葉に騙されるな」と！

騙されるなと言っても、藤田が嘘をついているとかそういうことではもちろんない。藤田と言えば、記者会見でこそ、中西に対しての「バカ発言」など、トゲのある言葉を連発するが、インタビューとなると一転、本音をはぐらかしたり、話の内容を見事に切り返したりするのがその特徴。だから、ただ言葉の表面上の意味だけを捉えていたら、藤田が本当に考えていることは、サッパリわからない仕組みになっているのだ。

というわけで、今回のインタビューでも藤田は、リング上での猪突猛進な闘いぶりとは正反対の、ニコニコしながらのらりくらりとしたリック・フレアーのような受け答えをしているが、その言葉の裏側には、藤田和之の強烈な自我が潜んでいることを賢明な『紙プロ』読者の皆さんにはゼヒ見極めて欲しい。そうすれば、藤田がヒョードル戦に名乗り上げた本当の理由、そしてヒョードル戦への揺るぎない自信というものが、きっと浮かび上がってくるはずだ。

では、いきますか——ッ！

プロレスラー同士のVTに他との違いはない。ただその後の〃絵〃が描きやすいとは思う。

——今回、藤田選手は2年振りの『PRIDE』参戦ということなんですけど、実は本格的な『紙プロ』登場も3年振りなんですよね。

藤田　あ、そうなんですか。

——はい。ですから今日は聞きたいことが山ほどあるんで、よろしくお願いします！

藤田　はい、よろしくお願いします！

——ではまず5・2の中西戦の話から伺っていきたいんですけど、これはマット界ではいろいろ話題になって、新日本プロレス的にも中西選手的にも、そして業界的にもかなり大きな試合だったと思うんですけど、藤田さん的にはいかがでしたか？



藤田　いや、俺にとっては毎回が大きい試合だと思ってるんで。

——それは裏を返せば、中西戦は藤田さんにとっては、決して特別じゃなかったということじゃないですか？（笑）。

藤田　特別じゃないですね。でも、一生懸命やりましたよ（ニッコリ）。

——だから、業界の中では試合前からいろいろ騒がれた試合でしたけど、当の藤田さんだけは、もっと先を見据えての試合というか。簡単に言うと〃前哨戦〃という感じが凄くしたんですけど、そういう感じではなかったですか？

藤田　1試合1試合をキチっとやるのは当然の話なんで、たまたま先、先っていうのが決まっている状況の中でやった試合だったっていうだけですね。

——もちろん、頭の中には先を見据えた部分はあったんですか？

藤田　かなりね。

——あ、かなり（笑）。

藤田　先を見てたし、その先の先もね。

——先の先の先まで見てましたか！　ちょっと本音が見えてきた気がします（笑）。

藤田　（ニコニコ）

——あの試合でパンチを主体にしたものだったり、タックルを使わなかったのも、そういったものを見越してのような気がしたんですけど？

藤田　そんなことはないですよ（笑）。

——ホントかなぁ（笑）。じゃあ、質問の角度を変えて。試合前、藤田さんは中西さんに対して「バカ」を連発して挑発してましたけど、試合を終えてみて、中西さんの印象に変化はありましたか？　やっぱりバカだったのか、それともいい意味での〃バカ〃だったのか。

藤田　そういう次元の話じゃなくて、今回

朝青龍兄、"最強"の片鱗見せるもアクシデントでTKO負け



横綱・朝青龍の実兄・スミヤバザルは開始早々、高阪を高々と揚げ上げ豪快なテイクダウン。しかし、高阪は冷静にガードポジションを取り、スミヤバザルにパンチを打たせない。再びスタンドに戻るとスミヤバザルは突進。そのまま高阪を浴びせ倒すが、その際、真っすぐ手をマットついてしまいヒジを負傷。わずか3分足らずでドクターストップの判定が下りてしまった。

高阪剛
（1R2分58秒 TKO）
ドルゴルスレン・スミヤバザル

アントン二世、謙吾を圧倒するも極めきれずに鉄拳制裁される！



1RからLYOTOが再三、テイクダウンを奪い、VT必勝方程式に持ち込むも、そこから先を極めるまではいたらず、同じような展開が繰り返されタイムアップ。判定は3－0でLYOTOの完勝だったものの、リングサイドでこの一戦を見届けたアントン総帥は、勝利の報告に来たLYOTOに怒りの形相でもの凄い張り手を2発と、コブシで一発殴りつけ、強烈すぎるカツを入れた。

LYOTO
（3R 判定勝ち）
謙吾





藤田和之（3R1分9秒、TKO）中西学　1、2ラウンド意外にもパンチで勝負する藤田。1R早々にカウンターの左ストレートが入り、中西はいきなり鼻から大流血に見舞われた。3Rに入り中西がこの日初めてタックルに行くと、藤田は待ってましたとばかりにこれを切り、逆にテイクダウン。そしてパンチの連打でトドメを刺した。

は男だったなと。真正面から向かってきたんで、あっぱれだったなって。

——よくぞ、俺相手にってことですか？（笑）。

藤田　いやいや（笑）。

——試合をやってて、中西さんに〝怖さ〟を感じた部分はありましたか？

藤田　そうですね。やっぱり殴っても殴っても折れない心でドンドン前に出てくる気持ちは恐いし、凄い迫力がありましたね。だから、誰かが止めなければ、あの試合は終わらなかったでしょうね。

——では、日本人プロレスラー同士で闘うっていうことについてはどうでしたか。やっぱり『PRIDE』などで外人選手とやったりするときとは、気持ち的に意味合い的にも違ったりしましたか？

藤田　プロレスラー同士でやるのと普通の格闘技の選手とやるのとは何も違いはないですよ。ただ、得てしてその後の絵が描きやすいんじゃないかなとは思いますよ。

——実際、今回バーリ・トゥード（以下VT）を中西さんがやったことによって、新日本の流れや方向性というのは確実に変わりますよね？

藤田　まぁ、それは俺の知ったことじゃないよ（笑）。

——知ったことじゃない！（笑）。逆に藤田さん的にはどんな意味合いがあって、この試合をやったんですか？

藤田　「自分で受けて立つ」って言った以上はね、最後までキチっと身を持ってリングに上がって試合をする、と。それだけですよ。メリット、デメリットで考えたら、メリットなんかない試合だったしね。

——新日本プロレスという場でVTをやることについて、特別な気持ちとかはなかったですか？

“ボビッシュに勝った男”アンブリッツ ジョシュ相手に何も出来ず！



元UFC王者ジョシュ・バーネットがWJのエース外人ボビッシュを倒したということだけで呼ばれたアンブリッツを軽く一蹴。試合後、ライオンマークが入った新日本プロレスの旗を振り、控え室では「オレハ、シンニホンプロレス！」と絶叫し、自分の勝利は「新日本の勝利」だとアピール。そして、今後はIWGP奪回と鈴木みのるの迎撃を宣言した。

ジョシュ・バーネット
（1R3分15秒 TKO）
ジミー・アンブリッツ

アルティメット・クラッシュの星！ 中邑、ノルキヤをボコる！



ロス道場で修行を積んだ新日本期待の中邑真輔が、昨年大晦日の『猪木祭り』で安田忠夫を戦意喪失に追い込んだK-1のヤン“ザ・ジャイアント”ノルキヤと対戦。中邑はノルキヤの足首への超低空のタックルで倒し、その後はひたすら殴りつける。そして2R、ギロチンチョークで見事一本勝ち！ K-1の大巨人を倒し、新日本に格闘技路線の新たなるスターが誕生した。

中邑真輔
（2R3分12秒 ギロチン・チョーク）
ヤン・ザ・ジャイアント・ノルキヤ

藤田　ないですよ（アッサリ）。（中西戦は）新日本が決めてやりたいって言ったことだから。俺は別に新日本のためにやってるわけじゃないし、自分のためにやってるわけだから。

——当日に行われた他のVTの試合っていうのはご覧になられましたか？

藤田　試合前にモニターに流れてるのをアップしながらチラっと。あとはビデオでパッパッパとは見ましたけど、ジックリ見てはいないですよ。

——じゃあ、印象というのもパッパッパぐらいですか？（笑）。

藤田　まあ、中邑選手とか若い選手が頑張ってる印象はありますよ、LYOTOとか。

——LYOTOと言えば、猪木さんの〝鉄拳制裁〟はご覧になりましたか？

藤田　あ、あれだけ3回巻き戻ししました！（笑）。

——ガハハハハ！　やっぱりあそこだけは巻き戻しましたか（笑）。

藤田　だってもう、他の奴らとは目が違うじゃない！（笑）。やっぱ会長（猪木）は凄いですよ。

——ホントあれは「いいもん見せてもらった」って感じでしたよね（笑）。

藤田　あれでドームに来たお客さん満足したでしょう。俺だって満足したもん（笑）。

——ガハハハ！　藤田さんは猪木さんの鉄拳で満足したみたいですけど、どうやら一般的な満足度では蝶野vs小橋戦が一番だったようなんですよ。そういう純プロレスに対する意識みたいなものって、藤田さんの中にはありましたか？

藤田　それは全然ない（キッパリ）。

——あ、全然ないですか（笑）。

藤田　自分のことで精一杯！　みんなそうでしょ？

——ドームの他試合が気にならないんだから、もちろん隣の後楽園ホールでやっていたZERO—ONEなんていうのは全然気になったりはしてないわけですよね？（笑）。

藤田　ああ、やってたみたいですね（笑）。でも、これは言いようがないですね。別に向かい合うわけじゃないし、それぞれ向きが違うから。向かい合えば考えられるけど、向かい合うこともないから。

——5・2に限らず、藤田さんも以前、絡んだ部分があったと思いますけど、ZERO—ONEという団体に対して、いま何かイメージはありますか？

藤田　印象は……湧いてこないですね。言いようがないなあ、何にも思い浮かばないです。

——じゃあ、もちろん「元猪木軍」という括りでは共通の部分もあった小川直也選手に関しても、どうこう考えてるとかはいまは全然ないですか？

藤田　いやあ、何も出てこないね。ていうか、わかんない（笑）。

——わかんない（笑）。去年の8・8『LEGEND』の時なんかはかなり過激な発言がありましたけど、あれはやっぱり同じ舞台に立ってたからという意識ですか？

藤田　そうだね。接点のないものに発言のしようがないよ。絵空事になっちゃうから。

——今後、接点があったらどうですか？

藤田　たらればの話はあんまりしたくない。以上！

——わかりました（笑）。では、いまの興味というか、頭の中はヒョードルのことでいっぱいですか？

藤田　前回は東京ドームの中西戦に頭がいっぱいだったように、いまは『PRIDE』のヒョードル戦で頭がいっぱいだね。でも、その先もありますから。

——その先！　では、もちろん「その先」を見越してヒョードル戦っていうものに自分から名乗りを上げたということですか？

藤田　どういう相手とどういう試合をするかによって次の試合が決まってくるから、別に6月で終わるわけじゃないしね。

——藤田さんは、2年間『PRIDE』のシーンから離れてたわけじゃないですか。それが、いまこのタイミングで出てきたということに対して、「まず手始めにヒョードルと闘っておく」っていうムードがなんとなくするんですけど？

藤田　それが一番わかりやすい答えじゃないですか。いま一番強いと言われてる男に藤田が勝てるのか勝てないのか。

——「一番強い」と言われてる男に勝ったら一気に一番上に立てるわけですからね。それを称して藤田さんは「一番のご馳走」と言ってましたけど、このタイミングでその「ご馳走」をさらっていった藤田さんを、ターザン山本さんなんかは「火事場泥棒」と言ってるんですよ（笑）。

藤田　火事場泥棒って悪い人なんですか？

——まぁ、泥棒ですから、いい人か悪い人

あれ（猪木の鉄拳制裁）だけは3回巻き戻してみました（笑）。やっぱり会長は凄い。他の奴らとは目が違う！



今回のインタビュー中、常に笑みを絶やすことがなかった藤田。その笑顔の奥にある真意とは……？



かで言ったら、あまりいい人ではないと思います（笑）。
―隙をつくのがウマいというところからこう呼ばれたんでしょうけど、藤田さん的にも「ここだ！」っていう部分はあったんですか？
藤田　やっぱりタイミングは大事ですからね。「鉄は熱いうちに打て」って言うじゃないですか。
―それは、「熱いうちに打てれば勝算あり」ってことですよね？
藤田　俺は闘う前はいつも勝算ありと思ってやってるから（笑）。
―それはどのタイミングで誰とやれば、勝算があるのか見極める力が凄くあるからじゃないかと思うんですけど？
藤田　どうなんですかね。自分の思うままにやってるだけなんで。
―だから藤田さんは、「野獣」とか「本能」とかよく言われるじゃないですか。でも、実はそういう察知する能力が強いというか、そういう点で実は頭がいいんじゃないかと思うんですけど（笑）。
藤田　よくないですよ（笑）、計算してないですから。
―計算しなくても、ナチュラルな計算が働いてるような気がするんですよ（笑）。
藤田　まあ、思いついたらすぐ実行するっていうのがいいんじゃないですか。
―だから5・2の試合後にヒョードルの握手を拒否したのも、藤田さんのナチュラルな計算なんじゃないかなって。
藤田　拒否しました？
―一回目は拒否しましたよ（笑）。

ヒョードルがリング上でニヤニヤしてたんで、「ここはアマチュアの会場じゃないんだよ」って


4月30日に行われた記者会見では、初対面のヒョードルに「世界最強の男と闘えて光栄」と謙虚に語った藤田。しかし、こういった発言も藤田の作戦のような気がしないでもない。

藤田　（ヒョードルの）顔を見てて、手が見えなかったんでしょう。そのぐらい気が入ってたから（ニッコリ）。
―ホントなのかな〜（笑）。最初の会見では「最強の男と試合ができて光栄です」という凄い謙虚な発言がありながら、一転リングで向かい合った時にはそういう態度が取れる。この駆け引きからすでに藤田ペースかなっていう気もするんですけど、自分の中ではそういうのはないですか？
藤田　ないない（笑）。
―実際、ボクは5・2の翌日にヒョードルのインタビューをしたんですけど、「フジタは素晴らしいファイターだ」と言いながらも「しかし、握手を拒否したあの態度は許しがたい」と、あの冷静な男が熱くなってるんですよ。
藤田　あ、そんなこと言ってました？
―言ってましたね（笑）。
藤田　こっちは別に怒らせるつもりはないけれど、向こうがリングに上がってきて、これから闘うのに見下してるのかなんだかわからないけど、ちょっとニヤニヤ笑ってたから、カメラはお前の顔をアップで映してるんだぞ、ちゃんとわかってるのかなって。そういう意味でね、「ここはアマチュアの会場じゃないんだよ」って睨みつけたんだけど。
―なるほどなるほど（笑）。
藤田　プロとしてお前のその顔が全国に流れてるんだよって。
―そのヒョードルに5・2の感想を聞いたら「同じバーリ・トゥードであるけれど、『PRIDE』っていうのは特別な場だ。闘っている時の会場のムードからリングに上がった時の緊張感から見られてる視線から何からすべてが違う」みたいな話をしてたんですけど、藤田さんにとって『PRIDE』のリングは特別じゃないですか？
藤田　特別じゃないです。新日本もそうだし、『PRIDE』もそうだし、みんな闘うっていう意味で同じリングなんで。
―ヒョードルが言うようなムードの違いとか、自分の感じる心が違ったりっていうことはないですか？
藤田　まぁ、彼がそうやって言うのは、いままでよっぽど注目されない会場でやってたってことじゃないの？（笑）。
―ガハハハ！　逆にヒョードルが以前いたリングが違いすぎた、と（笑）。
藤田　だから彼にとってはいい刺激になったんじゃないですか。いいことですよ。
―なんだか、どっちがチャンピオンかわからないですね（笑）。
藤田　いや、彼ですよ。強いですよ（ニッコリ）。
―その「強いですよ」っていう発言もヒョードルを丸々、太らせるための発言じゃないかなって気がするんですけど（笑）、実際にリング上で向かい合ってみてヒョードルに何か感じたりしましたか？
藤田　顔が凄い綺麗だなって思いましたね。顔が綺麗ってことは打たれてないってことですから。そういう殺気はありますね。
―ヒョードルの試合ビデオっていうのは結構見られましたか？
藤田　いっぱい見ました。2本ぐらい（笑）。
―ガハハハ！　2本はいっぱいなんですか？（笑）。
藤田　2本はいっぱい（笑）。一個、二個、いっぱいだから、もう数えられないですよ（ニコニコ）。
―なんかはぐらかされてるような気がす



2000年5月1日、『PRIDE.GP』で当時「霊長類ヒト科最強」とまで呼ばれたケアーに判定勝ちの大番狂わせを演じた藤田。今回のヒョードル戦をこの試合と重ね合わせるむきもある。

Kazuyuki Fujita

るなぁ～（笑）、ちなみにその2試合っていうのは？

藤田　一番新しいところで、前回の（アントニオ・ホドリゴ）ノゲイラ戦とこの前のヒース（・ヒーリング）戦。まぁ、ノゲイラも凄い強い選手だし、ヒースだってもの凄いパワーのある選手だから、その二人を圧倒するぐらいの何かを持ってるんだから大したもんですよ。

――ヒョードルのあのパンチっていうものに対しての印象は？

藤田　痛いでしょうね。

――そりゃ痛いでしょう（笑）。でも、どうしてもマーク・ケアーのもの凄い膝蹴りを顔面で受けて、そのままタックルに行ったあの藤田さんのイメージが強いんで、なんとかなる気がするんですよ（笑）。

藤田　それでも痛いですよ（笑）。ただ、やっぱり体の重心移動とかバランスが凄くいいのは感じましたね。あの状態からあのパンチを打てるっていうことはそれだけバランスがいいってことですからね。それはしっかり頭の中に叩き込んでます。

――バランスがいいっていうのは、強い選手の条件みたいな感じですか？

藤田　そうですね。バランスが良くなかったら、自分が持ってる技術をフルに出せないですからね。組技でも立ち技でも、やっぱりバランスの良さっていうのは大事だと思います。

――もう自分の中での試合のイメージっていうのはできてますか？

藤田　いくつかね。一つ一つ自分の有利なパターンをイメージしていく作業をしてます。

――ヒョードル戦の先に勝ったら、もしくは負けたらどうするっていう、先のことも当然考えてるんですよね？

藤田　まぁ、相手云々で言ったら、この先いろいろあるだろうし、暮れにはやっぱり恒例の『イノキ・ボンバイエ』がありますから、そういう日程がきて、その時に誰とやるのかっていうのも今度の勝敗によって変わってくるだろうし、そういうことを考えながらっていうのはありますよ。

――じゃあ、この一戦を契機に、ホントの意味でもう一回、格闘技界のトップを目指すと。

藤田　トップに立てなくても、誰が強いかっていう、試合のたびに「俺が一番強いんだ」っていう作業の繰り返しだから。心が折れない限り、それは続きますよ。

――じゃあ、藤田さんの中では格闘技の最前線に「戻ってきた」っていうような意識はないんですか？

藤田　ないですよ。別にどこかに行ったわけじゃないから、いつも出てくるのはリングだけですから。まぁ、たまたま『PRIDE』のテーマが今回、「REBORN」ってことで、そういうふうに括るとそうなるのかなって。

――チャンピオンに勝つってことは『PRIDE』のトップに立つっていうことだと思うんですけど、「もう一回この格闘技界を俺が引っ張ってやろう」という意識はありませんか？

藤田　そんな縛られたくないですよ（笑）。

――じゃあ藤田さんは一昨年IWGPのベルトを巻いてましたけど、その時は「プロレス界を引っ張ってやろう」っていう意識はなかったんですか？

藤田　引っ張ってるつもりはなかったです。「ついて来れんのか!?」ぐらいの気持ちはあったけど（笑）。そしたら案の定、みんな同じようなことをしてたから。

――ああ。そう言えば、確かに藤田さん以

降のＩＷＧＰチャンピオンって、安田忠夫、永田裕志、高山善廣と、みんなバーリ・トゥードの舞台に出ていった人ばかりですよね。そう考えると何気に藤田さんの動きっていうのが、新日本の指針を決めるのに大きく影響してるんですね。

藤田　まぁ、それ以前のチャンピオンって言ったら新日本プロレスだけのチャンピオンだけど、それ以降は、みんな個性的でいいと思うんですよ。どれだけ外に出て行ったって自分の個性がなければ、また戻ってきてチャンピオンとしてやっていけないし、新日本の中での新日本なりのＩＷＧＰチャンピオンとは違うっていうのはやっぱり時代が変わってきてるんだなって。こういうキッカケを作ったのがたまたま僕だっただけで、あとはそれぞれみんな大先輩だから、自分の個性の出し方っていうのはそれぞれあると思うんでね。そのへんはやっぱり凄い人は凄いなと。

――高山さんなんか、特にそれが凄いですよね。

藤田　そうですね。一番、自分の個性というものをもってるんじゃないですか。だからチャンピオンになるんだろうし。

――藤田さん自身は闘いを通じて、どんな"藤田和之の個性"を表現していきたいですか？

藤田　難しく言えないから簡単に言うけど、折れない心を出していければいいんじゃないかな。





01年8月19日、猪木軍vsK−1の先駆けとしてミルコと対戦し、流血TKO負け。リベンジを誓い昨年大晦日の『猪木祭り』で再戦するも、判定で逃げ切られてしまった藤田。はたしてミルコとの再々戦は実現するのか？

――それが藤田和之の姿勢だと。

藤田　そうですね。一回心が折れるところを見ちゃったら二度とリングに上がれないですからね。

――じゃあ、藤田さんはまだ折れたことがないわけですね？

藤田　試合には負けたことがありますけど、心まで折れた事はないですね。だから怖くないし、心が折れたらリングを降りてますよ。降りるって言わないで、いつの間にかいなくなってるでしょうね（笑）。

――でも藤田さんは、自分の中で「勝てる！」という確信が持てたときに出て行ってるような気がするんですよ。だから、それができなかった大晦日のミルコ・クロコップ戦っていうのは、「折れる」ところまでいかなくても、「ちょっと折れ曲がる」くらいのものはあったんじゃないかと思うんですけど。

藤田　……そういうのはなかったですね。「な～んか思い通りにいかないな」っていうのはありましたけど（笑）。まぁ、彼は俺と試合をするってことで研究してきたし、怠ってはいけないことを怠らずにやってきたっていう彼の作戦が、僕のあの時の状態より上回ってたと、それは認めるところですよ。

――大晦日の試合に対する藤田さんなりの答えを見せたのが、５・２での闘いぶりかなと思ったんですよ。あれだけパンチを練習していたということは、絶対にミルコ戦が影響してるだろうなって。

藤田　フフフ、どうなんでしょうね。ま、いろいろと考えは変えていかないと、時代は動いてますから。凝り固まってタックル一辺倒ではいけないって教えてくれたんだから、ミルコには感謝しないとね（ニッコ

――では最後に、今後の藤田和之ってい

（吉田秀彦と）スパーリングはしますよ やっぱりトップをとった男ですよ 肌を合わせるとわかりますね

リ）。

—いまはチャンピオンとの対戦に向けて練習の真っ最中だと思うんですけど……

藤田 （遮って）チャンピオン？ 誰ですか？

—誰って、ヒョードルしかいないじゃないですか！（笑）。

藤田 あ、ヒョードルのこと。次はタイトルマッチじゃないから、別にチャンピオンじゃないですよ。俺の中では、単なるヒョードル（笑）。

—単なるヒョードルですか！（笑）。やっぱりどっちがチャンピオンかわからないですよ。

藤田 いや、別に一人の男と男の闘いですから。

—その〝単なるヒョードル戦〟に向けての練習はどこでやってるんですか？ 藤田さんって、以前から高田道場、パンクラス、それからTKのところなんかで練習してるって聞きますけど、どこがメインの練習場なのかわからないところがあるんですけど。

藤田 まぁ、コンスタントに行ってるんで。自分のペースでやってますよ（ニコニコ）。

—非常に藤田さんは不思議なんですよね。外国人のトップ選手とかはみんなチームを作ってるし、日本人でも道場のチームを作って、みんなで研究してやっていってるのに、藤田さんだけはチームを作ってる感じはないじゃないですか。どうやって試合に挑んでるのかなって。

藤田 それは人それぞれ違うと思うんですけど、俺の場合はチームを作っちゃうと、逆にその枠の中で考えが凝り固まっちゃうから、いろんなところに行かしてもらって、後は自分でどうしようかっていう話なんで、そういう作業の繰り返しだと思いますよ。



Kazuyuki Fujita

ふじた・かずゆき■1970年10月16日、千葉県出身。レスリングでの輝かしい実績を引っさげ新日本プロレス入り。99年末に新日本を退団、『PRIDE.GP』でマーク・ケアーを下す殊勲を挙げ。その後、プロレス、格闘技両面で活躍。一昨年はIWGP王者にも就いた。

—そのあたりはヒョードルと似てるかもしれないですね。

藤田 彼はロシアン・トップチームじゃないの？

—あれは名前がチームなだけで、ヒョードルにはトレーナーが何人もいるんですよ。

藤田 ああそうなんですか。俺はトレーナーっていうよりいろんな選手とやってますから。

—高阪さんのところにも行ってるということは、吉田秀彦さんとも肌を合わせたことはあるんですか？

藤田 ありますよ。やっぱり柔道でトップを取った選手ですよね。人が持ってないものを持ってますよ。

—どのへんが他のバーリ・トゥーダーと違うんでしょうか？

藤田 さっきのヒョードルじゃないけど、体の重心、体重のバランスがしっかりしてますよね。だから最大限に自分の力を出せる、自分の技も生かせる、そういうことが頭でもわかってるし、体でもわかってるし、あと心のバランスもしっかりしてると、心技体ですよね。そういう柔道の世界でトップに立った男ですよ。肌を合わせるとわかりますね。

—なるほどなるほど。それにしても、藤田vs吉田秀彦のスパーリングなんて、お金払ってでも見たいですね（笑）。

藤田 そんな、練習なんて見せるもんじゃないですよ（笑）。

—では最後に、今後の藤田和之っていうのは何を目標にしていきますか？「ベルトには興味がない」って言ってましたが。

藤田 俺たちは闘うことが仕事だから、強い奴と闘って倒していく、それだけですよ。ベルトはその結果、後からついてくるオマケみたいなもの。誰が強いかっていうのは、時が来たらわかりますよ。


—なんだかこれは、ヒョードル戦への勝利宣言みたいに聞こえるんですけど（笑）。

藤田 いやいや（笑）。世界一強い男に勝てるように頑張ります（ニコニコ）。

—この謙虚さが怪しいな～（笑）。では、ヒョードル戦、そしてその先にものを含めて、藤田さんの闘いぶりに期待してます！

藤田 はい！ ありがとうございます！

【03年5月17日／都内・某ホテルにて収録】



握手を拒否した藤田にブチ切れ！
静かなる皇帝が遂に感情を露(あらわ)にした

「藤田はいい選手なのでしょう。でも、PPRIDEと新日本プロレスのバーリ・トゥードでは何もかも違いすぎる!」

プロモーションと、5・2藤田vs中西戦視察のため、4月28日から5月4日まで日本に滞在したPRIDE王者ヒョードル。タイトなスケジュールの中、本誌は紙媒体としては唯一、5・2ドーム後の単独インタビューに成功。初めて見る新日本プロレスと藤田和之の闘いぶりの感想を聞いてみた。すると、もの静かなヒョードルが以外にもトゲのある言葉を連発！　6・8『PRIDE・26』を前に、遂に“キラー”ヒョードルが降臨した！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／松本崇　designed by hisa（Two Three）



キラー ヒョード

PRIDEと比べると新日本のVTは正直言ってクオリティが低かった

――さて、ヒョードルさん。今回は試合ナシ、プロモーションのみの来日ですけど、それでも日本をエンジョイする暇がないくらい忙しいんじゃないですか？

パコージン（ロシアン・トップチーム代表） もう、想像もできないくらいのことが行われているよ！ ホントに最悪だァ！（笑）。

――パコージンさんには聞いてません！（笑）。

パコージン あ、お呼びでないか（笑）。ドーモスイマセン！ さっきスタジオで撮影をしてきたばかりだったんで、オーバーアクションになってしまったよ（笑）。

――パコージンさんは「最悪」と言っていますが、ヒョードル選手も同じ意見でよろしいですか？

ヒョードル （対照的に静かに）最悪ではないですけど、確かに少しキツイものがありましたね。こんなにたくさん取材が入るとは思ってもみなかったので、さすがに一日が終わるとどっと疲れがでますから。

パコージン さっきヒョードルは私には「5回のインタビューを受けるより、試合を2回やった方が楽だ」と言っていたくらいだからね（笑）。

――それは言い過ぎでしょう（笑）。

パコージン いやぁ、言い過ぎじゃないさ。なんと言ってもヒョードルは、4月5日にリトアニアでリングスの試合をした後、その2週間後にはモスクワであった大きなサンボの大会で優勝してるんだからね。

――え！ リトアニアの2週間後にサンボの大会で優勝ですか!?

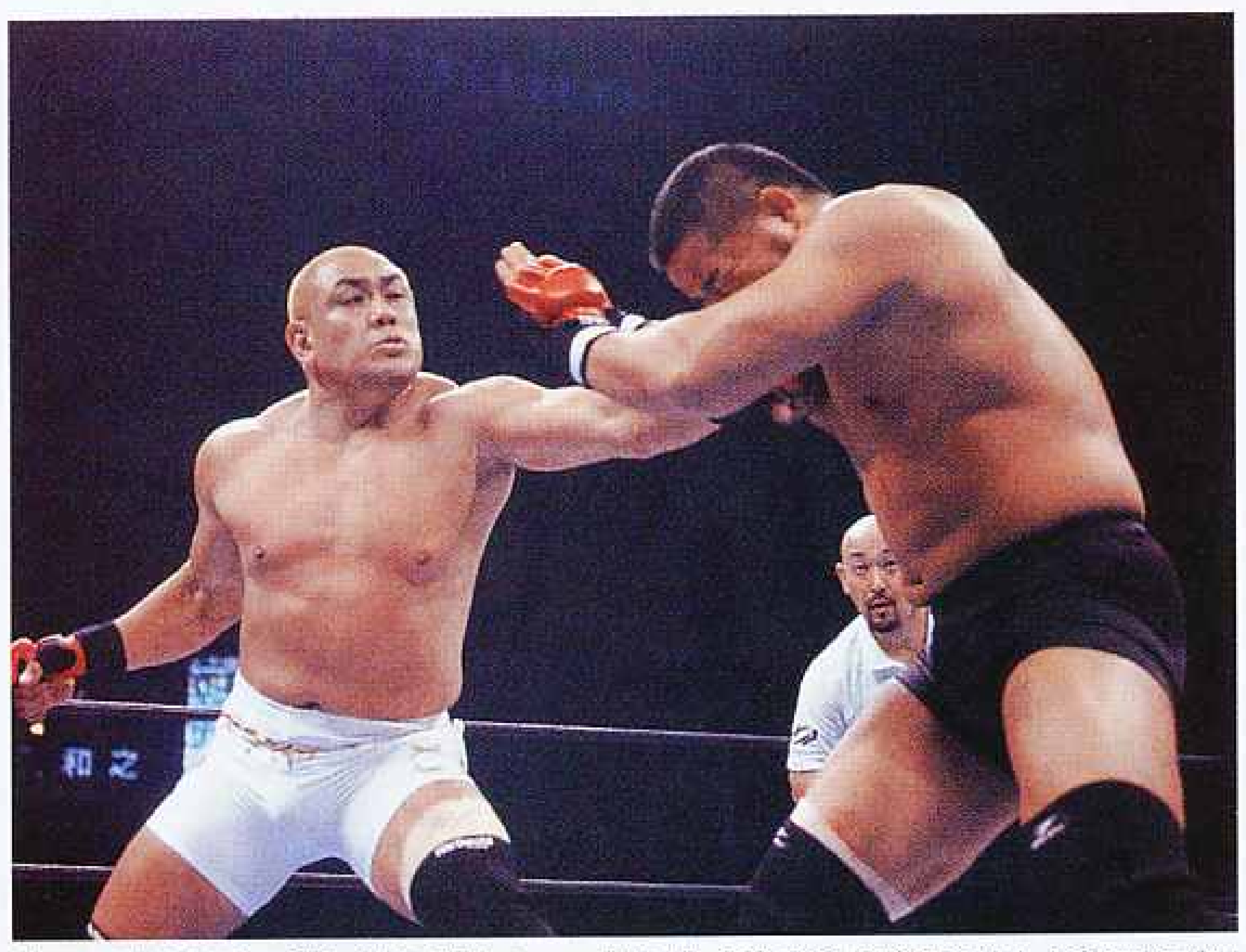
ヒョードル ええ。4月19日にあった大会なんですけど、実は弟のアレキサンダーも一緒の階級で出場したら、兄弟で決勝戦になってしまったんですよ（笑）。

――決勝がエメリヤーエンコ兄弟対決ですか！ それは見たい！

パコージン そのことでもわかるように、ヒョードルにとって試合に出るということは自然なことだが、インタビューはあまり得意でないので皆さんが想像している以上にエネルギーを使うんだ。だから、こうして私がたっぷりと喋ってるんだよ（笑）。

――パコージンさんは好きで喋ってる気がしますけど（笑）。でも、こうして取材が殺到するのもチャンピオンの宿命ですよ。それだけヒョードル選手の人気が上がってるということですから。

ヒョードル はい。頑張ります（微笑）。



藤田の試合をリングサイドで見たヒョードルは、「手の動きが印象的」と藤田のボクシングテクニックを評価。しかし、「怖さは感じない」と語った。（写真・上）また、初めて見る新日本のプロレスはヒョードルにどう映ったか？ 『PRIDE』と比べることすらできないものと言うが……。



――ところで、そのヒョードル選手が優勝したサンボの大会は、コマンド・サンボの大会ですか？

ヒョードル いや、今回はスポーツサンボの大会です。でも、昨年末にはコマンド・サンボの大会でも優勝していますよ。

――これは以前から聞きたかったことなんですけど、コマンド・サンボの大会というのは、どんなルールで行われる大会なんですか？ 『PRIDE』と似たものなのでしょうか？

ヒョードル はい。競技としてはとても似ていますね。ただ、コマンド・サンボはポイント制であるという違いはありますけど。

――どんな技にポイントが入るんですか？

ヒョードル 投げ技、絞め技、関節技、打撃のすべてにポイントが入ります。もちろんギブアップ、KOでの決着もあります。

――じゃあ、ほとんど、〝何でもアリ〟の試合なんですね。

ヒョードル やはり、コマンド・サンボは路上や戦場での闘いを想定していますから、どうしてもそういうルールになりますよね。その他にサンボのジャケットを着用することと、金的攻撃がOKというところが『PRIDE』とは違います。

――き、金的までOKですか！ 『PRIDE』よりよっぽど〝何でもあり〟ですよ！ そうなると、逆に禁止事項は何かあるんですか？

ヒョードル サミング、それから鼻や口に指を入れて引き出すことは禁止されています。あと、コマンド・サンボの特徴としては、投げ技のポイントが非常に評価されるんですよ。これは、実際に路上や戦場での闘いとなった場合、投げられた相手はアスファルトに打ち付けられ、かなりのダメージを受けるため、投げ技には高いポイントが与えられているんです。

――ルールも〝実戦〟を想定しているわけですね。グローブはつけるんですか？

ヒョードル はい。『PRIDE』のようなグローブを付けて闘います。

――じゃあ、コマンド・サンボでの試合でも、ヒョードル選手のグラウンドでのあの凄まじいパンチを繰り出しているんですか？

ヒョードル はい。よく打ちますよ（微笑）。

――「コマンド・サンボ」の大会というのは、昔からあったものなんですか？

ヒョードル あまり大会としての歴史はありません。というのも、それまで「コマン

ド・サンボ」というものは、秘密警察及び軍隊にだけ許されていた国家機密のような格闘技でしたから、オフィシャルには4年前からやることが許されたものなんです。でも、私は徴兵でロシア軍にいたころからコマンド・サンボをやっていましたから、すんなりと大会に出ていけましたね。

――それで世界大会でも優勝してるんですよね？

ヒョードル　はい。2度、世界チャンピオンになりました。

――いやぁ～、こうやって聞いても、改めてヒョードル選手の凄さがわかりますね。では、そろそろ本題に入らせていただきますけど。今回来日した一番の目的は、6・8『PRIDE・26』で闘う藤田選手の試合を見ることだったと思いますが、初めて新日本プロレスというプロレスの会場に行ってみて、どんな感想を持ちましたか？

ヒョードル　そうですね……、もちろんプロレスというものにも、いいところはたくさんあると思いますけれど、私の個人的な意見としては、『PRIDE』の方が遙かに価値の高いものに感じてしまいましたし、比べてもいけないものだと思いました。それ以外の感想は特にありませんね。

――確かに比べられるものではありませんよね。では、新日本プロレスのリングで行われたバーリ・トゥードの試合はどのように感じましたか？

ヒョードル　う～ん、そうですね……確かに、昨日の大会の中でもバーリ・トゥード・スタイルの5試合は『PRIDE』に近いものがあると思いますが、やはりこれも『PRIDE』とは全く違いますね。

――どの辺に違いを感じましたか？

ヒョードル　リング上の試合内容、会場の雰囲気、それらすべてが『PRIDE』と昨日の試合は違ったと思います。私がそう感じたのは、『PRIDE』と比べると試合のクオリティが低かったことが最大の要因だとは思いますが、やはり『PRIDE』というのは独特の緊張感があるんですよ。ただ単にバーリ・トゥードだというだけでなく、そこにいるだけでアドレナリンが出てくるような、そして観客の気持ちが直に伝わってくるような凄さを持っているんです。しかし、昨日の試合からはそういったものは感じられませんでしたから、これは『PRIDE』とは違いますよね。

――なるほどなるほど。藤田選手の試合からもそれは感じませんでしたか？

ヒョードル　フジタサンは予想以上にいい選手だと思いましたし、特にパンチの技術があることに感心しましたけれど、試合から伝わってくる雰囲気はやはり『PRIDE』と違いますよね。

――事前に行われた『PRIDEオフィシャルサイト』のインタビューで、日本人選手のイメージとして、「桜庭、吉田、田村の3選手のようなタイプは試合スタイル、考え方が尊敬できるが、アメリカに毒された行動、言動、試合スタイルをする選手は尊敬できない」と語っていましたが、昨日の試合を見て、藤田選手はどちらに



Emelianenko Feder

敬意を払うべき時に払わないフジタはアメリカに毒されている

カテゴライズされると思いましたか？

ヒョードル　昨日に限って言うなら、尊敬できるとは言い難いですね。フジタサンに初めて会った記者会見のときは、大変尊敬できる、私が敬意を持って接することのできる選手だという印象を持ちましたが、昨日の試合のあとリング上で対面したときに、私が握手を求めて手を差し出したのに、フジタサンはそれに応えてくれなかった。それは、もしかしたら私との対戦を意識してやったことかもしれませんが、いずれにしてもそういった対応は、彼の経歴を輝かせるものではないと思います。

――では、藤田選手はアメリカに毒された選手だ、と。

ヒョードル　私が以前話した言葉の意味で言えば、そうかもしれません。とにかく、私は敬意を払わなければいけない状況に敬意を払わない、そういった自分勝手な対応を称してアメリカに毒されたという表現を使わせていただきました。

――そのヒョードルさんの言う「アメリカに毒された」というのは、試合スタイルで言うと、どんな試合なのでしょうか？

ヒョードル　私は『PRIDE』での闘いは、その大会名が表すとおり、互いのプライドを賭けて、正々堂々と闘うものだと思います。だから対戦相手に敬意を払わない闘いを私は好みません。確かにお客さんの興味や関心を惹くためにはいろんな方法があると思いますが、私の中では昨日のフジタサンのような敬意を払わない行動というのは、許すことができません。

――とにかく試合後の対応が許せなかったわけですね？

ヒョードル　そうですね。決して気持ちのいいものではありませんでした。

――では、今回はタイトルマッチではなく、ノンタイトルで行われる試合ですが、藤田選手はベルトを賭けるに値する相手とは思いませんか？

ヒョードル　これは勘違いしてほしくないのですが、フジタサンはファイターとしてはとても素晴らしい選手だと思います。おそらく周りにいるトレーナーも優秀な方がついているのでしょう。ただ、昨日は自分が勝ったことで頭がいっぱいだったのかもしれないですけども、始めに私が手を差し伸べたときに返さなかったという行為が、私の記憶に残ってしまったことは確かです。

――では、その藤田戦まであと1ヶ月ですが、今後の練習はどういったスケジュール行うのか教えて下さい。前回はエカテリンブルグでサンボの特訓を積みましたが、今回も特別な特訓を積みますか？

ヒョードル　今回はトレーニングは私の住むスターリンオスコールで弟のアレキサンダーとのスパーリングを中心に行う予定です。プログラムの方はトレーナーと相談して、これから組みたいと思います。

――そのトレーナーは今回も来日しているニコライ・ピトコフさんですか？

ヒョードル　ピトコフさんだけでなく、私には複数のトレーナーが存在します。例えば、ボクシングのトレーナーであったり、レスリングのトレーナーであったり。そういったそれぞれのトレーナーが作ってくれた提案を私がチョイスする形で行います。

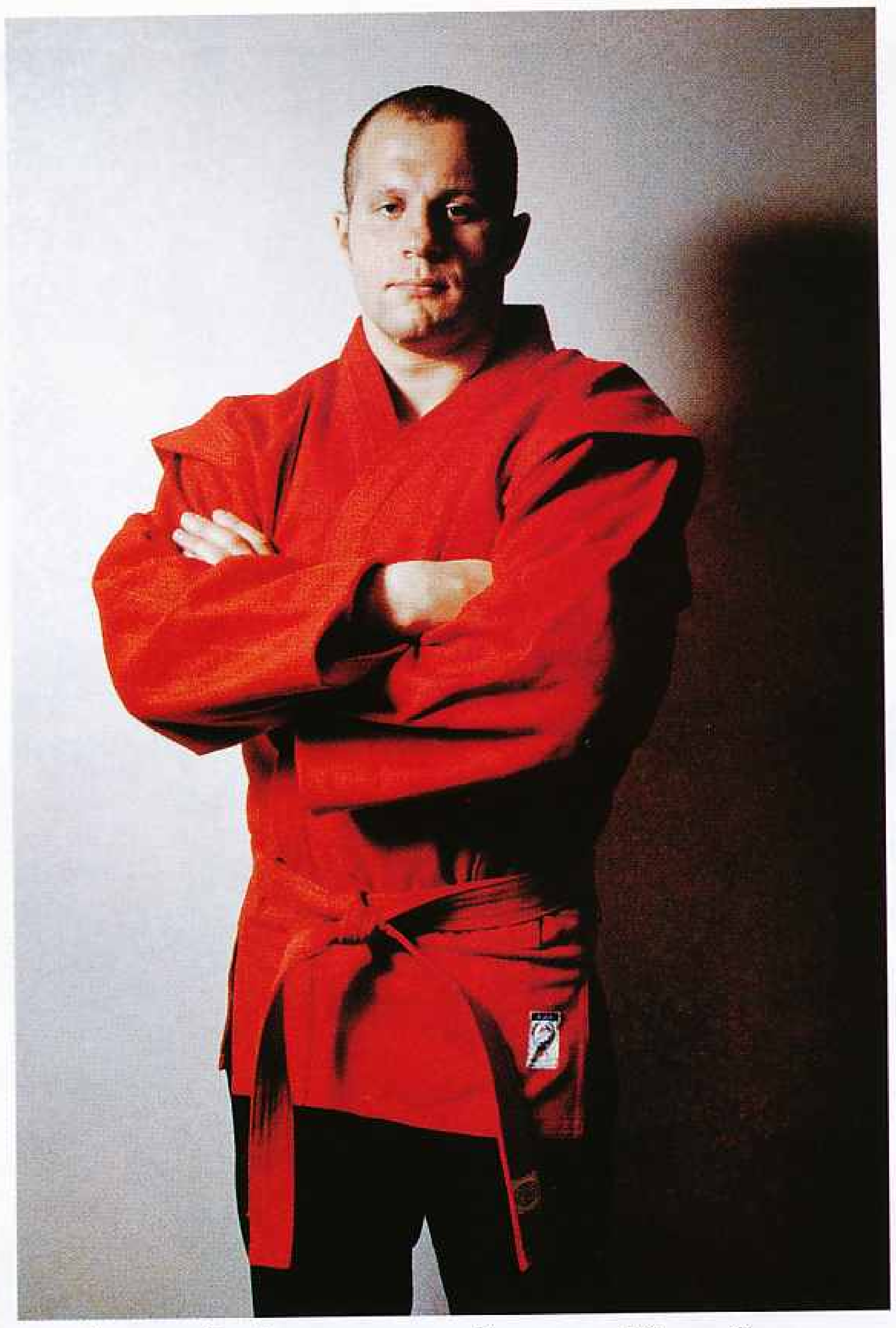
――藤田選手はレスリングの強豪ですけど、特別レスリングの特訓をしたりとかは考えていませんか？

ヒョードル　それはもちろん行います。でも、それだけにこだわるつもりはありません。フジタサンもトータルな技術で勝負してくるでしょうからね。

――わかりました。では、いい試合と勝利を期待しています！　それと次の来日では、今回よりもさらに取材が増えると思いますけど、あまり嫌気を差さないようお願いします（笑）。

ヒョードル　はい。わかりました（微笑）。

【03年5月3日／都内・某ホテルにて収録】



Emelianenko Fedor

1976年9月28日、ウクライナ出身。柔道とサンボでロシア選手権優勝。リングスではヘビー級と無差別級の2冠を制す。昨年から『PRIDE』に参戦。3月16日、遂に帝王ノゲイラを下し第2代PRIDEヘビー級王者となった。弟アレキサンダーのデビューも待たれる。182cm、107kg。

ヒョードル人気各方面で急上昇！ お台場でお笑いイベントにも出演



4月29日、お台場で開催された『東京国際コメディフェスティバル』の「浅草キッドの格闘技大放談」にヒョードルが出演！　浅草キッド、北野誠、ますだおかだらとトークを行い、リクエストに応えてハチミツ二郎のお腹(の上にクッション3枚重ね)にもの凄いパンチを叩き込んだり、会場を大いに沸かせた。



言うちゃ悪いけど
大炎上！



ヒョードルvs藤田
狂乱の『ファイト』師弟コンビが
大予想対決!!

競馬以外の予想は不思議と当たる
ターザン山本

これはもう藤田の勝ちですよォ!
俺は藤田を"凪の王者"と命名する!



これはもう藤田の勝ちですよォォォ！

ハッキリ言ってね、ヒョードルというのはノゲイラには勝ったけれども、誰にでも強いオールマイティなチャンピオンとして、何度も何度も勝ち続けて王座に君臨するような選手じゃないと思うんだよね。藤田にとってはノゲイラより、遙かにやりやすい相手なんですよ。分かりやすく言うと、藤田とヒョードルとノゲイラっていうのは、ジャンケンのグーチョキパーみたいなもんだから。これは藤田にとって千載一遇のチャンスですよ。なぜなら「あの強いノゲイラに勝ったヒョードルに勝った」ってなったら、間接的にノゲイラに勝ったことになるわけでしょ？　そうなったらもうノゲイラとやる必要はないんだよォォォ！　だから本人も人生最大の絶好機が訪れたと思ってるんじゃないの？　もうノーアウト満塁でバッターボックスに立ったような、グランドスラム達成したようなもんですよォォォ！

これはもう「いかにおいしいところが取れるか」っていう、藤田的人生の天下ですよォ！　いまマット界は無風状態でしょ？　ホントにこの男に最適の場面が来たね。俺は藤田のことを"凪の王者"と命名する！

要するに藤田にしてみれば、ヒョードルっていうのは、地方から出てきたポッと出の田舎者みたいなもんですよ。都会に出てきたら、カモですよォ！　藤田が言いたいのはそういうことよ！

嵐山の桂川をじーっと見ながら分析
井上義啓

藤田はサモア人並みに打たれ強いんだから、殴り合えばいいんですよ!



まぁ、予想というのは、どうなるかわからんけれども。いすれにしたって、藤田がこの前、中西とやったようなタックルを捨てた戦法で行くような気がするんだよな。というのは、藤田っていうのは、これまでタックルに行って失敗しれるからねぇ。もうこれは、ヒョードルだってバカじゃないんだから、うかつにタックルで突っ込んでいったら、凄いパンチがどーんと来ますよ。

だから藤田にしてみれば、どうせパンチを喰らうなら、正面から正々堂々と殴り合おうという戦法を取るんじゃないかと思うけどね俺は。というのは、これで飛び込んで行ってガーンとやられてごらんよ。これはハッキリ言って立つ瀬ないぜ。何度同じ負け方するんだよ、と。そういう声も出てきますよ！

それに藤田って言うのはなんだかんだ言って、マーク・ハントなんかと同じで打たれ強いからね。俺なんか藤田もサモア出身なんじゃないかと思うわ！　体型見たら、あれはサモアの体型ですよ。だから、一発もらったところでどうということはないんだから、思い切り殴りあったらいいんですよ。これでパンチが当たればヒョードルだって鉄人じゃないんだからね。これは倒れますよ！　総合とかK－1っていうのは一発があるからね。10回やって8回勝つ相手でも一発勝負はわからんからね。そういった意味で藤田の勝機はありますよ。

構成／ジャン斉藤
designed by matsu（Two three）





ま、まさか!? ミルコ電撃参戦!!

『PRIDE』ヘビー級戦線の猛者 ヒース・ヒーリングを自ら指名!!

「ゴチャゴチャ言わんと誰が一番強いんか、決めればいいんや!!」

いまのミルコには、この言葉が一番よく似合う!!

恐るべき格闘技者としての闘争本能

高田延彦がヒクソン戦というイバラの道へ踏み出すことにより、『PRIDE』の歴史は幕を開けたが、『PRIDE』のRE BORNはミルコ・クロコップの闘争本能が息吹を与える!!

5月21日、高田道場にて緊急会見が開かれ、高田統括本部長の口から、ミルコの『PRIDE.26』への参戦が発表された。ミルコとDSE側は4月当初から交渉を重ね、マーク・コールマン、ノゲイラ弟、その他併せて5名の対戦者リストの中からミルコが指名したのは、ノゲイラ兄を苦しめ抜いた実力者、ヒース・ヒーリング!!

しかし自ら指名しただけあって、ミルコは「絶対に勝てる」と自信満々であるという。練習では、スパーリング・パートナーの高速タックルをすべて切りまくるなど、さらなる進化を遂げた姿も目撃されている。どこまで強くなるんだ……。

それにしても、業界関係者の誰もがア然とした、このミルコの選択！ わざわざ厳しいヒース戦を通過しなくても、ミルコ絡みのカードは様々な広がりをみせることが可能である。夢の一戦はいくらでも組めるのだ。

ヒョードルとの『PRIDE』vs K―1頂上対決、サップのVT復讐マッチ、吉田秀彦との〝打撃vs寝技〟、永田だって黙っちゃいませんよ、アンタ！（I編集長風）。

ズバリ言えば、万が一ミルコが敗北すれば、今後のプランがすべて水泡に消えるかもしれないし、その可能性は大きいカードだ！ しかし「K―1だけでなく、『PRIDE』も視野に入れて闘いたい」『PRIDE』王者のヒョードルと闘い王座をいただく」というミルコの格闘技者としてのモチベーションが、巨大化した格闘技ビジネスの目論見をあざ笑うかのように今回の参戦に走らせた。しかもミルコは「来年の『PRIDE』ヘビー級GPでも優勝する！」とまで言い切ったのだ！ 〝来年のことを言えば鬼も笑う〟と言われるが、この闘争本能には鬼すらも敬服してしまうに違いない。

時に強者の自信は嫌みになることも多々あるが、追われる〝賞金首〟から追う〝賞金稼ぎ〟に転じて、「強い奴はどこだ!?」と番長マンガ的なノリで突き進むミルコの道程は非常に興味をソソる。そして、〝手始めに〟闘うヒース戦の先には、ヒョードルや吉田がしっかりロックオンされている。永田の姿だって視界に入ってますよ、アンタ！（再びI編集長風）。

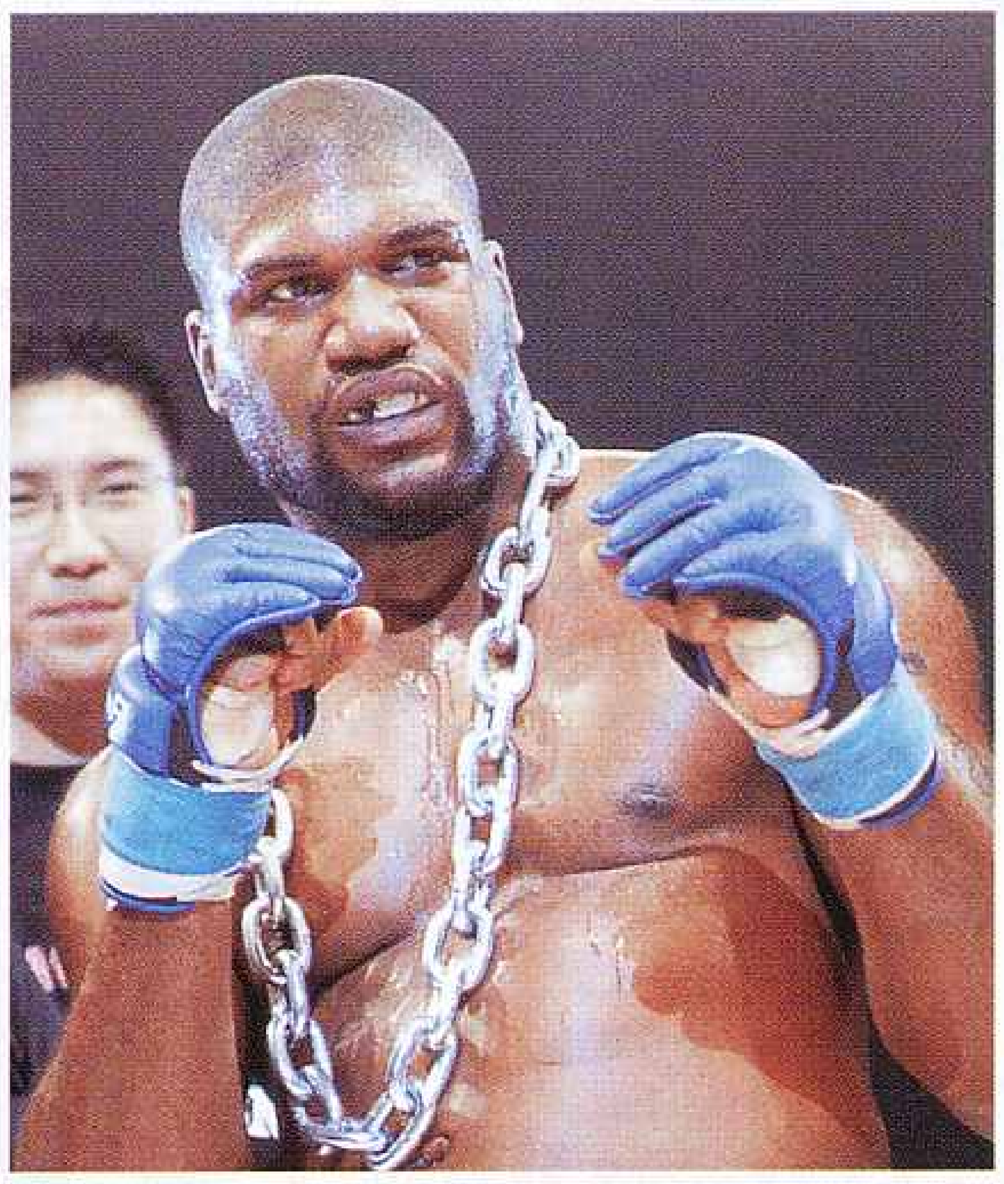
サップ、ノゲイラ、桜庭と、格闘シーンを支えたヒーローの凋落により風が止んだ感もあるマット界であるが、昨今の日本人ファイターには見られないミルコの格闘技者としてのモチベーションが嵐を巻き起こそうとしている。

「ゴチャゴチャ言わんと誰が一番強いんか、決めればいいんや!!」

――いまのミルコには、この言葉が一番よく似合う!!

“ロシアの重戦車” ミーシャ電撃参戦!! 最も危険な男 ランペイジと激突!!

クイントン・“ランペイジ”・ジャクソン［チーム・パニッシュメント］
vs イリューヒン・ミーシャ［ロシアン・トップチーム］



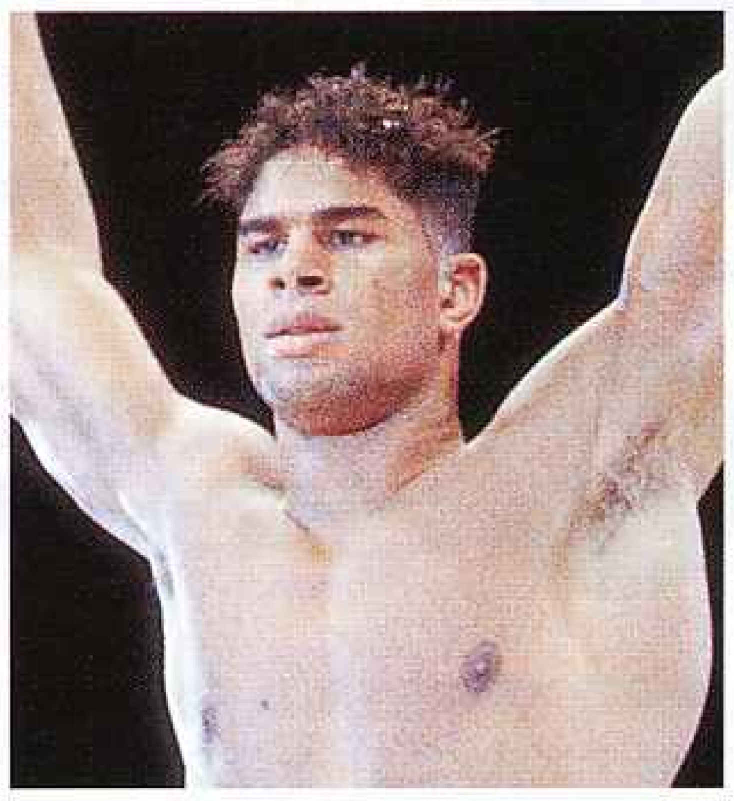


リングスロシアの一員として、リングスを支え続けきたミーシャの功績はVT方面でも数多い。ミーシャはVT黎明期の当時から、「リングスの兵隊」として積極的にVTに出陣。94年、32人参加の第1回ロシア版アルティメット・トーナメントで見事優勝。第2回大会ではボブチャンチンを下すも決勝で柔術怪獣モラレスに敗北したが、200発以上の鉄槌を浴びても折れない強靱なハートは感嘆の一言！　小柄ながらもヘビー級のバケモノを押さえ込み、強引に極め抜く無類のかいな力も、ランディ・クゥートアーを仕留めたことで証明している。強敵・ランペイジを前にして、リングから遠ざかってることや36歳という年齢に不安を感じるが、リングス者の想いに応えるためにも、ランペイジを必殺のアキレスで極めてくれ、ミーシャ!!

格闘王国オランダの復興なるか!? アリスターがアビダビ王者狩りに挑む!

ヒカルド・アローナ［フリー］
vs アリスター・オーフレイム［ゴールデン・グローリー］



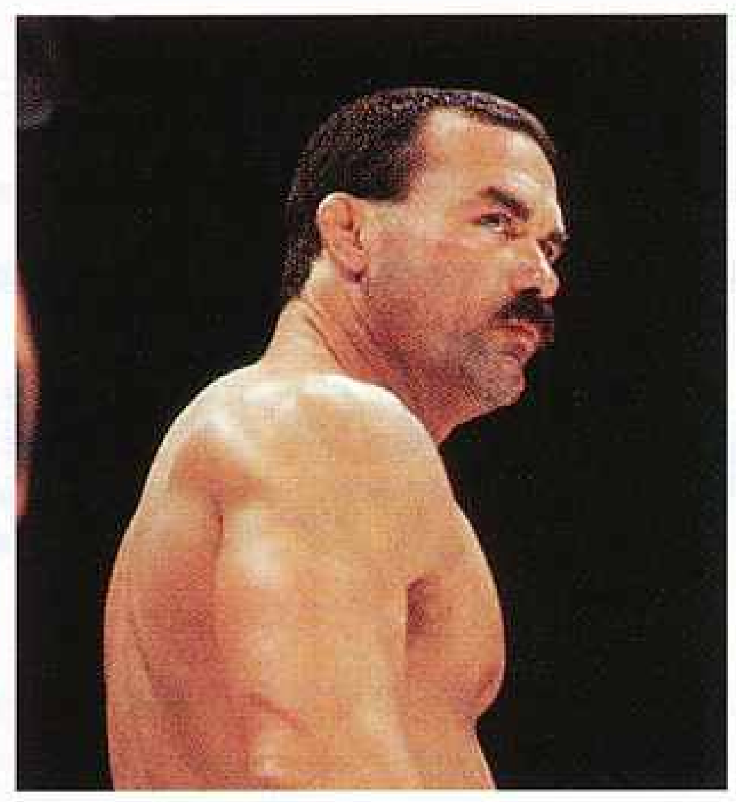


アブダビ・コンバットの頂点に君臨する柔術王子アローナを、オランダの若きエース・アリスターが襲撃!!　アターエフをも葬った、ハイスピードな打撃が持ち味のアリスターは、リングス時代から比較して急激な成長を遂げている。鉄壁のアローナを崩すのは、この男かもしれない!!

アメリカPPVの切り札カード! 血沸き肉踊る驚ガクの殴り合いは必至!!

マーク・コールマン［ハンマー・ハウス］
vs ドン・フライ［フリー］





『PRIDE』男塾塾長が宿願の同窓会マッチ!!『PRIDE.21』で実現するはずだったこのカードは、マークの負傷により直前で消滅。フライは代打の高山と男塾マッチを生むことになったが、UFCで唯一黒星を喫したマークは打倒せずにはいられない相手。男気と殺気が混じり漂う闘いとなる!!

新星となるか!?　高田道場から若武者デビュー!

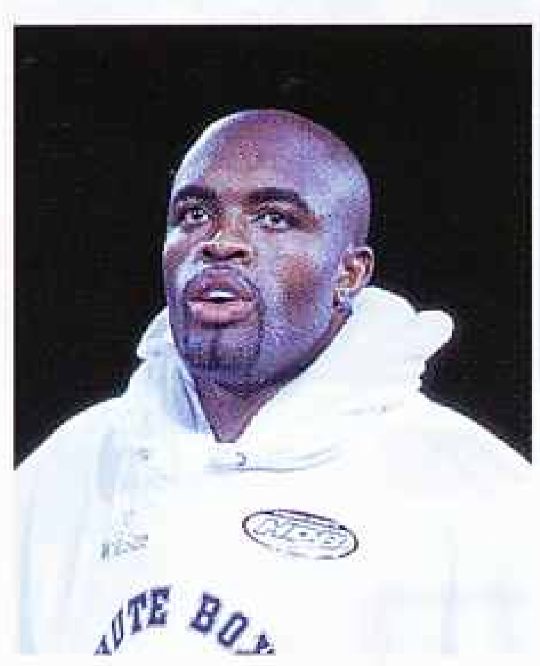


［高田道場］浜中和宏 vs ニーノ・“エルビス”・シェンブリ［グレイシー・バッハ・アカデミー］



桜庭を打撃でKOする番狂わせをやってのけたニーノに高田道場から若き刺客が放たれた!!　アテネ五輪の夢は断たれた浜中だが、米国でVT修行を積むなどデビュー戦の気負いなし!!　“ヒクソンの再来”と謳われる寝技の力を持つニーノを破り、兄弟子の仇は討てるのか!?

高瀬、5年振りに『PRIDE』復帰!　相手はブラジリアン・スパイダー!!



［フリー］高瀬大樹 vs アンデウソン・シウバ［シュートボクセ］



蜘蛛男を逆捕獲すべく高瀬大樹が5年振り『PRIDE.3』以来の参戦!!　あのヤーブローを沈没させ、中量級転向後はUFC、パンクラス、コンテンターズなどで活躍。『THE BEST』ではジョイユ・デ・オリベイラを下し、ニーノと互角に渡り合う寝技の実力を持っている強者だ!

『PRIDE.26 REBORN』

【日時】6月8日　18:00～　【会場】横浜アリーナ

【チケット】VIP¥100,000（特典：専用入場ゲート・グッズ付）／RRS席¥28,000／スタンドS席¥16,000／スタンドA席¥7,000

【お問い合わせ】DSE　TEL.03-5775-5700



無念! 日本人選手全滅! されど今年も大波乱、ニュースター続出!!

ADCC 2003

アブダビコンバット

5月17日～18日にかけてブラジル・サンパウロで開催された"組み技世界一決定トーナメント"アブダビ・コンバット! 今回は2年ぶりの開催ということで、新顔が多数出場。それに伴いニュースターも次々と生まれるフレッシュな大会となった。そんなADCCの速報を、"ブッカーK"川崎浩市さんの協力を得て皆さんにお届けします!

構成／堀江ガンツ　撮影／"ブッカーK"川崎浩市
designed by matsu (Two three)

ケアー陥落!! キング・オブ・アブダビはやはりヒカルド・アローナ!!



無差別級の1回戦では、小路晃vs石田光洋の日本人対決が組まれた。体格差がある勝負だったが石田の頑張りで小路が3ー2の辛勝。日本人として唯一の2回戦進出をはたした。



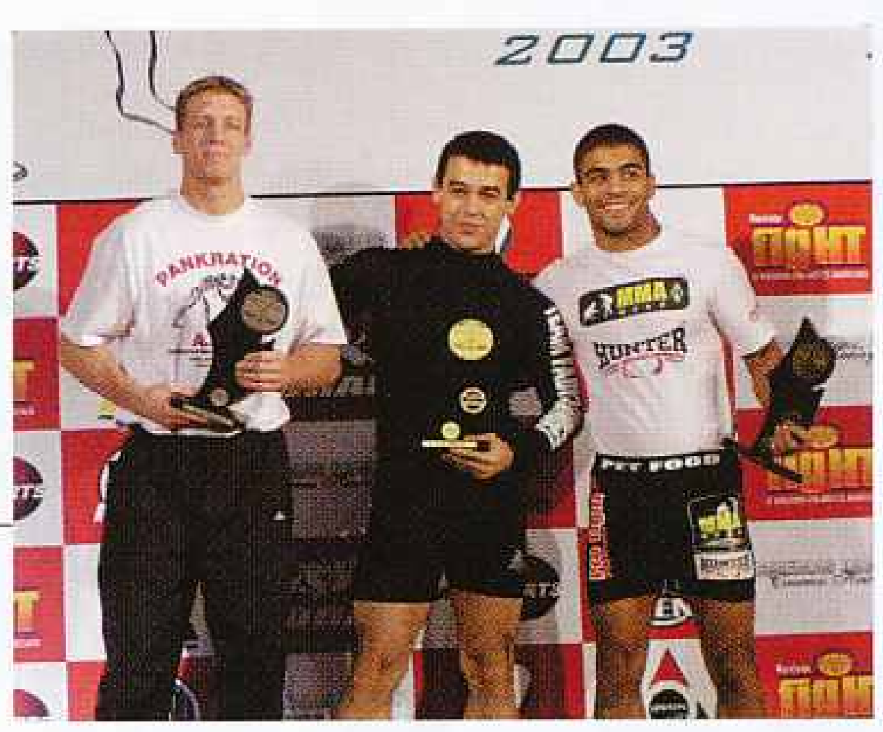
大会終了後、ADCC完全制覇をはたしたアローナと記念撮影に収まる大会関係者たち。みないい笑顔を浮かべている……と思ったら、どこかで見た顔! イズマイウだ!



キング・オブ・ADCCを決めるスーパーファイトは、前回2階級を制覇したヒカルド・アローナとマーク・ケアーが対戦。腹のだぶつきが気になるケアーに対して、アローナは絶好調! 延長の末、遂にアローナがケアーを破り頂点に立った!

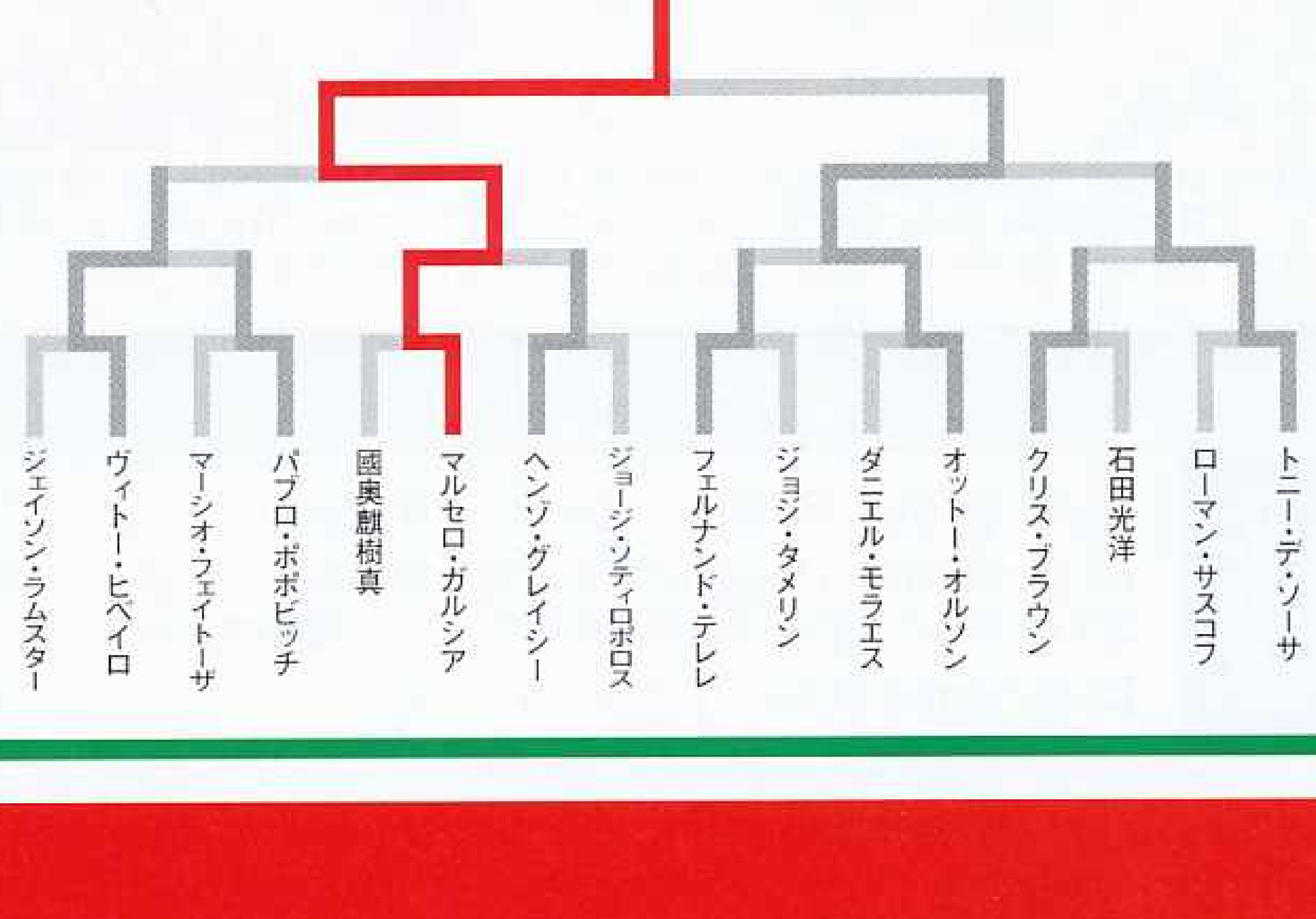
-76.9kg 柔術界の超新星現る! マルセロ・ガルシアに注目せよ!

激戦区、79.9キロ以下級で超新星現る! パンクラス國奥の1回戦の相手に予定されていたデニス・ホールマンが欠場のため、補欠出場をはたしたファビオ・グージェウの弟子マルセロ・ガルシアが見事優勝! しかも、ヘンゾ、シャオリンら大物を下して快挙だ。かわいい顔をして、もの凄いスピードで動きまわるスタイル。まさに新世代の柔術家と言えるだろう。また、前回大会でヘンゾを破ったクリス・ブラウンと好勝負を演じた石田光洋も好評価を得たという。



優勝 マルセロ・ガルシア
準優勝 オットー・オルソン
第3位 ヴィトー・ヒベイロ

優勝 マルセロ・ガルシア



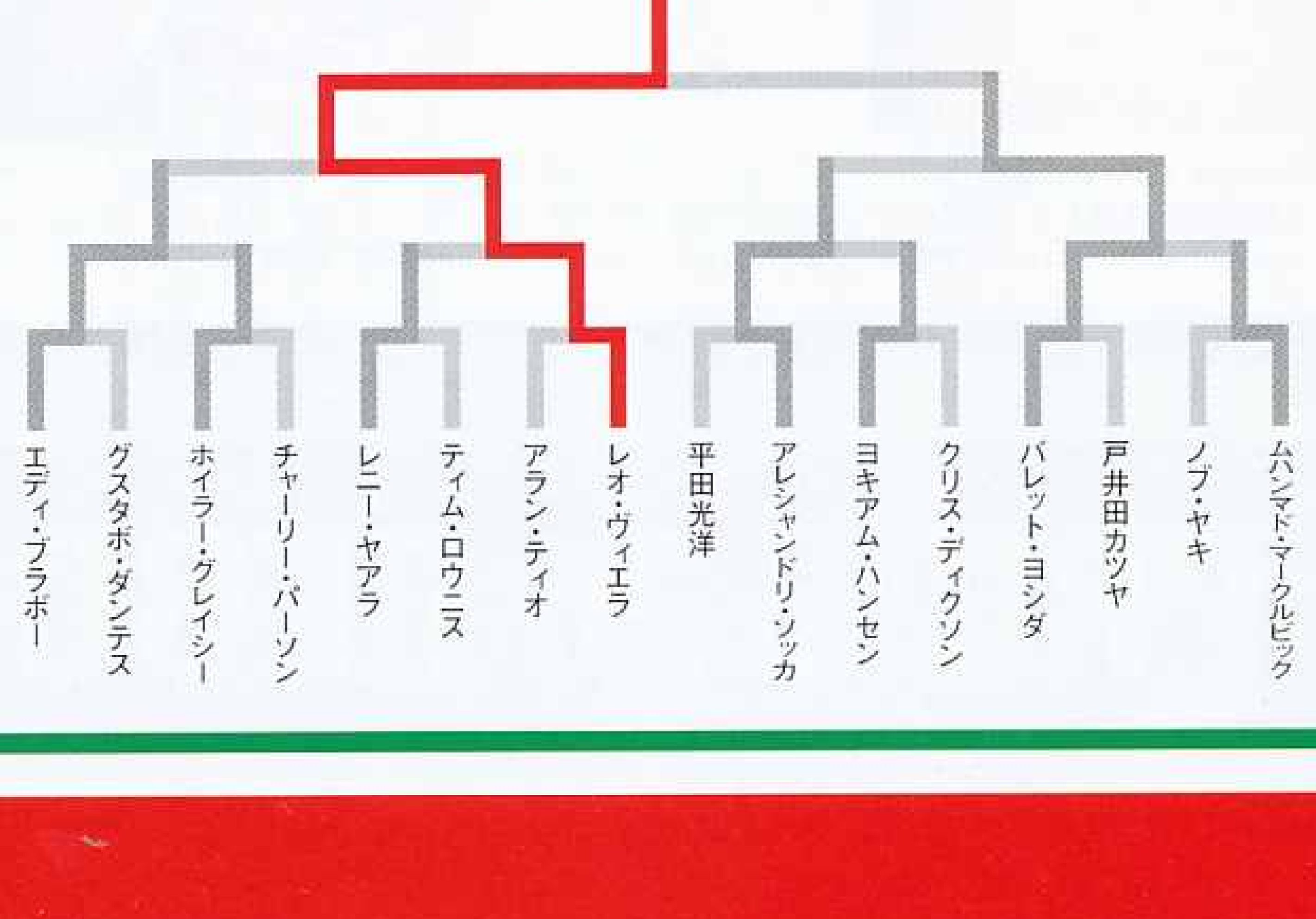
-65.9kg 衝撃! ホイラー一本負け! ノーマークのブラボーが快挙!

この階級で特筆すべきは、なんといってもホイラー・グレイシーの一本負け! これまでアブダビでは無類の強さを誇った、エリオ派グレイシー最高のテクニシャンと呼ばれたホイラーの一本負けは、今大会一の大ニュースだ。しかも、打倒ホイラーを成し遂げたのは、『キング・オブ・ザ・ケージ』のコメンテーターを努めるディーン・シスターだというからまた驚きだ。しかし、ブラボー負傷欠場で敗者復活で3位に入賞するのだからさすがはホイラーなのだ。



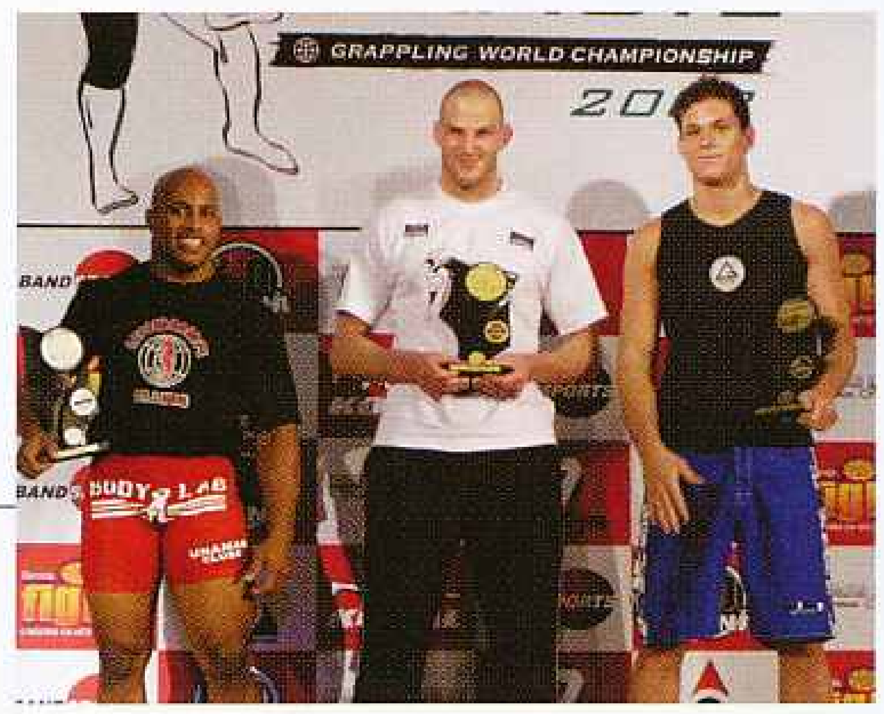
優勝 レオ・ヴィエラ
準優勝 バレット・ヨシダ
第3位 ホイラー・グレイシー

優勝 レオ・ヴィエラ



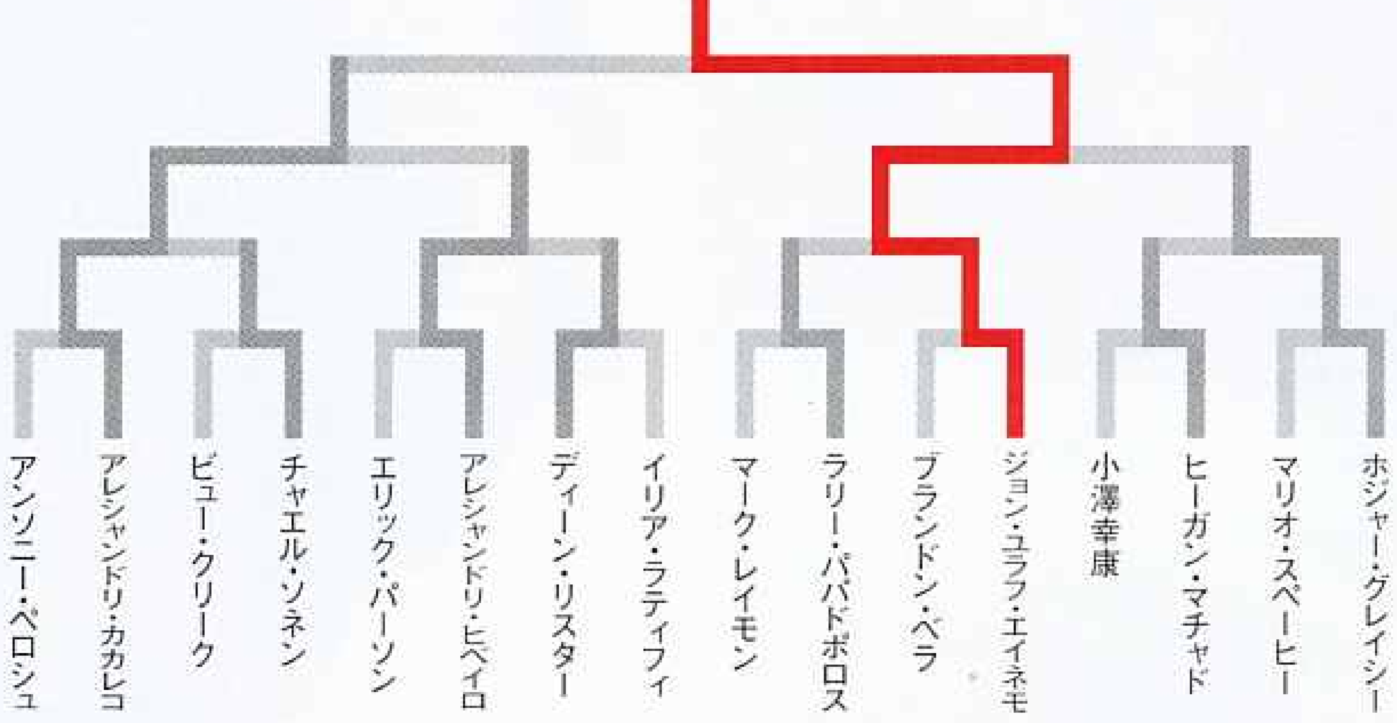
-98.9kg “北欧の巨人”エイネモ、遂に優勝 ホジャー・グレイシーにも大注目!

前回大会で大躍進をはたした“北欧の巨人”エイネモが遂にアブダビの頂点に! しかも2年前に敗れたカカレコから決勝で一本勝ちを奪っての優勝なので喜びもひとしおだろう。敗れたカカレコの素晴らしい闘いぶりも評判になったようだ。この階級で注目は、ヘンゾの従兄弟ホジャー・グレイシー。なんといってもBTTリーダー、マリオ・スペーヒー、さらにヒーガン・マチャドを下したのは、この階級の世代交代を強く印象づけたといえるだろう。



優勝 ジョン・ユラフ・エイネモ
準優勝 アレシャンドリ・カカレコ
第3位 ホジャー・グレイシー

優勝 ジョン・ユラフ・エイネモ



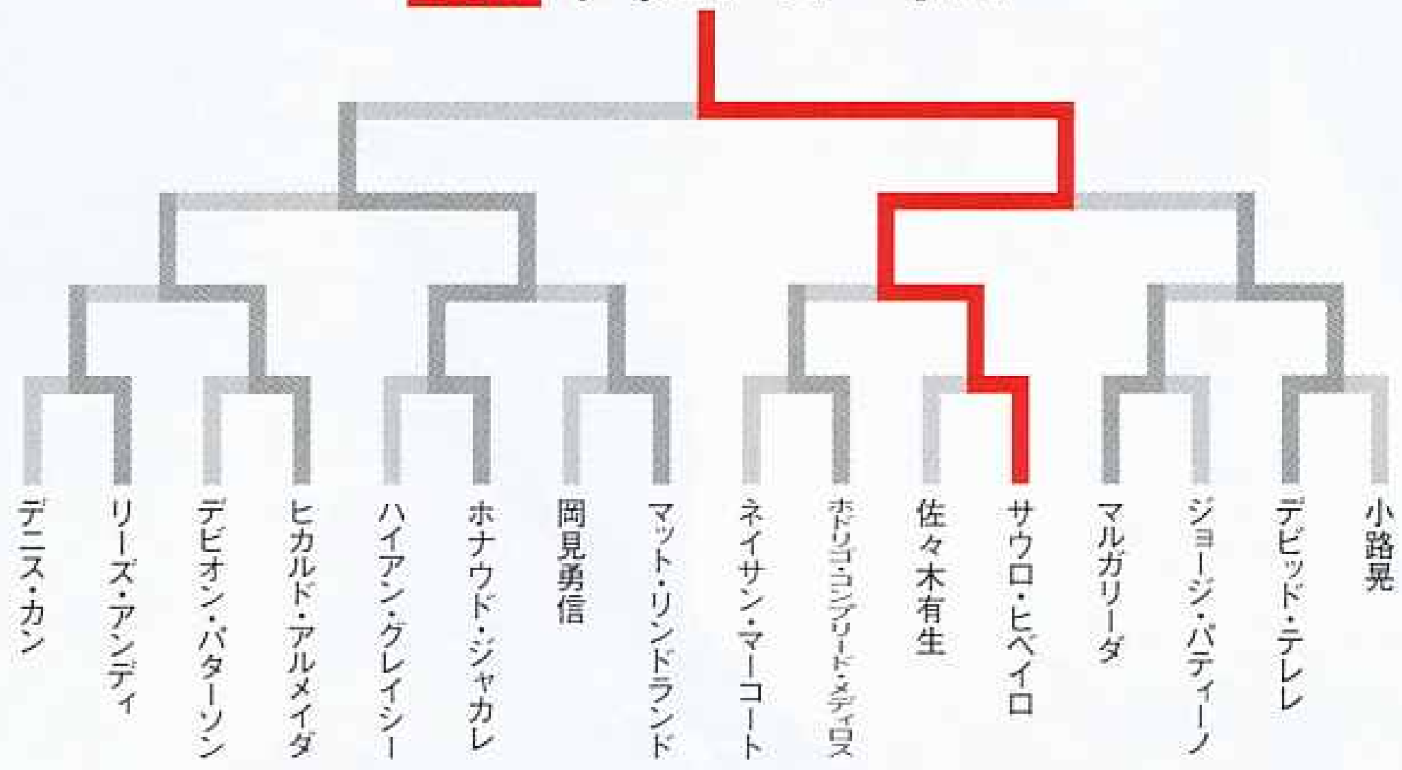
-87.9kg サウロ・ヒベイロ政権奪回! されど、その闘いぶりに批判も

昨年、菊田早苗にまさかの敗戦を喫した柔術界の重鎮、サウロ・ヒベイロが執念の王座奪回を果たした! しかし、サウロの押さえ込むだけの一本を狙わない闘いぶりが、アブダビの中でも批判が出たという。今回のADCCブラジルは「興行」だったからだ。その中で気を吐いたのはパンクラスで猛威を振るうアルメイダ。しかし、準決勝ジャカレ戦で5度(!)延長の末に敗れてしまった。“アメリカ代表”小路晃は敗れたものの、大物テレレと互角の好勝負を演じたようだ。



優勝 サウロ・ヒベイロ
準優勝 ホナウド・ジャカレ
第3位 デビッド・テレレ

優勝 サウロ・ヒベイロ



無差別 大穴ディーン・リスターが制す! 日本人3選手も好試合展開

全階級のトーナメント終了後、改めて参戦希望者を募って開催される無差別級。ここには佐々木有生、小路、石田の日本人3人が出場。佐々木は1回戦でペジパーノに敗れたが、2P奪取する健闘をみせた。そんな中で優勝したのは伏兵ディーン・リスター。自分の階級では2回戦負けだったが、それがかえってスタミナ温存に繋がりこの快挙となったようだ。また、ここでもカカレコが準優勝。ブッカーKは「ゼヒ日本でも試合させたい」と語っていた。



優勝 ディーン・リスター
準優勝 アレシャンドリ・カカレコ
第3位 ファブリシオ・ワルダム

優勝 ディーン・リスター



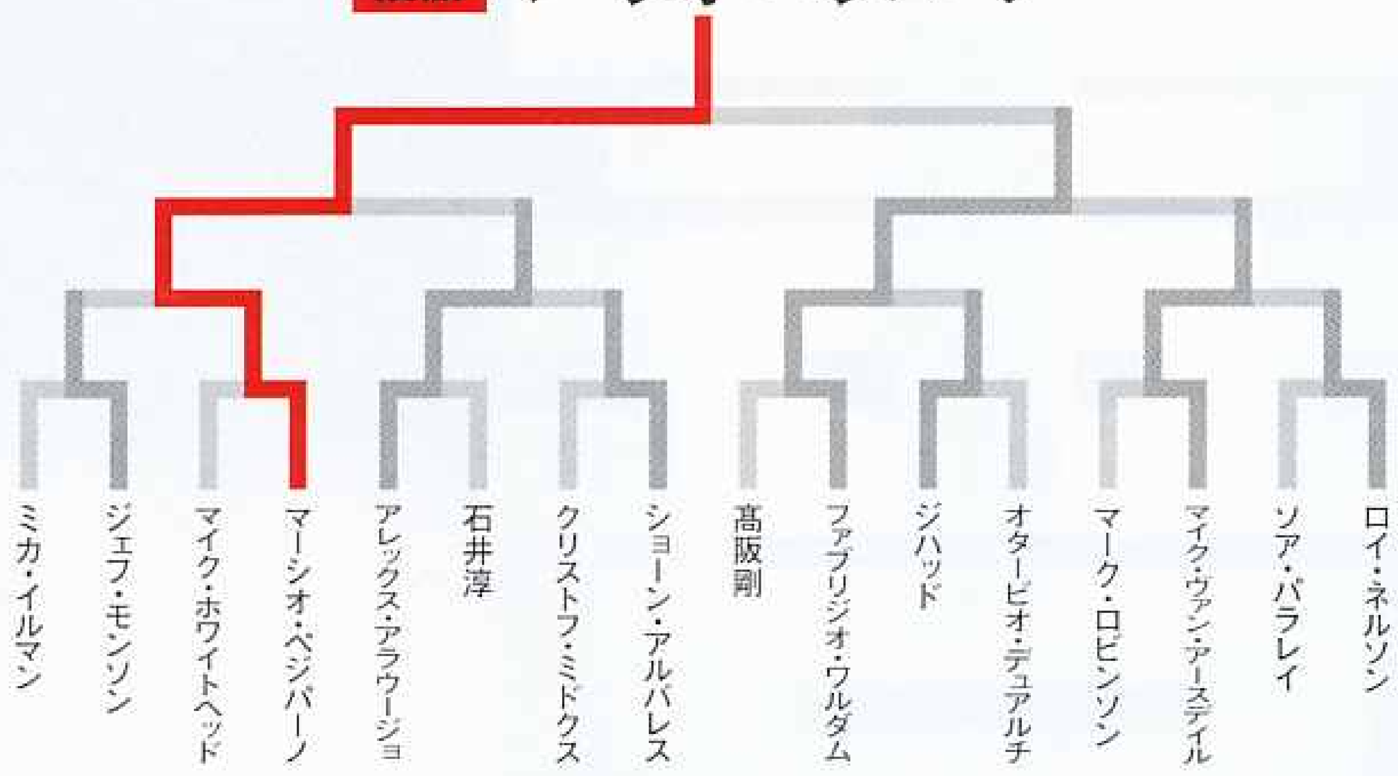
+99kg TK、惜しくも1回戦負け ファブリシオは名前を覚えておけ!

“世界のTK”高阪剛が出場したこの階級。TKは当初リコ・ロドリゲスと対戦予定だったが、リコが欠場。代わりに新星ファブリシオ・ワルダムと対戦、互角の攻防を続けながら最後の30秒で2P奪われ悔しい敗戦となった。そのTKを破ったファブリシオはその後あれよあれよと勝ち上がり、準優勝。ブッカーKが「ノゲイラよりも強いかもしれない」というほど、溢れる可能性を見せてくれたようだ。近い将来の来日を優勝したペジパーノ共々期待しよう。



優勝 マーシオ・ペジパーノ
準優勝 ファブリジオ・ワルダム
第3位 アレックス・アラウージョ

優勝 マーシオ・ペジパーノ





現役IWGP王者が紙プロRADICAL初登場!!

善廣

「新日本は俺が面白くしてやる」

第32代IWGPヘビー級&第20代NFWヘビー級王者

高山

5・2新日本ドーム大会で堂々のメインイベントを張り、"V10王者"永田裕志から見事にIWGPのベルトを奪取した高山善廣。試合後は"過激な仕掛人"新間寿の乱入も絶妙に切り返し、腰にNWFのベルトを巻きつつIWGPのベルトをブン回して引き上げる姿は頼もしいこと、この上なし！　新しい時代を迎えた新日本プロレスの頂点に立った高山に「新日本を面白くする方法」を聞いてみた。

聞き手／スモーノブ & 堀江ガンツ　撮影／松本崇

designed by hisa (Two Three)



――IWGPベルト獲得とNWFベルト防衛、おめでとうございます！

高山　はい。

――前回のインタビュー（本紙NO.60の時は、NWFベルトを獲ってから2ヵ月後のインタビューになってしまったんで、今回はすぐに来てみました。

高山　あの時は何をいまさら言ってるんだって感じだったけどね（笑）。

――すいません（笑）。でも、『紙プロ』に現役のIWGPチャンピオンが登場するのは初めてのことなんですよ。

高山　そうなんですか？

――またひとつ、高山さんが垣根を超えてしまったわけですよ！　率直な感想はいかがですか？　試合直後のコメントだと第一声で「ざまぁみろ!!」って言ってましたけど。

高山　それ以上でも、それ以下でもないですね。

――何に対しての「ざまぁみろ!!」だったんですか？

高山　新日本プロレスに対して（笑）。パッと頭に思い浮かんだのは、昔、会社を潰されたってことです。

――Uインターのことですね。

高山　あのことが自分の中にもありますから。あと、新日本は「何が何でも自分達が一番！」って打ち出すじゃないですか？　そういうのに対して、「何を言ってるんだ、タコッ!!」って常に思ってたから（笑）。

――これで名実共に新日本の頂点に立ったわけです。今後は挑戦を受ける立場になるわけですよね。



高山　挑戦を受けないで、ベルトを返上しちゃったりして（笑）。ガッハッハッ！

――新間寿さんじゃないですけど、封印しちゃったり（笑）。

高山　いや、封印はしない！（キッパリ）。

――まあ、新間さんのことは後ほどうかがいますけど、高山さんが新日本の頂点に立ったことによって、だいぶ風景は変わってきますよね。具体的にどんな風景に描き換えてしまおうと思ってるんですか？

高山　5・2の挑戦者決定戦で牛（＝天山広吉）が勝ったんで、タイトルマッチはやらなきゃいけないらしいんですけど、もう挑戦者決定戦みたいなくだらないことはやめてほしいです。ようするに自分でアピールが出来ない能なし野郎を無理矢理チャンピオンに仕立て上げるためのものでしかないから。それが、「チャンピオンからの忠告その1」（笑）。

――なるほど（笑）。じゃあ、「その2」にいきましょう！

高山　ベテラン同士で組んで楽してるIWGPタッグチャンピオン・チーム（＝蝶野正洋&天山組）があるけど、そういうのを解体してベテランと若手を組ませて、どんどんメインで使えば、若手もおのずと成長するでしょ。あの現場監督は現場のことを考えてるフリして、自分のことしか考えてないんじゃないの？

――じゃあ、「その3」いきましょうか！

高山　魔界（倶楽部）はもっと、魔物に徹するべき！　まだ、ちょっと中途半端だからね。俺がやった方が、もっとひどいヒールになるから（笑）。自信ありますよ！

YOSHIHIRO TAKAYAMA



――星野（勘太郎）総裁は、相変わらず魔物っぷりを発揮して凄い人気が出てますけど（笑）。

高山　でも、いまの星野さんの人気って、「怖い！」ってイメージじゃないですからね。どっちかっていったら、タマちゃんみたいなもんですから。

――アハハハハハ！

高山　「こんな狭い小屋に入れられてかわいそう」ってね。マスクマン（魔界1、2、4、5号）とか安田（忠夫）とか村上（和成）はそれじゃダメでしょ。

――いま、こうやって「チャンピオンからの忠告その1～3」を聞いてみると、これが実現したらもっと新日本のリングが自己主張のぶつかりあう場になりそうですね。

高山　そう思いますよ。その3つを自分で言って気付いたんだけど、みんな平均点になっちゃって、誰も突出してないからダメなんですよ。

――なぜ突出できないんですかね？

高山　戦後教育がいけないんでしょうね。

――根っこはそんな部分だったんですか。

高山　戦後って言っても意味が違いますよ、Uインターvs新日本の戦後教育ですからね（笑）。

――なるほど！　失礼しました（笑）。

高山　「俺らの方が凄かっただろ？　だから、俺の言うとおりにしとけよ」ってド真ん中の人が言って、立つ鳥が後を濁してど

新日本で誰も突出しないのは
戦後教育がまずかったんでしょ
対Uインターの戦後教育が！

っかに行っちゃったんですよ！　「道場でレスリングの練習なんかやってもしょうがねえんだぞ」とか言ってたんじゃないんですか？（笑）。

──そういう期間が長すぎたんですね。

高山　中西（学）がバーリ・トゥード（以下、VT）をやったら、ああいう感じでしょ？　猪木さんは「あいつの割にはよくやった。これまでは、いい指導者がいなかったから」って言ってましたけど。ようするに、そういうことなんですよ（笑）。道場からそういうものを排除させられちゃったんでしょうね。みんなが中西に「この短期間でよくやった！」って言ってましたけど、俺は「ずっとプロレスっていう〝闘い〟の練習はしてきたんじゃねえのか？」って思いましたよ。ましてや、オリンピックに行った人がなぜそれぐらいで褒められるんだろうって不思議でしょうがないです。25歳までフラフラ遊んでた僕としては（笑）。

──アハハハハ！　高山さんも『PRIDE』に出たときは、準備期間なんてメチャクチャ短かったですもんね。

高山　『PRIDE』に対しての準備期間はね。でも、入門してから一貫して闘う準備はやってるわけじゃないですか。「アンタ、今まで何してたんだ？」って話ですよ。足踏みの練習してたのかな？

──道場で一心不乱にドンドコやってたら怖いですけどね（笑）。でも、今回のドームから新日本がVTに取り組んだことによって、誰もが「VTをやれ」と言われる可能性がでてきました。

高山　僕が上井さんの立場だったら、ヤングライオンの子たちにやらせますけどね。

──今回、新日本はルールを新たに打ち出しましたよね。「作り試合禁止」とか「馴れ合い的な試合は禁止」とまで明文化したルールだったわけなんですが。

高山　全部を読んだわけじゃないですけど、「馴れ合い的な試合は禁止」とか、そんなことまで書く必要ないのになぁと思いましたね。逆に言えば、そんなことをしていても勝っちゃえば、その選手の勝ちなんですよ。VTなんだから。

──まさに「何でもあり」だ、と（笑）。

高山　「馴れ合い」と見せかけておいて、ボコンとやっちゃえば勝ちじゃないですか（笑）。乱暴な言い方かもしれないけど、「余裕を見せてる」っていうのも、「馴れ合い」と受け取られる可能性だってありますよね。アマチュアの高校生の大会じゃないんだから、敢えて言うことじゃねえだろうと。プロなんだから、そういうことも駆け引きで使うんじゃないかと思いますよ。

──では、5・2のVTで一番気になった試合はどれでしたか？

高山　やっぱり藤田（和之）vs中西です。

──いつになく、藤田選手はクールな試合運びでしたけど。

高山　理由は2つあると思うんですよ。ひとつは、リングサイドで見てた（エメリヤーエンコ・）ヒョードルに自分のガツガツした部分を見せないということ。もう一つは中西に対してホントに余裕があったんじゃないかな、と（笑）。自分で言うのもなんだけど、僕と『PRIDE』で闘った時の目と違うもん！　明らかに！

──非常に冷たい目でしたよね。

高山　僕のときは「こいつ、殺しにくるんじゃないか」ぐらいでしたから。そういうのが見えなかった。だから、もし中西がトチ狂って「ウワァ～ッ!!」って向かっていったら、勝ってたかもしれないですよ。あれだけ余裕で構えてたら。

──藤田vs中西戦以外だと？

高山　朝青龍の兄ちゃん！　あの自分を壊すスープレックス！

──アハハハハ！

高山　会場のモニターで見てたときに「何でケガしたんだろう？」と思ってたんですけど、家に帰ってTVで見たら、ケガする前のテイク・ダウンでも手をついてるんですよ。癖なんでしょう。

──相撲の「かばい手」ですよね。

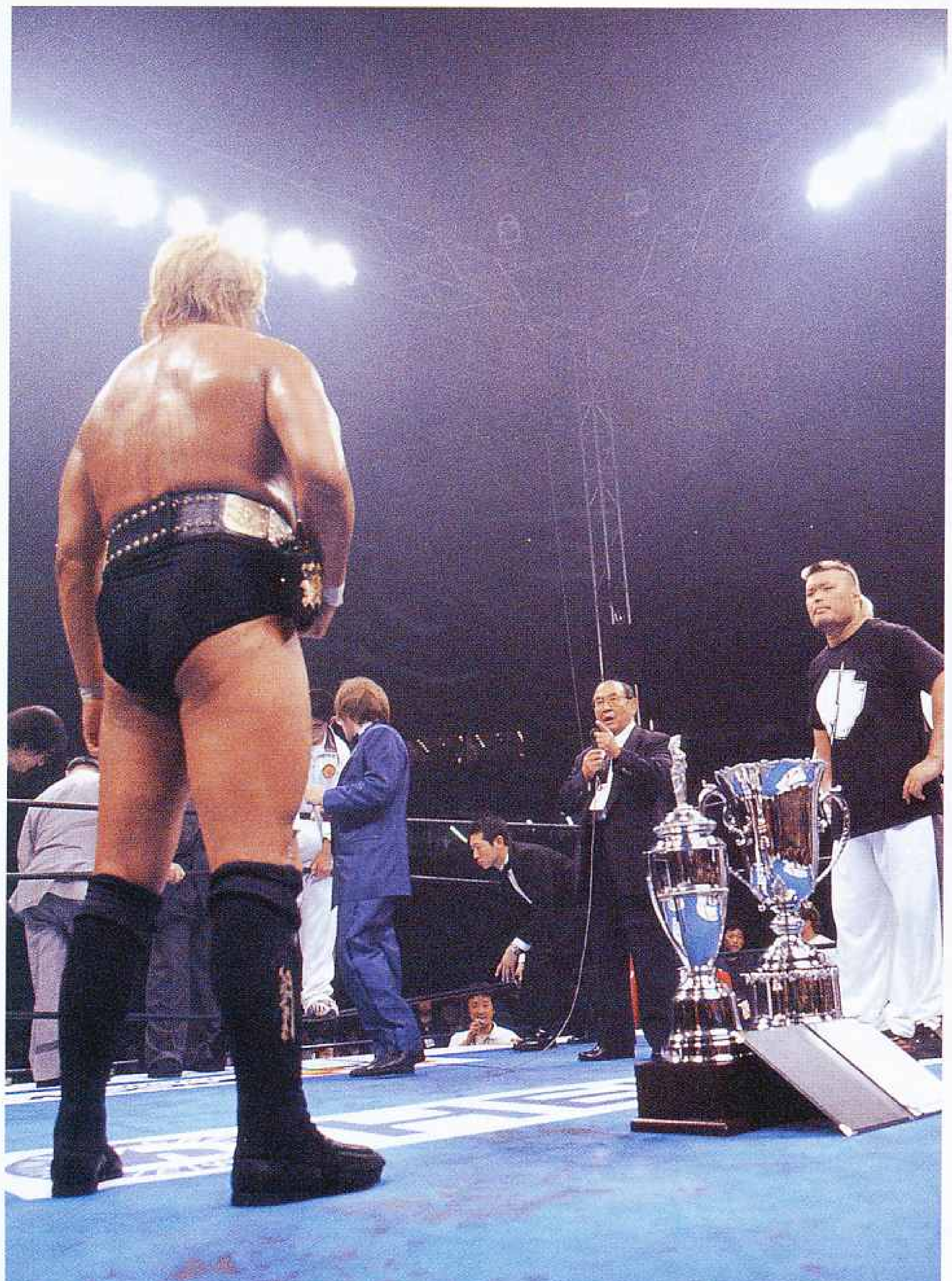
高山　藤島親方（現・二子山親方）が息子達（若乃花・貴乃花）に「手は絶対につくな」って言ってたのを思い出しました。

──懐かしいなぁ（笑）。

高山　レスリングでオリンピックに出てるんだから、分りそうなもんですけど。

──もの凄いパワーでしたけどね！

高山　身体も凄いし、立ってる時のボクシングの構えが様になってたし。当たったらやばいんじゃないですか？（笑）。（エメリヤーエンコ・）ヒョードルみたいな凄く痛





ある意味、ストーカー市川戦は僕の幅を本当の意味で広げてくれた

いパンチなんでしょうね。もう一回、試合を見てみたいですよ。
——その試合を含めて、割とVTでは消化不良に終わった試合が多かったですよね？　LYOTOの試合よりも、猪木さんのもの凄いパンチの方がインパクトあったぐらいで（笑）。
高山　凄かったですね、あの攻撃（笑）。ビンタ、ビンタで、グー・パンチってまるで僕の試合を見てるようでしたよ（笑）。
——巷ではプロレスvsVTみたいな見方がされてましたけど、どっちが強烈なインパクトを残したかというと……。
高山　どっちっていうのもないんじゃないですか？　自分で言うのも悔しいんだけど、あの会場では小橋vs蝶野戦が一番インパクトあったんじゃないですかね。
——盛り上がりも一番でしたからね。
高山　大会直前の『ゴング』のインタビューで「あの試合はやる前から、盛り上がるのは分ってる」「もしノアでやるなら、三沢（光晴）vs永源（遥）のシングルマッチみたいなもんだ」って言ったんですよ（笑）。
——それも凄い論理だなぁ（笑）。言わんとすることは分りますけどね。あの試合からは〝闘い〟という部分は見えましたか？
高山　あんまり見えなかったですね。だって、小橋は片足引きずってる人に勝つまで30分もかかってるんだから。「勝った小橋も、負けた蝶野も上がった」って、どこかで書いてましたけどね、負けた蝶野は上がったかもしれないけど、勝った小橋は全然上がってないと思いますよ。試合を出来るか、出来ないか分らないぐらいひどい状態のヒザの人に30分も手を貸すように時間かけて試合してるし。それでいて20分過ぎからスープレックスを5回もやっちゃって。ダメですね、あれを5回もやったら。あの技が効かないんだよって言ってるようなもんでしょ？
——高山さんの試合はジャーマン一発で決まりましたよね。
高山　別に一発で決めるのがすべていいとは思わないけど、5連発してピンフォールを取れないのは技じゃねえよ（笑）。あれじゃ技の発表会みたいだから。「次は、これです！　どうぞ！」って感じ（笑）。TVで見たら、そう思っちゃったんですよ。
——コアなファンは「5連発もやって、すげぇ!!」と思うかもしれないですけど、逆にライトな視聴者は「なんで、こんなに何度もやってるの？」って思うでしょうね。
高山　プロレスをすごく一生懸命見るヤツは、そういう考え方を排除してるもん（笑）。たまたまチャンネルを合わせた人に「うわっ、すげえ！」って思わせないといけないですからね。
——VTの試合と、直前にあった小橋vs蝶野と、どちらを意識しましたか？
高山　両方ですね。たまたま対戦相手の永田（裕志）もミルコ（・クロコップ）とやってるわけじゃないですか。（プロレスとVTを）両方をやってる人間がメインイベントで試合をする時に、何をすればいいのかってことを永田自身も考えたと思うんですよ。僕もすごく考えましたから。初めてのシチュエーションだから難しかったですね。小橋vs蝶野がなくて、VTの試合だけだったら僕らの試合も全然違った展開になってたと思いますけど。小橋vs蝶野があいう試合になるのは、ハッキリ言ってすごく予想がついたんで、同じようにはしたくないなと思いました。僕だったら、いろんな持ち方でスープレックス出来ますからね。一試合で10回スープレックスやろうと思えば出来るんですよ。
——高山さんの試合は、VTと同じように東京ドーム向きじゃないのかなと思いましたけどね。これが両国国技館だったら、みんな受け取り方が違うと思うんですよ。
高山　ただ、VTの試合でも、東京ドームで桜庭（和志）がホイス（・グレイシー）とやった時は盛り上がったし。それは逃げでしかないんで、自分では言いたくないんですよ。そこに何かが足りなかったからイマイチだったんでしょう。
——今回のドームは集客でもかなり健闘していたし、評判も割といいです。今後もビッグマッチのたびに、VTを組む可能性もあると思うんですが、それがいいのか悪いのかは、まだ誰にも分らないですよね。
高山　VTをやることはいいんじゃないですか？　ただ、今回は初めてだから「よくやった」って言われるでしょうけど、何回かやっていくうちに「このままじゃダメだ」ってことになるんじゃないですか？　ホントに試合内容が面白いっていう試合はなかったと思いますから。

YOSHIHIRO TAKAYAMA

——それはプロレスもVTもですか？
高山　どのルールでやっても、やっぱり興行ってそういうものじゃないですか。
——単純に5・2のVTの試合をいまの『PRIDE』と比べてどうなんだろうって部分もありますよね。
高山　そりゃ確実に落ちますよ。『PRIDE』も最初はひどかったから、続けていくことによってクオリティは高くなっていくかもしれませんけど。問題は誰がやるかでしょう。今回は中西が藤田とやったということは大きかったと思うし。僕は、そんなにしょっちゅうは『PRIDE』に出ないじゃないですか？　それと同じだと思いますよ。そこに面白い何かがあれば、出る意味はあると思いますけど。
——以前、高山さんは「新日本内でVTをやることはない」と言ってましたけど、現時点でもやはりないですか？
高山　あの大会を見ても興味は沸かないです。
——いまは「新日本の中でVTをやる」っていうこと以上のテーマはないですからね。
高山　それだったら、すでによそでやってる人間にとって、大した意味はないんです。
——猪木さんの異種格闘技戦も乱発されちゃうと、「もういいよ」ってなりましたからね（笑）。
高山　そうそう。あれも10回ぐらいやってましたよね？　ホントに凄かったのは（モハメド・）アリ、（ウィリアム・）ルスカ、ウィリー（・ウィリアムス）、チャック・ウェップナー、あとは（アクラム・）ペールワンとの試合ぐらいだから。
——その異種格闘技戦当時の猪木さんの名参謀役だったのが新間寿さんが、5・2でいきなり乱入して「IWGPを封印して頂きたい」と高山さんに迫ったわけな



1



3



2



4

PLAY BACK!! 高山善廣vsストーカー市川



6

①「X」とだけ発表されていた「ストーカー市川暴走十番勝負・番外編」の相手はなんと高山善廣！　入場テーマが鳴っても半信半疑の観客席だったが、観客より頭一つデカい高山が花道に姿を現すと地鳴りのような大歓声！　ストーカーは大いにうろたえる！②NWFのベルトを強奪しようと試みて投げ飛ばされたストーカーは、改めて手四つを挑むが、悲しいかな手が届かない！③ようやく組み付くと、今度は高山が42キロ「ぐらい」のストーカーを軽々とリフトアップ。そしてホントに死の谷底突き落とすようなデッドリー・ドライブ。④なんとか形勢逆転を試みたいストーカーは、回転エビ固め！　しかし、高山は微動だにせず。ここでストーカーは奥の手であるカンチョー攻撃！「Uインターの道場でドン荒川さんにやられて以来」（高山・談）というこの一撃により、さすがの高山もついによろける。⑤ストーカーはそこへすかさずロープ拝み渡りを敢行！　しかし、案の定引きずり下ろされ自分がダメージを負ってしまう。

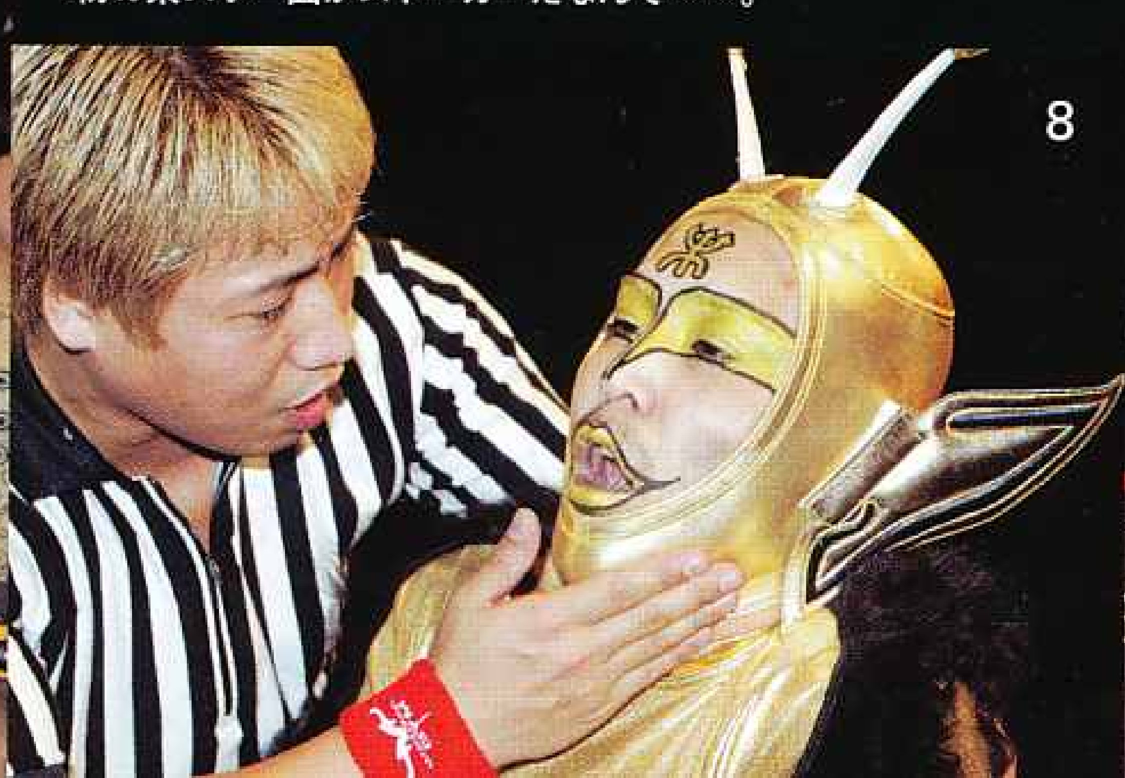


5



9

⑥「お遊びはここまで！」とばかりに、高山が遂にエベレスト・ジャーマンの体勢に入った！　だめだ、ストーカーが死んでしまう～！　と超満員の館内が悲鳴に包まれる。恐怖におののいた表情のストーカーは試合後、このときのことを「（同棲中の）ナミコの顔が浮かんだ」と、恐怖の走馬燈体験を告白！⑦　いままさにエベレスト・ジャーマンが火を噴こうとするその直前に岡村社長が血相を変えてエプロンに上がり、タオルを投入！　なんとかリング上での殺人事件を未然に防いだ。⑧試合が終わっても恐怖とダメージで意識朦朧のストーカーは、言葉すら話せない状態に。この恐怖体験がトラウマにならなければいいが……。⑨と思ったら、この2週間後の5・6後楽園ホール大会では、代々木大会翌日に一面（『高山、宇宙人撃破』）となった東スポを、なぜかレオタード姿で誇らしげに掲げながら入場。闘龍門初の東スポ一面がストーカーだなんて……。



8



7

新日本を背負う気はない 僕はジョシュ・バーネットじゃないですからね！

んですが……。

高山　凄かったですね！　魔界倶楽部もあれぐらいやってほしいなぁ。あれは魔界倶楽部がやる仕事ですよ、ホントに！

――天山がすぐ噛み付いたし、なぜかリングアナのケロちゃんなんか「それはちがう～！」って絶叫してましたけど（笑）。

高山　ワナワナと震えてましたね（笑）。

――「何と違うんだろう？」って感じですが（笑）。

高山　全面的に違うってことでしょ（笑）。

――僕はずっと場内FM放送を聞いてたんですけど、新間さんがとにかく噛み付きまくってたんですよ。「ＩＷＧＰ Jr.タッグなんて俺は知らない」「そもそも、私がやってた頃のＩＷＧＰは、タイトルじゃなくて……」とか吼えまくってたんですよ。

高山　ガッハッハッハッ！

――そういう新間さんの思いは理解できる部分ではありますか？

高山　分るような、分らないような……。ようするに、いまの新日本の組織の中にいる人が不甲斐ないから、そう言っただけじゃないですか？　本来なら、永田が僕に勝ってＮＷＦを封印しちゃえば丸く収まった話なんですよ（笑）。

――たしかに、永田選手も「勝ったらＮＷＦを封印する」って言ってましたからね。

高山　ええ。でも、そうは言うもののＮＷＦが勝っちゃったから、「ＩＷＧＰを封印しろ！」ってことになったんでしょうけど。ただ、新間さんにブチブチ言っても仕方ないですからねぇ……。天山もちゃんとマイクを奪い取りゃよかったのに、奪い取れなかったでしょ？　60過ぎのお爺さんから！

――逆に「歴史を知らないものは黙っていろ」とか言われちゃって（笑）。あの場での高山さんの切り返しは素晴らしかったですよね。「お前らが不甲斐ないから、新間さんが出てきちゃったんだろ！」って（笑）。

高山　でも、ホントそうだからね（笑）。

――こういう事態の対応ひとつ取ってみても、頭が固いなぁって感じですよね。これからはホントに個人が頭を使って、自分をプロデュースしていかないとダメなんでしょうね。

高山　でも、自分だけで考えちゃうとダメなんですよ。自分を駒として考えて、「自分がこう動けば輪が広がって、周囲はもっと面白くなるから、誰も文句を言わねえだろう」ってことまで考えないと。自分だけいい思いをしようと考えたら、みんなから反感を買いますよ。自分がいい思いをすることによって、「みんなも幸せでしょ？」ってことにならないとダメじゃないですか。周囲に「しょうがねぇな」って思わせる何かがないと。

――そうやって高山さんの場合は大きな渦を作っていくわけですね。今日の『東スポ』を見るとプロレス面の4分の3までもが高山さん絡みの記事ですもんね。小橋選手がＧＨＣ挑戦問題、永田選手が5・2の試合について言及していて、ストーカー市川選手が高山さんと闘った試合で『東スポ』の一面を持って入場して、安生さんが「伝説のユニット〝ゴールデン・カップス〟再結成を呼びかける」という記事になってます。

高山　へ～？　ゴールデン・カップスは伝説のユニットだったんだ⁉（笑）。安生さん、何て言ってるんですか？

――「ゴールデン・カップスは高山しかいねぇよ。山本（喧一）は『ＰＲＩＤＥ』で忙しいだろうし……」って言ってますね。

高山　俺の方が忙しいよ‼（笑）。喧一の方が暇でしょ。あんな、訳のわかんないトークショー（※Ｐ52『紙の新聞』を参照）に出やがって‼

――あのイベントで、「Ｕインター同窓会」が決まったらしいですけど（笑）。

高山　最初に名乗りを挙げたのが、あの人たちだと誰も集まらないと思うんですけど（笑）。まあ、喧一は元々Ｕインターでしたからね。それは分るんですけど、あの人は何なんですか？

――あの人って、デンジャラス内田さんのことですよね（笑）。

高山　あの人がいいとか悪いとかいう問題じゃなくて、そこで「違うよ！」ってなっちゃったから。

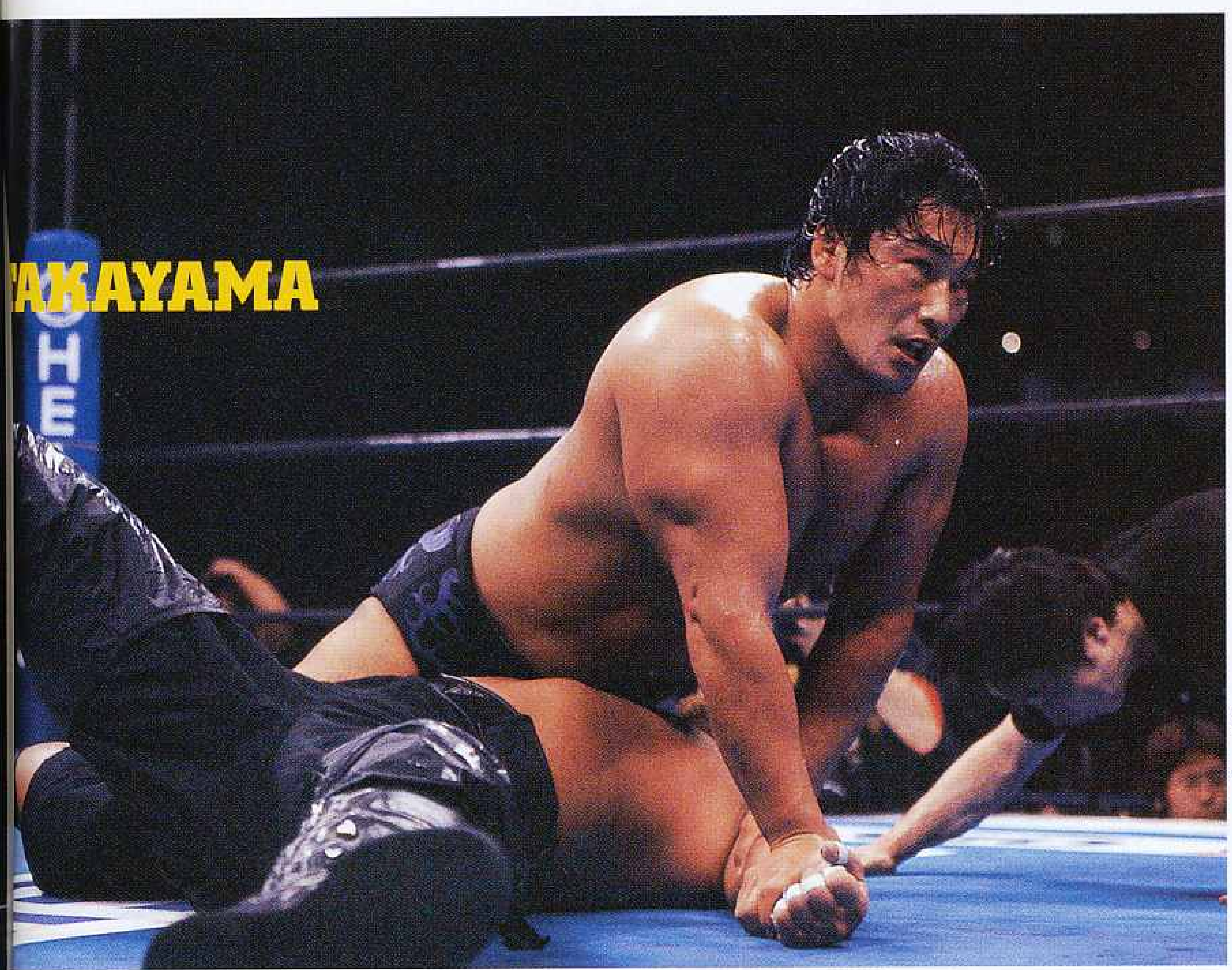
――一方ではそういう動きもありますけど、高山さんはＩＷＧＰという新日本の象徴を持ったことによって、今後動きづらくなる部分も出てくるんですか？

高山　どうなんですかねぇ？　変な言い方をすると、荷物がひとつ増えましたからね。ＩＷＧＰを持ったということは僕が看板じゃないですか。どうしても、そっちが優先になっちゃいますよね。前みたいにポンポンと出て行くわけにはいかないかもしれないけど、そうはいってもホントに魅力的なものがあれば、どうなるか分らないです。

――逆に新日本まで背負って出て行こうという感じですか？

高山　それはないでしょう。僕はジョシュ・バーネットじゃないですから。

――ジョシュが新日本の旗を背負ったシーンは、ちょっと軽かったですよね（笑）。



蝶野のバックドロップ４連発と、小橋のハーフネルソン・スープレックス５連発が交錯する、ある意味でド派手な展開となった５・２のセミファイナル、小橋vs蝶野。小橋が勝ってＧＨＣ王座の防衛に成功した。

高山　軽すぎますよ！　あれをやらせる方もやる方も、どうかと思うな。

——たとえば高山さんにしてみると、全然関係なかった人なのに「Uインターを背負ってます」みたいな……それこそ、デンジャラス内田さんみたいな感じに見えちゃうんですかね（笑）。

高山　キングダムの入江さんとか（笑）。別にIWGPを持ってるからって新日本を背負う気はないですね。

——ただ、ドームの試合後に「高山善廣ともども新日本プロレスをよろしくお願いします」ってコメントしてますよね？

高山　それは新日本プロレスという興行会社の面倒を見るということですね。

——こないだのドームでも高山コールが起こってましたけど、外様っていう感じも段々となくなりつつあって、不思議なポジションに来てますよね。

高山　面白きゃ何でもいいんですよ。

——逆に言えば、新日本にいままで面白いことがなさ過ぎたってことでしょうか？

高山　そうでしょう。あまりにも少な過ぎたんですよ。

——ホント、高山さんの周囲には面白いことばかりなんだよなぁ。ストーカー市川戦なんて、新日本での面白さとベクトルは全然違いますけど強烈なインパクトがありましたからね。

高山　あの試合で、ある意味、僕の本当の幅が広がったと思います。かの偉大なる編集長GKが「意外と高山は頭が固い」ってどっかの記事で書いてましたけど、そのへんを意識しました（笑）。

——GKの記事が引き金だったんですか⁉

高山　そういうわけじゃないですけどね。それは『W—1』の時の記事だったんですけど、「あれはコンセプトがつまんないから出なかっただけなのに」っていう思いはありましたよ。

——でも、まさか『東スポ』の一面になると思ってました？

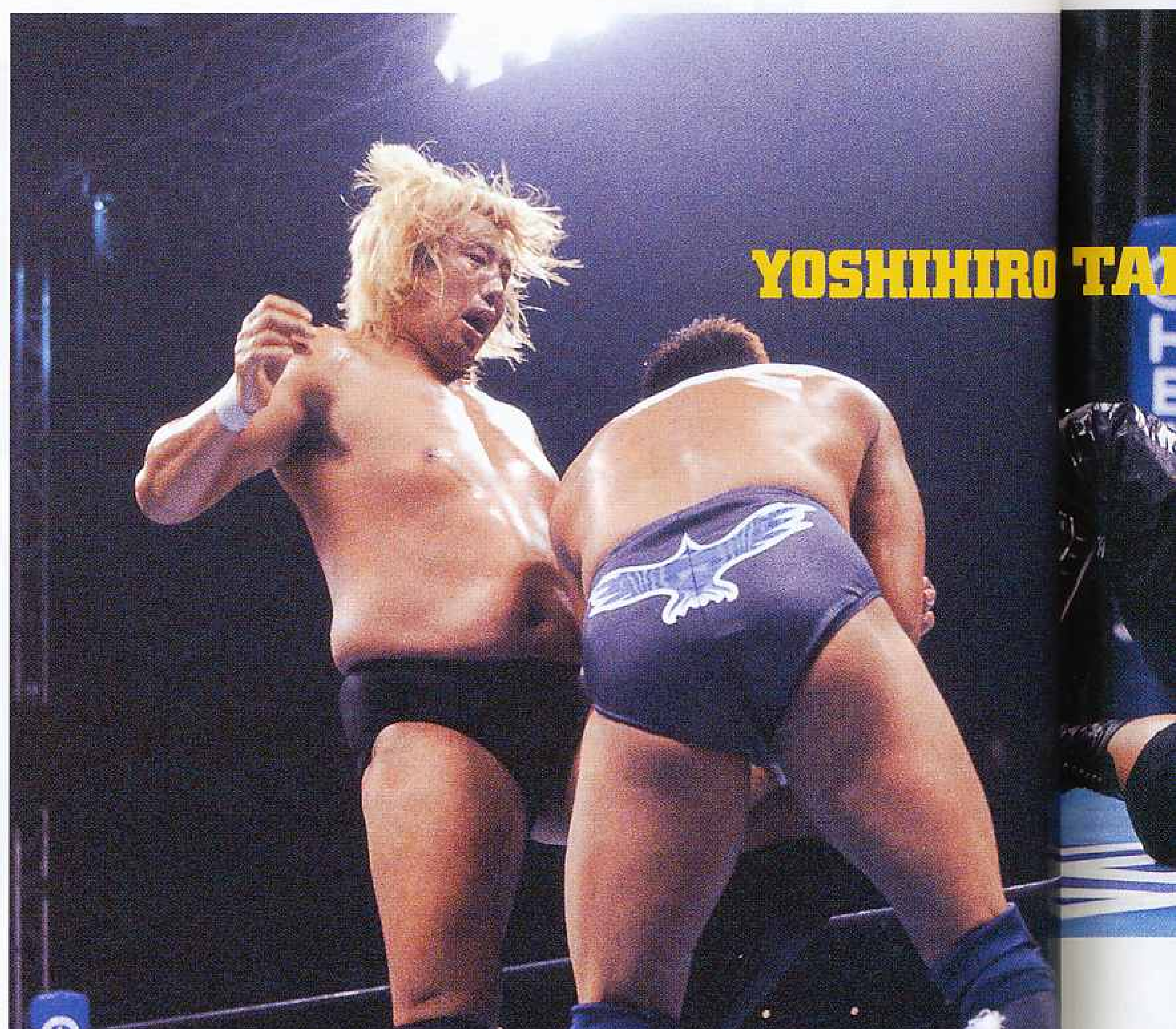
高山　いやぁ、『東スポ』は偉いなぁと思いました（笑）。いつも「俺の記事が小せえ！」とか文句ばっか言ってたけど、偉いッ!!　市っちゃんも良かったなぁと思ってるんじゃないですか？

——じつは闘龍門で初の『東スポ』一面だったらしいですね。

高山　ホントですか？　CIMA選手とかは、かわいそうだったなぁ。

——さらに、『東スポ』一面だけじゃなく『ファイト』の一面も飾ってるんですよね。「高山堂が年収1億円を超えた」って。

高山　それ、かなり前の記事（3月20日号）じゃないですか？　あれは、まったくの嘘ですから。



ヒザ蹴り、パンチ、キック、スープレックス、関節技とゴツゴツした攻防が繰り広げられたメインの高山vs永田。この試合に敗れた永田は5・9ノア後楽園大会に乱入！　ノア参戦をアピールして、実際に試合出場している。

——でも、久々に夢のある話だなぁと思ったんですけどね。

高山　夢なんてないよ！　『ファイト』の一面でこんなこと書かれたって！（笑）。しかも、確定申告の時期なのに。

——やめてくれ、と（笑）。

高山　ホントに一億円稼いでりゃいいけど、そんなに稼いでないんだから！　でも、この記事を見てね、ウチの事務所に「お金貸してください」って電話をかけてきたバカがいるんですよ（笑）。笑うでしょ？

——有名税と言うしかないですね（笑）。

高山　キングダムがブッ潰れて全日本に上がるようになった頃、安生さんに「全日本に上がってお金持ちになるんだから、メシぐらいおごってくれよな」って冗談で言われてたんですよ。その頃、そんなにもらってたわけじゃないから「いつかご馳走しますよ」ってやり取りがあったんですよね。それで、あの記事が出た直後に「高山、そろそろいいだろう？」って、安生さんから電話がかかってきましたよ（笑）。

——アハハハ！　まだ覚えてるのが凄いなぁ。ゴールデン・カップスの件といい、安生さんはさすがですねぇ。

高山　そういえば、今日、安生さんから携帯に着信が入ってたんですよ（笑）。このことだったんだろうなぁ……。でもね、この安生さんが言ってる日が良くないんですよ。この日はノアの札幌大会に出るから。

——まさに高山善廣争奪戦が始まってるわけですね。そんな状況で、高山さんは新日本の中では何をやっていきたいですか？

高山　う〜ん……。ただのかき混ぜ棒ですよね。僕がかき混ぜて、「グチャグチャになって面白くなればいいや」ぐらいにしか思えないですよね、今は。昔は、自分がチャレンジャーだったからいろいろ言えたけど、王者になっちゃうと、引っ張り上げてやるのもバカらしいし。

——でも、みんな口では面白くするって言いますけど、自分の行動で新日本を面白く出来る人って、高山さんぐらいですよ。

高山　みんな考えなさ過ぎるんですよ！　普通に考えりゃ、もっとスンナリいくのに。

——みんな、自分がどうしたらいいか迷ってる人が多いと思うんですよ。

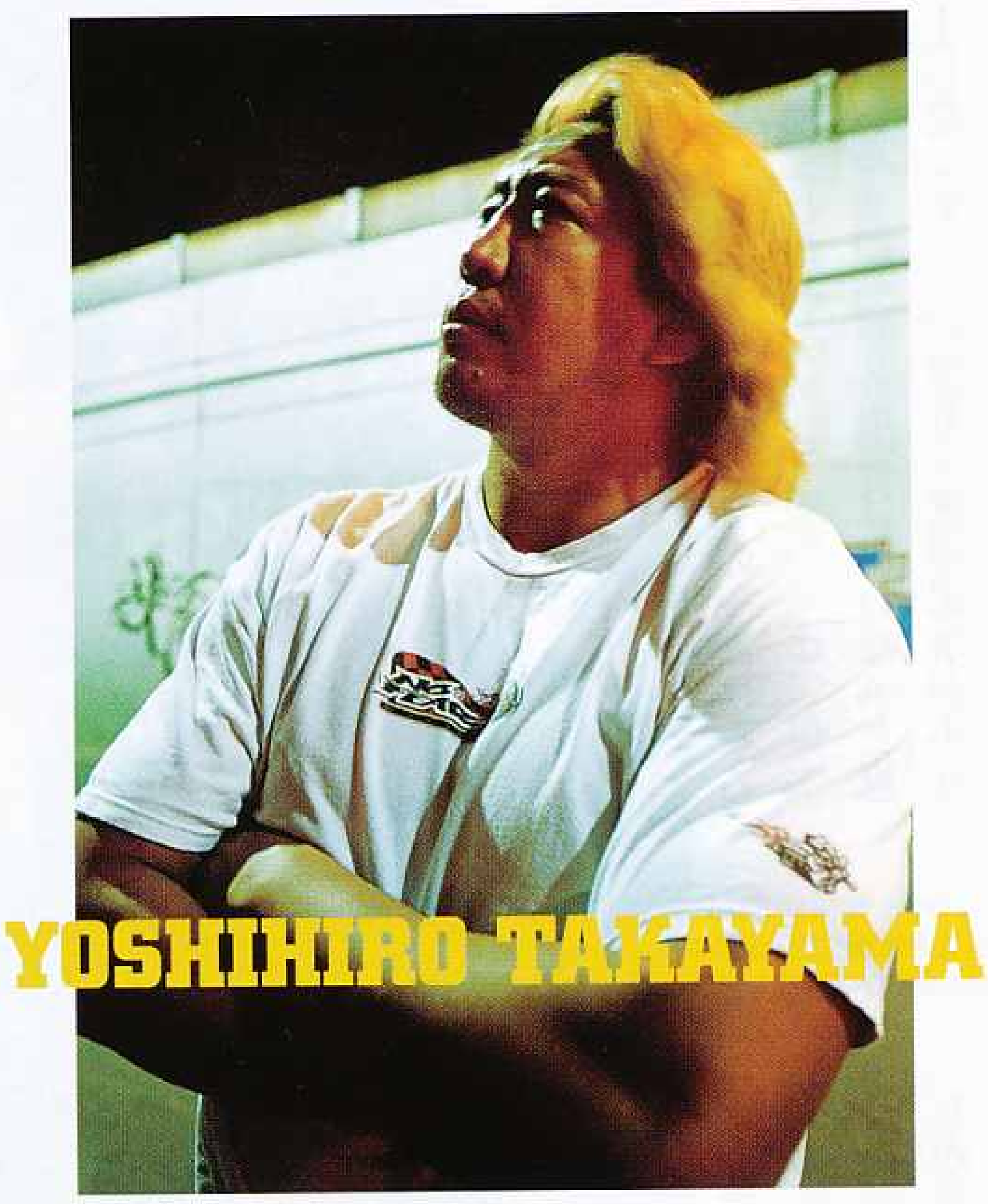
高山　なるべく傷つかない方向で考えてる人が多いんじゃないですか？　親がバカな子供をエスカレーター式の学校に入れるみ

たいな感じで、転ばないように上に行く方法ばかりを考えてますよね。
——「エスカレーターはどこだ?」って探してる状態かもしれませんね（笑）。
高山 そういう僕もエスカレーター式の学校に行ってたんですけどね、ガッハッハッハッ！　でも、エスカレーターの学校だからこそ、余計なことを考える時間があって良かったなぁと思いますよ。
——でも、この業界でエスカレーターって、あるんですかね？
高山 エスカレーターはね、だいたい失敗するんですよ。ただ、エスカレーターじゃないけど、常にハシゴを渡される人っていますよ。渡されるのも縄バシゴだったり、木のハシゴだったり、キャタツだったり、色々なんですけど、それをことごとく踏み外して落ちる豪傑もいますからね。どこの誰とは言わないですけど（笑）。
——たしかに（笑）。
高山 僕がベルトを取ったことで新日本の人が、目の色が変わってぶつかって来れば面白くなると思いますよ。僕はいくら自分の体がきつくても、リング上が面白ければいいと思いますからね、すごく楽しみではありますよ。蝶野さんが「夏までにＩＷＧＰを取り返せなかったら、現場責任者を辞める」とか言ってるらしいですけど、じゃあ辞めさせてやるって！
——その後任に高山さんが就任するとか。

現場責任者って肩書きは大嫌い！ファンに言うことじゃねえんだよ！楽屋ネタをバラして、どうするの？

高山 いや、それは面倒くさい（笑）。っていうかね、現場責任者って肩書きが大嫌いなんですよ！　そんなこと、ファンに言うことじゃねえんだよ！　そんな楽屋ネタをバラして、どうするの？　そんな肩書きよりも、前に使ってた「黒のカリスマ」とか「首領（ドン）」のままでいいじゃない？
——逆に自分の売りにしてた部分を捨てちゃってる感じがありますよね。
高山 だから、最近この人が弾けるのは、外の人間との試合だけなんですよ。僕とやった去年のＧ１決勝戦とか、ノアに乗り込んだ時とか、こないだの小橋戦ですよね。レスラー・蝶野を素のままでぶつけられるのは外の人間しかいなくなっちゃったってことでしょ？　「アイム・チョーノ!!」とか言って、他の人間の個性をスプレーで塗り潰してた人間が、急に「みんなで頑張る」みたいなこと言い出してるし。アリスト・トリストのマークだって自分が頂点に立ったなら、三角形の向きを逆にすりゃいいんだよ（笑）。
——当初のコンセプトは自分が底辺で全体を支えるっていうんで逆三角形のモチーフだったんですけど。
高山 コンセプトからズレてますね（キッパリ）。看板に偽りありでしょう。だから「現場責任者」とか言っちゃダメなんです。
——長州力みたいに、見るからに「現場責任者」って感じだといいんですけどね。
高山 長州さんは、それがキャラになっちゃってたからね（笑）。ホントに独裁政治だったから、それはカッコ良かったんですよ。蝶野さんは急に「現場責任者」に収まっちゃったからね。
——そういった矛盾が新日本の面白さを削ぎ落としていった部分もありますよね？
高山 そうだと思いますよ。あ、そうか……。俺が長州力になればいいのか！
——アハハハハハ！　そうですよ、革命戦士・高山善廣の独裁政権（笑）。
高山 ガッハッハッハッ！　パワー・ホールで入場してきましょうか？
——それ、新日本にとっては最高の嫌がらせですね（笑）。今日は、お忙しい中、ありがとうございました！
高山 ホントですよ。忙しすぎて、金原（弘光）さんのお見舞いにも行けないんですから（笑）。

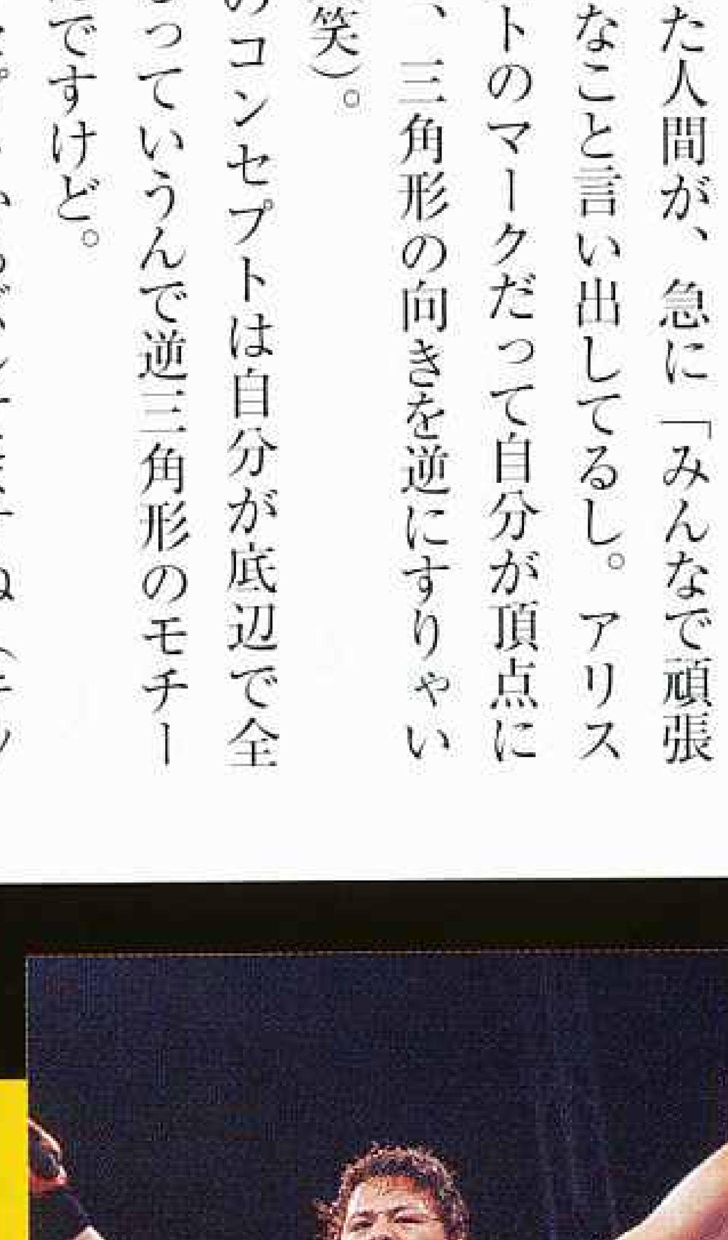
【5月7日、渋谷区「いちのや」にて収録】



NWF&IWGP二冠王・高山善廣包囲網、完成!!

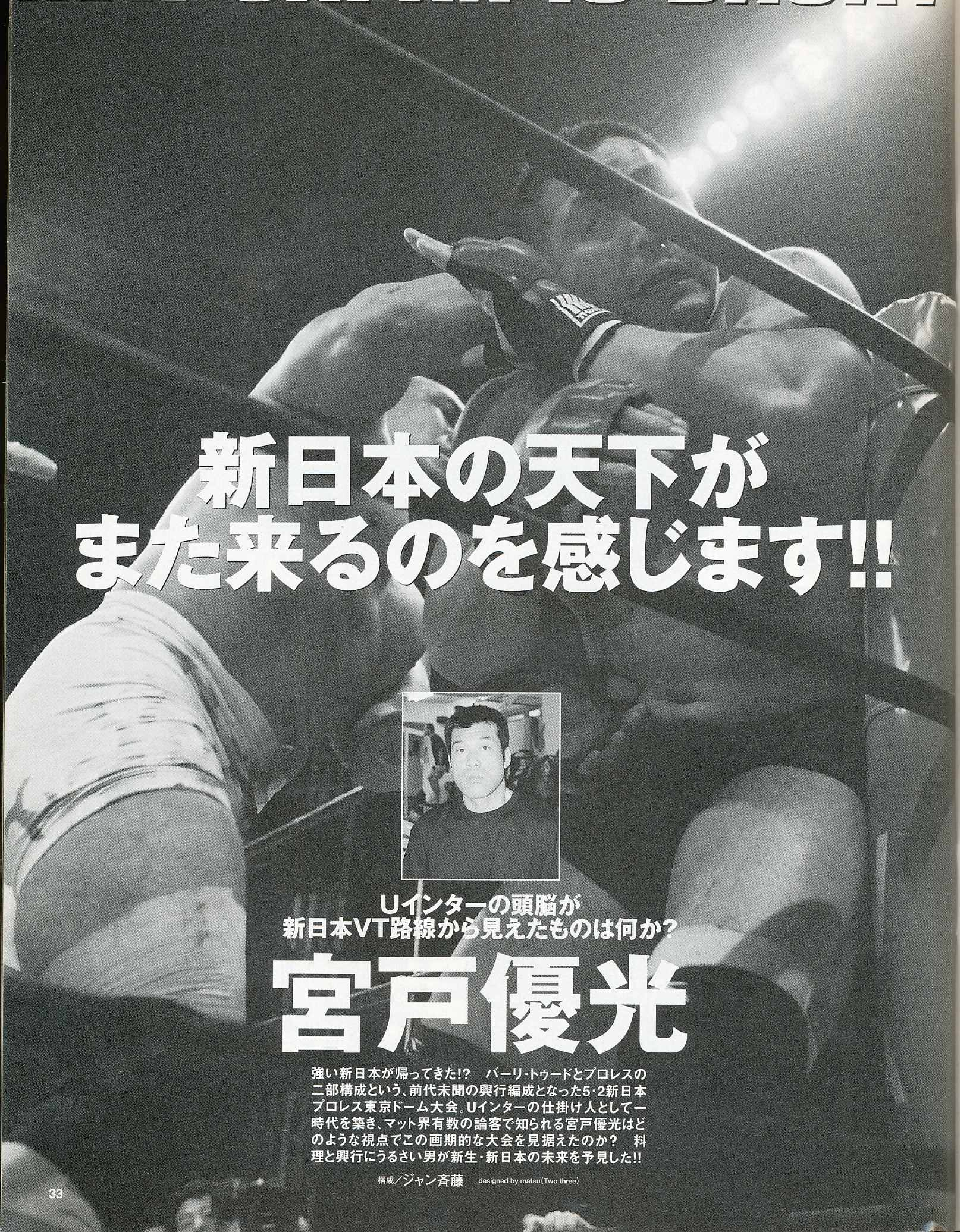
新日本プロレス
「THE CRUSH in OSAKA」
6月10日（火）
大阪・大阪府立体育会館（18:00）
【IWGPヘビー級選手権】
［王者］高山善廣 vs 天山広吉［挑戦者］

新日本プロレス
「THE CRUSH」
6月13日（金）
東京・日本武道館（18:00）
【NWFヘビー級選手権】
［王者］高山善廣 vs 中邑真輔［挑戦者］



※中邑は5・2ドーム大会でVT戦に挑戦、K−1戦士ヤン・“ザ・ジャイアント”・ノルキヤを公約通り血ダルマにして激勝! さらに、永田裕志に帯同してノアのサーキットで高山の偵察にも余念がない。未来の新日本を背負って立つはずの超新星が、デビュー9ヶ月でベルト初挑戦！　これは大注目だ！

NEW JAPAN IS BACK?



新日本の天下がまた来るのを感じます!!

Uインターの頭脳が
新日本VT路線から見えたものは何か?

宮戸優光

強い新日本が帰ってきた!?　バーリ・トゥードとプロレスの二部構成という、前代未聞の興行編成となった5・2新日本プロレス東京ドーム大会。Uインターの仕掛け人として一時代を築き、マット界有数の論客で知られる宮戸優光はどのような視点でこの画期的な大会を見据えたのか?　料理と興行にうるさい男が新生・新日本の未来を予見した!!

構成／ジャン斉藤　designed by matsu（Two three）

——鈴木健さんの「UWFインターの真実」に続いて、いよいよ宮戸さんのUインター本が出るらしいですね！

宮戸　6月中に出る予定ですけど、ホント疲れましたね。ここ数ヶ月、ほとんど徹夜で書いた日が続いたから、作家の気持ちを味わいましたよ（笑）。

——お疲れさまです（笑）。やっぱり"Uインターの頭脳"と呼ばれた宮戸さんしか知り得ない部分についても触れてるんですよね。

宮戸　まぁ皆さん、Uインターの歴史は知っていても裏側はわからないでしょ。張本人のボクしか知らない事実や、当時、喋らなかったことを書きましたよ。

——それは非常に楽しみです（笑）。で、今日はですね、先日の5・2新日本プロレスの東京ドーム大会に宮戸さんが観に行かれたと聞いたので、感想を伺いに来ました！　いきなりですけど点数を付けるとしたら、ズバリ何点でしょうか？

宮戸　70点以上付くんじゃないですか。

——70点以上!!　宮戸さんが大絶賛していたU－STYLE旗揚げ戦に80点以上を付けたことを考えると、高評価ですね！

宮戸　しかもドーム興行で70点以上だからね。やっぱり東京ドームという会場はプロレスの興行に向いてないでしょ？

——ドームだと声援は抜けちゃうし、集中力も散漫になっちゃいますからね。

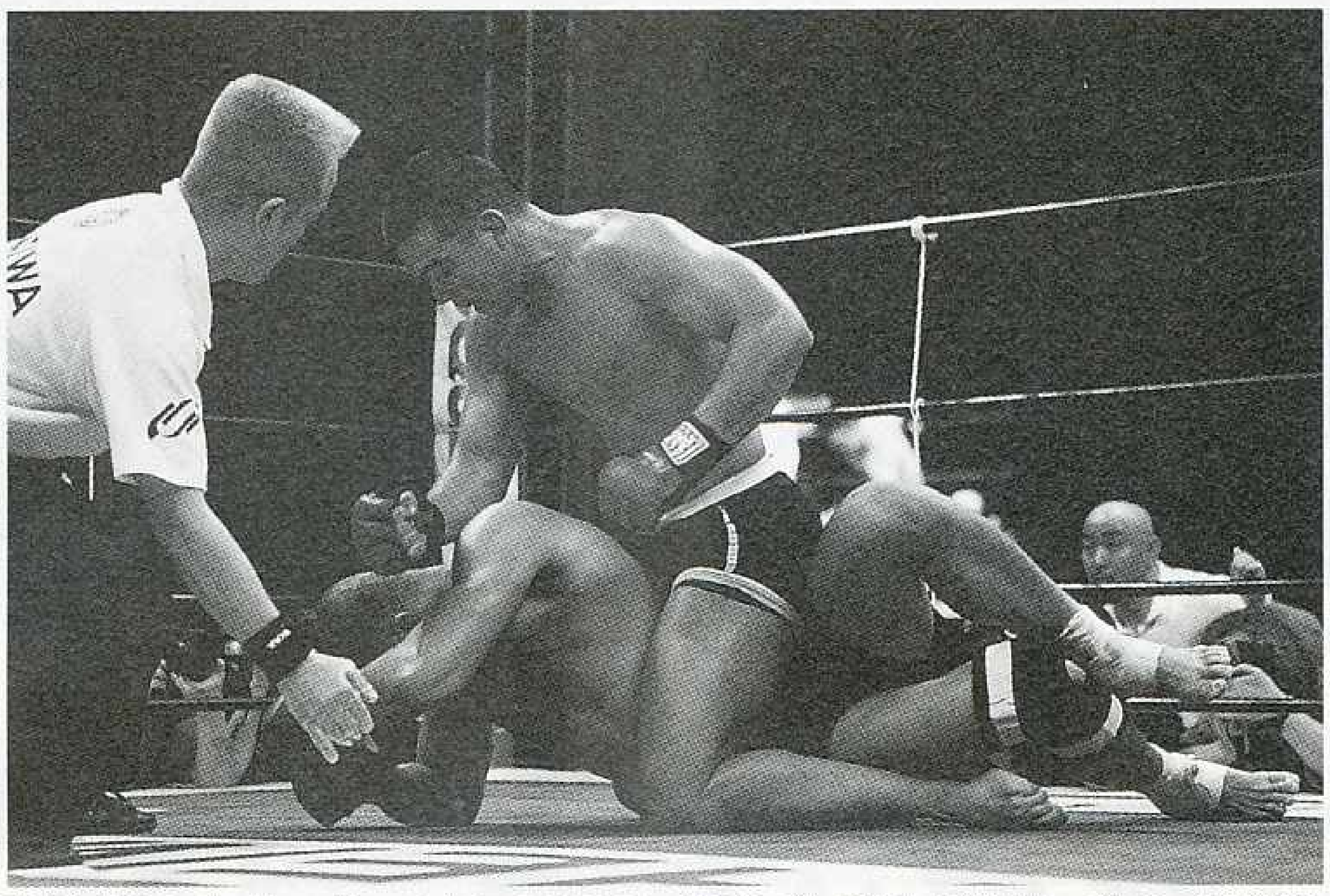
宮戸　そうそう。その中であれだけの興行になったんだから大したもんですよ。蝶野さんと小橋選手の試合なんて凄いに尽きるしね。

——凄いとしか表現できないですよ（笑）。

宮戸　その試合に比べると、メイン（高山vs永田）は残念ながらトーンダウンしちゃったね。永田選手、高山選手の実力なら数段上の試合になってもおかしくなかったし、もっともっとやれたと思うよ。まぁ、試合ばっかりは蓋を開けてみないとわからないところがあるし、それはバーリ・トゥード（以下VT）であろうと同じなんだけどね。

——そのVTが組み込まれた二部構成についてはどう思われましたか？

宮戸　まずね、ボクが今回のドームを観に行こうと思った理由は、新日本プロレスがいい形で動き始めた印象があったからなんだよ。『週プロ』でVTをやることについて読んだんだけど、「やっと新日本が気付いてくれたか」という感じがしたんだよね。ある種、Uインターはプロレスの本質というものを追っかけていたわけですけど、新日本も本質に立ち返られないといけないことに気付いて動き始めたと思ったんですよ。



新日本初のバーリ・トゥードマッチとなったRYOTOvs謙吾の一戦。膠着した内容とローボルテージな会場の雰囲気もあり、劇的な幕開けには至らず。実験的な要素を多く含んだ試みだけに、失点を今後にどう改善していくか新日本サイドの手腕が問われる。

——プロレスの本質に気付いた新日本に興味を感じたわけですか。

宮戸　新日本も人が抜けて体制が変わったらしいけど、きっとプロレスの本質を感じてる人が残ったと思うんですよ。そういう人が全面的に出てドームをやった感じを受けましたけどね。

——それが上井取締役になるんですね。

宮戸　誰がやったとかそんなことは知らないし興味もないけど、「二部構成」「二部構成」って言うけどね、VTはプロレスだったものだからね。そこをバカどもが勘違いしてるだけあってさ!!（怒）。ジャイアント馬場の「アッポー！」なんてのをプロレスだと思ってるわけでしょ、いまの人は。ルー・テーズは「馬場はプロレスラーじゃない」ってハッキリ言い切っていたからね！　プロレスは100年、200年、1000年も昔に遡れば、いまのVTですら反則になる技で勝負するものだったんだよ！

——ルーツを遡ればそういうものだった、と。

宮戸　でも、いまはそのころのプロレスを、あるいはVTそのものだったものを大衆の前や電波に乗せるわけにはいかないでしょ。

——ちょっとデンジャラス過ぎて、視覚に堪えられそうにないですね（笑）。

宮戸　だから、安全配慮の点からも、素手からグローブを付けるようになったり無制限一本勝負からラウンド制になったり、ある意味整理された近代VTルールを新日本が採用しただけであって、本来プロレスだったものをやるわけだから二部構成でもなんでもないですよ。そこを勘違いするなって言いたいよ!!（目をギラつかせながら）。

——宮戸さんのおっしゃることはよくわかるんですけど、プロレスとVTの違いについては専門誌でも触れられない部分も多いですし、いまのファンからすればどうしても分けたことに好奇の目がいっちゃうと思うんですよ。

宮戸　だからこそ、VTを導入する理念を客に説明してほしかったよ。ボクは常々言ってるんだけど、興行というのはレストランのコース料理に似ているんですよ。やっぱり前菜があってメインデッシュに繋がるわけで前菜だけ並べられても困るでしょ？

——前菜だけだと物足りないですね（笑）。

宮戸　素晴らしい食材を使ったメインデッシュだけ並べられても腹がふくれてギブアップになっちゃうわけだよ！　プロレスもコース料理と一緒で同じ試合をズラーッと並べられても困るんだよ!!……で、何の話だっけ？　興奮しちゃって忘れちゃったよ（笑）。

——え～と、VT導入する説明があるべきという話でしたね（笑）。

宮戸　だから、一流の料理店なら料理をサーブする人間が「これはどこどこ産の食材をどう調理云々」と説明するもんなんだよね。

——その説明が今回の新日本には欠けていたんですね。

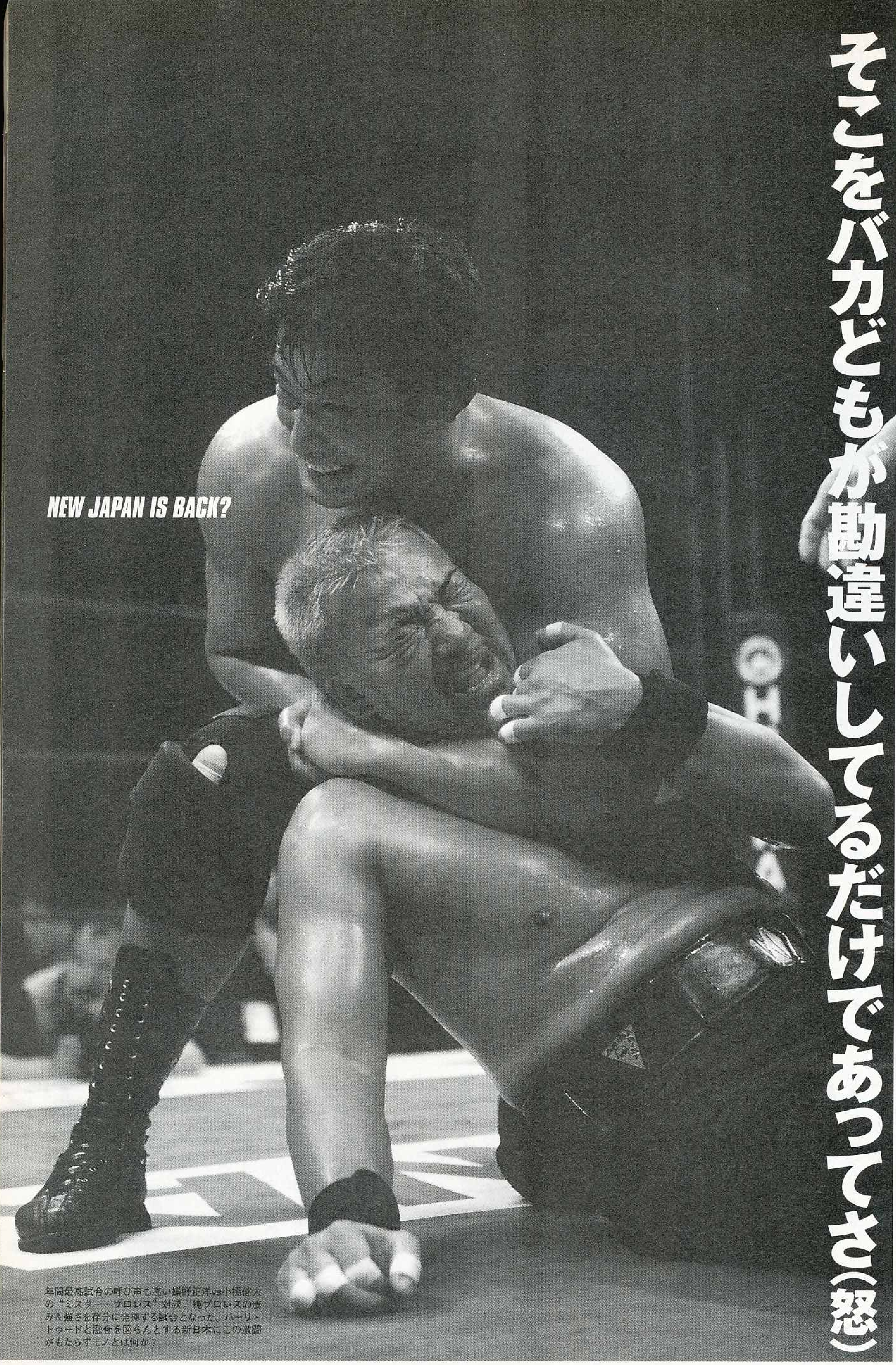
宮戸　その意図を伝えなかったら、せっかく拘ったコース料理なのに、その意味が曖昧になるじゃない！　たとえば中華なら中華の固定概念がある人にとっては、ちょっとでもフレンチ要素が捻ってあったりしたら「中華じゃねえじゃん！」って戸惑いが出るでしょ？　戸惑いのあるメニューの場合はなおさら説明してお皿に乗せてほしかったよね。

——でも、新日本はHPなどでは積極的にVT導入の意図を伝えようとはしていたんですよ。

宮戸　いや、レストランだってHPや雑誌

二部構成？ VTはプロレスだったものだからね。
そこをバカどもが勘違いしてるだけであってさ（怒）

NEW JAPAN IS BACK?



年間最高試合の呼び声も高い蝶野正洋vs小橋健太の"ミスター・プロレス"対決。純プロレスの凄み＆強さを存分に発揮する試合となった。バーリ・トゥードと融合を図らんとする新日本にこの激闘がもたらすモノとは何か？

“別物”みたいに言われるけど、新日本は抜けていったものを取り戻してるだけなんですよ

でメニューの紹介はしてますよ！　でも、それはあくまで読者やマニアが対象だし、実際に足を運んで食べに来るお客に説明しない道理はないじゃない。それをしない料理屋というのは二流ですよ（キッパリ）。

――二流ですか（笑）。

宮戸　新日本を二流と言ってるんじゃないですよ。新日本は一流のレストランなんだから、当然考えるべきことなんですよ。極端に言えば、振り向かない人には顔の目の前に突きつけても振り向かせなといけない。「わかる人にだけわかってくれればいい」というのは、ちょっと努力が足りないと思うよ。

――では、大会当日、VT導入の所信表明ぐらいはすべきだったんですね。

宮戸　もしボクが大会のプロデューサーだったらリング上から絶対に説明しましたよ。その挨拶を大会の裏メインにする手法を実行したと思うよ。

――何かしら挨拶があったら会場の緊張感も一味違ったでしょうね。あの日は驚くほど淡泊にVTが始まりましたし。

宮戸　説明は絶対にすべきだったよ！　どうしてやらないといけないかと言ったらさ、新日本はいままでVTに触れてこなかったわけでしょ。たしかに「なぜ触れないんだ」という突っ込みもあったと思うけど、かなりの新日本のファンは「いまのままでいい」としてきたわけじゃない。

――当日の会場の雰囲気からすると、VTを望んでいたファンは少なかったですからね。

宮戸　そのファンのためにもVTにあえて踏み出す以上、説明しないといけないよね。だってさ、メニューに違ったもの入れるのに、馴染みの客に一言も言わないのは失礼だよ！　そこで一言あれば、そういうファンの人にこそ一番伝わったはずですよ。

――一流レストランの流儀から考えるとそうですね（笑）。

宮戸　あと、VTをやり慣れてるレフェリーやジャッジを導入するのはいいけれど、わざわざリング上から紹介したりであるとか、リングを調整したりする必要があったのか思いましたけどね。



淡泊に開始されたバーリ・トゥードマッチだが、「いまからマットのスプリングを外します」など衝撃アナウンスもポロリ（当然、田中リングアナの発言）。試合を裁くレフェリー＆ジャッジ陣も改めて紹介された。ちなみに試合開始は「レディ、クラッシュ!!」。

――VT用のリングにするために、マットのスプリングを外したりしてましたね。

宮戸　そのままVTをやればいいわけであって、プロレスが甘いリングでやってるのかってなっちゃうし、おかしなことになりますよ、そんなの！　それと新日本プロレスでは大流血してもレフェリーはストップしないわけでしょ。ボクが違和感を感じたのは、あれだけ頑丈な体をしてる中西選手が鼻血が出たぐらいで医者が何度も出てきたことなんだよ。

――試合早々、藤田選手のフックで鼻血が出てドクターチェックが入りましたね。

宮戸　『PRIDE』で似たようなシーンがあっても素直に見れるんだけど、新日本で違和感があったということは新日本に求められてるレベルはある意味、それ以上ということなんだよ。

――競技の枠を超えた部分ですね。

宮戸　悪い言い方になっちゃうけど、たかが鼻血で中断してほしくなかったよ。他の試合はともかく、プロレスのリングでプロレスラー同士が闘ってるんだから、そこを考えてレフェリングしてほしかったよね。たしかに危険なルールでやってるのはわかるんだけど、ファンは超人だと思っている新日本のプロレスラーなんだから。

――競技を管轄する側からすると難しい部分ではありますね。

宮戸　まぁ、敢えて難の部分ついて言いましたけど、新日本がVTをやることはすごくいいことですよ。今後VTを含めて、強さを取り戻す作業を継続していくのであれば新日本の天下がまた来ますよ。いまVTをメインにやってる団体がいくつかあるけど、新日本が抜いちゃうね！（キッパリ）。

――追い抜きますか!!

宮戸　ボクはこれから新日本がやりたいことをわかってると思うから、あえて代わりに言いますけど、もともとプロレスにあったもの、強さやVTなんてのはプロレスが本来、持っていたものですよ。それをあたかも別物にみたいな言い方されてるけど、新日本にあったものがUWFとして外に出て、そしてUWFからまた一歩踏み出して、いまのパンクラチオン・スタイルに近いVTといった闘いに姿を変えたわけだからね。新日本は抜けていったものを取り戻してるだけなんですよ。

――近年のルーツを辿れば新日本に行き着くんですね。

宮戸　それで、いまのVTを支えてるファンというのは、もともとはプロレスが好きで愛していた人じゃない。プロレスに自分にできない最高レベルの技術と身体能力、そして最強のイメージを求めていたんだけど、新日本に見えなくなったからどんどん違うものに求めた始めたんですよ。

――新日本からＵＷＦ、総合に流れたプロレスファンは多いですよね。

宮戸　そのファンの思いに高田さんや桜庭が応えていたわけだけど、テーマがなくなってスタイルや競技だけが残ってもファンには厳しいでしょう。たしかにいまの総合はレベルが上がって強い選手がいっぱいいるけど、ファンが求めるテーマを持ったレスラーが不在になったら、流れ流れついたファンが思い入れを持てる対象にはならないからね。そこで新日本プロレスが失ったものや手放したものを取り返すというテーマを持って強さを証明すれば、ファンは付いていくでしょう。俺でも付いて行くかもしれないよ。

――あ、宮戸さんも（笑）。

宮戸　そりゃそうですよ。俺だってプロレス界の人間だし、新日本がプロレスの原点に気付いてくれたことは嬉しいことですよ。そして、もう1つ新日本の強みを言うと、重量級の選手をつくるノウハウを持ってるということですね。ここ数年の総合の歴史を振り返ってみればわかるけど、重量級で活躍した日本人はプロレスラーしかいないでしょ？

――たしかにそうですね。

宮戸　俺もジムをやってるからわかるけど、自宅からの通い方式で重量級なんてつくれないって！　プロレス団体じゃないと育成できないですよ。ガイジンはもともとデカイから問題ないけど、日本人の平均身長、平均体重を考えたら絶対に無理！

――まぁ、好きなときにジムに顔を出して練習するシステムからは生まれないでしょうね（笑）。

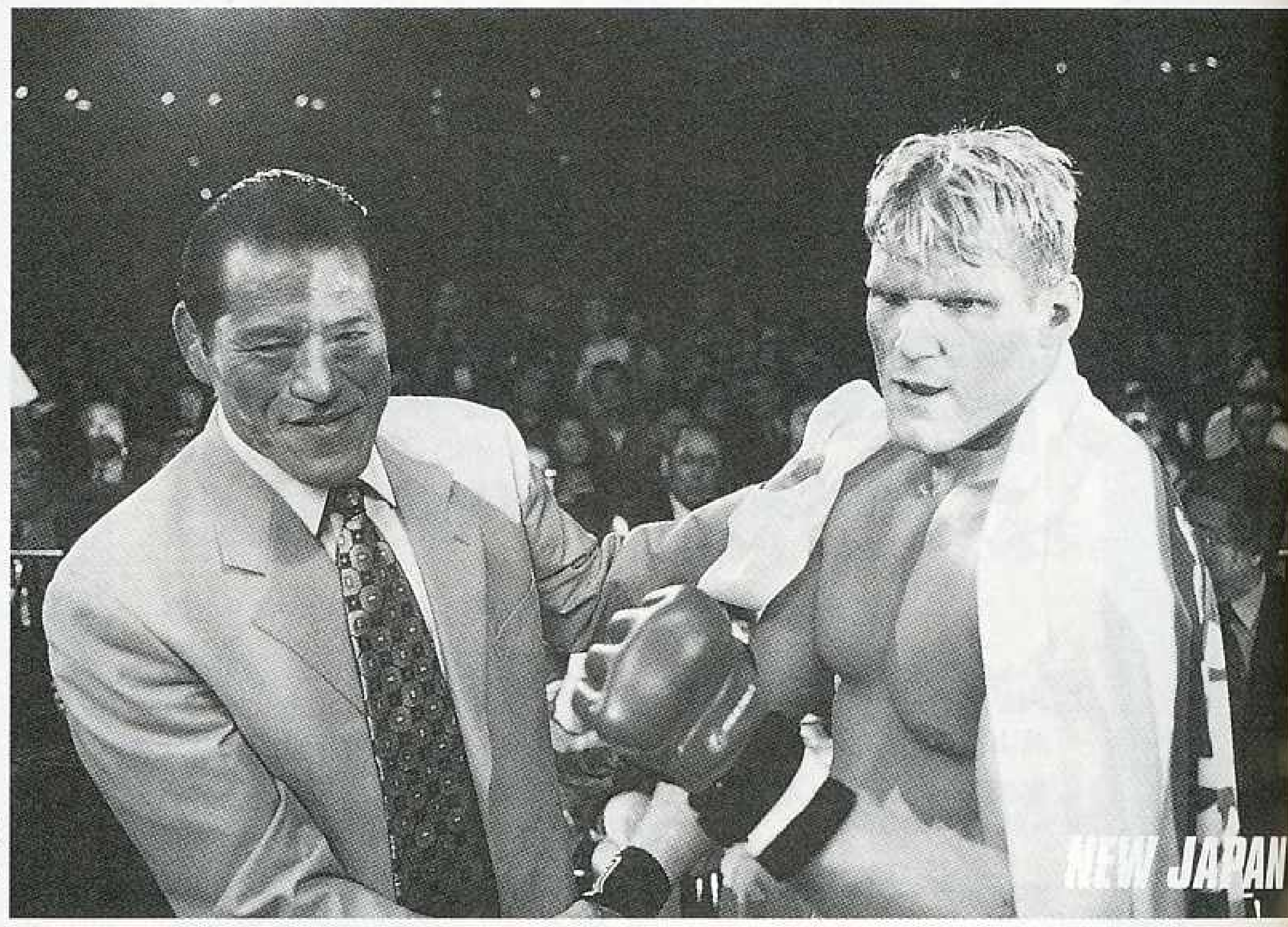
宮戸　やっぱり衣食住の食住がある、大勢の重量級の中でトレーニングをやらせないと日本人は無理ですよ。いまいろんな団体があるけども、それができるのはおそらく新日本だけじゃないですか。そのノウハウやキャリアを持ってる新日本がいざ本腰を入れたら強いよ。俄然、新日本が巻き返してくる匂いを感じますね。凄い感じるよ！

――新日本がＶＴに真剣に取り組めば、帝国復興の日も近いわけですか！

宮戸　でもね、ＶＴに取り組むのはいいことだけど、1つだけ勘違いしてもらっちゃ困ることがあるんだよ。

――それはなんでしょうか？

宮戸　レスラーがＶＴの練習をするのは素晴らしいと思いますよ。まぁ、本来はプロレスにあるべき練習なんだけどね。ただ、いまのＶＴのベーシックは柔術の技術が主流だけど、プロ・レスリングの技術がねえのに柔術を取り入れたら、それは違うよってことだよね。



「また新日本を見たくなった」と合格点を出したアントン総帥だが、「俺はプロレスと格闘技を分けたことはない」という主張を新日本はどう消化していくのか？　そして新日本の旗を振るのをジョシュでいいのか？　興味＆疑問は無尽だ！

――それはプロレスラーじゃない、と。

宮戸　だってそうでしょう？　柔術家だってキックやレスリングの技術を取り入れてるけど、柔術の基本がしっかりあるから柔術家なんであってさ。プロ・レスリングの基本ができてないのに柔術だキックだを習っても、プロ・レスリングの試合をやるときに本当の試合ができないじゃん。〝なんちゃってプロレスラー〟になるだけだよ！

――格闘家が『Ｗ―1』で中途半端にプロレスにトライするみたいなもんなんですね。

宮戸　いまは、そのプロ・レスリングの基本を教えることができる人は世界でほんの数人しかいないんだよ。ここ数十年、ショーアップされたプロレスの世界からは必要ないと切り捨てられていったり、すでに亡くなったりしてるんですよ。ウチのジム（『スネークピット・ジャパン』）の（ビル・）ロビンソンも教えることができる一人で、いまは首の手術で帰ってるけど近いうちに戻ってくるから、これは宣伝もなんでもないけど、お忍びでもいいからジムに入会して、ロビンソンにプロ・レスリングのベーシックを教わるレスラーがいたっていいと思うんだよ。

――プロレスは取り戻すものもあるけど、受け継がないといけないものもあるわけですね。

宮戸　プロレス界の一人一人がそれを忘れないでＶＴに取り組んでもらいたいね。ボクはその作業を『スネークピット』というスタンスでやってますけど、新日本がＶＴをやることと、ある意味、重なってるんですよ。

――プロレスの原点に触れることに変わりはないんですね。

宮戸　新日本にはそこを忘れずにぜひ取り組んでもらいたいし、そうなったときに新日本の天下が来るんじゃないですか？……今回は新日本を持ち上げる記事になっちゃったけど、素直に言ってますよ（笑）。

――宮戸さん、新日本のスポークスマンと化してましたね（笑）。

宮戸　ハハハ！　いや、ボクは新日本をヨイショしても何かあるわけじゃないし、別に応援する気もないからね（笑）。ただ、料理でいったら新日本プロレスという一流レストランの名に恥じないプロレスを取り戻してほしいだけですよ。

――わかりました！　宮戸さんにもＵインター本だけじゃなく、一流の調理本の出版を期待してます！（笑）。

［03年5月13日／高円寺『Ｕ.Ｗ.Ｆ.スネークピットジャパン』にて収録］

5・2ドームの勝利者は誰だ!?

白装束もビックリ!　ニビル星衝突クラスの大事件!!

バードとプロレス 前代未聞の二部構成をファンが裁いた!!

絶賛配信中の『紙プロHand』(iモードサイト) 5・2新日本プロレス・東京ドーム大会アンケート!!

絶賛配信中の『紙プロHand』で実施された新日本5・2ドームアンケート。一番厳しいファンの目からジャッジしました!!

【アンケート集計期間5月2日～12日／有効投票数2321人】

構成／ジャン斉藤　designed by matsu (Two three)

Q1 あなたは5・2東京ドームをどんな形で見ましたか? &満足or不満足、どっちでしたか?

●5時間興行となった 会場		●衝撃シーンがオマケで見れた(?) PPV		●新間氏リングジャックがカットされた 地上波	
満足	321票	満足	492票	満足	472票
不満足	108票	不満足	248票	不満足	400票

『PRIDE.26』アンケートと同じく地上波放送の「不満足」の割合が他項目と比べて高い。プロレス・格闘技の醍醐味を伝えるのは生観戦＆PPV中継に限られるのか？

Q2 プロレスとバード、敢えて選ぶとしたら、どちらが面白かったですか?

- ●プロレスでもバードでも面白いものは面白いし、つまらないものはつまらない……905票
- ●プロレス……760票
- ●バード……236票
- ●どちらもつまらなかった……116票
- ●どちらも面白かった……105票

バード敗れたり!?　それともあの内容で3位は健闘？　「プロレス」の支持票が「バード」に圧倒的な大差を付けたが、客観的に見定めるファンがそれを上回った。プロレス・バードそれぞれの面白さを体感できるイベントが求められているのだ

Q3 新日本は今後もバードを続けていくべきだと思いますか?

- ●継続してほしいが、中途半端にやるならやらないほうがいい……1005票
- ●本格的に継続的にやっていくべき……478票
- ●バードは、他の舞台でやるべき……356票
- ●あくまでプロレスを本道として、たまにやるならいい……184票
- ●練習ではバード対策をして、リング上はプロレスのみにする……142票
- ●2度とやるべきではないし、バードに関わるべきではない……60票
- ●ゆくゆくは全部バードに変えるべき……40票

プロレス熱がドームを支配していたが、意外や意外、バード続行派が大半の票を占めた!!　新日本のレスラー陣は、さっそくバードの練習をするように！（中西道場は不可）

Q4 今大会のベストバウトは?

- **小橋建太 vs 蝶野正洋……916票**
- 中邑真輔 vs ヤン・"ザ・ジャイアント"・ノルキヤ……324票
- エンセン井上 vs 村上和成……330票
- 藤田和之 vs 中西学……184票
- 高山善廣 vs 永田裕志……174票
- ジョシュ・バーネット vs ジミー・アンブリッツ……140票
- 髙阪剛 vs ドルゴルスレン・スミヤバザル……20票
- ケン・シャムロック vs 飯塚高史……16票
- 金本浩二&獣神サンダーライガー vs タイガー・マスク&ヒート……14票
- LYOTO vs 謙吾……12票
- 天山広吉 vs 棚橋弘至……5票



小橋vs蝶野がブッチギリの独走!!　2位には見事ノルキヤを粉砕した中邑に票が集まった。3位はバードを超える殺伐さで場内をヒートさせて、小橋vs蝶野に絶好のバトンタッチをした村上vsエンセン。大会全体から見た功績はデカイ。

Q5 今大会のワーストバウトは?

- **LYOTO vs 謙吾……628票**
- 高山善廣 vs 永田裕志……321票
- 髙阪剛 vs ドルゴルスレン・スミヤバザル……248票
- 藤田和之 vs 中西学……204票
- エンセン井上 vs 村上和成……176票
- 天山広吉 vs 棚橋弘至……144票
- 金本浩二&獣神サンダーライガー vs タイガー・マスク&ヒート……140票
- ケン・シャムロック vs 飯塚高史……116票
- 小橋建太 vs 蝶野正洋……85票
- 中邑真輔 vs ヤン・"ザ・ジャイアント"・ノルキヤ……26票
- ジョシュ・バーネット vs ジミー・アンブリッツ……20票



消化不良となった試合が上位ワーストに軒を連ねたが、呑気すぎるLYOTO、新間リングジャックでズレた軌道を修正した高山など、選手自体の印象は決して悪くはない。選手をどう活かしていくかがポイントになる

※バード＝井上用語でバーリ・トゥードの略。バード導入を予言的中させたⅠ編集長に敬意を表して、プロレス者は「バード」と徹底して呼んだり書いたりするように！　以上、編集部からの大切なお知らせでした。

7 今後の新日本プロレスに期待することは？ ＆意見・要望など

GOOD! GOOD! NEW JAPAN!!

○久しぶりに面白かった!! 新日本万歳!!

○蝶野はプロレス界のために良くやった!! 男だ！

○外様を含めて人材が豊富だし、新日本は大丈夫でしょう

○蝶野vs小橋級の試合が常に行われる
リングであってほしい

○プロレスの意地が見えたと思う。
バードが良い刺激になったのでは

○プロレスとバードの二本立ては面白い試みでした

○今後もキング・オブ・スポーツの思想に拘り続けてほしい

○ノアと新日本がバードに勝ったと思います

○今後もバードをやるなら応援させてよ!!

○新日本がバードに取り組めば最強団体になれるでしょうね

○中西は思ったより頑張った。もっと練習すれば勝てる！

○バードは1回目だし、WJ旗揚げよりは面白かったよ

○普段のシリーズとビッグマッチを
リンクしたらもっと盛り上がるはず

○新間さんがゲストの場内FMラジオの定期放送を続けて

高い「満足度」が示すように新生・新日本の危険な賭けはおおむねのファンから支持を得た。何かしら難癖を付けるアントン総帥も「また見たくなった」と言うぐらい（とはいっても『まぁ記者の皆さんと同じで言いたいことはいなねえです』と意味ありげな発言あり）、バード投入が良い刺激となった。次回のバードは9月か？　アマゾンはどうなんだ？

SHIT! SHIT! NEW JAPAN!!

●プロレスに自信がないなら「プロレス」という言葉を使うな!!

●バードのレベルが低過ぎる!! カードもヒドイ！

●所属選手だけでビックマッチを打てない時点で
すでに終わってる

●何がやりたいのかサッパリわからない。
『作り試合』の説明から求ム

●ケロ、お前が違う!!

●テレビで見たZERO-ONEの方が面白かった……

●朝青龍の兄貴や中邑、ジョシュ、高阪、藤波社長など、
本当に強い選手は『PRIDE』に出すべきです!!

●バードで勝負する前にプロレス界でトップに返り咲けよ！

●ハナから期待することはない

●ノア（小橋）が出たから面白かっただけでしょ？

●新間氏のマイクをカットした『テレ朝』は中西以上にバカ!!

●リング調整の時間がウザかった。進行をスムーズに
するためにスプリングはバード用のままでやってほしい

●いっつも怒ってるライガーに説得力はない

●ノア、みのるとの馴れ合い対抗戦はやめるべき。
強さを取り戻したいなら『PRIDE』とやれば？

「良かったけど……」と支持者からの苦言もかなり目立ち、イチイチ「もっともです!!」と頷きたくなる誹謗中傷……いや、愛のある提言が殺到！　他には「ジョシュに旗を振らして情けない」「ヒョードルが一番強かった！」という意見も。「PPVでは丸見えだった」と、カットしてほしいシーンがあったことも付け加えておこう。

6 今大会のMVPは誰ですか

●時代の徒花か？ それとも三銃士以来の超新星!?
中邑真輔……415票

●“鉄人”の豪腕がバードを破壊した!!
小橋建太……292票

●見せた！ 現場責任者の意地!!
蝶野正洋……268票

●「歴史を知らない者は黙っていろ」魔性のリングジャック!!
新間 寿……208票

●遂に頂点踏破！ IWGP王座強奪!!
高山善廣……136票

●世界一の馬鹿がバードに出陣！
中西 学……125票

●ドーム震撼！ バードの暗雲を吹き飛ばした大々流血！
村上和成……105票

●“猪鬼”降臨！ 愛弟子に鉄拳制裁ダーッ！
アントン総帥……74票

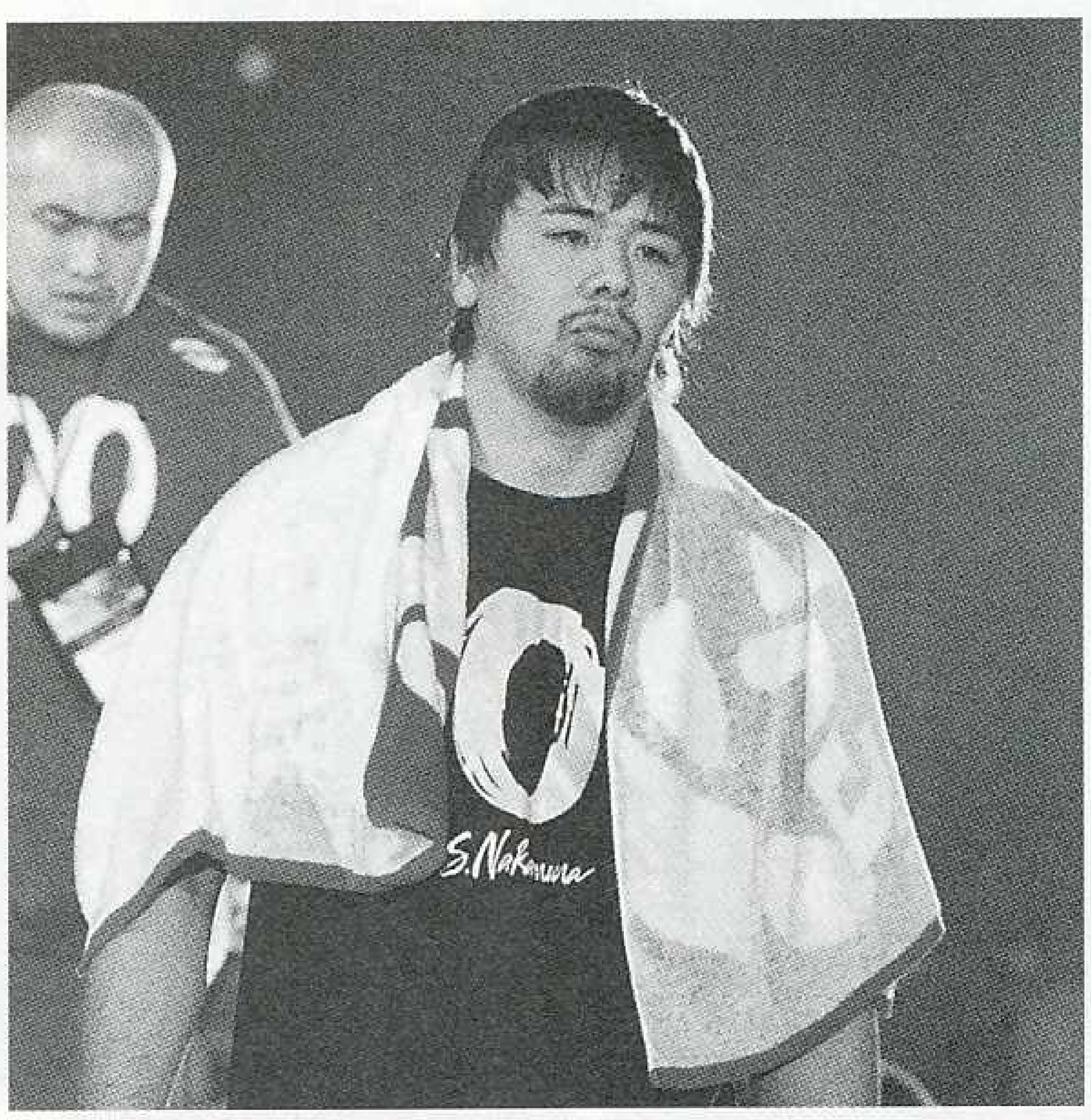
●レベルが違う！ 元UFC王者の貫禄ファイト！
ジョシュ・バーネット……52票

●MVP？ そんなのいないって!!
該当者なし……35票

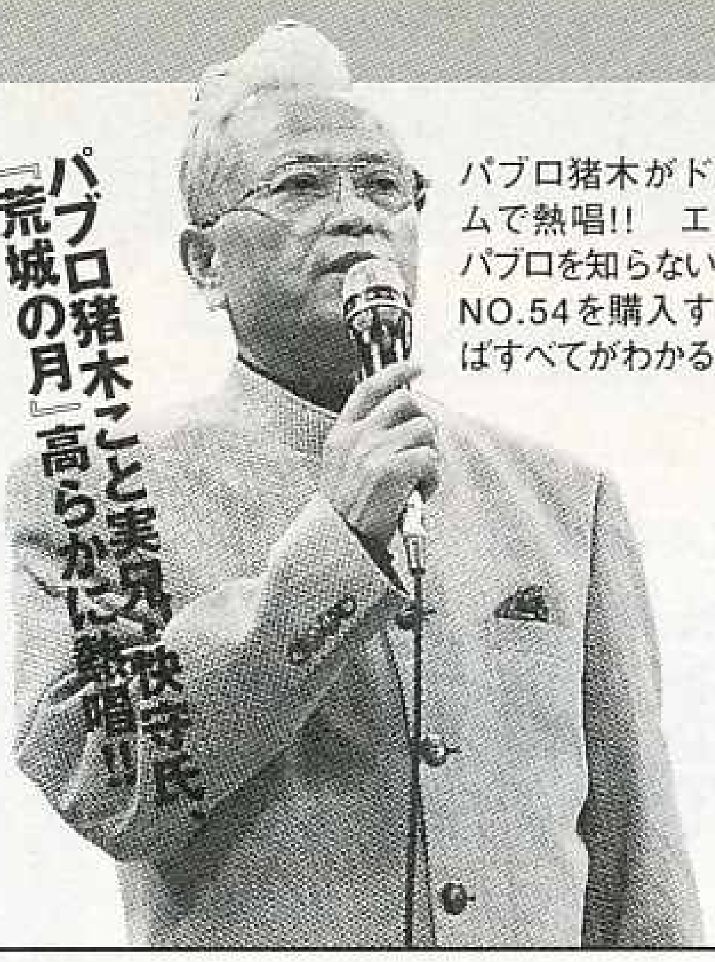
●バード導入の大英断!! リアル革命戦士
上井文彦……31票

●「違うのはお前だ」の声も殺到!! 本年度迷言大賞最右翼
田中リングアナ……24票

小橋と蝶野の票割れがあるにせよ、中邑真輔のMVPは快挙だ！　今後の期待込みの投票も相次ぐなど、デビュー9カ月でここまで存在感＆実力を示せる選手は久しぶり。突出すべきは、新間氏、アントン総帥、上井取締役、ケロなど、選手以外からの選出！　バードより手強い敵がウジャウジャいる新日本で、永田が光らないのは当然ちゃ当然だ



5・1東京ドーム 『猪木のファン感謝デー』



パブロ猪木こと実兄・快守氏、『荒城の月』高らかに熱唱!!

パブロ猪木がドームで熱唱!! エ？ パブロを知らない？ NO.54を購入すればすべてがわかる！



仰天!! 電撃ネットワーク『布団圧縮パック』にアントンが挑戦!!

サソリを口に入れたまま「1、2、3、ダァーッ」と敢行した電撃ネットワーク!! 元気があれば何でもやれる！



試合はせずとも藤波は死せず!! ドラゴン、パチスロで大暴走「やりかたがわからん」!!

はたして『ワープロ』5・1特集（5・25放映済み）でこのスロットシーンは放映されるのか？ あの笑顔をまた見たい！

これぞまさしく“猪木祭り”！ 他に比類なきイベント、爆発!!

構成／ジャン斉藤

5・2東京ドームで愛弟子LYOTOに鉄拳制裁を見舞う〝闘魂劇場〟を炸裂させたアントン総帥は、前日の5・1東京ドームでは〝他に比類なき〟仰天イベントを炸裂させていた!!

大会直前になって「永久電機」公開プランが浮上した、アントン総帥のファン感謝デー『ULTIMATE FESTIVAL』。マスコミで唯一「永久電機」を追い続ける本誌はエサに釣られて東京ドームへ足を運んだが、ガラガラの客入りに失禁強要寸前!! 数えられるんじゃないの、これ！

まぁ前夜祭だし客入りはどうでもいい。試合も何試合かあったがそれもどうでもいい（各自調査）。カッキーがアントン総帥の還暦を祝って卍固めで勝ったことも不快なアピールなんだが「永久電機」公開を祝って許す!! 後から聞いてビックリした1万1000人の「主催者発表」も、ガチンコを取り入れた団体のプライドが見えて最高だ！「それは違う！」とか言う奴、黙っていろ！（俺か。正直スマンね）。

「主催者発表」的には日本武道館クラスの客数で埋め尽くされた会場で、「すね相撲」の予選トーナメントが淡々と行われ、パチスロ『アントニオ猪木という名のパチスロ機』トーナメントも開催。そのスロットバトルには、バードを翌日に控えたジョシュが呑気に参加（しかも2回も）。そして、我らがドラゴン藤波社長も張り切って打ちまくった！

ドーム連日興行を開催した会社の社長たる者が、2日間を通しての出番がスロットを打つだけというのも仰天な話だが、藤波社長は我々の期待を決して裏切らなかった。なにしろ、リーチ目を出しながらもまったくボーナスを揃えられず「やりかたがわからん!!」と絶叫！ あげくには、タイムアウトとなり、ケロちゃんから「社長！お終いです」とアナウンスされるが、無視して打ち続ける藤波社長。そんなNONSTOPドラゴン振りも、やっとボーナスを揃えた嬉しさいっぱいの笑顔がビジョンにアップで映し出されたら、誰もが許してしまうんだよ！ケロちゃんが「社長、それは違う！」と絶叫しなかったのも頷ける、ステキな笑顔だったのです。

続いて行われた新日本OBバトルロイヤルでは、山本小鉄&星野総裁のヤマハ・ブラザーズが勝ち残り、小鉄が「オレたちは2人で1人!!」とスクワットをしながら主張するゴキゲンなパフォーマンスもあったが、やはり真打ちはアントン総帥だ！

仙人姿で登場したアントン総帥は、ガラガラの会場に機嫌を損ねたのか、新日本への恨み節をドームに響かせ、スネ相撲なのにジャスティン・マッコリーをアキレス腱固めで仕留める魔性の大暴走!! ゲスト登場した電撃ネットワークの仰天パフォーマンス「布団圧縮パック」に挑戦するなど、還暦を迎えた人間とは思えない暴れ振り！ おなじみ「闘魂ビンタ」も還暦にちなんで60人に喰らわせて、「殴り教でもつくるか！」とくるのだから、「殴り教」布教のために翌日LYOTOを鉄拳制裁するのもやむなし。そして、本誌ではすっかりおなじみの実兄・快守氏も姿を現し「荒城の月」を歌い上げるなど、ファンの理解をはるかに超えるイベント進行をみせるが、すべて〝猪木祭り〟として片付ければ問題はない。

数日後の成田会見でも「5・2は成功した」けど「俺がいたから」であり「俺が切符を売った」と存在感を見せつけ、最後は「アマゾン決戦」をブチ上げる！ とにかく、今回の日本滞在における〝アントン度〟は高かった。アントン総帥の万歳な5・1&2、ゴールデンウイークだったのだ！

えっ？ 永久電機？ 細けえことはどうでもいいというか！ ンムフフフ!!

ペールワンのおじさんは、『1万人しか入らない会場で試合ができるか!』と帰ったことがあったそうです。テメーら、いい加減にしろ!!



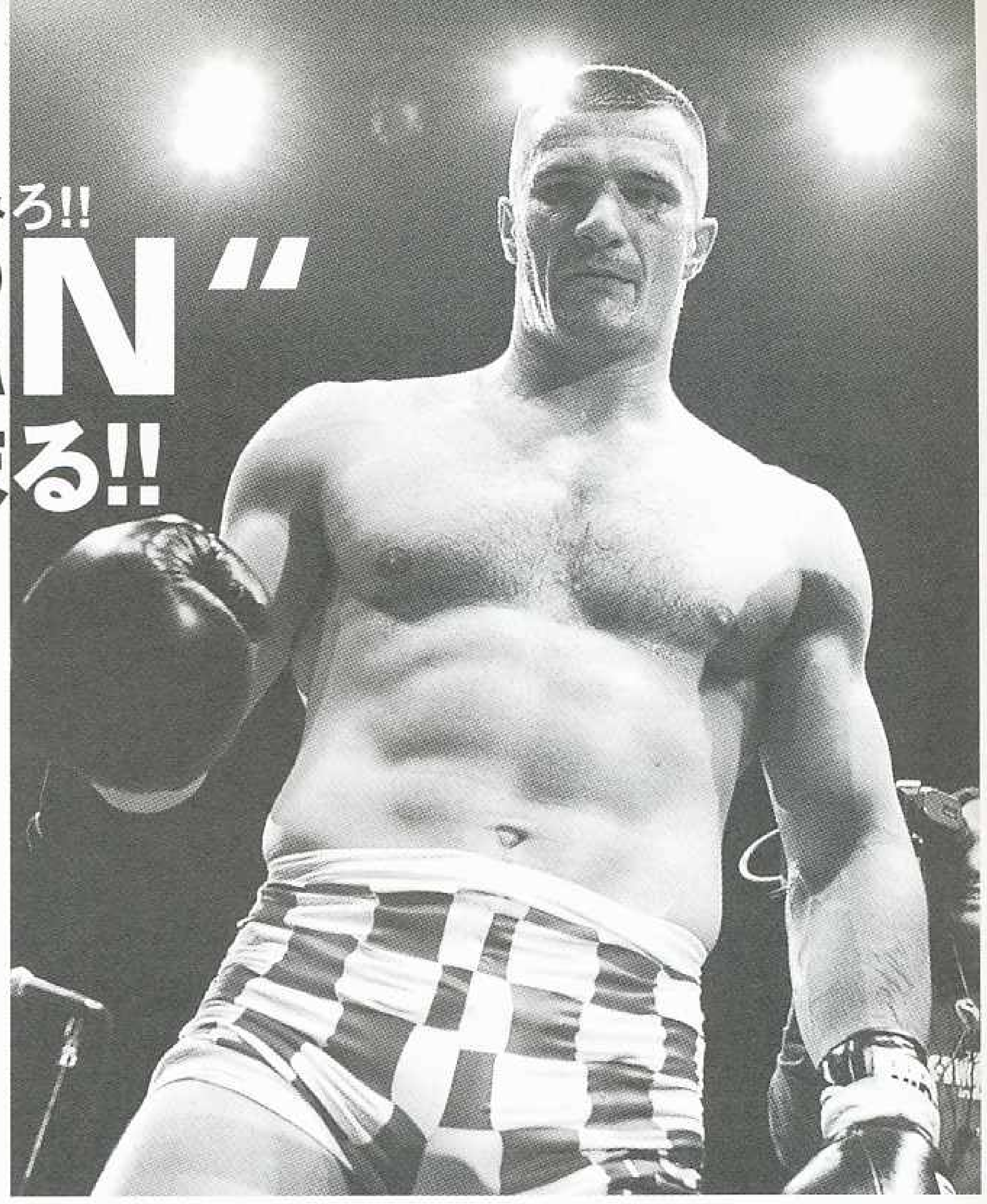
アントン総帥、ガラガラの会場に嫌みたっぷり!!

「この怒りが明日に繋がればいいです」と強引に話を繋げたアントン総帥。まぁ1万1千人らしいから、関係者はホッとしたことでしょう

CONTENTS

紙のプロレス RADICAL

2003 NO.62



ゴールデンウィーク決戦

「それは違う!!」ケロちゃんも絶叫!!
筋書きのない闘魂劇場、万歳!!

一番ガチンコだったのはこの3人!!
リアルな感情がエンターテインメントにバケた!!



俺の人生も筋書きなしですよおお!

山口日昇&吉田 豪が
毒舌トークで送る

月刊Y²談 VOL.05

構成/ジャン斎藤
designed by matsu(Two three)

新日本が各媒体に取材拒否を突きつけた事件が起こりましたね［吉田］

本誌鬼畜編集長・山口日昇と、本誌金髪鬼スーパーバイザー・吉田豪が、ここ1ヶ月のマット界を叩き斬る『Y2談』（わいわいだん）!!　今回は呼んでもいないのに、「Yの中のY」『ミスターXだったらしいけどY』『ヤングなY』ことターザン山本（自称・『SRS・DX』非在籍者）が突如乱入！　マット界を語るどころが、タップリと自画自賛しましたよぉぉぉ!!（前半はターザン抜きで今月の事件を振り返っているので御安心ください）。

山口　さあ、『Y2談』恒例の前フリだったターザンの『生ゴン』ネタは先月でようやく終止符を打ったから、今回は爽やかな気分で対談ができそうな気がするね、豪ちゃん（笑）。

吉田　残念でした！　実は、たったいまターザンから「いまからそっちに行きますよぉぉぉ！」ってテロ予告の電話があったんですよ（笑）。

山口　ゲッ!?　呼んでもいないのに何をしに来るんだよ、あのオヤジ！

吉田　いや、ターザンがまたプロレスの単行本を出すんですけど、そこに会長（山口日昇のアダ名）のインタビューページがあるらしいんですよ。もしかして話を聞いてないんですか？

山口　……そういえば、ターザンから何回も携帯に電話があったなあ。もちろん1回も出なかったけど（笑）。

吉田　そんな調子で全然電話が繋がらないから、いま会長が編集部にいるって耳にしたターザンが「その場でインタビューを取ってやる！」って息巻いてたんですよ（笑）。

山口　でも俺、インタビューを受ける時間なんか、今日は確実にないけどね（笑）。とりあえず、さっさと『Y2談』を終わらせて早く逃げようっと。

吉田　で、今月の話題はやっぱり5・2水道橋決戦に尽きますかね？

山口　いや、今月はパナウェーブ研究所に尽きるね。白装束にスカラー波ですよ（笑）。

吉田　ダハハハ！　まあ、確かに「私は言語障害なんです！」って言いながら流暢に喋りまくる千乃代表の独占インタビューは、ここ数ヶ月で一番面白い番組でしたけどね（笑）。

山口　あれはテレビに釘付けになるよな。だって、あの白い車の軍団が走ってるってだけで面白いのに、研究所にまつわるボキャブラリーもやたらといいでしょ。白装束、スカラー波、タマちゃんプロジェクト、ニビル星、おじさん、おばさん……いちいちいいよね（笑）。

吉田　「マルカ（過激派）の攻撃で強制失禁、失禁強要される」ってフレーズには、目からウロコが落ちましたね（笑）。「私はあと4〜5日で死ぬ」とか「今月末に天変地異が起きる」とか、予言がいちいちショートレンジでボロが出やすいのも最高ですよ！

山口　「タイヤ側のグリーンハウスから、30〜40」とか、いちいちすごい（笑）。ワイドショーネタでいうとサスケ社長も面白いよね、相変わらず（笑）。

吉田　今日もフジテレビの『特ダネ』でサスケ社長の覆面問題をやってたんですけど、みんなが肯定的な話をしてるのに小倉智昭だけが「ボクはね、国政の舞台でマスクを被るのはどうかと思う」とか一人で反対してるんですよね。それを言うなら、お前も被り物してるだろって話じゃないですか（笑）。

山口　ガハハハ！　無闇に敵をつくるの、やめろよ（笑）。サスケ社長は今朝、どこかの番組にも電話で生出演してたよ。テリー伊藤に「サスケさん、マスクのことはともかくAVにも出てましたよね？」って言われて、「いやいやいや、そういうことを言うとみんなが信用するから！　あれはボクじゃないですよ!!」って、さすがにタジタジだった（笑）。

吉田　こうして名前がいくら売れてもみちプロの観客動員的はプラスにならないで、その代わりAVにマルチ商法と過去ばかりどんどん暴かれちゃうから切ない話ですよね（笑）。

山口　でもサスケ社長には、出てくるイレギュラーをどんどん繋いでいってほしいね。がんばれ、サスケ社長っ!!　で、観客動員といえば、5・2ドームはここ何回かで比べたらけっこう入ってたね……って感じで本題に入っていい？

吉田　いや、まずは裏ネタってことで新日本が各媒体に取材拒否を突きつけた事件から語りましょうよ。

山口　ああ、新日本が『週プロ』、『ファイト』、『●スポ』に対して取材拒否も辞さない姿勢を打ち出したらしいね。結局は『ファイト』だけが取材拒否になったみたいだけど、それはどこまで喋っていいんだろうな。表に出てる話なの？

吉田　いや、『ファイト』は取材拒否を受けてることをようやく公表しましたけど、『週プロ』の件に関してはターザンが勝手にHPで書いてるんですよね（笑）。

山口　ガハハハ！　何でターザンが発表してるんだよ（笑）。でも、『週プロ』の件に関して言えば、俺は新日本に同情するねぇ。だって今年に入ってから『週プロ』は新日本関係を2回しか表紙にしてないらしいよ（笑）。

吉田　聞くところによると、60分ドローの大熱戦となった永田vs中西のIWGP戦を差し置いて、黄色いカサを持った川田を表紙にしたことも新日本の逆鱗に触れたらしいですね（笑）。

山口　つまり、黄色いカサに新日本は負けた……と捉えられてもおかしくない（笑）。佐藤大編集長の個人的な趣味趣向がどうであれ、『週プロ』の読者が求めてるのは新日本の情報や話題であるのは事実でしょう。その辺を含めて考えると、編集長としてどうかなって思うよね（笑）。

吉田　そもそも佐藤ちゃんは新日本担当だったわけだし（笑）。

山口　今回、新日本がバーリ・トゥード（以下VT）を始めたことにしても「新日本がVTをやるのはどういうことか？」ということを、長いスパンで伝えて、問題提起するのが一番大事じゃない。新日本が激怒した髙田の『週プロ』インタビューも、その大きな問題提起の中の一環としてあればまだ良かったけど、あまりにも唐突過ぎたからね。雑誌としての戦略をまったく立ててないよね、佐藤大編集長は（笑）。

吉田　でも、髙田が「（永田が）恥ずかしげもなくチャンプだ、王手だといってる様が滑稽で見てられない」「VTをやるなら新

日本のトップ級を揃えろ」と正論で吠えまくった、あのインタビューは最高でしたよ！

山口 うん、面白かった。でも、〝点〟なんだよね。哀しいかな、〝線〟にはなってない。まぁ、結局「佐藤編集長だけ出入り禁止」みたいな話になって、取材拒否まで至らずに済んだみたいだけどね。

吉田 でも、基本的には新日本サイドが「佐藤編集長は人間として嫌い」って息巻いてるみたいだから、まったく事態は解決してないんじゃないですか？ 実際、佐藤ちゃんは5・2新日本ドームの増刊号にまったく触ってないし、「表紙は語る！」のコーナーでも「読者の注目をドームに向けさせた自負はある。団体サイドにとって都合のよい記事だけが、宣伝効果につながるとは思わない」とか書いてるしで。

山口 自負？ 宣伝効果？……相変わらず貧困だねぇ、ボキャブラリーが。みんな、佐藤大編集長の表現力のなさに腹を立てる気がするなぁ（笑）。千乃代表を見習え！……まったく『週プロ』をあんまり読んでないからわからないんだけどさ（笑）。

吉田 ああ、単価1千万円のブッカー業が忙しいわけですね（笑）。

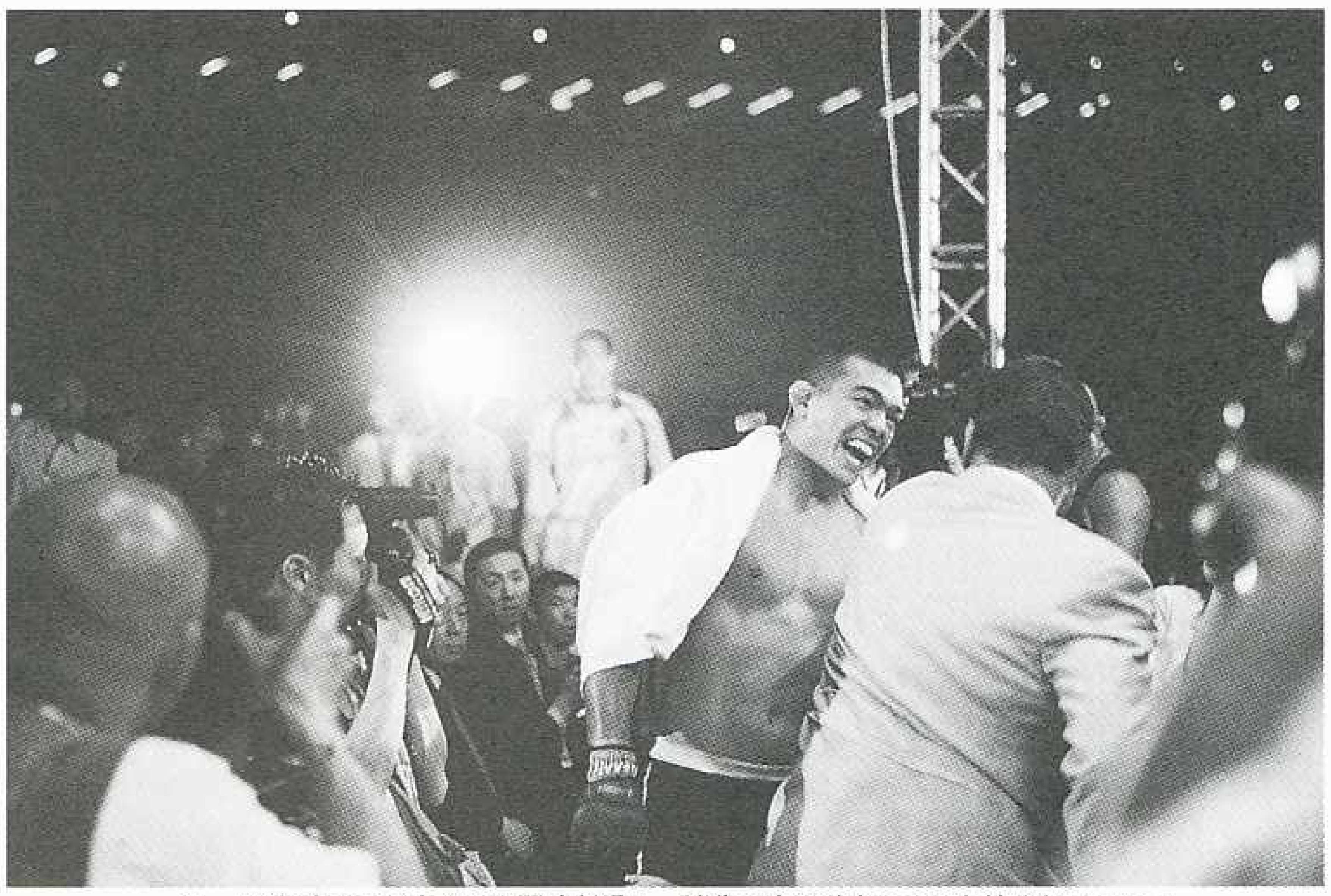
山口 また誤解を受けるようなこと言うんじゃないよ！

吉田 いや、この誤解はしばらく解けそうにないですよ。ちゃんと事情を話してるのに、『ゴン格』の舟木さんに今日も言われちゃいましたからね。「山口さん、だいぶ儲けてるらしいねえ」「前田日明、怒ってるらしいよ」って（笑）。

山口 もうなんでもいいよ、ホント（笑）。そういうわけで5・2だけど、豪ちゃんは新日本とZERO―ONE、どっちに行ったの？

吉田 新日本のVT部門が終わったらZERO―ONEに流れるという理想的なコースを辿りましたね。新日本を最後まで見ていたターザンは、「その手があったかぁぁぁっ！」と悔しがってましたけど（笑）。

山口 俺も豪ちゃんと同じコースだったけど、ドームに関しては猪木さんのLYOTO鉄拳制裁に尽きるなぁ。



ドームの観衆をア然とさせた闘魂劇場！ 消化不良の試合にオチを付けたアントン総帥は見事だが、師の意に反して殴られても笑顔のLYOTOもステキだって！ いろんな意味でタダ者ではない。ダーッ（LYOTO張りに呑気に）。

吉田 ビンタ2発で終わらずグーパンチまで入れた、恐怖の3連コンボですね（笑）。それと新間さんのリングジャックも最高でしたよ！ プロレスのリング上でガチンコが行われることを銘打った画期的な興行だったはずなのに、あの2人が一番ガチンコだったっていう（笑）。

山口 ガチンコやり終わった選手に鉄拳振るう場面なんか、『PRIDE』じゃあり得ないよ（笑）。

吉田 試合後に百瀬さんが抱き締めるぐらいですからね（笑）。結果的にLYOTOが謙吾を極めきれなくてダレダレになった試合にアドリブでオチを付ける、あのセンスは最高ですよ！ 会長的にはあの鉄拳制裁は、怒りとパフォーマンスのどっちだと思いました？

山口 ズバリ言って両方！ 怒りとパフォーマンスが一心同体になってる。真剣と演劇が一心同体だよね。それがエンターティナーだと思い知らされたよ。

吉田 実際、「俺があれだけ『LYOTOは強い！』って宣伝してきたのに、このザマか！」って感じで試合中からかなり怒ってたらしいですからね。ちなみに、ターザンは『SRS・DX』のブロードバンドで「猪木さんは弟子が勝ったことの喜びを鉄拳制裁のパフォーマンスで見せたんだね」って、理解不能なことを言ってましたけど（笑）。

山口 ……あのオヤジ、スカラー波で頭をやられてるんじゃないか？

吉田 ダハハハ！ もしかしたらオムツを履いて強制失禁してるかもしれないですね（笑）。

山口 あの鉄拳制裁はよく見ると急所を外してるんだけど、その見せ方も素晴らしいし、伝え方もいいし、プロレスだとかガチンコだとかの領域を完全に超えてる。猪木さんは常々「客との闘い」を口にしてるじゃない。そして、新日本のガチンコとプロレスの二部構成という打ち出しに憤りを感じていたわけだからさ。

吉田 プロレスとガチンコに境目なんてない、と。

山口 その答えがLYOTOへの鉄拳制裁でしょう。

吉田 あと、やっぱり猪木二世だから力道山流で育てようとしたんじゃないですか？ ブラジルの移民のガキにはここまでやっていいって（笑）。

山口 じゃあ、いまに靴ベラでLYOTOを殴るかもね（笑）。

吉田 LYOTOがアマゾンの民族衣装で入場したのも、力道山出演のTVドラマ『チャンピオン太』で猪木さんが扮した死神酋長が元ネタのはずだと思うんですよ（笑）。

山口 ガハハハ！ そこまで猪木二世なわけね（笑）。

吉田 ただ、人前で殴られたり変な格好をさせられたりの悔しさから闘魂を燃え上がらせた猪木さんとは違って、LYOTOはとことん呑気じゃないですか。猪木さんに鉄拳制裁されても「嬉しい！」って喜んじゃって、笑顔でお客さんにハイタッチしながら退場するし（笑）。

山口 その呑気さが、逆にバケる可能性大いにアリ……と思いたいけどなぁ（笑）。

吉田 あとは、猪木さんがどこまで崖から突き落とせるかですよ！

山口 だけど、いまの選手からしてみれば、「猪木さんはVTをやったことない癖に」という批判も出てきがちじゃない。猪木さんはガチンコという概念は誰よりも体現してきたけど、純然たるVTはやったことないからさ。

吉田 まあ、もともと猪木さんは競技なんかやる気はないはずですからね。

山口 その猪木さんがVTをあれこれ言うのはおかしいという意見もあるけど、猪木さんが言いたいのはそういうことじゃないんだよ。当日のマイクで「もっとも厳しい観客の目で見させていただきます」って言ってたけど、ガチンコであれプロレスであれ、「厳しい観客の目にさらされることと

猪木さん、新間さん、破壊王の人格は、シュートや演劇を超えている［山口］

は何か?」ってことを言いたいんだと思うんよね。

吉田　ただ、なんで観客が選手を殴ってるんだって話なんですけど（笑）。

山口　ガハハハ！　だからこそ、もっとも厳しい観客なんだよ（笑）。観客はそういう思いで見てる。身銭を切って見てるってことを言いたいわけだよ、きっと。

吉田　ホントなら、ゲスト解説を務めた鈴木みのるも謙吾を殴るべきだったんですけどね。

山口　その厳しさはVTを競技として捉えたら出ないもんな。

吉田　まだ現役だし、下手に殴ったら「お前が仇を取れ！」ってことになっちゃうから、しょうがないんだろうなあ……。

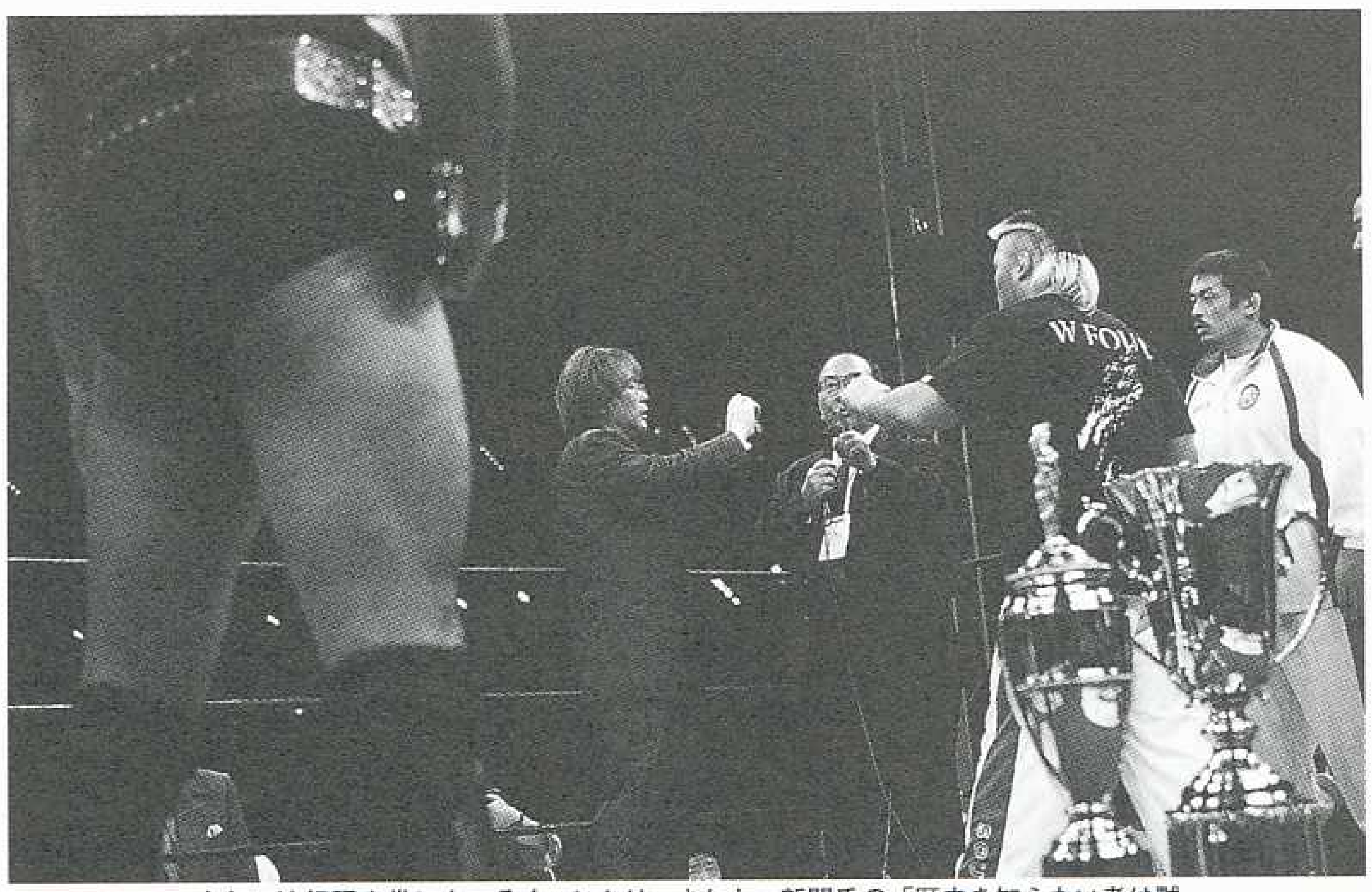
山口　そこでだよ、豪ちゃん！　その猪木さんの闘魂を伝承してるのが破壊王なんだよ！

吉田　……また『Y2談』恒例のZERO—ONE絶賛ですか？　もうちょっと新日本を熱く語りましょうよ！

山口　いや、5・5川崎球場の破壊王は新日本を語る上でもポイントになるよ。俺はその日は『DEEP』に行ってたから、どこまで臨場感が伝わるかわからないけど、破壊王が金村キンタロー戦前に冬木弘道の遺骨を持って電流に飛び込んだでしょ。

吉田　電流爆破マッチに上半身裸で挑むっていうのが、いきなり男気ありすぎですよね。同じ三銃士の武藤や蝶野も電流爆破を体験してますけど、みんなプロテクターやシャツを着てたわけだし。

山口　で、破壊王的には遺骨を持って電流に飛び込んだことで、本来闘うはずだった冬木弘道との試合を見事に昇華させたわけだよね。それは猪木さんの鉄拳制裁と同じで、本気かパフォーマンスかのチンケな二元論で語る次元のものじゃないでしょ。



今年の流行語大賞にさっそくエントリーされた、新間氏の「歴史を知らない者は黙っていろ！」と、ケロの「それは、違うッ！」。このシーンをカットした『テレ朝』にはちょっぴり失望！　長州離脱会見を放映する度量があるのに、♪なんでだろう〜

吉田　生の感情をプロレスとして表現しているわけですよね。あの2人に共通してるのは一見馬鹿馬鹿しいことやってるんだけど、それがエンターテインメントになってるんですよ。

山口　ギリギリのエンターテインメントね。こんなことできるプロレスラーがどこにいる?って話だよな。ギリギリのエンターテインメント＝闘魂だと仮定すれば、猪木さんの闘魂を伝承してるのは破壊王しかいないね。

吉田　小川（直也）にそのセンスがあれば完璧なんですけどねえ……。

山口　オーちゃんはキャリアをスタートさせた時代的に仕方ないけど、まだプロレスとシュートというのを、どこかで分けてるからさ。つまり、相手との勝負と、観客との勝負をスイッチングしないと見せられない。一心同体までは行ってないもんね。猪木さんが伝えたいのは、相手との勝負と客との勝負を同時にこなせてこそ超一流、ゼニを取れるってことでしょ。川崎球場なんて破壊王が爆破された瞬間、スタンディング・オベーションに包まれたらしいじゃない。

吉田　ファンや関係者も思わず涙が出たみたいですよね。ボクもその話を聞いたときは爆笑しましたけど、それと同時に「凄ェ！」としか思えなかったですよ！

山口　俺もそれを聞いたとき、『DEEP』に行ったことを後悔したね、ホント（笑）。

吉田　あまり評判良くなかったですからね、今回の『DEEP』は（笑）。

山口　いや、『DEEP』も面白かったよ。でも、当たり前だけど、猪木さんや破壊王みたいに「客との勝負」をわかってる選手が『DEEP』にはいない。ドスJrや（ブラソ・デ・）プラタは彼らなりの周波数でわかってるんだけどね。メヒコ勢には地球規模の田舎者というか、都会のセオリーに染まらない田舎者としての魅力は十分に見せてもらったから、いいんだけどさ。

吉田　マスカラス・ファンクラブの元会長としては、たまらないものがあったわけですね（笑）。

山口　ドスJrなんてロープを持ったまま踏みつけてるじね（笑）。たしかに競技としてはロープを持つことは許されないことだけど、メヒコ勢の勝負に対するモチベーションはお客さんにとってかけがえのないものだから、それにクレーム付けたところでしょうがない。むしろそれに怒るTKの競技的な部分での抗議よりも、その怒りをリング上でどうTKが表現するかのほうが、ファンにとって見たい部分だったりする矛盾もある。観客を入れるというか、プロという場はそういう矛盾を飲み込まなきゃならない場だからね。

吉田　競技云々を口にするんだったらそもそもルチャ軍団なんか呼ばなきゃいいし、試合なんか受けるなって話ですよね。TKがルチャ軍団に本気で怒ってたのは、それはそれでアリなんですけど（笑）。

山口　珍しく感情を露わにしてたんもんな（笑）。

吉田　TKはドームで（ドルゴルスレン・）スミヤバザルのアクシデントであっけなく試合終了しちゃったわけですけど、会長的には新日本のVTはどうだったんですか？

山口　ヒョードルが言うように「大変クオリティが低い」の一言だね（笑）。ただ、組み合わせや内容はともかく、選手は全員良かったと思うんだよ。可能性は見れた。

吉田　謙吾以外は、ですよね（笑）。あそこまでスムーズにテイクダウン取られ、ポジションを奪われまくる選手もいないですよ。

山口　……謙吾には早く化けてほしいなぁ（笑）。

吉田　それにはプロレスに転身するしかないでしょうね。今回は中邑の一人勝ちじゃないですか。結局、試合前に「ノルキヤに負けたら指を詰める」と言ってたらしいですけど、詰めずに済んだわけだし（笑）。

山口　あと中西も良かったよね。生の感情が出てたもん。

吉田　ジャブ一発で鼻血がドボドボ出たりで、あんなに荒削りな技術のままVTに出る選手もいないですよね（笑）。

山口　ロープに掴まれたまま殴られるのを見たのは久しぶりだよな（笑）。ただ、中西の場合はVTのセオリーを覚えたときにどう変わるかだよ。セオリーを覚えるとつまらない選手になる場合が多いからさ。そもそも次があるのか？って話だけどね（笑）。

吉田　だけど「柴田（勝久・元レフェリー）さんが道場をやってるんだから、俺も中西道場を作る！」って言ってたから、何かスイッチは入ったんだと思いますよ。中西道場は興味深いよなあ（笑）。

山口　だから、新日本が遅ればせながらVTをやった意味は大いにあると思うんだよ。猪木さんが「また新日本が見たくなった」と言ったように、注目を集めたのは事実だから。クオリティでは『PRIDE』にまったく劣るけど、組み合わせ次第では、こういうド素人たちの闘いのほうがVTという競技の凄みは出る場合があるから。

吉田　まあ、VT自体は全試合消化不良気味だったから、ドームは小橋vs蝶野でようやくペイできたっていう声が多いですよね。

山口　あの試合は、さすがミスター・プロレス同士の試合だよね。去年の三沢vs蝶野は全然緊張感はなかったんだけど、今回は全日本系の最高峰の闘いが見えたよ。

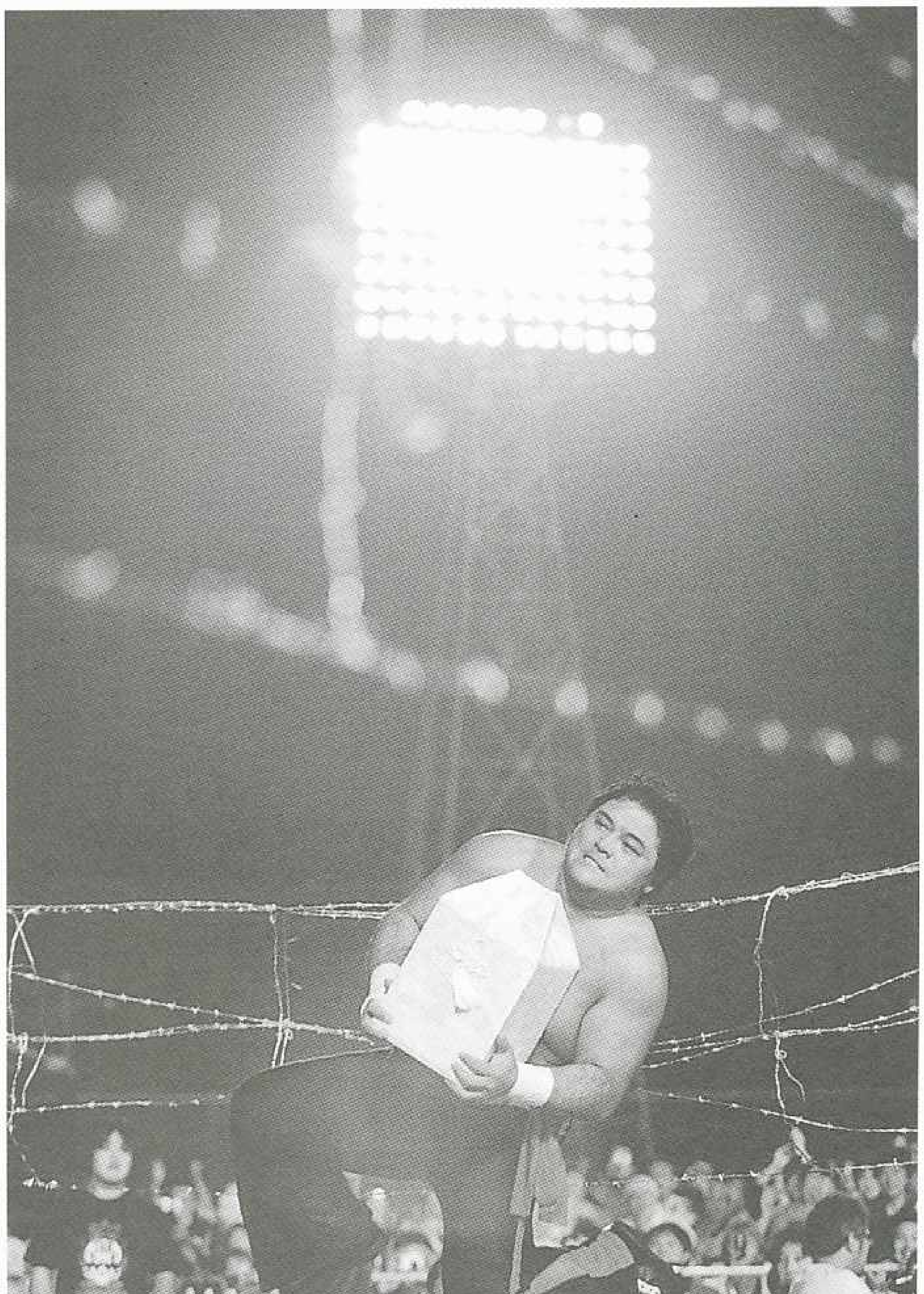
吉田　ただ、蝶野が小橋に合わせすぎていたからボクはイマイチ乗れなかったんですけど、小橋はやっぱりいいですよね。馬場さん独特の感情表現を受け継いだのは小橋だと思うんですけど、表情が小林まこと級になってるというか（笑）。『週プロ』増刊の速報号の表紙なんか、もはや完全に『柔道部物語』ですよ！

山口　ああ、わかる（笑）。猪木さんの「馬鹿になれ」じゃないけど、小橋は完全に「プロレス馬鹿」だもんね。

吉田　ボクはプロレス部門では、エンセンvs村上が一番面白かったですね。村上が血まみれで白目剥いてる姿を見て、プロレスの表現力では小川を完全に越えたと思いましたよ。

山口　村上はVシネマの世界に突入したね（笑）。面白いんだけど、あれが一番面白いというレベルをヨシとはしたくないんだ、俺は（笑）。それに、たとえVシネチックなことをやらせても破壊王の深さにはかなわないよ！

吉田　また破壊王ですか（笑）。結局、いまの新日本だとシュートな感情表現のできる選手がいないからこそ猪木さんや新間寿が際立ち、そしてワークな感情表現ができる人がいないからこそ小橋や村上が際立ったってことだと思いますよ。



破壊王の男気が大爆発した5・5川崎球場!!　冬木さんの遺骨を持って自ら電流爆破ロープに突入……プロレス史上に残るワンシーンとなった！　プロレスの可能性を大いに感じた瞬間である。立ち上がれ、プロレス！

山口　小橋と蝶野の試合は力比べひとつでも見せるという、純プロレスのセオリーに立ち戻った凄みがあったし、あの小橋の攻撃を受け切った蝶野の意地も見れた。でも、それはVTという異物が対極にあったから見えたんでしょ。純プロレスだけだと、あの場では辛かったかもしれないね。

吉田　あと、今回のドームだと新日本のレスラーは誰一人光ってない気がするんですよ。VT以降の試合で光った小橋、高山、村上にしても全員外様だし、中邑はVT専門レスラーみたいなものだし、そもそも小橋の試合なんてレフェリーもノアから派遣されてるノア提供マッチなわけじゃないですか。「プロレスがVTに勝った」とか一部で言われてますけど、新日本は負けたはずなんですよね。

山口　蝶野にしても全日本系の色に染まったというか、もともと考えが全日本系の選手だしね。新日本系のプロレスの意地は見えなかったよな。まぁ、プロレスとVTのどっちの勝ちかと言うよりも、5・2はZERO－ONEに軍配が上がったと思うよ、贔屓目なしに見ても。プロレスの純度でいえば小橋vs蝶野は完成されてるし、高山vs永田も東京ドーム以外ならもっと届いたとは思うよ。ただ、それを演出する団体側のモチベーション、見る側の熱はZERO－ONEのほうが圧倒的に上だったね。試合を成り立たせる〝場〟として上というか。

吉田　ラスト3試合しか見てないですけど、ZERO－ONEは会場の出来上がり方とかも含めて完璧でしたね。超満員だから温度と湿度がいつもより高くて、文字通り観客の熱も嫌というほど感じられたし。大槻ケンヂが「ZERO－ONEにはモテないオーラが渦巻いてる」って言った気持ちがよくわかりましたよ（笑）。

山口　観客が多すぎてどのポジションに行っても全然、見えなかったからね。もちろん東京ドームと後楽園ホールの会場規模の差もあるけど、東京ドームはプロレス興行に向いてないでしょ。雰囲気は散漫になるし、声援は抜けるし、見るほうの集中力は欠けるしさ。そんなドームの空間と比べ

5・2ドーム？ そんなのより、俺が誕生会で美女に囲まれてる写真を見てくれ！ ［ターザン］

たら、後楽園の熱気といったらなかったね（笑）。地上放映もすることだし、ここからがZERO―ONEにとってのホントの勝負どころだろうけど。

【ここで、予告通りターザンが乱入！】

ターザン （突如、編集部に入ってくるなり大声で）おい、山口ぃぃぃっ!! 山口は、どこだぁぁぁ!?

山口 ウワッ!? な、何のアトラクション？（笑）。

ターザン お、いたいた！ やっと、捕まえたよぉ！（椅子にドカッと腰を下ろして）いやぁ、まいった！ まいったよぉ！

山口 何が「まいった」んですか、山本さん（笑）。

ターザン だってさぁ、タクシーの運ちゃんに「ダブルクロスに行ってくれ！」って頼んでも「住所を教えてくれないとわからない！」って言われちゃってさぁ。ホントにまいったよぉ！

吉田 ダハハハ！ それだけで運ちゃんがわかるわけないじゃないですか（笑）。

ターザン そんなことより、おまえら何をやってるんだ？

吉田 いま5・2の話をしてたんですよ。

ターザン 5・2ぃ？ 話したってしょうがないよ、あんなもん！（吐き捨てるように）。

山口 あ、「あんなもん」でしたか（笑）。

吉田 山本さんは最近、ホントにプロレスへの興味がないんですよね。

ターザン ないよ、俺！（キッパリ）。

吉田 また、あっさり認めるなぁ（笑）。そんな山本さんも、5・2のドームは最後まで見てたわけですよね？

ターザン いや、すぐ帰ろうと思って退場口のドアにへばり付いて見てたんだよね。

山口 どんなマスコミですか（笑）。

ターザン それでぇ、高山が永田をジャーマンで投げた瞬間、すぐ帰りましたよォォ！

吉田 えっ？ じゃあ、新間さんのリングジャックは見てないんですか？

ターザン ……ん？ 何かあったの？（かわいらしく）。

山口 ガハハハ！ 山本さん、最高です（笑）。

ターザン 新間さんが何かやったん？

吉田 ホントに知らないんですね（笑）。簡単に説明すると、まず新間さんはゲスト解説していた場内FMラジオで延々と新日本の悪口を言い続けてたんですよ（笑）。それで燃え上がったのか、メイン終了後のIWGPベルト贈呈式で「これでNWFが上であることが証明された。だからIWGPを封印しろ!!」って、いきなりマイクアピールしちゃったんですよ！

ターザン それ、上井さんとできてた話だろぉ？

山口 また、夢のない言い方をするなぁ（笑）。新間さんがNWF防衛戦に刺客を送り込む話はあったみたいですけど、IWGP封印話は新間さんのアドリブですよ。

ターザン ……それは、プロレスにあるまじき行為だなぁ。

吉田 だからアルティメット・クラッシュなんですよ（笑）。

山口 人格が、シュートをも演劇をも超えてるんですよ。猪木さんや新間さんは。あと川崎球場の破壊王もそうだけどね。

ターザン 橋本はズバ抜けてるよな。でも、あれは俺がやる世界ですよぉぉぉ!!

山口 ガハハハ！ また始まった（笑）。

ターザン まったくもって、俺そのものッ!! 試合する前に電流爆破へ突っ込むのが俺の世界ですよぉぉ！ そうだろ、豪ちゃん！（顔をグイと近づけて）。

吉田 確かに、前から言ってましたもんね。「俺が電流爆破をやるときは試合前に四面に突っ込みますよぉぉぉ!!」って（笑）。山本さんは、親友の新間さんがリングジャックしたことついてはどう思うんですか？

ターザン それは拍手喝采に決まってますよぉおっ!!

吉田 ケロちゃんは、すかさず「それは違うッ!!」と大激怒してたんですけど、要するに「IWGPを封印するって話は違う」ってことなんでしょうね（笑）。

ターザン そんなもん、怒った時点で負けですよ！

吉田 しかもケロちゃんは大会終了後、すぐさま新日本のHPで抗議文をUPしてるんですよ。ざっと読み上げると、「新間というおじさんが勝手にリングに上がってきて、勝手にマイクをとって、全てをぶち壊してしまったのです。これは今日の大会では全くの予定外のことで、とにかく勝手にしゃべり始めた」ってことなんですけど、じゃあ普段の乱入は決して勝手には行われない、予定通りのもの



大きな声じゃ言えないけど、新しいバーリ・トゥードの団体が動いてるんですよおお!!［ターザン］

なのかって（笑）。
ターザン　だいたい、「勝手に」とか言ってる時点でプロレスを馬鹿にしてますよ、そんなの!!　これは一種の逆カミングアウトですよ！
吉田　本来、プロレスは「勝手なこと」すらも取り込んでいくべきものじゃないですか。新日本ＶＴルールに明記した「作り試合禁止」と同じで、ケロちゃんが勝手に自爆しちゃってるんですよ。
ターザン　アクシデントをプラスに転化するのがプロレスですよ!!　それに「ＮＯ！」と言った奴はプロレスなんかできないんですよ！
山口　わかってないよね、ケロちゃんは。何十年経っても。さあ、山本さん。リングジャックの映像を観る準備ができたそうなので、一足遅くご覧になってください（笑）。
ターザン　望むところですよぉぉぉ！

●高山に敗れた永田が花道を引き揚げるシーンが映される

ターザン（永田を見ながらしみじみと）こいつは本当に貧乏クジを引いたなぁ。
吉田　もっと貧乏クジなのは天山ですよ。あれだけ頑張ってきたのにドームの出番が第一試合で、棚橋とのＩＷＧＰ挑戦者決定戦に勝って高山に挑発しようしたら、今度はこの有り様ですからね（笑）。

●リング上で高山にＩＷＧＰのベルトが贈呈され、ケロちゃんから新間寿にマイクが渡される。

新間「高山選手！……坂口（征二）さんもいる。櫻井（康夫＝『東スポ』取締役編集局長）さんもいる。竹内（宏介＝日本スポーツ出版社社長）さんもいる。ＮＷＦはＩＷＧＰを設立するためにアントニオ猪木が封印したベルトであります。そのＮＷＦチャンプのアナタ（高山）がＩＷＧＰベルトを獲得した。ＮＷＦの方がＩＷＧＰより上であることをアナタは証明した。よって、ＩＷＧＰのチャンピオンベルトを私は封印してもらいたい!!」（どよめく会場）
天山「（慌てて新間に詰め寄って）オマエ、何を言ってるんだ、コラァ!!」
新間「（慌てることなく毅然とした態度で）歴史を知らない人間は黙っていろ!!　ＩＷＧＰは……」
天山「（遮りながら）ア！　オラ!!　何ィ!?」
新間「うるさい！　黙れ!!」
ケロ「（新間に詰め寄り手を振りながら）違う!!　それは、違うッ!!」
ターザン（大興奮して）メ、メチャクチャじゃないか、これぇ!!
吉田　メチャクチャですよ、ホントに（笑）。このあと高山が絶妙なフォローを入れて場を納めるんですけどね。

●新間がＮＷＦの刺客を送り込むことを宣言し、続いて高山がマイクを握る。

高山「（天山に向かって）新間さんは、オメエらが不甲斐ねえからあいうこと言ってんだよ！　あぁ!?　そんなことやってるヒマがあったらな、さっさと帰って道場で練習しろ!!」
（ここで天山が高山に襲いかかって乱闘開始）

山口　山本さん、以上です（笑）。最後は高山が見事に軌道を戻したんですよ。
吉田　高山はイレギュラーをちゃんと飲み込む度量があるわけですよ。天山やケロちゃんじゃ飲み込み切れないんですよね（笑）。
ターザン　しっかし、新間さんは無茶なことやるよなぁ（感心しながら）。猪木さんより役者が上ですよ。5倍ぐらい!!
山口　5倍！　根拠のない数値化だ（笑）。
ターザン　いや、5倍ですよ、5倍!!　だって猪木さんは一人芝居だもん。新間さんのは集団劇だから5倍上なんですよ！
吉田　確かに愛弟子と絡むのと違って、敵地であそこまでやれる新間さんは凄いですよね。だから、最後までいてこれを見逃したんだったら5・2に行った意味がないですよ、山本さん（笑）。
ターザン　……（一瞬固まり）いま見たからいいじゃないぃ。5・2のＭＶＰは新間さん!!　俺が断言しますよぉぉぉ！
吉田　ダハハハ！　散々「現場で見ないとダメ！」って言っていたのになぁ（笑）。
ターザン　そんなもん、いま見たからいいんだよ!!　そうだろ！
山口　負けず嫌いだな、ホント（笑）。そういえば山本さんは5・1Ｋ—1ラスベガス大会にはなぜ行かなかったんですか？
ターザン　呼ばれたけど、5・2ドームを見るために拒否しましたよ！
吉田　それなのに最大のハイライトを見逃したわけですね（笑）。
山口　ラスベガス大会はＴＶで見ました？
ターザン　チラっと見たけど、やめたよぉ。角田さんと武蔵の試合を見てたらイヤになっちゃってさ。もう臭くて臭くて（鼻をつまみながら）。
山口　ガハハハ！　そこまで山本さんが感情表現しなくてもいいですよ（笑）。



吉田　つまり、角田さんの感情表現が激しすぎたってことですか？

ターザン　あ～れは恥ずかしいことだよ!!

吉田　3R目の「あと一回のダウンで負け」になってからの角田劇場なんか面白かったじゃないですか（笑）。

ターザン　………（仏頂面で黙り込む）。

山口　何か言ってくださいよ（笑）。

ターザン　……いや、耐えられないよ、あの試合は！

山口　俺は、泣きベソかいてる島田裕二の顔が一番面白かったですけどね（笑）。

ターザン　いや、レフェリーならレフェリーの仕事をすべきですよ!!

吉田　珍しく真っ当なこと言わないでくださいよ（笑）。

山口　まぁ、角田劇場の素晴らしさはわかるんだよね。あのショーマンシップとかボキャブラリーにはK―1ジャパンの選手は勝てないですよ。ただ、自分であの試合を「髙田vs田村戦みたいなもの」と言って、同列に語るのはどうかと思ったなあ（笑）。

ターザン　それは野暮！　自分で言うのは野暮ですよ!!　だいたいさぁ、髙田vs田村の方が100倍いいじゃない！

山口　今度は100倍！（笑）。

吉田　要は髙田vs田村と何が違うかといったら、髙田にはあった悲壮感が皆無だったんですよね。武蔵よりも元気だったから、少しも切なくなかったし。

ターザン　髙田のはぁ、一世一代の勝負でしたよ！



5・7『スマックガール』終了後、『SRS・DX』のブロードバンド総括中のターザンに渡邉久江＆しなしさとこが接近!!「両手に花ですよぉぉぉ！」と、どくだみが吠えるかのような、ターザン史上に残るワンシーンとなった。

吉田　設定自体は同じだと思うんですよ。で、角田さんがあぁいうスタイルなのは分かり切ってるんだから、田村のように介錯できない武蔵が問題なだけで。

ターザン　いや、あの美意識は認められないですよぉ。

吉田　とことん、ダメ出ししますねぇ（笑）。

ターザン　だけど、（サダハルンバ）谷川も柳沢（『SRS・DX』元・発行人）も大絶賛してたよな、あの試合。

吉田　あの2人がけなすわけないじゃないですか（笑）。結局、K―1って語りづらいジャンルだけど、角田さんは語りやすいのも評価できるんだと思いますよ。

山口　アメリカという場を逆手に取って、わかりやすく伝えようとした点は素晴らしいと思うよね。後半なんか空手の試合だったでしょ。角ちゃんの原点である空手を引退試合で、しかもK―1のリングで立ち昇らせたことは凄いですよ。正道時代からの時間軸を持ってる人にはたまらないでしょうね。

ターザン　そうかぁ？　あ～れは誰だってマネできますよッ！　俺だってできますよ、あんなもん!!

山口　また始まった！　山本さん、面白いです（笑）。

吉田　ホントに怖いもの知らずですよねえ。とても『SRS』に籍を置く人間とは思えないですよ（笑）。

ターザン　……えっ？　おい、ちょっと待て。俺は『SRS』に籍なんか置いてないよなぁ？（山口に促しながら）。

山口　ガハハハ！　俺に聞かれても困りますよ（笑）。

吉田　編集長代理をやってるじゃないですか、山本さんは（笑）。

ターザン　いやいや、俺は雇われてるだけよ!!　籍はまったく置いてないよぉ。

吉田　それが籍を置いてるってことですよ（笑）。

ターザン　いやいや、編集長と編集長代理じゃ天と地ほどの開きがあるんですよ！

山口　もう、山本さんの言う通りでいいです（笑）。じゃ、そういうことで俺は用事があるから、あとは山本さんに任せます！

ターザン　ま、待て、山口！　あれ、いつやるんだ？　時間と場所を決めよう！

山口　「あれ」って何ですか？

ターザン　何だっていいじゃないぃっ（不気味な笑顔で）。

山口　ガハハハ！　何でもよくはない（笑）。

ターザン　（突然、山口の顔をマジマジと見つめながら）山口っ!!……お前、ハンサムになったなぁ。

山口　（本気でうろたえながら）それは、ど、どーも。

吉田　ダハハハ！　どこら辺がハンサムになりましたか？

ターザン　……だって小洒落てるじゃないか！　洒落てるよ！

山口　（立ち直り、無視して）じゃあ、山本さん、後はよろしくお願いします!!（と言ってホントに立ち去る）。

ターザン　（退場する山口に向かって）おい、洒落てるな、山口!!

吉田　山本さんも洒落てますよね（笑）。そういえば、（5・6の）『スマックガール』では、そんな山本さんが大活躍したらしいですけど。

ターザン　（待ってました！とばかりに）豪ちゃん、聞いてくれよ！　あの日は俺が主役だったんだよ!!

吉田　あ、主役は選手じゃなくて山本さん（笑）。

ターザン　豪ちゃんは渡邉って娘、知ってる？

吉田　渡邉久江ですよね。

ターザン　その彼女と撮った俺のスナップ写真が、彼女が入場するときスクリーンにバーンッと出たんですよォォ！

吉田　煽り映像から山本さんが使われてたんですね（笑）。

ターザン　そう！　休憩時間にもさぁ、辻（結花）さんとウエンディ（智美）さんがリングに上がって挨拶してたんだけど、ウエンディさんの次の対戦相手が決まってないらしくて、司会の篠（スマックガール代表）さんが「ターザン山本さんなんかどうですか？」ってリングサイドの俺に振ってくるんですよぉぉぉぉ！

吉田　そこまでイジられたんですか（笑）。

ターザン　しかも困ったことに、篠さんがそのことを辻さんに聞いたら「どうせターザンさんはウエンディさんのことが好きですから」って言うんだよ！（嬉しそうに）。これは女の嫉妬ですよぉぉぉ！

吉田　以前、辻さんが山本さんに「私とウエンディ選手との試合、どうでしたか？」って聞いても「いやぁぁ、対戦相手が良かったよぉ」って言い続けてたのが原因らしいですね（笑）。

ターザン　俺を「殴ってやろうかと思った」らしいよ、辻さんは（嬉しそうに）。でね、試合後に『SRS』のやつ（ブロードバンド）で喋ってたら、渡邉さんが入ってきて、しなし（さとこ）さんも来たんだよぉぉぉ!!　しなしさんなんか、俺の「お嫁さんになる」って言うんだよ！　社交辞令なのはわかってるんだけどさあ（まんざらでもない表情で）。

吉田　どの選手も山本さんを視界に入れ

て試合をやってる、と。つまり、御前試合みたいなものだったんですね（笑）。
ターザン そう、御前試合なんだよ!!（キッパリ）。ハッキリ言う!! 俺はこれからジョシカク（女子総合格闘技）一本で行くよ！ 6月に本も出す！
吉田 あ、『PRIDE』とかはもういいんですか（笑）。
ターザン 『PRIDE』より『スマックガール』の方が断然、面白いですよ！ 俺が言うんだから、そうに決まってますよ！ やっぱり女子は男子と違ってストレートだからね。辻さんみたいにズバッと言ってくれた方がこっちもやりやすいのよ。小島（聡）みたいにグズグズグズグズされるとハラが立つよな！
吉田 一年前に取材を断られたのをまだ根に持ってるんですか（笑）。グズグズ言ってるのは山本さんの方ですよ。
ターザン （まったく聞かずに）あれは最悪男ですよ!! 若い頃から知ってたけど、あんな二重人格だと思わなかったな。ジョシカクみたいに裏表なしの方がいいでしょ？
吉田 チョロに言わせると、ジョシカクにも裏はありそうなんですけどね（笑）。ちなみにジョシカク以外でブレイクしそうなのはあります？ 山本さんの日記をHPで読むと、最近は謎かけが多い気がしますけど。
ターザン ……書かないなら言うけどな。
吉田 それって、総合格闘技の新しい組織が動き出してるってことですよね？
ターザン （拍子抜けして）あ、豪ちゃんは知ってるのか？
吉田 その噂は『紙プロ』でも書きましたよ（笑）。
ターザン （小声で）大きな声では言えないけどさぁ、いろいろ動いてるんだよねぇ。これは絶対にきますよ！ いわば新しいバーリ・トゥード団体ができるわけですよぉぉ!!（編集部に響き渡る大声で）。
吉田 しかし、山本さんは新しいものにすぐ乗りますよねえ。
ターザン ……もしかしたら、俺の時代かもしれないいな。
吉田 長州力の「俺たちの時代」宣言に続いて、ターザン山本の「俺の時代」宣言ですか！ とにかく面白くなりそうなんですね？（笑）。
ターザン いまはまったく面白くないからね。無風、凪状態ですよ！ ホント、死んでるもんな。
吉田 小さいですけど、風を吹かせてるのはサスケ社長ぐらいですよね。ちなみにサスケ社長の覆面問題はどうですか？
ターザン そんなの、どうでもいいことですよ（あっさりと）。あれで騒いでる世間の小ささがわかるりますよ。それにしても、あの男は強運だよなぁ（感心しながら）。
吉田 サスケ社長はまったく人望がなくても、運は強いんですよね（笑）。
ターザン 人望があるのはマズイことだから、この世界では。人望がないこと＝生命力があるってことですよ！
吉田 それは猪木さんや大仁田を見てればわかりますね（笑）。
ターザン 人望があるフリをするのが大仁田ですよ。サンボ（浅子）の件だってそうでしょ？
吉田 「俺はこいつのためにチャリティー興行をしてやるんじゃ〜ッ！」と（笑）。
ターザン 大仁田みたいなのがこの業界では正しいわけですよ！ 人望がある奴は上には行けないんだから！
吉田 山本さんは人望あります？
ターザン 俺？ それがあるんだよねえ…
…人望（小声で）。
吉田 じゃあ、ダメじゃないですか（笑）。
ターザン ダメなんだよなぁ、俺は……。猪木さんや大仁田みたいに向こう側には渡れないんだよ、残念ながら。
吉田 山本さんでも渡れないですか（笑）。
ターザン 向こう側に渡るぐらいなら、俺は人望を選びますよ!! そうじゃなかったら一揆塾なんてできないでしょ？ やってることは全然、人望ないことばかりなんだけどね（かわいらしく）。
吉田 ただ、一揆塾の塾生と仲良くやってるようでいて、山本さんの誕生パーティーで普段とは違う女子に囲まれたら「一揆塾とは大違いですよぉぉ！」とか失礼なこと言ってましたよね（笑）。
ターザン （突然）オイ、カバン!! 俺のカバン取ってくれ！ 見てくれよ、豪ちゃん、誕生会の写真!!（カバンから女の子に囲まれた誕生会の写真を突き出す）。
吉田 （写真を見ながら）しかし幸せな毎日を送ってますね。
ターザン そうなんだよなぁ……。
吉田 大勢の女子に誕生パーティーをやってもらったし、数日後のイベントでも美女二人に誕生日を祝ってもらったしで。
ターザン あれは……良かったなぁ……（遠い目をして夢心地の表情で）。
吉田 結局、いま山本さんはプロレスより自分の人生を楽しんでるってわけですね。
ターザン そうなんだよなぁ……。ぶっちゃけ、仕事はもうやりたくないんだよ。今日もGK（金沢『ゴング』編集長）と5・2について喋ったんだけど、もう俺の出番はないなと思ったしさぁ……。
吉田 どうしてですか？
ターザン 要するにさぁ、GKはプロレスに対して性善説なんだよ。蝶野も頑張っ



ウエンディさんも辻さんも俺を視界に入れて試合をやってるんです［ターザン］

た、小橋、中西、永田、み～んな頑張ったと。いい形の道義付けをして喋るんですよ。でも、俺は性悪説で語るでしょ？

吉田　山本さんは、「人間の性、悪なり」が基本ですからね（笑）。

ターザン　プロレスはそういうもんだと思ってるからさ。猪木さんと馬場さんが同居する世界じゃない、プロレスは。それが性善説で収まるんだったら、俺の出番はないと思ったわけですよ。

吉田　いまのプロレスは性善説に偏りすぎたから、つまらなくなってるんだと思いますけどね。それだと譲り合いの世界になるだけでフライングする人もいなくなるから何の刺激もないですよ、そんなの。

ターザン　それで俺は「ノアは勝ち逃げだよ。新日本は勝ち逃げされて黙ってるのか？」って言ったら、ＧＫは「その発想自体が古い。あれは自然体だよ」と言うんですよ。

吉田　ビッグマッチの駒に困った新日本がノアに泣きつく限り、この関係は変わらないですからね（笑）。

ターザン　で、昔の新日本だったら必ず仕返しをするじゃない？　俺たちはその精神を新日本から学んだんじゃない！　ＧＫはそういう価値観そのものが古くて、消化された世界になってると言うんだよ。俺は凄いショックを受けたよ、豪ちゃん！

吉田　いや、その価値観がなくなったから、新日本のコアなファンが外へ流出しちゃったんだと思いますけどね。ノアに信者と呼ばれるファンがいるのは、そういうときに勝ち逃げして幻想を守ってきたからでもあるだろうし、代わりに新日本から幻想がなくなったというか。

ターザン　いまは求心力ないもんな。無心力しかないですよ、新日本は！

吉田　ＷＥＷの選手が、ＷＥＷ主催の５・５川崎球場で全員負けるのはわかるんですよ。でも、新日本がそれをやってどうすんだよって話でしかないから、もうノアと交流しない方がいいと思うんですけどね。

ターザン　でも、ＧＫからすると、そういうことを言うこと自体が「野暮だ」って言うんだよ。俺はホントにショックを受けたよ。俺たちが学んだ新日本はどこに行ってしまったんだろうなぁ……。

吉田　俺の新日本を返せ、と（笑）。

ターザン　いまの新日本には、駒なんてだ～れもいないしな。中邑ぐらいですよ、期待できるのは！

吉田　棚橋も化け損なっちゃいましたしね。

ターザン　アイツはホント、アホだよなぁ。やっぱりレスラーは汚れていてはダメだってことがわかりましたよ！　レスラーというのは汚れてるように見えて、実は汚れてないことが条件！　汚れてる奴は上にいけないですよ！

吉田　山本さんはどうなんですか？

ターザン　俺？　俺はまったく汚れてないですよ!!（キッパリ）。まず、お金がないもん。人間はお金があるから汚れるんですよ!!

吉田　山本さんはチンチンも立たないから、ナイフで刺されるようなこともないでしょうしね（笑）。

ターザン　でも最近、モテるんだよね（至福の表情で）。これからは俺の時代かもなぁ……ね、豪ちゃん？　そう思わん？

吉田　（冷たく）はいはい、山本さんの時代ですね。そういうことで、ボクも帰りま～す（と言って席を立つ）。

ターザン　おい、待て！　豪ちゃん！　俺はモテるんだよぉぉぉ!!

【03年5月某日／ダブルクロス編集部にて収録】

●マット界の1ヶ月丸わかり●

紙の新聞

4/18 → 5/13

「長州も天龍も胸クソ悪い!!」（by佐々木健介）、「俺はアクが強いよ」（by長州力）、「タバコ吸っていい？」（by鈴木健想）と締め切り間際にWJが大揺れ！「辞めちゃうぞ、バカヤローッ！」（by小島聡）、「不満分子は排除する」（by武藤敬司）と全日本はさらに大激震！ 各地でアルティメットなクラッシュが勃発中の5月マット界を総まくり…のはずが集まったのはアマゾン、河童、選挙、焼肉となぜか呑気なニュースばかりだった『紙の新聞』、今月も元気にスタートッ！

編集長／スモーノブ
文／ささきぃ・松澤チョロ

4/27



【WWS】

ミスター・ポーゴ、落選!!

伊勢崎暗黒街化計画、頓挫!! 日本各地で全国統一地方選挙の投開票が行われたこの日、プロレスファンに最も衝撃を与えたのは、群馬県伊勢崎市議会議員に立候補していた関川哲夫氏ことミスター・ポーゴの最下位落選であろう。なにしろ26名定員のうち29名が立候補した中で、26番目の当選者と328票差だっただけに非常に悔やまれる敗戦であった。TVの開票速報では順調に当選圏内をキープして安心していたポーゴ様は、なかなか「当確」がつかないことに業を煮やして午後10時半頃、選挙事務所から徒歩5分のところにある市役所まで確認しに行き、そこで初めて自分が最下位であることを知り、衝撃を受けたという。悔しさをにじませながらも、敗戦会見では「2年後の選挙を見ていてくれ」とリベンジを誓って、政治への情熱はいまだに失っていないことをアピールした。

4/23

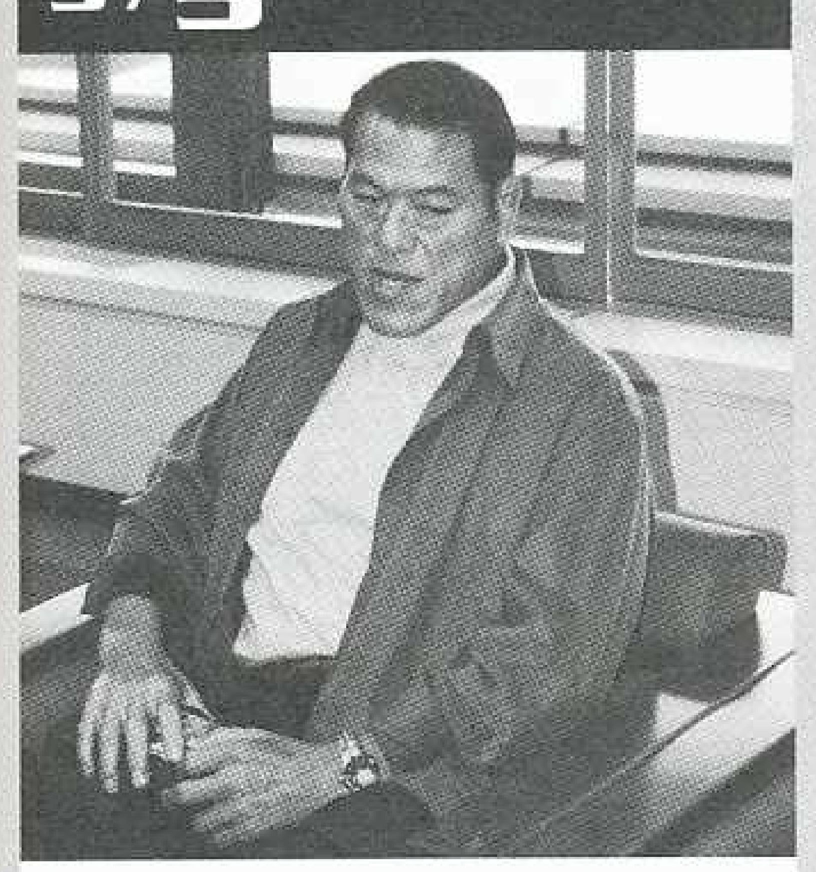


【みちのくプロレス】

サスケ議員、小沢党首を表敬訪問

サスケが小沢党首を表敬訪問した。岩手県議会選挙に自由党推薦として出馬したサスケは、小沢党首に当選の報告、自由党推薦のお礼、さらに『笑っていいとも』出演時に大きな花を贈ってもらったお礼など行い、小沢氏からは「よく勝ち上がったな」と笑顔でねぎらいの言葉をかけられた。ワイドショーを賑わせているマスク問題はまったく話題にならなかったというが、この日のサスケは「議会の品位を損なわない」程度のベルベット&牛皮素材の議会用マスクを用意していることを明らかにした。今まで下半身の脱ぎには積極的で「顔を隠して尻隠さず」の姿勢を貫いてきた男が見せる品位とは!?

5/5



【猪木祭り】

アマゾンで『猪木祭』開催を猪木が提案!!

アメリカに帰国するアントン総帥が成田空港で記者会見を開催。「先走ったことは言えない」と前置きしながら、「アマゾン川の上でリングを組み立て試合をする」と思いっきり先走り発言! 困惑する記者陣を尻目に「リングから落ちたらピラニアに喰い殺されますね。ダーッハッハッハッ!」とアントン総帥は高笑い。「イズマイウがアマゾンに向かっている」とのことで、狂犬ストーカーを現地に送り込むなど、仰天計画は着々と進行してる模様。また、「10月あたりに新日本とグレイシー一族の対抗戦」プランも進んでるらしく、すでにグレイシー一族の総帥・エリオ翁と交渉中だという。イズマイウが現地交渉で一体何を決めてくるのか非常に気になるところだ（自分がメインとか?）。

4/25

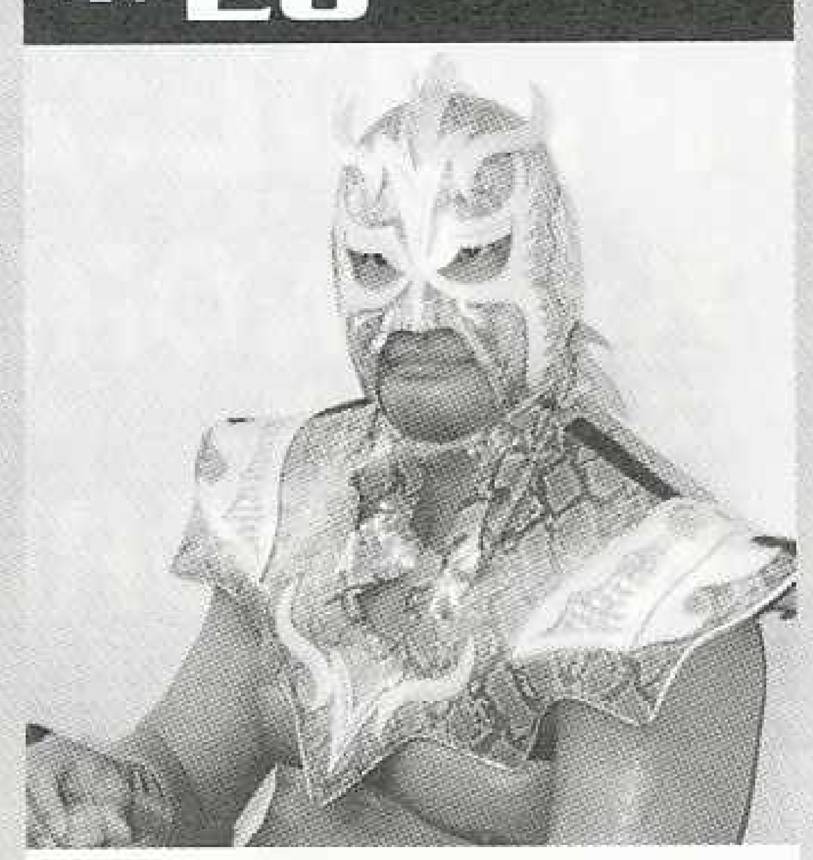


【市屋苑】

元取締役・鈴木健がUインター同窓会興行開催宣言!!

新宿で行われたトークショーで、元UWFインターナショナル取締役・現在串焼き「市屋苑」店長の鈴木健氏が爆弾発言!! 週刊プロレスの鈴木健氏と、市屋苑マスター鈴木健氏（またの名を悪い方の鈴木健）による"ダブル鈴木健"トークショーには、会場からあふれかえるほどの観客がつめかけた。「市屋苑」特製の焼酎が観客らにふるまわれる中、腕相撲大会などが行われた。トークショーの最後に、髪の先まで酔っ払っているかのような鈴木健氏が「Uインター同窓会興行をやるゾーッ!! みんなー、ついてこい!!」と絶叫。観客も大歓声でこれに答えた。大会の詳細は不明だが、開催は来年の早期、会場は、観客からのリクエストの声も多かった神宮球場が有力。出場選手は、その場で参戦を立候補したヤマケン、日高郁人、デンジャラス内田の他、Uインターゆかりの選手たちが参戦する模様。続報を待て!!

4/20



【闘龍門】

究極龍、サスケのマスク問題を語る

川越大会後、ウルティモ校長がサスケのマスク問題についてコメント。「個人的には政治という公の場に、プロレスというエンターテイメントの場のマスクで出るべきではないと思う」としながらも、「有権者はマスク姿のサスケに1票入れたわけだから、問題があるならそもそも出馬を受け付けるべきじゃなかった。当選してから言うのはおかしいです。その点ではアイツの言うことは正しいですよ」と、サスケの意見を支持。さらに「僕は政治の世界はよくわかりませんけど、政治を決める所がこんな事でモメているのはバカバカしい。県民のためにもっとやらなければいけない事があるはずですよ」と、バッサリ。ワイドショーをにぎわせた問題を非常にわかりやすく批判、究極龍のクレバーさが光った瞬間だった。

4/18



【WJプロレス】

邪龍同盟が始動!!

この日、永島事務員こと永島専務が天龍源一郎と大仁田厚をWJ事務所に呼び出し、邪龍同盟結成が正式発表された。一方的に邪龍のカードを発表しておきながら「今後は新聞辞令は辞めて、ド真ん中からWJに立ち向かって来てもらいたい」と永島専務が自分のことを棚にあげて釘を刺せば、大仁田も黙ってはいない。「ド真ん中っていうのはよく分からない」と6/29札幌大会での大仁田vs天龍vs長州3WAY電流爆破を要求!! 「その気持ちはド真ん中で受け止めます」と永島専務。「ド真ん中がよく分んないって言ってんだろ!!」と、さらに怒る大仁田。「天龍さんが一番分ってると思うんです」と永島専務は助けを求めるが、「彼のド真ん中は電流爆破だろう」とつれない天龍。すかさず「アンタはいつまで経っても分んない人だなぁ」と大仁田が蒸し返す!! これには永島専務も「ウチはいかなる場合もド真ん中で受け止めますから」と答えるのが精一杯。結局、ド真ん中ってどこなんだよ!?

5/13



【IWAジャパン】

河童小僧&河童Jr.“赤の他人”だった!!

うりふたつの外見に騙された。河童小僧と、河童小僧Jr.は“赤の他人”だった。三田英津子の下着がなくなるというハレンチな事件が起きたのが、4月20日IWA後楽園大会。「緑色のがチョロチョロしていた」という目撃情報から、下着を盗んだ疑いをかけられた河童小僧Jr.。後日、浅野社長がJr.の全身検査を行った結果、三田の下着や浅野社長のポーチなどが出てきたため、犯人と断定。「親子そろって追放よ」と激怒した浅野社長だったが「キキー、キー(こんなエロガッパは、ワイの子供やおまへん)」という河童小僧の強い要望により、新宿2丁目治療院の赤ひげ先生こと、Dr.幕の内氏(写真中央)がDNA鑑定を行った。オリジナルな方法でDNA鑑定を行える幕の内氏は、神妙な表情で2匹に聴診器をあてただけで「親子ではない」と、河童の遺伝子情報を見抜いた。Jr.が「キー、キー(オレは泥棒じゃない)」と主張するも聞き入れられず、浅野社長は「セコンドにつくことも禁止よ」と、厳しく追放を言い渡した。

5/11



【全日本女子プロレス】

ビッシビシいくわよ!小畑総裁登場!!

全女大激震!! 横浜アリーナで行われた35周年記念大会はWWA王者・中西百重が浜田文子(新間事務所)に敗れ王座転落!! 5・2新日ドームばりの新間さんのガチンコマイクを期待したが、さすがにそれはなし。そして、今大会で星野総裁が投入を予告していた魔界女総裁が遂にお披露目! 総裁に呼び込まれ花道を入場してきたのは『紙プロ』でもお馴染みの小畑千代! 試合後、以前から対戦要求していた神取に上着を脱いで詰め寄ったが、この日は、それ以上発展せず。他にも堀田、高橋奈苗らが退団を表明し大混乱の全女だったが、数日後、一転して高橋の残留が発表された。どうなる全女!?

5/10

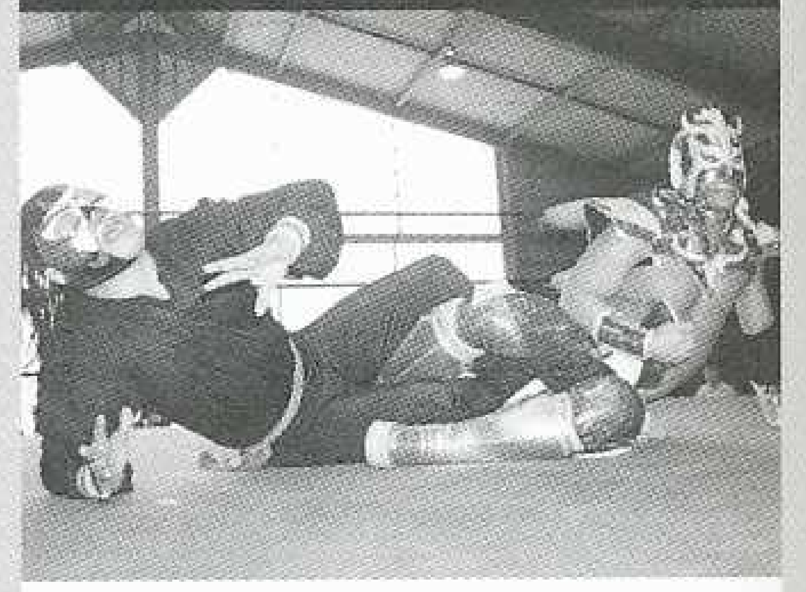


【新日本プロレス】

天山、焼肉で増量!!IWGP奪回宣言!!

プレイステーションソフト『キングオブコロシアム』のファン感謝イベント「天山選手と焼肉食べまくり! キャンペーン」が、新宿・眞露ガーデンで行われた。イベントに出席した天山は、外敵・高山善廣に奪われてしまったIWGPを「永田が防衛してくれると思っていたけど、敗れてしまった以上、自分が取り返す」と、キッパリ宣言。邪道&外道とともに、厳正なる抽選で選ばれたラッキーなファン17人と米沢牛の焼肉、ビールを食べまくり満足げな天山は、カメラマンからの注文にすべて応えてご覧のポーズ。ゲーム専門誌の記者からも「いい人ですね」と評されていた。現在125キロの高山に対抗すべく「今までは115キロだったが、今日の焼肉で118キロくらいにはなった」と、増量計画も順調に進行中だったが、後日高山は「牛が牛食ったら狂牛病になる。ちゃんと草を食べてください」と、あっさり一蹴した。ぎゃふん。

5/5



【みちのくプロレス】

究極龍との試合後、サスケが社長辞任!!

「タマちゃん」「白装束集団」と共にすっかり“時の人”となったサスケ社長。ここ最近は、すっかり選挙やマスク問題ばかりがクローズアップされていたが、この日はウルティモ・ドラゴンを相手にNWAミドル級王座30度目の防衛に挑んだ。この試合の翌日にはCIMAとの一戦を控え、WWE遠征が決まっているウルティモが見事勝利! 試合後、サスケは4月30日付けで、みちプロの社長を辞任していたことを明らかにした。リング内は選手に、リング外は議員に専念出来ることになったサスケ社長改めサスケ議員。5月6日の議会初登庁でお披露目された議会用のマスクは顔の露出が以前よりも増え、「品位ある」(本人談)仕上がりになっているにもかかわらず、いまだ議会では紛糾が続いており決着は6月に持ち越しとなった。このままだと「タマちゃん」「白装束集団」の問題よりも長期化しそうな勢いだ。品位とはかくも難しいものである。



【IWAジャパン】

女子選手がデビュー!!

IWA所属の女子レスラー竹迫望美(左)が、5月30日の大阪大会でデビュー!!「男子の中で女子プロレスをやりたかった」と言う竹迫自身の希望で、我闘姑娘(ガトークーニャン)のさくらえみ(元川恵美)が対戦相手を務める。さくらえみは「4年前、お父さんである浅野さんのところから飛びだした。妹が出来たみたいで嬉しい。久しぶりのIWAマットで、自分の成長を見せたい」とコメント。竹迫は『ZST』で活躍している小谷直之が所属している「ロデオスタイル」で1年間トレーニングを行った後、IWAマットでデビューするという変わり者。「プロレスをやるということは、ジムのみんなにも応援してもらっています」と語る竹迫だが、彼女に続き小谷直之が河童小僧と対戦する予定は、今のところない。

5/13

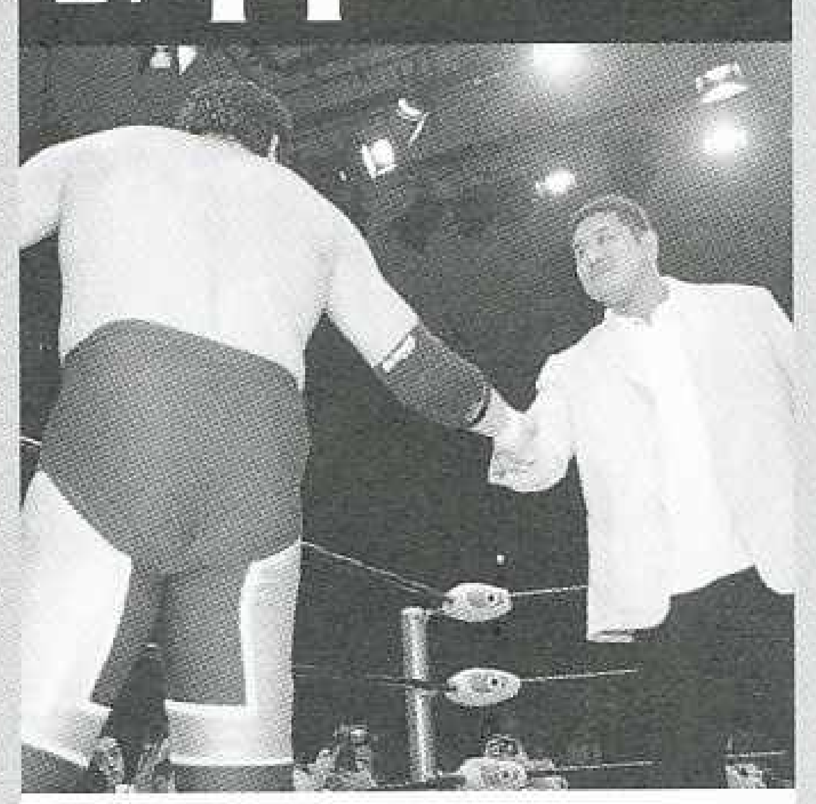


【邪龍同盟】

「リストラ反対!!」大仁田が街頭デモ!!

「天龍さんをリストラとは、どういうことじゃ!?」と、大仁田厚が邪龍同盟の盟友・天龍の全日本プロレス契約問題に激しく抗議した。「リストラ反対」「雇用なくして未来なし!」「一方的な切り捨ては許さない」などと横断幕をかかげ、「大量離脱の時に、天龍さんの行動が全日本を救ったんだろうが!! いわば最大の功労者だ。50代のリストラにアンチテーゼを投げかけたい」と政治家として、天龍の離脱問題を中高年の雇用問題にまで拡大した論を展開した。言いがかりをつけられた形の全日本幹部は「契約満了で合意している」と反論するものの、天龍からの委任状を預かっている大仁田が簡単に引き下がるはずもない。社長・武藤も大仁田に反論はしているが、ここは武藤派との映画出演にまつわるトラブルでもヤリ玉に揚がった全日本幹部の対応に注目だ!

5/11

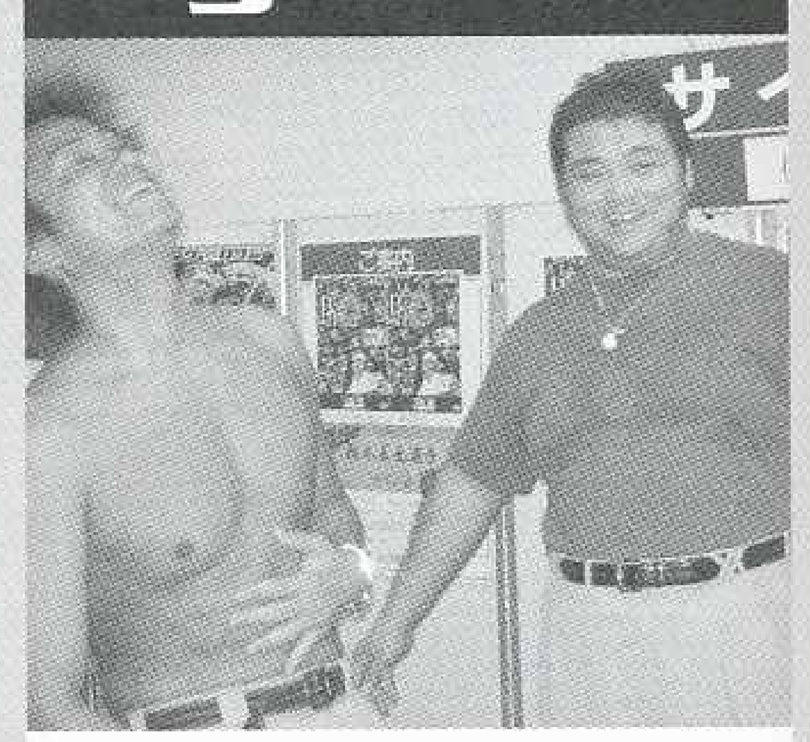


【ノア】

「突然ですが……」永田、ノアに乱入!!

5・2後、新聞紙上などで「次に闘いたいのはシャムロック」など無難な相手をチョイスして、すっかり迷走開始かと思った永田裕志が突然ノアのリングに登場した。「突然ですが」とノアを意識してラッシャー木村ばりの前置きをかましつつ、「ノアのリングに闘いを求めてやってきました!」とマイクアピール。これに三沢も握手で応じたため、参戦が決定した。しかし、V10を達成した元IWGP王者とは思えないようなテスト・マッチを課せられ、ある意味でトップ選手以上に難しい相手と言えなくもない井上雅央を相手に厳しい試合を組まれる始末。結果的に勝ちはしたものの「闘いを求めてきた人間には見えない」と秋山や高山からは、早くも鋭いツッコミが入っている。頑張れ、永田! ところでミルコ戦はやらないの!?

5/9



【ZERO-ONE】

破壊王、笹田道子嬢に逆水平!

破壊王、新宿タイムズスクエアでサイン会!! 登場と同時にマイクではなくサイン用のマジックを握り、『生ゴン』キャスターの笹田道子さんに「違いますよ」と突っ込まれていた破壊王。集まったファン全員に姿が見えるよう、トークの間中イスに座らずに立って話す優しさを見せていたが「男は立たなきゃダメだから」と余計なギャグも披露。金村との電流爆破を振り返って「(最初の被爆は)最初からやるつもりだった。俺は冬木さんとレスリングすると決めていたから」と“冬木さんとの約束”にこだわっていた事を明かした。最後は、希望したファンに逆水平チョップをプレゼント、希望しなかった笹田さんにもチョップを放って終了。痛みでむせかえる笹田さんをよそに「明日からの地上波放送、よろしくお願いします!! 押忍!!」と、アピールも忘れなかった。

プロレスマスコミの哲人
元・週刊ファイト編集長
井上義啓氏
（通称＝Ｉ編集長）
狂乱のマット界時評連載

喫茶店トーク



Inoue mode

——さて、井上さん。今回はプロレスとバードの二部構成となった5・2新日本プロレスの総評をお聞きしたいんですけど。

井上　そんなもん、俺が試合前に活字でアーダコーダ書いたり、プロレス者にトークした通りの結果になったからね。文句もないし、もういいですよ。

——もう十分ですか（笑）。

井上　それよりアンタ！　いまは「新日本vsグレイシーのアマゾン川決戦」ですよ!!（ドン！）。

——猪木さんがブチ上げたビックプロジェクトに注目ですか！　さっそくイズマイウがアマゾン視察に派遣されたらしいですけど、どうやらアマゾン川の上にリングを組み立てて闘うらしいですね。

井上　そうらしいな。何度も言うとるけど、ハッキリ言って猪木と俺の考え方は似てるから、よ～く理解できるけど、要するに「会場プロレス」をいつまでやってるんだと言いたいわけだよ。アマゾンに限らず、たとえばアリゾナ砂漠でやっても凄いことになりますよ！

——さ、砂漠でプロレスですか!?

井上　おう！　砂丘の上から黒づくめの蝶野がサングラスをブワーと投げ捨てて、黒のコートを翻して斜面をドーッと降りてく！　そして下で待ち受けとった武藤にラリアートをブチかましながら絡み合って、ドドドーン!!　と転がり落ちればもの凄い迫力になりますよ!!

——ガハハハ！　それはカッコイイですね！

井上　言うちゃ悪いけど、蝶野がリング上でラリアートをやってもあまり迫力がないのよね。ところが砂漠の上でやったら、ホントの意味での〝闘い〟を見せられると思うな。見る方も「やったー！」と思うし、闘ってる本人たちも満足感がありますよ。だから俺は「会場プロレス」はもうやめて、アリゾナの砂漠でやれと言うとるんですよ。

——なるほど（笑）。でも、砂漠で闘うとなると、お客はＰＰＶで観戦することになるんですか？

井上　いや、観客をアリゾナに連れていってもいいですよ。砂漠を走り回って闘う選手を一生懸命追っかけて観ればいいからね。

——観客も一緒に走って観るわけですか！（笑）。

井上　俺だって走り回りますよ!!　時には自分が砂丘の上をズサーッと滑り降りてね、そういった迫力があってごらんなさいよ。そりゃ観る方も喜ぶぜ！

——井上さんが砂丘を滑り降りるシーンは観たいですね（笑）。

井上　いまプロレスがマンネリ化してるのも、相手をバーンと投げたらドドドと走ってね、ボーンと帰ってくるところを16文キックをやるわけだろ？

——馬場さん亡きあと16文の使い手はいないですけど、そんなかんじですね（笑）。

井上　そんなこといまだにやってたら、客数落ちるに決まってますよ！　だから、新しい格闘技時代の幕を開けるためにもアマゾンとかアリゾナ砂漠でやれ、と。極端な話、アリゾナの砂漠まで行く費用がないんなら、鳥取の砂丘でもいいんですから!!

——鳥取県でもいいんですか（笑）。

井上　夕陽がカーッと落ちて行くところでやってごらんよ。それだけで迫力あるし、猪木はそれを狙ってるんでしょうな。

——いいシーンが撮れそうですしね。

井上　ただ、アマゾンでやるのは素晴らしいことだけども、俺からすれば「猪木さん、リングはいりませんよ」と。リングから落っこちたらピラニアに喰われるのもいいけどね、言うちゃ悪いけど、最初からピラニアのおる川の中でやればいいんですよ!!（ドン！）。

——最初っから川の中ですか！（笑）。

井上　それがホントの決闘じゃないか！　ハッキリ言ったら、黒澤明が撮った「姿三四郎」の荒野の決闘なんかが闘いの原点だと思うからね、俺は。たとえば、吉田とミルコのワンマッチをアマゾンでやってみぃ！　1分とか10秒で終わるかもしれないけど、あの二人の荒野の決闘がＰＰＶで3000円ですよ。これはやっぱり俺でも絶対に見るもんな。泳ぎながら観たって構わないですよ！

——ガハハハ！　観客も川の中に入って観るんですね（笑）。

井上　それぐらいの闘いですよ、ミルコvs吉田のアマゾン決闘は。それをＰＰＶの1週間遅れで地上波で流したり、あとからビデオで市販したらいいですよ。稼ぐ方法はいくらでもある時代なんだから、会場で客を集める方式はもうやめないとイカンですよ。

——時代に合わせたビジネススタイルに移行すべきなんですね。

井上　猪木がなんでそういったことを考えつくかといったら、「巌流島の決闘」をやってるからなんですよ。

——猪木さんはマサさんとノーピルデスマッチをやりましたね。

井上　10年以上前にやっとるんだよ、猪木は。今回のアマゾン決戦は「エリオからそういう申し入れがあった」とか言うてるけどやね、エリオの

おっさんの頭から出る知恵とはとても思えんわ。きっと猪木の頭から出たことでしょうね。

――そんなこと考えつくのは猪木さんしかいないですよね（笑）。グレイシーはルール面にはかなりうるさい集団ですけど、こんな原始的な闘いをはたして受けるんでしょうか？

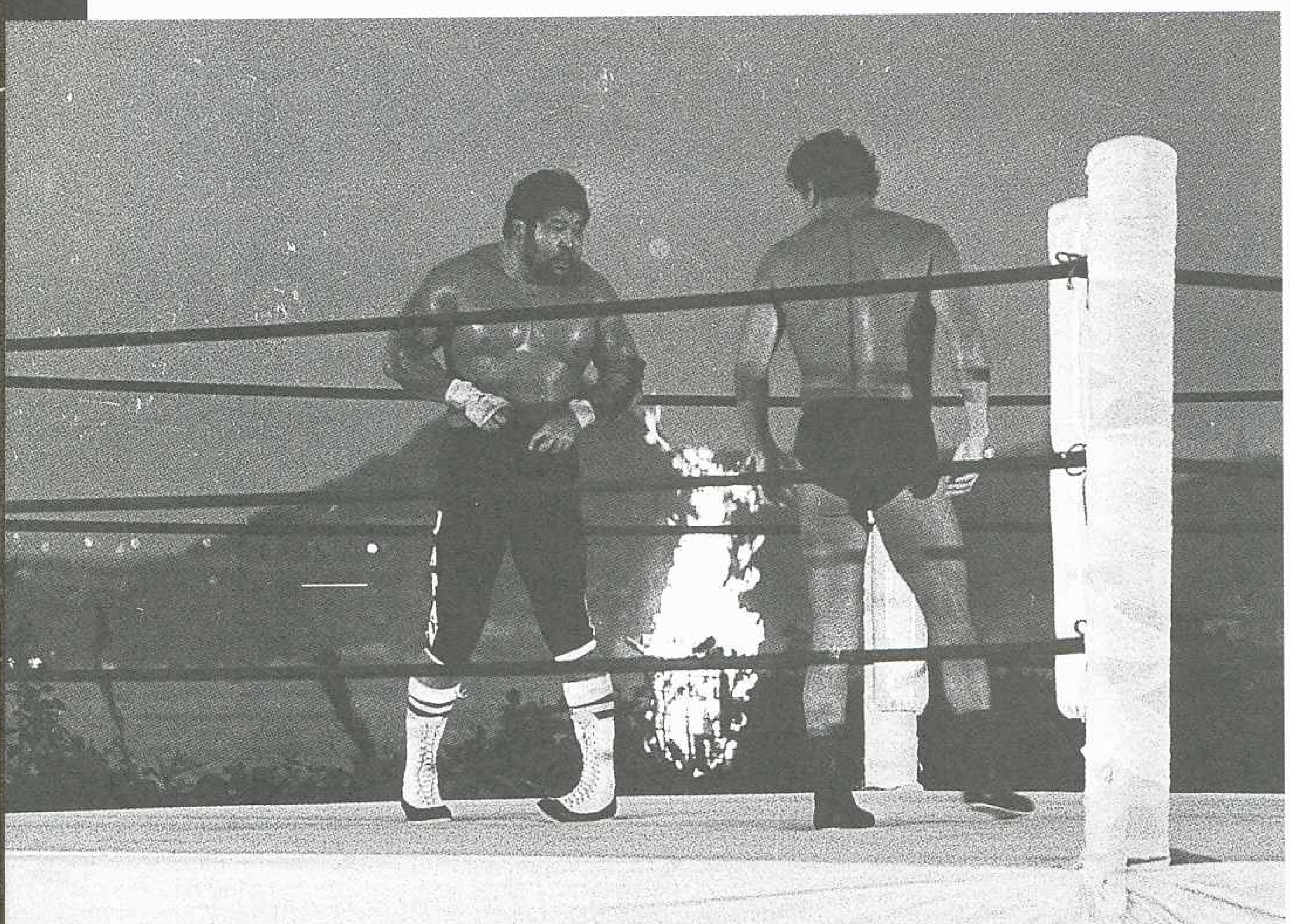
井上　やるときはやる男たちですよ、グレイシーも。ヒクソンにしたってアマゾンに出てくるかどうかわかりませんけど、かつては砂浜で決闘をやったりしとるだろ。

――ウゴ・デュアルチとビーチで闘ったそうですね。

井上　新日本とグレイシーは文字通りの喧嘩になりますよ。まず、8月か9月かあたりにチョコチョコやって「コイツとコイツは殺す！」と因縁ができるわけですよ。そして、アマゾンで殺し合いですよ!!（ドン）。

――殺し合いですか！

井上　当たり前ですよ、アンタ！　中邑あたりは大人しいように見えるけど、気が強いからね。棚橋や真壁も黙ってないだろうし、何も藤田だけがバードをやれる男じゃないですよ。それに中邑や真壁とかにプロレスをワーワーやらせたところでハッキリ言って面白くないからね。



今月のお題

「会場プロレス」からの脱却！マット界が進むべき新舞台とは？

バードvsプロレスに沸き返るマット界の喧噪から離れ、I編集長の鋭い視線は近未来バトルフィールドに注がれていた！　アントン総帥がブチ上げた「アマゾン決戦」に大興奮した、I編集長の推理冒険活劇がスタート!!　プロレス者よ、浪漫を心に抱け！

聞き手／堀江ガンツ　構成／ジャン斉藤

――アマゾン決戦に比べると、刺激には欠けますね（笑）。

井上　プロレスだと意外性は生まれんでしょうな。やるとしたら勝つか負けるかは別にして、とにかくバードで死ぬまでやれ、と！　それが世界にテレビ中継されてみぃ！　一躍スターになるからね、ホンマに。猪木はジョーニー・ローラーあたりをアメリカ戦略の鍵にしてたけど、あの大女を使わなくてもね、2～3回アリゾナやアマゾンでバードをやれば世界中から「真壁ー！」とかキャーキャー騒がれるようになりますよ。

――世界中から「真壁」コールが起きるわけですか（笑）。

井上　新日本にはバードができる若手がゴロゴロしとるからね。巨人の2軍が強いと一緒ですよ。斉藤（宜之）にしたって4本も5本もホームラン打っとるじゃないか！

――新日本には巨人の斉藤クラスがゴロゴロしてるわけですか（笑）。

井上　そういった下の力を生かすためにもアマゾン決戦は絶好のチャンスですよ。だから、猪木がやろうとしてることは3つも4つも問題提示してるんですよ。

――新日本の今後を見据えたプロジェクトなんですね。

井上　飯塚あたりにもいっぺん檜舞台を与えてやって欲しいよな。飯塚も命を懸けて闘うと思うわ。バードに対してあれだけの素質を持った男だからね。何かやるで、アイツは！

――やりますか、飯塚は！

井上　現に飯塚あたりはもう動いてるんとちゃうか？　俺が飯塚だったら藤波や猪木のところに密かに電話をしてね、「バード、お願いします！」と言うてますよ。

――井上さんなら直訴してますか！

井上　飯塚にとったら千載一遇のチャンスだし、これがライフワークになるかもしれないんだから、自分の名を格闘技史に残すかどうかの瀬戸際ですよ。いまのまま終わったんじゃハッキリ言うて「飯塚高史」の名前は残りませんから。藤波社長も同じことを言うと思いますよ。

――藤波社長も同意見なんですね（笑）。

井上　あと西村にも檜舞台を与えてやって欲しいと心から願うんだよな。

――西村がアマゾンで闘うところはもの凄く見たいですね（笑）。

井上　西村はガンジス川のほとりに座ってジーッと瞑想したときに「ここで闘うべきだ」と言うた男ですよ。

――世界の大河繋がりですか（笑）。

井上　やっぱり川というのは格闘技に直接結びつくんだよな。山もそうだけど、俺はむしろ川だと思うのね。アマゾン川なんかにはワニがウジャウジャおるだろ！　こりゃ生きるか死ぬかですよ！

――対戦相手よりワニの方が危険ですね（笑）。

井上　ガンジス川だってね、1～2日ジーッと座っていてごらんなさいよ。死体がプカプカ浮いて流れるのをお目にかかるわけですよ。野犬なんて死体を喰いちぎるそうだから、首のな

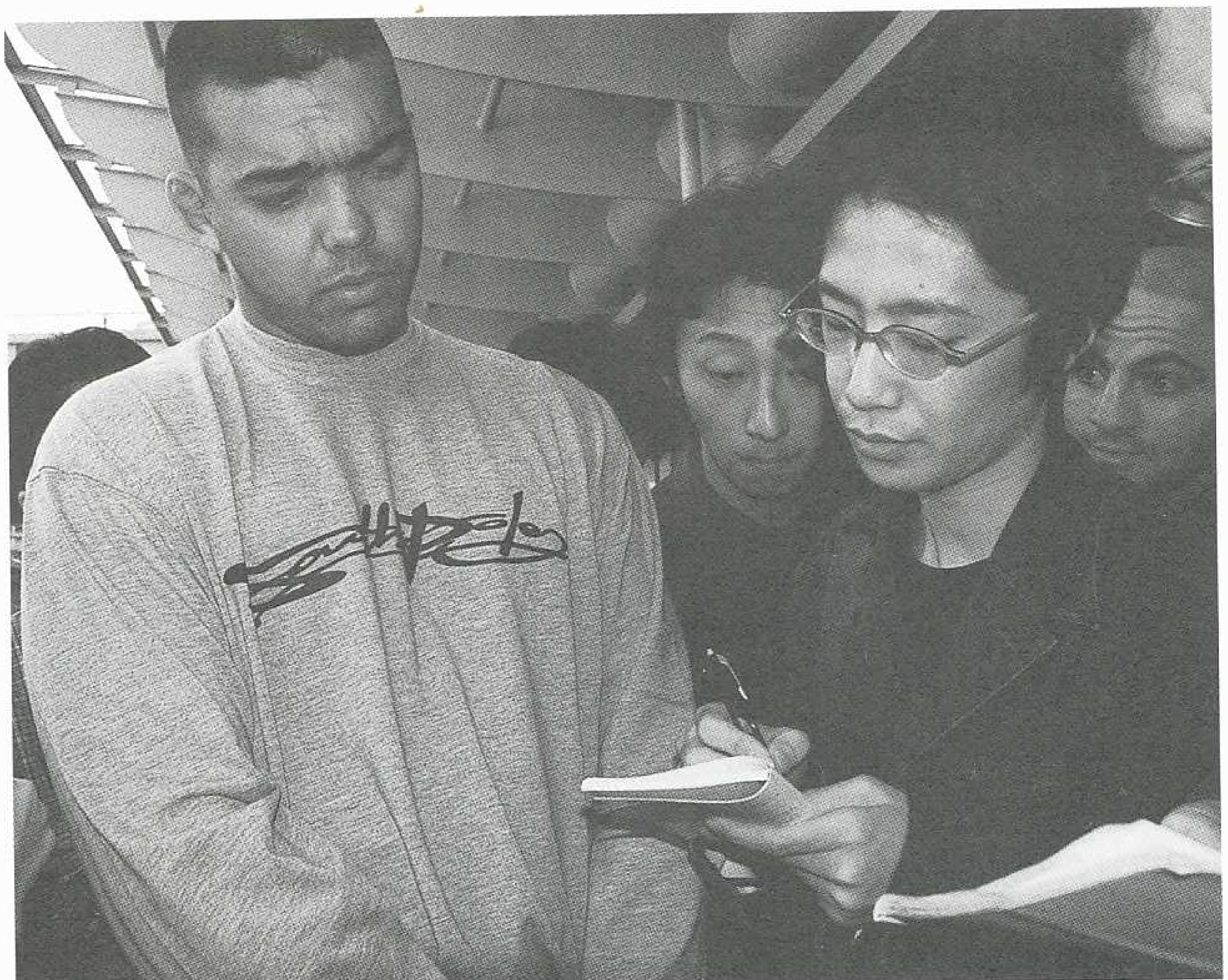
言うちゃ悪いけど今日の結論

もはやプロレスは、アリゾナ砂漠、アマゾン川、北極で闘うしかない!!

い死体が流れてくるんですよ。西村はその死体をジーと見てて無情観を感じたんだろうけど、「闘うんだったらガンジス川」と思った直感というか瞑想力というか、そういった気持は俺でもわかる気がしたからね。俺自身、ガンジス川には行ったことはないけど、おそらくガンジス川に行って半日ジーと眺めておったらそう感じますよ。嵐山の桂川でもそういう思いをしますから!

――嵐山で感じますか!(笑)。

井上　桂川でそうやからね、俺がガンジス川に行ったらこれは凄いことになりますよ!　そういった意味では、



5・2に自費来日したイズマイウを探せ!　呼んでもないのに記者に紛れて、カメラに収まる姿勢はとにかく立派!　アマゾン視察も頑張れ、イズ!

西村や飯塚なんかがアマゾン決戦に立ち上がれば面白いですよ。で、その新日バード軍団はやっぱり永田に率いてもらいたいよな。ノアでワーワー言うとる場合じゃないですよ!

――IWGP王座転落を機にバード方面に本格進出しろ、と。

井上　永田をリーダーにして、副隊長に中西がおるというのが一番スマートだと思うわな。新日は9月にバードマッチをやるようだけど、ハッキリ言って今度はバードだけでやるだろうな。プロレスを除外した「新日プロ・バード」が出来上がるわけですよ。

――次回は純粋なるバード興行ですか!

井上　俺がだいぶ前から、プロレスとバードを分けて純然たる別興行にしなさいとなんべんも言ったときは、「井上さん、アホか」って大笑いされたもんだけど、昔の新日本には一番バード向きの健介もおったし、バードできる奴が揃っとったんだからね。それが何てことはない、近々実現するわけですよ。

――井上さんの予言がまたも的中するんですね(笑)。

井上　おそらく9月のバードマッチはプロレスと噛み合わせることはしませんよ。5・2みたいにプロレスの中にバードを入れるから引き立つんであって、逆の場合はプロレスがバカみたいに見えますから!

――バカに見えますか(笑)。

井上　当たり前ですよ、アンタ!　まぁ、10月にはドームもあるかもしれんけど、いずれにしてもアマゾンは楽しみですよ。ハッキリ言って我が意をえたりというところもあるけども、さすがに猪木は言うことが違うなという感じはしたな。そういうことは馬場さんは言わんからね。

――絶対に言いませんね(笑)。

井上　三沢なんかも頭が良いんだけも、やっぱり馬場門下の優等生なんだよな。あの人もああいうことはしないでしょう。

――ノアのアマゾン決戦も見たいですけど、200%やらないでしょうね(笑)。

井上　だから問題はWJですよ。アマゾン決戦をジーッと睨んでWJがどう動くがポイントだろうな。7月に両国でタイトルのトーナメントをやるにしてもだね、ベルトも団体だから必要なんだけども、どうしてもインパクトが弱いよな。

――ちょっと驚かないですよね。

井上　ガーンと討って出て、みんなが「WJ!!」って振り向かせる知恵を永島の旦那や長州は出せないとイカンですよ。そのためには猪木方式というのは悔しいだろうけども、心を冷静にして見習う必要があるわな。猪木がアマゾンでやるんだったらWJには大仁田もおることだし、北極で電流爆破マッチをやればいいんですよ!

――北極で電流爆破デスマッチですか!(笑)。

井上　電流爆破マッチは大仁田の専売特許だけど、リング上で何~十回もやってるわけだからね。やっぱり目先を変えんとダメですよ。

――変えるどころの話じゃないですよ(笑)。

井上　もしやったら「WJ!」ってみんな振り向くぜ!　まず氷山の中に爆弾を仕掛けてだね、大仁田がイスや丸太ン棒で殴った振動で爆発して氷が飛び散れば凄い迫力になるだろう。それこそ、何もせんとも氷山が破裂するかわからんしね。いきなりゴーーッと崩れ落ちるかもしれんな!

――ガハハハ!　本当のデスマッチですね(笑)。

井上　こんなこと言うと「井上さん、アホか」とか怒られそうですけど、不思議でもなんでもない。WJが浮かび上がるには北極で電流爆破をやれ、と!　「なんだ、猪木の亜流じゃないか」と言う奴は一人もいませんよ。

――マット界再編成はアマゾンと北極から始まるわけですね(笑)。よ~くわかりました!　それでは来月もよろしくお願いします。

井上　また、どーもー。

【03年5月某日/電話取材にて収録】

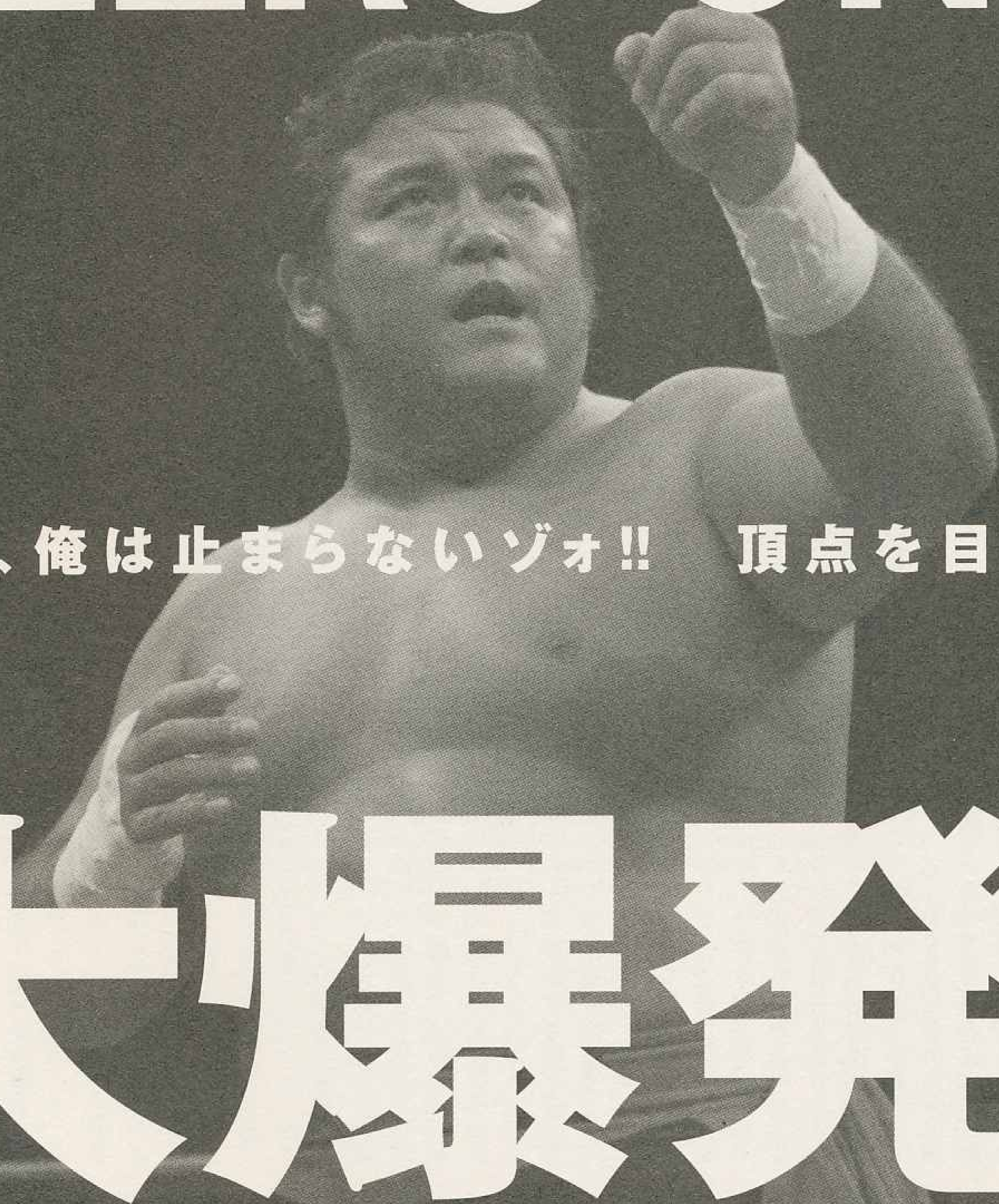
いのうえ・よしひろ■1934年岡山県出身。『週刊ファイト』の編集長を長く務めた、「活字プロレス」と呼ばれるジャンルの創始者。プロレスマスコミでー編集長に影響を受けた人間は数知れない。『紙プロHand』でコラムを絶賛連載中!!



5・2興行戦争!　5・5電流爆破!　地上波放送開始!

破壊王、そしてZERO-ONE

ページ大増量のため、
今回はモノクロで御免!!



「もう、俺は止まらないゾォ!!　頂点を目指すゾォ!!」

大爆発!!

本誌認定 マット界 5月のMVP

橋本真也



聞き手／山口日昇
構成／松澤チョロ
撮影(5・5WEW)／平工幸雄
撮影／丸山剛史
designed by matsu(Two three)

規模は小さいながらも、新日本東京ドーム大会に堂々と向き合い、
とてつもない熱と磁場を生み出した5・2ZERO-ONE後楽園ホール大会。
間違いなく"伝説"となるであろうこの大会から地上波にも侵攻開始。
そちらでも大成功!　"敵のつくり方"から"銀座のママ"まで、
スリー、ツー、ワンッ、ハカイオーインタビュー、行ってみよーッ!!

——橋本さん、ゴールデンウィークは完璧にMVPですね！

橋本　去年もそうや！

——去年も（笑）。でも今年の針の振り方は凄かったですよ。

橋本　でも、GWの試合は年末になると全部忘れられるんだよな。

——で、プロレス大賞には入らないと（笑）。ところで、第1回めの地上波放送が終わりましたけど、いろいろ意見は入ってきてます？　ズバリ言って、評判はいいですよね。

橋本　俺がその気になっちゃったらダメだろ。視聴率も悪くはなかったにせよ、特別良くもなかった。だから、これからテーマがあっていいんだけどね。欲を言えば、もっともっと俺たちの出した素材をウマく料理してほしいなと思ったけどな。

——〝ゼロ中〟から言わせると、ロウキーの試合が短くて物足りなかったとか、フレッドの高速3カウントが入っ……。

橋本　（遮って）あのね、全部映すのは無理なんだよ。で、全部途中から区切ってもダメ。だから、最後（メイン）の試合に焦点を絞るんであれば、逆に他はもっと削ってもよかったな。

——ボクも第1回めの今回はそう思いましたね。いままでの歴史と、あとはガイジンにはこんな面白いキャラがいて、日本人にもこんないい選手がいるっていうのを今回は紹介だけにして、「こいつらの試合は次回からたっぷり見せるゾ」と。で、「今回の一番の目玉はこれだ」ってことで、メインに焦点絞っちゃったほうがよかったのかなぁと、素人考えでは思いましたけどね。

橋本　それだったら、他の試合は『スカパー』や『サムライ！』で見てください、と。そういう言い方ができるわけ。「ZERO—ONEの今回は、これが売りや！」っていうところをプッシュしたりとかな。

——じゃあ概ね評判はいいけど、橋本さんは満足してないと。

橋本　全ッ然！（キッパリ）。

——橋本さんはテレビのインタビューの中で「ZERO—ONEは、ゼロから一番頂上を目指す、天下一の〝一〟を目指す意味で付けた」みたいなことを言ってたけど、いまは大体何合目ぐらいまで来てるんですか？　年6回とはいえ地上波も付いて、地方も超満員札止めが圧倒的に続いてるわけでしょ。

橋本　まだ4合目から5合目ぐらいじゃないかな？　半分いかないぐらいだよ。

——そのハードルの高さはバツグンです（笑）。

橋本　俺は欲が深いゾ!!

——ガハハハハ！　その欲深さはプロの世界では重要ですよ。

橋本　俺は自分のことだけ言えば、〝俺はこんなもんじゃない〟っていう部分もあるからな。前の新日本だったら、人にプロデュースをしてもらいながら、その場所でノシ上がっていったけど、いまは自分たちでプロデュースできるわけだから……（いきなり外を歩いているOLに目をやり）ん〜、キレイな人が通っていく……。

——あ、それが目的！　それで外（道場のベランダ）でインタビューやろうって言ったわけか（笑）。ここらへんはいい女が歩いてそうだもんなぁ。

橋本　この辺は一流どころの会社が多いからな。ウチの小林環（ZERO—ONE広報）とはエライ違いや！

——またそういうこと言う！（笑）。小林ちゃんもカワイイじゃないですか（笑）。でね、ここのところのZERO—ONEの往き方を見てて一番感心するのは、橋本さんの敵のつくり方なんですよね。敵を敵としてピカピカに磨き上げる術というか。

橋本　たまたまそうなっただけや。

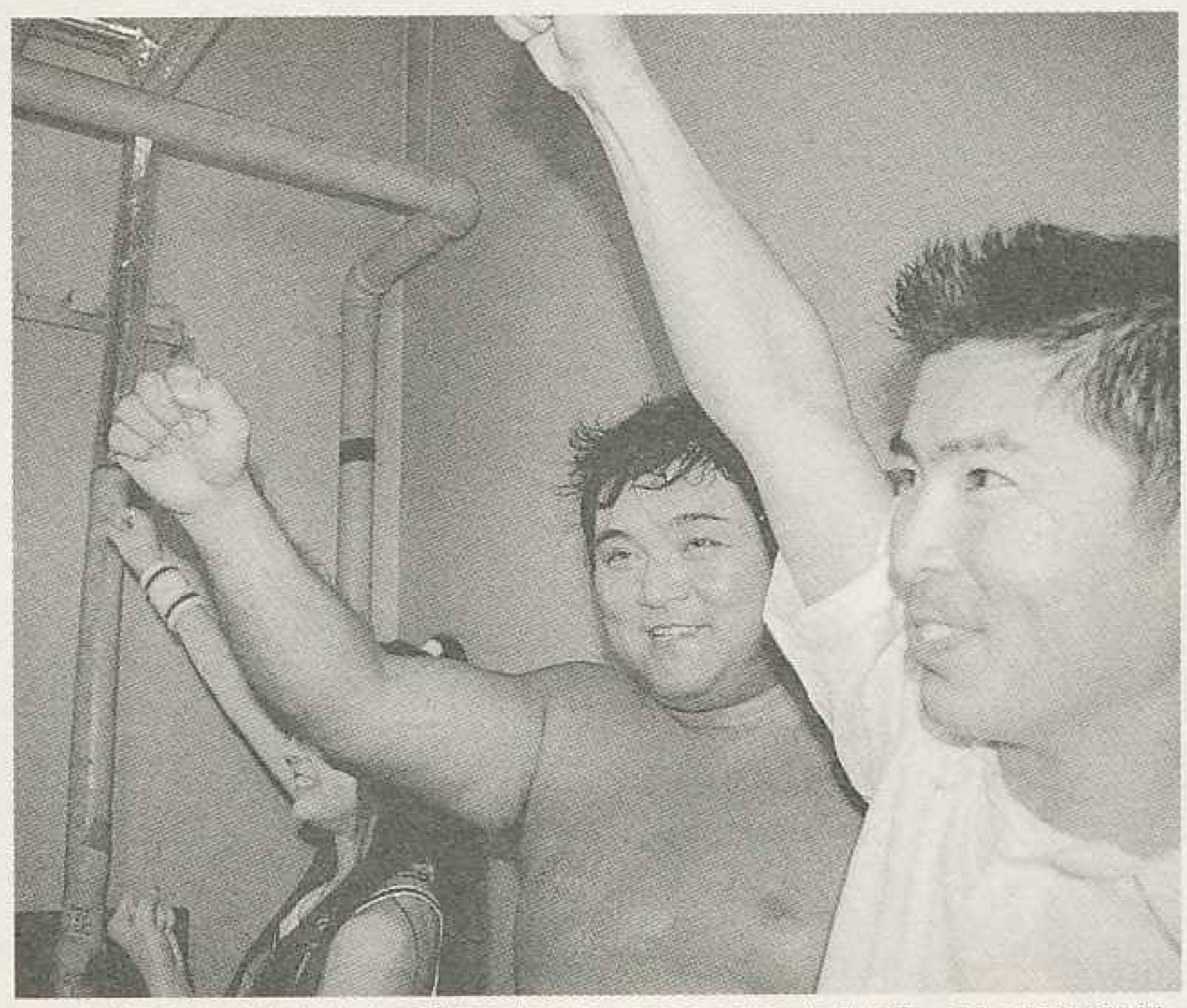
——いやいや、いま敵のつくり方はヘタですよ、格闘技にしてもプロレスにしても。みんなドングリの背比べになってしまって。

橋本　まさか、（金村）キンタローが敵になっちゃうんだもんな。でも、あれは運命的なもんで、冬木さんとのことがあったからそうなっただけでね。あれは偶然ですよ。

——偶然を転がしていく力が橋本さんにはあるんだろうけど、敵をいかにつくり上げていくかっていうのはプロレスの根っこですよね。ビジネスにおいても、もちろんリングの中でも。その敵の光らせ方という意味で、橋本さんのセンスが際立って見えるんですよ。

橋本　いやいや、俺は思ったことを言って、あとは中村（祥之・渉外＆営業部長）に投げてるから。あっちが一番大変なんだろうけどな（笑）。

——あぁ、そうか。中村さんはたしかに大変だろうなぁ（笑）。



5・2後楽園大会から放映された『破壊王プロレス　ZERO-ONE』（5月10日、テレビ東京で放映）。平均視聴率は3.6％。瞬間最高視聴率は6％と順調なスベリ出しを見せた。番組の締めはナビ役の勝俣州和と「スリー、ツー、ワンッ、ゼロワンッ!!」。次回放映は7月19日午後4時からだ！

橋本　でも、そこを思いつくか思いつかないかっていうのは、素人がパッと考えついてやるのとは違うから。猪木さんや長州さんにプロデュースしてもらって俺は上がってきたんだけど、それまでどんな敵とやって、どんなことをやってきたかっていうのは、自分で身をもってわかってるから。その部分は選手個人だけじゃなくて会社全体が動かないと本格的にできないからな。みんながどっかで取っかかりを持たないと。

——その敵の磨き方のセンスっていうのは、やっぱり猪木さんから学んだものなんですか？

橋本　自然にそうなってきたんじゃないかなって思うんだけどね。その定義は自分でもわからない……ちょっと、待て！　あぁ〜っ、背中痒いいぃぃぃぃぃぃ（突然立ち上がり、背中を壁の角で掻きはじめる＝P61参照）。

——ダハハハハハハハハ！　間寛平じゃないんだから（笑）。

橋本　電流爆破の有刺鉄線でやられてから、その傷が治ってきたら痒いぃぃんだよ（苦笑）。

——あ、傷口が治りかけてる（笑）。でも（やっと落ち着いて）

橋本　ね、いま藤原組長がテロリストに戻って大谷を襲ったりしてるけど、俺らが新日本に入ったときのことを考えたら、もう鬼軍曹だったわけだよ。「藤原教室、この指止まれ！」とかやってて、俺も嫌々止まってたんだけどさ（笑）。

——嫌々（笑）。

橋本　後にテロリストにもなって、口も聞かなかった人とね、いまはよくしゃべってね。やっぱり試合に関しては、大谷はウチの若頭だから負けてほしくないと思ってますよ。ただ、その大谷をデカクするためには、絶対に巨大な敵が必要だし。俺だけじゃなくて、より多くの敵、より強い敵とたくさん闘ってこそ這い上がってこれるから。それには、そういう敵をつくってあげないと。意味ある敵を。

——意味ある敵！

橋本　なんでかって言ったら、大谷に関して言うと、いままでジュニアの敵ばっかりだった。ジュニアの敵じゃあ、もうアイツはこれ以上は上がってこれないんだよ。ヘビー級の敵が必要なんだよ。

——たしかに大谷選手は、これまで手の合う敵が多かった気がしますね。

橋本　ヘビーっていうのは可能性が無限大だからな。その中で生き残れるかどうかなんていうのはわかりゃしない。ヘタすりゃ身体ちっちゃい





なんかね、みんなに言ってるんだけど、負ける気がしないんだって（キッパリ）

から、そこまでいけるかどうかわかんない。その中で大谷晋二郎っていう色をね、いかに出すかが勝負だと思うんですよ。戦績よりも。

――なるほど。敵っていうことで言うと、アダモちゃんも初来日した昨年の秋はズバリ言ってイマイチだったけど、シリーズを追うごとに良くなってますよね。

橋本　まあ、キャラクター付けてからだな。プレデターもそうだよ。アイツらも埋もれててさぁ。本名でやってたり、ベイダーUFOがどうのこうのってやってたけど、結局二番煎じでね。プレデターっていうのもブロディの二番煎じかもしれないけど、アイツにピッタリ合ったんだよな。これからのファンはブルーザー・ブロディって知らないんだよ。

――そうでしょうね。

橋本　俺はそれでいいと思ってる。プレデターを知ってブロディを知ればいいんだよ。

――そういえば、5・2の後楽園大会に安田（忠夫）さんが挨拶に来たみたいじゃないですか？

橋本　観に来ただけだよ。「試合が組まれてないんですよ～」って。それにアイツにスパイ的な役割は無理でしょ（笑）。

ZERO-ONE 大爆発!!

――新日本からのスパイではなかったと（笑）。まあ、そんなつもりもないでしょうからね。あ、新日本といえば『東スポ』のアンケート見ました？　5・2の出口調査で、新日本にZERO―ONEが圧勝という結果が出てましたね。ドームを観戦して「満足」と回答したファンは31％。後楽園を観戦したファンで「満足」と回答したのは実に79％ですよ！（P63参照）。

橋本　またそうやって焚き付ける！（笑）。

――いやいや、これによると満足度では新日本に圧勝ですよ。

橋本　ひと言、会場が狭いってことじゃないか？

――ダハハハ！　今日は謙虚だなぁ（笑）。でも、さっき、「俺は猪木さんと長州さんにプロデュースされてきた」って言ってたけど、長州さんは、どっちかというとシャットアウトしていくタイプでしょ？　猪木さんのように敵をつくり出していくタイプじゃないんじゃないですか？

橋本　でもな、俺がいまあるのは長州力のプロデュースのおかげですよ。

――へぇ～。それはもっと聞きたいなぁ。

橋本　それはやっぱり、俺が海外に行くまでに長州さんとイザコザがあったことが発端になってるんだけど。マサさんが長州さんと一緒にいたけど、その頃の長州さんは、そういうセンスには長けてたと思いますよ。俺はヒロ（斉藤）さんをやって長州さんにボコボコにされたときに、それでも謝んなかった（笑）。

――ガハハハ！　謝んなかった（笑）。ヒロさんの指の骨を試合中に折っちゃったときですよね。

橋本　まあ、〝やり方によってはトップ獲れるぞ〟ってことや（笑）。

――あの時、謝らなかったことがいまの橋本真也をつくり上げたんだ。

橋本　まあ後々には謝ったけどな（笑）。やっぱりトップに立って、一時期のUWFとの対抗戦を手引きしたのは長州力だから。そういった面では、新日本の第二次最高潮時代を裁いたプロデューサーは長州力だから。

――そうですね。でもUインターとやった以降、新日本は敵を磨けなくなっちゃいましたよね。

橋本　だから、いつの間にか会社の中で敵をつくっちゃったからな。リング外での違うイザコザが多くなってきた。表舞台での敵じゃなくなってきたんだよ。

――昔の新日本だったら、そのイザコザもリング上で昇華できたんだろうけど。

橋本　そういう意味では、猪木さんの敵のつくり方と長州さんの敵のつくり方は違う。ただ、やっぱり猪木さんは俺に対しての……結局俺になっちゃったけど、小川直也という必殺化学兵器を……。

――必殺化学兵器！（笑）。

橋本　化学兵器を持っちゃって、新日本で俺がチャンピオンを持ってたときにド～ンとそれを投下しちゃったわけだから。それがズーッと続いて、俺を根絶やしにしようと思ってたからな（笑）。

――出た、名言！　根絶やし！

橋本　やられる方とやる方といるけど、やられても必ずしも死なないっていうのがプロレスの良さですよ。死んじゃうヤツはそのまんま死んじゃうけどな。

――プロレスラーとしての生命力。エネルギーの差なんでしょうね。

橋本　要するに猪木さんは言ってるじゃん、「踏まれても死なないのが雑草だ」って。俺を潰すつもりでやったことがいつの間にかそうなっちゃっただけでね。あれはきっと誤算だったと思いますよ。

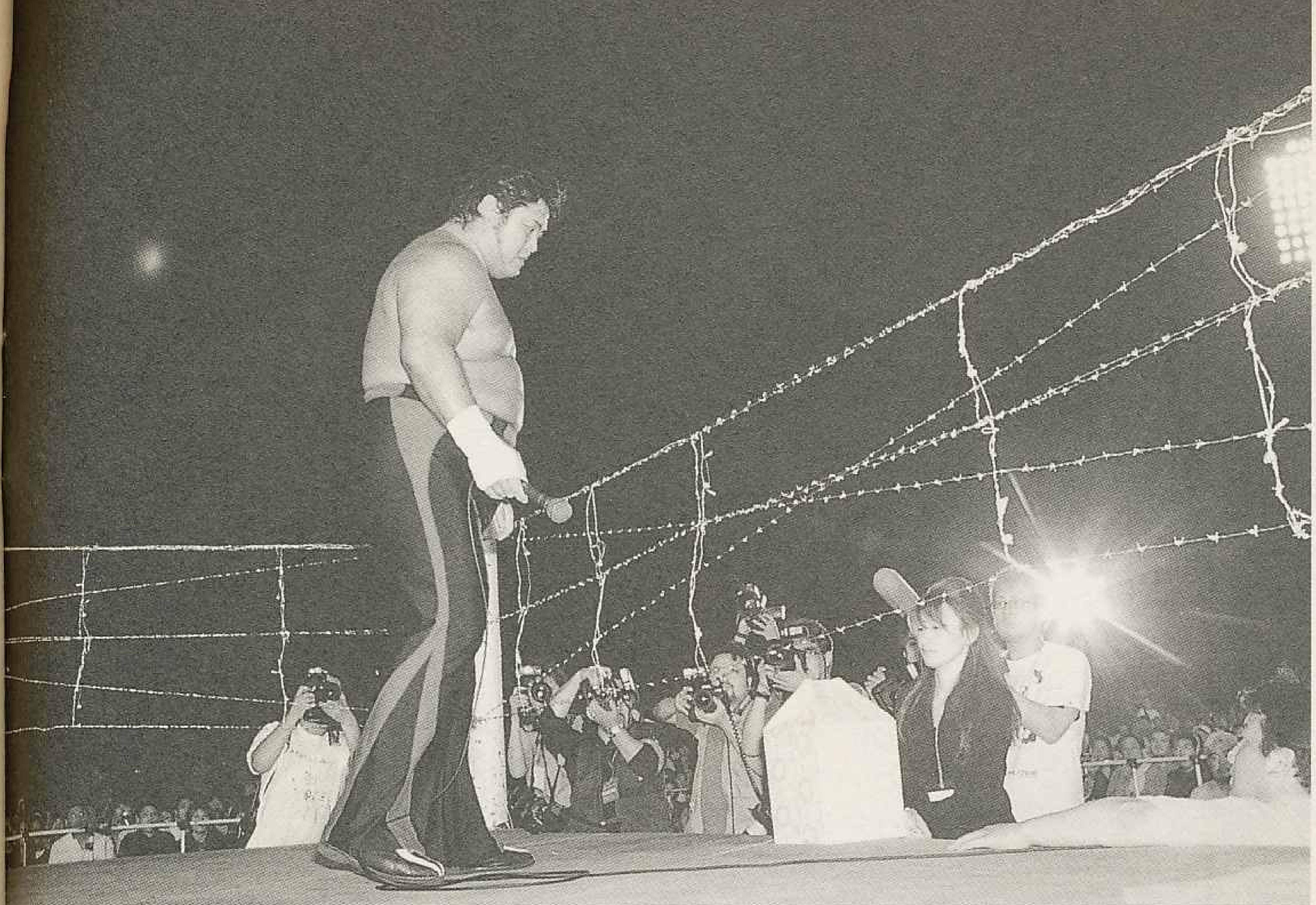
――一昨年の『火祭り』のときの『PRIDE』方面との軋轢も、石井館長とのイザコザも、向こうサイドにとって、あの頃は「ZERO―ONEなんて、ひとヒネリだ」って思ってたはずですよね。ところがこんなに大きくなっちゃった（笑）。

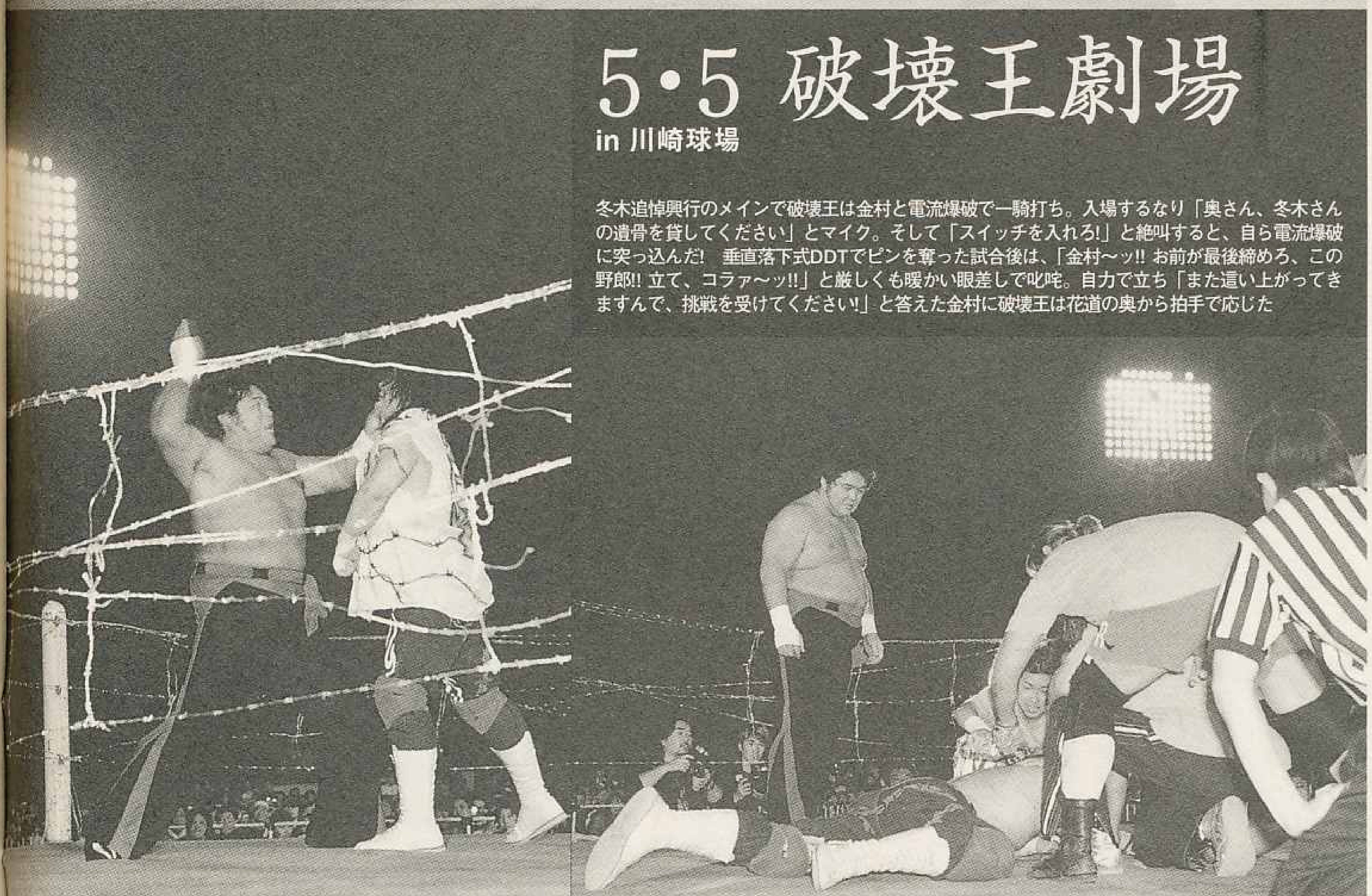
橋本　まだまだ怖いですよ、俺らはこれから。なんかね、みんなに言ってんだけど、負ける気しないんだって！

――負ける気がしない！　実に素敵です！

橋本　これは俺の中に絶対あるんですよ。金で追い込まれようが何されようが、負ける気がしない！（キッパリ）。なんでかはわからない。それはよく中村と話すけど、「俺らは真っ当にやってて良かったな」って。

それはいっつもアイツと話してる。
——橋本さんには「プロレスは逃げない！」という名言もあったけど、橋本さんは絶対に逃げないですからね。いつも真っ正面から向き合うし。
橋本　まあ、でも、しょうもないときは逃げるけどな。女からも逃げるし（笑）。
——誰もそんな話聞いてないですよ（笑）。長いモノに巻かれない立派な体格を持ってますしね（笑）。
橋本　いや、長いモノに巻かれることも大事だと思うけど、巻かれないことも大事じゃないか？　猪木さんだってそうやって生きてきたわけでしょ。巻かれなかった時期があったからこそ、いまも絶対的なモノがあるわけだから。
——今後、ZERO—ONEにとっての大きな意味での敵はなんですか？
橋本　やっぱり世間しかないやろ!!
——やっぱり世間ですよね。業界の中で言うと、たとえば永田選手がNOAHに参戦したり、秋山選手がG1に出場する気配があったり、メジャーの新日本とNOAHが暫定的なのか継続していくのか急接近してますよね。
橋本　それはいいんじゃないの。俺らが口出すことじゃないし。三沢がそれを選ぶんであれば。でも、アイツら絶～っ対、おいしいとこしか取らない。
——そのNOAHにはガイジン勢が出たり局地的外交がZERO—ONEとはありますけど、この間の5・2で言うと、新日本とNOAHとパンクラス。この3つが、なんとなく協調路線を形にしてきてますよね。
橋本　（遮って）いや、パンクラスはプロレスはできないやろ？　あんまりプロレスのこと言わないでくれって。
——鈴木みのるが今度新日本に上がるんですよ。
橋本　まあ、上がるんだったら上がるでハッキリしろよって。好き勝手はよくない。
——パンクラスMISSIONっていうプロレス部門を作ったんです。
橋本　俺からしたら一緒だよ。『真撃』つくったみたいなもんだろ。
——まあ……そう……ですね（笑）。
橋本　だから、みんな「わぁ～」ってこっちに波が来ると、「わぁ～」ってこっち来るんだって。
——でも数年前は総合格闘技ばかりが脚光を浴びちゃって、純プロレスの光は鈍ってたけど、いまは勢いがあるのは純プロレスの方ですよね。
橋本　なんか波があるんだろうな。UWFが出てきて、ロープに飛ぶとか飛ばないとかやってた時期もあったけど、またプロレスに返ってくる。やっぱり、これからはプロレスがカムバックする番や！
——純プロレスに光を戻したっていう意味では、ZERO—ONEの存在はホントにデカイ。ファンの間でも言われてる、激しいハードヒットの試合と高速3カウントが同居してる、その懐の深さも見せつけていったし。
橋本　だから、地上波をあの時間帯でどう使うかだね。今期は年6回だけど、次は月に一度ぐらいにしたい。プラス全国ネットやな！
——で、さっきの話に戻りますけど、5・2では、片や新日本・NOAH・パンクラスで、片やZERO—ONE・全日本・UFOっていう、興行的な見地から見た場合、色分





5・5 破壊王劇場
in 川崎球場

冬木追悼興行のメインで破壊王は金村と電流爆破で一騎打ち。入場するなり「奥さん、冬木さんの遺骨を貸してください」とマイク。そして「スイッチを入れろ!」と絶叫すると、自ら電流爆破に突っ込んだ!　垂直落下式DDTでピンを奪った試合後は、「金村～ッ!! お前が最後締めろ、この野郎!! 立て、コラァ～ッ!!」と厳しくも暖かい眼差しで叱咤。自力で立ち「また這い上がってきますんで、挑戦を受けてください!」と答えた金村に破壊王は花道の奥から拍手で応じた



ZERO-ONE 大爆発!!

けみたいなものも出ましたけど、それには何か感じます？

橋本　対抗するものがあるからこそいいんですよ。自分のとこに対抗するものをなくしてしまったらダメ。ひとつだけになってしまったらロクなことはない。やっぱり、競争相手っていうのがいてこそ光るものであって。

――じゃあ、新日本は、競争相手と見てるわけですか？

橋本　まだまだ、そんなこと俺が言える段階じゃないよ。"競争相手になりたいなぁ"って（笑）。

――謙虚だなぁ、今日は（笑）。でも"場"としての求心力ではZERO―ONEサイドの方が優ってますよ。

橋本　いや、夢を言ったらあんなもんじゃないよ！　もっともっと上を狙わないといかん!!

――もちろんですよ！

橋本　まあ、ウチのプロレスの最高の定義は、強くなきゃいけない。あくまでも、それが定義ですから。

――そこの部分を、新日本はバーリ・トゥードとの二部構成にして見せようとしてるんでしょうけどね。個人的にはZERO―ONEにも将来、バーリ・トゥード部門をつくったら面白いと思うんですよ（笑）。

橋本　いまはウチには必要ないだろ。

――確かにいまはそうです。

橋本　でも、やるヤツはいるんじゃないの？（佐藤）耕平だってできるだろうし。ただね、2ついっぺんにやるっていうのはね、無理ですよ。そんなことより……もっと違うことやりたい！　ZERO―ONEジャニーズとかな。アイドル軍団！　どうや？

――ガハハハ！「どうや？」って言われても（笑）。でも橋本さんもそこに入ろうとするでしょ？

橋本　いや、俺は入れない！

――いや、つくったら「絶対俺も入るゾ」って言うと思う（笑）。いまのメンバーで候補はいるんですか？　ゼロジャニの（笑）。

橋本　いまはいないけど、やるんだったら闘龍門を抜かないといかんからな。ホスト系ばっかりでもダメだしな。

――いまのZERO―ONEはゴツさが売りだもんなぁ（笑）。

橋本　ポスターよく見てよ。いまはゴリライモみたいなのばっかりやろ（笑）。

――よく見なくてもわかりますよ（笑）。でもZERO―ONEには大きな幹になってほしいんですよね。どっちにも出撃できる大きな幹に。

橋本　それだったら総合会社になっちゃうよ。

――新日本が5年ぐらい前からそれをやってれば……。

橋本　（遮って）だって否定してきたじゃない！　新日本さんは。長州さんが一番ヒクソンに対して意地になってた。あのときに対処してるか、それか全く無視してやってればよかったのに、中途半端に相手にするからダメだったんだよ。

――長州さんは「ホイスなら飯塚でもいける」とか言ってましたからね。

橋本　だから、手を出すんだったら相手すりゃええんや！　俺らは『PRIDE』の選手ケナしたこともないし、他もケナしたことはない。ただプロレスに来るとなったら話は別だよ、と。マーク・ケアーなんて一生懸命やってるんだよ。ただ、あまりにも高いから「いらねえ」って話でな（笑）。お前に、そこまでの値段は払えねえよって。

――プロレスに熱を取り戻す役割としてのZERO―ONEには圧倒的なエネルギーを感じるけど、いまの時代は、もしかしたら総合格闘技を知ってからプロレスを知るっていう人も多いかもしれないですよね。

橋本　取っかかりはそれでも、ウチを見て「なんか面白そうだ」って思ってもらえればいいわけだから。

――だから、数年前と違って総合格闘技とプロレスが対立する時代じゃないと思うんですよね、いまは。

橋本　あれはさ、競技してる人は別にして、『PRIDE』の後ろにいる人とプロレスの後ろにいる人がケンカしてるわけだよ。そこが対立してるから、あまりにもアホらしい。それには付き合えないって話や。

――なるほど。あ、そうだ！　この間のドームでLYOTOっていう猪木さんの秘蔵っ子が謙吾選手に判定勝ちして、リングサイドの猪木さんに挨拶しに行ったら、鉄拳を喰らわされたんですよ。聞きました？

橋本　アメリカ人には通用しねえだろ。

――いや、LYOTOは日系ブラジル人です（笑）。やっぱりね、それを見たときに闘魂の遺伝子を継いでるのは橋本さんじゃないかな？って思ったんですよね。

橋本　なんで？

――精神的な部分ですけどね。ファンタジーとリアリティーの世界が全く一心同体になってるというか。

橋本　なんで？　それを見て思ったの？

――普通、バーリ・トゥードの試合をやった後に、鉄拳制裁する師匠やコーチっていないじゃないですか？　それが憤怒の表情で「不甲斐ない試合しやがって」っていう形で、張り手だけじゃなく鉄拳まで喰らわせた（笑）。それを見て、「あれはホントに怒ってるのか？　それともパフォーマンスなのか？　どっちなの？」っていう論争も呼ぶわけですよ。

橋本　両方や！

――ですよね（笑）。で、冬木さんの遺骨を持って電流に飛び込んだ橋本さんにも、真剣さと演ずること、本気とパフォーマンス、ファンタジーとリアリティー。相反するものが同居してる、あるいは一心同体になってるところを改めて感じるんですよ。そういう世界はやっぱ凄ェ！と感動したんですよね。その部分を継いでるのは橋本さんしかいない。

橋本　なぜだろうなぁ？　俺もよくわかんない。殴ることによって、それもゲンコツで殴ることによって、要するに世間様に対して、「コイツは今日不甲斐なかったけど勝ったんだ」「ホントはもっと強いんだぞ」っていう意識を持たせさせるためだっ



突然「痒いぃ〜」と叫んで、壁の角で背中を掻き出した我らが破壊王。電流爆破の傷が治りかけなのだ

たんならいいんですよ。ホントだったら、もっと謙吾よりレベルが上だっていうことを、それによって植え付けちゃうんですよ。悲しいかな、尾崎社長にはそれができないんだよ。

――競技として捉えてたら「まぁ、よくやったよ」で終わりでしょうからね。

橋本　それは猪木さんの持った……俺にはなんとなくはわかるんだよ。

――わかると思いますよ、橋本さんなら。判定でも勝ちは勝ちだってことで、「良くやった」と言うのが普通の世界じゃないですか？

橋本　（突然）でもな、新日本がやってるのは『真撃』じゃねえかよ！

――ガハハハハ！　新日本も『真撃』！（笑）。

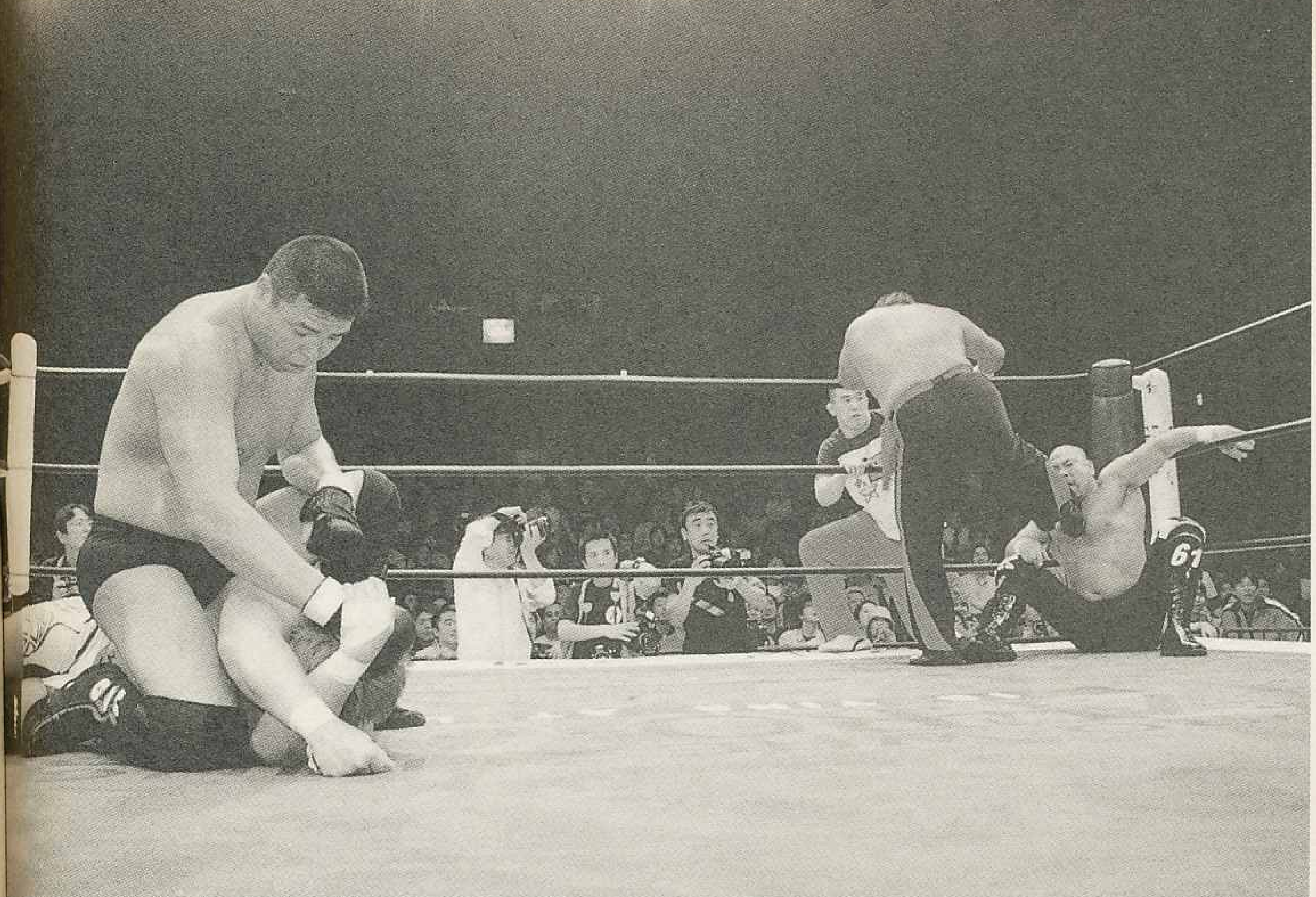
橋本　ウチだって『真撃』で謙吾のバーリ・トゥードの試合やってたぞ！

――やってました！『真撃』は時代をちょっと先取りし過ぎましたね（笑）。

橋本　まあ、いいけどさ。

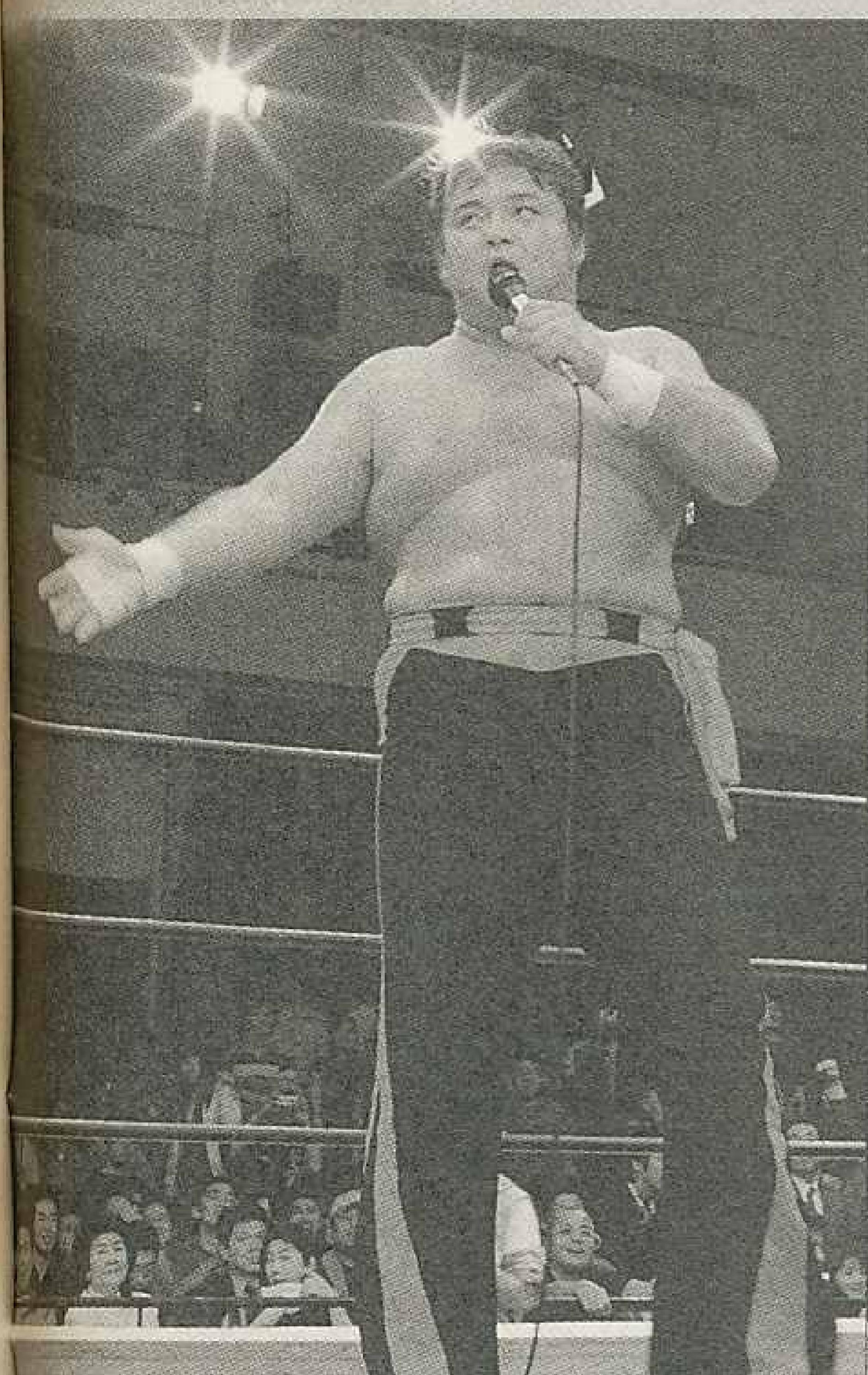
――でも、そういう意味でGWは猪木さんと橋本さんにしか目が行かなかったと言っても過言じゃない。だって、全試合よりも猪木さんの鉄拳制裁の方が元気と殺気があるように見えるんですよ。

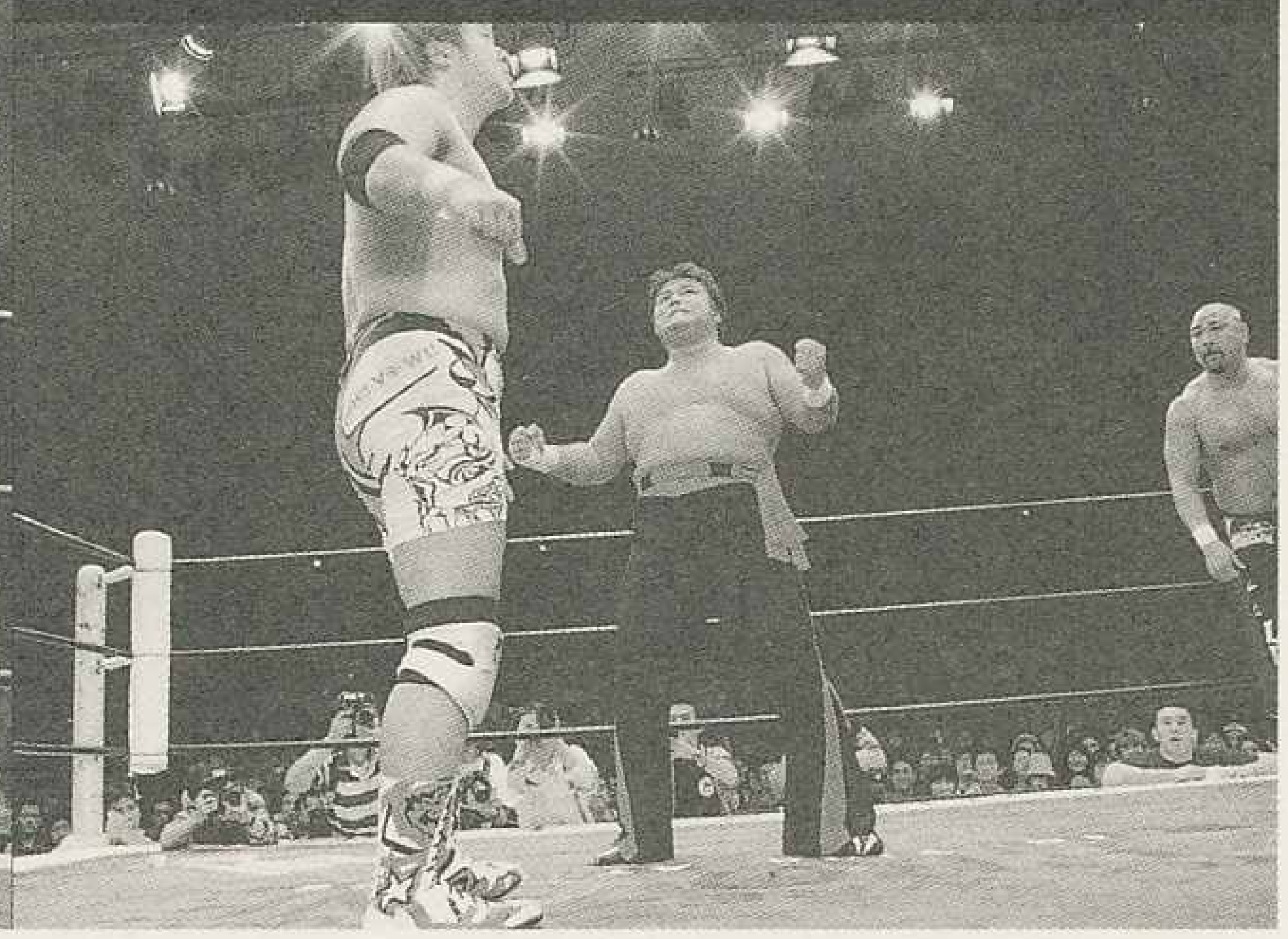
橋本　だからそれはね、鉄拳制裁でみんなが何を感じるかっていうことでしょ。それを気づく人がいまは少ない。「猪木さん、厳しい人だなぁ」って思う人もいれば、田舎のおばちゃんなんか「勝ったのにカワイソーに」とかな（笑）。それが「そうか。アイツは実力にそぐわない不甲斐ない試合をしたんだ。でもホントは強いんだ」って段々わかってくる。ということは謙吾と差が付いちゃうんだ、それで。



5・2 破壊王劇場
in 後楽園ホール

メイン終了直後に乱入した川田は「橋本、聞けよ、オラ！　お前が誰に勝とうが誰を潰そうが、俺を潰すまでは全日本を潰せないゾ、オラァ!!」と叫び立ち去る。破壊王は「川田を倒せばいいんだろ!?　なんだよ、言って逃げたのか、コノヤローッ!!　もう俺は止まんねぇゾォ！　絶対、潰すぞォ!!」と改めて"根絶やし"宣言。間髪入れずに「ありがとうッ!!　みなさん、ご起立ください！　みんな一緒に頑張るゾ!!　スリー、ツー、ワンッ、ゼロワンッ!!」で豪快＆爽快に締めた!!





――ただ、その鉄拳制裁にしても、「猪木さんは、いまあるバーリ・トゥードをやったことないじゃないか？」「それなのに何で試合が終わった選手を殴れるんだ」って批判的に思った関係者は確実にいるでしょう。でもそれを超えたものを現実として立ち昇らせてくれる……。

橋本　（遮りながら力を込めて）だからこそ、エンターティナーなんですよ！

――そういうことです！　リアルな感情がエンターテインメントに化ける瞬間を演出するのがプロの真骨頂ですよね。

橋本　あの人はそんな難しいこと微塵も思ってないでしょ。とにかく「俺が一番！」と思ってますよ。だって、柔道の世界選手権観に行ったって、「あんなのバンバンバンってやったら飛んじゃうんだよ」って言ってたからな（笑）。

――ガハハハハ！　凄いなぁ。

橋本　まぁ、猪木さんのことはあんまり言うつもりもないし。また「橋本ごとき」って言われるからね。死ぬ直前まで言ってるんだろうな、（アントン総帥の物真似で）「俺が一番！」って（笑）。でも、なんでもそうだよ。人間は表の顔、裏の顔、いろんな顔を持ってるけど、なんでも剥いじゃったらダメ。衣着せてるからキレイな人もいるわけでしょ。中身を見たくないヤツもいっぱいいるんだよ。なんでも引っ剥がせばいいってもんじゃないんだよ。だから、映像と一緒で●ン●を見せ出してから……。

――ガハハハハ！　そっちに行く！

橋本　前はストーリーがあったんだ



よ。日活が生きてた頃は、そこに行き着くまでのいろんなシチュエーションが。

―桃色電車とか団地妻とかそういう類の話ですか？（笑）。

橋本 そうそう（笑）。だから、想像力が鍛えられた。いまの子たちは想像力がない！ 想像力を働かせるから、そのものを知ったときはもっと感動がある。いまは誰でも見ようと思ったら見えちゃう。チ●ポもそうだしな。ダメだよ、みんな、すぐに●ン●を見たら。

―ガハハハハ！ でも橋本さんも見てるでしょ？（笑）。

橋本 いや、俺はビデオ借りないもん（かわいらしく）。ホント借りない（さらにかわいらしく）。

―いまはインターネットですぐにモロに見れますからね（笑）。

橋本 だから、それがいいのか悪いのかって言ったら、俺はイマジネーションを働かせて「見たくて見たくてしょうがない。ア●コってどうなってんだ!?」って想像したほうがいいと思うゾ。それにな、いっぺんくらい見たって覚えられないやろ、ア●コの形は！

―ガハハハハ！ なんの話だ。

橋本 何回見ても「なんだこれは!?」って感動するやろ！（笑）。その感動は、一緒にするつもりはないけど、プロレスも似たようなもんだよ。

―プロレスもア●コも常に神秘的であってほしい（笑）。

橋本 そうや！ いまは政治家も何もかもみんな引っ剥がしちゃう。引っ剥がしてばっかりじゃ、いずれ自分も引っ剥がされるときが来るんだよ。

―橋本さんだってある種、"1・4事変"の小川戦の後は引っ剥がされたような状態でしたもんね。

橋本 引っ剥がされてな……さらけ出しちゃったら楽になる人もいるし、さらけ出したら終わってしまう人もいっぱいいるんだよ。

―あぁ。その差はなんだと思います？

橋本 なんだろうな？ それは俺もわからんけど、最近は暴露だどうのって、そんなのばっかだからな。たとえば悪代官が存在してたからこそ正義の味方もいるわけで、なんか悪党と正義の味方って紙一重だからさ。

―そうですね。おそらくその紙一重の部分、ギリギリの部分に闘魂というのはあって、そこが伝承されてるんだよなぁ、橋本さんには。冬木さんの遺骨を持って、電流爆破に飛び込んでいった橋本さんを見たときに、やっぱり闘魂伝承してるのは橋本さんしかいないなぁって思いました（笑）。

橋本 あれは最初から決めてた！ 冬木さんが亡くなったときから!! 俺が冬木さんと一緒の舞台に出るんだったら、それしかないなって。

―なるほど！ マスコミも、まさかそんなことをやるとは予想してなくて、写真がどこもほとんど撮れてなかったですね（笑）。

橋本 爆破もデカ過ぎたしな。この"バカマスコミぃぃ"って思ってさぁ。どこも撮れてない。足だけ映ってるだけ……ホントは全部行ったろうかと思ってたけどな（笑）。

―四面全部！（笑）。

橋本 まず一発確かめてからって思って（笑）。

―でも、みんなあの瞬間を見てスタンディングオベーションでしたよ。

橋本 でも、金村が飛んだときには爆破しねえしよ（苦笑）。ドッカーン！って鳴らなきゃカッコ悪いじゃんかよ。

―そういう橋本さんのセンスって持って生まれたもんだと思います？

橋本 知らん！

―あとから身に付いたもの？

橋本 まあ、"変わりもんだ"とは言われてたけどな（笑）。

―橋本さんは正直者だし変わり者だし……。

橋本 （遮って）たいがいの人が、こう感じるとしたら、俺もそれは感じるんだけど、違う角度からも感じるんだよな。ひねくれ者とは違うゾ！

―何も言ってませんよ（笑）。

橋本 探るつもりじゃないんだけど、なんか本能的に、一番ド真ん中でストレートに感じることもできるんだけどな。

―たぶん橋本さんは女の子を見るときでも正面からもガッと見るし、チラッと見たりもするし、加えて、顔から胸からスカートの下からとか、いろんな角度から覗いたりするんでしょうね（笑）。きっと好奇心がめちゃくちゃ強いんですよ。

橋本 なんか俺さ、新地のクラブでいつも乳揉んでるって噂が出てるみたいなんや（笑）。

―ガハハハ！ 話を変えます。でも、この間の後楽園は武藤＆小島組も実に気合い入ってましたね。橋本さんと小島選手の打ち合いも凄かった。

橋本 まだまだ。本気でやってくれてよかったけどな。でも武藤敬司、嘘つきうまいねぇ（笑）。

―試合の中で？

橋本 嘘つかなかったのは頭の毛だけだ（笑）。

―ガハハハハ！ でも橋本さんの"シャイニングどっこいしょ"（掟破りのシャイニング・ウィザードを失敗）は逆に相当なダメージだったみたいですね（笑）。

橋本 あれ、あそこで踏ん張っちゃうと、グシャッてなる。でも、だったらヒザ立てとくなって話だよな（笑）。



ファイトクラブ

新日の31%に大差79%

ZERO-ONE圧勝

5・2史上最大の興行戦争 ファンの満足度は

出口調査

週刊東スポ

浅野社長

体が弱く休みがち 将来に不安が

ヘビ男ジェイク・ロバーツ

5・2で奇しくも隣り合わせとなった新日本ドーム大会とZERO-ONE後楽園大会を比較した出口調査（5月7日付の東スポ）。「隣が気になったか?」の問いにはドームを観戦したファンの64％が「気になった」と回答。後楽園を観戦したファンは、実に83％が「気にならなかった」と答えた。求心力ではZERO-ONE圧勝と言っても過言ではない。オー、エイチ、（後楽園）ホールッ!!





ZERO-ONE 大爆発!!

よし、今度はあれやるゾ! "ヒトヅマ・レッグラリアット"!! どうや?

――目の前に立ってるから踏み台にするわけですからね（笑）。
橋本　今度は飛んじゃおうかな、坂田（亘）みたいに。
――飛びヒザ蹴り！
橋本　それかイナズマみたいなヤツか？（笑）。
――破壊王が〝イナズマ！〟（笑）。
橋本　俺がやるんだったら〝ヒトヅマ〟でもいいかな（笑）。
――ガハハハハ！　人妻レッグラリアット！　バツグンです（笑）。でも地方でも橋本さんがドロップキックやっただけでメチャメチャ湧きますよね。
橋本　あれはなんでだろう？
――橋本さんが飛ぶとは思わないからじゃないですか（笑）。
橋本　俺はローリングソバットもできるゾ!!
――ガハハハ！　負けず嫌いだもんなぁ、そういう面でも（笑）。
橋本　小島の前方回転もマネしようかと思って。あれだったらできそうな気がする。
――橋本さんがやったら相手が死にますよ（笑）。橋本さんが前方回転やってるのを想像するとガファリを思い出しちゃったんですけど……。
橋本　俺は違うゾ！　俺はただのデブじゃないからな!!
――ガファリなんかどうなんですか？　橋本さんから見ると。
橋本　非常に面白い！　開花しそうな部分を持ってる。ただな、やっぱりオリンピックの鼻高々の部分が抜けなくて、周りから嫌われてるところもあるんだよ。
――あぁ、そうなんですか。
橋本　表舞台でホントの敵となるんだったら別だけどな。表舞台での敵じゃなく、裏での敵っていうのはいらないから。プロレスやるんだったら、「郷にいったら郷に従え」って言葉もあるように、過去の栄光を一回捨てなさいよ、と。まぁ、大丈夫だろうけど、そのへんが芯で理解できれば、まだまだ大きな花を咲かせるよ。アイツの場合は大きな腹か。
――大きな腹を咲かせますか！（笑）。その〝捨てる〟っていう作業はアマチュアで実績のある人にとっては難しいって、昔からよく言われますよね。
橋本　小川なんて、それがいい意味で区別できてるから。小川はもっともっとうまくなるんじゃないの？　ただ、あんまり器用になってもアイツの良さが消えちゃうところもあるだろうし。大丈夫だよ。最初っから乗っかっちゃった人間っていうのは大丈夫。最初っから乗れた人間っていうのは……乗れそうになったのは北尾だったけど、それからアイツは放棄しちゃったからな。小川は乗っかってる。ホント、ああいう人間は何十年に1人じゃないか？……あと、馬場さんがいたか！
――オーちゃんは馬場さん以来かぁ。

なぜだ!?　銀座のママが練習開始前の破壊王を突如、表敬訪問！



ZERO-ONE 大爆発!!

インタビューが終わり、破壊王が練習を開始しようとした瞬間、バツグンのタイミングで銀座「クラブ　ミカド」の桃子ママが差し入れを持って表敬訪問!「ママ、写真撮るゾ!」――ここでもリアルな感情がエンターテインメントに化けた（のか？）

そう考えるとスケールデカイなぁ。
橋本　だから、どっちかっていうと俺は猪木さんっぽい。下から這い上がってきて、まぁ、雑草だから。
――じゃあOH砲はそういう意味でもBI砲以来のタッグなんですね。
橋本　ウチらは、BI砲のようなインパクトはないけどな。だって、外見からして違うもん。2人とも●●みたいなもんだからな（笑）。
――ガハハハハ！「悪口は言わない」って言っておいて、自分から言うもんなぁ（笑）。
橋本　いまのは悪口じゃないやろ。
――じゃあ、外見のインパクトを重視して、橋本さんがもっともっと太るとか？
橋本　（話を聞かず）馬場さん、猪木さんは偉大だったということだよ。
――でも、ますますZERO―ONEの役目は大きくなると思いますし、マット界の中心に躍り出てください よ！
橋本　もちろん！　頭の中には漠然とした計画はあるよ。
――これからもいろんな役割が生まれてくるでしょうしね。
橋本　もちろん。まあウチは、「目指せゴールデンタイム」や！（笑）。
――それは素晴らしい！（笑）。
橋本　お、またキレイな人が通った……。
――ビバ、破壊王!!「スリー、ツー、ワンッ、ゼロワンッ!!」。

【5月12日／レベルの高いOLが通るのを眺めながら、都内ZERO―ONE道場のベランダにて収録】

またしても地上波登場!!
破壊王、人気ドラマ出演!!



破壊王が地上波で嵐（not全日の嵐）と競演!『きみはペット』に、主人公カップルの女の子の"元カレ"役で出演した姿にキミも釘付けだ!（5月28日、TBS系で22時～放映）



破壊と創造、そして爆発!!

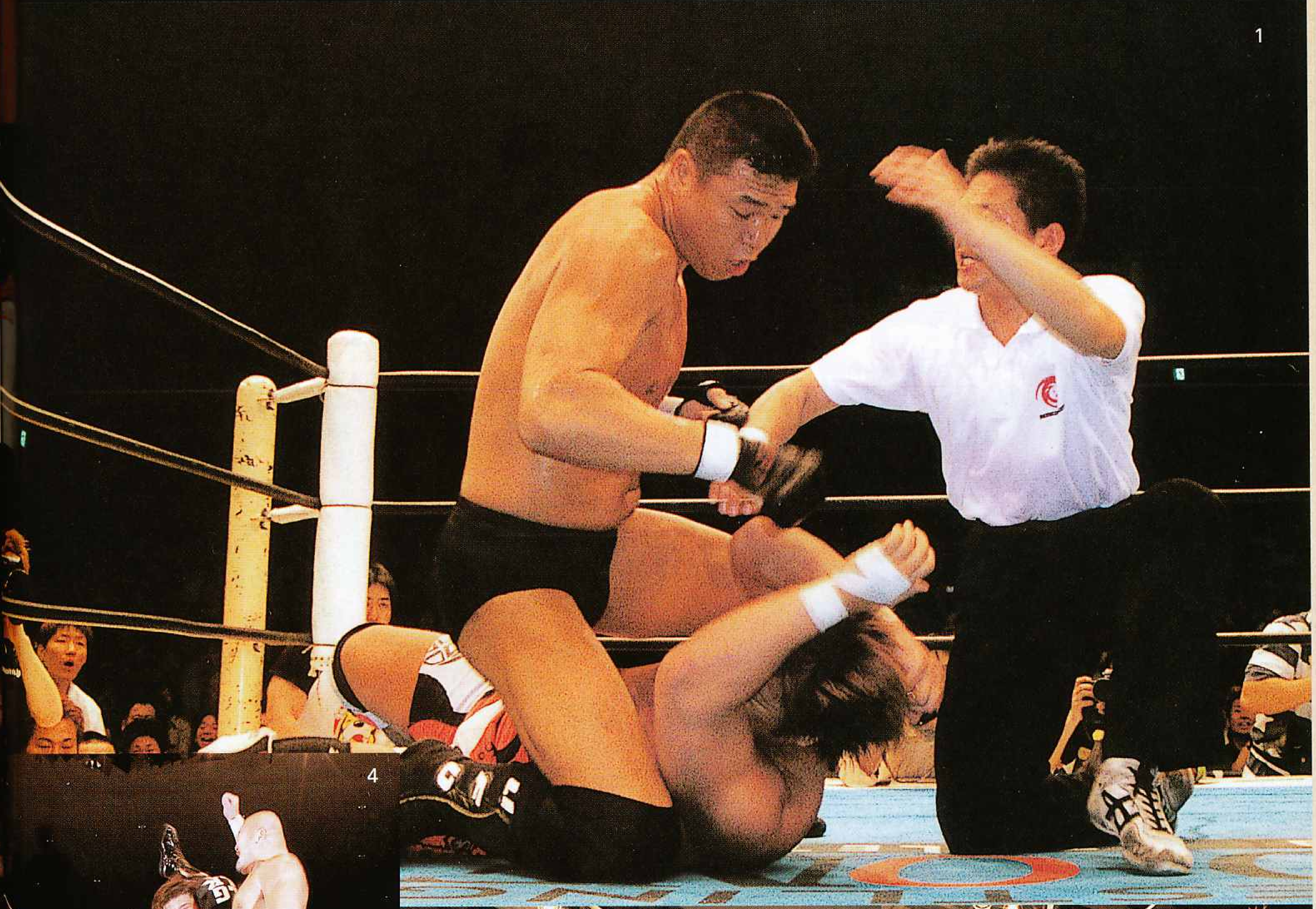
ZERO-ONE ワールドつるべ打ち!!

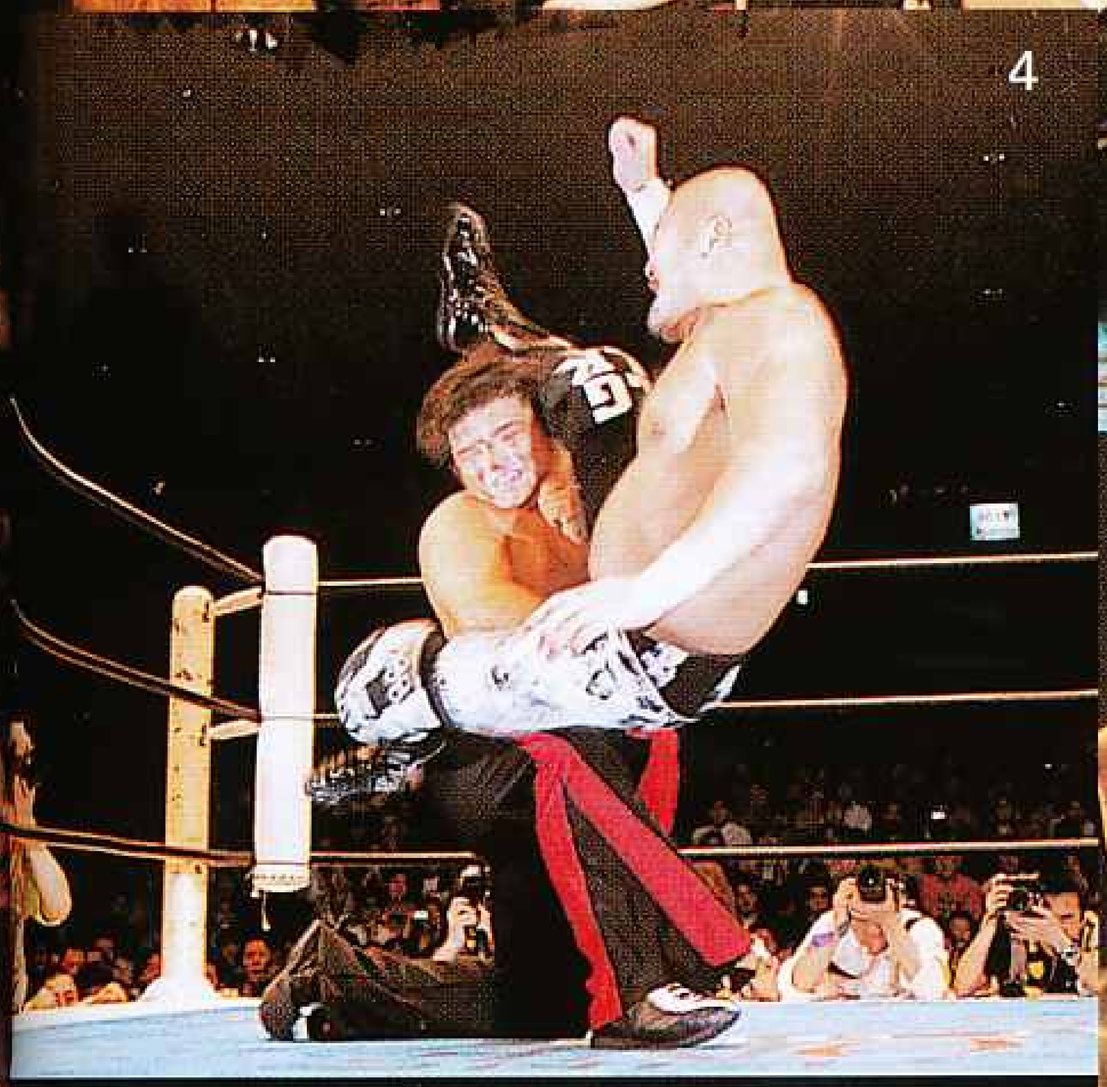
テレビ東京でスタートした地上波放送で、初めて動くZERO-ONEを観たという人も少なくないだろう。
今回はテレビでも放映され大好評のOH砲vs武藤&小島戦、
さらにメイン以外でも異様な大熱狂に包まれた札止めの5・2後楽園大会の模様を中心に、
関東近郊のZERO-ONE興行には欠かさず足を運んでいるという筋金入りの"ゼロ中"ダイスさんが、
その魅力をたっぷりと紹介します! ようこそ、ZERO-ONEワールドへ!!

文/ダイス　構成/チョロ designed by hisa (Two Three)



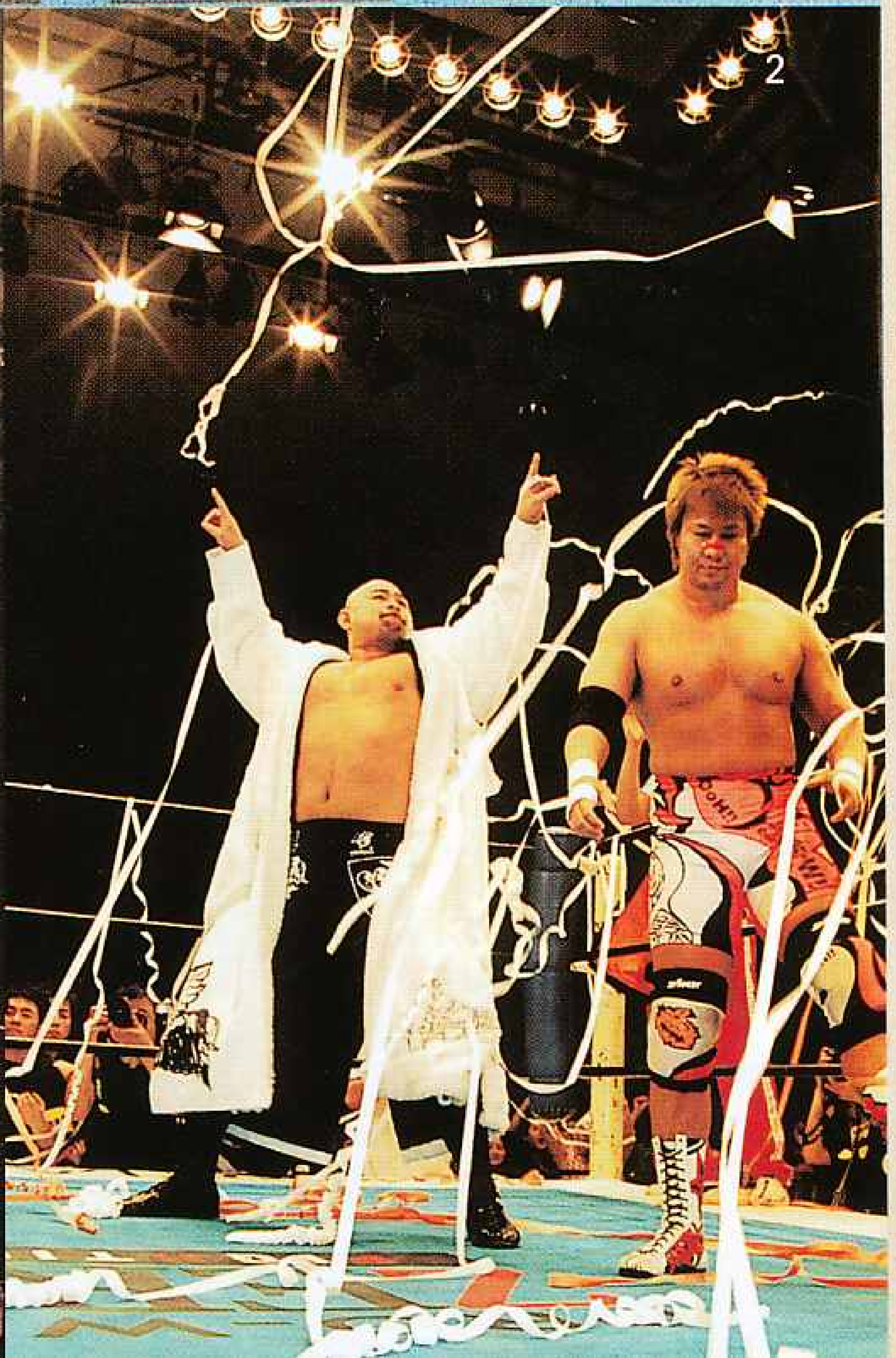
常に期待以上のお土産を持たせてくれる団体。それがZERO-ONEだ!!





①フィニッシュの小川のマウントパンチ。しかし、これで終わらないのがZERO-ONEだ②全日というか小島ファンは女性多し。……別に悔しくないぞ③小川、ホール初登場。久々の凶眼で全開④この後、橋本はシャイニングどっこいしょで反撃⑤俺だけ刈れ！　インディ団体で使われていたネタだが、さすがに本家の迫力は格別







プロレス界最大のビッグイベント、5・2新日本東京ドーム大会の裏では、それに背を向けることに価値を見出す連中が、後楽園ホールを限界まで埋めていた。地方ではお年寄りから子供まで、誰もが楽しめる団体として評価の高いZERO—ONEが、この日は誰よりも厳しい目でプロレスを見ている人たち2300人を前に大勝負を打っていた。地上波放送第1回目の収録。絶対に失敗を許されない今大会は、自分の嗅覚以外は信じないマニアたちの厳しい視線の中で行われていた。

ところが、いつもやや皮肉な視線で、つっこみ所を見逃さないように見ているマニアたちが、今日はマニアではなくなっていた。1試合ごとに異なったテイストで、かつ、面白い試合を見たマニアたちは、初めてテレビでタイガーマスクの躍動を見たときのように、ジャイアント馬場の雄大な姿を見たときのように、アントニオ猪木の闘魂が立ち上る瞬間を見たときのように、キラキラとした目で声の限りコールを送り、真っ赤になるまで手を叩いていた。

メインイベントは、OH砲vs武藤・小島。武藤と小島に歓声とそれに倍するブーイングが送られると、場内に不思議な空気が満ちてくる。プロレスを好きになって、何度もだまされて、それでも自腹でチケットを買って、会場の空気を吸わねば生きていけないジャンキーたちが出す不思議な熱。いちげんさんにはおすすめできない濃密な空気がたちこめる中に小川の入場テーマが響くと、非常用エネルギーまですべて使い切るかのような歓声が響き渡った。だけど、これで終わりじゃなかった。『爆勝宣言』のイントロに、誰もが、声を限りに「橋本!」と絶叫した。2300の歓声は轟音となり、濃密な空気そのものに酔うような快楽を味わっていると、ゴングが鳴った。

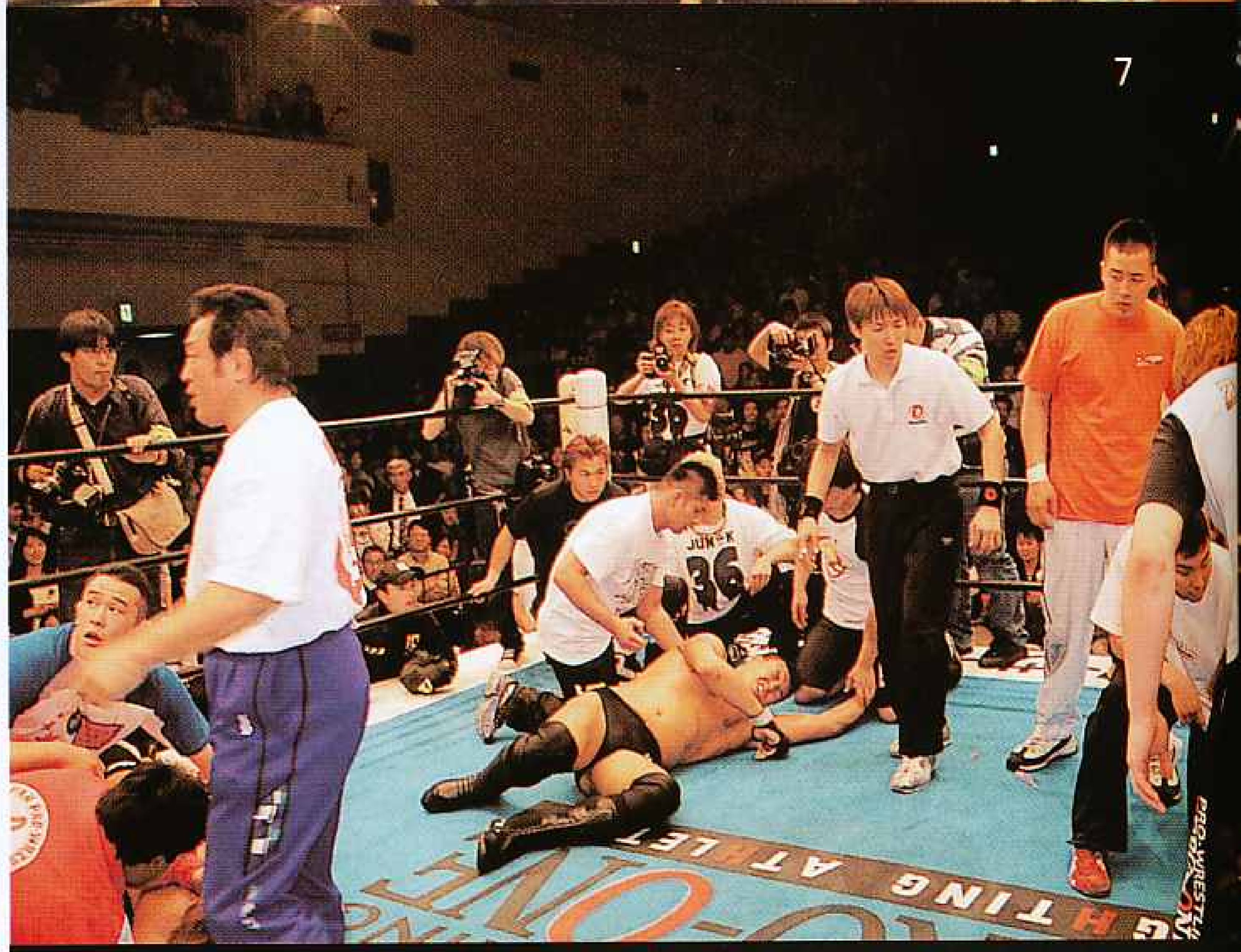
小川と小島のファーストコンタクト。小川と武藤の空間を削り合うようなレスリング。武藤のシャイニングウィザードをシャイニングよっこらしょで返す橋本。強引にラリアットを叩きつける小島の姿にも声援が集まり出し、「いっちゃうぞバカヤロー!」を会場全体で叫ぶ。それでもホームの利か、OH砲は小島にダブルSTO、武藤に『刈龍怒』を決め、『俺ごと刈れ』で小島にとどめを刺そうとする。しかし、小島はこれを狙っていた、小川のSTOを見事にすかして、『俺だけ刈れ』を橋本に炸裂させた。歓声と拍手と爆笑が交差するリング上で、小島が小川相手に勝負を賭けるが、小川が久々に見せた凶相から放つマウントパンチ連打で勝利をもぎ取った。高まるだけ高まった場内の期待に充分にこたえた好試合に、誰もが満足していた。だが、ZERO—ONEがここまでマニアに愛されているのは、期待通りの試合を見せてくれるからではない。期待以上のお土産を持たせてくれるからだ。

勝利に喜ぶOH砲の前に、〝最後の王道〟川田利明が立ちはだかった。橋本を殴り、小川を蹴り飛ばした川田は、もはやパニックと言ってもいいほど騒然とした場内に向けて「俺を潰さなければ、全日本は潰れない!」とマイクで宣言。残された最後の大駒が、ついに戦場に打ち込まれた。

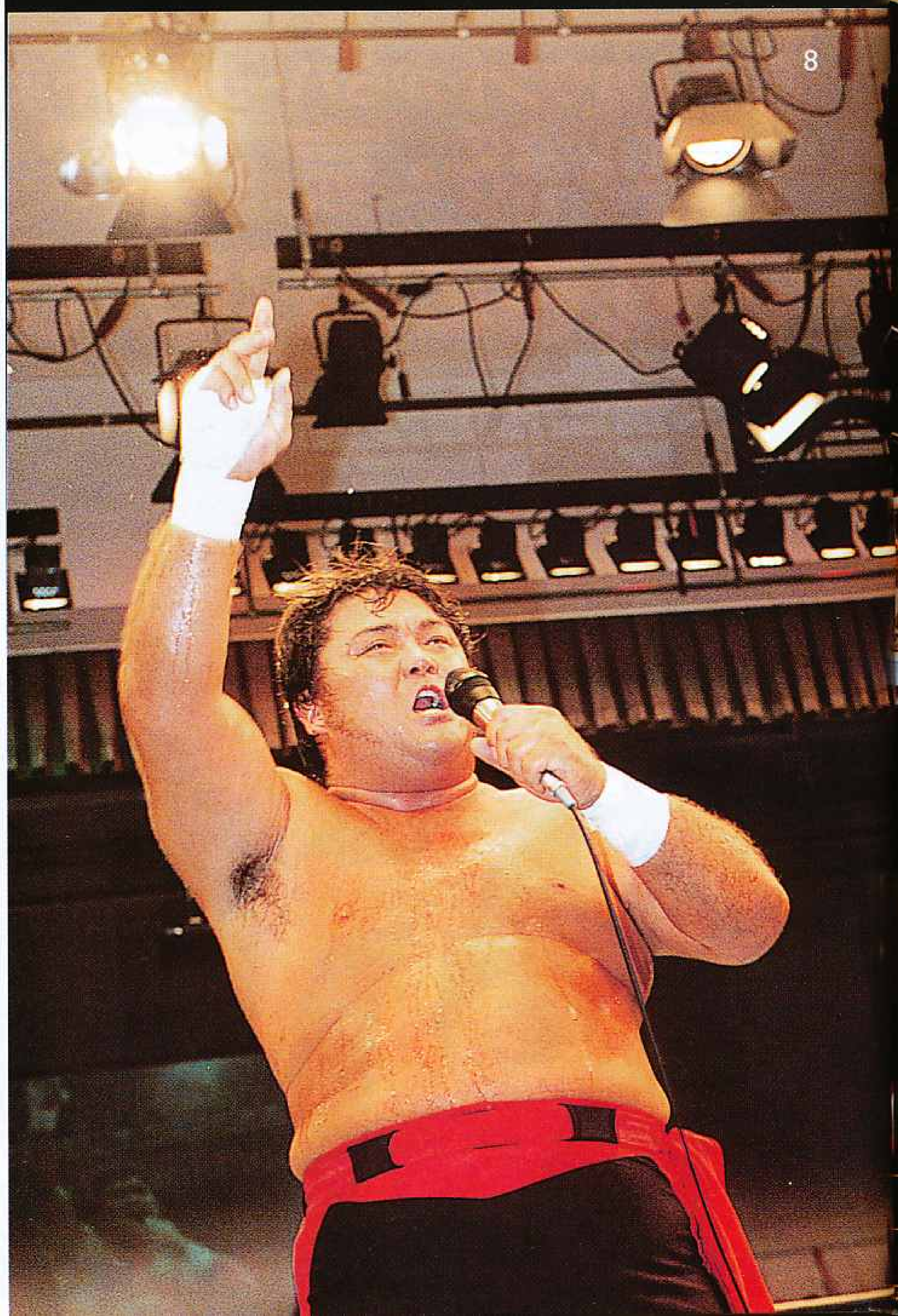
ZERO—ONEは様々な思惑に揺さぶられた、政治的な計算でつくられた団体のはずだった。それが、考案者のコントロールを越えるようになった。そのために起こった様々なトラブルから逃げたってよかったはずだ。だけどZERO—ONEは前に進むことを選んだ。気が付けばそこには仲間達がいて、とてつもなく深い腹の中で、それぞれの存在価値を磨いている。そして最後の王道が、このリングに足を踏み入れた。役者は揃った。もう迷いは無い。破壊と創造を繰り返して、ZERO—ONEは前へ進む。

みんなが笑顔で帰ったホール。熱気だけが残る中で、テレビ局のスタッフたちが「これは視聴率取れるよ!」と嬉しそうに話していた。そう、この熱は必ず届く。それが証明されたことが、自分のことのように嬉しかった。





⑥OH砲の勝利が告げられると、突如、川田が乱入！　また一人、ZERO-ONEに魂を吸い寄せられた⑦名物（？）の大乱闘！　お土産を持って帰らせるのがZERO-ONEです⑧最後は破壊王の皆さん、「ご起立願います！　行くぞーッ！　スリー、ツー、ワン、ゼロワ〜ン!!」で締め!!



困った
さい。

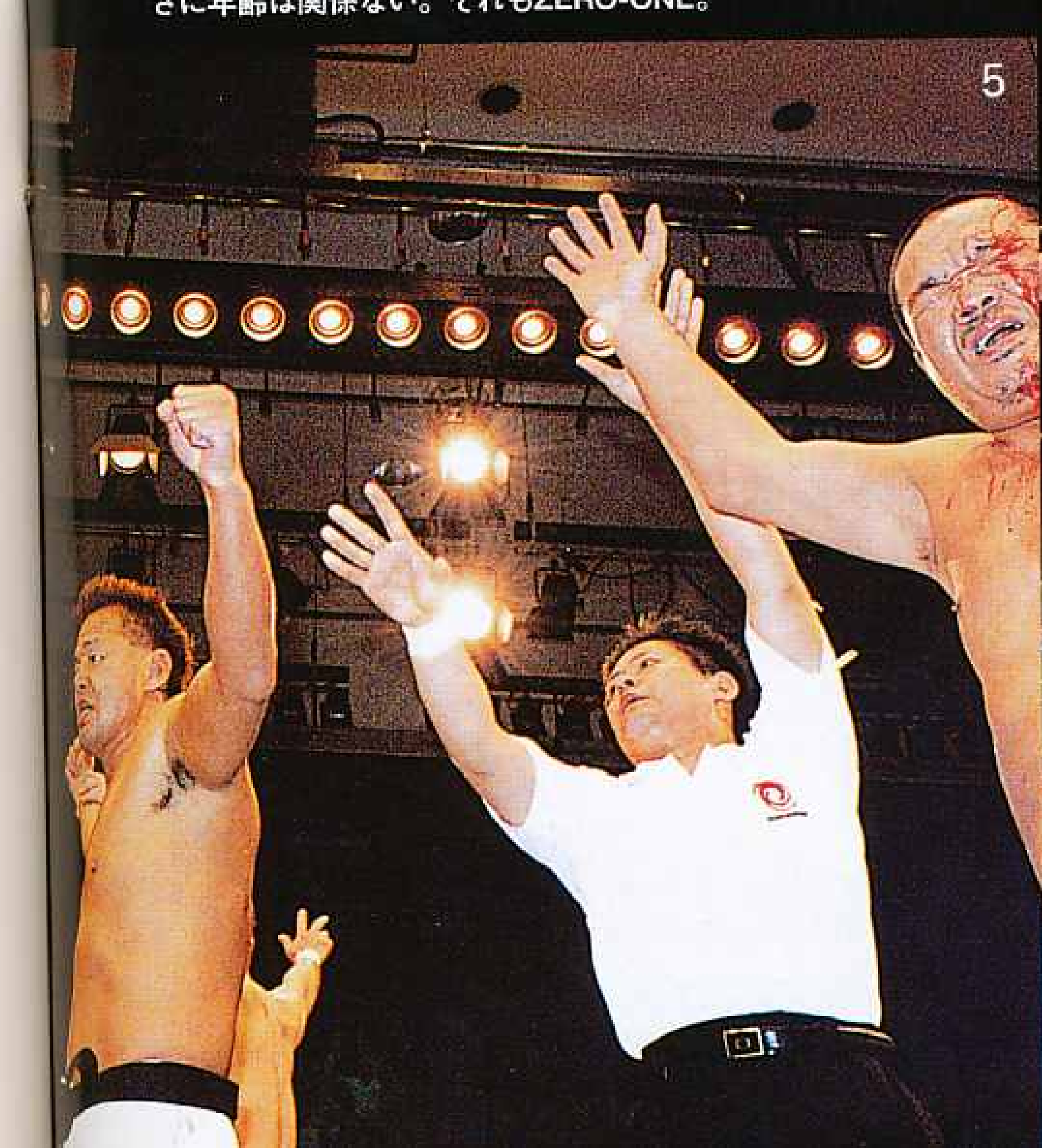
ZERO—ONEの売りはいろいろある。地方興行で、お年寄りからチビッ子まで

まるけど、冷房機能の高い会場でやってもらいたいと思う。もちろん、ちょっぴりアレな選手



高速3カウントからハードヒットまで
“喜・怒・哀・楽”特盛おかわり!! これもZERO-ONEワールドだ!!

①ジャンピング・アルピンプレスで中村部長失神。無惨！　この後、中村部長は担架で運ばれた。決着はリングでつけろ！②コリノのスクールボーイでZERO-ONE名物フレッドの超高速３カウントが炸裂！　耕平＆横井は大激怒するも、あとの祭り③MIKAMIと坂田のダブルインパクト。ZERO-ONEはプロレスの幅を極限まで広げる④Lowki式タランチュラ。高岩のパワーとLowkiのテクニックにホールが揺れに揺れた⑤藤原組長＆小笠原先生。熱さに年齢は関係ない。それもZERO-ONE。













⑥すっかりお馴染みとなった大谷の顔面ウオッシュ。これを叩き込むことで、熱さが注入されていく⑦いろんな意味で困った人、ジェイソン・ザ・レジェンド。チェーンソーを手に次期シリーズも参戦⑧真夏の日本をさらに熱くするぜ。許してください。

ZERO―ONEの売りはいろいろある。地方興行で、お年寄りからチビッ子まで喜ばせ、さらにはマニアからも高評価を得ているのは、今やプロレス界では死語となった「豪華外国人軍団」の存在するおかげだろう。中でもスティーブ・コリノとCW・アンダーソン。そしてNWAエグゼクティブレフェリー、ミスター・フレッドのインチキ外国人トリオは日本全国でさまざま問題を起こして、ファンから憎まれたり愛されたりしていた。

5・2でも金的↓スクールボーイ↓高速3カウントのコンボで、アメリカからMMAのベルトを持って帰ってきた横井宏考を丸め込んだりしていた悪者軍団に、ニューフェイスが加わった。NWA新会長、リチャード・アルピンである。前会長のジム・ミラーもそうとうな肉だったが、アルピンも負けず劣らずの肉。しかもアルピンは親日家というふれこみで橋本と握手をし、橋本に「歴代NWA会長は太っている人が多いので、私もいずれなれると思います」とまで言わしめていたにもかかわらず、言いがかりでOH砲の腰からインターコンチネンタルのベルトをはがし、それを抗議した中村祥之部長をフライングソーセージで圧殺。アルピンは一瞬にして大ヒールとなり、会場は「中村コール」に包まれた。ファンの声に敏感なZERO―ONEだけに、いずれは会長と部長の決着をリングでつけるような日も来るかもしれない。ていうか、来い。

さらに重力が引き合うのか、マット・ガファリやキング・アダモと言った、ステキな下腹部を持った選手が多いのもZERO―ONEの特徴だ。そんな脂身も溶けよとばかりに、高温多湿の日本の夏に合わせて300ポンド（約137kg）以上の選手ばかりを集めたD―CUPが企画されている。DはDestroy（破壊）のDなので、勘違いしないように。ちなみに破壊王の公式体重は若干300ポンドに届かないようではあるが、某番組で伊集院光よりも体脂肪率が高いことが暴露されたりしているので、その気になれば充分参戦は可能。期待は高まるけど、冷房機能の高い会場でやってもらいたいと思う。もちろん、ちょっぴりアレな選手ばかりではなく、トム・ハワードやザ・プレデターと言った正真正銘の強豪外国人もいるので、誤解のないように。

ゼロ中の心のよりどころの強豪外国人と言えば、現代のダイナマイト・キッド、Lowkiだろう。かつて新日本のTV中継は佐山タイガーマスクの4次元殺法を番組冒頭に流すことで高視聴率を狙ったが、それに倣うように『破壊王プロレスZERO―ONE』もLowki vs高岩を冒頭に持ってきた。そのわずかな時間でLowkiの魅力が全て引き出せたとは言いがたいが、この日の試合は高岩にとっても最高の名勝負という声も高い。高岩はいつのまにか、相手の力をすべて引き出すような懐の深い選手になっていた。この2人を中心に、ZERO―ONEのJr.戦線には元極真の小笠原、みちのくから東郷、謎のムエタイ戦士アシッド、〝狂猿〟葛西ら、様々なスタイルの選手がやって来る。その中で天下一Jr.のベルトを持つ坂田は、DDTのMIKAMIとタッグを組み、ラダーを使ったフットスタンプで場内の度肝を抜いた。5・29後楽園では坂田vs葛西という想像を絶するカードも組まれている。最近では対WEWでハードコア対応にも磨きのかかっている坂田だけに、有刺鉄線バットをフルスイングする坂田が見られるかもしれない。

そんな様々なスタイルを飲み込めるのは、あらゆるスタイルと名勝負を繰り広げることができる炎舞連夢・大谷&田中の存在が大きい。最近ではおとなしくなっていた藤原組長からテロリストの顔を引きずり出したり、全日本のぬるま湯をたきつけたりと、ますます行動の幅を広げている。大谷は5・2の試合後、超満員の観客に向け「これがプロレスだって、胸を張って帰ろう！」と宣言した。大谷は、そしてZERO―ONEは、いつも胸を張って、笑顔で家路につけるプロレスを見せてくれる。面白すぎて、朝まで飲みながら語っちゃうかもしれないが、それもまたZERO―ONEということで。

祝
地上波放送
開始記念!

あらためて破壊王が ZERO-ONE所属選手&常連外人を紹介!!

まずは日本人選手や!!



「時は来た！ ここを見ろ!!」

みんな、『破壊王プロレス　ZERO-ONE』は見てくれたかな？　おぉ、そうか。面白かったか？
ありがとう！ 今回は興味を持ってくれたキミのためにウチの選手を紹介しよう！
まずは日本人選手からや！ いくぞーッ、スリーッ、ツーッ、ワン、ゼロワン!!

大谷晋二郎

「怖い社会の世界でいうとウチの若頭的な存在や！」



怖い社会の世界でいうとウチの若頭的な存在や。それとウチの選手会長。選手会長は、自分のことだけやってないで下のことも見なきゃいけないんだよ。まあジュニアからヘビーに転向して苦しいときだと思うけど、だからこそ人のことを見て自分の力にしていってほしいな。

田中将斗

「そろそろウチを選んだ理由をリング上で出していかないと」



いろんな団体とかから、お誘いがありながらもウチを選んでくれたんだけど、そろそろウチを選んだ理由をリング上で出していかないと。いまは炎武連夢っていう形でやってるけど、まあ仲のいい者同士っていうのは別れたとき、もっと面白いんだよ。俺と小川みたいにな（笑）。

高岩竜一

「高岩の試合はハズレなし！ 藤原組長の評価も一番高い」



ハズレなし！ 藤原組長の評価も一番高いしな。一見地味かもしれない。顔もカッコ悪いし（笑）。でも彼ほど確率の高いパーセンテージを持ったヤツはいない。俺よりもパーセンテージを持ってますよ。ハズレの試合はウチでは一回だけ。だからゴルゴ21っていう感じだな（笑）。

星川尚浩

「旗揚げ戦の第一試合を任せたウチのジュニアの未来の大器」



記念すべきウチの旗揚げ戦の時に第一試合を任せたぐらいのウチのジュニアの未来の大器や。ただ、最近ちょっと太ってきちゃって、いまはイマイチ元気がないな。だから、近々、強い試練を一発与えてやろうかなと思ってるんだけど。まあ彼は女に……やめとこうか（笑）。

佐藤耕平

「もうちょっと体力をつけて早く上まで這い上がってこい！」



もう少し体力が付けば余裕ができると思うよ。早く上まで這い上がってこいって感じだな。それと俺の付き人や。ちょっと若者特有の要領の良さが目立つけど。

崔リョウジ

「アホッ！ はよう戻ってこい!!」



アイツに言いたいのは一言だけ！ アホッ！ はよう戻ってこい!!

黒毛和牛太

「牛のイメージを背負った日本一のプロレスラーになれ！」



牛のイメージを背負った日本一のレスラーになれ！ 天山とかもいるけど、その中でもナンバーワンを目指せ。あとは日本の黒毛和牛の救世主となってほしい。

富豪夢路[2]

「ZERO―ONEになくてはならないキャラの1人や！」



頭は固いけど身体が弱い！（笑）。まあでもZERO―ONEになくてはならないキャラの1人だよ。本物を身に付けるためにもっと練習して頑張れ。

葛西純

「身体もしっかり鍛えてるし、ちゃんと本物を持ったサルや」



サルはな、身体も鍛えてるし、本物を持った選手だよ。でも最近お笑いを封印とかやってるけど、そういうことやってるうちは上がれない。本質を見極めろ！

ドン荒川

「ウチの営業係長や！」



荒川さんはウチの営業係長。名刺にもちゃんと書いてあるからな。リング上での闘いは見てのお楽しみや！ カンチョーには気をつけろ！

佐々木義人

「コイツの試合も前座でハズレがないんだよ！」



ここ最近、身体が大きくなったなぁ。アイツの試合も前座でハズレがないんだよ。まあ早く前座を卒業できるように頑張ってほしいね。もう間近じゃない？

高橋冬樹

「ヘビー級のいい身体を持ちながら活かしきってない！」



のろい！ ヘビー級のいい身体を持ちながら活かしきってない。いつまでも若手気分でいるな。持つもん持って光れないっていうのは自分のせいだからな。

山笠Z"信介

「歯を食いしばって目をひんむいて向かっていく姿を見せろ！」



総合的になんでもできるから、あとは全てのパワーを出せるかだな。闘争心がまだ欠けてるから、歯を食いしばって目をひんむいて向かっていく姿を見せろ！

藤原喜明

「最近知ったんだけど、組長は自殺肯定派なんや！」



俺が新日本に入ったときの鬼軍曹。「藤原教室、この指止まれ！」とかやってて嫌々止まってたよ（苦笑）。最近知ったんだけど、組長は自殺肯定派なんや！

小笠原和彦

「本物の空手バカ！（笑）。それと頭の中は宇宙人！」



いい意味でも悪い意味でも本物の空手バカ！（笑）。それと頭の中は宇宙人！ ただ最近、ちょっと普通になってきてるんで、もう一踏ん張りしてもらいたいね。

テングカイザー

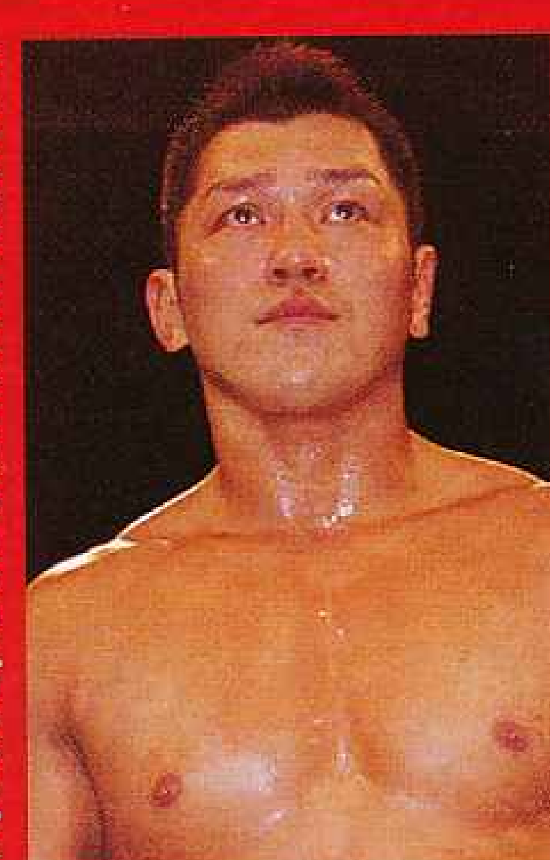
「俺が一番ブレイクしてほしいレスラーや！（笑）」



俺が一番ブレイクしてほしいレスラーや（笑）。でもなんか、なんでも器用にこなせるんだけど田舎臭く感じるんだよ。やっぱりジュニアの方が良かったかな。

坂田亘

「小池栄子の彼氏や！（笑）」



みんなも知ってると思うけど、ウチのJr.のチャンピオンで小池栄子の彼氏や！ まあ、坂田にはリング上でもプライベートでも激しく攻めてほしいな（笑）。

横井宏考

「怖い社会の世界で言えばウチの準構成員や！」



まあ怖い世界で言えば、坂田と一緒でウチの準構成員。総合もやってるけど、いまプロレスを学ぼうと凄く一生懸命やってるんで期待してるよ。

ヴァンサック・アシッド

「ムエタイならムエタイで勝負してみろよ！ まだまだやな」



●キ●！（笑）。ムエタイならムエタイで勝負してみろよ。違う大会出してやるから。なんかしらんけどわけがわからんファイトだし、まだまだやな。

次はウチの常連外人とフロントを紹介しよう!



日本人選手の名前を覚えたら、今度は外人選手の顔をしっかり覚えるんや！ウチにはグリーンベレーからアマレスの銀メダリスト、さらにはアダモちゃんもいるからな。アダモちゃんといっても島崎やないぞ！　それとな、少数精鋭、ウチの優秀なスタッフ陣も紹介しよう！押忍!!

ザ・プレデター



「鎖ブン回して、世間もブン回せ！」

鎖ブン回して世間もブン回せ！　もっと怖がられなきゃダメだ。紳士になろうと思ったって無理なんだから、あの顔は。プレデターならプレデターになりきれッ！

マット・ガファリ



「周りのレスラーとうまくやってくれ」

プロレスラーとしては非常に面白い部分を持ってると思うんだけど「オレは偉いんだ」とか、ちょっと鼻高々で天狗になってるところがあるんだな（苦笑）。

トム・ハワード



「アメリカのリーダー。ブッシュ連れてこい！」

彼はプレデターでさえも束ねる頭脳を持ってるアメリカのリーダーですから。あとは個人のために頭を使ってほしいな。そや、リーダーならブッシュ連れてこい！

スティーブ・コリノ



「ウチが手放したくない1人」

ヤンキー魂を持ったスニーキーレスラー。彼を本気にさせられる人間が何人いるか。彼は本気を出した時が面白いんだよ。ウチにとって手放したくない1人だな。

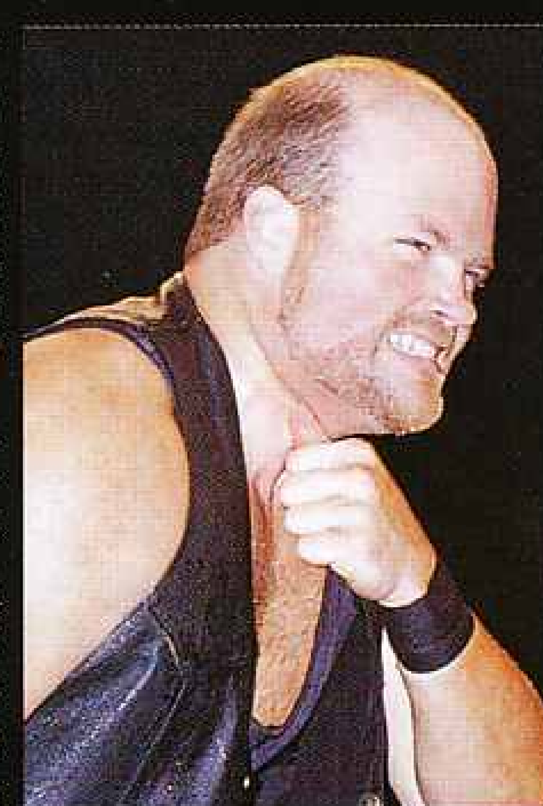
Lowki



「ちょっとヒネれば、もっといい選手になる」

ダイナマイト・キッドの再来とか言われているけど、また違ったタイプのレスラーだよ。もうちょっとヒネったら、もっといい選手になると思うよ。

CW・アンダーソン



「ハズレなし！アメリカの高岩や！」

アメリカの高岩だな！　ホント、ハズレなし。高岩と組んでもいいんじゃないか？　どっちもハゲてるしな（笑）。いいタッグになると思うよ。

キング・アダモ



「7月を楽しみにしといてください（ニヤリ）」

アダモちゃんは、ヘタすればウチのナンバー2の人気ガイジンだからな。（ニヤリとしながら）まあ7月を楽しみにしていてください。以上！

ジョン・ヘンデンリッチ

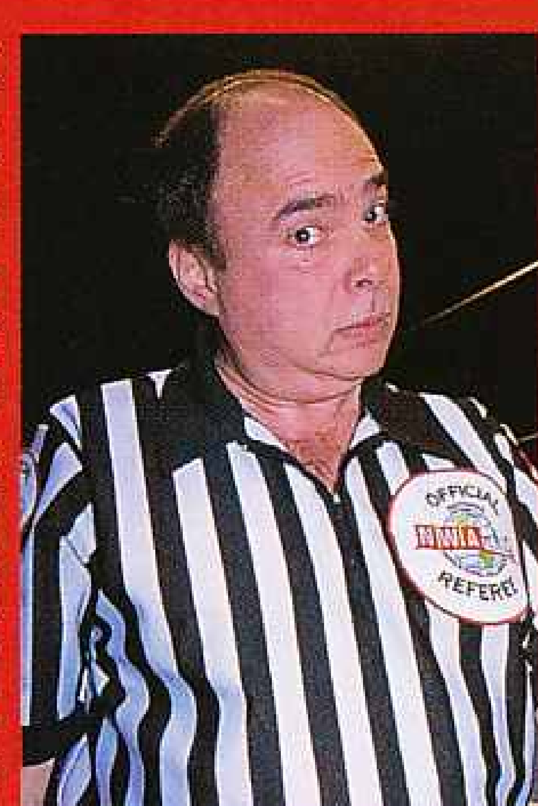


「まだ自分の身体を活かしきってない！」

まだ身体の使い方を知らないし、活かしきってない。高橋冬樹と一緒だよ。それが課題だな。ただいいものは持ってるんだから、あとは本人次第や。

［NWAエグゼクティブレフェリー］

ミスター・フレッド



「プロレスじゃなかったら生かしちゃおけねえよ！」

ファンからすると面白いんだろうけど、レフェリーとして、あそこまでひいきするのは珍しいな。プロレスじゃなかったら生かしちゃおかねえよ！

［NWA会長］

リチャード・アルビン



「糖尿病で痩せたらしいから、もうすぐ死ぬやろ！」

糖尿病で痩せたらしいから、もうすぐ死ぬやろ！次のNWAの会長候補は俺か、もう1人ぐらいしかいないんだよ。ただ俺は日本にいるからなぁ。

［渉外・営業部長］

中村祥之



「俺と中村のタッグがある限りウチのアイデアは底知れない」

秀吉で言うところの黒田官兵衛であり竹中半兵衛だな。俺と中村のタッグがある限りZERO－ONEのアイデアは底知れず湧いてくると思うよ。

［リングアナウンサー］

オッキー沖田



「良くやってるよ。いまは、ほとんど言うことなし！」

リングアナも、リング片付けも、営業もしなきゃいけないなかでよくやってるよ。いま言うことはほとんどないな。ただ、いつも笑顔を忘れずに。

［レフェリー］

デューク佐渡



「集中力が足りない！以上!!」

まだ全然ダメや。集中力が足りない。メインのレフェリーを務めるには集中力が足りなかったらおしまいや。そういうものはドンドン切ってくぞ。

ZERO-ONE FLASH

5月29日（木）
東京・後楽園ホール　18:30〜

5月30日（金）
三重・松阪市総合体育館（小川直也参戦！）18:30〜

5月31日（土）
京都・京都KBSホール　18:30〜

6月5日（木）
東京・後楽園ホール　18:30〜

6月6日（金）
千葉・千葉公園体育館　18:30〜

6月7日（土）
茨城・水戸市民体育館　18:30〜

6月8日（日）
神奈川・相模原市立総合体育館　17:00〜

6月14日（土）
福島・福島市国体記念体育館　18:00〜

6月27日（金）
東京・後楽園ホール　18:30〜

6月29日（日）
山口・海峡メッセ下関（小川直也参戦!!）15:00〜

6月30日（月）
長崎・佐世保市体育文化館（小川直也参戦!!）18:30〜

7月1日（火）
佐賀・唐津市文化体育館　18:30〜

7月3日（木）
福井・福井市体育館　18:30〜

7月4日（金）
新潟・新潟市体育館（小川直也参戦!!）18:30〜

7月6日（日）
東京・両国国技館　17:00〜
『EXTERMINATION−D』

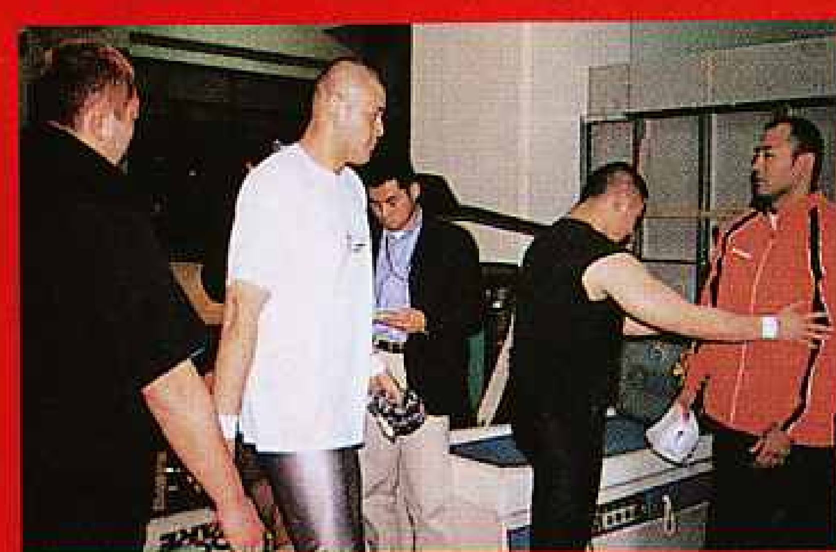
［問い合わせ］ZERO-ONE　TEL.03-5730-3401

何かが起こる5・29後楽園!!



ゼロ中なら即買い！
5・29先行発売!!

ZERO-ONE初のパーフェクトガイドがサムライTV！との強力タッグで発売決定ッ！　プロレス王者・橋本真也まるわかり特集"破壊王のすべて"、選手名鑑、歴史年表、田中将斗の会場ではえろ、まんが・大谷晋二郎物語など見逃せない企画が盛り沢山！『紙プロ』でお馴染みの中川画伯もイラストを描いているぞ。定価1429円（税抜）、一般発売は6月5日ダーッ!!



アレク来場!! その真意は!?

「一緒に練習をさせて下さい」――5月16日、アレクサンダー大塚が突然ZERO-ONE道場に現れた！　駆けつけた大谷晋二郎は激怒して「話すことない。帰って下さい」と強く拒否!!　それでも「後楽園は行きます」と来場予告したアレク。はたして何が起こるのか!?

破壊王&金村組、坂田vs葛西、異色の好カードが目白押し!!

ZERO-ONE FLASH

5月29日（木）東京・後楽園ホール　18:30〜

全対戦カード

橋本真也&金村キンタロー
vs
ザ・プレデター&ジョン・ヘンデンリッチ

大谷晋二郎&田中将斗
vs
藤原喜明&臼田勝美

黒田哲広 vs トム・ハワード

坂田亘 vs 葛西純

佐々木義人&日高郁人&
星川尚浩&高岩竜一
vs ポール・ロンドン&マイケル・シェーン&
CW・アンダーソン&スティーブ・コリノ

横井宏考&佐藤耕平
vs 保坂秀樹&黒毛和牛太

［CAPCOM提供試合］
ビューティフルジョー vs ジョーカー
山笠Z"信介 vs 高橋冬樹

『破壊王プロレス／ZERO-ONE』
地上波放送も、これを着て見るべし!!

ハシフ・カーンTシャツ『破不可』〈イエロー〉
¥3,800　S or M or L or XL



ハシフ・カーンTシャツ『破不可』〈ホワイト〉
¥3,800　S or M or L or XL



ハシフ・カーンパーカー『破不可』
¥6,000　M or SOLD OUT or XL



ロウ・キーTシャツ〈ブラック〉
¥3,000　SOLD OUT or M or L



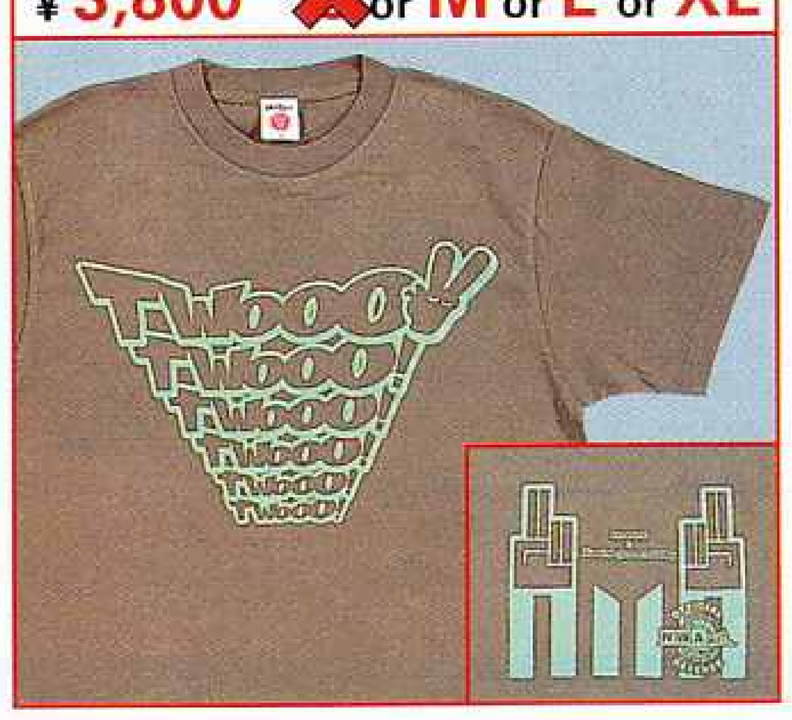
Mr.フレッド『TWOOO』Tシャツ〈ネイビー〉
¥3,800　S or M or L or XL



Mr.フレッド『TWOOO』Tシャツ〈ベージュ〉
¥3,800　S or M or L or XL



Mr.フレッド『TWOOO』Tシャツ〈カーキ〉
¥3,800　SOLD OUT or M or L or XL



Mr.フレッド『TWOOO』パーカー
¥6,000　M or L or XL



本邦初公開!

"ZERO-ONEに一番近い女性記者"

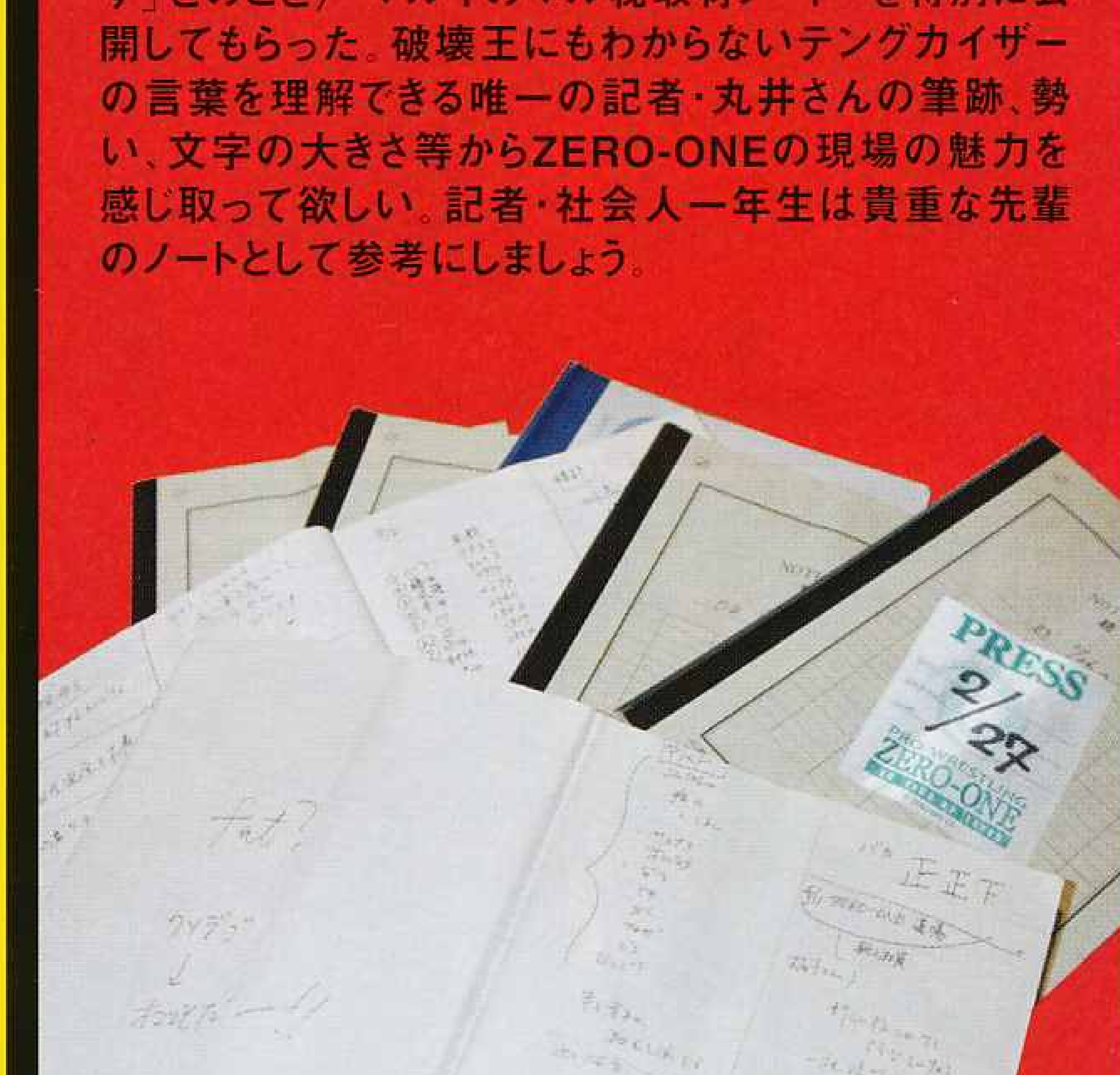
丸井乙生

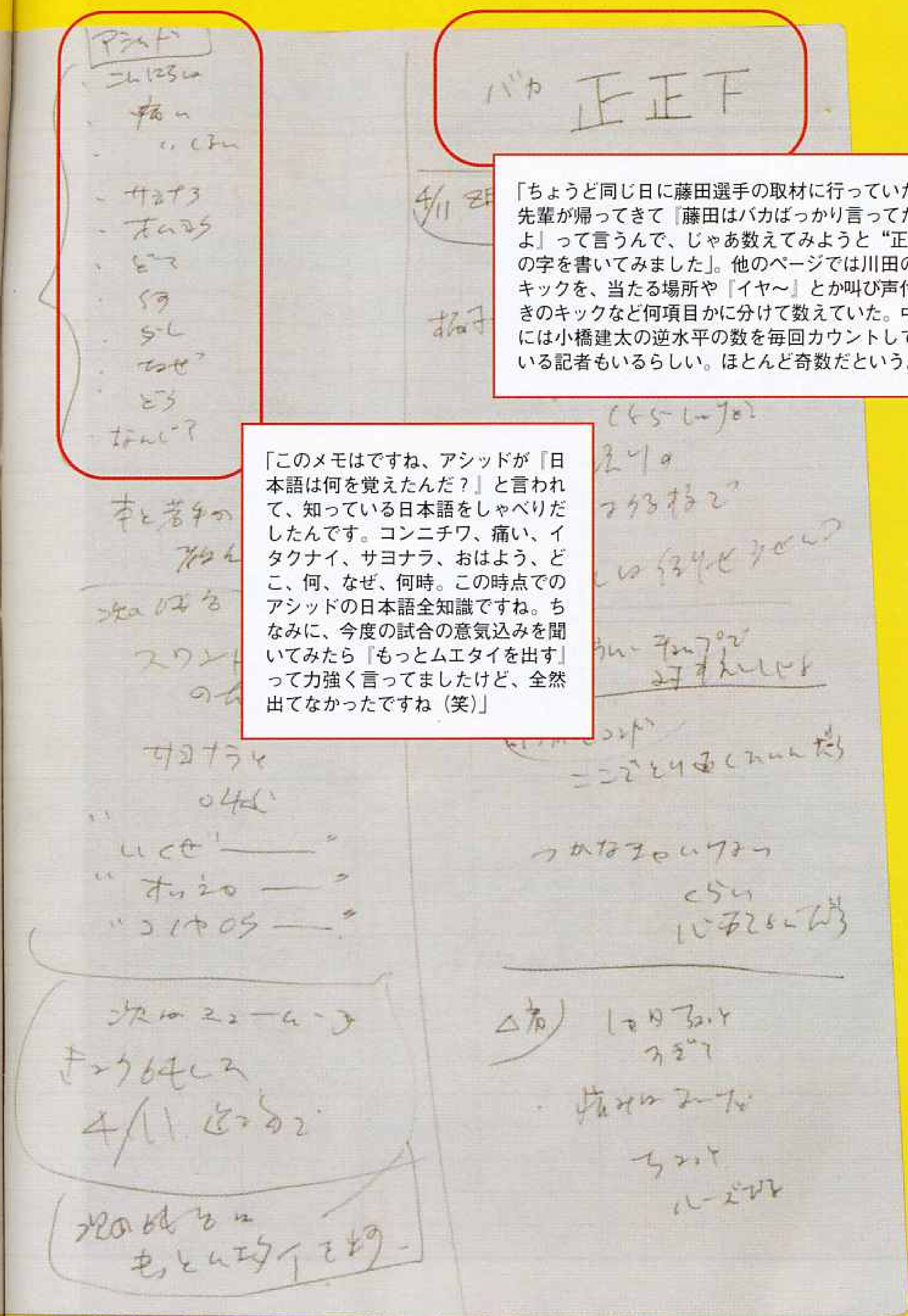
スポニチプロレス担当の



取材ノートから見るZERO-ONEの魅力!!

『生ゴン』、そしてZERO-ONEのスカパー解説者等でおなじみのスポーツニッポン美人記者・丸井乙生さん。普段は絶対に見せない(「のぞかれたりしたらグーで殴ります」とのこと)"マルイのマル秘取材ノート"を特別に公開してもらった。破壊王にもわからないテングカイザーの言葉を理解できる唯一の記者・丸井さんの筆跡、勢い、文字の大きさ等からZERO-ONEの現場の魅力を感じ取って欲しい。記者・社会人一年生は貴重な先輩のノートとして参考にしましょう。

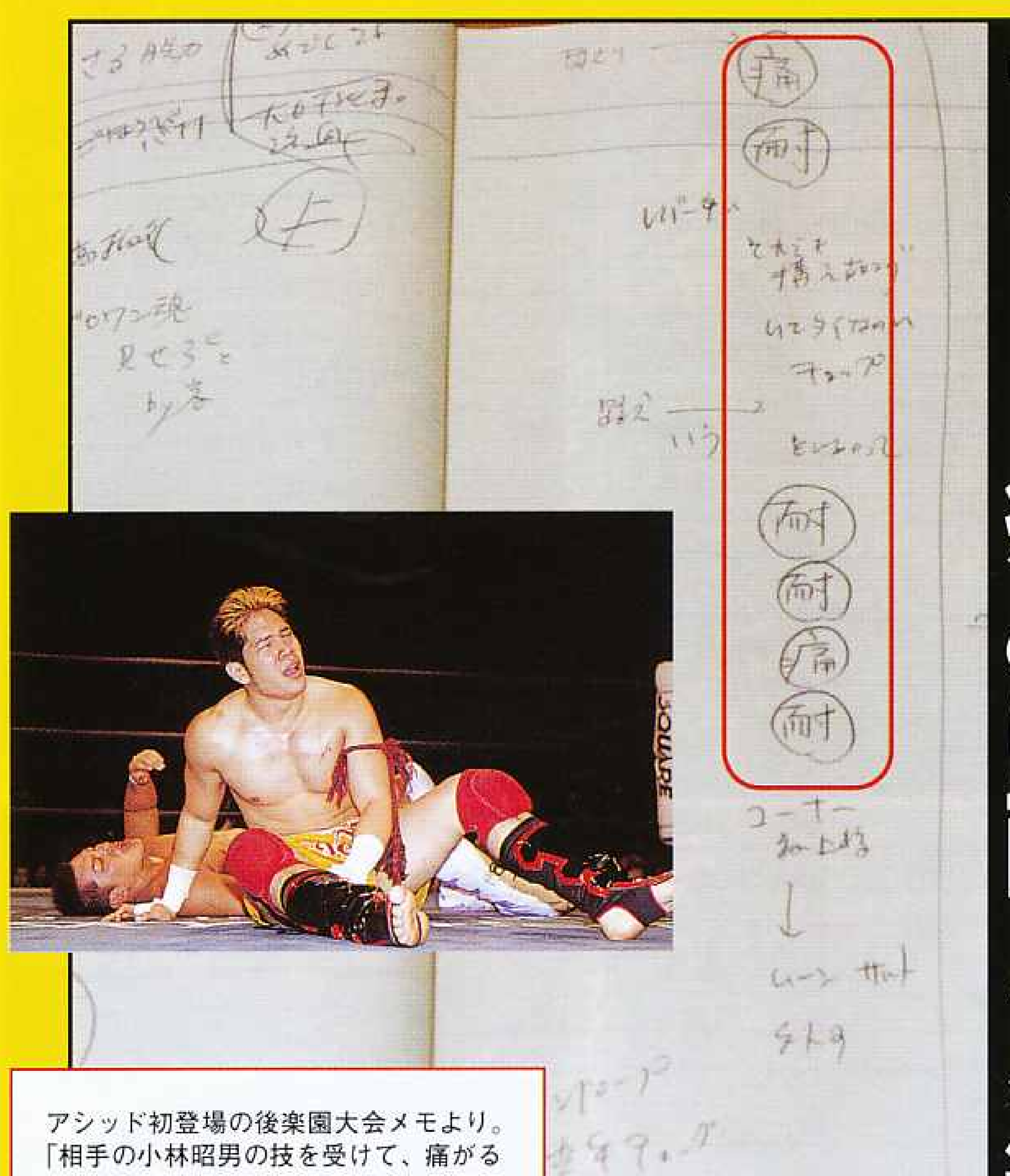




「ちょうど同じ日に藤田選手の取材に行っていた先輩が帰ってきて『藤田はバカばっかり言ってたよ』って言うんで、じゃあ数えてみようと"正"の字を書いてみました」。他のページでは川田のキックを、当たる場所や『イヤ～』とか叫び声付きのキックなど何項目かに分けて数えていた。中には小橋建太の逆水平の数を毎回カウントしている記者もいるらしい。ほとんど奇数だという。

「このメモはですね、アシッドが『日本語は何を覚えたんだ?』と言われて、知っている日本語をしゃべりだしたんです。コンニチワ、痛い、イタクナイ、サヨナラ、おはよう、どこ、何、なぜ、何時。この時点でのアシッドの日本語全知識ですね。ちなみに、今度の試合の意気込みを聞いてみたら『もっとムエタイを出す』って力強く言ってましたけど、全然出てなかったですね(笑)」

アシッド痛みに耐える編

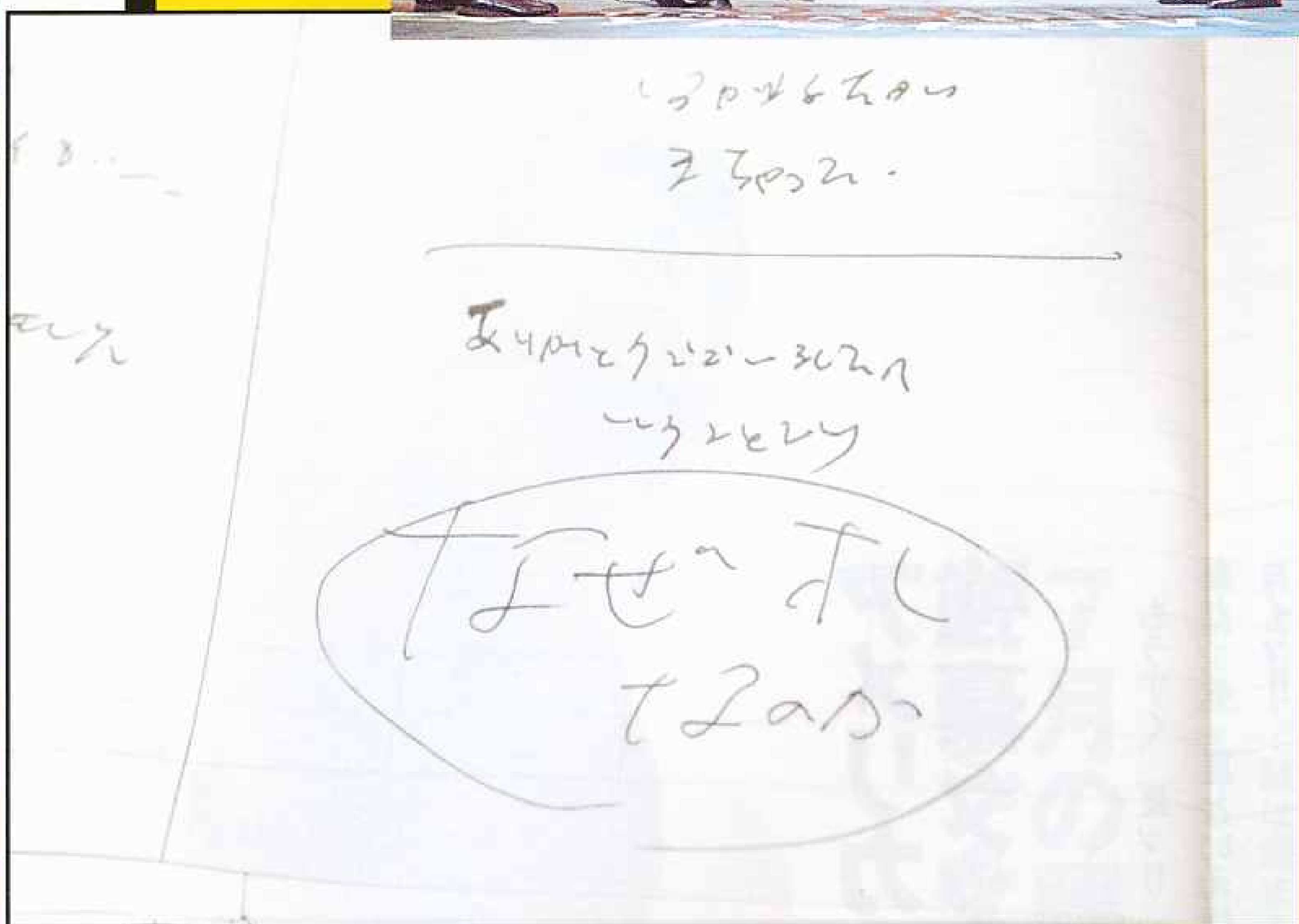


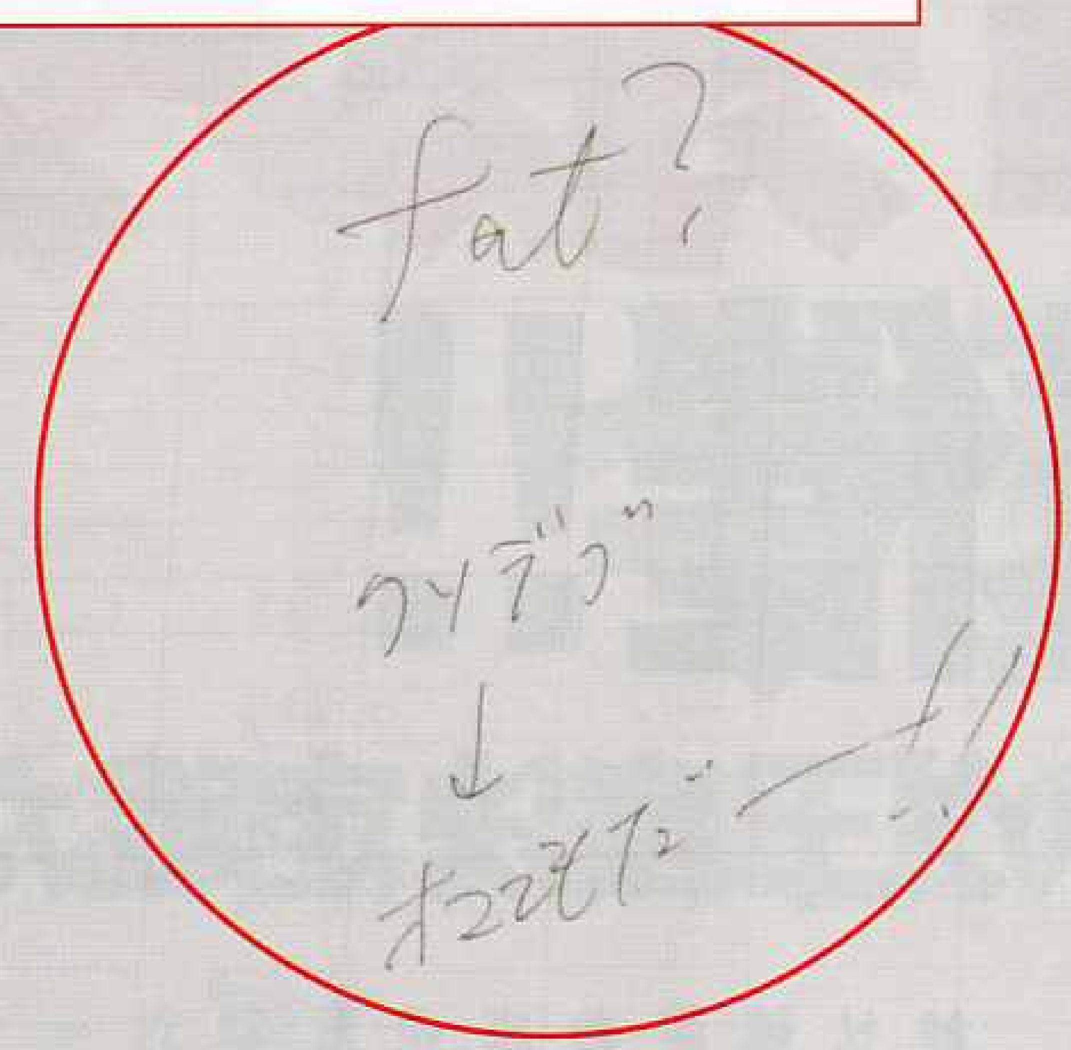
アシッド初登場の後楽園大会メモより。「相手の小林昭男の技を受けて、痛がる表情と耐える表情の繰り返しが印象深かったんです。だから痛→耐→痛→耐、最後はムーンサルトを失敗して、もう一回いくのかなと思ったらスワントーン。試合後『空手は恐ろしい技だ』って(笑)」

フレッドマジック編

破壊王劇場編







「5・2後楽園で橋本さんがまた『クソデブ!!』と叫ぶ可能性があるっていうんで、ZERO-ONEのスタッフがファンの気持ちを察して初めて観客に禁句令を出したんです。もし橋本さんが『クソデブ』って叫んでも絶対に『お前もだ!!』と返してはいけないって（笑）。あとアルピンが変なことをぬかしたら『what？』じゃなく『fat？』って返すネタをやるっていう案があったんですけど『それはもう広田さくらがやっていますよ』ってことでお蔵入りに（笑）」

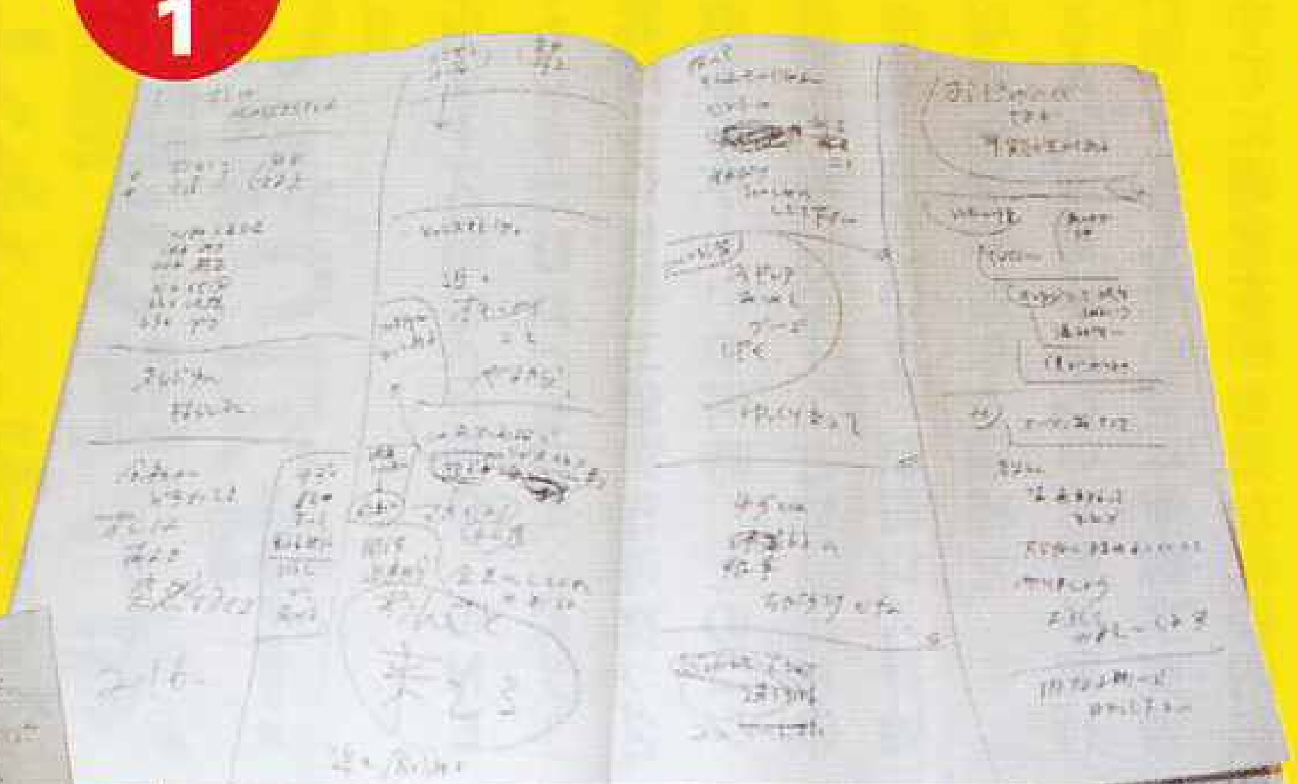
「取材対象の方が亡くなられたのって3度目なんですよ。1人目はモーグルの森徹さん、2人目は東北福祉大学野球部監督・伊藤義博さんでした。森さんから『オレはガンかもしれない。マスコミで言うのは丸井さんだけ』って、そんな親しかったわけじゃないけど、なぜか一番最初に知らせてくれたんです。どうして私に知らせてくれたのか今だに理由はわからないんです。この橋本さんの『何でオレが選ばれたのか』って言葉は、そういう思いを抱いたことがあったのでシンクロしたんで大きく書いてますね。5・5の川崎球場で、遺骨を抱えた橋本さんが爆破したのを見て、プロレス記者をやっていて初めて涙が出ましたね。記者として追いかけていた里谷多英がメダルを獲って以来です」

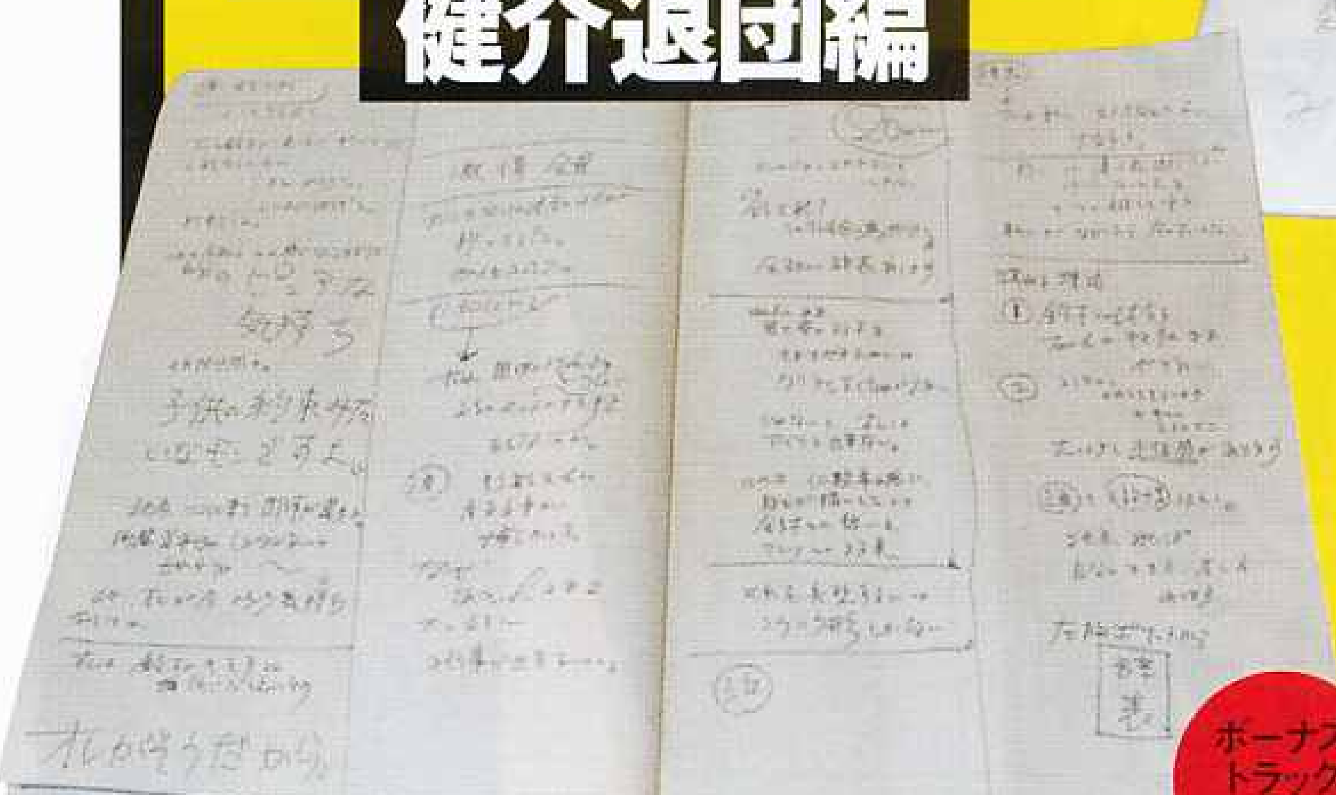




健介退団編

ボーナストラック 1

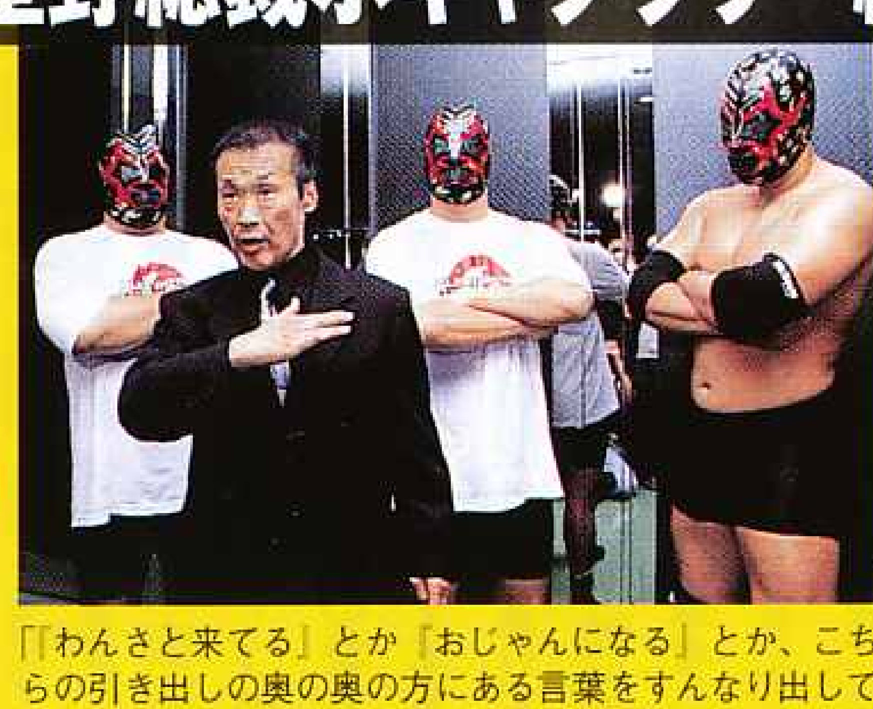




ボーナストラック 2

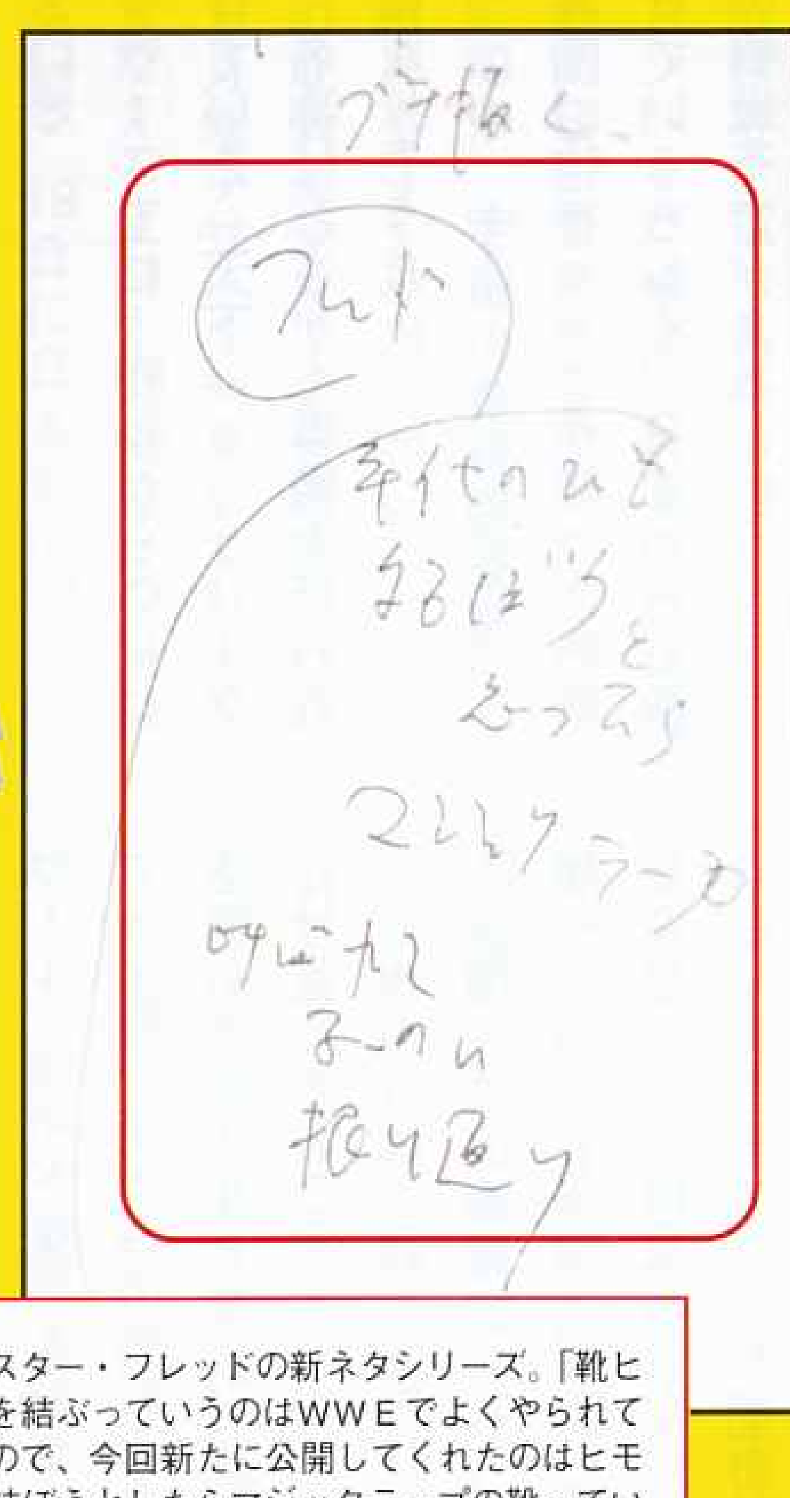
「鈴木選手のことをずっと話してたんですけど、だんだんこみあげてきたみたいで、鈴木さんとの約束は『子供の約束みたいなもんです。アイツも同じ気持ちだと思います……なぜならオレがそうだから』とか（笑）、例の辞表を出したときは、『オレは新日本プロレスが好きなんです……大好きッ。』って言い切ってたんで『。』がついてるんですよ（笑）」

星野総裁ボキャブラリー編



「『わんさと来てる』とか『おじゃんになる』とか、こちらの引き出しの奥の奥の方にある言葉をすんなり出してくるので頭の活性化になります（笑）」。他にも、破壊王や健介、最近では真壁語録も、いい感じだという。

フレッドマジック編



ミスター・フレッドの新ネタシリーズ。「靴ヒモを結ぶっていうのはWWEでよくやられてるので、今回新たに公開してくれたのはヒモを結ぼうとしたらマジックテープの靴っていうネタ（笑）。あとは、呼ばれてないのに振り返る、五十肩で腕が上がらない、とかですね」

り”は、闘うことだ!!」

OH祭り”（思いきり仮称）

夏、開催!!

天下一タッグ王座決定戦だ～



アメリカ、メヒコ、カナダ…そしてロシアからも？
強豪タッグがOHを襲う!!

もうすぐ、夏ッ!! あ、暑いor熱い夏だっ!! 夏といえば祭りだ、ワッショイッ!!

そして祭りといえば、「俺たちの祭りは闘うことだ!!」と吠える奴らがいる――それは、いわずと知れたOH砲、つまり小川直也&橋本真也だ!!

5・2新日本・東京ドーム大会に対して、後楽園ホールという小さな箱で真っ正面から向き合い、ファンを興奮のルツボに叩き込んだOH砲!! その後楽園大会から地上波侵攻を開始&成功させ、〝ZERO―ONEここにあり〟を見せつけたOH砲!! 日本が誇り、その名を世界に轟かすOH砲!! 破壊王（の精神が）がますます太くなり、暴走王の声が（興奮で）裏返るOH砲!!

そのOH砲が、今夏、『OH祭り』（思いきり仮称）をシリーズ開催するという極秘情報を『紙プロ』はキャッチした!!

このシリーズは、ZERO―ONE主催でもなく、UFO主催でもなく、言うなれば〝OH砲主催〟!! タッグチームの2人が〝いつ何時、どのコンビの挑戦でも受ける!〟という主旨のもとに主宰するという、プロレス界始まって以来の試みとなる模様だ。

もちろん、運営には〝OH祭り実行委員会〟（これも思いきり仮称）が当たり、すでに運営本部も密かに都内に開かれている。

このシリーズでは、昨年からOHがブチ上げていた「天下一タッグリーグ戦」が、名称はともかく事実上行われることになりそうだ。

世界、いや、宇宙のOH砲を狙い、現在も各国の強豪タッグが続々と名乗りを挙げているらしく、日本からも数チームの参戦予定があるという。

日程は、7月11日から21日の間に、東京、徳島、名古屋、大阪近郊と転戦し、最終戦は、これまでプロレスが行われたことのない日本の象徴的な名所近辺の野外会場で行う全5戦を予定（3戦になる可能性もあり）。ここで2リーグに別れてのリーグ戦、もしくはトーナメントによる〝最強タッグ決定戦〟が行われるという。

気になる参戦チームだが、いまここでは残念ながらそのメンバーを明かすことはできない。だが、多国籍によるワールドワイドな超大型タッグ戦争は、アッと驚くチームの参戦もありそうで、空前のスケールとなる可能性があるとだけ言っておこう。

日本からは、我らがOH砲は、絶対的圧倒的に出場確定。もちろん優勝を狙う。他にも通常のZERO―ONEシリーズでは見られない編成のチームもリストアップされており、アメリカ、カナダ、メキシコ、そしてなんと

「俺たちの"祭り"は

灼熱の"OH

今夏、開

～これは事実上の天下一



ロシアからも〝打倒、OH砲〟に大物屈強チームが名乗りを挙げている。

あのマット・ガファリも「俺の弟を知ってるかい？ 俺よりデカイんだ」と、オーバー300ポンドの巨体を揺らしながら、不気味な笑みを浮かべているというから、どんなチームが飛び出すのか、まったく予断を許さない。

ZERO―ONE前シリーズから、炎の吹き出る電動ノコを持ち暴れ回っているジェイソン・ザ・レジェンドも謎の大物パートナーを連れ参戦予告をしているし、メヒコからは、ルチャ・マニア垂涎の超大型コンビも飛来予告をブッ飛ばしている。

さらに注目されるのはロシア勢だが、これは果たしてロシアン・トップチームからのプロレスへの刺客なのか？ それとも……謎は深まるばかりだ（この時期に深まっていいのか？）。

他にも意外&大型チームが参戦の名乗りを挙げており、ズバリ言って、この参戦メンバーが確定すれば、OH砲は空前の大ピンチに陥ることだろう。

それに加え、7月は空前の興行ラッシュ。新日本は7月18～24日に、G1前恒例の北海道シリーズを敢行。21日は札幌・月寒グリーンドームでビッグマッチを控え、全日本は13日が大阪府立体育会館、19日に日本武道館でのビッグマッチがある。WJは20日に両国国技館で〝ド真ん中王者決定戦〟ともいうべきシングルのワンナイト・トーナメントを開催する。

そしてWWEが18日は横浜アリーナ、翌19日は神戸ワールド記念ホールに再上陸する！

日程的にも、まさに〝興行銀座〟とも言うべき激戦期間にOH砲が敢えて討って出ることになるわけだ。

なお、ここまでに記したことは、OHの一方の雄が率いる団体名よろしく未確認飛行情報を含んでいるため、この先どこまで変貌していくのかはわからない。話自体がどこかに飛んで消滅するかもしれない。しかし、このまま順当に行けば、この号が発売される前後には正式発表されているはずだ。

暴走王&破壊王は、灼熱の『OH祭り』（再び、思いきり仮称）で各国の大型強豪チームを破り、名実共に最強タッグの座に着けるのか？ そしてまた、〝OH砲の使命〟ともいえるプロレスの魅力を全国に伝えきることができるのか？

スケールの大きい『OH祭り』が、今年の夏は〝伝説〟となる（はず）！ 期待して待て！ オー、エイチ、ホーッ!!

7月の興行大戦争の真っ只中！ 最後にOHがノロシを上げた！「オー、エイチ、ホーッ!!」



全日分裂危機説
映画主演
天龍退団問題
小川直也
新日本VT
BAPE STA!!
すべてを語る！

邪魔する不満分子は排除する

2004年度アカデミー賞『新人賞』受賞予定（？）の大型俳優を直撃！

武藤敬司

5/17スポーツ紙に「分裂説」の文字が派手に踊った全日本プロレス。
その騒動に限らず、武藤の身の回りには様々なことが起こっている。
天龍源一郎の退団、『W-1』深夜番組の終了、ZERO-ONEとの対抗戦……。
天才・武藤敬司の胸中はいかに!?

元アカレンジャー・誠直也と
武藤＆小島が映画で共演!!

聞き手＆撮影／堀江ガンツ

designed by ZERO graphics

——さて、武藤さん、16年ぶりの映画主演で
武藤　っていうかさ、(三冠)ベルトを失っ
ース、チャンピオンの重責があると、武藤敬
きコメントしたけど、今度は「破壊」に入り

——さて、武藤さん、16年ぶりの映画主演ですけど、撮影の方は順調ですか？

武藤　順調も何も、俺は今日が初日だよ。まだ、ワンシーンも撮ってないんだよね。

——あ、そうだったんですか（笑）。

武藤　小島はもう何シーンか撮ったらしいんだけど、なんか演技も俺より小島の方が「うまい」って言われてるらしいんだよ。それでさっき台本見たらさ、な～んか小島の方が俺より出番が多い気がするんだよな（笑）。

——なぜか主演の武藤さんより多いですか（笑）。

武藤　台本書き換えられたんじゃないかと思ってさぁ（笑）。

——では、早くも新人賞に暗雲が立ちこめてるわけですか（笑）。

武藤　そうだよ！　おっかしいよなぁ。

——初日からボヤキですか（笑）。前作（『光る女』主演）ではかなり大変だった話を以前に伺いましたけど、長時間拘束される映画をこの忙しい中もう1度やろうと思ったのは、どんな理由があったんですか？

武藤　カッコよく言うと、『W-1』なんかを通じてさ、エンターテイメントの追求みたいなものをしてる中で『キダム』とかに行って、勉強したりしてたじゃない。そういったときに映画の話をいただいて、同じエンターテイメントだし、外から見るだけじゃなくて中に入るのもいいかなって思ったんだよね。

——他分野に触れることでプロレス観を磨くわけですね。

武藤　やっぱりプロレスというのは人間性が出ちまうじゃない。その中でワンランク上の「プロレスラー・武藤敬司」を創造するときに絶対に足しになると思ったんだよね。

——たとえば、レスラーを演者として考えると、最近の全日本のライブは演じにくいようなことってありますか？

武藤　っていうかさ、（三冠）ベルトを失った時点で一区切りの狭間にいるのはたしかだよ。それが現在に至ってるけど、そんな自分をかり立たせるものは橋本なのか、小川なのかまだわからないね。そういうものに対してアンテナ張ってるけど、いまは狭間にいることはたしか。



——どこに針を振るかというよりは、ニュートラルな状態なんですね。

武藤　いまはね。あんまり俺が前に出ちまうと、やっぱり喰っちまうからさ。APE興行だって控えめにしてたんだよ、俺。喰っちゃうと困るからさ。

——控えめの割には、ここ最近で一番ノリノリだったような気がしますけど（笑）。

武藤　だって、気分的に楽だったじゃん。

——武藤さんは気分を楽にした方が輝きますよね。やっぱり、全日本プロレスの社長、エース、チャンピオンの重責があると、武藤敬司らしさが出ないとでも言いますか。

今は生みの苦しみの時期。

武藤　まぁ、「ライブプロレス」の中で、日本で俺に匹敵するヤツはいねえと思ってるから（キッパリ）。

——日本一の「ライブプロレスラー」を宣言ですか！

武藤　かつアドリブ性というかね。（APE興行での）俺のテーマは「マスク」だったけど、ただマスク被って普通の試合してたってしょうがねえじゃん。そこに題材があるわけだから、どう転がしていくかだよね。

——ひとつのテーマを転がしていくのがプロレスラーだってことですよね。武藤さん的には、APE興行的なイベントは頻繁にやった方がいいと思いますか？

武藤　できることなら頻繁にやっていきたいですね。ただ、（APE興行が）終わったときコメントしたけど、今度は「破壊」に入りたいな。『チーム・ブラックAPE』で。



87年に主演した『光る女』では、秋吉満ちる、安田成美らと共演。武藤は熊皮チョッキに乗馬ズボンを履き顔はヒゲだらけで裸足という出で立ちの、山から降りてきた大男を演じた

——2回目にして、もう破壊しちゃうんですか（笑）。

武藤　それがさっき言ったアドリブ性と一緒でさ、つなげていく方法論なんだよ。

——武藤さん自身にスーパーヒールをもう一度やってみたいみたい気持はあるんですか？

武藤　う～ん、わっかんねえよ、まだ。

——武藤さんはスポッとハマるようなテーマがあれば、より光るというか、より才能を発揮しますよね。

武藤　いや、テーマさえあれば誰でも光ると思うんだよ。三冠戦目前の嵐だってさ、三冠というテーマがあったから良く見えたもん。ただ、嵐の中であれが終着なのか、あれが出発なのか、俺にはわからない。それは今後の嵐次第だよね。

——いまは誰がスターになるかわからない状況じゃないですか。反面、誰でもスターになれる可能性はありますよね。

武藤　それは違うよ。誰でもスターになれない状況なんだよ。

——誰もスターになれない！　その原因は何だと思いますか？

武藤　原因？ そんなの、わかりっこねえよ！

——ガハハ！　わかりませんか（笑）。

武藤　その原因がわからないから試行錯誤してるんだろうけどね。強いて言えば、突出した強さやカッコよさを持って、頭も良く感性も良く、そういうタレントが出てきたらスターになるのはわかるけど……そんなヤツいねえんだからさぁ。

——いたら悩んじゃないですよね（笑）。で

KEIJI MUTO

いまは誰でもスターになれない状況 だからこそ試行錯誤している

KEIJI MUTO

は、ZERO-ONEとの対抗戦は、スターが出てくるチャンスではありますね。

武藤 チャンスはあると思うよ。チャンスはね。映画の主演っていうのは誰でもかれでもできないよ、たぶん。でも、プロレスの場合はTPOに応じて誰でも主演になる可能性があるんだよね。そこが大きく違うよな。要はライブかライブじゃないかの差だよね。

——5・2後楽園ホールのOH砲vs武藤&小島は凄い盛り上がりになりましたけど、武藤さん的にあの試合はいかがでした？

武藤 やる前から言ってたけど、あれは展示会だったでしょ。そのプロレスの展示会に俺らが持ってる一番の優良ソフトを出したって部分はあるよね。そのソフトを良いか悪いか判断をするのはファンであり、マスコミの人だからな。俺たちが決めることじゃないよね。

——あれだけ熱を生んだ会場で、武藤さんがイマイチ乗ってなかったような感じを受けたんですけど。

武藤 そんなことないよ。ただ、俺はすげえ冷静だったね。冷静っていうか……やっぱり小川って選手に対して、どういう試合になるか予測できない部分がいっぱいあるじゃん。

——いろんな意味でありますね（笑）。

武藤 どういう形になってもいいように、ニュートラルな気持ちでいないとマズいと思ったんだよ。だから冷静だった。

——小川選手とは随分前ですけど、新日本時代には対戦してますよね。

武藤 技術的なもんとかは、昔とは雲泥の差があったよ。まぁ、俺とは型は違うけど「プロレスLOVE」を感じたのは事実だよね。

——いわゆる「リングで会話ができる」みたいな感じはしましたか？

武藤 まあ、そこまではいってないけど。



——今後を見据えると、ZERO-ONEや小川直也と対抗戦というのは……。

武藤 （遮って）まだわっかんねえよ。だってこれはビジネスじゃん。単純にそれだけではいかない部分があるからさ。俺たちはプロとしてやってるわけだから。

——相手に「プロレスLOVE」の気持があっても、ビジネスはビジネスに徹する、と。そのZERO-ONEは年4回とはいえ地上波放送が始まりましたね。

武藤 橋本なんかの努力の賜物だと思うよ。俺らが後楽園に出たのもそれだよね。やっぱり世間に認知されてナンボのもんだっていう部分もあるからさ。いいソフトを抱えてるにも関わらず、見てもらわないことには何も始まらないことってあるから。この映画にしてもそうだけどな、なんだかんだいってあそこに出場した大きな理由の1つにそれはあるよね。

——「見て欲しい」「知って欲しい」という願望があったわけですね。

武藤 だってさ、俺ってプロレス界でトップの一角じゃん？

——そうですね（笑）。

武藤 でも、映画の記者会見で司会者に「グレート・タムさん」って言われたんだよ。

——ムタじゃなくて「タム」（笑）。

武藤 そんぐらいでしかねえんだよ。だから、まだまだ頑張って掘り起こせばファンを開拓できるんじゃないかなって思うよ。それを信じてやるしかねえじゃん。プラス、いまのファンも大事にしたいと思ってるけどさ。

——5・2には、隣の東京ドームに対抗意識みたいなものはありました？

武藤 いや、そんなにないな。橋本、小川がプレッシャーでバッときてたからね。外を気にする余裕はないよ、正直。

——新日本はテレビかなんかでご覧になりました？

武藤 ビデオで見たんだよ、3日ぐらい前に。面白かったと思うよ。ただ、あんまり他団体のこと言いたくねえけど、新日本の選手、大変だろうなと思った（笑）。新日本という会社がそれ（VT）で潤ったら安心するかもしれないけど、選手は大変だろうなと思ったよ。会社が選手に求めてるハードルがすげえ高くなってるような気がしたからね。

——VTと比較される中で、なおかつ自分を光らせなくちゃいけない大変さはあるでしょうね。もしくはVTをやるわけですから（笑）。

武藤 VTなんて、俺にはできないことやってるよ。だから頑張ってるなって思いますよ。

——逆に武藤さんは、エンターテイメント性を突き詰めることでクオリティーを上げていきたい気持があるんですよね。

武藤 だけど、あれ（VT）だってエンターテイメントだと思うけどね。観客を相手に商売としてやってるわけであって、ただ方法論が違うんだとは思うけどさ。

——武藤さんの方法論である『W-1』は、いまはどんな状況なんですか？

武藤 どんな状況かなぁ？

——わからない（笑）。

武藤 ぶっちゃけた話、みんな自分の持ち場が忙しんだよね（笑）。俺も自分の持ち場が忙しいしさ。

——先が見えない現状で、いまやってる『W-1』の深夜番組が一旦終了する話を聞きましたけど。

武藤 うん。ただ、そんなに悲観的な打ち切りじゃないらしいよ。もしかしたら45分番組に戻す話もあるらしいし。

——『W-1』のプロジェクトが頓挫したとか、そういうことではないわけですね。



武藤　うん。みんな根底に『W-1』をやりたい気持ちはあるからさ。それは関わってる人みんなが思ってることだし、それがあるうちは絶対消えないと思うよ。

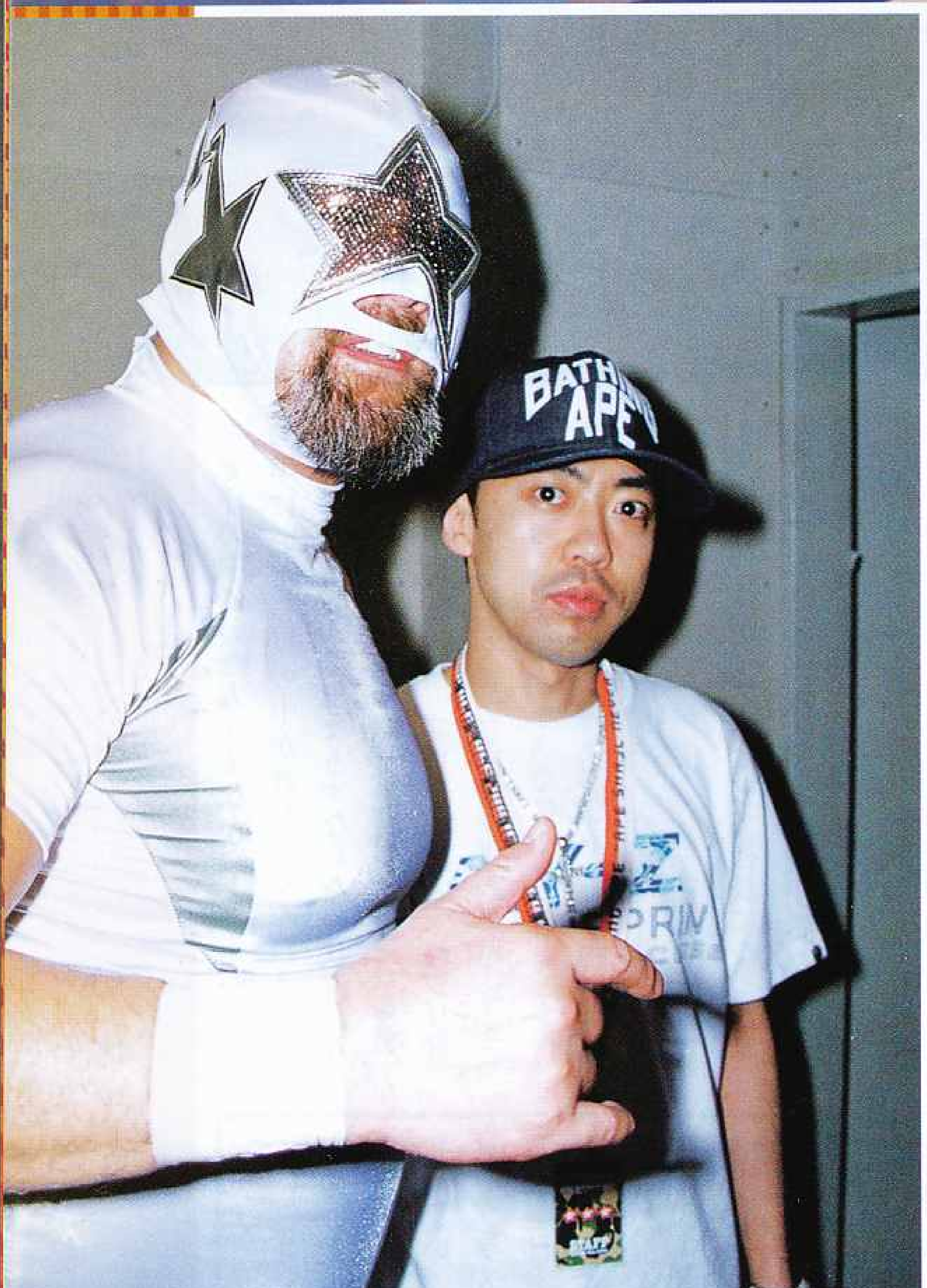
――何度も言われてるように、『W-1』は物凄い可能性を秘めてますよね。

武藤　あるある。なんとかしてえよなぁ。しなきゃしょうがねえんだし。なんとかするためにも、もう少し時間をくんなきゃダメだね。

――でも、足固めした次回は失敗はできないですよね。

武藤　いいじゃん、失敗したって！

4・27大阪APE興行では、えべっさんが扮した武藤敬司「えべ藤さん」とチーム結成！（写真上）。武藤は4・29福岡ではTHE APEMAN PLATINUM（写真下）に変身！ 武藤のマスクマンはまた見てみたい！



――ガハハハ！　いや、問題ないです（笑）。

武藤　そんなもん、失敗したっていいんだよ。また戻ればいいんだからさ。やっぱりさ、誰がどう批判しようが試合がしょっぱかろうがなんだろうが、あのゴージャスさっていうのは、『W-1』でしか出せないんじゃん？

――他のプロレス団体ではちょっと出せないでしょうね。

武藤　うん。『W-1』の演出から醸し出してる雰囲気を一見さんが見た場合、興味引くんじゃねえかなと思うよ。

――何も知らないお客にショーの意味を理解させるのは、エンターテイメントの基本でもありますよね。

武藤　うん。

――武藤さんが見た『キダム』にしても、予備知識はほとんどなしで行ったわけですよね。

武藤　うん。

――それでもやっぱり感銘を受けることがすごいあったんですよね？

武藤　うん。

――ガハハハ！　頷いてるだけですね（笑）。

武藤　その通りなんだからしょうがねぇじゃん（笑）。ただ、APE興行をやってひとつ勉強したのが、リングは職人を集めなきゃダメだなってことだよね。

――たしかに世間的な知名度でいったら、格闘家だろうがレスラーだろうが大差はないですよね。だったら、スペシャリストを呼んだほうが効果的ですよね。

武藤　そうなんだよ。格闘家とかはビジュアルもいいし、カッコいいかもしれないけど、それだけじゃ絶対ダメだな。それに1回見たら、もういいじゃん。

――スペシャルゲストだからこそ意味はある、と。

武藤　うん。デカいヤツだって、1回見ればその次は見たくないよな、普通。

――では、次回の『W-1』は、改めてプロレスのクオリティーを高めることに目標を定めるわけですね。

武藤　ただ、そのクオリティーというのは、もしかしたら従来のプロレスあるようなクオリティーじゃないかもしれないよ。

――いわゆる普通にファンやマスコミが絶賛するベストバウトとは違うニュアンスですよね。『W-1』に絡めていえば、リング上の表現力のクオリティーになりますね。

武藤　うん。これは批判的な言葉になっちゃうかもしれないけど、こないだの●●vs●●がベストバウトだって言われてるじゃん。でも、あの試合だったら俺でもできる（笑）。

――ガハハハ！　できますか（笑）。つまり、『W-1』は、従来とは違ったプロレスの形を求めてるんですね。

武藤　そうなんだけど、人間



大爆発した5・2後楽園ホール大会!! ムタとしては小川と対戦経験はあるが、武藤敬司としては初遭遇。「プロレスLOVE」を感じたという小川との絡みはどう展開してくのか？

って枠の中にいた方が楽なんだよ。ただ、枠の中にいたら世の中が許してくんねえんだよ。だから討って出なきゃならない状況になってるだけであってね。

――このままだと、プロレスはいずれジリ貧になる危機感があるわけですよね。

武藤　うん。

――だから、『W-1』も試すし、映画にも出る。

武藤　うん。

――武藤さんが全日本に来て社長になった意義はそこにあるわけですね

武藤　うん、うん。

――新日本とは全然、違う宗教のところに来たわけですからね。

武藤　そう、そんな感じ。

――ガハハハ！　また頷いてるだけですよ！　では、ちょっと厳しい質問に入らせていただきますけど。今日の『東スポ』で全日本の生え抜き幹部及び川田選手、渕選手が、今回の映画出演に関して批判してますよね。

武藤　ああ、そうらしいね。

――「再分裂」とショッキングな見出しが打たれて、次のシリーズ開幕の前日までロケが続くことを批判してますけど。

武藤　あのね、映画の出演も芸能活動もすべてプロレス界、全日本プロレスのためにやってることだよ。世間に一歩出たら、プロレスラーの知名度なんてまだまだ低いじゃん。

――先ほどの「グレート・タム」じゃないですけど（笑）。

武藤　俺だってそうなんだから、渕正信なんて世間の人は誰も知らないよ。でもさぁ、実を言うと、この映画で渕さんにも大役用意してたんだよな。そんなこと言うなら、その話もなかったことにしちゃうよ（笑）。

――ガハハハ！　渕さんも『W-1』の深夜番組では"渕黄門様"としてノリノリでしたからね。もしかしたら、映画出演した武藤さんに嫉妬してるかもしれないですね（笑）。

武藤　まぁ、いろんな不満があるんだろうけど、それはすべてリングにぶつければいいんじゃない。俺だって、映画に出たことをリングでプラスにして証明するだけだよ。

――全日本生え抜き社員の社長批判に対してはいかがですか？

武藤　なんて書いてあんの？

――要約すると、「社長は何をやりたいかわからない」「結果が出てない」「これからは意見していく」とのことですけど。

武藤　こんな新聞通じて何を言ってるんだろうね。全日本プロレスがいまだに存続していることが結果じゃん。ホントは2年前に消滅しているはずだった団体なんだから！

――まぁ、武藤さんたちが移籍しなかったら、畳んでいたはずですからね。

武藤　ハッキリ言って、不満分子は排除していくよ！

――排除！　あとは全日本の役員会議でやってもらうことにして、次の質問です（笑）。来月、古し全日本の匂いが強く残っていた天龍選手が退団しますよね。この件については、大仁田さんが「リストラだ！」とか騒いでるわけですけど。

武藤　リストラ？　それは天龍さんに対してすごい失礼なこと言ってるよな。

――「なにも知らないくせに、余計なお世話だ」って一言ですか？

武藤　っていうかさ、基本的に天龍さんとは話するけど、大仁田とは話できないじゃないですか。事務所に来られても、やっぱり困っちゃうっていうかさ。

――絡んで何かが生まれることは有り得ない、ですか。

武藤　うん。

――やっぱり「天龍源一郎」というタマがな

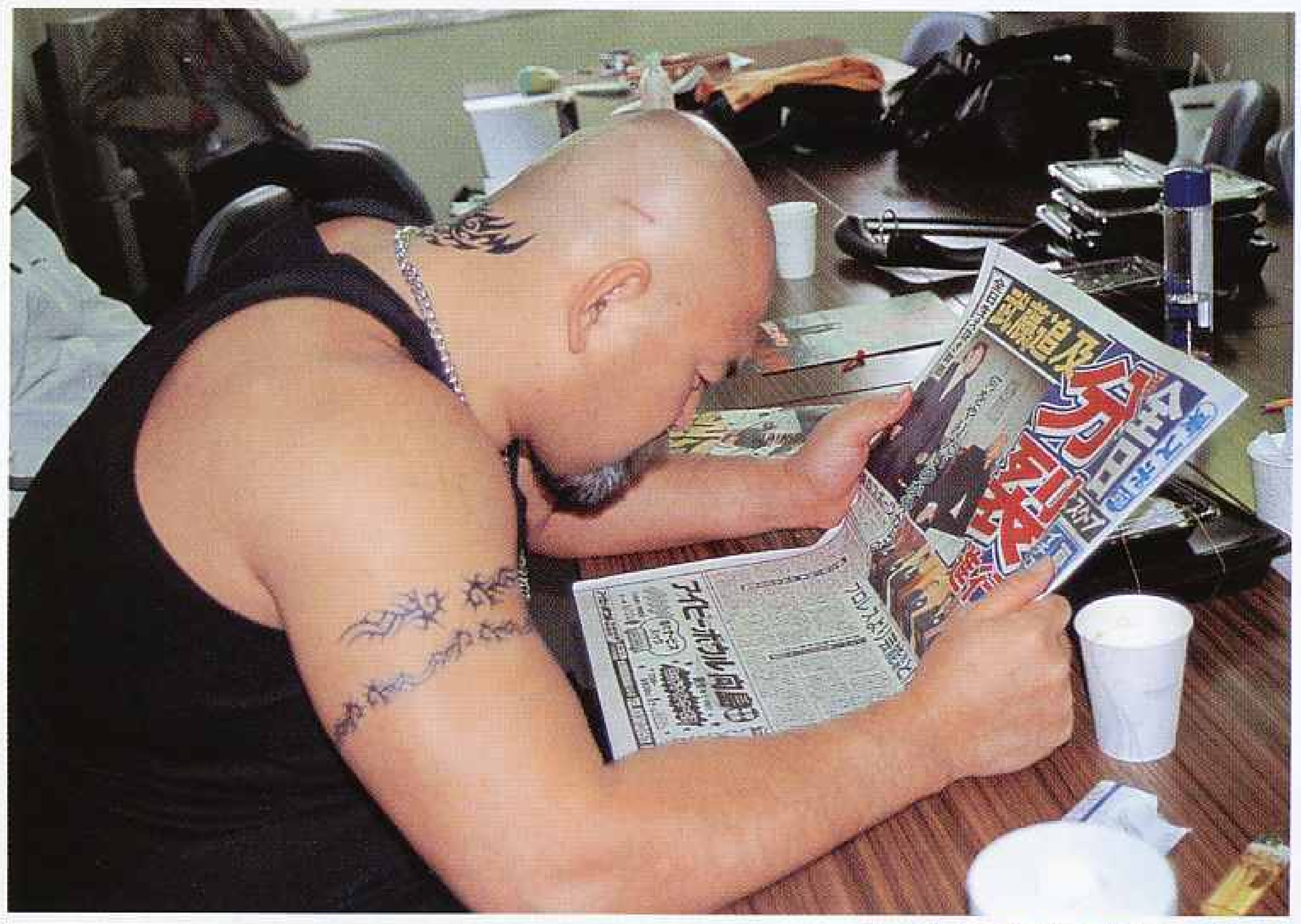
全日本が存続してるのが「結果」だよ ホントは2年前に消滅してたんだから

くなるのは苦くはありますよね。

武藤　苦しいけど、その中で第二の天龍作んなきゃならねえだろうし、誰かがそのポストに座んなきゃいけねえだろうし。そういうものを期待するしかないじゃないですか。これもさっき言ったように挑戦ですよ。

——武藤さん自身、退団の件では天龍さんと会話されたりしてたんですか？

武藤　してないですね、しづらかったっていうかさ。ＷＪに参戦してことにしても、コントロールできなかったよ。だったらフリーになっていただいた方が天龍さんもいろいろやりやすい部分が生まれるじゃないですか。



「全日本分裂」を報じたスポーツ紙を喰いるように見る武藤。全日本生え抜き派と対立はどう転がっていくのか？　排除しちゃうぞ、バカヤロー!?



東スポ 120円
全日 再 分裂進行
スクープ
武藤社長追及
全日生え抜き幹部
何をやりたいのか分からない!!
プロレスより芸能活動とは何だ
東京確定 京王杯SC オッズ 新潟大賞典
イチロー500安打3割 松井も痛烈タイムリー
東京スポーツ
情けない団体 小川も全日批判

——天龍さんが抜けて、また全日本にも変化が出てくると思いますけど、今後のテーマはどういうものになりますか？

武藤　今後のテーマぁ？　行き当たりばったりですよ！

——ガハハハ！　良い意味で言うと、ひとつひとつクリアしていく、でいいですか（笑）。

武藤　うん。

——『Ｗ−１』に限らず、社長として「これがやりたい」プランはあります？

武藤　これがやりたい……か。まぁ、行き当たりばったりの中で、この映画を成功させなきゃいけねえし、すぐに押し迫ってるビッグショーを全部成功させたいね。それしかねえじゃん。それが「これがやりたい」だね。

——商売敵としては、またしてもＷＷＥが日本に上陸しますけど、意識はありますか？

武藤　いやぁ、そんなないね。

——ウルティモ・ドラゴン選手がＷＷＥ行きますけど、それについては何かありますか？

武藤　いいことでしょう。ただ、あの新しいマスク、グレート・ムタに似てねえか？　ちょっと似てるよねぇ（笑）。

——ガハハハ！　確かにあのハリウッドの特撮用素材は、似てるかもしれないですね（笑）。

武藤　似てるよなぁ。

——武藤さんも、また新しいグレート・ムタを降臨させてくださいよ！

武藤　俺も先駆者であり続けたいからな、いろんな部分でさ。俺も頑張るよ！

——映画にしても先駆者ですもんね。

武藤　うん。ただ橋本真也も映画出るからな。

——それには負けられない（笑）。

武藤　うん！（笑）。

——今日、一番力強い「うん」ですね（笑）。映画撮影はいつまで続くんですか？

武藤　知らないよ、そんなの（アッサリ）。

——ガハハハ！　すべてにおいて期待してます（笑）。

【03年5月17日／横浜市・映画『北海の虎・望郷』撮影現場にて収録】

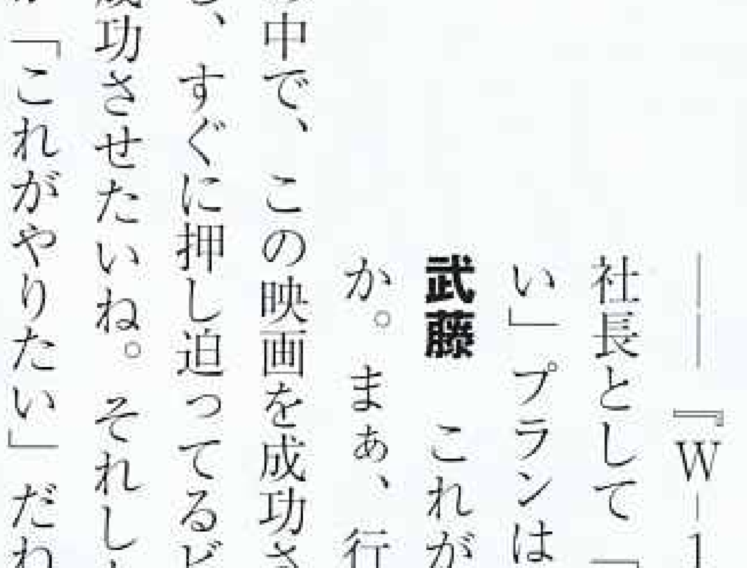
6・13橋本vs小島3冠戦!! スーパーパワー・シリーズ

5月29日（木）	18：30	岡山・岡山武道館
5月30日（金）	18：30	徳島・徳島市立体育館
6月1日（日）	16：00	兵庫・神戸サンボーホール
6月3日（火）	18：30	宮城・石巻市総合体育館
6月4日（水）	18：30	栃木・宇都宮市体育館
6月5日（木）	18：30	宮城・宮城県スポーツセンター
6月8日（日）	15：00	神奈川・横浜文化体育館
6月10日（火）	18：30	新潟・新潟市体育館
6月11日（水）	18：30	長野・松本市総合体育館
6月13日（金）	18：30	愛知・愛知県体育館

【お問い合わせ】
全日本プロレスTEL.03-3403-7344

武藤がダブル主演でスクリーンに登場! 小島も出ちゃうぞバカヤローッ!!

12月6日公開予定 東映ヤクザ映画 「北海の虎・望郷」



殺っちゃうぞバカヤローッ!!　武藤と小島がヤクザに扮する!!　公開は冬を予定してるので、2人の素晴らしい素晴らしい演技を首を長〜くして心待ちにしよう!!

武藤は元アカレンジャーとして知られる誠直也とのダブル主演で、かつて"北海の虎"と呼ばれた伝説のヤクザ（誠直也）の親友・ロマノフ藤原役で出演!!　小島も殺し屋・黒川ジョー役で映画初出演をはたす。会見で武藤は「映画監督はプロレスで言うところの"ブッカー"。この映画でもプロレス同様、ブッカーの要求に100%応えられるよう、ゴーフォーブロークでブチあたっていきたい」と、プロレスの隠語を交えながら、マサさん調で意気込みを語った。さらに「16年前に出た映画はノーカウントにしてもらって、この映画で新人賞を狙う」と、勝手にかつての主演映画「光る女」(87年)をなかったことにして、賞取りレースへ堂々名乗りを上げた。本間朋晃と土方隆司も女を襲う役で出演するそうなので、そちらも見逃さずに！

KEIJI MUTO

番組では"渕黄門様"としてノリノリでした

——やっぱり「天龍源一郎」というタマがな



2003年5月6日　後楽園ホール

ウルティモ・ドラゴン 最後の授業

ターザン山本



ウルティモ・ドラゴンが5月6日後楽園大会を最後に闘龍門を離れ、世界最大のプロレス団体WWEに入団した。最後の試合となったのはCIMAとの師弟対決。はたしてこの一戦にはどんな意味が隠されていたのか？

撮影／乾晋也

designed by matsu（Two three）

完全に一杯食わされた。校長のウルティモ・ドラゴンは、私を引っかけた意味で、正真正銘、完全なプロレスラーである。

カムバックした試合を見ると、本当に左の腕は悪いの？　神経がなくて力が入らないというけど、あれはアングルじゃないの？　と思ってしまう。

ウルティモが日本で左腕を手術したとき、私は病院にお見舞いに行っているので、それはないと思う。しかも手術の結果はそんなにいいとは言えなかったのだから、もう試合はできないと思っていた。それがピンピンしているではないか？

そんな馬鹿な、という感じである。やはり〝究極龍〟のウルティモは不死身の男だったということである。どんな時でも常識を覆したことをやってみせる。人をサプライズさせることの快感。

その〝プロレス心〟を彼はしっかりと持っていたのだ。お見事です。まいりました。これは脱帽するしかないではないか。

まぁ、ハッキリ言うと私は騙されたわけである。親しい友人を騙すことはプロレスの世界では最大の喜び、快楽になる。それは計画的確信犯のやることだ。しかもウルティモは今回、あっさりと「闘龍門」を離れてWWEにいった。もう〝行った〟というすでに過去形になっている。まったく逃げ足の早い男である。

自分がファイターであることの方が、自分が手塩をかけて作った「闘龍門」という団体よりも、価値観としては上にあったということができる。この辺の決断もプロレスラーそのものだ。

アメリカのビジネスの世界では、成功した会社を成功している間にあっさりと他人に高く売ってしまうのは常識とされている。内容は違うがウルティモが取った行動はそれに近い。「闘龍門なんかお前たちにくれてやる！」という感じなのだ。私が気に入っているのはまさにそこの部分である。

ああ、やっぱりウルティモはタイプとしては完全にまぎれもなくアーティストだったのだと、改めてそう思った。要するに校長は「闘龍門」に飽きたのだ。そろそろ違うことがやってみたかったのだ。

よく私が最近言っていることだが、「才能とはつまり飽きる能力」のことを言う。ウルティモは誰が見ても飽きっぽい人だ。「闘龍門」ではもはや、やることが煮詰まってきてそれが限界に来た。そうなったらもう逃げるしかない。

彼はWWEにもっともらしい理由をつけて〝逃げた〟のだ。これを称して「逃げるが勝ち」という。確かに校長の胸の中には、レスラーになったときから「一度でいいからニューヨークのMSG（マジソン・スクエア・ガーデン）のリングで試合をしてみたい」という夢と憧れがあった。

その夢を叶える絶好のチャンスがやってきたのだ。それがすぐ手に届く所にあったら人はもう行くしかない。やるしかない。夢というのは、何かを〝捨てる〟ことでもある。それもモーストインポータントなものを〝捨てる〟代償として夢は、初めて夢として現実のものにすることができるのだ。

「闘龍門」を捨てる代償としてMSGが、ぐっと目の前に近づいてきた。とにかく校長は偉い。何が面白いかと言うと、リーダーとか尊敬される指導者は、そのポジションに収まってそこに安住することよりも、何をしでかすかわからない。どこに飛んでいくかわからない。そういうわけのわからないハレンチなリーダーの方が、下の者たちからすると逆に気になる存在になるのだ。

5月6日　闘龍門JAPAN／後楽園ホール
UDG選手権試合　60分1本勝負
CIMA（チャンピオン）　20分04秒 マッドスプラッシュ→片エビ固め　**ウルティモ・ドラゴン**（チャレンジャー）

だからウルティモのWWE行きは、最高にして最大の判断、決断になった。師が弟子たちを先に突き放したのだから、彼は人生のことをよくわかっている。もはやウルティモと弟子たちの関係は、すでにマンネリ化して膠着状態に近かったからだ。

校長は世界一のプロレス団体に行ってしまったのだ。そのことによって弟子たちは、またしても自分たちとの格の違いとレベルの違いを見せつけられた。リーダーはかくあるべきなのだ。師と弟子の上下関係を固定しそれを恒久的なものとして考え、それを疑いなく生きていけば確かに楽だ。しかし、それをやっていると歪みが起こる。限界が来る。最後に破綻することは間違いない。それよりも1秒ごとに部下や弟子たちと自分との違いを見せつけていく。そこに全力を傾けるのが真のリーダーと言えるのだ。私はリーダー論としてもウルティモは、凄い人だと思っている。このように油断も隙もない。用心に用心を重ねることがリーダーには必須条件なのだ。

なぜなら弟子は必ず師を裏切るという法則があるからだ。これは弟子が悪いのではなく、師と弟子の関係そのものの中に、裏切りという項目があらかじめ内蔵されているのだ。

弟子は成長することが前提となっている存在。師はそれが停止した状態にある。これを見てもわかるとおり、両者の関係は弟子がやがて師を否定し超えていこうとするのは、もはや宿命でもあるのだ。

CIMAはウルティモの弟子とはいえ、歴としたプロ。5月6日、後楽園大会ではCIMAはウルティモに試合で勝ったが、本音を言うとまったく「勝った！」という気持ちになっていない。なれるはずがない。

むしろ敗北感の方が強いと思う。ウルティモがWWEに行ったのは、巨人軍の松井がFAでニューヨーク・ヤンキースに行ったのと同じなのだ。そう考えると5・6後楽園大会のウルティモとのシングルマッチは、極論して言ってしまうと、勝とうが負けようがCIMAにとっては、何の意味もなかった。

むしろあの試合はCIMAにとってやらない方がよかった。お互いプロと考えたら試合では師と弟子という言われ方はいっさい関係ない。

WWEに行くウルティモは、それだけでCIMAに勝っていたからだ。ウルティモにとって日本での試合は実を言うと、もうどうでもいいことなのだ。私がCIMAの立場だったら、「まったくウチの師匠はえげつない人だな……」と思っていたはずだ。

「その手があったか！　また師匠にやられた」である。こうしてウルティモは「闘龍門」で最も才能のある人間に、あの試合で心理的に多大なダメージを与えていたのだ。

それによって当然、CIMAは燃える。決して言葉には出さないが、ウルティモにリベンジを誓ったはずである。このリベンジとは復讐という意味ではない。「いまに見ていてください。俺も必ずそっちのレベルまで行ってみせますから」という固い決意である。ウルティモからすると「なぁ、CIMA、お前にだけはわかっただろう。トップの人間が一体どうあるべきかというのが……」と無言のメッセージを送っていたのだ。

つまり師と弟子は綺麗事ですむ関係では決してないこと、師はいつでも弟子を打ちのめし、叩きのめすことを日常的レベルからやり続けないと、その立場をいつか失ってしまうことになる。それをウルティモはCIMAに教えていたのだ。

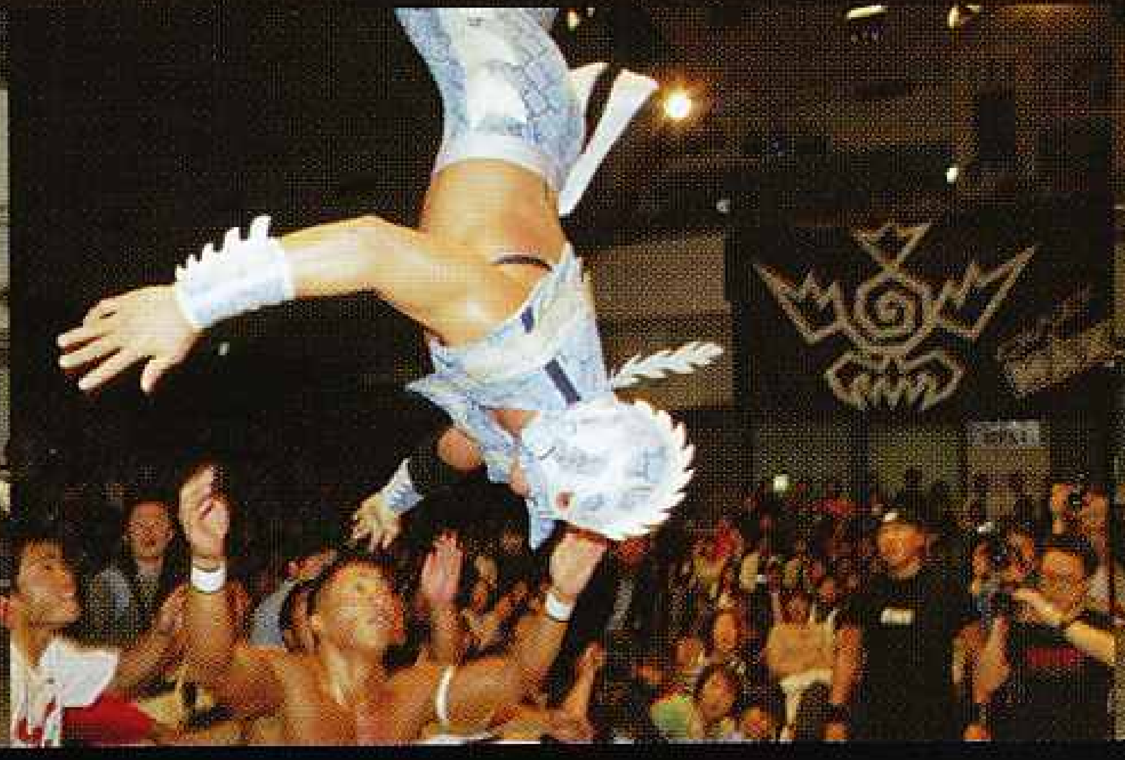
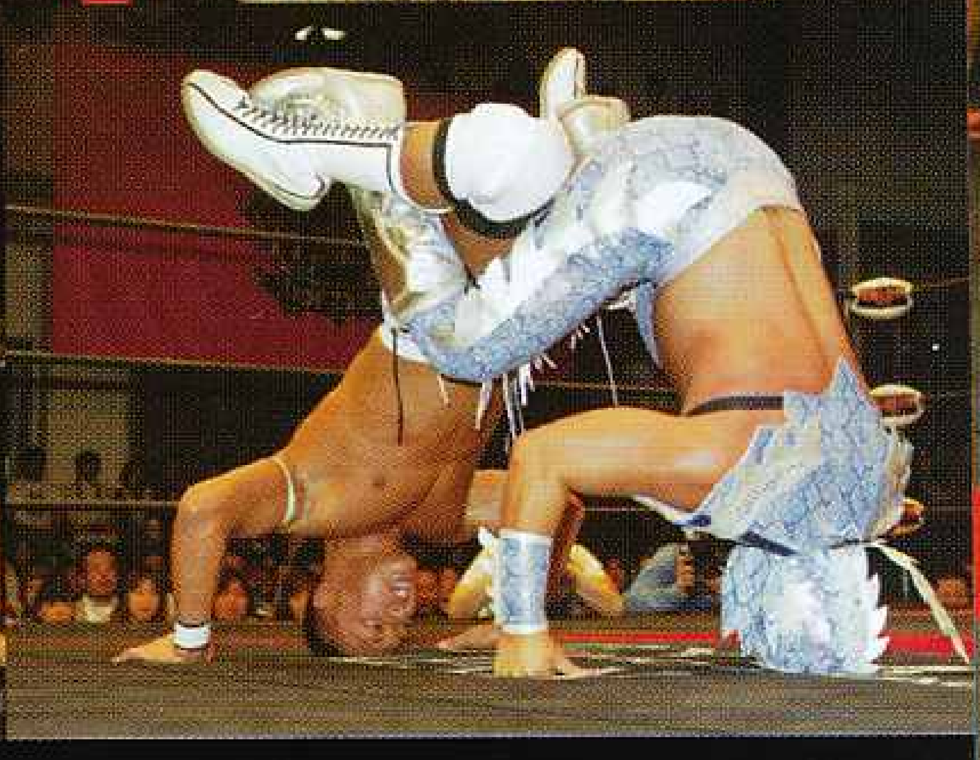
これは〝選ばれた人間〟にしかあり得ない2人だけのやりとりだったといえる。もちろん、CIMAはそのすべてをわかっていた。









夢の団体・闘龍門第2章に幕、そして――

"永遠のプロレス少年"

浅井嘉浩、ニューヨークへ

文／タダシ☆タナカ　撮影／乾晋也　designed by matsu(Two three)















(写真・右) ウルティモがバイプレイヤーとして高く評価する堀口元気と横須賀享は、敗者復活バトルロイヤル(ドラゴン・ランブル)を見事勝ち残り、決勝トーナメントに出場。堀口は1回戦マグナム、準決勝ではモッチーをそれぞれ逆さ押さえ込みで破りまさかの決勝進出! (写真・中) 決勝でも大「H・A・G・Eコール」を背に受けて大活躍。CIMAに敗れたものの、この日の主役は間違いなく堀口だった。(写真・左) 優勝したCIMAは初代UDG(ウルティモ・ドラゴン・ジム)王者に。名実共にCIMA政権となった。

堀口元気の4・22

——代々木第二体育館

ジャイアント馬場が死んだ99年1月に、後楽園ホールにて逆上陸を果たしたメキシコ生まれの闘龍門は、03年『EL NUMERO UNO』シリーズの大成功をもって、その歴史のクライマックスを迎えた。

「誰が一番強いのか?」——わかりやすく単純明快な最強決定トーナメントは、地方大会も満員御礼の盛況で、すっかり春の恒例行事となっていた。そして超満員となった代々木の大箱会場とPPVを購入したお茶の間のファンの前で、この日、新しいスターが認知された。会場に何度も〃H・A・G・E〃コールを自然発生させた堀口元気である。

ブロックに別れたリーグ戦の上位二名はすでに確定していたが、第一試合に組まれたのは敗者復活戦の〃ドラゴン・スクランブル〃から。アメプロでおなじみの形式をアレンジして、2分ごとに2名の選手がリングインする。生き残ったのは堀口と横須賀享の職人コンビだった。

第二体育館のすり鉢状の見やすさはどうだろう。ここはK-1誕生前夜の正道会館が『格闘技オリンピック』などで伝説を作り、文字通りの魔界だった『キングダム』の聖地として認知され、末期リングスにも使用された格闘技の殿堂だ。そこで華麗なるジャパニーズ・ルチャリブレが天空を舞ったのである。

第5試合で軍団リーダーのマグナムTOKYOを丸め込んだ堀口は、第8試合で新生M2Kの大将・モッチー(望月成晃)をも押さえ込む。そして闘龍門の顔であるCIMAをメインのリングに迎える頃には、一見さんも多かった客席は堀口への声援で出来上がっていた。

20分間の決勝戦を征したのはCIMA。ヒザの負傷から回復せず、このリーグ戦で首も痛めてボロボロ状態だったが、晴れて初代UDGチャンピオンに認定された。しかし、昨年までは会場の大半がC・MAXの応援一色だったのに、会社帰りの背広姿も少なくなく、後楽園やディファ有明の女性客中心と違い、男が多かった代々木では惜しみない拍手が堀口に贈られていた。

CIMAの必殺技シュバインが炸裂! マッドスプラッシュが決まって、堀口は力尽きて失神KOされた。飛べて踊れるダンサー軍団Do・FIXERのリーダー、マグナムにおんぶされ、一日四試合を戦い抜き、トーナメントで最高のお仕事をした敗者が花道を引き上げる姿に、不覚にも涙をこぼした客が大勢いた。プロレス芸術は初心者から大人のファンまで、かくも激しく感情を揺さぶる魔法のスポーツ・エンタテインメントであることを証明した瞬間である。

こうして闘龍門という業界のハイブリットを体験した者は、岡村隆志社長の言う「第二章の集大成」興行において、CIMA、マグナム、モッチーに継ぐ次世代看板選手の誕生に立ち会う幸運に恵まれたのであった。

U・ドラゴンの5・6

——後楽園ホール

議員となったグレート・サスケ先生から、前日の仙台大会で伝統のNWAミドル級ベルトを奪い返したウルティモ・ドラゴンは、弟子CIMAとの対戦に二冠王達成を宣言する。

師匠の厳しくも優しい目が、一番星の生徒をにらみ続けた20分間のメインイベントはしかし、マッドスプラッシュで先生が負けてしまう。そして「あとは任せたゾ!」——ドラゴン校長は長年の夢だったWWE参戦を発表。Do・FIXERと一緒に踊っての感動のフィナーレを迎えている。

まさに有終の美であった。その日の晩のフジテレビ『スマックダウン』中継では、TAJIRI、ショー・フナキに続いて第三の日本人(しかもマスクマン)のWWE加入が思わせぶりに告知されていた。それは完璧すぎるドラマのようだった。アメプロ黄金期の98年7月、治療のためアトランタでWCWが指名した医者の執刀ミスによって、左ヒジが動かないという悪夢が勃発する。

思えば長い道のりだった。選手養成学校として自宅のあるメキシコに闘龍門を設立したのは97年のこと。それがプロレス団体としてここまで成功するなど、一体誰が予想できたであろうか?

小さいインディー団体内に三派の軍団抗争が起き、興行の開始早々試合結果を予言するモッチーのマイクに爆笑したのが昨日のことのようだ。これまで鬼門だった女性客など新たな客層を開拓すると同時に、危ないギャグを楽しむ大人のマニアからも絶大な支持を受けるようになる。

一方、やる側の少年たちにとっても闘龍門道場は夢を叶えてくれる宮殿になっていた。メキシコからの第二のプロモーションとして01年11月に初登場した『T2P』のデビューはどうだろう。ジャベと呼ばれるメキシコ流関節技の応酬は、日本の誇るUWFの伝統と、ルチャの華麗さが合体して、これまた予想以上の成功を収めることになる。

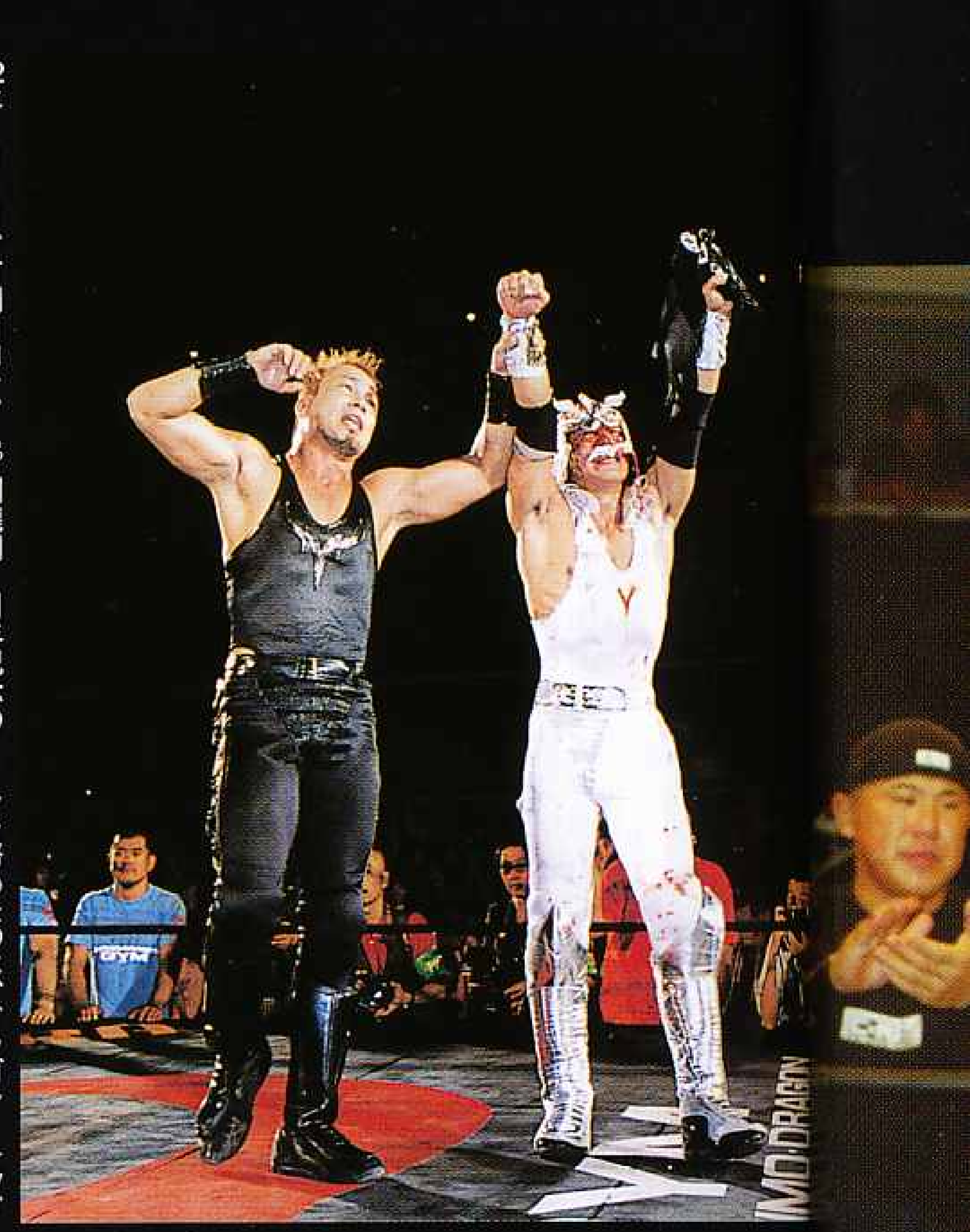
次々に新卒業生のグループが登場するこのシ



02年12月26日、T2Pのエース、ミラノコレクションATとCIMAが遂に一騎打ちで激突。CIMAがシュバインで勝利し、"次世代プロジェクト" T2Pは解散が決定した。



今年1月19日の『WRESTLE-1』東京ドームで、闘龍門第3のプロジェクト、「闘龍門X」の中心人物、石森太二が鮮烈日本デビューを飾った。



02年9月8日、有明コロシアム。闘龍門5周年記念のメインを努めたのは、ドラゴン・キッドとダークネス・ドラゴンのマスカラ・コントラ・マスカラ(敗者覆面剥ぎマッチ)だった。

ステムは、早くも第三のプロモーションとして『闘龍門 X』の旗揚げが予定されている。だから毎回観にいっても、中毒患者になってしまった常連さんをも飽きさせていない。やがて三つだった軍団抗争は、岩手県出身のイタリア人＝ミラノ・コレクションAT率いるイタリアン・コネクションの台頭によって、さらに楽しくも複雑なプロレス絵巻を魅せられるようになっている。

ビジネス戦略を指揮してきた岡村社長は、6月29日の地元・神戸ワールド記念大会以降、年間170興行にする野望を発表した。すでにGAORAケーブル中継では『インディーでもない、メジャーでもない、次世代プロレス団体＝闘龍門』という宣伝が流されている。なにしろ抱える選手の数を比べれば、すでに日本一の団体にまで膨れ上がっていた。いや、数の問題ではない、海外の専門家たちからも、「世界一面白いプロモーション」だと絶賛されるまでに信頼されていたのである。

プロレスは日本では格闘技、メキシコでは漫画。米国は映画の世界

そして永遠のプロレス少年＝浅井嘉浩は、02年9月8日の有明コロシアム大会で、選手としてのウルティモ・ドラゴンに再変身する。二度とないと思われていた奇跡の復活を遂げたのだ。ヒジの痛みでまったく眠ることすら出来なかった地獄の日々から4年半の歳月が流れていた。プロレスの神様は、〝生涯プロレスラー〟の希望を叶えたのである。

ちなみにこの有明大会は、夢ファクトリーという最弱小インディー出身のダークネス・ドラゴンと、アマチュア・プロレスの選手からNHKのドキュメンタリー番組に取材されたことを契機に、FMWのレフェリーとなってプロの世界にもぐりこめたドラゴン・キッドがメインを務めた。

「夢を信じた者だけが、夢を叶えることができる」——恐るべしなのは、闘龍門で生まれて初めてプロレス会場を体験するという入門者を、続々と迎え入れてきた客層革命であった。

ドラゴンがリングに復帰してからは、闘龍門は来るべき日のために準備を開始する。首の負傷で現役引退を余儀なくされた神田裕之は「教頭」という役職を与えられ、やがてドラゴンは選手たちに舞台裏をも任せて行くことになる。そして鮮烈な印象を残したまま『T2P』が惜しまれながら解散し、CIMAたちに将来のバトンを託す〝師弟対決〟の大団円へと向かっていったのだ。

そして大河ドラマはまだまだ続く

私たちは不幸なことに、身近にある素晴らしいものの宝石のような価値に気付いていないことが多い。日本人駐在員が暮らす世界中の大都市には、必ずどこにも日本の番組をレンタルする店が存在する。そこで言葉がわからない現地人が毎週借りていくのは、昔から決まってアニメか、そうでなければプロレスだった。決して日本国内の世間側メディアがメジャーだとプッシュするJリーグのサッカーや、巨人対阪神戦のプロ野球ビデオではなかった。わが国を代表するエンタテインメントは、世間から誤解されてきたプロレスだったのである。彼らの鑑賞眼にはメジャーもインディーもない。闘龍門の海賊ビデオは近年、特に人気アイテムになっていた。

ドラゴンは今回のWWE入りについて、「誘われたわけではない。自分から打診したのだ」と謙遜する。浅井は人脈にも恵まれていた。あらゆるルートからWWE挑戦を推薦する紹介状やビデオが首脳陣に寄せられていたことも事実だ。しかし、真相はどちらが先に声をかけたという問題ではない。その解答はWWEを注意深く見ているファンには明白だろう。そこには闘龍門だけで見ることのできた独自のムーヴ展開が、堂々とパクられていたからである。北米の若手選手たちは、何が本当に素晴らしいかを見極めていたのだ。



CIMA戦の翌日、ウルティモ・ドラゴンは都内ホテルで会見を開き、WWE入団を正式に表明。ハリウッド特殊メイクの素材を利用したニューマスクを披露した。

一部の専門誌紙には5月18日のPPV大会『ジャッジメント・デイ』からドラゴンが参戦するかのように報道されているが、本人はまだワーキング・ビザが取れておらず、それは無理な相談ということになる。それに現時点のWWEは、マッチョマンとの二人三脚で一世を風靡したエリザベスが、最後のボーイ・フレンドとなったレックス・ルガー宅で死亡したことと、そのルガーが違法ステロイド所持で逮捕されたことなど、スキャンダルに見舞われそれどころではない状況にある。

フジテレビ側の希望とは裏腹に、本人は「ロックやゴールドバーク、旧友クリス・ジェリコのいる『RAW』への加入」が本音になる。WCW時代に全部で10本のベルトを同時に手にしたこともあるドラゴンが、レイ・ミステリオらとクルーザー級で活躍できるのは、誰にでも想像できること。しかし、浅井が北米で高く評価されたのは、たとえばスティーブ（現ウィリアム）・リーガルなどヘビー級戦士とも名勝負をやってのけた実績にある。

いずれにせよ、本人は落ち着いてチャンスを待っている。あせることはない。来年春の『レッスルマニア20周年記念』は、原点ニューヨークMSGでの開催だ。私たちは信じている。ラ・ケブラーダは北米では元祖に敬意を表して〝アサイ・ムーンサルト〟と呼ばれてきたが、マンハッタンの会場に本家のそれが炸裂する日のことを。

夢を信じることができるなら、貴方もドラゴン・マジックのとりこになるだろう。

闘龍門JAPAN 6月大会日程

01日（日）大阪・はびきのコロセアム	開始17:00
04日（水）神戸・チキンジョージ	開始19:00
06日（金）神奈川・横浜赤レンガ倉庫	開始18:30
07日（土）新潟・長岡市厚生会館	開始18:30
08日（日）埼玉・本川越ペペホール・アトラス	開始17:00
09日（月）福島・郡山南東北総合卸センター	開始18:30
10日（火）山形・山形市総合スポーツセンター	開始18:30
15日（日）岡山・倉敷山陽ハイツ体育館	開始15:00
18日（水）愛知・春日井市総合体育館	開始18:30
19日（木）東京・後楽園ホール	開始18:30
20日（金）愛知・豊橋市総合体育館	開始18:00
21日（土）長野・上田市民体育館	開始17:00
22日（日）三重・四日市オーストラリア記念館	開始18:00
29日（日）兵庫・神戸ワールド記念ホール	開始16:00

お問い合せ:闘龍門JAPAN TEL:078-333-9797

6・19後楽園、即日完売!!
急遽立ち見券を前売り限定発売!

6月19日（木）18:30～の後楽園ホール大会に関して、前売チケット（各種指定席）が即日完売のため、このたび、「一般立見」の前売販売を急遽行うこととなった。

価格:¥3,000　5月23日（金）から発売中

チケット販売所は下記の通り
◇後楽園ホール:03-5800-9999
◇チャンピオン:03-3221-6237
◇T-1:03-5275-2778
◇アメリカン:03-3962-6443

※限定枚数となっているので、お求めはお早めに!!

ウルティモ・ドラゴンWWEデビュー戦延期

5月14日付でアメリカ・WWEに入団したウルティモ・ドラゴンのWWEデビュー戦が延期されることとなった。既報の通り、5月18日（現地時間）にノースカロライナ州シャーロッテにて開催されるPPV大会「ジャッジメント・デイ」でのWWEデビューが決定していたが、直前にビザ給付が遅れる問題が生じ、延期を余儀なくされた次第。

詳しい延期日程は、現時点では未定だが、ビザが給付され次第WWEツアーに合流し、改めてWWEデビュー戦の日程が決定する模様。

WWEでのウルティモ・ドラゴンの勇姿はもうしばし待て!

8ページ貫通！　来日記念大特集！

SMACKDOWN! PRESENTS UNLEASHED IN THE EAST

日本襲撃!!

最も危険なディーバ、



7月、横浜＆神戸に再上陸！ 腹上死確実のWWE昇天特集

5月15日、渋谷区ウェスティン・ホテルでWWEが記者会見を行い、7月18日＆19日に行われる日本大会の概要を発表した。約半年ぶりの再上陸となるが、前回は『RAW』チーム興行だったのに対して、今回は『SMACKDOWN!』チーム興行。メンバーの中には日本初登場のスーパースターズも多く、特に今号の特集扉を飾るドーン・マリーも注目の初来日となる。今年、トーリー・ウィルソンの父親をセックス地獄の果てに腹上死させた魔性のディーバに、本誌は突撃インタビューを敢行！　7月まで、いまから全速力で突っ走ります！

構成／スモーノブ
撮影／乾晋也
designed by ZERO graphics

トーリーの父親が腹上死するアングルも抵抗感はなかったわ!!

5月15日、渋谷区のウェスティンホテルでWWEは7月大会の概要を発表した。会見には日本が生んだ「スマックダウンNO.1アナウンサー」ことフナキと、色気を武器に悪女っぷりを発揮してストーリー上で大活躍中のドーン・マリーがWWEからやってきた。大会概要は左下の囲みを参照して頂くとして、今回は本誌はドーン・マリーの貴重な肉声をゲットしたので、その模様をお伝えしよう。とんでもない悪女キャラを演じる彼女の根っこには一体何があるのか? 読めば納得のプチ・インタビューだ!

聞き手／スモーノブ　撮影／乾晋也



妖艶!!　魔性のディーバは40歳!!

DAWN MARIE SPECIAL INTERVIEW

WWEのリング上を彩る「ディーバ」という存在は、女性としての美しさとアスリートとしての強さが求められる。7月に来日することになるWWE『SMACKDOWN!』の中でもトリー・ウィルソンが、3月にアメリカの「PLAYBOY」のカバーガールとなり、フルヌードを披露して話題になったばかりだ。

そのトーリーとストーリー上で激しく火花を散らし合ったのが、このドーン・マリーだ。妖艶な魅力でトーリーの父親・アルを口説き落として結婚！ だが、新婚旅行の最中にセックスのやり過ぎでアルは腹上死、葬式に訪れたトーリーの顔面を張り飛ばし&後頭部を花瓶で殴りつけるという極悪非道ぶりを発揮して大いに反響を呼んだ。あまりのハマリっぷりに、よっぽどの悪女なんだろうと誰もが思った矢先、『RAW magazine』vol.1（日本語版）に、プロレスに対して非常に真面目に取り組む彼女の素のインタビューが掲載された。誰よりも早く会場へ行き、自分の試合がない時でさえ会場で練習をして、試合を見て帰るという熱心な姿勢には驚かされたファンも多いはず。

記者会見では「日本で試合が出来ることを大変光栄に思う」と語り、「私はあらゆる可能性を否定しないわ。日本の『プレイボーイ』でカバーガールをやらないか?という話が来たら、もちろんOKよ」とプロレスにもヌードにも前向きな姿勢を見せてくれた。7月の日本大会でも是非とも試合とグラビアの両方での登場をお願いしたいものだ。

――はじめまして！ 昨日、来日されたんですよね？

マリー 昨日の午後、日本に着いたんだけど……。寝てたわ（かわいらしく）。ジェット・ラグ（時差ボケ）で疲れてたのね。おかげで、今日は朝早く起きて散歩してたのよ。これから、ショッピングに行きたいわね。私の趣味だから（笑）。

――どんなものを買うんですか？

マリー そうねぇ、洋服かしらね。

――やっぱりセクシーなものばかり？

マリー 個人的には、どんなものでも着るのよ。その時のムードに合わせて、どんな服でも楽しんでるの。

――やっぱり着る人がいいから、どんな服でも似合うんだろうなぁ。

マリー イエス！（笑）。

――日本のプロレスをご覧になったことはありますか？

マリー 会場に行ったことはないけど、ビデオでなら見てるわ。ニュー・ジャパン、オール・ジャパン、ゼロ・ワーン……。そういうものを見て学んでるのよ。

――おお、ZERO-ONEも見てるんですか!? あなたが非常に真面目にプロレスに取り組んでいるという記事を『RAW magazine』で読んで、僕は非常に驚かされたクチなんですが……。

マリー もう、かれこれ8年間もプロレスを学んでいるわ。いまでは、私の人生のほとんどすべてと言ってもいいくらいよ。私はこの仕事を愛してるし、プロレス以外を仕事にすることはあり得ないわ。いつの日にか、自分のやってることを完成に近づけたら、私の後に続く若い女性が「ドーン・マリーがあそこまでやったんだから、私はさらに先へ行きたい」と思ってくれるようなところにまで行くのが目標よ。

――そもそも、どうしてプロレスをやってるんですか？

マリー 95年にジミー・スヌーカが面倒を見てくれて、この世界の扉を開いてくれたの。彼からの影響は凄く大きいわ。「なぜ、こんなに良くしてくれるの？」と聞いたことがあるんだけど、彼は『プロレスがとっても好きなんだ。プロレスをずっと盛んにしておくためには、自分の持っているすべてを教えていかなくてはならない』と教えてくれたの。だから、私もプロレスの向上に貢献して、それを次の世代に伝えていくのが使命だと思うのよ。

――はぁ～、しっかりした考えをお持ちなんですねぇ。でも、以前はNYのビジネス学校で不動産の勉強をしてらっしゃったんですよね？

マリー ええ、マンハッタンで働いてたわ。

――バリバリのキャリア・ウーマンだった、と。

マリー そうなろうと努力してたわね（笑）。

――それが、なぜプロレスの世界に飛び込んだ

んですか？

マリー　私は俳優とモデルの学校にも行ってたの。その学校を卒業した時に、ちょうど不動産の仕事に就けたわけ。初めは契約の仕事をしてたんだけど、最後にはポスターにサインをするのが自分の仕事になってしまって……。その会社の人がニュー・ジャージー州で小さなプロレス団体をやっていて、それを見て私も「プロレスをやってみたいなぁ」と思ってしまったのよね。3～4歳の頃に見たっきりだったのに（笑）。その1週間後に電話がかかってきて「ショーに出してあげる」と言われて、やってみたらホントによかった！　「これだ！」と思ったわ。すぐに仕事を辞めて、プロレスの世界に飛び込んだの。

――リング上での活躍を見てると、純粋にプロレスを愛しているあなた本人とはかけ離れたキャラクターなんで、そんな背景があったとは正直、驚きですよ。

マリー　ありがとう（笑）。リング上は私のキャラクターは意地悪で性悪な感じだからね。

――でも、リング上でそのキャラが出せるということは、自分の中にそういう部分があるということですよね？

マリー　ええ、もちろん（笑）。誰の心にだって意地悪な部分や性悪な部分はあると思うの。状況によって、そういうふうになるんだと思うんだけど。私自身は、そういう人間になりたいとは思わない。もともと笑うことが大好きだし、楽しい時間を過ごしていたいと思うの。あと、ジョークというか、人をからかうのが好きね。

――あ、WWEのバックステージでも、いろいろイタズラやってるんですか？

マリー　もちろん！　口で言うジョークよりも、何かイタズラを仕掛けるジョークが好きなの（笑）。

――へぇ～、仕掛けられてみたいなぁ（笑）。イタズラのライバルとかいますか？

マリー　ニディア！　私とニディアが一緒にいると、いつもトラブルが起こるの（笑）。一番いい友達よ。

――たとえば、どんなことをするんですか？

マリー　オオ～、ジーザス……（と天を仰ぐ）。そんなことまで聞かれるとは思わなかったわ（笑）。こんなこと言っていいのかどうか分らないけど、私とニディアは「ハーイ！」って挨拶して握手する時、手に画鋲を仕込んでおくの。

――アハハハハ！　おっかねぇ!!

マリー　あとは腰に手を回した時に、お尻に画鋲を刺したり（笑）。そのリアクションが周囲を楽しませるのよ。

――タチ悪いなぁ（笑）。でも、普段からそんな物騒なことやってるんだから、ストーリー上のキャラにも合点がいきますね。

マリー　そういうスニーキー（狡賢い）なことは好きね（笑）。



会見に出席したのはフナキ、ドーン・マリーとトータル・スポーツ・アジアのマーカス・ルア社長。今回、いつも登場するWWE副社長のロジャー・マーメント氏は来日しなかった。フナキは昨年3月の日本大会に続いて、二度目の凱旋となる。

――あなたが、今年の初め頃にトーリー・ウィルソンの父親アルを腹上死させたアングルは日本でも大反響でしたよ。

マリー　あら、そう。なぜかしら？

――う～ん、なぜって言われてもなぁ。いや、まず日本のプロレスじゃあり得ないシチュエーションでしたし、あなたが非常にセクシーに見えたからだと思いますよ。

マリー　オー、サンキュー（笑）。

――ああいうアングルは抵抗なく出来るものなんですか？

マリー　抵抗はないわ（キッパリ）。むしろ、楽しいのよ（笑）。アイ・ラブ・マイ・キャラクター（キッパリ）。彼女のキャラクターは私自身なら絶対に出来ないようなことまでやってしまうの。それを演じて、まったく別人になれることは楽しいわ。

――リング上で試合をやる機会も増えてきましたが、演じることと試合をすることはどちらの方が楽しいですか？

マリー　どちらも同じぐらい楽しいわね。約7年間マネージャーをやってきて、ここ1年半でレスラーになったの。この1年半で学んだことは、他の選手がリングの上でやっていることに畏敬の念を持つこと。7年間のマネージャー役の頃にはなかった気持ちよ。それによって、もっと視野が広がって、プロレスをひとつの大きな流れとして捉えることが出来るようになったわ。

――あなたは7月に日本で試合をすることになるわけですよね？

マリー　まだ決まってないけど、そうなってほしいと願ってるわ。

――じゃあ、最後の質問ですけど、先ほどの会見で日本の『プレイボーイ』のカバーガールをやってもいいとおっしゃってましたが、ウチの雑誌でいかがですか？

マリー　OK！　じゃあ、上の人に言っておくわ。さっき撮った写真をそのまま載せちゃえばいいじゃない？（笑）。

――わかりました、頑張ります（笑）。

【5月15日、渋谷区ウェスティン・ホテルにて収録】

インタビュー後記■というわけで、残念ながら表紙奪取はならなかったものの、特集の扉になってもらいました！　40歳とは思えないアグレッシブさとビームが、フェロモン出っ放しの危険な目が非常に印象的でした。いつの日か、『紙プロ』にカバーガールとして登場してもらい、トーリー以上のヌードで誌面を飾っていただきたいものである。もちろん、日本大会での活躍にも期待大!!



「いつもTVで見ている通りのWWEをお見せします！」とフナキはコメント。スマックダウン・NO.1アナウンサーな姿も見たい！

早くもチケット争奪戦は必至か!?　決戦は6月14日（土）午前10時!!

『WWE SMACKDOWN! UNLEASHED IN THE EAST』

7月18日（金）　神奈川・横浜アリーナ（17:30開場／19:00試合開始）
7月19日（土）　兵庫・神戸ワールド記念ホール（16:30開場／18:00試合開始）

主催：WWE／フジテレビジョン
協賛：《セゾン》カード
協力：Jスカイスポーツ／サムライTV／SKY PerfecTV!／日刊スポーツ新聞社／TOKYO FM
ツアー・プロモーター：トータル・スポーツ・アジア
制作：WWE／フジテレビジョン／キョードー東京
お問い合わせ:キョードー東京　TEL.03-3498-9999

入場料（税込）:SS席　¥30000／S席　¥20000／A席　¥10000／B席　¥5000
発売日：6月14日（土）
発売場所：キョードー東京　TEL.03-3498-9966（特電）
イープラス：http://eee.eplus.co.jp
チケットぴあ　TEL.0570-02-9977
CNプレイガイド　TEL.03-5802-9999
ローソンチケット　TEL.0570-06-3003（Lコード　36600）

Total Sports Asia

トータル・スポーツ・アジア日本オフィス代表

LYAN CHUNG SEE

WWEアジア地区総代理店の日本進出事業計画を聞け!

WWEアジア地区総代理店として、日本におけるWWEのビジネスにあらゆる局面で関わっているのがトータル・スポーツ・アジアという会社だ。WWEの日本大会に「ツアー・プロモーター」として名を連ねるこの会社が、今年の初めから日本に事務所を構えて本格進出を始めている。本誌は流暢な日本語を操り、隙あらばギャグを連発する日本オフィス代表のリャン氏に直撃インタビューを行い、トータル・スポーツ・アジアという会社の概要とWWEの日本戦略について話をうかがってみた。

聞き手/阿部タケシ



WWEの日本窓口が遂に登場!!

――そもそも、トータル・スポーツ・アジアという会社は、どんな会社なんでしょうか?

リャン 1997年にマレーシアで設立されたスポーツ・マーケティング会社です。スポーツ・マーケティングという言葉はあまり日本では耳にしないですけど、「スポーツをビジネスにする」という意味なんです。その中でウチの会社の主要業務はTV番組の放映権のディストリビューションですね。プロレス、サッカー、バスケット、ボクシング、バトミントン、ゴルフ、水泳などの番組の権利を売買するのが主な業務の一つなんです。いろんなスポーツ番組の権利元から権利を買ったり、預かったりして、TV局に売るんです。

――でも、この事務所の中って、ほとんどWWEのものばっかりじゃないですか。ちょっとしたWWEの支社みたいですよ(笑)。リャンさんの仕事の中でWWEが占める割合は、どれぐらいなんですか?

リャン 今のところ、業務の9割以上ですね。会社全体では、いま言ったようにいろいろやらせてもらってるんですが、WWEというのは他のスポーツと違ういろんな側面がありますから。ビジネス展開の方法もいろいろあるんですよ。ただ番組を売るだけではなくて、去年3月とか今年1月とか今度の7月の興行もやったりしてます。

――WWEのグッズ展開もこちらでやってるんですか?

リャン そうですね。グッズの商品化といいますか、我々はライセンシングとマーチャンダイジングと呼んでるんですけど、一般企業さんとWWEとグッズのライセンス契約を結んで一緒に作っていくわけです。これはWWEの特徴の一つですね。

――興行以外の部分も充実してますからね。

リャン WWEは年間300回以上興行を開催して、その一部を収録して、テレビ番組やDVDをつくっているし、様々なオフィシャルグッズも市場に送り出していますのでホントに複合的なエンターテインメントソフトなんですよね。

――グッズ展開は、WWEのTシャツとかを日本の企業に卸す形になるわけですか?

リャン WWEのオフィシャルグッズを日本で作ることになります。

――なるほど。トータル・スポーツ・アジアさんでグッズを作る権利を売るわけですね。商品を売るわけではなくて。

リャン そうです。一番分りやすいのは「Hello Kitty」ですよ。

――ハ、ハロケテ? 何ですか、それ?

リャン ハロー・キティ……。「キティちゃん」です。

――すいません、発音が良すぎて僕の英語力では分りませんでした(笑)。

リャン ハハハハ! あの権利はサンリオさんが持っていると思いますけど、靴下メーカーやお菓子メーカーや傘メーカーと契約して商品化するのと同じですね。ウチの会社はWWEのアジア全域でのエージェントをやらせてもらってますので、各国の企業さんとライセンス契約してWWEのオフィシャルグッズを作るわけです。

――アジア全域というのは、まあ東は日本まででしょうけど、西はどのへんまでなんですか?

リャン インド、パキスタン、スリランカ、バングラディッシュあたりです。中東はやってないですね。じつは、インドってWWE人気が非常に高くて、放送してる番組も日本と同じラインナップなんですよ。

――昨年11月にはインド・ツアーもありましたよね。

リャン そうですね。3都市で開催して、どれも大成功でした。ちょっと待ってください……。

(と、何やら取り出してくる)。

――うわっ、すげえ! 何だ、これ!? (笑)。

リャン これが、まさにライセンス契約なんですよ(P93の図版参照)。これはウチが仲介したバブルガムを作ってる会社とのライセンス契約なんですけどね。これはWWEのロゴが入ってるクッキーです。両方とも、インドで普通に売られてるんですね。こういうことを日本でもやっていきたいと思います。

――へぇ~。これは凄い!

リャン これはマレーシアの携帯電話プリペイド・カードなんですけど、この3種類が半年間

で200万枚売れました。

――にひゃくまんまい！　これ、1枚いくらなんですか？

リャン　1000～3200円ぐらいですね。これは第2弾なんですけど、第1弾はたった2週間で20万枚が売り切れました（笑）。

――凄いなぁ。マレーシアって人口はどれぐらいなんですか？

リャン　2300万人です。人口は日本の1／6ですけど、WWE人気という意味では日本よりずっと上なんです。

――はぁ～、タジリ選手が「日本は遅れてる」って言った言葉の意味が分りましたね。90年代後半からマレーシアには選手がよく行ってましたけど、凄いことになってるんだなぁ。ところで、トータル・スポーツ・アジアさんとWWEの関係は、いつ頃から始まってるんですか？

リャン　はっきり憶えていないですが、98年頃からですかね。まずTV番組の流通がキッカケです。WWEはアジアに拠点がなかったんですよ。ウチの会社の強味としてはアジアで20カ国以上のテレビ局や企業と取引をさせて頂いてますので、ウチのパイプとノウハウを使ってWWEの番組を流通しているんです。アジア10数カ国で放送してるんですが、すべてトータル・スポーツ・アジア経由ですからね。

――そういえば、僕の友達がフィリピン・パブに行った時にストーンコールドのTシャツを着て行ったら女の子にすごく喜ばれてたんですよ（笑）。

リャン　そうでしょうね。東南アジアだと地域によってはずっと前から放送してますから。

――それが日本で放送することになった経緯は？

リャン　一番最初にJスカイスポーツさんと契約をした時ですよね。たしか3年半ほど前です。

――その前、WWEはスター・プラスとかFOXで放送してましたからね。

リャン　ええ。その頃はTV放送だけでしたけど、いまは興行とかライセンシング・ビジネスを展開し始めて、おかげさまで順調に伸びてます。それを加速させるために、今年1月に東京で事務所を作った、と（笑）。



これが驚異的な売上を誇るマレーシアの携帯電話プリペイドカード。アジア各国で、すでにこんな商品が何十万枚も出回っていることを思えば、やはり日本は世界から遅れているのかもしれない。



上品なクッキーのパッケージ上に唐突に現れたケイン＆RVD。強烈なインパクトだ。ちなみにクッキーにはWWEのロゴ・マークが入っている。これまたインド製。



インド製バブルガムのボトルのラベルにレズナーとビッグ・ショー。ボトルの中にはビックリマン・チョコのヘッドのようなキラキラのスーパースターズのシールも入っている。

――このままだと、日本のプロレス・マーケットを駆逐してしまうような勢いですよ（笑）。

リャン　そのつもりは全然ないんですけどね。

――あ、そうなんですか？

リャン　どちらかといえば、日本のプロレス団体をリスペクトしてますし、共存していきたいという気持ちなんですよ。

――いままでは日本の方がプロレス先進国だって言われてたんですけど、WWE中継が毎週見られるようになってからは、正直言ってプロレス先進国はアメリカなんじゃないかって見直され始めてるんですよね。ファンの中でも、日本のプロレスは見ないけどWWEは見るっていう人も増えてるんですよ。ちなみに、7月の日本大会はTV放送されるんですか？

リャン　これは未定です。基本的にハウスショーは収録しないのですが、そこは検討中ですね。まあ、今回の大会はTV放映が無理でも、いずれ日本でもTVショーをやりたいと思っています。ただ、WWEの面白さを感じてもらうにはライブが一番だと思いますから。TVで見るより何倍も、何十倍も面白さが違う！　双方向型のエンターテインメントなんで、受身で見るだけじゃなく、選手と一緒に会場を盛り上げていくものですからね。より多くの方に生で見て頂けるようにしていきたいと思います。

――その一環で今回は初めて関東以外にも進出したわけですね。喜びの声が多いですよね。

リャン　そうです。Jスカイスポーツ、スカパーやサムライTVは全国放送してますから、会場に行きたくても行けなかった人たちのために、今後は東北や九州でも生で見られる機会を作っていきたいです。

――おお～、それは楽しみだなぁ。あとオフィシャルショップがお台場に出来るんですよね？

リャン　ええ。いままでは通貨や言葉の違いもあって、なかなか手に入らなかったWWEのグッズを手に入れやすくするためにはいいですよね。関税もあるし、送料もかかるんで、10ドルのモノを買ったはずが最終的には3～4000円になってしまうんです。もっと簡単に、欲しいものが手に入るようにしていきたいですね。アメリカと同じものも作りますけど、日本独自のグッズもありますよ。例えば、WWEのオフィシャル携帯電話のストラップを含めた携帯電話アクセサリーは近いうちに発売される予定です。

――おおっ、ストラップって確かに日本独自のものですからね。

（※リャンさんの電話が鳴り、テープ中断）

――お忙しいのにすいません。もうちょっと、お話をうかがってもいいですか？

リャン　大丈夫ですよ。僕の時給、そんなに高くないから（笑）。

――ハハハハハハ！

【5月12日、渋谷区　トータル・スポーツ・アジア日本オフィスにて収録】

■ギャグも飛び出したところで、今月はここまで！　さらなるWWE日本進出の謎に迫るべく、次号でもリャンさんインタビュー後編を掲載します！

読者プレゼント　各1名様



5月15日のWWE記者会見でお土産に配られたWWEのTシャツも読プレに放出します！同じくサイズはXL。かっこいい！

リャンさんからTシャツの読プレをGET！『SMACKDOWN！』のロゴ入りなので7月大会の会場に来て行こう。サイズはL。

※読者プレゼントの応募方法についてはP.159を参照のこと！

老爺（ろうじい）&蛇丸（じゃまーる）の2P警告隊presents
ネタバレ通信 vol.4

日本大会に関する極上裏ネタとは!?

蛇丸　さあ、今回から2P警告隊の新メンバー・利己（リコ）にも加わって頂くことになりました。

利己　よろしくお願いしま～す。裏方の仕事をいろいろやらせてもらってる利己よ。

老爺　やっぱり、リコだけにおネエ言葉なんですね（笑）。

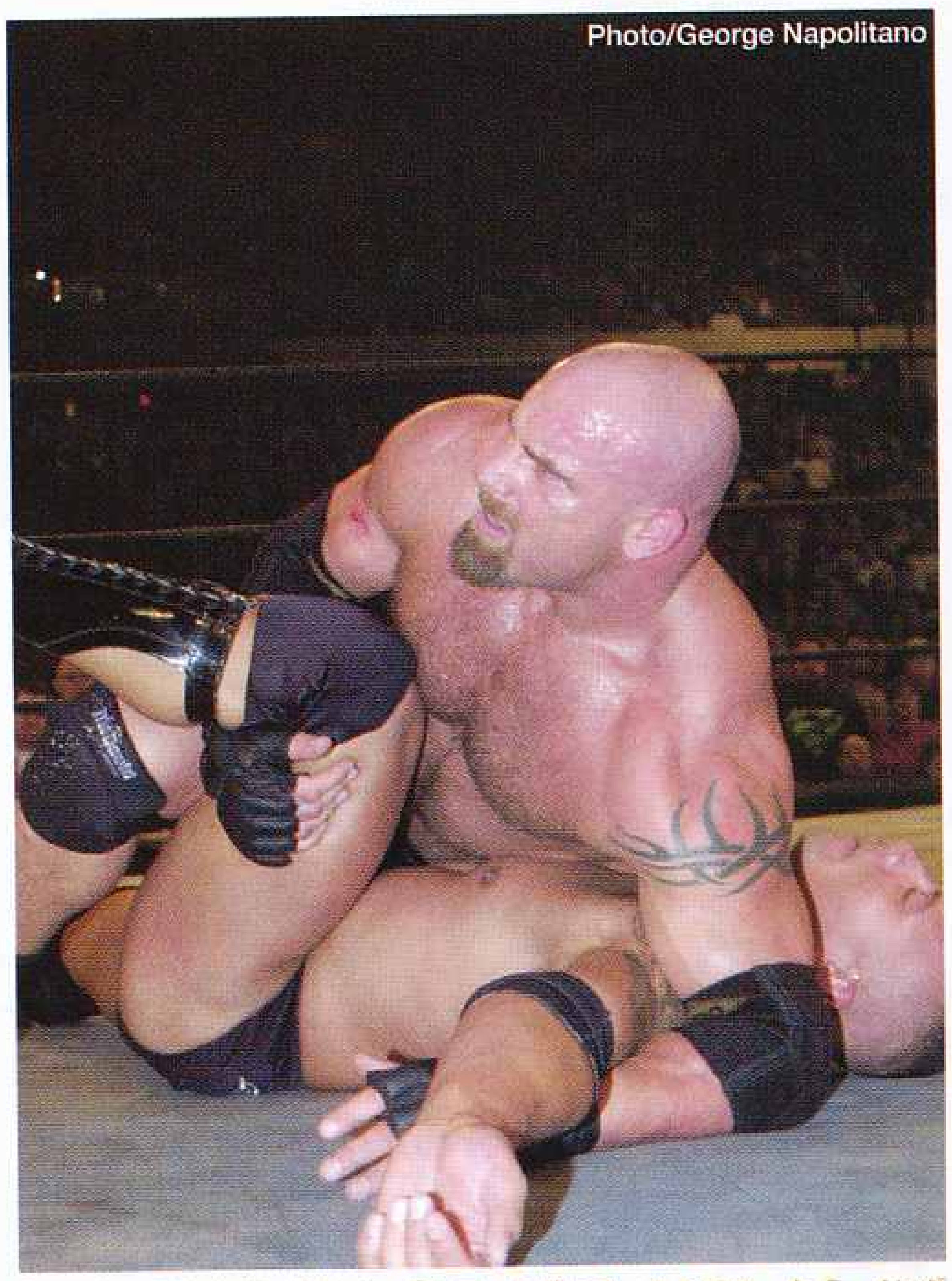
蛇丸　さあ、2P警告隊の新メンバーが増えたところで今月はWWEの7月再上陸が決まりました。噂レベルじゃ、神戸と名古屋で開催なんて話もありましたけど。

利己　そうなの？　名古屋なんて話は全くなかったわよ。候補は東京、大阪、福岡って話だったから。あとね、ホントはこのツアーって5連荘の予定だったのよ。台湾で2日、タイで1日、日本で2日ね。結局、SARSの影響で台湾が中止になって、その影響でタイの日程が1日繰り上がったから、ひょっとしたら日本で1日だけ、7月17日に追加公演が入る可能性もあるみたいよ。

老爺　でも、その日は木曜日かぁ。平日の夜にわざわざ横浜アリーナまで見に行くかどうか……。それだったら代々木第二体育館を開放してレスラー参加のファンイベントをやってくれた方が楽しいでしょうね。

利己　今後のプロモーション展開を考えたら、絶対にやった方がいいわよ。WWE的にはそういうことも考えてるみたいね。来年初頭の興行では視野に入れてるって聞いたわ。

老爺　でも、今回日本に来る『SMACK DOWN!』の主力は、カート・アングルをはじめケガ人多いですからね。ホントのトップどころが来ないと正直キツイですよ。



『RAW』に現れたゴールドバーグはロック様に勝ったものの、大ブーイングの集中砲火！　アメリカではトップ選手であろうとも、厳しいファンや観客の目線にさらされる。そう考えると『W-1』の観客は優しすぎたか？

蛇丸　『SMACK DOWN!』って割には、メイン級がビッグ・ショー＆Aトレインだけだったり？（笑）。

老爺　ベノワ＆ライノとかもいいんですけど、日本のファンの中でどれぐらい価値があるのか計りにくいですから。トップグループがいて、彼らがいるなら分りますけどね。今後、日本でさらにWWEが広げていくことを考えるとホーガン、テイカー、アングルには来てもらわないと。

利己　そのへんはWWEもわかってるみたいよ。日本のファンの中に「ちょっとナメてるんじゃないか？」って意見があることは認識してるみたいだからね。

老爺　今回、どうやらハルク・ホーガンが来るらしいですね！

利己　それは私も聞いてるわ。

老爺　一番気になるのはカート・アングルですけど、4月11日に首の手術を受けたらしいんですよ。「早く復帰をしたい」と本人は言ってるみたいなんですが、首の状態が思わしくなくて来年のレッスルマニアで引退するかもしれないって話が出てますね。

蛇丸　じゃあ、7月の日本大会で見られなかったら二度と日本で見られないかもしれないわけですね。

老爺　最後のチャンスなんで来てほしいなぁ。術後の経過は良好なんで、7月に間に合えばいいですけど。

蛇丸　ブロック・レズナー、アンダーテイカー、レイ・ミステリオ、タジリ、トーリーは正式発表されてますが、それ以外の選手も期待できそうですねぇ。あとは選手のケガの具合とか、過去に犯罪歴がないとか、そういう問題になってくるわけですが（笑）。

利己　いまの段階で7人ほど犯罪歴のある人がいるみたいよ。

老爺　マジですか!?（笑）。飲酒運転で捕まったエディ・ゲレロとか元・銀行強盗のネイサン・ジョーンズはわかるんですけど……。あとは誰だ!?

ひょっとして、フジテレビの陰謀？

蛇丸　とにかくWWEも本気モードみたいなんで、今度の日本大会は熱狂的に迎えたいですよ。フジテレビの番組が始まって、日本でも新たなファン層が開拓されてるでしょうからね。というわけで、フジテレビの『スマックダウン』ですよ！

老爺　ぶっちゃけた話、番組内容は思いっきり叩かれてるんですが、それとは裏腹に視聴率は上がってるみたいですね。初回が1.1％で、以降は1.7％、1.9％、2.2％と上がってきてるんですよ。

利己　でもね、それは最初のプロモーションが不足してただけなのよ。

老爺　放送3日前にタジリが来て会見をやっただけでしたからね。これは俺の推測ですけど、きっと熱狂的なWWEファンは放送を見てないんですよ。ネタバレを嫌がる（＝Jスカイスポーツで放送される前に、内容を一切知りたくないというファンの心理）連中はフジの番組を敬遠してたと思うんですよ。Jスカイスポーツでの放送の1日前に1時間だけぶつ切りのものを見せられるのはゴメンだって感じで（笑）。

蛇丸　「純粋に楽しめなくなる」ってことですよね。

老爺　そういう人たちは、当然このページも読んでないと思うんですけど（笑）。ただ、初回の放送が終わったらハンパじゃない叩かれ方をしてたんで、「これは見なきゃ！」ってことになったんじゃないんですか？　そういうレベルで視聴率がド

日本大会のチケット優先予約もある ファンクラブ入会方法

日本大会のチケット優先予約やRAW magazine日本語版を隔月発行するなど、特典が満載のWWEファンクラブに今すぐ入ろう！
WWEファンクラブに関する詳細は
http://www.wwefanclub.ne.jp
またはWWEファンクラブ事務局　TEL.03-5738-5722

2P警告隊（にぺーじけいこくたい）とは?■WWE『RAW』の用心棒タッグ・3分警告隊（ロージー＆ジャマール）にあやかり命名。あらゆる手段でWWE情報を漁る「老爺」（ろうじい）と、プロレス業界の末端に潜伏する「蛇丸」（じゃまーる）のコンビに、今回から裏方さんとして関わるモミアゲ男「利己」（りこ）が加入！

7月の日本大会にホーガン登場か!? 気になる噂を追いかけまくります!!

まず最初に、このページはWWEのネタバレ情報が満載であることを宣言します！ 今月から新メンバーも加わり、ますます危険な先取り情報を密売する2P警告隊、またの名を「フジテレビ『スマックダウン』のことを想う会」が大暴れ！

ンドン上がってるんだと思うんですけどね。

利己　確かにそうだと思うわ（笑）。

蛇丸　タジリが『週プロ』のコラムで書いたのも影響してるでしょう。

老爺　それも「見なきゃ」ってモチベーションが上がった理由じゃないですか？　それで見た人がツッコミを入れるっていう悪循環（笑）。

蛇丸　それじゃあ、僕らはフジテレビの術中にまんまとはめられてたわけですか!?（笑）。

老爺　見事に彼らのプロモにはまってたわけですよ（笑）。さすがテレビマンですね。こういう視聴率の上げ方があるのかって感じですもん。フジテレビこそWWEだわ（笑）。

蛇丸　でも、もがき苦しんで迷走してる番組を見るのって、プロレスに限らず楽しいもんですからね（笑）。

それとなぜか、以前『紙プロ』にも出てたUインターの交渉役をやってたテディ・ペルクさんも解説で出てました。

老爺　結構いいことを言ってたんですけど、司会のガレッジセールに流されちゃってましたよ（笑）。

蛇丸　あの番組でWWEのすべてを堪能しよう思ったらダメでしょうね。あくまでも入口ってことで。

老爺　でも、これは一WWEファンとして感じることなんですけど、試合中のガレッジセールのツッコミはいらないですね。マイケル・コールとタズの実況解説はムチャクチャ面白いのに、潰す必要はないですよ。

利己　あの実況解説の中で、ストーリーを説明してる部分もあるのよ！　そこを削っちゃまずいと思うわ。

老爺　試合中に「乳首が立ってる！」とか、そんな話どうでもいいじゃないですか。

利己　あんな話を解説者に振るのも間違ってると思うわ！

蛇丸　そんな内容でも視聴率が上がってるんだから不思議ですよね（笑）。

利己　制作サイドが「俺達の手法は間違ってなかった」とか自信を深めてたら、これは怖いことよ！

老爺　逆に、俺らの意見が言いがかりみたいになっちゃって（笑）。

仰天！スティング来日説!? ネイサンは解雇目前か!?

老爺　アメリカではちょうどスティングのWWE参戦が決まった頃、レックス・ルーガーが逮捕されちゃいました。

蛇丸　むしろセンセーショナルに報道されたのは、ルーガーと一緒にいたエリザベスの急死でしたけど。

老爺　レックス・ルーガーの家に泊まったエリザベスが朝方に昏睡状態で発見されたんで、ルーガーを調べたら薬物反応が出て逮捕されたんです。2500ドルの保釈金を払って出てきたらしいですけど。エリザベスは司法解剖中で結果は出てないんですが、急性薬物中毒だったんじゃないかと言われてますね。やはりルーガーの家からは、非合法のドラッグが出てきたらしいです。

蛇丸　非合法のドラッグってステロイドですかね？

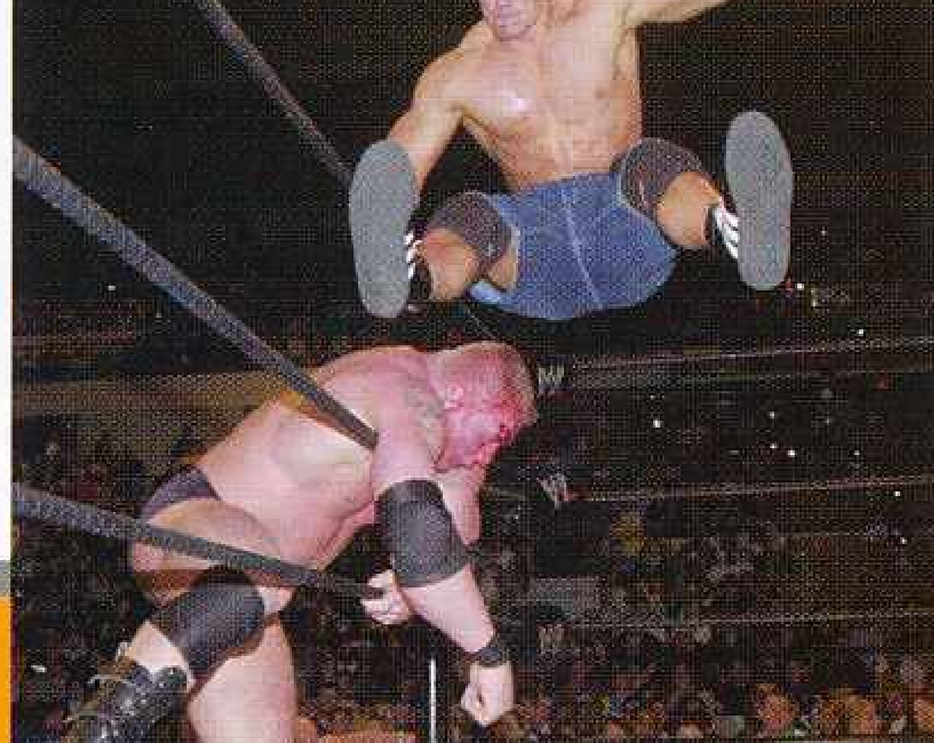
利己　あら、コカインとかヘロインじゃないのかしら？

老爺　まだ解剖の結果が発表されてないんで、それを待たないと確かなことは分からないんです。今年、WWEと交渉を開始する前にルーガーはDV（ドメスティック・ヴァイオレンス）で逮捕されてるんで、いろんな憶測が飛んでますけどね。一方、復帰が決まったスティングは、早ければ『サマースラム』で登場すると言われてます。ただ、"WCW最後の大物"と呼ばれたゴールドバーグがあんな感じなんで、WCWのオールドタイマーがどこまでWWEで活躍できるのか……。WCWから来て成功したのってブッカーTとホーガンぐらいですからね。

蛇丸　なぜか元・WCWの大物はみんな『RAW』に行きますよね。

老爺　『SMACK DOWN!』のハイスパートなプロレスが出来ない

ＹＯ！　『SMACKDOWN！』の若手Ｎ.Ｏ．１ヒールがジョン・シナ！　エミネムを彷彿とさせる白人ラッパー・キャラで、自身の「ワル学」をラップしながら入場する姿は必見！



Photo/George Napolitano

ここだけの噂話、満載!! 老爺レポート

ジェリー"キング"ローラーの前妻キャットが先ごろ出版されたキングの自伝の中身について訴訟を起こした模様。

ロード・ウォリアーズ（LOD）が現地時間5月12日の『RAW』にて電撃復帰！　ケイン＆RVDの保持する世界タッグにいきなり挑戦するも、チョークスラム＆ファイブスターのコンビネーションにあえなく玉砕！　いきなりジョバーかよ！

トリプルH＆ステファニーが10月25日に挙式！　ビリー・キッドマンとトーリー・ウィルソンも6月25日に挙式予定！

MTVで放送中だった「タフ・イナフ4」が打ち切り！　WWEオフィシャルHPでも既に「タフ・イナフ」のサイトは閉鎖された。MTV側の協力がこれ以上見込めないことから打ち切りとなった。

ジェフ・ハーディのWWE解雇の理由だが、解雇の数日前ドラッグテストを受けたところ、結果が陰性。ビンスがリハビリにいくよう勧めたが拒否。プロレスから離れ音楽活動に入る。遅くとも秋にリリース予定。音楽センスは果たして？

ブロック・レズナーが約9800万円の家を購入。その直後、交通事故に見舞われるが幸い怪我はなし。相変わらず「苦痛を呼ぶ男」である。

ホーガンがラジオのインタビューで、「いま試合をしたいのはネイサン(・ジョーンズ)。ヤツを見てるともう一儲けできそうな気がするんだ。」と発言。マジかよ!

エリザベスの訃報に"マッチョマン"ランディ・サベージは「とても悲しいニュースだ。彼女の家族の方々にお悔やみ申し上げます」とコメント。

ウィリアム・リーガルの状況がWWE.comにて発表。そのまま引退せざるを得ない状態まで体調が悪い。インドツアーから体調を崩していた。レスラーとして復帰はできなくても何らかの形ではTVに出演をしていきたい、とのこと。

WWFがWWEに敗訴！　過去に発売された「WWF」のロゴがはいっているゲームソフトの販売停止を求めていたパンダマークのWWFが、WWEを相手取り9千万ドルの賠償金を請求していた。１審はパンダが勝訴、２審ではその判決が覆された。パンダ側が裁判にかかった費用を支払う様子。１審の判決が覆った理由は「WWEのゲームが売れたことで、パンダに社会的なダメージを与えたとは考えにくい。」とのこと。リンダ・マクマホンCEOは「数年にわたり、何故この環境団体が私達を迫害し続けてきたのか、正直言って9千万ドルの賠償金の訴訟がおこされるまでわかりません。私達は彼らのマイナスになるようなことは一切やっていません。しかし環境団体は私達のビジネスをに弊害を生み出すことばかりします。以前の名称問題も支払いを要求してきました。今回の結果は彼らが私達の裁判費用10万ドルを支払うことになりましたが、今後はもっと良識を持って活動をして頂きたい。これ以上の迫害がないことを願います」

5・18 PPV『ジャッジメント・デイ』の主な試合結果

【WWEタッグ選手権（ラダーマッチ）】

○エディ・ゲレロ＆タジリvsチーム・アングル●

※タジリ、タッグ王者に！

○Ｍｒ．アメリカvsラウディ・パイパー●

※ショーン・オヘア、ビンスの乱入がありながらも、片足のレスラー・テネイシャスZのヘルプもあり勝利!

【WWＥ世界ヘビー級選手権】

○ケビン・ナッシュvsトリプルH●

※トリプルＨがスレッジハンマーを取り出し反則負け。試合後アナウンス席にナッシュがトリプルＨをジャックナイフ！

【WWＥヘビー級選手権】

○ブロック・レズナーvsビッグ・ショー●

※レイ・ミステリオ・Jrの乱入後、フォークリフトに乗ってレズナーがビッグショーを強襲!　もちろんF5炸裂!

んでしょう。キャラクター付けのしっかりしたプロレスじゃないと。じつはスティングは一時期、『W-1』に決まりかけてたらしいんですけど、途中で頓挫したみたいです。

蛇丸 シャノン・ムーアも『W-1』に出るって話があったらしいですね。

老爺 『W-1』というか、全日本ですね。ムーアは去年までWWEで全然出番がなくて新天地を模索中たったんです。もともとは、WCWの末期にカズ・ハヤシとかジミー・ヤンと抗争してた選手ですから。

利己 結局、ハーディーズが解散したことで、マット・ハーディーの信奉者キャラとして成功したわよね。

老爺 一方、そのハーディーズの片割れであるジェフは解雇ですよ！ 辞めた原因っていうのが、「モトクロスをやりたい」「彼女と会いたい」「音楽をやりたい」っていう凄い理由でしたけど。

利己 昔、『スーパースターズ』でジェフがモトクロスをやってるところを見たわよ。

老爺 自分の家の庭にコースを作ってるんですけど、結構きつい内容でしたよね（笑）。

利己 しかも、火の輪くぐりみたいなことまでやってるのよ！（笑）。

蛇丸 それ、モトクロスじゃないですよ！ 小笠原先生じゃないんだから（笑）。

老爺 解雇された直接の原因は、どうやら薬物反応らしいですね。ビンスはカウンセリングを勧めたらしいんですけど、それを拒否して解雇されたらしくて……。

利己 またドラッグなのね。でも、WWEはドラッグから立ち直った人をプロモに使うじゃない？ ジェフも戻ってきたら、そういう扱いになるのかしらね。いい男なのに……。

蛇丸 なんか、ネイサン・ジョーンズがそろそろやばいっていう噂もよく聞きますね。

老爺 『レッスルマニア』以降も相変わらずTVマッチはなかなか組まれないんですよ。ハウスショーでは試合をしてるんですけど。

蛇丸 珍しいパターンですよね。

老爺 『バックラッシュ』でも試合が組まれずに、『ジャッジメント・デイ』でようやく試合が告知されてましたね。テイカー＆ネイサンvsベノワ＆ライノvsジョン・シナ＆FBI（おそらくチャック・パランボ）というカードです。（結局、出場しなかった）

利己 でも、テイカーはとんだお荷物を任されちゃって大変ね。

老爺 しかもネイサン、今度はハウスショーでビル・デモットと揉めたみたいです。

蛇丸 デモットは元クラッシュ・ザ・ターミネーターですね。

老爺 試合の前の打ち合わせもせずに、口の聞き方も先輩に対するような感じじゃなくて、デモットは不快に感じてキレたらしいです。ネイサンがだんだん内輪受けが悪くなってきて、このままドロップ・アウトしそうな雰囲気になってますよ。

利己 ねえねえ、彼が10年間も監獄に入ってたというのは本当なの？

老爺 実際に監獄は経験してるんですけど、10年も入ってないですね。

蛇丸 98年の『PRIDE.4』では北尾光覇と試合してますからね。

老爺 その前にはジャッキー・チェンの『ファイナル・プロジェクト』にも出てるんですよ（笑）。チョイ役でしたけどね。

蛇丸 で、もう一人のバックステージで評判の悪い男なんですが……。

老爺 ゴールドバーグですね？（笑）。『バックラッシュ』のメインでロックと試合をしたんですけど、大ブーイングだったんですよ。

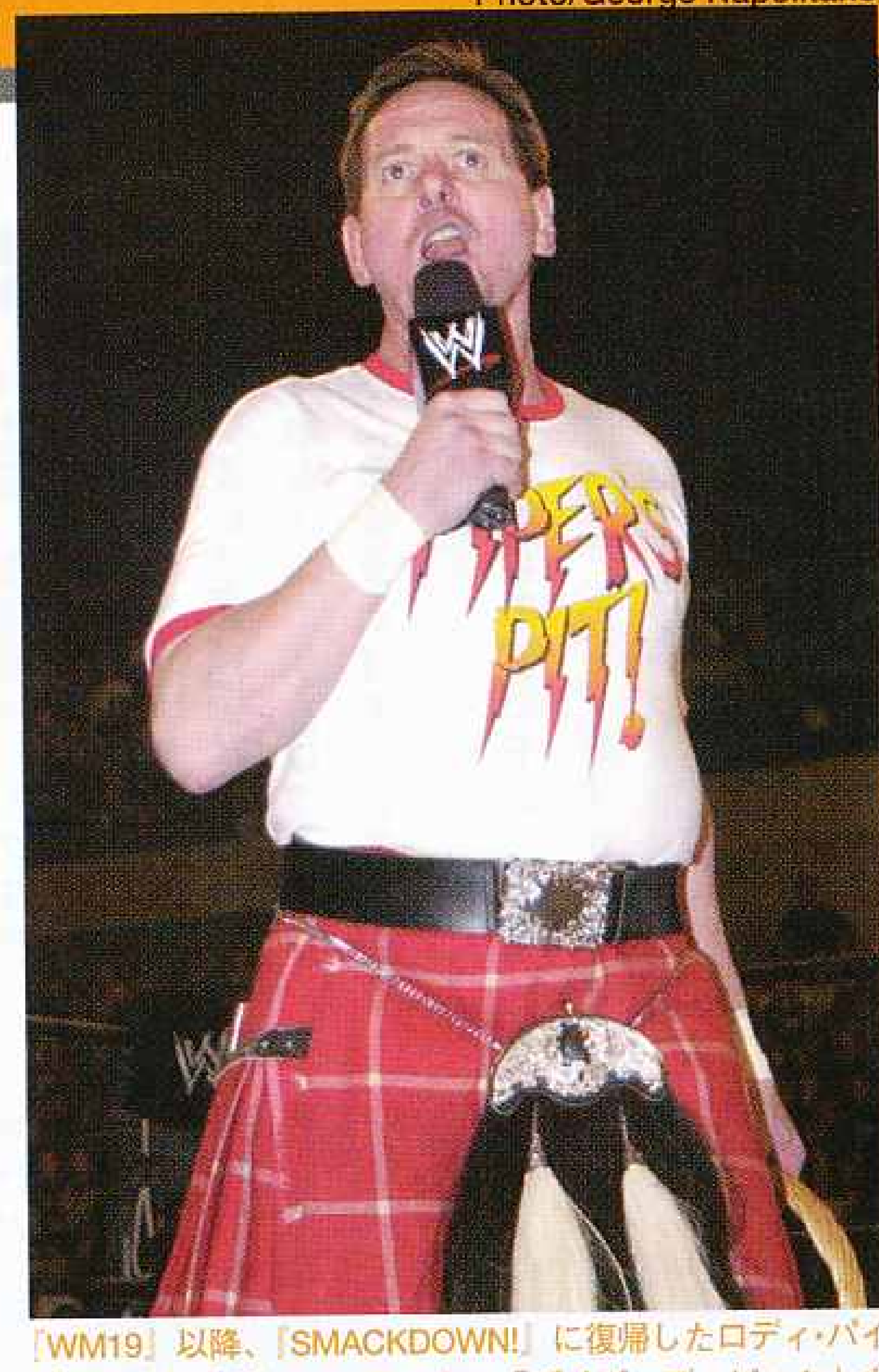
蛇丸 一応、勝ったんですよね？

老爺 でも、あまりにもしょっぱ過ぎてファンが怒ったという状況です（笑）。なにせパンチとスピアーとジャックハマーの繰り返しっていう単調な試合運びですからね。試合開始ではすごく沸いたんですけど、10分経った頃には大ブーイングで、試合直後はロックを称える声援と「ゴーバーSUCKS」の大合唱（笑）。

蛇丸 この大会でまた映画撮影に入ってしまうロックはヒールだったんですよね？（笑）。去年の『サマースラム』では、映画撮影に入るロックに大ブーイングだったのに。

利己 じゃあ、きっとロックの次の復帰はベビーフェイスね（笑）。

Photo/George Napolitano



「WM19」以降、『SMACKDOWN!』に復帰したロディ・パイパーのインタビュー・コーナー「パイパーズ・ピット」も是非、日本で見てみたい。ホーガンとの激突も期待大だ！

『RAW10thアニバーサリー』は過去の悶絶名場面満載!! DVDを各1名様に読プレ！

今月発売になるWWEのDVDも超強力！ さっそく、その内容を紹介してみたい。

何と言っても気になるのが「RAW 10thアニバーサリー」であろう。これは今年1月14日に(今は亡き)NY "ザ・ワールド" で行われた『RAW』10周年イベントの模様を丸ごと収録した作品だ。このイベントの中で、10年間のベスト・スーパースター、ベスト・マッチ、ベスト・ディーバ、ベスト・カップル、真似しないで賞などが決定した。

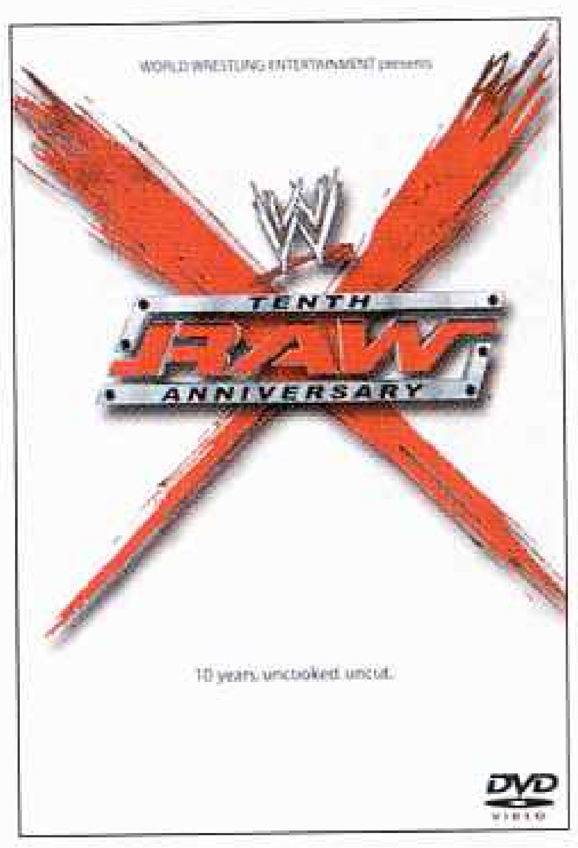
『RAW』の放送が始まった93年以来の名シーンの中から（といっても、ほとんどが98年以降のアティテュード路線の中から）を抜き取っているので、素晴らしい映像が「これでもか！」とばかりに収録されている。

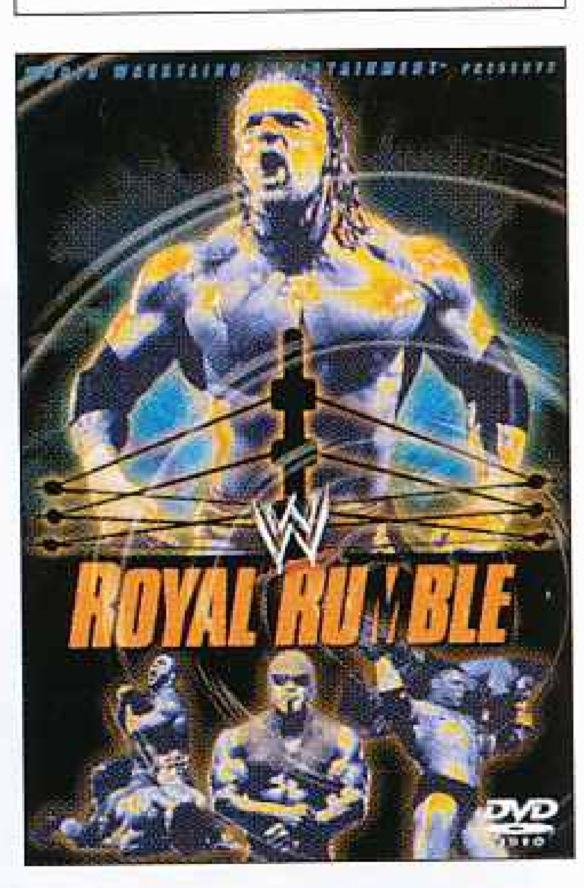
これを見れば、いかにWWEがバカバカしいことに大マジメに取り組んできたかが分るだろう。トラックで乱入してホースでビールをぶちまけるオースチンとそのビールの中で泳ぐビンスという、奇跡のような瞬間だけでも見る価値がある。アントニオ猪木さえも「誰がケツにキスするプロレスなんか見てえんだ！」と激怒（嫉妬？）させたキス・マイ・アス・クラブのビンスを見ずにWWEは語れないだろう。病院のベッドで医師に扮したストーンコールドにボコボコにされるビンスの映像も捨てがたい。

この作品を見ていると、いかにビンスがWWEの中心的な存在として君臨しているかがよく分る。WWEが現在のような団体にまで登りつめた背景にはビンスの天才的なビジネス手腕があることは明らかだが、それはリング上でわざわざ自分のド変態な部分をさらけ出して、大河ドラマの中心に自分の存在を据えたことに他ならない。

個人的にはベスト・ディーバを振り返るシーンもオススメしたい。いま見てもサニーちゃんのかわいさは奇跡的だ。そして、今月のもう一本は「ロイヤルランブル2003」だ！ 毎年恒例30人参加の時間差バトルロイヤル、vsビッグショーと大活躍のブロック・レズナーに首ったけ！ 必見！

なお、先月号で紹介した「ホーガンvs藤波のWWEヘビー級選手権がじつはガチンコ伝説」は、ただいま調査中！ 続報を待て！

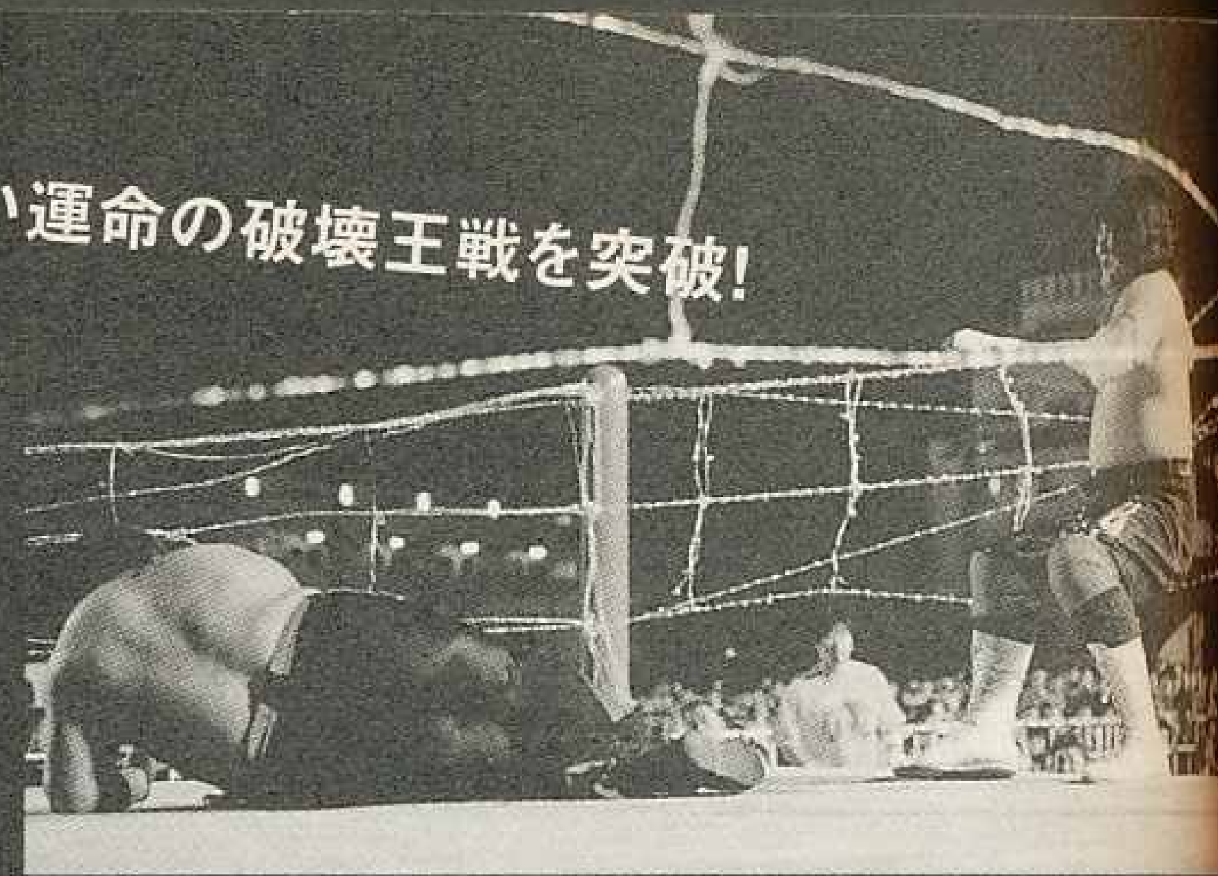




（上）「RAW 10thアニバーサリー」DVD：¥4700／VHS：¥5800 本編95分（DVDは特典映像90分も収録！）WWEがいかにして世界最大のプロレス団体に君臨したのか、このビデオにすべてのヒントは詰まっている！ （下）「ロイヤルランブル2003」DVD：¥3800／VHS：¥5800本編156分（DVDは特典映像40分を収録）今年の「ロイヤルランブル」から日本でもPPV大会が有料化になっており、待望のDVD化となる。どちらも絶賛発売中！

※読者プレゼントの応募方法についてはP.159を参照のこと！

冬木弘道の死を背負い運命の破壊王戦を突破!



「ボスはホンマに理不尽な人でした」

二代目〝理不尽大王〟が語る
「我がボス、冬木弘道」。
「我がプロレス人生」。





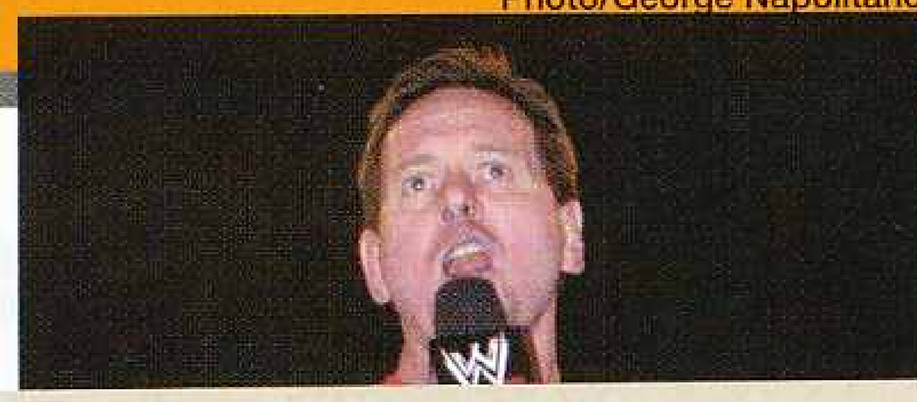
金村キンタロー［前編］

with伊藤 豪

去る3月19日に亡くなった冬木弘道さんの最後のプロデュース興行として、5月5日に行われたWEW川崎大会。メインでは当初、冬木さんと闘うはずだった橋本真也と、冬木さんの意志を受け継ぐ金村キンタローが電流爆破のリングで対峙した。最後は意識がブッ飛ぶほどのダメージを受け敗れた金村に、あらためて冬木さんとの思い出、そしてこれまでのプロレス人生を洗いざらい語ってもらった。

聞き手／イナズマ★K
チョロ
撮影／平工幸雄（5・5試合撮影）
designed by matsu（Two three）

Photo/George Napolitano



――ウチの携帯サイトで、レスラーの人気投票をやってるんですけど、ここ最近、金村さんの1位が続いてるんですよ。

金村　へぇ～、そうなんですか。それは素直に嬉しいですね。で、2位は誰なんですか？

――これも意外なんですけど、えべっさんが続いてますね（笑）。

金村　それも凄い話ッスね（笑）。

――他の雑誌とかでも、人気投票1位とかってそんなにないですよね。

金村　全くないですねぇ。中途半端っちゅうか、宙ぶらりんですから、いつも（笑）。

――いえいえ（笑）。やっぱり、ここ最近の活躍がようやく認められきたんでしょうね。

金村　気づくの遅すぎますね。去年からずっと活躍してるのに（笑）。

――ですよね（笑）。去年のゴールデンウィークも大活躍でしたし。

金村　去年もそうなんですけど、一昨年もですよ。大日本のデスマッチチャンピオンシップで蛍光灯でズタズタになって縫って、その足で川崎球場行って、ハードコアのタイトルマッチをマンモス（佐々木）とやってましたからね。

――去年は5・2の新日ドームにも出ましたよね。それで5・5はベイダーにボコボコにされて（笑）。

金村　キツかったッスよ（苦笑）。大日本の連戦から、新日本、大仁田興行、冬木軍プロモーション、DDTのホール、川崎球場、で、また大日本に戻ってきて新川崎で。

――おまけにJWPで女子プロとも闘ってましたよね（笑）。

金村　ありましたねぇ（笑）。たしか、その前後ぐらいですね。スケジュール帳見ればわかりますよ。全部付けてますから（と言って手書きのスケジュールを開く）。

――おぉ、凄いですねぇ。見かけによらず、意外とマメなんですね（笑）。

金村　いや、去年冬木さんが引退してあちこち出るようになって……ぶっちゃけダブルブッキングとか凄い多かったんですわ（苦笑）。

――そうだったんですか（笑）。

金村　そんで、今度は黒田（哲広）のスケジュールも自分が電話受けてやることになって、もう手帳なければ無理だと思って、手帳買って、それからはしっかりやってます。

――ダブルブッキングで興行に穴を開けたりとかはなかったんですか？

金村　それはなかったですね。ちゃんと「ダブルブッキングしてたんで、すいません」って言って、最初の予約の方に行ってましたよ（苦笑）。

――最初の方が優先で。試合数でいったら、ここ数年の中では去年ぐらいが一番多いですか？



金村　去年は多かったですね。でも、元々FMWが潰れる前年ぐらいから、荒井社長ともあんまりうまくいってなかったんで、勝手に他団体出てましたけど。最後の時点では、もう契約してなかったんで。

――声がかかればって感じで？

金村　そうですね、DDTとか大日本上がったりして。冬木さんにもよく怒られてましたけど（苦笑）。

――では、冬木さんの名前が出たところで、追悼興行となった川崎球場での破壊王との電流爆破マッチの話を聞きたいんですけど？

金村　あれね、ホントに試合の途中から最後会場から帰るまで、いまだに全く記憶がない。まったくないッスね（苦笑）。

――それじゃ、聞きようがないですね（笑）。

金村　シャワー浴びてから、いろんな友達とかと会話もしてたらしいんですけど、それも覚えてない（笑）。

――記憶が飛んだのは、やっぱり破壊王のキックなんですか？

金村　わかんない。人によって「キックだろう」とか「グーパンチだろう」とか言うんですけど、ボクは全くわかんないです（笑）。申し訳ありません！

――いえいえ（笑）。

金村　鼓膜破れたと思って病院行ったら、やっぱり鼓膜破れてたんですけど、さらに軟骨が飛び出てて。

――えっ、耳の中の軟骨がですか？

金村　ええ。耳の中に音を判別する骨があるらしいんですよ。それが飛び出てて、ちょっと簡単な手術をして。まだ、ちょっとおかしいですけどね。

――鼓膜は爆破でやられたんですかね？

金村　い、いや……それもわかんないです（苦笑）。

――あと、試合後、金村さんの「小指がブラブラしてたけど大丈夫か？」って、破壊王も心配してましたけどいかがですか？

金村　バックリ開いてブラブラしてましたねぇ。ひとまず道具も何もなかったんで縫わなかったんですよ。だから、医療用のボンドでくっつけときましたね。それも記憶ないんですけど（笑）。

――あ、そうですか。じゃあ違う話題にしましょう！（笑）。

金村　でもホンマ、橋本さんが冬木さんの遺骨持って自分で爆破したのと、ボクがやったとき爆発しなかったのと（苦笑）……それしか知らないですね。

――ホントに試合開始直後ぐらいまでしか覚えてないんですね。

金村　まあでも、自分のためにもやって良かったと思います。……記憶ないけど（苦笑）。しつこいですかね？（笑）。

――いえいえ（笑）。でも、昨年の12月のZERO―ONE後楽園大会での橋本戦はさすがに記憶はありますよね（笑）。

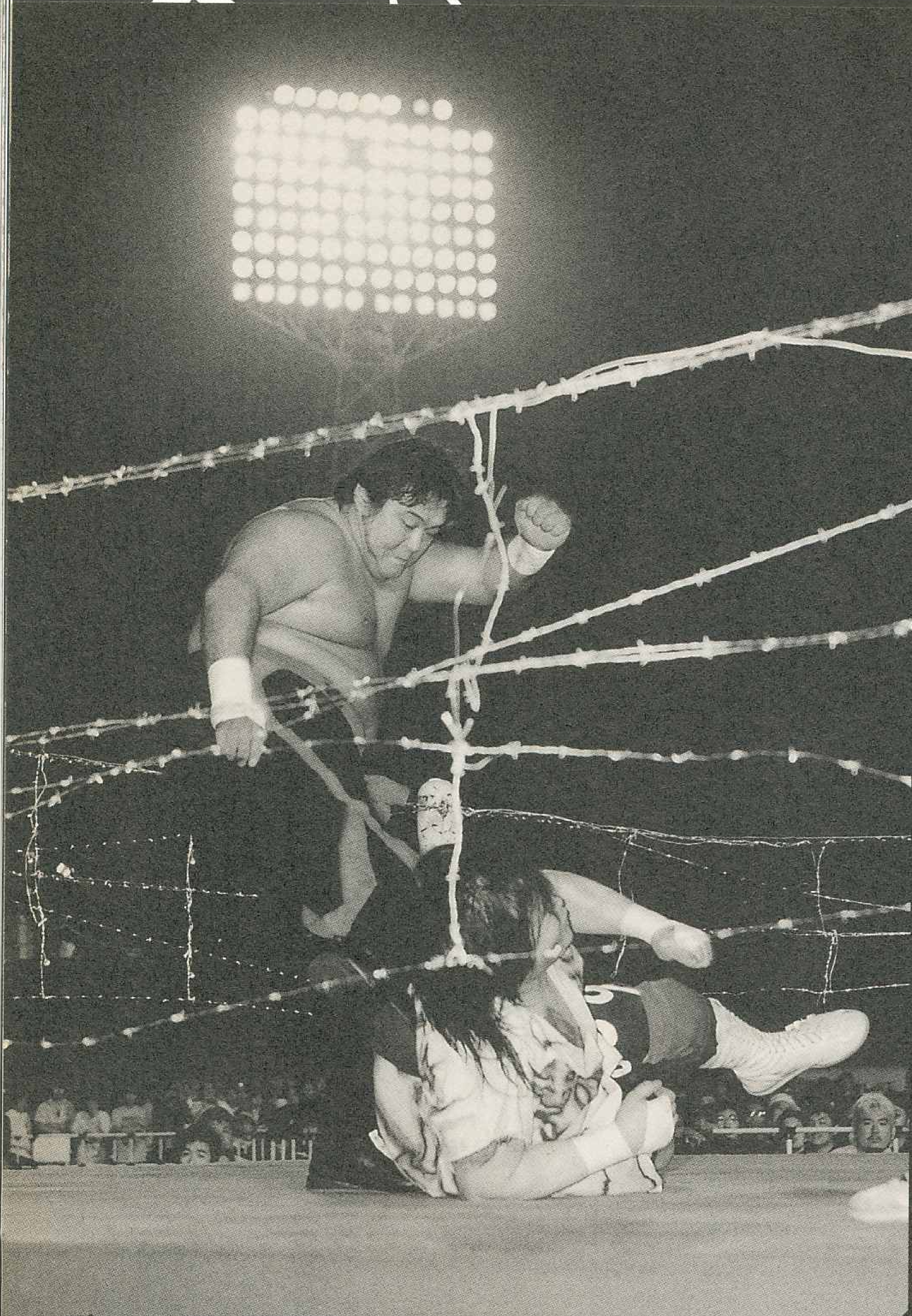
金村　後楽園は印象残ってますね。でも、死にましたよね、あの時も（苦笑）。

――あの時も破壊王にボッコボコにされてましたからね（笑）。

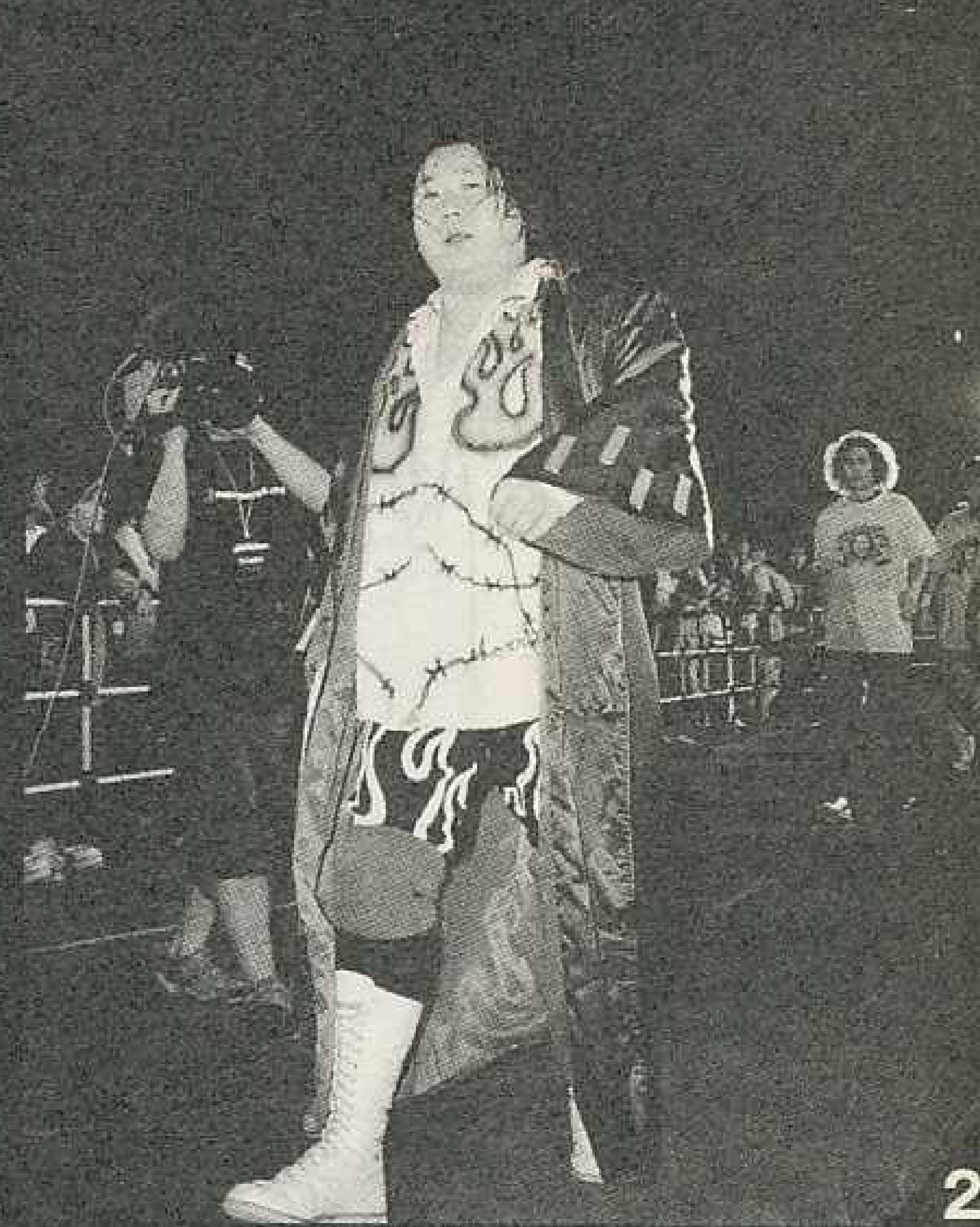
金村　たぶん顔を蹴られた時だと思うんですけど、両腕とかが痺れちゃって。だからボクシングのKOっていうのはこういう状態なのかなぁって思いましたね。

――破壊王のキックは、やっぱり、かなりの破壊力なんですね？

金村　ホントにキツイのはねぇ、破壊王のキック。あと大谷のドラゴン・スープレ





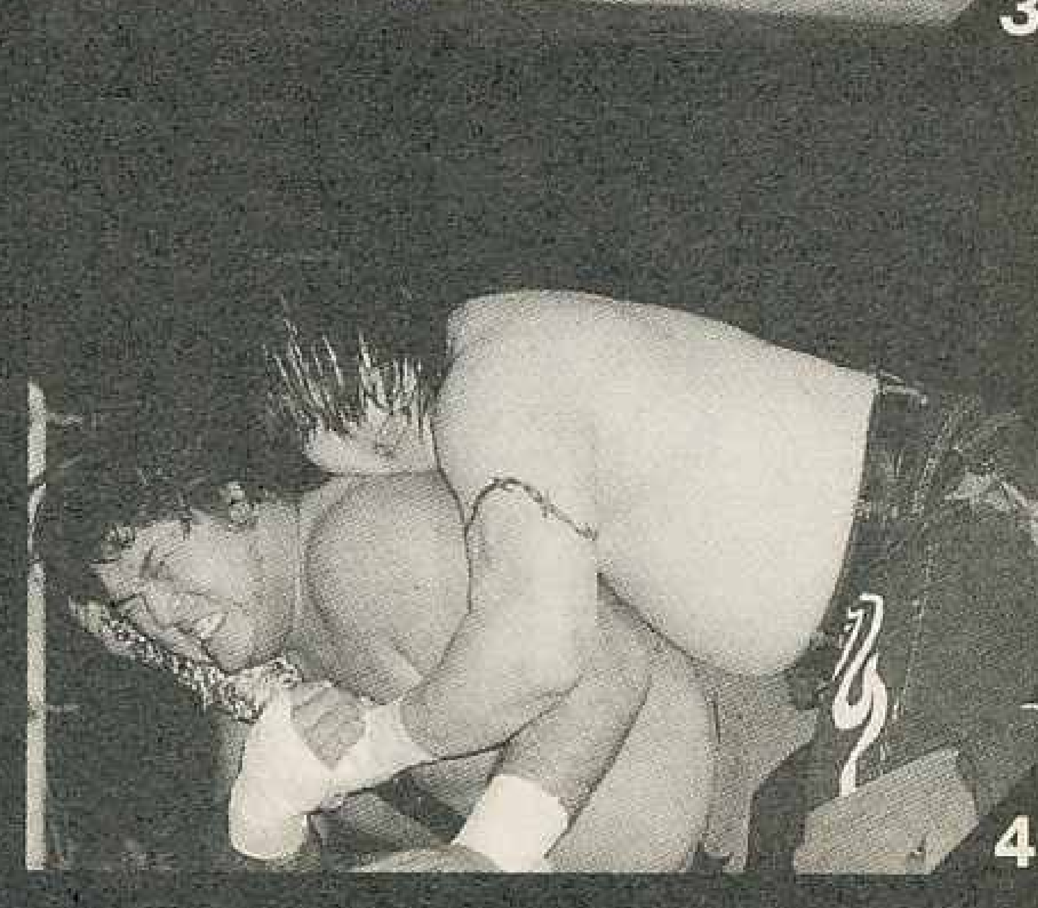


①メイン前に行われた追悼セレモニーに登場した金村は、冬木の遺影を持ってリングに登場。マイクを握った金村は「まだ、ボスの魂はここにある! ドカンと橋本真也を爆破したる!」と宣言した。②冬木のガウンを身に纏い登場した金村。理不尽大王、継承だ! ③破壊王が遺骨を抱いて爆弾に突っ込んだ後、遺骨を渡された金村は自ら爆弾へ! 二度の爆破失敗後、三度目の正直で爆破! ④コスチュームを脱がされた金村は有刺鉄線バットで反撃へ! ⑤橋本はチョップ、キック、張り手で金村を追い込む! ⑥垂直落下式DDTで敗れた後、金村は記憶が飛んだ状態で「這い上がってきますんで、また挑戦を受けてください!」と破壊王へ向けマイク。⑦試合後、金村は伊藤豪氏等とともに「みんなで手を取り合ってやっていく」と宣言した。

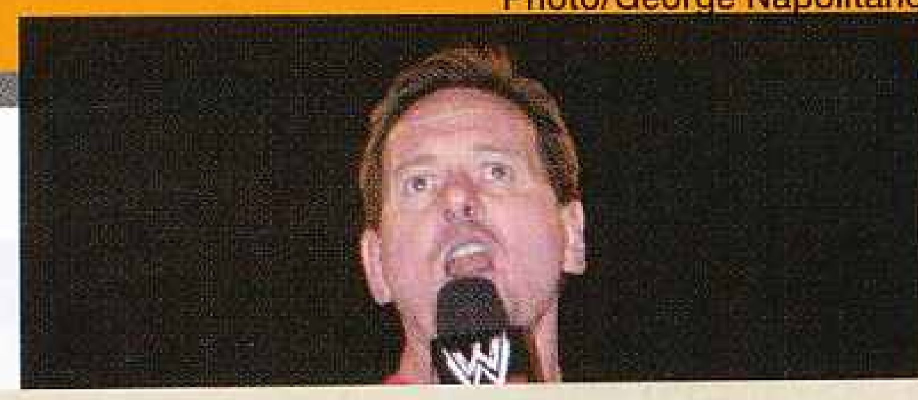








Photo/George Napolitano



ックス!?　ちょっと意外ですね。

金村　あれはキッツイですよ。（フル）ネルソンもキッツイし、えげつない角度で落としますからね。で、ボク、去年の火祭りで3秒で負けたじゃないですか？　黒田が、よくバカにしてましたけど（笑）。

――『東スポ』の一面を飾りましたからね（笑）。

金村　「よく死なななかったねぇ」とか言ってたら、アイツ、火祭りの決勝、フィニッシュ、ドラゴンで死んでましたからね（笑）。

――アハハハ！　で、5・5までの流れを振り返っていただきたいんですけど。まず最初が先ほども話題に出た昨年暮れの橋本戦ですよね。

金村　そうですね。その前に冬木さんが言ってたんですよ。「川崎球場やる？　やらない？」って。「でも川崎のメインは何で行くんですか？」って聞いたら（冬木さんのモノマネで）「お前と破壊王に決まってんだろ！」って言ってましたね。

――へぇ〜。

金村　んで、「じゃあ川崎球場やりましょう！」ってことになって。ボクが破壊王とやって控室に帰ってきたら「この人工肛門さえなければ俺は試合できるんだよ！」って言ってたんですよ。

――そうだったんですか!?

金村　そしたら、いきなり「5月5日、橋本真也と電流爆破だ」って言いだして。「髪の毛が伸びたら復活だぁ！」って（笑）。

――その時は冬木さん的には、やる気マンマンだったわけですね。

金村　もう転移してるのは知ってましたけど、本当にやる気でしたよね。あの人が亡くなったからって美化するわけじゃないですけど、これ事実ですよ、全部。

転移してるのは知ってましたけど、冬木さんは本当にやる気でしたよ



3月11日に行われたWEW後楽園大会。冬木は死の8日前、病院を抜け出し自らの力でリングに立った。破壊王は冬木の命懸けの対戦要望を受諾し、5・5川崎大会での冬木弘道vs橋本真也戦が決定。冬木の目には涙が浮かんでいた。

――ホント、プロレスラーですよね。

金村　だから、亡くなってから「リングの上では理不尽だったけど、プライベートではそういうのはなかった」ってよく言うじゃないですか？

――あちこちで言われてますよね。

金村　プライベートも理不尽でしたよね！（キッパリ）。

――アハハハハ！

金村　ていうか、メチャクチャ理不尽でしたよ！

豪　でも、（荒井）昌（一）ちゃんも美化されすぎですよね。

――されすぎですか（笑）。

金村　（遠い目をして）あの●●●●さえ●●てくればなぁ……。

――●●●●●●●●してたんですか？

金村　●●の●●って言ってたんですけどね。

――そんなことがありましたか。

金村　そのあと、冬木さんが本出したじゃないですか？　あれで書くって言ってたんですけどね。書いてなかったですね。

――でも、冬木さんの本は、かなり面白かったですね。

豪　あれは事実に基づいてますよ（笑）。

――「あれは」ですか（笑）。

金村　遠回しに言ってても何を言おうとしてるかわかりますからね。

豪　昌ちゃん本は、なんでこういう書き方できるかなってところが結構ありますよ。「違うだろ、それ」っていうのが。

――そうなんですか。でもホント、橋本さんと冬木さんの一連の絡みは、いいもん見せてもらったって感じでしたね。冬木さんが橋本戦を決意した後に言ってた「初めてアングル抜きのプロレスができるな」って発言なんて、凄い言葉ですよね。

豪　あぁ〜、言ってましたね。ホントあの時、凄かったんですよ。病院でモルヒネ打ってから会場に来て。

金村　ボクは、ずっと来れないと思ってましたよ。

――そこまで病状が悪化してたっていうのは想像できなかったですね。

金村　正直な話、ボクたちもこんなに早く逝くとは思わなかったですね。

――それこそ、橋本戦って、もしかしたら出来るのかなぁって思ってましたからね。

金村　とにかく「電流爆破でやる」って言ってましたからね。

豪　冬木さんは5・5用にカバンを買ってたんですよ。

金村　そのバッグを奥さんに形見としていただいたんですよ。もう使ってるんですけど（笑）。あと冬木さんの名前が入ったベルトも。それでね、冬木さんの下の子、里緒って言うんですけど、僕と結婚するって言って凄いんですよ。

――たしか、まだ小学生ですよね（笑）。

金村　そうなんですけどね（笑）。

――ちなみに、里緒ちゃんからは、なんて呼ばれてるんですか？

金村　僕は「金ちゃん」、山川（征二）のことは「ハゲ」って言うんですよ。で、伊藤さんは「イトちゃんペッ」って呼ばれてますね（笑）。

――アハハハ！

金村　で、gosakuはgosakuで、非道は非道、新宿鮫なんて「焼きソバ」って言われるんですよ。

――あの頭が（笑）。

金村　「なんで新宿鮫なの？」「俺は新宿で生まれたんだよ」「じゃあなんで鮫なの？」「鮫のエサやってたんだよ」ってみんなで言って（笑）。すごいですよ、あの子は。

――なんで金村さんはそんなに気に入られてるんですか？

金村　なんでですかね？

伊藤　優しくしてましたからね。

――前からよく会場とかにも見えてたんですか？

金村　いや、ボスの病院からですね。病院内デートをしてたんですよ、2人でチョコレートパフェ食べに行ったり。で、会話が途切れたからウェッて顔したら「あ、パパと同じ顔だ！」って（笑）。この前言われまし



里緒から「私が金ちゃんと結婚するんだからね」って言われて（笑）。

たから、「あと8年待ってね」って。

伊藤　16歳になるまで（笑）。

金村　7月で8歳なんで、あと8年ですね。それでボク、ブレスレッドとか結構してたんですけど、全部没収されましたから。

――それはプレゼントしたんですか？

金村　いや、取られちゃって（苦笑）。

――年齢差とかは気になりませんか？（笑）。

金村　どうなんですかねぇ（苦笑）。

伊藤　40歳で16歳だったら最高じゃないですか（笑）。

金村　薫さんのことこれから「母さん」って呼ばなきゃ（笑）。たまにネタで「母さん」って呼んだら「やめな」って怒られましたから（笑）。

――アハハハ！

金村　それで、病室でボクが女性スタッフと話してたら、女の人ってわかったらしくて、受話器を持っていって、しゃべってるんですよ。「私が金ちゃんと結婚するんだからね！」って（笑）。

――アハハハ！　ヤキモチ焼いてるわけですね（笑）。

豪　凄いですよ。大物ですよね（笑）。

金村　下の里緒はやんちゃですよね。ホント理不尽娘ですよ（笑）。

豪　理不尽の血を引いてますよ（笑）。

金村　里緒は学校から帰ってくるときに、同級生の男の子に荷物を持たせてますから。

――それは大物ですねぇ（笑）。

金村　一回、荷物持たせてること忘れて手ぶらで家の中に入ってきて、そのパシリの同級生がカバンを返しにピンポ～ンって鳴らして、里緒が「誰？」って言ったら「里緒ちゃんのカバン、返しに来ました」「そこに置いといて！」って（笑）。

――アハハハハ！　付き人みたいな関係なんですね（笑）。

金村　理不尽娘ですよ（笑）。

豪　気分はレスラーですよ。ちゃんと誰が上でとか自分の中でランクが決まってて（笑）。

金村　ボクが大日本に行って蛍光灯でやっちゃって縫ったことあったんですよ。で、病院行ってる間に、冬木さんの奥さんと里緒も来てる時があって、伊藤さんとかもみんな待っててくれたんですよ。でも非道が帰ろうとしてたんですよ（笑）。どうしても行かなければいけない用事があって。で、伊藤さんに「あとで金村さんに電話しますから。ボク行きます」って。帰ろうとした瞬間、ボクが入ってきたみたいなんですよ。で、「みんな待っといてくれたんだ。ありがとう！」って言ったら、いきなり里緒が「非道は帰ろうとしてたよ！」って（笑）。

――アハハハハ！

豪　非道は「なんてこと言うんだ、この子は」って顔してましたよ（笑）。つくづく運のない男だね、非道は。

――アハハハハ！

豪　結婚で全部運を使い果たしたね（笑）。

金村　でも里緒はホント賢いんですよ。

豪　2人とも頭の回転が速いよね。

――お父さん似なんですかね？

豪　どっちかなぁ。まあ理不尽一家ですよ（笑）。

――現時点では、WEWの今後の方向性って部分では、どういう感じで動いてるんですか？

金村　まあ、やりたい気持ちはあるんですけど、現実を考えないとダメなんで、とりあえずこれから伊藤さんと話して、近々会見します。でも、ネットとかに書いてあったらしいですよ。「川崎の熱が冷めないうちにやってくれ」って（笑）。

――アハハハハ！

金村　それはわかってるっちゅーねん！（笑）。

――まあ金村さんは、自分一人で考えたら全然食っていけるんでしょうけど、下の人間のことを考えると、冬木さんの意志を受け継いで……。

金村　だから、他のヤツがどう考えてるかわかんないですけど、プロレスやっていく以上は冬木さんを背負ってやっていこうと思ってます。

――引退するまで冬木さんを背負っていくと？

金村　そうですね。ビジネスで利用するとか、そんなんじゃなくて。チヨコ（ボール向井）さんは間違いなくその気持ちを持ってますね。

――そうなんですか。他の選手はどうなんですか？

金村　他の人間に関しては、もっとしっかりしてくれって言いたいですね！（笑）。

――そうですか（笑）。やっぱり、冬木さんは、これまで出会ったレスラーの中でも特別な存在なんですか？

金村　冬木さんは俺のこと嫌ってましたけど（笑）。

――やっぱり、関係が良くなかった時期もあったでしょうね。

金村　ありましたありました。凄いありました（苦笑）。一回だけ。

――一回だけ、凄いあったと？（笑）。

金村　半年ぐらいですかね。

――田中（将斗）さんとかFMWを抜けた後ぐらいですか？

金村　その前ぐらいからですよね。くっだらないことやってたじゃないですか、FMWは（苦笑）。

――金村さんは当時のエンターテイメント批判は結構してましたよね。



3月23日に行われた冬木さんの告別式の時の長女・里花ちゃんと次女・里緒ちゃん。次女の里緒ちゃんから「あと8年待ってね」とプロポーズされている金村。恋の行方はいかに？　左の写真は冬木夫人から形見としてもらったという「FUYUKI」名前入りベルト

Photo/George Napolitano







IWAの旗揚げ会見に単身乗り込んだ金村は「俺が1人でW★INGを守る」と絶叫【写真上】。後にブリーフブラザーズとしてインディー界を席巻した金村。昔からグンゼの白いブリーフしか履かなかったという金村が、冬木軍の移動中にフェリーでブリーフ一丁で飲んでいたところを見た邪道が「これだ!」と閃いて始めたのがきっかけだという。詳しい内容は次号で紹介【写真左】

Kintaro KANEMURA

金村　冬木さんのせいじゃなかったんですけど。ちょうど、その頃ぐらいじゃないですか？　完全に邪道、外道、金村、保坂っていうのは外れてましたから。

――でも結局、あの時は金村さんだけFMに残ったじゃないですか？

金村　抜ける前のホールは出なかったんですよ。ホールの前日に冬木さんとずっと朝方まで話してて。「とりあえず、お前、ホールどうする？」みたいな話になって、「ホールは行かない」って言って。

――そこで残った理由っていうのは何になるんですか？

金村　まあ、あるんですよ。いまは言わないですけど（苦笑）。

――冬木さんとはいろいろと言い合える仲ではあったんですね。

金村　そうでしたね。そっからは、なんかボクが意見することはなかったですね。逆にボロクソ言われてましたけど（笑）。

――そうでしたか（笑）。

金村　一回、伊藤さんが帰ってくる日の前に冬木さんの運転する車に乗ってて、信号で止まったときに、「はぁ～」ってタメ息ついてボクのこと睨んだんですよ。「なんですか？」って聞いたら「お前が死ねばいいのに」って（笑）。

――アハハハハ！

金村　冬木さんは、いたずらとかしたら凄い怒るんですよ（笑）。

――どんないたずらしたんですか？

金村　禁煙の車の中でタバコ吸って、横でスパスパ吸って外に灰捨てたり。車の窓から顔出したり（笑）。

――子供じゃないんですから（笑）。プライベートはともかく、冬木さんのことはレスラーとしては、かなり尊敬できる存在だったんですよね？

金村　そうですね。でもたまにくだらないこと考えてましたけど（笑）。

――くだらないことっていうのは？

金村　いっぱいありましたけどね。「野村沙知代をリングに上げる」とか言ってたし（笑）。

――猪木祭りよりも早く？（笑）。

豪　まあ、その辺は『紙プロ』前号をよく見ればわかるんじゃないですか（笑）。

――あぁ、杉作さんのインタビューですね（笑）。で、今日は金村さんのこれまでの波瀾万丈なプロレスラー人生を振り返っていただきたいなって思ってるんですけど。

金村　いいですよ。じゃあ、まず自分がプロレスファンになったきっかけから話しましょうか？

――お願いします！（笑）。

金村　ちょうど中学校の時、プロレスファンになったんですけど。周りは、みんなタイガーマスクファンだったんですよ。

――年齢的に、その辺ですよね。

金村　で、ボクはプロレス嫌いだったんですよ。みんな「新日本新日本」とか「タイガーマスク」ってヤツばっかりで、1人だけ凄い仲がいい奴なんですけど、そいつが馬場派だったんですよ（笑）。

――それは肩身が狭いでしょうね（笑）。

金村　まあ、全日本と国際プロレスしか行かなかったですね。

――新日には意地でも行かないと（笑）。

金村　で、そいつん家に泊まりに行ってテリー・ファンクの試合をビデオで見せてもらって、それでプロレスファンになったんですよ。

――テリーからですか。どの辺に惹かれたんですか？

金村　やっぱりジャブ打ってるのがカッコいいわけですよ。あとリック・フレアーとジャンボ鶴田の60分フルタイムのビデオをそいつが持ってて、そんなの見てましたね。

――その頃は何かスポーツはやられてたんですか？

金村　いや、分校みたいな田舎の小さい学校だったんで、サッカー部しかなくてサッカーやってましたね。

――その頃、一番興味があったのはなんだったんですか？

金村　最初はボク、スタントマンになろうとしてたんですよ。

――へぇ～、スタントマンですか。

金村　向こうでスタントマンがメインでショーとかがあるじゃないですか？『イーグル・クニーブル』とか、そういったスタントが好きで。スタントマンなりたかったんですけど……まあ、いま同じようなことしてますけどね（笑）。

――かもしれませんね（笑）。

金村　で、そっからですよ、プロレスにハマったのは。で、新日本も見るようになって。アントンも好きになって。で、卒業して、ウチの兄貴がプロボクサーで東京に出てたんで、兄貴を頼って上京したんですよ。でも、高校卒業した時点で背が170センチなかったんで。

――レスラーになるにはちょっと小さいですよね（笑）。

金村　どうしようもないから、（アニマル）浜口さんのところに行って相談乗ってもらったんですよ。そしたら「とりあえず金はいいからウェイトしろ」って言ってもらって。で、ちょうどパイオニアができて、紹介するって言われてたんですけど、逃げる自信があったんですよ。絶対、俺は辞めるなって（笑）。

――アハハハ！

金村　浜口さんの紹介で行って、浜口さんの顔潰すことなるからって思

って、自分からパイオニアに行ったんです。

——浜口さんとは何かしらの接点はあったんですか？

金村　もういきなり行って。

——大谷さんと一緒のパターンですね（笑）。

金村　そしたら良くしてもらって。奥さんにも良くしてもらって。

——当時のパイオニアには、どんな選手がいたんでしたっけ？

金村　松崎（駿馬）先輩、あと板倉（広）くん。で、松崎さんと一緒に逃げたんですよ。一回目は。

——一回目ですか（笑）。

金村　で、剛（竜馬）さんの家がサンライズ新井の101号だったんですよ。

——また、細かいこと覚えてますね（笑）。

金村　で、逃げたはいいんですけど、剛さんの家の横ら辺で、車で逃げたんですけど、車が止まりよったんですよ（笑）。ホント、剛さんの家の目と鼻の先で。

——で、どうしたんですか？

金村　車屋さんまで押して、で、そっから逃げましたね（笑）。

——そこまでして逃げたかったんですね（笑）。

金村　あ、そうだ。車屋さんに車預けて、とりあえず一回合宿所に戻ったら、剛さんがいたんですよ。

——そこから逃げたんですか？

金村　いや、「もう辞めます」って言って。

——入ってからどれぐらいしてからですか？

金村　3～4ヶ月じゃないですか？　で、ボクだけ戻ったんですよ。でも、また逃げるんですけどね（笑）。

——アハハハハ！

金村　逃げた後も、そのまま浦安に住んでたんですよ。スーパーで剛さんに偶然バッタリ会ったら、「もう帰ってこいとは俺からは言わん。どうする？」って。「お願いします！」って戻って、それでデビューしたんですよ。

——やっぱりプロレスラーになりたいっていう未練が残ってたんですね。

金村　ですね。そっから帰ってきてから練習場は新日本の道場でしたね。

——エッ!?　新日本の道場で練習してたんですか？

金村　藤波さんと剛さんが仲良かったみたいで、昼間とか、よく新日本の道場を借りて練習してたんですよ。

——新日本の選手と一緒のこともあったんですか？

金村　いや、違います。空いてる時だけですね。



パイオニア時代は、よく新日本の道場を借りて練習してたんですよ

——一番初めにプロレスを教わったのは剛さんになるわけですか？

金村　いや、（シュートサインを作って）こっちばっかりでした。

——そうだったんですか。

金村　あとは受け身。

——そういった練習がキツクて何回か逃げ出したわけですか？

金村　練習……だけじゃなかったです。いろいろあったじゃないですか（苦笑）。

——あぁ、噂レベルではいろいろ耳に入ってきましたけど（笑）。

豪　深夜のアルバイトですか（笑）。

金村　いや、ボクは昼間でしたね（笑）。それでデビューして、その後パイオニアが解散しちゃって。どうしようもなくなったんですけど。まあ松永（光弘）さんとか（青柳）館長とか連絡を取ってて。松永さんと館長つながりで誠心会館所属で興行にプロレスラーとして出て、まあ異種格闘技戦とかでテコンドーのヤツとかとやったりして。

——その時代の金村さんの試合、ビデオで観たことありますよ。

金村　柔道衣着てね（笑）。それでW★INGが旗揚げするから、誠心会館から行けっていう感じで。

——じゃあ、松永さんや館長とはパイオニアで知り合ったわけですか？

金村　そうですそうです。

——パイオニア時代とかは飲みに行ったりとか、そういうのはあまりなかったんですか？

金村　なかったですね。剛さんがたまに飲みに連れて行ってくれるぐらいで。……まあそれも地獄でしたけどね（苦笑）。

——地獄でしたか（笑）。

金村　だからボク、トラウマになってたんですよ。ベテランレスラーと飲みたくないって（苦笑）。

——そういう日々を過ごしながらも当然デビューできたときは嬉しかったんですよね。

金村　もちろん嬉しかったですね。

——その頃、なりたい選手とか憧れてた選手とかは誰かいたんですか？

金村　馳浩。

——馳さんですか。

金村　ガキの頃、会場に観に行くじゃないですか？　馳浩の試合はハズレがなかったですからね。

——そうですね。でも馳さんも観客を意識したプロレスをしますし、現在の金村さんにつながってたりする部分もあるんじゃないですか？

金村　（即座に）いや、それはないです！（笑）。

——アハハハ。即答ですね（笑）。

金村　でも一回、去年の冬木さんが手術をし終わった頃、見舞いに行こうとして、ちょっとサービスエリアでメシ食おうとしたら、たまたま馳さんが奥さんと娘さんと一緒にいて。昔、新日本の道場でちょっと練習教えたりしてくれてて、挨拶行こうかなと思ったら、向こうの方から（甲高い馳先生のモノマネで）「金村ぁ～！」って呼ばれて（笑）。

——アハハハハ！

金村　その時あの人、スッゴイ格好してたんですよ！

——どんな格好だったんですか？

金村　バギーパンツにリキプロダクションのジャージで（笑）。

——アハハハ。さすがですねぇ（笑）。

金村　物持ちいいッスよねぇ。

——でも橋本さんとかも、新日本のスパッツとかいまだに履いてますからね（笑）。

金村　藤原さんとかもそうですよね。いまだにUWFのジャージとか使ってますからね。あれ、なんの話してましたっけ？（笑）。

——憧れてた選手は馳さんってことで。

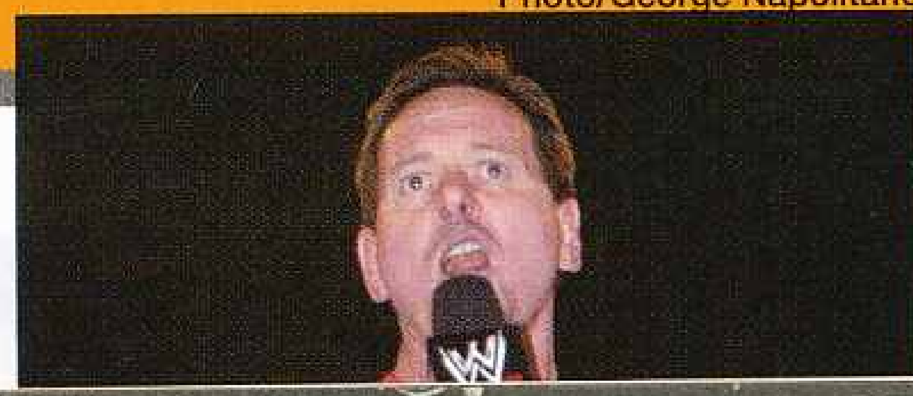
金村　で、プロレスは最初、ポーゴさんがいろいろ教えてくれてたんですけど、だんだん試合で当たるようになって教えれなくなって、その後にダニー・デービスとか、リッキー・サンタナとかが教えるようになったんですよ。

——外人から教わってたわけですか？

金村　そうですね。そっからず～っとW★INGでは外人が教えてましたね。クラッシュ・ザ・ターミネーターとか。いまのヒューモラスでしたっけ？

——はいはい。金村さんは『タフイナフ』っていうWWEの番組と同じような感じですよね。いま番組で教えてるのがターミネーター（現ビ

Photo/George Napolitano



んでし
っかり
つはス
に決ま
ど、途
蛇丸
出るっ
老爺
ですね
全然出
ったん
末期に
ンと抗
利己
たこと
者キャラ
老爺
割れで
辞めた
スをや
「音楽を
でした
利己
エフが
を見た
老爺
てるんで
したよ
利己



ル・デモット）ですから。

金村　クラッシュが鬼軍曹みたいな感じでやってますよね（笑）。

——W★INGに行ったのは松永さんとか誠心会館の流れですか？

金村　そうですね。その時は誠心会館だったんですけど、「もう自由にしてもいいよ」ってことでW★INGに入って。誠心会館所属で貰ったギャラは館長に持ってかれるとか、そんなのはなかったですよ（笑）。

——そうでしたか（笑）。

金村　元々ギャラなんてあってなかったようなもんでしたから（笑）。

——W★INGに入った当初っていうのは、どんな感想を持ちました？

金村　いや、楽しかったですね。金はなかったけど楽しかったですよ。

——結構、濃いメンツが揃ってましたからね（笑）。

金村　まあ、そうッスねぇ（苦笑）。

——いま、DDTで活躍してる木村浩一郎さんとかもいましたし。

金村　で、第二次W★INGになって松永さんがエースで。それから、いろいろあって、邪道、外道に火傷させられて、復活したら……会社がなくなってたんですよ！（笑）。

——そうでしたよね（笑）。ちょうどW★INGを松永さんが抜けた辺りの時に、一気に金村さんにエースとしての役割が回ってきたじゃないですか？

金村　あの頃からボク、敵が多かったですからねぇ……（しみじみと）。

——何か思い当たる節はあるんですか？

金村　いえ、何も言いません！（笑）。

——あ、そうですか（笑）。

豪　でも、なんであんな悪評高かったんだろうね？

どうせ同じ外人やったら、青い瞳の外人に産んでくれっちゅうんですよ（笑）

——そんなに、あちこちに悪評が流れてたんですか？

豪　FMWにもいろいろ噂が入ってきましたよ。「えぇ〜！」ってぐらいの（笑）。

——具体的に、どんな噂が立ってたんですか？

豪　とにかく悪評ですよ！（笑）。

金村　生意気だとか。生意気だとか言われても、その時W★INGでキャリア一番長かったですからね。

豪　言うこと聞かないとか（笑）。

金村　「誰が言うこと聞くかい！」って思ってましたけど（笑）。

——あることないこと言われてたんですか？（笑）。

金村　いや、あることあることじゃないですかね？（笑）。

——若手をいびって辞めさせちゃうっていうのも、ちょっと聞いたことありますけど（笑）。

金村　それは誰でもやってることなんですよ（キッパリ）。

——あ、そうでしたか（笑）。

金村　いやでも、ある意味それで良かったんですよ、結局辞めたヤツらは。あのままいても絶対食っていけなかったですから（笑）。

——後々のことを考えるといいことをしてたと（笑）。逆にそういったことを乗り越える根性があるヤツじゃないとプロレス界では通用しないんでしょうね。

金村　でも、いろいろやって残ったのは非道だったりするでしょ（笑）。……こうやって非道の名前とか出すと、これを見て言うんですよ。「なんで俺のことボロクソ言うんですかぁ！」って（笑）。

——アハハハ！　でもW★INGで外人レスラーからプロレスを教わったっていうのが、いまの試合スタイルに反映されてるんですかね？

金村　外人の方が手が合いましたねぇ。ボクも外人ですから（笑）。

——そこで国籍カミングアウト話ですか（笑）。

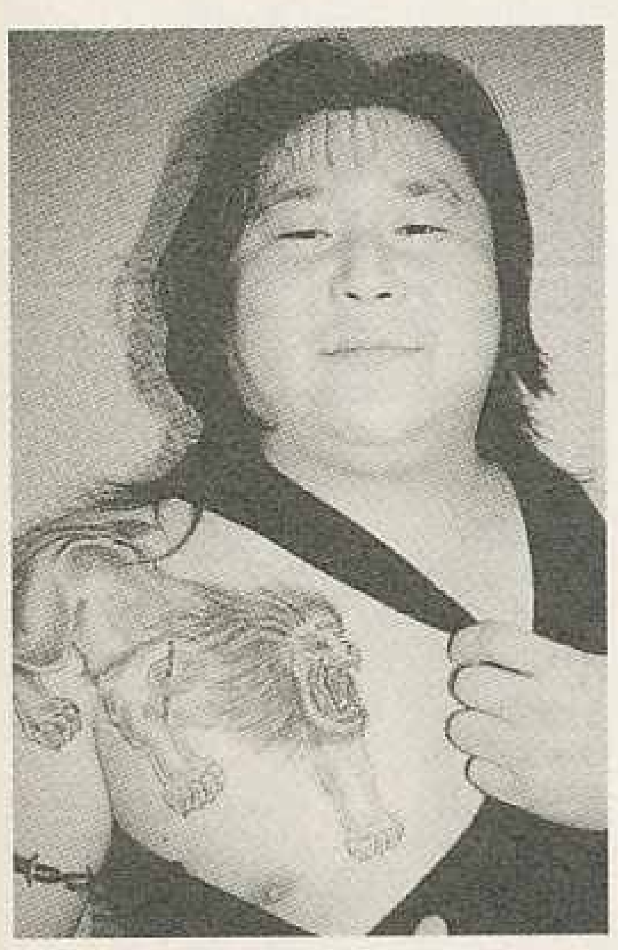
金村　いや、どうせ同じ外人やったら、青い瞳の外人に産んでくれっちゅうんですよ（笑）。

【5月13日／横浜『フジビューホテル』にて収録】

●

※誌面の都合上、残念ながら今回はここまで。次号では、国籍問題から、幅広い交友関係、ブリーフブラザーズ誕生秘話、パンクラスとの意外な接点まで、さらにパワーアップしたキンタロー節が炸裂！　ブリブラダンスを踊りながら発売日を待て!!

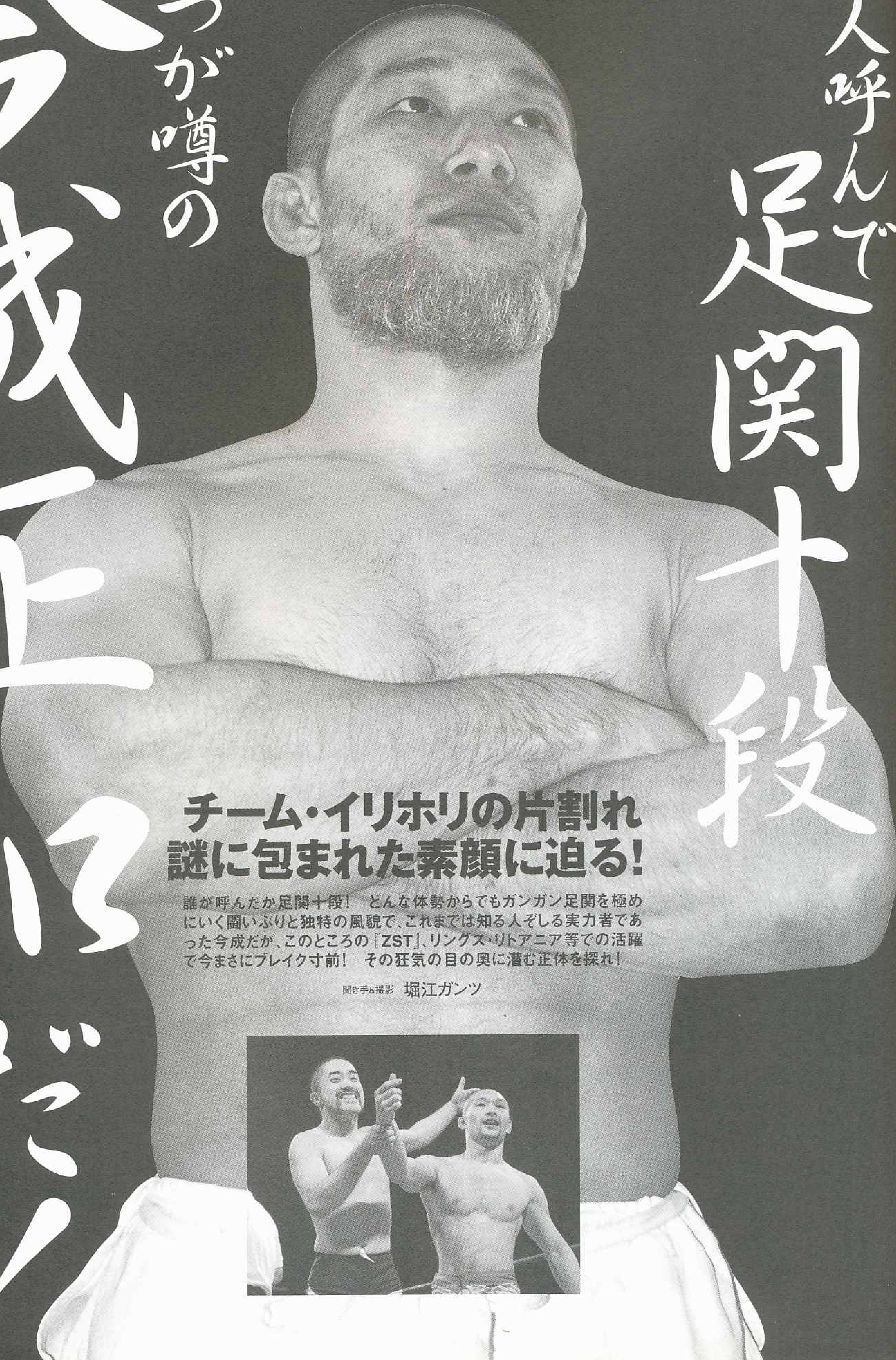
Kintaro KANEMURA



【かねむら・きんたろー】昭和45年8月9日三重県津市出身。平成2年12月20日、半田市民ホールでの斉藤彰俊戦（異種格闘技戦）でデビュー。パイオニア戦志に入団した後は、W★ING—IWAジャパン—FMW—W★ING—そして現在のWEWまで、様々な団体を渡り歩く。ここ数年はWEW以外にもZERO-ONEや、大日本、DDTなど、いくつもの団体を股にかけて精力的に活動中。これまで獲得したタイトルは数知れず。

人呼んで足関十段

こいつが噂の今成正和だ！



チーム・イリホリの片割れ 謎に包まれた素顔に迫る！

誰が呼んだか足関十段！　どんな体勢からでもガンガン足関を極めにいく闘いぶりと独特の風貌で、これまでは知る人ぞしる実力者であった今成だが、このところの『ZST』、リングス・リトアニア等での活躍で今まさにブレイク寸前！　その狂気の目の奥に潜む正体を探れ！

聞き手&撮影　堀江ガンツ

――"足関十段"今成正和と言えば、すいぶん前から、花くまゆうさく先生が『紙プロ』のコラムで度々、名前を出してるんですけど、今日は、その噂の"足関十段"とは何者なのか、ということを探っていきますので、よろしくお願いします！ そもそも今成さんが格闘技を始めるキッカケというのはなんだったんですか？

今成 キッカケは兄貴が格闘技とかプロレスが好きだったんで、その影響で『格通』とか見るようになって、なんとなく勝てそうかなと思って。朝日昇とか「なんかちっこくて弱そうだな～」って（笑）。

――朝日昇は弱そう！（笑）。

今成 まぁ、単なる見た感想ですけどね（笑）。

――そこから何の格闘技を最初に始めたんですか？

今成 最初は家の中で兄貴とやってたプロレスごっこですね。プロレスというか、シューティングごっこ。

――シューティングごっこ！ 兄弟で足関の取り合いとかやってたんですか？（笑）。

今成 やってましたねえ。最初は僕が結構取られたんですけどね。

――それが足関十段の原点ですか（笑）。どこか格闘技の道場に通おうとかいう発想にはならなかったんですか？

今成 最初は某シューティングジムに見学に行ったんですけど、とても感じが悪かったんで、ここはやめようって。で、やっぱりジムの会員みたいな形から始めるのはダメだなと思ってたら、ウチの父の知り合いの知り合いで「佐山（聡）に会わせてやる」っていう人がいたんですよ。ちょうどその頃、佐山さんがα（アルファ）とΩ（オメガ）っていう組技と立ち技を分けたやつをやるってことを言ってたときで。

――ああ、確かにありましたね（笑）。

今成 いまはどっかいっちゃったみたいですけど（笑）。「それやりたいなぁ」と思って、その紹介してくれる人に会ったんですけど、その人がユセフ・トルコだったんですよ。

――ユセフ・トルコ！ 凄い知り合いの知り合いですね（笑）。

今成 それでまずトルコさんに会ったら、いきなりヘッドロックをかけられて、「オマエ、（山本）小鉄に似てるな」って。頭を坊主にしてただけで全然似てないんですけどね（笑）。

――ガハハハ！ トルちゃんらしい、いい加減な発言ですね（笑）。

今成 それで「オマエ何がやりたんだ？」って言われたんで「組技がやりたい」って言ったら、「ああ、そうか。組技はいいよな。K―1は弱ぇからな！」って。

――ガハハハ！ それも凄く言いそう（笑）。

今成 まあ、あんまり何を言っても通じなさそうだけど、とりあえず佐山さんに会わせてもらいたいなと思って、その時UFOが旗揚げ前で六本木の事務所に連れてってもらったんですよ。そこで佐山さんに「何がしたいの？」って聞かれて、「総合がやりたいんですけど」って言ったら「よしわかった！ 今度、藤原道場に来てくれ」って言われて。

僕に佐山さんを紹介してくれたのが ユセフ・トルコさんだったんですよ（笑）

――初期UFOに関わってた藤原敏男さんの道場ですね。

今成 で、スクワット何千回とか、入門テストみたいなことやらされるのかな、と思って行ったんですけど、いきなりミット持たされて佐山さんのソバットとかいっぱい喰らったんですよ。ミットなんか持ったことないのに（笑）。それで「とりあえず、ここで練習したらいい」って言われて。

――練習生みたいな感じですか？

今成 練習生というか、「会費はいくらだから」って……「なんか違うな」と思ったんですけど（笑）。

――それって、単に藤原道場のジム生になっただけですか？（笑）。

今成 そうなんですよ（笑）。とりあえず、そんな感じでお金払って通ってたんですけど、やってくうちに「ここは打撃だけかな？」って。

――まぁ、キックボクシングジムですからそうでしょうね（笑）。

今成 で、段々と通ってる意味がわからなくなって。そのとき、たまたま藤原道場で入江秀忠（キングダム・エルガイツ）と出会ったんですよ。それで道場の人が「この人、総合やりたいんだって」って言ってくれて、「じゃあスパーリングしてみる？」って感じで、藤原道場に二階で初めて組技のスパーリングをやりましたね。

――そこでようやく組技初体験だったわけですか？

今成 ちゃんとした人とやるのは初めてでしたね。それでも最初、僕は入江さんのことを全然知らなかったんで「こんな聞いたこともないデブには余裕で勝てるだろう」と思ったんですけど、全く敵わなかったんで、ということはパンクラスの人とかは普通に強いんだろうなと思ったんですよ。有名な奴らにはかなわねぇのかなと。

――朝日昇も強ぇのかなって（笑）。

今成 そうですね（笑）。

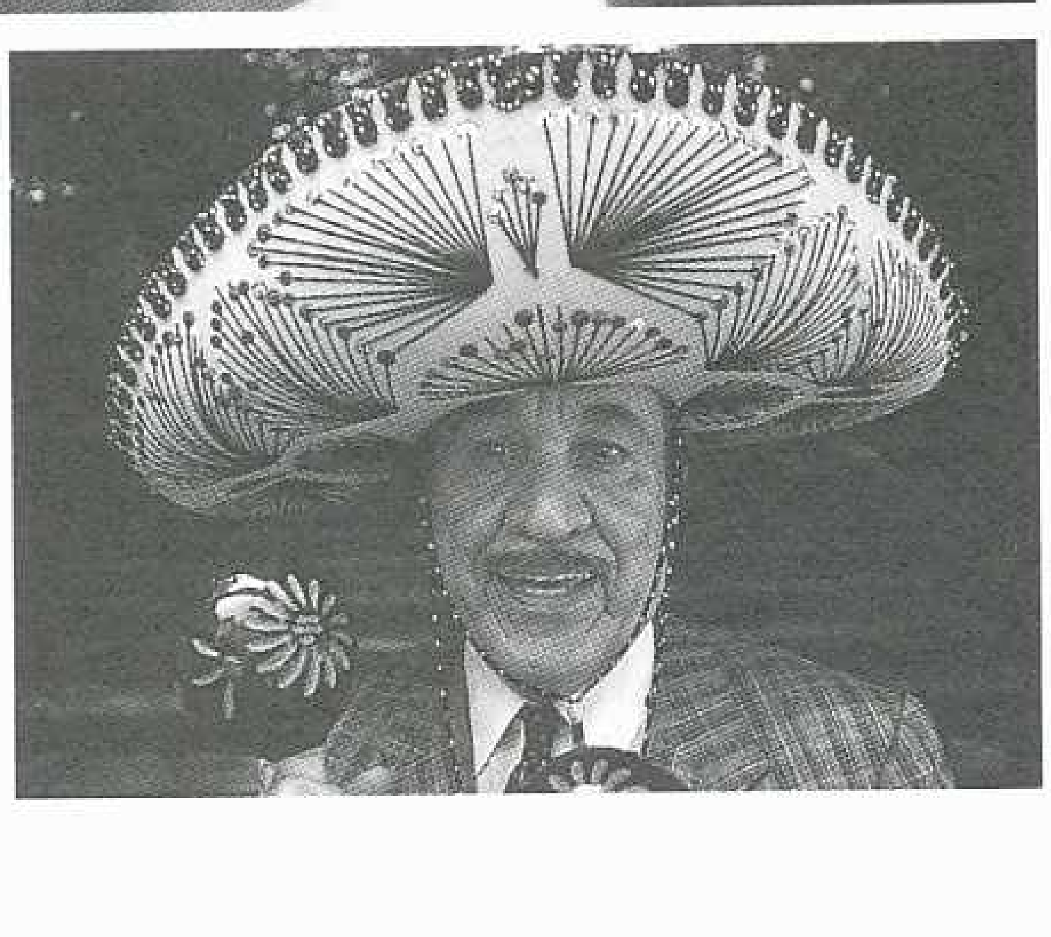
――そこでようやく気づくというのも凄いですね（笑）。藤原道場にいた頃は、途中でUFOの試合に出る話とかはなかったんですか？

今成 なかったですね。僕は藤原道場でサンドバックを黙々と蹴ったり、ひたすら基礎体力を鍛えたりしてましたから。それに、旗揚げするまでUFOは総合格闘技をするもんだと思ってたんですよ。

――「世界格闘技連盟」っていうくらいですからね（笑）。

今成 でも、旗揚げしてみたら「なんか違うな～」って（笑）。それでなんとなく自然消滅する形で道場から足がドンドン遠ざかっていって。そ





奇跡のような魅力的なメンツが揃った初期UFO（写真・上）。ここにユセフ・トルコ（写真・右）まで加わったデタラメパワーは本当に最高だった。ここが格闘技のスタートラインという今成は、やはり侮れない。

初対面の時からずっと「矢野（卓見）はいつか殺してやる」と思ってました（笑）

うすると会費を払うのも嫌になってきて、そのとき入江さんが「（キングダムの）練習に来い」って言ってくれたんで、会費なしで練習できるのはいいなと思ってキングダムに行くようになったんですよ。

——会費が必要ないからキングダム入りでしたか（笑）。

今成 その時は潰れたキングダムの道場がまだ使えたし、しかもクワタク（桑原卓也）とか、いまグラバカでやってる石川英司なんかもいたんで、みんなそこそこ強いし、これでタダならいいな〜と思って（笑）。

——その時はまだキングダム入りしたとか、そういうわけではないんですか？

今成 う〜ん、キングダム入りしたっていう自覚がなかったんですけどね、いままでもずっと。

——あ、ずっと（笑）。

今成 とりあえず、「タダで練習できる場所があるからいいかな」って感じでずるずるいただけだし、「キングダム」って名前もちょっと恥ずかしいな、と思ってたくらいですから。

——なんで恥ずかしいんですか？

今成 だって、キングダムにいた人って誰もいないじゃないですか（笑）。それなのに「キングダム」を名乗って、しかも「エルガイツ」って何だろうなって（笑）。

——ガハハハ！ その頃は、修斗なんかが盛り上がってたと思いますけど、他のプロ格闘技団体は気になったりしなかったんですか？

今成 『バーリ・トゥード・ジャパン』とか見に行ったりして、ああいうのはいいなと思いましたね。なんとなく俺も同じぐらいのレベルだなって。

——ガハハハハ！ キングダムの新人時代なのに、バリジャパと同レベル（笑）。「自分もバリジャパでやってみたい！」とかはなかったんですか？

今成 そうっすね……バリジャパっていうか、格闘技やる前は、コイツやってやるっていうのがいたんですけど（笑）。

——やる前ですか（笑）。ちなみに誰ですか？

今成 朝日昇なんですけど（笑）。

——やっぱり朝日昇（笑）。それはいったいどうして？

今成 ちょうどTAKAみちのくがパンクラスに出た時に見に行ってたんですけど、NKの隣のホテルに入って行く朝日昇がずっと僕にメンチを切ってるんですよ。それで「やっぱり朝日はダメだ」と思って、ここでやってやろうかなって。「格闘技は強くても喧嘩が強いわけじゃないだろう」って思ったんで。

——それって単に目つきが悪かっただけじゃないですか（笑）。

今成 いや、結構長い間見てたんでなんだろうなって。

——じゃあ、いま朝日戦が組まれたらどうします？

今成 今は興味ないですね。全然試合やってないでしょ？

——でも今度DEEPに出るみたいですよ。だから、こんなインタビューが載ったら佐伯さんが「次は足関十段とやらせよう！」ってなるんじゃないですか（笑）。

今成 でも、ブランクあるし、いま朝日昇にもし負けたら、おしまいっぽいかなって。

——おしまい（笑）。でも、ビッグネームじゃないですか。vsホイラー戦とか有名だし。

今成 あれはビデオでいっぱい見ましたよ。大したことないなって。

——ガハハハハ！ それも格闘技やる前ですよね？（笑）。

今成 やる前です。現実がわかってないですよね（笑）。

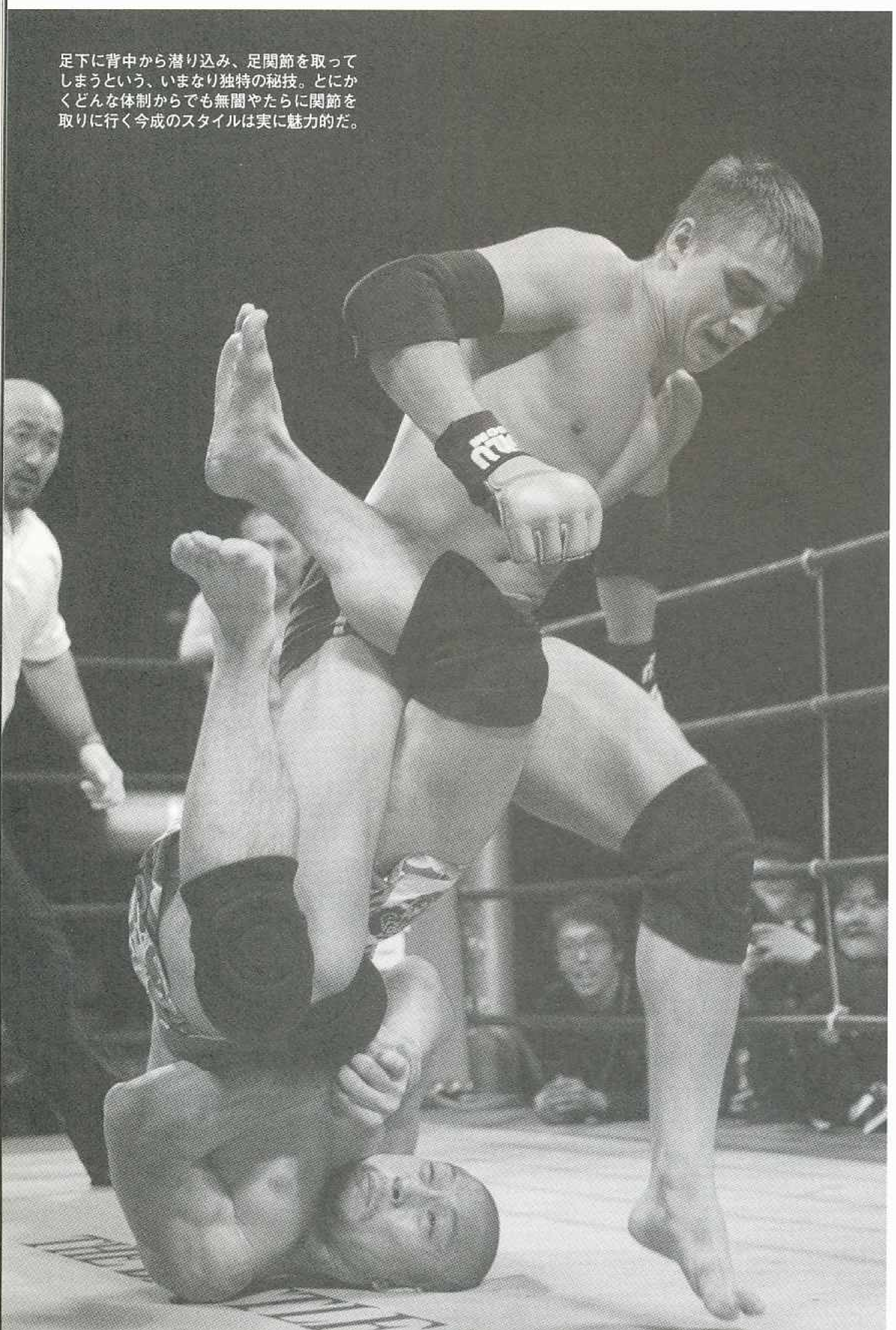
——キングダム時代に他団体のプロ選手とスパーリングをやったりとかっていうのはなかったんですか？

今成 う〜ん、あんまり記憶にないですね。最近は普通にスポーツセンターとかにプロの選手とかいますけど、キングダムの頃はいなかったですからね。木口（宣昭）さんのところにはちょこちょこ出稽古に行かせてもらいましたけど。

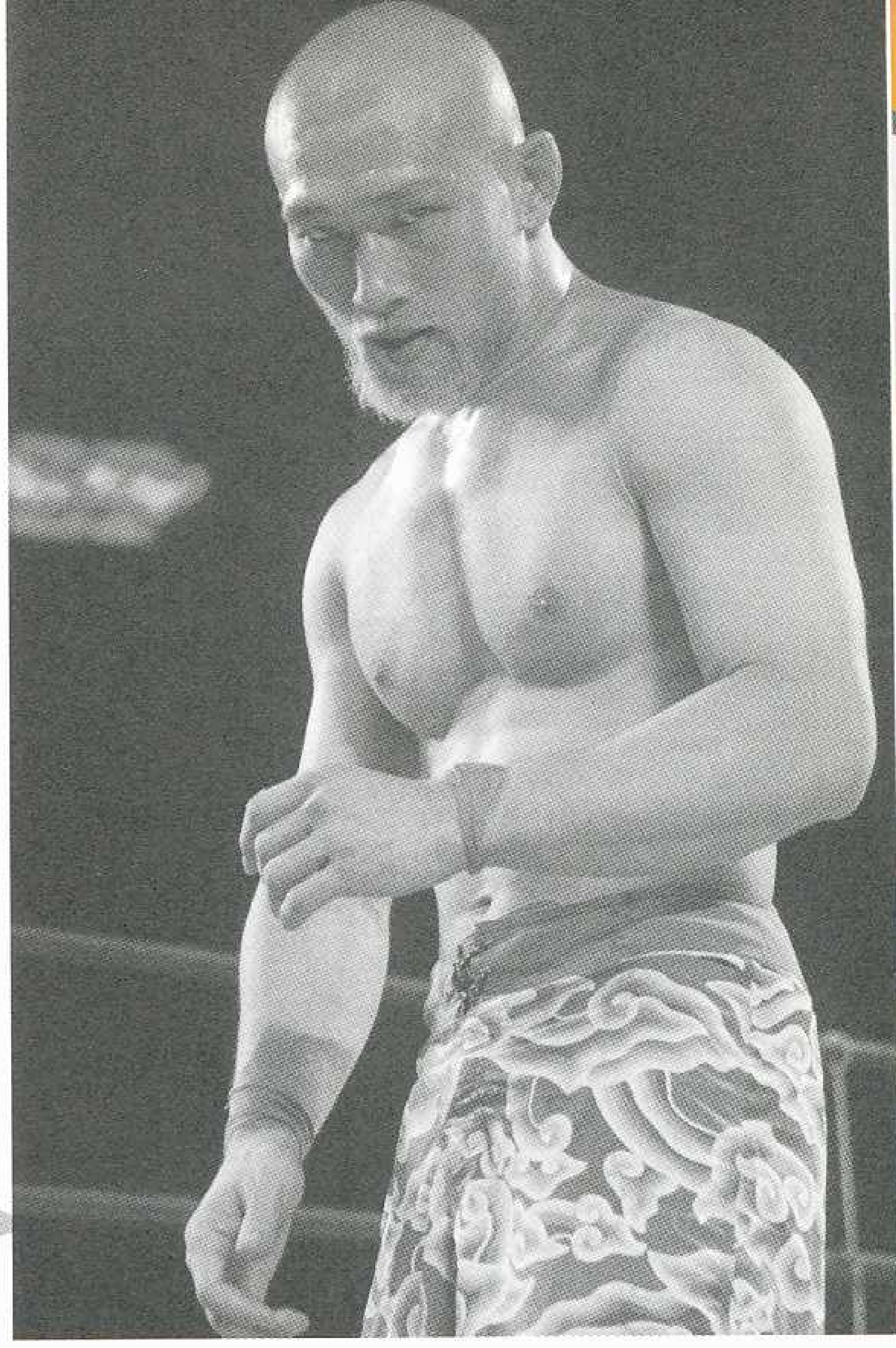
——そこで足関を学んだんですか？

今成 いや、学んだっていうより、僕があんまり足関ばっかり使うんで、入江さんが「五木田（勝）さんとやれば懲りるだろう」と思って木口道場に連れていったらしいんですけど、割と通用しちゃって（笑）。

——サンボ王者に通用しちゃいましたか（笑）。じゃあ、下から潜って極めたりする独特の足関はまったくの



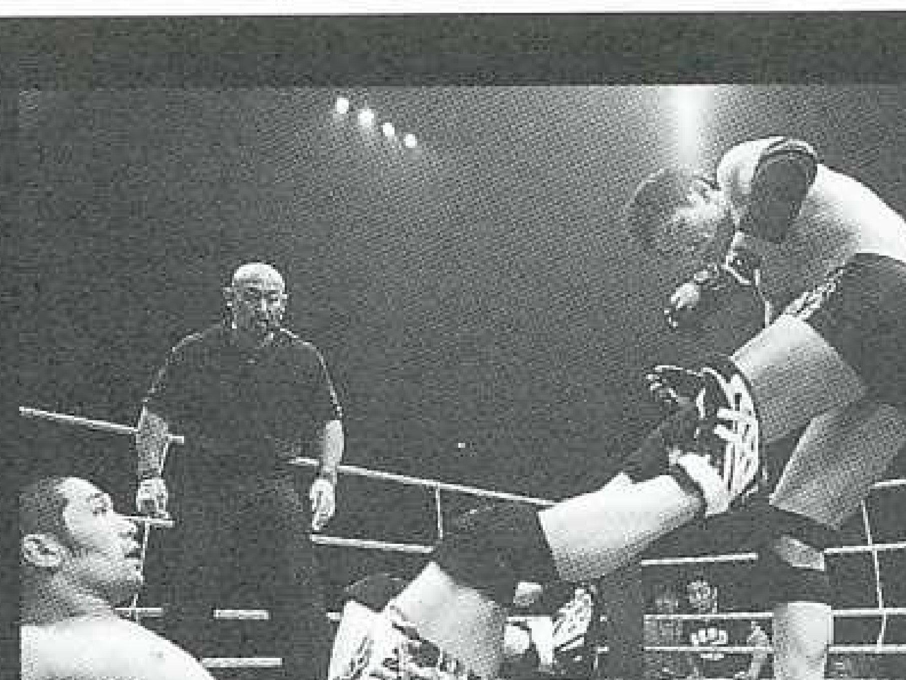
足下に背中から潜り込み、足関節を取ってしまうという、いきなり独特の秘技。とにかくどんな体制からでも無闇やたらに関節を取りに行く今成のスタイルは実に魅力的だ。



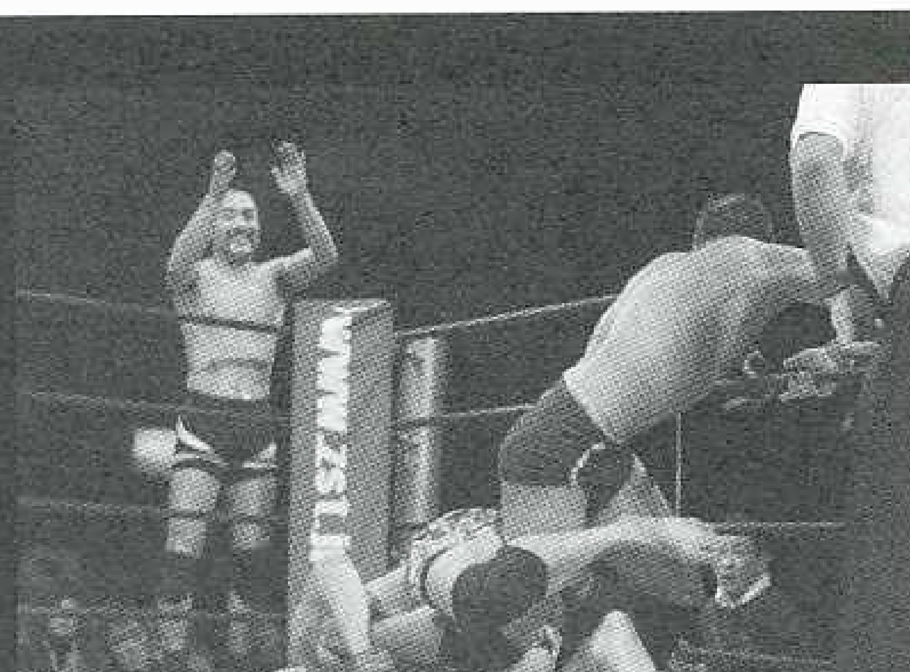
オリジナルなんですか？
今成 "オリジナル"って言うと聞こえがいいですけど、自己流、適当ですね（笑）。
――例の"足関十段"っていう異名がついたのもその頃ですか？
今成 多分、そうですね。入江さんがキャッチフレーズとかミドルネームを付けないと気が済まない性格なんですよ。それで何かつけようってことになって、確か稲野岳（"U系柔術"の異名を持つ、元キングダム選手）っていうこの間、コンバットレスリングで佐藤ルミナに勝った人が付けたんだと思いますけど。自分では「"足関十段"って意味わかんねぇな」って思ってたんですけどね。足関に段なんてないのになって（笑）。
――そりゃそうですね（笑）。足関節技には昔からこだわってたんですか？
今成 いや、それしかできないんですよ。パスガードも、上半身の関節技もできなかったんで。
――足関は十段ですけど、他の技術は何級とか（笑）。
今成 多分、そんな感じですよ（笑）。
――現在のタッグパートナーである、矢野（卓見）さんとかと練習し始めたのはいつ頃からですか？
今成 キングダム辞めるちょっと前ですかね。キングダム初期の頃からスポーツセンターで見かけたりはしてたんですけど、僕はずっと「矢野は殺さなきゃいけない」と思ってたんで（笑）。
――ガハハハハ！ なんでそう思ってたんですか？
今成 僕のキングダム三試合目の相手が、町田生五月（まちだおさみ）っていう鳥合会の人なんですけど。
――あ、いまのラサール★おさみですね。
今成 そうですね。その人と試合をして、キングダムの立場で闘って引き分けだったんですけど、凄い僕が押されまくって判定があったら負けていた内容だったんですよ。そしたら後日、初めて矢野さんと口を利いたとき、いきなり「あ、おちゃみに組み負けた人でしょ？」「お前、人生終わってるね」とか言われて、「う～ん、コイツは殺しとかないといけないな」って（笑）。
――「矢野、いつかは殺す」（笑）。
今成 まあ、スパーリングするようになってからは、そんな悪い人ではなさそうだと思ったんですけど、それまでは普通に気にくわないな、と。だから初めてウチのチームリーダーの和知さんに矢野さんが「今成君とちょっとスパーさせてよ」みたいなことを言ってきたときは、「よし、来た。ブッ壊す！」って（笑）。
――合法的にブッ壊すチャンスが来た、と（笑）。
今成 そう思ったんですけど、初っぱなにチョークを極められちゃって、二回ぐらい後に極め返したんですけど、最初に極めたってことでいまだに矢野さんに「お前はあの時、俺に殺されなかったから今があるんだ」って言われるんですよ。「あのまま絞め続けたら死んでた」とか（笑）。
――それがチーム・イリホリの原点なんですね（笑）。その後、バレット・ヨシダ戦を最後に今成さんたちはキングダムを離脱するわけですけど、それはどんな理由があったんですか？
今成 う～ん、いろいろ不満は溜まってたんですよ。試合とか練習がキツイのに雑誌には全然載らないとか、頑張ってもその後になんかプロレスやってるとか（笑）。最初はプロレスやるっていうこと自体知らなかったんですけど。
――UFOに続いてまたですか（笑）。
今成 入江さんが「プロレスやってんだよ」って言わないもんだから、普通にやるんだろうなと思ってたんですけど、「なんかおかしいぞ」と思って、その辺からキングダムに対する不信感が段々と（笑）。でも、直接のきっかけはバレット戦をやった後楽園のあとに、アマチュアの大会があったんですよ。その大会はキングダムが協力はしているけど主催ではなかったんで、後片付けをしないでボーッとしてたら、入江さんに「片付けろ、ボンクラども！」みたいなことを言われて、いままでいろいろあったんですけど、そこでもうこの人はダメだなって（笑）。
――ボンクラ発言でようやく踏ん切りがついちゃんたんですね（笑）。
今成 その発言が元でみんな抜けたんじゃないですかね。
――それでここの『ILL STREET GYM』ができたわけですね。

抑え込みだけ強い"塩試合"をする奴は格闘技界発展の妨げになってると思う

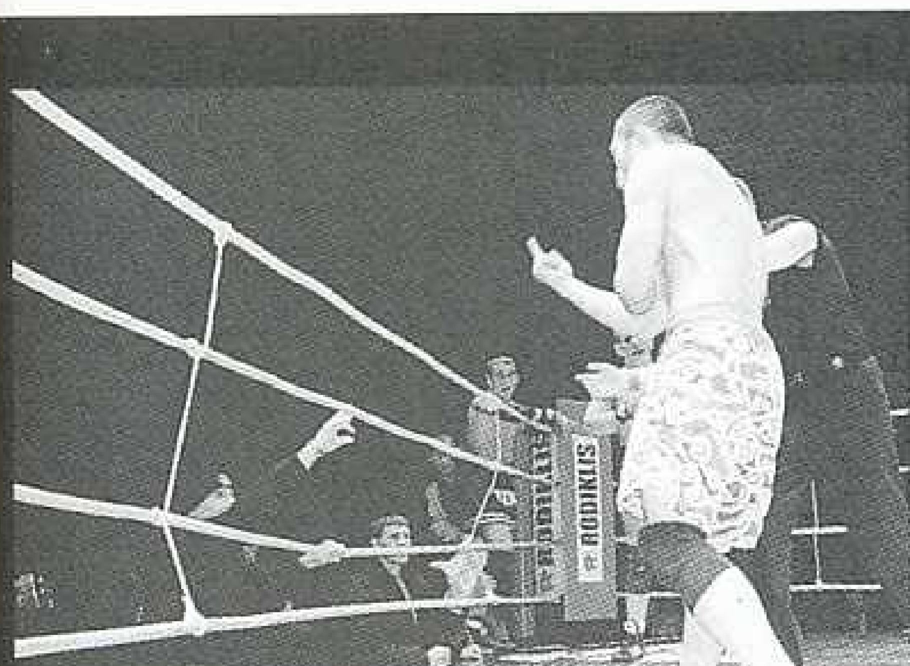
見てみ、この足関十段ぶり！
今成正和 BOUT SELECTION



今成の"メジャーデビュー"とも言うべき、02年5月6日『プレミアム・チャレンジ』での岩間徳三郎（禅道会）戦。今成は猪木ーアリ状態から蹴りを叩き込まれると、その蹴り足を掴んで一気にヒールを極めてしまった！ 凄ぇ！

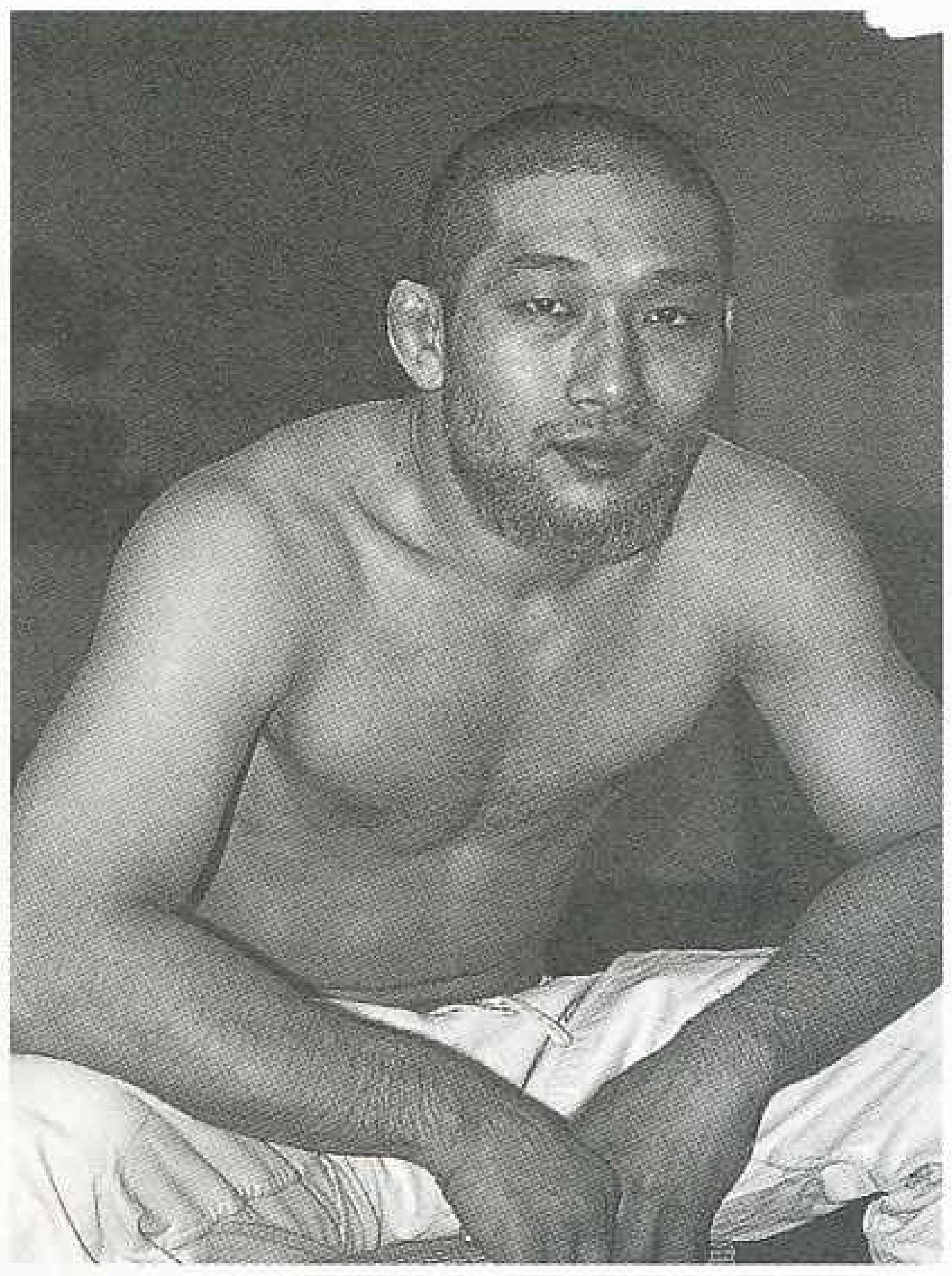


02年11月20日。『ZST』旗揚げ戦でチーム・イリホリとして初めてタッグマッチに出陣した今成は、リングス・リトアニアコンビを相手に自慢の足関を次々と仕掛け、2本連取の完全勝利！ コーナーのヤノタクも大喜びだ。



前号でもたっぷりお届けした03年4月5日、リングス・リトアニア大会での暴れっぷり。今成は観客を含めた「周りは全部敵」のような状態で、大乱闘を引き起こすこすほどの強心臓ぶりを見せつけた。（試合後のホテルでも）

今成　そうっスね。
──いまってここのジム以外はどんなメンツと練習してるんですか？
今成　いまはスポーツセンター行って、ROKENと鳥合会。あとは適当にお願いしますって感じで。
──スポーツセンターっていうと、以前は×××の人たちが練習してたことで知られてますけど、彼らともスパーやったりしてたんですか？
今成　×××はないですね。前に一回遭遇しましたけど、あんまり好きじゃないんで。
──あ、そうなんですか（笑）。
今成　ちょっと合わないかなって人が多いですね。
──じゃあ、以前の矢野さんや朝日選手みたいに、「やってやる！」っていう人もいるんですか？
今成　階級が全然違うんでそんなないですけど、Kは好きじゃないですね（キッパリ）。
──ガハハハハ！　そんなキッパリと（笑）。なんで嫌いになったんですか？
今成　前にスポーツセンターで練習してる時に見かけたんで、××××の寝技がどんなもんかちょっとやってみるかなって思って、Yっていう選手に「スパーお願いします」って言ったら「Kさんに言って下さい」って言うんですよ。「本人に言ってもダメなのかな？」って不思議に思いながらも、Kの所に行って、ちゃんと自己紹介して「やりたいんですけど」って言ったら「ウチはヘビー級でやってるからねぇ〜」って（笑）。「Yはヘビー級じゃねえだろ！」って思ったんですけど「ああ、そうですか」って。「心が狭めえな、このオッサン」と思いながら、なんだかんだYさんとはちょっとやらしてもらったんですけど、まあKは凄く感じ悪かったですね。だからそれ以来、Kの試合があるたびに必ず「負けろ〜」って念じてるんですよ（笑）。ノゲイラ戦とかスッキリしましたね！
──酷い！（笑）。
今成　ワンパンチでKOされたときは、「おお〜、そのまま●●●しまえ！」って思ったんですけどね（笑）。
──なんてこと言うんですか！（笑）。そういえば、今成さんも以前「アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラとやりたい」って言ってたみたいですけど（笑）。
今成　まあ、それは適当に言ってみただけなんですけど（笑）。別にそんなことは本気で思ってないですよ。旬な人とやりたいですね。おいしい人と。
──いま旬は誰だと思いますか？
今成　誰だろ。いま軽い人っていうのはあまり旬じゃないですよね？　だから旬かどうかはわからないですけど、デラヒーバとはやりたいですね。
──デラヒーバですか！
今成　まあ、試合は見たことがないんですけどね（笑）。技の名前にもなってるぐらいだから凄いんだろうなって。あと、昔は佐藤ルミナとやりたいなと思ってたんですけど、最近なかなか結果が伴わないですよね。強いと思うんですけどね。
──ルミナ選手とはなんでやりたかったんですか？
今成　ああいう、一本にこだわって極めにいくスタイルで勝つ方が面白いじゃないですか。レスリングとか押さえ込みだけ強くて、しょっぱい試合する人がいま主流ですよね。だから佐藤ルミナみたいなスタイルの選手がいなくなってる。それじゃダメだと思うんですよ。
──いまの格闘技界の問題点ですよね。
今成　見てる方としてもああいうふうに勝ったほうが面白いですからね。ガードポジションの攻防が続いたりすると「つまんねえな」って眠くなっちゃうんですよね。だからKみたいな選手は格闘技界発展の妨げになってますよ。
──また、そういうことを言う！（笑）。
今成　ボク自身、つまんない試合見た後って格闘技をやる気がなくなってしまうんですよね。やっぱり格闘技は見て面白くなくちゃダメだと思う。
──確かにそれは言えますね。では、今成さんには、6・1『ZST』で面白い試合を期待してますよ。
今成　そうっスね。次はなぜかメインなんで。メインらしく一本で勝ちたいと思います。
──派手な一本勝ちを期待しております！
【03年5月1日／『ILL STREET GYM』にて収録】



いまなり・まさかず■1976年2月10日、神奈川県秦野市出身。“足関十段”の異名を持つ、その名の通りの足関節技の達人。今年、初のブラジル修行に旅立ち、柔術家に足関をバシバシ極めてきたという。その独特の風貌と試合スタイルで今年ブレイク必至！TEAM ROKEN所属。165cm/67kg



前々号『書評の星座』に大反論!!
「吉田くんって、妖怪王がどれだけ血みどろの喧嘩をやってきたか知らないんじゃないかな」

妖怪王の逆襲

オロロ〜ン！　ドロロ〜ン〜！　妖怪王の逆襲〜ッ!!（心霊・幽霊番組のナレーション口調で）。前々号の本誌『書評の星座PART2』において、金髪鬼・吉田豪が妖怪王こと山口敏太郎氏（妖怪ライター。新生『ゴン格』でコラム執筆）の著作『拝啓ミスター高橋様　ターザン山本様　暴露を闘え！プロレスLOVE』を書評。吉田豪は妖怪王本を「安直かつあまりにも低レベル過ぎる便乗本」「お前、全然暴露と闘ってないよ！」「肝心の主張すら隙だらけ」と糾弾し、プロレスは全試合フルタイムで受けの美学やセールの巧さで得点を競うべきという「発狂した主張」をする「稀代のダメ本」扱いしたところ、山口氏から「『狂った主張』とはどういうこと!?」と抗議の電話が編集部に入った！　吉田豪の毒気たっぷりの書評は、前々号をお読みいただければより詳細がわかるが、とにかく妖怪王は怒ってる！　怒りの源はなんだ？　妖怪王が本当に主張したいこととは？　ぬらりひょんとかって存在するの？　妖怪王の謎に迫った！

（ジャン斉藤）

——吉田豪の書評に激怒なさってるそうですね。

妖怪王　……ボクが最初に読んだ感想としては、『紙プロ』編集部にテロを敢行しろというアングルかと思ったんですよ。

——アングル!?　誰が得するんですか、そんな仕掛け（笑）。

妖怪王　まぁそれは冗談だけど、「発狂した主張」なんて書かれたらそれくらい衝撃を受けますよ!!　そんな言葉使うこと自体信じられないし、出版業界では「キ●ガイ」とか「発狂」という言葉を他人を評価する時にはつかってはいけないよ。ボクが仕事をする度に「アイツは発狂してる」ことになるじゃない？

——それは個人じゃなくて主張が発狂してるって意味だったので、あとはライターの主張を編集者や読者がどう受け取るかだと思いますけど。

妖怪王　発狂という言葉は主張にかかるの？　発狂した主張はその著者の脳や精神から生まれるものですよ。表現が一線越えてない？　ボクにも家族がいるし、つらいよ。

——家族云々の話をするのも、プロとしてフェアじゃないんですか？　今回の妖怪王さんの本は、そう書かざるを得ないぐらい矛盾した本だって吉田豪は言いたかっただけみたいですよ。

妖怪王　だけど、ボクが連載してる某紙に「狂った奴に書かせるな！」って電話があったりして立つ瀬がないんだよね……。

——ウチの読者にも熱い人がいるんですねぇ（笑）。

妖怪王　そういう誤解を招く表現を使うこと自体が、プロレス村の閉鎖的な象徴ですよ！　妖怪界なんかも閉鎖的なところがあったけど、だいぶ民主化が進みましたからね。以前は既存ライターのサロンと化してたから、ボクが妖怪界に進出したときにも攻撃を受けたんです。もちろん徹底抗戦して革命を起こしましたけどね!!

——ああ、それがホームページで書かれてた「吉田くんって、妖怪王がどれだけ血みどろの喧嘩をやってきたか知らないんじゃないかな」ってことなんですね。やっぱり「血みどろ」というだけあって、呪いや妖怪を使って攻撃したりするんですか？

妖怪王　いや、雑誌に意見を載せたりするフェアな闘いですよ。妖怪や呪いなんてこの中には存在しませんからね（笑）。たまに存在する本物の妖怪もあります。つまりね、ボクから言わせると妖怪もプロレスと一緒でファンタジーですよ。

吉田豪のは書評になってない
バブルと一緒で終わっている

——本物もいるんだったらファンタジーじゃない気もしますけど、とりあえずタダシ☆タナカ的に表現するとすべてをわかり切った上で楽しむってことですか？

妖怪王　そういうことですね。プロレスや妖怪は裏側を知った上で楽しむものなんですよ。それより吉田さんは訳の分からない本は書評しないんでしょ。価値ないならとりあげなければいいのになんで書評するの？

——それは前々号の『書評の星座』を読めばわかりますけど、タダシ☆タナカ先生がまず勝手に書評を送りつけてきたんですよ。その書評を吉田が書評する画期的な企画だったんですけど、結局はタナカ先生の書評だと説明不足だから吉田が追加で書評しちゃったんですけどね。

妖怪王　ボクはね、タナカさんの書評だけで済ませてくれれば良かったんだよね。

——タナカさんは「事前に妖怪王さんに電話して仁義を通しておきました！」って言われてましたからね。

妖怪王　タナカさんとは電話で意気投合しましたよ！　一緒に「シュマークプロレス本」や「スマートプロレス本」のお仕事しようって話にもなりましたから。

——でも、事前に話し合ったらシュート活字でも何でもないし、書評としても正しくないじゃないですか。そもそも「タダシ☆タナカを載せるな」「言ってる意味がわからない」と苦情のハガキが編集部に殺到しているから、妖怪王さんにとってもプラスにならないと思いますよ。

妖怪王　じゃあ、吉田さんのプラスアルファが加わってアナタは本の内容がわかったの？

——ええ。本人を前にして言いづらいですけど、よくわかりました。

妖怪王　いや、吉田さんの書評を読んでもわからない人は多いと思うなぁ。そもそも彼のは書評じゃなくて個人攻撃だし、他分野のライターがプロレスを語るのを邪魔してるだけじゃないかな（笑）。だってさぁ、読むべき価値があるから書評するんだから、吉田さんのは単なる悪口ですよ。まぁ、彼が書評の域を飛び出して書くからボクもその枠を飛び越えて反論するけど、彼の生き方を見てると「楽な方」「楽な方」に流れてるよね。過去のインタビューで彼は言ってるんだけど、友達が「アメリカで行ってロックで一流になるんだ」って言ったらね、彼は「俺はそんな苦労をするなら批評する側に回る。その方が楽」だと言ってるわけよ。

——いや、それはルーフトップっていう新宿ロフト系のフリーペーパーで受けたインタビュー【http://www.loftprj.co.jp/interview/0212/09.html】のことだと思いますけど、正確には「叶わない夢を見ちゃいけない。自分は確実にこなせることを考えた時、音楽は語る側のほうが確実」って言ってるだけですよ。

妖怪王　そういう意味だったの？　あのインタビューじゃそこまで読めないよ。ボクの本がわかりづらいのと同じじゃない。

——決して楽な方に流れてるという意味合いには聞こえないんですけどね（笑）。

妖怪王　それに、彼は専門学校の卒業間際に掃除のおばさんから聞き込み調査をしたりして理事長の愛人問題について暴露本を書いてるわけよ。そんなの在学中になぜやらないんだって思わない？

シュマークを相手に『最凶のシュマークライター』として暴露本の見解を述べた本なんです

—でも、卒業製作は在学中に作るものだし、それを学園祭で販売したっていう話だから思いっきり在学中だと思いますけど（笑）

妖怪王　ボクが言いたいのは、彼は強い者に対しては、許されるギリギリのところで止めてるんじゃないかってことだよ。確実なものを求める生き方より、無茶な冒険する方が男として夢があるんじゃないの？　確実な生き方が幅を利かせた時代はバブルと一緒で終わったと思うの。これからは無骨ながらも夢を見てコツコツやってる人間の時代ですよ。

—吉田豪はバブルの申し子でしたか（笑）。在学中に暴露本を作るのは、ギリギリを超えてると思うんですけどね。

妖怪王　それにボクのほうが随分年上なんだけど、吉田さんに「お前」とか書かれる筋合いはないよね。彼はボクを「浅いファン」とか書いてるけどさぁ、吉田さんは平成になってからのプロレスファンでしょ？

—いや、吉田豪もプロレス雑誌を読み始めたのが遅いだけでプロレス自体は小学生から見てるって話ですよ。そんなに好きじゃなかったみたいですけど。

妖怪王　ボクは30年見てて、随分永く同人時代からプロレスファンをやってきたんですよ。吉田さんは知らないでしょうけどね。

—ただ、あの本を読む限りではマニアが書いたとは思えないですからね。

妖怪王　それについては本の設定から話さなきゃいけないんだよね。この本はシュマーク（マニア気取りの半可通ファン）の観客をターゲットにして、ボクが「最凶のシュマークライター」として暴露本の見解を述べるアングルだったんですよ。

—そういうアングルだったら、前回の書評の一部はOKなわけですよね？　シュマーク以外の層も読むわけだから吉田同様、不満を抱く人は死ぬほどいると思いますよ。

妖怪王　だから、それがアングルなんだって。ある意味、吉田さんのヒートはアングルどおりのリアクション（笑）。だけど本の仕掛けと、プライベートは別だよ。たとえば、オカマレスラーが普段でも「オカマ！」って言われたらイヤじゃない（笑）

—浅い本と思われるのは構わないけど、俺自身はそうじゃないと（笑）。

妖怪王　俺の知識をナメないでよって話ね！

—タイトルに『暴露と闘え』と付いていながら全然「暴露と闘ってない」という吉田の指摘についてはどう思いますか？

妖怪王　暴露本と闘えとは言ってないよ。ボクが言いたかったのは、暴露本の問題提示を無視する心と「自分自身が闘え！　世間はプロレスに対してこう思ってるぞ」「正面切って向き合おう」「弱い心と闘いなさいよ」というメッセージをシュマーク層に送りたかったの。タナカさんはスマート層を対象にして物書いてるけど、ボクは暴露本を読んだら二度とプロレスを見なくなるような人に向けて書いてるわけ。

—そのメッセージというのが、全試合時間切れで「受けの美学」「セールの巧さ」をポイントで採点していく新しいプロレスを作れってことなんですよね。

妖怪王　入場の格好良さを採点してもいいし、セール大賞もあっていいんじゃないかな。フィギュアスケートの芸術点にみたくプロレスを採点するのもいい。

—思い切りカミングアウト派じゃないですか（笑）。

妖怪王　カミングアウト派なのかなぁ。当たり前のことだと思ってるから、そんなこと考えたことないけどな。ある事情で時間がなくて、懇切丁寧に書けなかったから誤解は受けたと思うけどね。

—じ、時間がなかったからですか……!?

妖怪王　吉田さんは『マッチメイカー』（以下パート2）に触れてないことも書いてたけど、ホントは追加したかったんですよ。でもさ、「パート2を読んでない」と指摘するのが書評なのかな？

—あの時期にミスター高橋本を検証するならパート2を含める必要はありますよね。吉田の指摘が正しかったのであれば、それも書評にはなってると思いますよ。

妖怪王　高橋さんのパート2が12月発売だったっけ？　ボクの本の原稿〆切が1月中旬だからね。企画にも入ってなかったし、間に合わないよ。

—いや、期間的に1ヶ月もある以上「出たそうですね」じゃなくて、何かしら書かないとウソですよ!!

妖怪王　それはボクの説明不足かもしれないけど、吉田さんの書評も説明不足なんじゃない？

—一体、どういう意味ですか？

妖怪王　彼は「パート2を含めて検証するべきだった」と書くべきであって、「読んでないじゃん」って書かれても実際ボクは読んでるし（笑）時間の問題で触れられなかっただけで。しかも、それを使おうが使わまいが版元とライターの勝手だよね。そんなの企画段階で言えよって話でさ……。出版された後に文句を言われても困るんだよな。

—いや、「拝啓ミスター高橋」と打ち出す以上、そこに触れなければおかしいと思うし、そもそも出版された後に文句を言うのが書評ってものなんですけど（笑）。

妖怪王　だいたいさぁ、「拝啓」という言葉にしても嫌みに受け取るあたりがさもしいなって思いますよ、人間的に。

—「暴露と闘え！」とタイトルに付いていたら、大部分の人は挑発的な意味合いと受け取ると思いますけど。

妖怪王　あのタイトルには恩讐の想いが込められてるんだよ。学校の先生に対する手紙のような（しみじみと）。ターザンさんが『週プロ』の編集長だったときにはUWFの座談会に、あの人が退社する日に仲間3人で押し掛けたりして御世話になったし、高橋さんはボクの大学のプロレスの研究会の顧問だったの。高橋さんにはいろいろと教えて頂いたけど、プロレスの裏側を平気で語ったり、パワーチューブの販売を手伝わされたり、解せない気持ちがあったんだよね（笑）。

—そんな面白いネタがあるなら、それを書けばよかったじゃないですか！　ターザンの接点についても何の説明もないから、読者にはまったく届いてないはずですよ。

妖怪王　いいや、揺れる感情は浮き彫りになってると思うよ。結局、ボクの主張は吉田さんやアナタには伝わってないんだよなぁ。プロレス村の意識があるからだよね、それは（キッパリ）。プロレス村って外部のライターを排除するじゃない？

—そうなんですか？

妖怪王　アナタは中にいるからわからないと思うけど、プロレス村根性をなくしてドンドン外部のライターを参入させるべきだと思うね。世間はこう見てるって意味でも……。

—ウチはどんどん外部の人を参入させているし、そもそも吉田豪自体がプロレスライターじゃないですからね。それに外部の人を使う場合、ある程度のハードルは必要じゃないですか？

妖怪王　ケアレスミスはなるべくなくすべきだと思うけど、プロレスを語るのに資格が必要なのかな。ボクはいらないと思うなぁ。何が正統な見方とかプロレスにはないでしょう。シロートや主婦に語らせてもいいんじゃないかなって気がするよ。

—『紙プロ』は主婦でシロートのコラムも連載してましたよ（笑）。その理論だと、妖怪王さんよりプロレスファン歴が短い吉田豪だっていくら語ってもいいわけですね。

妖怪王　だって業界は吉田さんの方が長いんだから……。ある意味、吉田さんには感謝している部分もある。吉田さんには今回、勉強させてもらったからね。ただ年上に対して言葉遣いがなってないというか、ちょっと彼は人に対する優しさに欠けてるという面があるけどさ。

—そこだけは今日のお話でも共感できますよ!!　ところで妖怪王さんはボブ・サップの謎本を出版したらしいですね。サップにはどんな謎がありましたか？

妖怪王　いや、謎なんてないですよ（笑）。ただ、謎本形式にしただけであってね。

—あ、ないんですか（笑）。じゃあ、どんなことを書いたんですか？

妖怪王　いや、「サップの飼い猫の名前は？」「トリニティです」とか、マーク（初心者）対象のかわいい、楽しい内容ですよ。

—……今日はどうもありがとうございました。

【03年4月某日／電話にて収録】

時代を迷走するどインディー秘宝館!!

あなたの知らない世界

報道されないプロレスの彼方へ

今回は紙プロ読者的には、わりとおなじみのUNW（United Nation Wrestling＝国連プロレス）あの「金を失う人と書いて鉄人！」（©浅草キッド）セッド・ジニアスの登場だ。今回も意味不明な固有名詞が頻出すると思うけど、置いてきぼりでGO!

文／田中ダイス　撮影／堀江ガンツ

⬇今月の潜入先⬇

4.28　ディファ有明

UNW

事件発生!! 〝暴行〟されたジニアスが中牧を訴える!?

4月27日は、どインディファンにとって特別な日だった。埼玉プロレスが生魚の飛び交う一戦をおこない、金町地区センターを使用不能に追い込んだり、ミスター・ポーゴが伊勢崎市議選に立候補し、見事最下位で落選したりしていた。そんな日に、ポーゴさんと因縁深い大仁田厚は、ディファ有明のリングに上がっていた。セッド・ジニアスと戦うために、この国会議員は、統一地方選をほったらかしてやって来たのだ。もちろん公設第一秘書である中牧昭二もいっしょだ。

ディファ有明に到着すると、ドレスアップしたチョロさんが、落ちつかなそうにうろついていた。なんでもジニアスにリングアナを頼まれて緊張しているとのこと。でも、「『紙プロ』イベントの方がお客さん多いんじゃないですか」と言っておいたけど。その会話の中で、今日のリングを組んだのは、アレクサンダー大塚という小ネタも教えてもらった。あのマルコ・ファス戦の感動が蘇る！（どこに？）ますます紙プロ向きな興行だ。こんなモノクロ2ページじゃなくて、ちゃんとカラーでドーンとやったほうがいいんじゃないだろうか（嘘）。取材申請をしようとすると、ガンツさんからチケット引換券を渡された。どうやら大人の事情があるらしい。

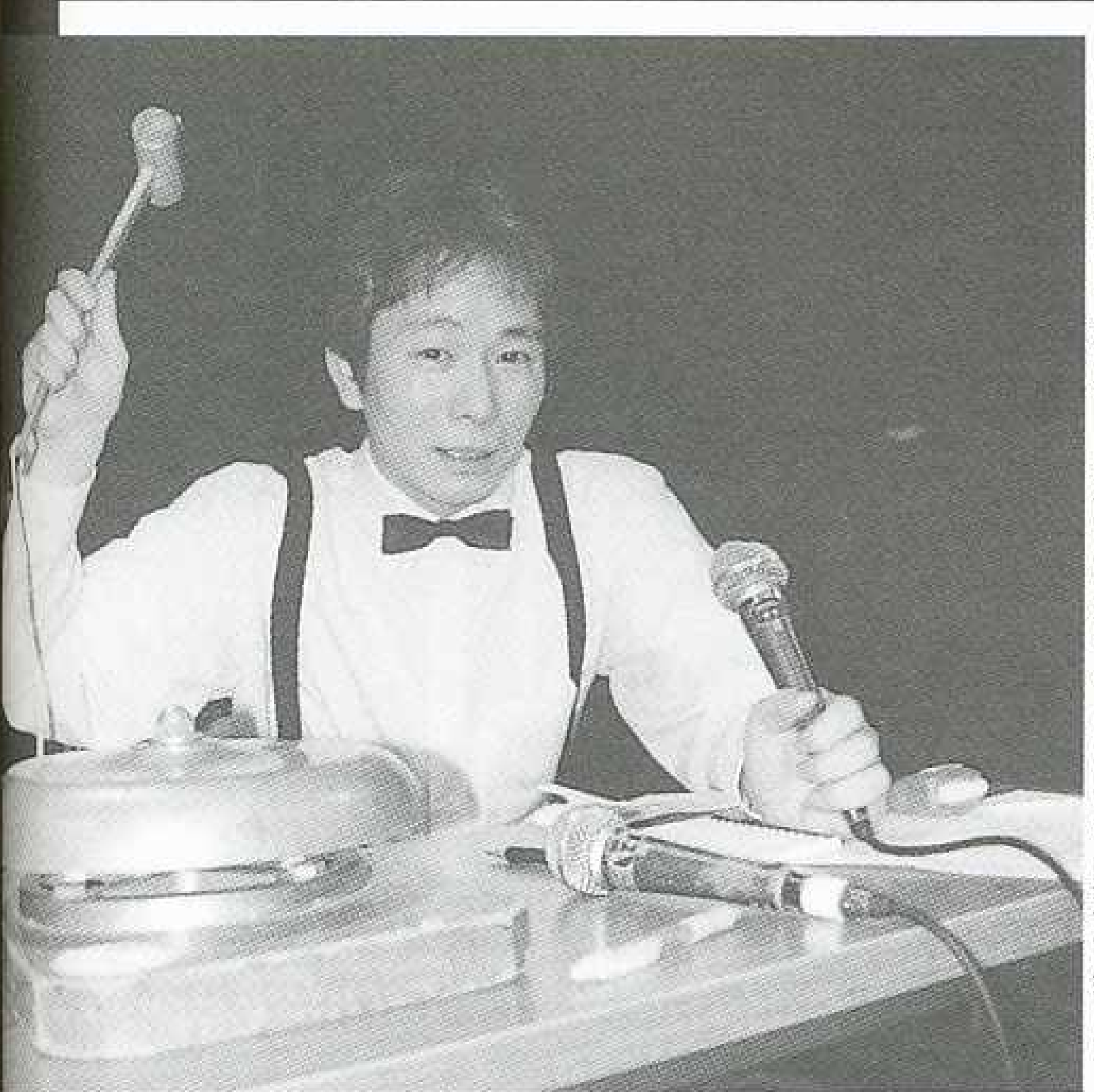
1月19日、W－1東京ドームの裏で行われたジニアス興行は、興行戦争にコールド負けしたような、壮絶極まりない入りだった。それを期待して会場のスミに立っていると、お客さんがぞろぞろぞろぞろやって来る。しかも、妙に親子連れが多かったりしている。あっ……さっき大人の事情を言い含められたっけ。彼らの顔には「お手軽にプロレスが見られてラッキー！」と書いてある。そりゃまあ、前売り6千円、当日7千円と書かれた高額チケットがお手軽に手に入ったんだから、嬉しそうな顔をするのもわからなくもないが、何があっても知らないよ。そういえば、去年タイガー・ジェット・シンとやったとき（ミスター高橋も登場！）の当日入場料は時価であった。「1万円ぐらいですかね」と『サムライ！』で自信満々に語った、ジニアスの確信に満ち溢れすぎた表情は忘れられない。

試合開始の18時を20分ほどまわったところで、チョロさんが登場。対戦カードの発表をおこなう。今日は全5試合。第1、第2試合が〝地下プロレス〟を自称するUBJ（Underground Battle Jam）提供の格闘技戦で、第3試合からがプロレスとなっている。まるで、新日ドームみたいだなあ。

第1試合は大塚裕一対長瀬館長の格闘技戦。大塚選手は5・5DEEPにフューチャーファイト枠で出場。なんで1週間前にこんなことをしているのかは謎。対する長瀬館長は何の館長なのか、公式サイトを見てもわからないぐらい謎なんだが、T・A・M・A（Total Athletic Martial Arts）という団体を主催しており、WMW世界ミドル級王者でもある。だが、公称165cmのナニな体には逆方向の説得力が詰まっている。試合は見たまんまに、大塚が長瀬館長からヒールホールドで勝利。かなりヤバげな打撃の応酬に、温かい歓声が送られている。今日のお客さんはいい人ばっかりだ。

続いて幻＆唐沢仁義対ランバーM16＆鈴木光浩の格闘技風タッグマッチ。ランバーが強すぎて笑うしかない。DEEPでヤノタクをボコったランバーが、なんで活き活き塾でおなじみの幻とやりあっているのかよく理解できないが、この日のお客さんから見ればどれも知らない人だからなのか、必要以上にハードヒットな試合を、楽しそうに見ている。

第3試合はスーパー・ライダーⅡ対スーパー・トーキョー・トム。いかにもどインディな謎のマスクマン対決。何が謎かというと、見る人（どインデ

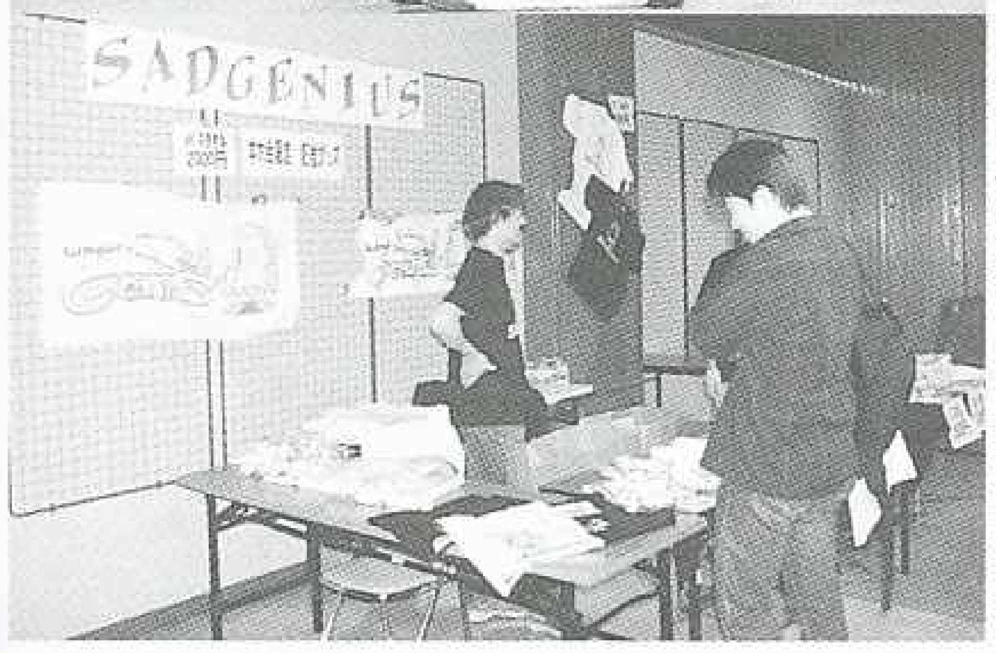


リングアナはなぜか本誌・松澤チョロ！　一応ギャラは出たらしいが、いい年してスーツ一つ持っていないチョロは、この日のために『青山』で激安スーツを購入（よって赤字）！　大仁田に水をぶっかけられ、見事台無しに。

本誌・チョロがリングアナ！ こんな興行があっていいのか!?



前号のPWCに続き、UNWにも登場した黒田哲広。ご苦労様です。ジニアスとは共に旧PWCでデビュー同士。また再び同じリングに上がるとは……。



なぜか充実していたグッズ売場。インディのグッズと言えば、チープでしかも高いというあまりにも高い敷居なのが定番だが、ジニアスグッズは不思議と良心価格だった。



これがインディでは有名な長瀬館長の勇姿。どこか空手家時代のアーリー・中村カタブツ君（40歳）を彷彿させる、その独特すぎるオーラに、ただただ圧倒された。



謎の覆面柔道家（でもグローブ着用！）スーパー・トーキョー・トム。前回、出場した際はミッコが歌う『炎のファイター（いつもいっしょに）』で入場という離れ業をやってのけた。

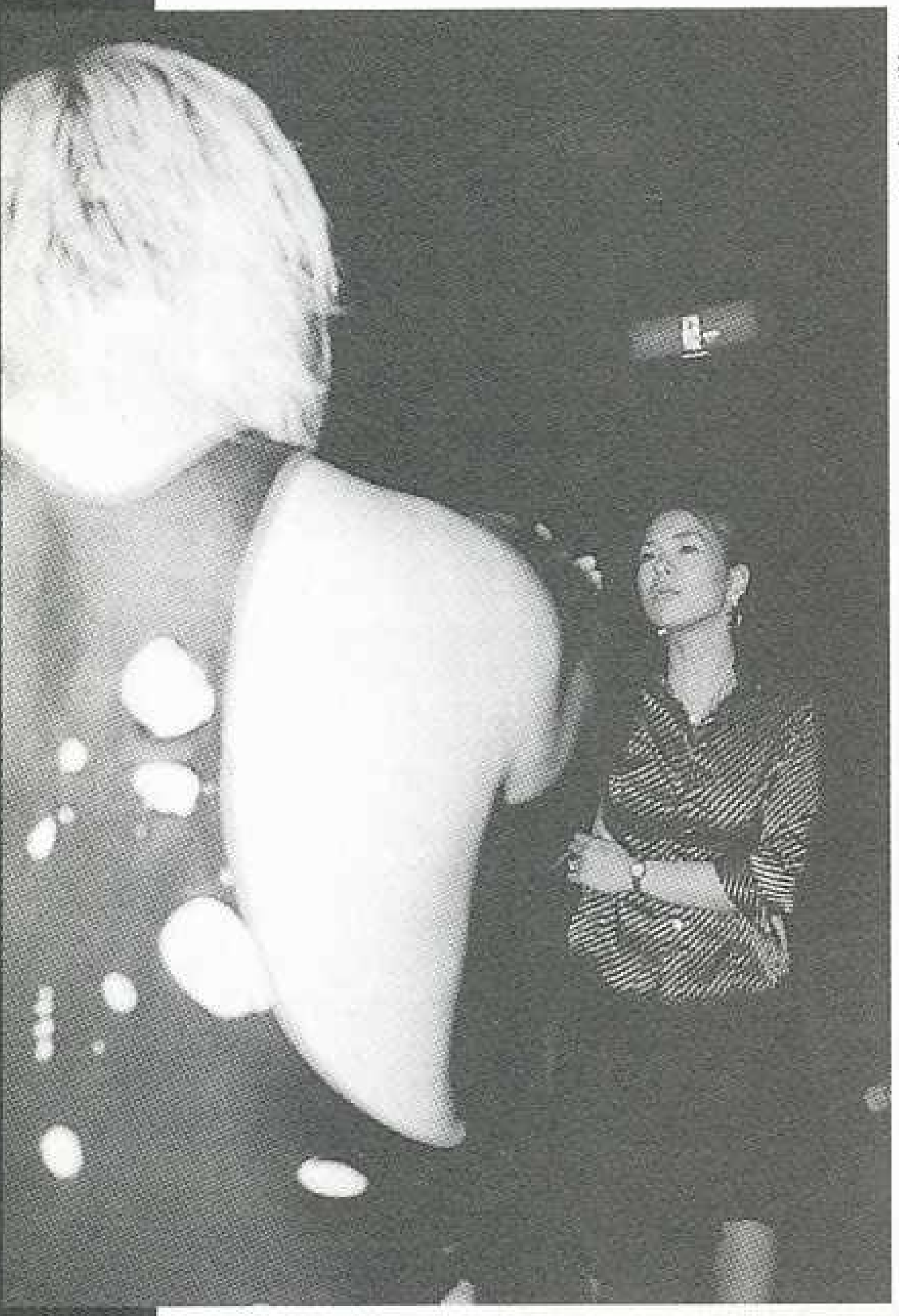
大仁田vsジニアス不発！
主役はなんとジニアスの妹!!



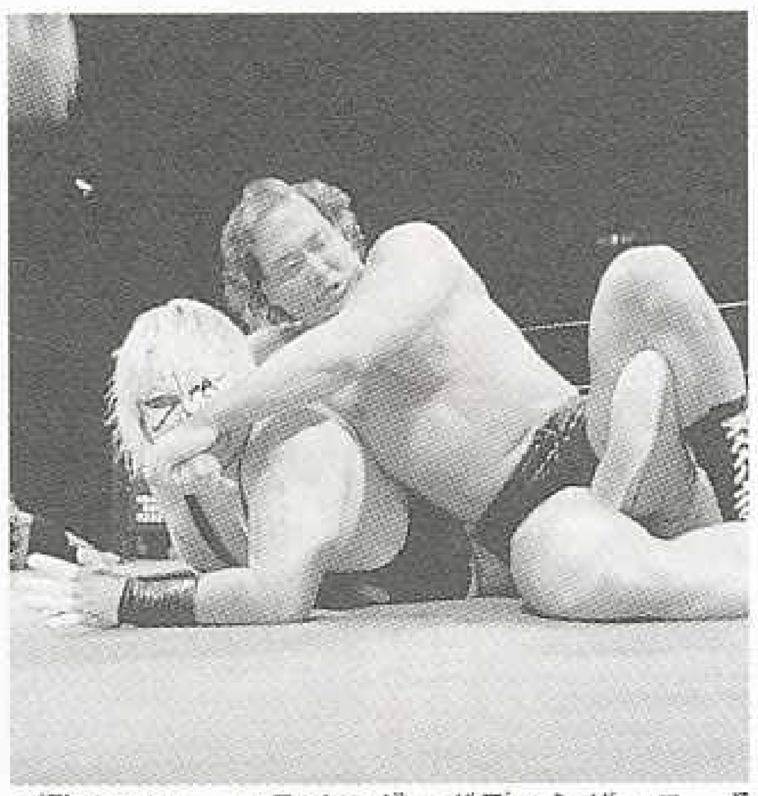
かつて「時代の先っちょを行く闘い」と題して一騎打ちを行ったジニアスと浜田がタッグを結成！ UNWに二度も出る浜田はある意味凄い。ジニアスは相変わらずの超ゴージャスなガウンに赤いバラを加えたいでだち。



一見さんがなぜか多かったこの日は、「生・大仁田」が登場しただけで「本物だ！」という感じの大歓声！ これに気をよくした大仁田は、やたらとノリノリで、客いじり、ジニアスいじり、妹いじりに精を出していた。



この日の主役は間違いなくこの人、ジニアスの実妹！ 大仁田＆矢口の挑発＆脅しにも、一歩も引かないこのタカビーな態度を見よ！ これが実は予定調和じゃないところが凄い。ジニアス妹はエンターテインメントを超えている！



ご覧の STF、フライング・ボディシザース、そしてフィニッシュの“ヘソで投げる”バックドロップと、この日も“鉄人”ぶりをいかんなく発揮したジニアス。そのヘアースタイルも師匠テーズに近づいてきた気が……。

イマニア）が見れば中の人は一目でわかるが、かといって「中の人は○○だよ」とか自慢げに語っても「○○って誰だよ」と返されてしまうという、二重構造の謎になっているところだろうか。トーキョー・トムと言えば、猪木のLA修行時代のリングネームなんだが、どこがどう猪木なのかは不明。猪木の引退試合に立候補した（もちろん黙殺！）、ジニアスの怨念が感じられるネーミングではある。

休憩中、まったく客のいないジニアスオリジナルグッズ売り場を冷やかして場内に戻ると、第4試合の黒田哲広vs佐野直が始まった。まさか2ヶ月連続で黒田をとりあげることになるとは……。黒田は「もう一丁！」も「This is 哲ちゃんカッター！」にもまったくノーリアクションの観客席に「みんな知らないの？」とぼやきながらも、客いじりをしながら徐々に暖め、見事、メインへの露払いの役目をはたした。さすがである。

そしていよいよメインイベント。国会議員・大仁田厚は、ど真ん中なリングでもコンビを組んでいる矢口壹琅と共に登場。そしてジニアスのパートナーはグラン浜田。メジャーなレスラーばかりではないか！ 新日やノアでは厳しいかもしれないが、全日やWJなら充分アリなカードだ。しかし、今日の主役、悲しき天才セッド・ジニアスがお馴染み『オリーブの首飾り』に乗って入場すると、イヤでもどインディの会場にいることを気付かされる。てっぺんが微妙なことになっている涼しげなヘアースタイル。口にくわえた赤い薔薇（造花）。そしてこればかりはカラーで見てもらいたい、ピンクのハートマークが乱舞し、背中に『天才』と大書きされた世界一ゴージャスなガウン。この歪んだ磁場がどインディの魔力。これにはまったら、人としてもう落ちるところがありません。

かつてジャパン女子のマットで、誰にも望まれない戦いを大ブーイングの中で行った浜田と大仁田が、そのときの借りを返すかのように、激しい戦いを見せる。が、本稿の目的はそういう部分ではないので、浜田さん、あんまりがんばらないでください。筆者の願いが通じたか、いよいよジニアスが大仁田と接触。しかし、場外で激しくやりあうものの、正式なリング上での絡みがないまま、必要以上に厳格なレフェリングで、ジニアスは自軍コーナーに釘付けにされてしまう。矢口と大仁田のダーティな連係につかまり続ける浜田。ジニアス組に突破口はないのか？ある。それは客席から起こった。

皆さんは「妹ブーム」のことはご存知だろうか？ 秋葉原系の皆さんならご存知だと思うが、最近やや下火気味とは言え、ソレ系の人々に根強い人気を誇るのが「妹萌え」だ。最前列に座るジニアスの妹が立ち上がると「うちの兄貴がお前を倒す」「あんたなんか、やっちゃうよ。ウチの兄貴！」と邪道・大仁田厚に食ってかかり始めたのだ！ プロレスファンで、かつ妹萌えというニッチな客層のニーズを満たすために戦う妹。この意外すぎる展開に大仁田も「ジニアスより、妹をリングに上げたほうが面白いんじゃないか」ともっともなことを言い出す。

しかし、ジニアスは妹がこれだけがんばっているのに、コーナーから一歩も動くことができない。せめて口撃だけでもとマイクを取ると、大仁田に「試合中にマイクを使うなよ！」と一喝されてしまう。最後はなんとかテーズ直伝のバックドロップで、矢口からフォールを奪ったものの、存在感を出せたとは言いがたかった。その悔しさからか、試合後大仁田に襲い掛かろうとするジニアス。だが、第一秘書の中牧昭二がジニアスに立ちはだかる。大仁田先生をかばうように、ジニアスのナニな髪をつかむとそのまま押し倒し、両軍のセコンドが入り乱れる中、ジニアスをボコボコにする。その後大仁田が、いつもの「オイ！ オイ！」パフォーマンスで荒れた客席の空気を治め、ジニアス妹にも「ありがとう」と言わせるなど、ジニアスを差し置いて、ハッピーエンドの空間を作り出したが、ジニアスの活躍を期待していた観客には、やや不満の残る興行だったかもしれない。

しかし、戦いは終わっていなかった。なんとジニアスは「乱闘の中、中牧にやられて視力が落ちたことを告訴する」と言い出したのだ。週プロにも、ゴングにも、ファイトにも報道されないUNWが、『夕刊フジ』の一面に白装束関連の記事と共に報道されてしまうというこの不条理。セッド・ジニアスの執念には、乗り越えられない壁はないのかもしれない。ていうか、乗り越えちゃいけない壁もあると思うんだが……。

訴えられないことを切に望んで、今月は筆を置く。来月も皆さんにお会いできますように。

試合後、ジニアスと中牧が大モメ!!
決着の舞台は法廷へ？



試合は、なかなか出番がなかったジニアスが、ようやくタッチを受けた矢先に出したバックドロップであっけなくピンフォール。するとなぜか大仁田陣営がいきりたち、リング上は大混乱となった。そして、その模様がなぜか『夕刊フジ』の一面に掲載！ なにかと思い読んでみると、場外乱闘で“大仁田の秘書”（中牧）に蹴られたジニアスが、傷害罪で告訴するとのこと。……は〜、カックン。



本誌 Back Number

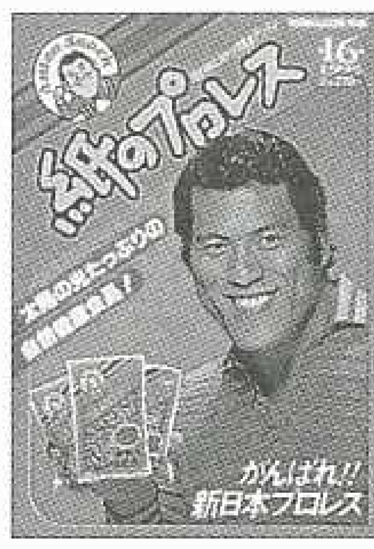


no.08 '94.01

特集 さらば新日本プロレス

仁義なきワイド座談会「さらば新日本プロレス」／仰天企画・恐山旅行のついでにマスカラス＆天龍を見る／サスケが『紙プロ』初登場！ 20ページにも及ぶ大特集！

700yen⇒350yen 50%OFF



no.16 '96.06

特集 新日本凸凹大学校

『紙プロ』的・昭和新日本プロレス大検証！ マサ斉藤・キラーカン・田中リングアナ・破壊王・後藤達俊／ビックリ！ 糸井重里vsサダハルンバ谷川の対談が実現！

780yen⇒390yen 50%OFF



'00.04

情念～夢一途なり～石川雄規

『紙プロ』で2年半続いたバトラーツ社長石川雄規のドラマチックな連載エッセイに大幅加筆＋書き下ろし！ 情念とは何かがわかる一冊である。

2100yen（送料込み）



no.13 '95.03

特集 道場破りとは何か？

安生洋二が道場破りでヒクソンに返り討ち！ 山本小鉄＆上田馬之助道場破りとは何か？／インタビュー『平成ファミコン・プロレス』馳浩・スペル・デルフィン・斉藤文彦

780yen⇒390yen 50%OFF



no.17 '95.07

特集 実況パワフル北朝鮮

あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！ アントニオ猪木＆永島勝司・村松雄祝・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」

780yen⇒390yen 50%OFF



極真魂溢れる16人を直撃！ 完売間近

極真とは何か？

松井章圭／磯部清次／N・ペタス／大山茂／大沢昇／ウイリー／フィリオ／村上竜司／中村誠／廬山初雄／佐藤勝昭／黒澤浩樹／竹山晴友／谷川貞治／山田英司／夢枕獏

1530yen⇒800yen 50%OFF



no.14 '95.04

特集 神秘とは何か？

佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー

780yen⇒390yen 50%OFF



no.19 '95.09

特集 さようなら紙のプロレス

『紙プロ』を偲んで… ターザン山本・ユセフトルコ・上田馬之助・糸井重里・サスケ＆高野拳磁／石井館長、ターザン、サダハルンバ、平仲信明たちの「負けず嫌い」座談会

780yen⇒390yen 50%OFF



みんなで遊べる付録付き!! '01.04

さくぼん

サクのすべてがよくわかる桜庭和志発のインタビュー集！ 花くま先生の「サクラバの汁」、特製シールやサクマシン立体紙お面など付録がこれでもか！ とばかりに付いています！

総238ページ

1500yen（送料込み）



no.15 '95.05

特集 インディペンデントの逆襲

あんた誰？ 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／Kーとは何か？ 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのK－1三兄弟（当時）インタビュー

780yen⇒390yen 50%OFF



インタビューという名の鉄拳史

紙の前田日明

『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で展開された前田日明怒濤のエネルギー史！ 引退直前時のインタビューも特別収録だ。今こそ前田日明を振りかえれ！

2000yen（税金・送料込み）



パンクラス公式読本 完売間近

［矛］・［盾］

97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!! ターザンも炎上してますよぉぉ!!

各1260yen⇒630yen 50%OFF

---

no.47 表紙 ピンス・マクマホン '02.02/880yen

WWE日本侵攻5秒前!

- “天才” 武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場！
- 噂の馳浩が新日分裂からミスター高橋本までを語る！
- 第一次リングス閉幕特集
- プロレススーパースター列伝・ストロング金剛よ!!

no.48 表紙 桜庭和志 '02.03/880yen

見えてきたゾ、桜庭、満開の日!!

- 奇跡のメガトン対談！ 小川直也vsノゲイラ＆スペーヒー
- 和田最強伝説が遂に現実に！ 語り部・金原弘光
- 伝説の男が笑撃の登場！ ジョー・サン
- WWEを知る男　ウォーリー山口

no.49 表紙 ミルコ＆ヒクソン＆小川＆桜庭 '02.04/880yen

究極の格闘技大戦争勃発!! マット界灼熱の噂!

- 和田さん快勝記念対談！ 高山＆金原＆和田
- アレクに怒りの火を付けた菊田早苗とは何者か!?
- 破壊王も火のヤリ特訓！ 小笠原和彦が火の輪くぐりを敢行！

no.50 表紙 桜庭和志 '02.05/880yen

サクが笑えば、世界が笑う!!

- 「地方初世界」開始！ 小川直也＆橋本真也
- リングスロシア軍団の軌跡
- パンクラス取材解禁！ 菊田、“尾崎の野郎” が登場！
- ギョ!? I編集長が新日本に三くだり半！

no.51 表紙 橋本真也 '02.06/880yen

ZERO-ONEに願いを!

- 両国国技館だよ、全員集合！ 橋本真也
- 『PRIDE』の魅力をマン開！ 小池栄子
- 天才が悩みに答える！ 武藤敬司人生相談
- 新・超獣　ザ・プレデター

no.52 表紙 小川直也 '02.08/880yen

見えない鎖を引きちぎれ! 小川直也VT出陣!!

- 全身プロレスラー・高山善廣
- 「トゥーッ！」の素顔を暴露！ Ｍｒ.フレッド
- ＵＳＡの渡世人　ドン・フライ
- 『PRIDE』侵攻開始!! ロシアン・トップチーム

no.53 表紙 桜庭和志 '02.08/880yen

世紀のビックイベント『Dynamite!』を直前大解剖!!

- ノーフィアー×無謀　高山善廣×美濃輪育久
- 独占肉弾スクープ！ マット・ガファリ
- 爆裂!! 川村龍夫UFO社長語録
- 偽造王の知られざる半生!! 一宮章一

no.54 表紙 ノゲイラ '02.08/880yen

不平等の時代を克服した英雄ノゲイラ!!

- “首の皮一枚” ホイス＆エリオグレイシー
- “青い目のケンシロウ” ジョシュ・バーネット
- 純プロ頂上対談！ 武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン

no.55 表紙 高田延彦×田村潔司 '02.09/880yen 完売間近

高田×田村!! 夢幻大の真剣勝負が実現!!

- 「真剣勝負」発言から7年!! 田村潔司
- メガトン級の強さと面白さ!! ボブ・サップ
- 靖国神社で興行開催!! 佐山聡
- コピィロフおじさん、『PRIDE』デビュー!!

no.56 表紙 Uインター '02.10/880yen

愛すべき若気の至り!! 受け継げ、Uインターの蒼き魂!!

- 田村戦直前!! 高田の覚悟を読み解け！ 高田延彦
- 蘇れ！Uインター伝説!! 安生＆金原＆高山
- 高田×田村、観る側の覚悟!! 浅草キッド

no.57 表紙 高山善廣 '02.11/880yen

一瞬の11・24!! 高田延彦引退試合を大総括!!

- サップと地峡規模のタイマン勝負!! 高山善廣
- 新たなる “U” が始動!! 田村潔司
- 悪魔の書、再び！ ミスター高橋×大槻ケンヂ
- “北尾戦・セメントマッチの真実” ジョン・テンタ

no.58 表紙 武藤敬司＆船木誠勝 '03.01/880yen

新春特大号!!「明日、また生きるぞ!」な対談の大連発!

- 夢幻のファンタジー対談　武藤敬司×船木誠勝
- Uスタイル対談　田村潔司×高阪剛
- Uインター座談会　宮戸×安生×鈴木健
- カルガリー師弟対談　ハシフ・カーン×ミスター・ヒト

no.59 表紙 ヒョードル '03.02/880yen

吹けよ! 呼べよ嵐!! マット界新風景が見えてきた!!

- いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル
- アメリカン・ドリーム　ダスティ・ローデス
- 爆発!! WJマグマ語録
- 吉田道場の秘密兵器　中村和裕

no.60 表紙 ヒョードル '03.03/880yen

英雄、変貌好む!!『PRIDE』RE・BORN!!

- ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル
- 驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気
- あのマーシーがすべてを告白!! 田代まさし
- 全日本中継の真実!! 倉持隆夫

no.61 表紙 OH砲 '03.04/880yen

5・2仁義ある闘い!! やっちゃうぞバカヤロー!!

- 裏番組をブッ飛ばせ！ 橋本真也×小川直也
- 1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン
- プロレス・格闘技クロスオーバー対談　エンセン井上×金原弘光
- リングス・リトアニア特集

通販申し込み方法

- お申し込みは郵便振替と現金書留の2通りになっております。（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）。

【郵便振替】
00130-3-769154
（株）ダブルクロス
【現金書留】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷
3-11-3-702
（株）ダブルクロス

- 郵便振替の場合は用紙の通信欄に希望号数を明記し、現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封して下さい。

※本誌なのかRADICALなのかを必ず明記して下さい。

- 送料
1冊＝310円、2冊＝380円
3冊～4冊＝450円
5冊＝520円、
6冊以上＝700円

※代引きを開始しました。詳しくはP160を参照してください。

紙のプロレス 常備店

- アイドール新宿店
- 新宿ファイター
- 大山アメリカン
- プロレスマニア館
- チャンピオン
- リングスパレス
- バディスラム
- タコシェ
- レッスル渋谷
- レッスル池袋
- 書泉ブックマート
- 書泉ブックタワー
- 書泉グランデ
- グレートアントニオ
- 東京イサミ
- ワールドスポーツプラザ KINGS
  - ・池袋
  - ・渋谷WEST
  - ・新宿
  - ・名古屋
  - ・大阪
  - ・札幌
  - ・福岡

Radical Back Number

これぞ リアル・アルティメット・クラッシュ!! 小川vs橋本"1・4事変"大検証号!!



no.15　'99.02/840yen

●ガチンコ？　シュート!?　セメント!?　プロレスの枠を超えた闘い"1・4事変"証言FILE!!
☆一線を越えた暴走王が独占激白!!　小川直也
☆「後ろで焚け付けてる奴、許さないぞ!! アントニオ猪木!!」破壊王、怒りの矛先はアントン総帥に!!
☆この男がA級戦犯か!?　はたまた革命児か!?　佐山聡（当時UFO代表）
☆「あれはね、"なんちゃってシュート"」前田日明が斬る!!
☆試合後、新日本vsUFO大乱闘勃発!!　新日本の集団リンチで村上、即病院送り!!
☆凄惨なる修羅場を克明に証言!!／四代目タイガーマスク（UFOセコンド）
☆UFO用心棒はジュラルド・ゴルドー！
　新日本勢は誰も手が出せない、とにかく怖い佇まいは大必見!!
☆その他にもI編集長、ターザン山本、編集部座談会などで多面的に検証ーッ!!
●巨大なる足跡をありがとう!!　1999年1月31日、ジャイアント馬場さん逝く――。
●椎名基樹がルッテンvsTKを追う!!／『ザ・検証』inUFC観戦ツアー
●「レスラーや芸人にプライバシーなんかねえんだよ!!」デルフィン離脱にサスケが吠える!!
●吉田豪が恐竜団体ＳＷＳの足跡を辿る『Ｓ多重アリバイ』／佐野友飛・編
●戦慄の独占インタビュー!!　"前田日明、最後の相手"アレキサンダー・カレリン
●浜口京子、突然の号泣!!　前田vsカレリンを浜口一家が語った!!
●とにかくマサはハンパじゃない!!　引退記念雑談会「語ろうマサ・サイトー！」



no.24　'00.02/840yen

頭打ちすぎたかアレク!!『PRIDE』GP大特集!!

完売間近

●第1回ＫＯＫトーナメント決勝直前!!
　田村vsヘンゾ、リングスロシア幻想を徹底追求!!
●「相撲多重アリバイ」はいまはときめく（？）嵐でごわす!!
●木村正彦の遺伝子を受け継ぐ男の声を聞け!!
　「柔道多重アリバイ」守山竜介・慧舟 會東京本部代表
●杉作Ｊ太郎×岡元あつこ／異色のエンターテインメント対談実現!!
　裁くのは世界一涙もろいレフェリー島田裕二だ!!
●世紀の一戦直前!!
　「紙プロ」の視点から魅力を伝える／語ろう「船木vsヒクソン」座談会
●矢追純一×グレートサスケ／UFOが飛んできた!
　「紙プロ」だからできた宇宙対談
●ターザン山本、有刺鉄線のリングに仁王立ち!!　大仁田厚と場外乱闘敢行ーッ!!



no.46　'02.01/880yen

『PRIDE』LOVEをブチ壊す男!!　田村潔司、高田延彦の"聖域"に足を踏み入れる!!

完売間近

●ルチャ幻想は最高潮!!　エル・カネックがバードで激勝!!
●「おつかれさまでした!!」さらばリングス!!
　浅草キッドが万感の想いで語り尽くす！
●「すべてを俺の予言通りですよォォォ!!」ターザン、
　新日本分裂に大炎上ですよ!!
●蒙古の怪人風雲録!!　ミスター高橋の正体も暴露した！／キラー・カン
●キミは"スーパーフライ"を見たか？　ジミー・スヌーカを独占キャッチ!!
●『PRIDE』ジャッジでおなじみ"金メダルをなくした男"
　小林孝至の奇想天外な半生!!
●ダイナマイト・キッド自伝～吉田豪『書評の星座』～

no.05　表紙 高田延彦　'97.08/680yen

すべてはここから始まった!! 高田、ヒクソン戦へ……

●ドン荒川vs藤原喜明"昭和新日対談"
●前田日明の大好評人生相談
　『人生は語らず』
●世界格闘技連盟とは何か!?　佐山聡
●長与千種＆ライオネス飛鳥

no.16　表紙 エンセン井上　'99.03/780yen

格闘ノストラダムス!! エンセン表紙初奪取号!!

●環境問題を『紙プロ』で語る!!
　アントニオ猪木
●完全無欠の怪物!!
　語ろうジャンボ鶴田
●相撲多重アリバイ　石川孝志
●マーク・コールマン

no.29　表紙 秋山準　'00.07/840yen

「格闘環境」は刻一刻と変化する! ノア勢フルメンバーで登場!!

●三沢、秋山『紙プロ』初登場!!
●プロレススーパースター列伝・
　仲野信市
●本誌独占　ジャンボ鶴田夫人
　真実を語る!!
●TKおかん

no.31　表紙 アントン総帥　'00.09/840yen

真のストロングスタイルは『PRIDE』にあり!!

完売間近

●桜庭和志×高阪剛
　レフェリーは浅草キッドだ!!
●ボヤキ漫談　川田利明語録
●プロレスという物語について
　ダン・スバーン
●プロレススーパースター列伝　永源遥

no.32　表紙 小川直也　'00.10/840yen

針はどちらに向くのか!? 新プロレスvs純プロレス開戦!

●田村潔司に快勝！
　Ａ・ホドリゴ・ノゲイラ
●ドラゴンの大爆笑00　藤波辰爾語録
●プロレススーパースター列伝
　ラッシャー木村
●"和製カレリン"　本田多聞

no.34　表紙 小川直也　'01.01/840yen

『猪木祭り』開幕ーッ!! プロレスは「闘い」を忘れたときに老いていく!

●ＵＦＣミドル級王者
　ティト・オーティズ
●プロレススーパースター列伝
　ミスターヒト
●修斗から『猪木祭り』へ！　宇野薫
●ボブチャンチン＆オバチャンチン

no.35　表紙 サクマシン（イラスト）　'01.02/840yen

「純プロレス」を考え倒せ! 500人アンケートも実施!

徹底検証号

●ZERO-ONE本格始動　橋本真也
●プロレススーパースター列伝
　ジョー樋口
●"ノアの怪物"杉浦貴
●UFCの巨人
　ランディ・クゥートアー

no.36　表紙 橋本真也（イラスト）　'01.02/840yen

新生「闘いのワンダーランド」に闘魂の火種!!

完売間近

●ノアから独立！
　高山善廣を確認せよ!!
●ヴォルク・ハン―ノゲイラに狼の伝言
●W☆ING 史上最凶の歴史を紐解く
●吉田豪に
　"ドラゴンの呪い"が襲う!!

no.37　表紙 小川直也（イラスト）　'01.04/840yen

小川と三沢が遂に絡んだ!! 純プロレス戦国絵巻

完売間近

●安田忠夫が借金から
　自殺未遂まですべてを語る！
●アブダビコンバット2001―大探検記!
●シュート活字×ファンタジー活字
●他に比類なきプロレスが
　ＷＷＦにはある！

no.38　表紙 高田延彦（イラスト）　'01.05/840yen

小川と長州、どちらが孤独だったのか!?

完売間近

●忘れ物の正体は―。高田延彦
●ヴォルク・ハンの最強の遺伝子
　Ｅ・ヒョードル
●プロレススーパースター列伝・
　阿修羅原
●死神降臨・ジェラルド・ゴルドー

no.39　表紙 前田日明　'01.06/840yen

どうなるんだ、リングス! 前田isデッド!?

●前田道場新エース・金原弘光
●怪物か!?
　それとも……藤田和之座談会
●壮絶なる格闘人生・藤原敏男
●プロレススーパースター列伝・
　田上明

no.40　表紙 アントン総帥　'01.07/880yen

猪木軍vsK―1に見たいものは"地上最強のプロレス"

●蘇れ！Ｕインター＆キングダム
　伝説！高山善廣×金原弘光
●熱いこの叫びを聞け！　大谷晋二郎
●プロレススーパースター列伝・
　グラン浜田
●グラバカの核弾頭　郷野聡寛

no.41　表紙 ビンス・マクマホン　'01.08/880yen

Can you カミングアウト? "最後の黒船"WWF襲来!

●リングス10周年！
　ヴォルク・ハンが振り返る
●真樹日佐夫×三池崇史巨頭
　対談が実現！
●W☆ＩＮＧの真実・茨城清志
●毒舌知能犯　秋山準語録

no.42　表紙 アントン総帥　'01.09/880yen

猪木なら何をやっても許されるのか!?

●ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談
●"ヒャッホーの真実"辻よしなり
●蘇れ！ＵＷＦインター伝説!!
　高山善廣×宮戸優光×金原弘光
●誇り高きルチャ戦士
　ルチャカト・クン・リー

no.43　表紙 桜庭和志　'01.08/880yen

サクと『PRIDE』のケツに火がついた!!

●ブラジリアン・トップチーム
　３大柱インタビュー
●大谷普二郎の「俺をしんじろう！」
　人生相談
●金原弘光×サスケの新日本プロレス
　学校同窓会

no.44　表紙 桜庭&シウバ　'01.11/880yen

サクの連敗が『PRIDE』に語りかけるものは何か?

●その修羅場の数々！
　シーザー武志
●怪物伝承対談！
　高山善廣＆杉浦貴
●ハンス・ナイマン&ディック・フライ
●闘龍門大特集

no.45　表紙 アントン総帥　'01.12/880yen

「K―1vs猪木軍」命懸けのエンターテインメント!!

●『ケーフェイ』以来の爆弾本！
　ミスター高橋
●ジェラルド・ゴルドー人生相談
●プロレススーパースター列伝・
　グレート小鹿
●語録で振り返るマット界2001

リング内・リング外の情報を読者にお届けする RADICAL情報局

真樹先生★GUIDE

>>>梶原三兄弟がスクリーンで蘇る!! 映画「すてごろ」公開!!

梶原一騎17回忌追悼記念作品「梶原三兄弟激動昭和史 すてごろ」が、新宿東映パラス3で公開される。本誌で小説「無比人」を連載していた梶原一騎の実弟・真樹日佐夫先生が原作・監修・脚本を担当した今作品。

真樹先生役を務めるのは哀川翔、梶原一騎役は奥田瑛二。赤井英和、内田裕也、松方弘樹、中山忍、浅草キッドら豪華キャストの他、本誌スーパーバイザー・吉田豪も焼き鳥屋の店主で登場！ 真樹先生自身もなんと空手家・大山倍達役で登場する!! ズバリ言って見るしかないぞ!!



梶原三兄弟激動昭和史 すてごろ

◆新宿東映パラス3で6月14日より公開！
◆特別観賞券1300円にて好評発売中!!（当日一般1800円）

新宿東映パラス3は伊勢丹本館斜め向い・新宿通り沿い。
TEL:03-3351-3062

>>>真樹先生×佐山サトル トークショー開催!!

上記映画『すてごろ』の公開を記念したイベントが開催される。梶原一騎の実弟であり、この作品の原作者でもある真樹日佐夫と、生前梶原一騎と深い交流があった初代タイガーマスク・佐山サトルがトークショーを行う！ イベントは入場無料!!

真樹先生×佐山サトル トークショー

◆日時:5月30日(金) トークショー開始18:30〜
◆場所:ファイティングカフェ・コロッセオ(千代田区三崎町3-7-13 田中ビルB1 Tel:03-3512-0522)JR水道橋駅西口下車 徒歩3分
◆問:JMP(担当:もとや) Tel:03-5786-1240

>>>エッ!? 真樹先生がSM芝居をプロデュース!?

こちらは、真樹先生のマネージャーである本吉かおるさんが作・演出を手掛けるお芝居『あぶな絵縛り』のお知らせ。作品中のSM部分の指導・プロデュースは真樹先生が行ったという。タイトルから内容を想像して見に行ってみよう。

本吉興業・伏魔殿旗揚げ興行〜真樹久佐夫第1回プロデュース公演〜

〜猟奇人物圖鑑 責め絵師・伊藤晴雨〜『あぶな絵縛り』
日程:6月13日(金)〜15日(日) ※13日＝19:00開演、14日・15日＝14:00&19:00開演

◆場所:中野光座(中野駅南口より徒歩1分)
◆作・演出:本吉かおる ◆チケット:前売・当日ともに2000円、チケットぴあで発売中
◆問:真樹プロダクション Tel:03-3402-6105

>>>闘龍門・神戸ワールド記念ホール大会前夜祭、今年も開催！

毎年恒例となった闘龍門JAPAN・夏のビッグマッチ、神戸ワールド記念ホール大会。そして、その前日に開催される前夜祭も、もはや毎年恒例となった。今年はなんと船上クルージング・パーティで行われるぞ!!

神戸ワールド記念ホール大会・前夜祭

◆日時:6月28日(土) 15:30〜(クルージング時間は16:00〜18:20)
◆会場:ルミナス神戸2(メリケンパーク・中突堤旅客ターミナル2F)
◆参加料金:1人15000円(フリードリンク・フリーフード)。限定200名、定員になり次第終了。FC会員は特典あり。5月16日、神戸チキンジョージ大会より会場販売開始中。
◆申込&問:闘龍門JAPAN 078-333-9797

元気ですかーッ!! 情報ページ担当のささきぃです。5月18日は、前号のこのページでもご案内した佐々木健介選手のトークショー取材へ行っていました。夫婦仲を「ラブラブです」と言い切った健介選手はステキでした。まずは出かけてみよう。さぁ、レッツゴー。

ブッコミ ノリノリ★NEWS

■仰天!! 新間寿が一揆塾に乱入!?

毎週木曜夜に開催中のターザン山本主催「一揆塾」に、「歴史を知らない者は黙っていろ!」でおなじみの新間寿氏が特別講師として参戦する!「どうしても今のプロレスファンに伝えたいことがある!」という新間氏の生の声をきき、何でも質問ができるチャンス!!! 行くしかないですよォォォ!!
★日時:5月29日(木)19:30〜21:00
★参加費:3000円
★場所:格闘技プロレス図書館 闘道館(JR水道橋西口改札を出て左手に進み、マクドナルドを左折。まっすぐ150mほど直進し突き当たり、居酒屋どんたくがあるビルの5F)
★問:闘道館 03-3512-2080
★HP:http://toudoukan.infoseek.livedoor.com

■ターザン&吉田豪のトークライブ!

"格闘技トーク最強タッグ"(格闘ごまもっとう)こと、ターザン山本&吉田豪のトークライブ開催!! 今回のスペシャルゲストは、5・2新日本東京ドームで真のガチンコっぷりを見せつけたあの男が登場、ドーム以上に大炎上……の可能性大!!
『ターザン山本と吉田豪の格闘二人祭vol.8!!』
★日時:6月10日(火) 18:30開場 19:30開始
★場所:ロフトプラスワン(JR新宿駅東口下車、徒歩5分)
★チャージ料金:1500円(飲食別)
★問:ロフトプラスワン
TEL:03-3205-6864

■今月のBCG情報

★BCGのホームページがリニューアルしている。HP内、クラス紹介のページをプリントアウトして入会すると、入会月の月会費が無料に!! いますぐ(www.bcgizm.com)へアクセス!!
★BCGではAJA(麻布柔術アカデミー)及び正道会館麻布空手教室での道衣レンタルを開始する。もちろん、無料体験の人もレンタルOK!
★さらにBCGでは、会員個人のスキルアップを目指し、パーソナルトレーニングを開始。引き締まった体、疲れにくい体、動きやすい体etc、BCGで理想の体を手に入れよう!
★問:BCG TEL 03-3560-7911

■河童展に牛が出展!

ZERO-ONEの元チーフデザイナー(現在は葛西純)富豪2夢路が、河童展に作品を出品中。牛が手掛ける河童作品をチェックしに行こう!
『河童展 〜幻影・未確認生物〜』
★日時:5月22日〜6月3日(火)
★11:00〜18:30(水曜休廊、最終日は17:00まで)
★場所:池袋・アーティストガーデン(豊島区西池袋1-16-10 第2三笠ビル8F)
★会場TEL:03-3971-3880

■UNWオフィシャル! セッド・ジニアスキャラクターグッズ発売

セッド・ジニアスのオリジナルキャラクターグッズ、Tシャツ(白or黒、2500円)、バスタオル(2000円)、スポーツタオル(1500円)、カッティングシール(800円)の全4種類が全て入ったバリューセットを限定20セット発売。購入希望者は代金に送料525円をプラスした金額を現金書留で郵送すること。
★現金書留の宛先は 〒160-0007 東京都新宿区荒木町13-9 サンワールドビル2階 (株)ケイセンス「セッド・ジニアス・セット」係まで。
★問:(株)ケイセンス
03-5919-2313(平日11:00〜18:00)

■WOWOWで『UFC43』生中継!!

本拠地ラスベガスでの開催は、昨年11月以来となるUFC。メインでは、元UFCヘビー級王者のランディー・クートゥアーが階級を下げ、ライトヘビー級実力ナンバー1のチャック・リデルと対戦!! 40歳の誕生日を間近に控え、一度は引退も噂されたクートゥアーは、33歳のリデルに勝利することが出来るか!? また『UFC40』でティト・オーティズに敗れて以来の登場となるケン・シャムロック(魔界倶楽部)が、イアン・フリーマンと激突、タンク・アボットvsキモなど、UFC創設期からの伝説的ファイターの注目試合が目白押しダーッ!!
『UFC43 MELT DOWN』
★日時:6月7日(土)
11:00〜14:00(現地6月6日、アメリカ・ネバダ州、ラスベガス・トーマス&マックセンター)
★問:WOWOWカスタマーセンター
0570-008080(年中無休9〜20時)

■石川屋2号店オープン!!

『炭火串焼き 石川屋』の 2号店がオープン! 石川屋2号店が、5月3日春日部市八木崎町にオープンした。最寄り駅は、春日部から一駅の東武野田線八木崎駅。駅からは徒歩で3分ほど。越谷店同様、地酒 とワイン、そして炭火串焼きを楽しめる、心地良い空間となっている。
『炭火串焼き 石川屋 八木崎店』
★住所:埼玉県春日部市八木崎町9-1
★営業時間:17:00〜24:00(23:30ラストオーダー)
★定休日:水曜定休
★問:石川屋 048-763-0948

■格闘技ファンサークル活動開始

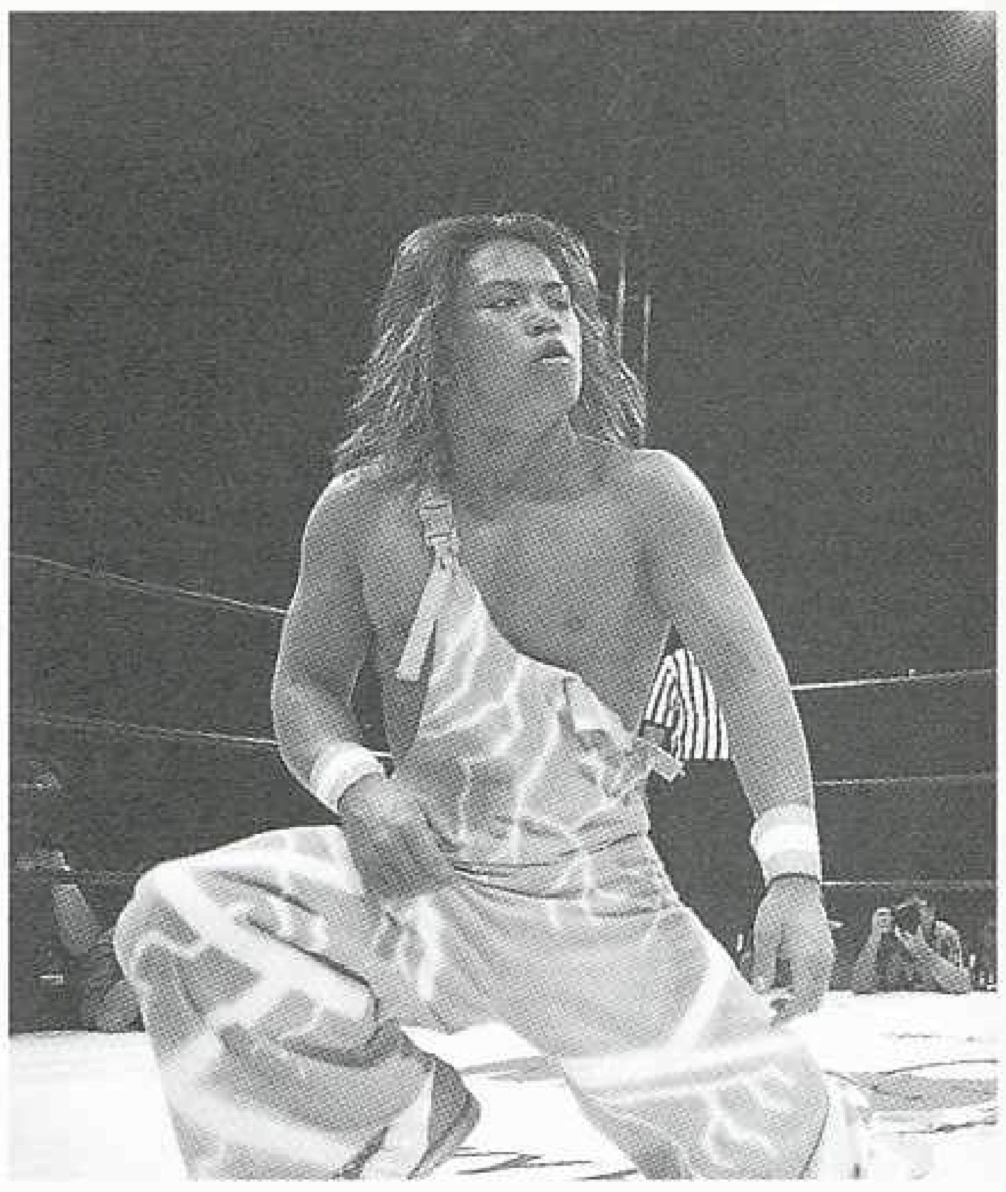
格闘技ファン同士が交流するためのサークルが発足する。第1回目は、ファン同士でお酒を飲みながら親睦を深め、一緒に試合を見に行けるような仲間を見つけるための交流会が行われる。ZERO-ONEレスラーのゲスト参加も計画されているらしいぞ。社会人限定、年会費は無料で、参加費は実費。電話での予約は6月6日(金)より、メールでは随時受付している。
『I.N格闘技ファンサークルイベント第1回格闘技ファン交流会』
★日時:6月21日(土)19:30〜
★場所:都内飲食店(詳しくは問いあわせすること)
★参加費:男女ともに実費
★予約、問:I.Nパーティ事務局
03-5304-4402(9:00〜23:00)
★メール inparty01@vbb.ne.jp

■闘龍門・マグナムTOKYO&堀口元気が札幌でイベント開催!

DoFIXERのマグナムTOKYO&堀口元気が作る特製チャンコが登場! もちろんフリードリンク!! 参加者全員にはもれなく「すすきのコロシアム&DoFIXERのコラボレーションTシャツ」と、マグナムの毒舌説教&堀口元気の髪の毛(!?)」のおみやげつき!! ほかにも内容は盛り沢山、参加者にはさらに闘龍門JAPAN・夏の札幌2連戦(8月9日&10日・札幌テイセンホール)にて特典あり!!
『マグナムちゃんこで元気ですかーッ!?』
★日時:6月13日(金)19:00〜
★会場:札幌・すすきのコロシアム
★参加料金:10000円 ※限定40名、定員になり次第受付終了。参加は女性のみ限定。
★問:すすきのコロシアム
TEL:011-532-9646

大会★GUIDE

>>>闘龍門メキシコ大会、石森太二がUWA王者に輝く!!



5月6日後楽園大会で愛弟子CIMAとの対戦を終え、WWEマット進出を宣言したウルティモ・ドラゴン。5月11日(現地時間)、メキシコでの闘龍門MEXICO自主興行のメインに出場し、自身の勝利で3本勝負のラストを決めた(パートナーはブラソ・デ・プラタ!!)。また、C-MAX組がセミファイナルに出場、見事2度目の防衛に成功。メキシコツアーに参加したファンとともに、勝利を喜びあった。『WRESTLE-1』で衝撃デビューを果たした石森太二がUWA世界ウェルター級王者のベルトを手にした他、とうとう"ミニCIMA"がデビュー。これで"ミニC-MAX"が全員集合。日本マット登場が待たれる。

5月11日(現地時間) 闘龍門MEXICO自主興行

アレナ・コリセオ 観衆 1100人

1 ○KONDO&CO【8:02 片エビ固め】片上学●
※両選手デビュー戦

2 ○福田貴泰&華井健一&南野たけし【16:59 体固め】谷寄なおき&村上学&新井小一郎●
※リバース・スプラッシュ

3 ○スカイデ&ブラソ・デ・オロJr.&ブラソ・デ・プラタJr.【13:35 プラセンタ】ベルリネッタ・ボクサー&ムルシエラゴ&ランボ三浦●
※ランボ三浦デビュー戦

4 【ハンディキャップマッチ】
▲ヘンリー・III・菅原&小川内潤&佐藤秀【18:09 両者リングアウト】TARU&SUWAシート&スモール・ダンディ・フジ&ミニCIMA▲
※ミニCIMAデビュー戦

5 【UWA世界ウェルター級王座決定戦】
○石森太二【13:32 体固め】スペル・クレイジー●
※S・Sエルボー。石森太二が新王者に。

6 【UWA世界6人タッグ選手権試合】
○CIMA&SUWA&ドン・フジイ【19:28 片エビ固め】ホセ・ルイス・フェリシアーノ&シュー・エル・ゲレーロ&ブラック・テリー●

7 ○ウルティモ・ドラゴン&ブラソ・デ・プラタ&ショッカー【2-1】ピエローJr.&ビオレンシア&ニトロ●
1本目:○ニトロ【3:00 カバージョ】ショッカー●
2本目:○プラタ【3:11 ヒッププレス→体固め】ビオレンシア●
3本目:○ドラゴン【4:42 ウラカン・ラナ】ピエロー●

イベント★GUIDE

>>>横田基地休業! 最後の基地パーティへGo!!

本誌54号「業☆勝ちます」で潜入レポートを行った、ジャガー横田プロデュースのコンセプトクラブ『横田基地』が、ジャガー横田のプロレスラー復帰にともない、5月末日をもって休業することになった。28日に駆けつけ、今後のジャガー選手の活躍を応援しよう。

コンセプトクラブ 横田基地 パーティー

◆日時:5月28日(水) 18:30〜20:00 ◆場所:横田基地
◆料金:5000円(サービス料込み、ドリンク代込み)
◆住所:東京都港区六本木7-9-3 クレスト六本木B1F(都営大江戸線六本木駅・7番出口から徒歩2分)
◆問:横田基地 03-5775-7114

原稿を書き終わった後で1周年に気付いた読者ページ

紙プロ元気大学

この号が出るころには梅雨入りしているんでしょうかね。春が終わってもまだ眠い読者ページ担当、本業は電気部のささきぃです。毎号同じような事を書いていて恐縮なのですが、体重のほうは、そろそろなんとかしたいと思います。先日、本気で青ざめました。だからと言って面と向かって「太ったね」とか言われると頭にきてしまうので、思っても口には出さないで下さい。それでは、はじまりはじまり。



（埼玉県・中川雅博）「TVで見たのですが『ULTIMATE CRUSH』はスゴク面白かったです」➡「自分はやさしい気持ちで新日を見ます」という中川画伯。バード（バーリ・トゥード）で勝利した中邑が、今度はベルトに挑戦。さてどうなる。その前に、がんばれ天山。

校内巡回

『紙プロ』61号・面白かった記事

◎倉持隆夫インタビュー後編◎

★すごい事をサラッと言ってしまうのが面白い。もっと話を聞きたいと思った。（岐阜県・萩原満・30歳・会社員）

➡「末森麻美が死んでた事を知らなくてショックを受けたから」（鳥取県・生田健一）「谷津、お前男だ！」（埼玉県・上野雄一）など、大きな反響があった倉持アナインタビュー後編が見事第1位。いや、この件だけじゃなくて全体として面白かったという反応が一番大きかったんですけどね。以下、順不同でお送りします。

◎ザ・検証（せき詩郎）◎

★健介の笑顔がたまらない。（山形県・佐藤英樹・22歳・フリーター）

➡健介の笑顔に癒された人続出。今月のインタビューはどうでしたか？　18日に行われたトークライブでも集まったファンを前に終始笑顔で、とてもステキでした。

◎横井×伊藤対談◎

★伊藤のヒガミっぷりの良さが楽しめた。坂田選手みたいにアイドルとつきあえば知名度は上がると思うので、そっちも頑張れ！『ボヤキは金原、顔は高阪、知名度は坂田（グチっぽい所と顔は既に似ている）』。（茨城県・石川明弘・28歳・会社員）

➡これで最後に「生き様は前田」で完璧。でも、肝心の体と技は？　この他「伊藤選手（の顔）がタイプだから」という女性からの声もありました。次こそ勝利だ、伊藤選手！

◎格闘技黄金郷　リトアニア大特集◎

★日本から遠くはなれたリトアニアで、リングスが発展している事を知り、大変嬉しく思ったので。（兵庫県・宮井大介・29歳・歯科医師）

➡チーム・イリケンの活躍を願う声と、ヤノタクのネーミングセンスに賞賛の声が上がったリトアニア大特集。次回『ZST』は6月1日です。動く足関十段を見届けよう！

◎書評の星座◎

★とにかく大爆笑してしまいました。書店に並ぶ川田自伝にこの書評をコピーしてはさみたい、はさんで欲しい、と少し熱くなりました。（東京都・青嶋奈美子・21際・大学生）

➡感じたら走り出せ！……いや、指示したわけじゃないので、そのへんは自己責任でお願いします。

◎どインディー秘宝館・あなたの知らない世界◎

★高野拳磁の行方が本当に気になって仕事も手がつきません。ぜひ公開捜索をしましょう。手伝います。（愛知県・杉浦寮子・28歳・雑誌編集）

➡「してください」じゃなくて「しましょう。手伝います」という、能動的な姿勢が素晴らしい。たとえそれが高野拳磁のことでも。とりあえずプチ捜査活動として、最近高野拳磁を見かけた方は・手がかりをお持ちの方は『紙プロ元気大学』内『杉浦さん』の係までご連絡ください。

『紙プロ』61号・つまらなかった記事

★つまらないのは、残念ながらありません。（東京都・石上諭・23歳）

➡それは、うちにとっては別に残念じゃありません。

好きな選手・嫌いな選手

★V・ハン、A・コピィロフ、N・ズーエフ、I・ミーシャ、V・アターエフ、E・ヒョードル、B・タリエル、B・アミラン、G・ザザ、E・ヴァラビーチェス、C・ヘイズマン、R・ババル、H・ナイマン、D・フライ、C・ドールマン、W・ビータース、H・レンティング、G・アイブル、V・オーフレイム、A・オーフレイム、前田日明、長井満也、山本宣久、成瀬昌義、高阪剛、坂田亘、滑川康仁、田村潔、金原弘光、横井宏隆、伊藤博之、S・スーセロフ（以下略）（神奈川県・荒井修一・30歳・会社員）

➡リングスが好きなのはよ～～くわかったが、集計する身にもなれ！（ややマジギレ）公平な結果を出すためにもできるだけ一人に絞って下さい。みなさんお願いします。



（東京都・バッシバシ）➡前号のマスク＆ガウンプレゼントが大人気の辻ちゃん。さて、当選したラッキーな人は誰でしょう。バッシバシさんはいつもアンケートハガキのはじにイラストを描いてくれる人なのだが、全面に描いてきてほしい。ムリヤリ掲載。

今月の紙プロ元気大学調べ 好きなレスラー人気ランキング!!

1位	エメリヤーエンコ・ヒョードル
2位	桜庭和志
3位	高山善廣
4位	小川直也
5位	橋本真也

前号とメンバーは変わらないベスト5。1位はリトアニアでも見事勝利、藤田戦も目前のエメリヤーエンコ・ヒョードル。今月のインタビューもお楽しみに。前回1位のサクが僅差で2位に。3位はNWF&IWGPチャンピオン、高山善廣。毎日毎日、永田のダメ出しお疲れ様です（これは秋山もだけど）。4位、5位はOH砲。6位は前号と同じく辻ちゃんこと辻結花選手。投票してきた人はほぼ全員辻ちゃん着用マスク&パーカー希望でした。『紙プロHand』iモードでは、今月号に登場している金村キンタロー選手がトップ。嫌いな選手は某国会議員さんです。マスクをかぶってない、将軍でもないあのお方なん邪～。（4/13～5/12到着分調べ）

紙プロ61号・読者が選ぶ 面白かった記事ベスト5

1位	倉持隆夫インタビュー・後編
2位	金原弘光×エンセン井上対談
3位	リトアニア特集 ヴォルグ・ハンインタビュー
4位	橋本真也×小川直也対談
5位	リトアニア特集 遠征回顧録

1位は、前編よりも衝撃度がさらにパワーアップ！　の倉持隆夫インタビュー後編。「ショックすぎる」という声もありました。2位はエンセン井上久々の登場、金原弘光の対談にハズレなし。3位はヴォルグ・ハンインタビュー、スープインタビューに胸を熱くしてくれた方多数。4位は内容もパツグンなら2人の写真も超キュート（?）なOH砲対談。どれもこれも表情がパツグンすぎて写真選びが大変だった様子です。5位はヤノタクしゃべりまくり、のリトアニア遠征メンバー対談。6位はY2談。「早く誤解を解いてください」のメッセージが沢山ハガキに書いてありました。



（神奈川県・藤原俊司）➡ヤマケンこと山本"喧"一。鈴木健トークショーではエライことになってらっしゃいました。ハガキいっぱいに描かれた迫力に押されて掲載します。また送ってね。



（岩手県・こみきらほがな）➡これまたヤマケン。なぜか菓子箱に。今月もたくさん投稿ありがとうございます。『紙プロ』の宛先が長いのは、単なる担当の気分次第です。あい～や。

今月のタレコミ部

（静岡県・森上路太郎）「長州にはチキンにならずに業界のド真ん中をサクサク進んで欲しいものです」➡うん、そうだね。タレコミと言うより「写真で一言」みたいですが、これはこれでいいです。美味しそうだし。



学会発表

知られざるキャッチフレーズ2003

昨年に続き、ゴングの『プロレス名鑑』、外国人選手のキャッチフレーズで気になるものがありました。

昨年とちょっと変わりました編

スティーブ・コリノ→おしゃべり少年→おしゃべりパパ
バンバン・ビガロ→わめく電気くらげ→わめく入れ墨獣
ランディ・サベージ→空飛ぶ色メガネ→マッチョマン

他になかったのか編

ブロック・レスナー→次代の大物
ネイサン・ジョーンズ→巨大モンスター
ノーマン・スマイリー→黒いじゃじゃ馬
A-トレイン→ピアス・カボチャ
ヴィールス→空飛ぶバイ菌マン
エミリオ・チャレス・ジュニア→闘う鬼瓦
ブライアン・ケンドリック（レオナルド・スパンキー）→尻叩きディカプリオ

見たまま編

マルタ・ビジャロボス→メヒコのダンプ
キング・アダモ→サモアの島崎リコ→モミアゲ

いろいろ野郎ども編

ミステル・パワー→日陰のイケメン野郎
ジョージ・キング（ブルトーザー・ジョージ）→カナダの突撃野郎
アシッド→キザな気難し野郎
チャック・パルンボー→魅惑のカマ野郎
ロコ・マックス→狂ったタコ野郎
マーク・ブリスコ→向こう見ず野郎

さまざま戦士編

ロウ・キー→チカラ戦士
マイケル・モデスト→卓越戦士
ドノバン・モーガン→秀才戦士
ダン・デバイン→未完の究極戦士



（愛媛県・鈴木ユージ）➡直訳編、セッド・ジニアス。ガイジンではありませんよ。詳しくは今月の「あなたの知らない世界」、もしくは中牧昭二を訴えると宣言している夕刊フジを参照。

ハヤシライス・マン→デミグラス戦士
ザ・セッドマン→究極の両刀戦士
エスピリトゥ→精神分裂戦士
フベントゥ・ゲレーラ→悪の青春戦士

明らかに面倒臭かった編

チバス・ラヤーダス1号→突撃山羊仮面
チバス・ラヤーダス2号→激突山羊仮面
アラン・ストーン→熱き原石
クリス・ストーン→燃える原石
ホセ・マキシモ→プエルトリコの告白青年
ジョエル・マキシモ→プエルトリコの告白戦士
リチャード・スリンガー→人間魚雷二世
レイ・ゴディー→人間魚雷2世

意外と普通じゃないのか編

グラン・シーク→下町のメキシカン
エル・ダンディ→二つの顔を持つ紳士
A・Jスタイルズ→独立の流行男
トレバー・ローデス→若きカウボーイ
オスカル・セビージャ→見習い闘牛士

いかんせん信じ難き編

ジョニー・カジミア→アメリカ人の憧れの的

（静岡県・目ガ覚メタロウ）

➡昨年に引き続き、知られざるキャッチフレーズ。ご苦労さまです。頼まれないことを進んでやる姿勢が、これからの日本を変えていくでしょう（中途半端に本気なコメント）。あれだけ大活躍しているロウ・キーに対して、このキャッチフレーズはあんまりではないでしょうか。考えるのは大変なんだろうけれども。

中川画伯

『From A』(5/12号)に登場!!

（埼玉県・中川雅博）➡前号の「ほんとにジョーク」で触れられていた、中川画伯の初取材です。なんとカラー2ページだ。スゴイ。イラストレーターになるまでのサクセス・ストーリーについて、じっくり触れられたインタビュー内容を読みたい人は、思い切り目をこらすか、無職の知人などをあたってみよう。『紙プロ』の名前がたくさん出てきているありがたいインタビューでした。みんなでレッツ投稿！





（埼玉県・中川雅博）➡チーム・イリホリ改めチーム・イリケンの今成正和。どう見てもあやしい足関十段を見事に描写（ちょっと夢に出てきそうで怖い）。今月号のインタビューは必読です。

（静岡県・目ガ覚メタロウ）➡『紙プロ元気大学』恒例、『ほんとにジョーク』あてのおたよりです（開き直り）。これは誰かTシャツにすべきだな。もしくは、表はふつうで、裏地のタグだけこのイラストになっているとかがベストかもしれない。ニセモノを作るならそのくらいの小細工がしてあるほうが、私は嬉しいけど、ありがた迷惑？　そうか。





（住所不明・青木雄大）➡前号の〆切直前に、突如上京してきていた青木雄大画伯ですが、今月は住所が記載してありませんでした。生きてますかーッ!!「ベルトがたらい回しにされている、そんな批判を受けて、せっかく頑張って10回も防衛したのに（しかもジョシュやルッテンなど面倒臭い相手を含めて、だ）『物足りない』『顔じゃない』なんて言われてしまう哀しいチャンピオンに少し同情」。永田、がんばれ。そして佐伯さんがうりふたつ。

青木雄大

（大阪府・英加直純）➡マ～ッチョドラゴン、チャララ～。毎度のことながら文字も含めて切り絵ですよ切り絵！　ドラゴンのパーマヘアを切り絵で表した人は、多分世界で英加さんだけでしょう。郵便局の不粋なスタンプが腹立たしいです。





（山梨県・貝戸夏也）➡グラウンドの展開の時などにうれしい、ムリーロ・ニンジャの背中。複雑な気持ちになるのはどうしてだろう。英語の入れ墨してる日本人を見るガイジンは、こういう気持ちを味わっているんでしょうか。



（埼玉県・宮田浩司）➡あいかわらず作風の変わらない宮田くん。4の字"固"めだよ、個めじゃないよ。人の間違いはすぐ気付く。不思議だ。



（愛知県・たっつぁん）

➡5・2ドームに自費で登場したと見られるイズマイウ！　イラストの「おてもと」が気に入りました（細かい）。はじめてイズマイウを見た時、なぜこの人は執拗に自分のことばかり話すのかと不思議だった事を思い出します。いつものように「ほんとにジョーク」あてのお便りでした。

おハガキ・お便り・メール大募集!!

最近、応募券を張り忘れているハガキが目立ちます。私は別にいいのですが、張り忘れているといつまでたってもプレゼントは送られてきませんよ。前号、トリーのヘアヌード掲載の『PLAYBOY』に、7枚も応募券ナシでハガキを送ってきた15歳の林くん、熱意は買います。『紙プロ元気大学』では、イラスト、写真、そして元気あふれるお便りを大募集しています。

すべての宛先は、メールは radical@kamipro.com
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702（株）ダブルクロス
紙のプロレスRADICAL編集部　紙プロ元気大学「東北系エロガッパ」係まで。

（本名NGの方はペンネームを記入するのを忘れないよーに！　プレゼントコーナーあてのハガキも、内容によっては無断でこっちに載ってしまいます。匿名希望の人はその旨明記のこと）

中川雅博 爆笑連載!?

ほんとにジョーク

第23回

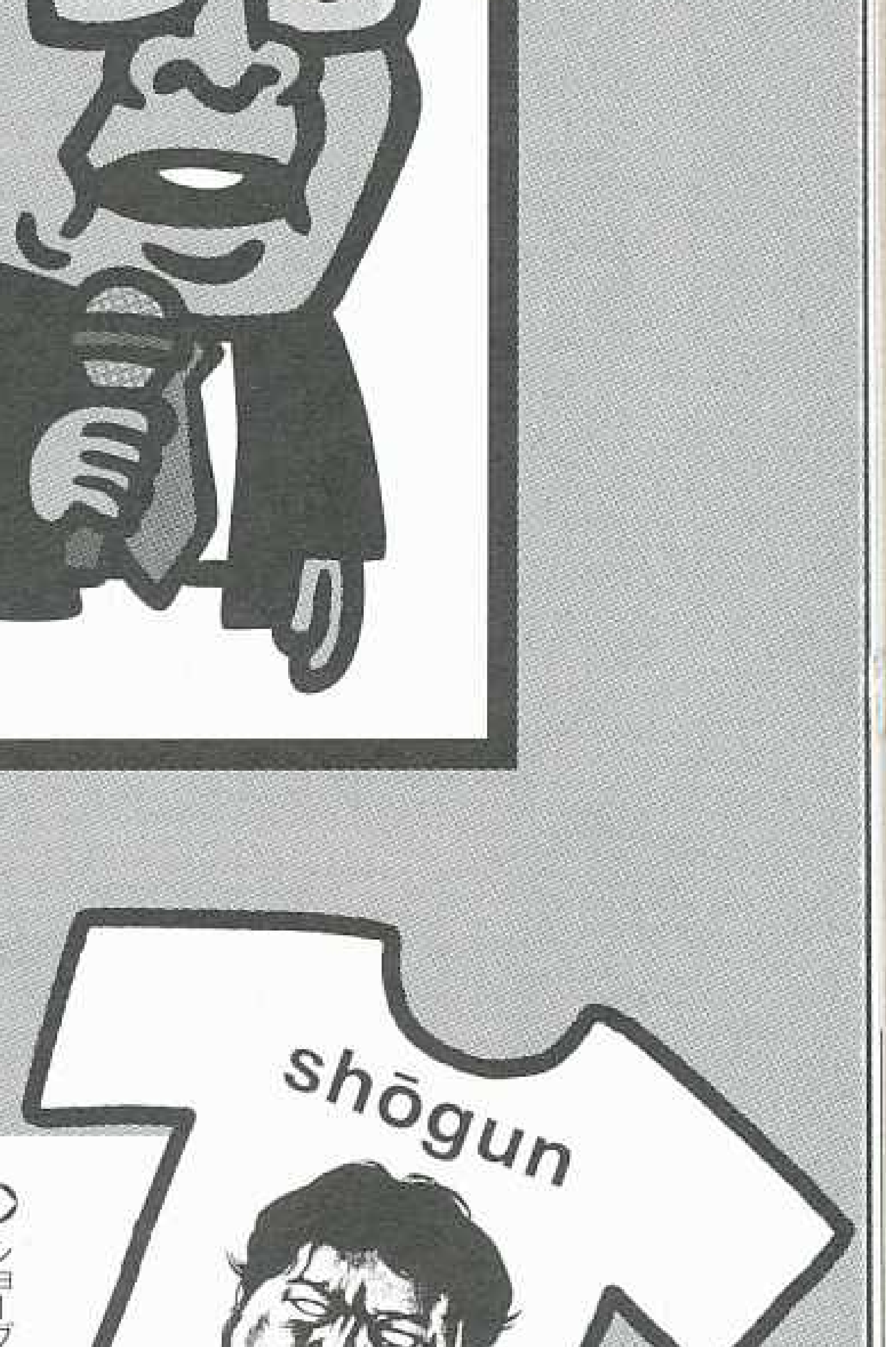


今月イチバンおもしろかった作品とその作者

静岡県磐田郡 **目ガ覚メタロウ**

★目ガ覚メタロウさん、いつも投稿して頂きアリガトウゴザイマス。ゴルドーTシャツ（M）、お楽しみに!! 読者の皆さんハガキ送って下さい。新人さんの投稿、大歓迎です。旬のネタだと採用率高いです。お願いします。
★『桜庭和志イラストTシャツ』発売中です!! みんな買ってちょーん♥ http://www.takada-dojo.com
★『ボブ・サップTシャツ（Ver.4）』発売中です!! みんな買ってちょーん♥ http://www.great-antonio.jp
★『橋本真也のプロレス大百科』にイラスト描きました。みんな買ってちょーん♥6月5日発売です。
★中川マサヒロ、音読みだと中川ガハクのコーナー、『ほんとにジョーク』にハガキを書こう!! 抽選で5名様に「中川雅博手づくりステッカー」、採用された方にはTシャツをプレゼント!! よろしくお願いしま〜す。

➡ショーグンTシャツ当選者 福岡県 米山優一さん

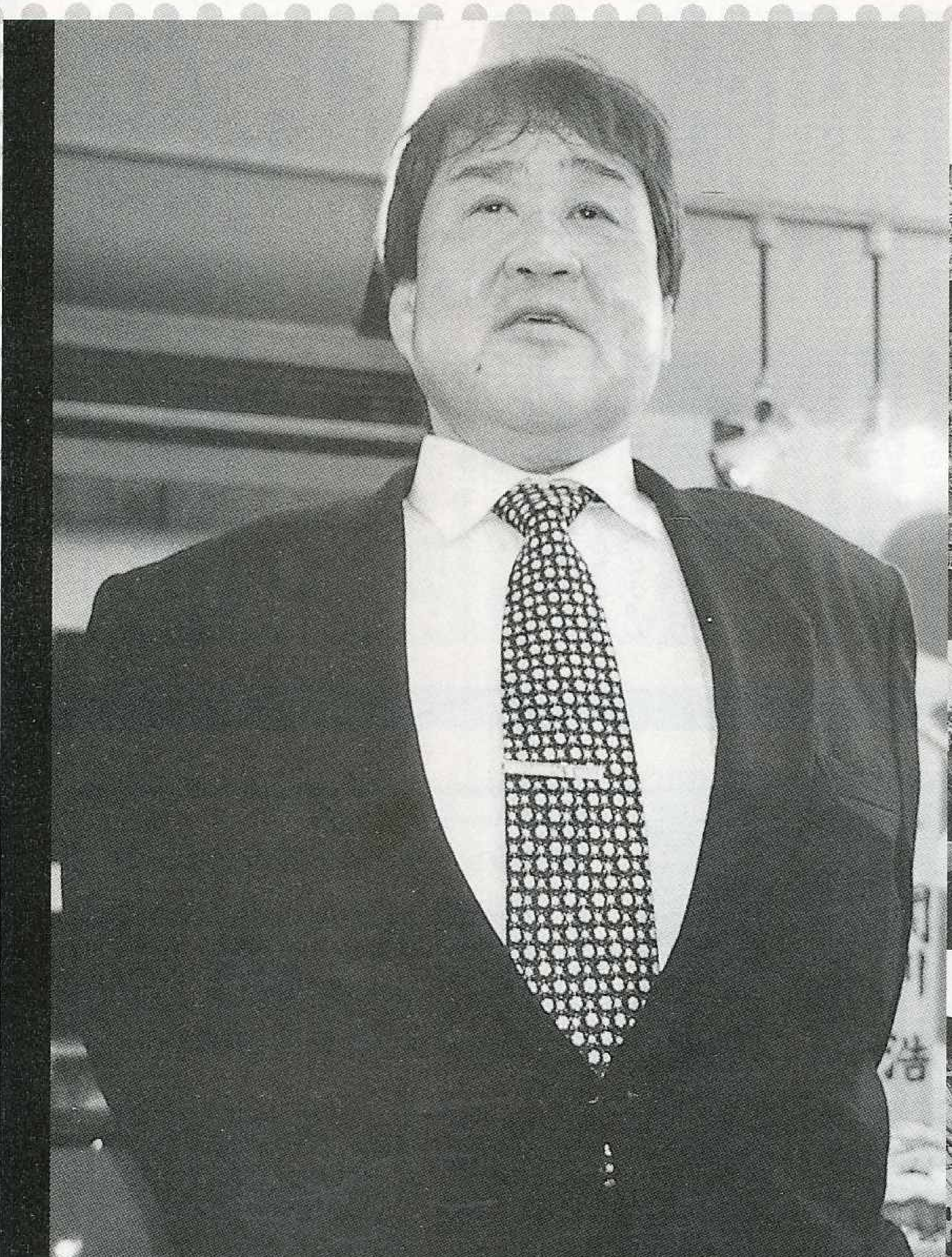


応募方法 プロレスに関したものなら何でもけっこう、ジョーク、ギャグ、コント、マンガ、標語、何でもいいんだ、とにかく『ホントニ面白い』ヤツをたのむ。毎月1名の作品をこのページで掲載。このページは読者投稿ですが、めでたく掲載された方には「中川画伯オリジナルTシャツ」をプレゼント。原稿発送は紙のプロレス「ほんとにジョーク係」へ、希望選手名やサイズ（S・M・L・XL）をハガキに書いて下さい。 〈例〉エリザベスのS

明日また生きるぞーッ!!

BEST OF THE スパイラム™





必死の選挙活動も報われず結果は無念の落選。うっすら涙を浮かべたポーゴは次の選挙でのリベンジを誓った。今回の選挙戦で「どの候補者よりもクリーンな選挙活動ができた」と語ったポーゴ。らしくもないぜ。今号の『紙プロ』の発売日前日、雁之助相手に負けたら即引退マッチを行ったポーゴ。どうなった!?



選挙戦スタート時、意気込むポーゴとラーメンマン。リング上では敵のウルフも、この日は一時休戦



フルコスチュームでガッツポーズを決める郷土の英雄ポーゴ。もしかして、この格好で選挙戦突入!?



これがポーゴの選挙カーだ。車の横には「伊勢崎市をスポーツの街に」の文字が。あれ、暗黒街は!?



なんと、ポーゴの永遠のライバル大仁田議員が応援演説に駆けつけた。もちろん最後はファイアー!!





大仁田議員、二度目の応援演説登場。さすが大将!! いつの間にかポーゴから素顔の関川哲夫に!?

写真／maniaco

伊勢崎暗黒街計画実現に向け、もう1丁ッ!

正直、無念! ポーゴ落選!!

アブダビ映像見たいなぁ

花くまゆうさく

リングの汁 RADICAL



5・2ドームをPPV観戦、ひさびさ新日に金払った。坂口・木戸人形購入以来かな。

第一試合　牛vs棚橋。新日があらゆる格闘技の上にあるというのなら、まさに新日たたき上げ選手って感じな人が、VT出ればいいのになあと思いながら、テレビ画面を眺める。試合自体は、なにも感じず覚えてない。

第二試合　シャムロックvs飯塚。魔界入場で、イズいるかなと探すがいない。今日はいないのかしら？　試合自体は、なにも感じず覚えてない。

第三試合　ジュニアのタッグマッチ。早送りしないで今のプロレスをじっと見るのは、もう限界。いまのうちに夕飯すませよう。ヤスカク解説が「このタイガーマスクは、シューティングでチャンピオンになってます」と言ってたけど、そんな事実はこの世にないと思う。

第四試合　LYOTOvs謙吾。LYOTO入場時、出たイズマイウ！　しかしLYOTOの入場のほうがインパクト大。一体誰が、あのようなコスチュームをチョイスしたのだろう？　そしてまたヤスカク節炸裂「謙吾は勝ち負けにこだわりすぎ！　別に勝たなくてもいいんですよ！」と力強く宣言。しかしすぐに鈴木みのる（元祖・白装束）に「でも勝ち負けを競うんで」とたしなめられ、しょぼん。面白いぞ、ヤスカク劇場。

試合後、猪木が「俺に恥かかせやがって！」的にLYOTOをぶん殴ったが、その瞬間のイズの表情見たかった。ニコニコ顔から一転、「ハッ」となったりしたのかな？　バラエティー化に走るテレ朝『ワールドプロレスリング』だが、イズだけを密着したカメラとかやってほしい。

第五試合　高阪vsモンゴル兄。モンゴル兄は、背筋凄そうだし拳も固そうでパンチ強そう。グラウンドで山本KIDやヒョードルのようにパンチしてきたら恐ろしいなと思ったが、そうじゃないのでちと安心。こりゃ、高阪が下から極めてくれてカタルシス味わえるかなと、考えてる間に終わってしまった。

第六試合　中邑vsノルキア。中邑の「新日たたき上げ選手がいない。これはチャンスじゃん」発言、これってやらない先輩達へのイヤミだったら面白いのになあ。

第七試合　ジョシュvsジミーなんとか。ジミーなんとかは、青く染めた髪がなんだか浮いている。その姿は、でかくて凶暴な志茂田景樹？　でもほんとの志茂田景樹の方が、怒ると凶暴だったよね。

第八試合　藤田vs中西。試合自体はレベル低いけど、現時点で中西は全然ダメだったってのが見れただけでも満足。これでもまだ、「VTなんてプロレスの前にやってること、プロレスのが上」的発言はあるのかしら。

2日後に修斗会場で謙虚に試合見る姿は好印象だったけど。あと、『SRS・DX』の「お前は当て馬か？」って表紙、『SRS・DX』の今までの仕事の中で一番おもしろかったな。

第九試合　エンセンvs村上。村上の額を魔界の誰かが



男道コーチ屋稼業・
掟ポルシェ（ロマンポルシェ。）の

業☆勝ちます

『帰ってきたチンタラプロレス』の巻

座右の銘？　ハイ、そりゃあ当然「オマンコ」でーす。

人間、ヤケクソ&自暴自棄になっている様というのは、実は非常に人を惹きつける魅力溢れる瞬間であるように思う。

例えば最近のオリックスのどうにでもなれ感満載のパリーグ最下位独走行脚は、そこらのインディープロレスの中途半端なアングルの数倍は爽快にズッコケさせてくれる。そのズッコケをバナナの皮に換算すると……んあ〜、面倒臭いので各自適当に計算。つーことで、結論から言う。元凶は谷。誰もがわかっていることと思う。谷が入団した時点でオリックスはどれだけキッチリ野球をしようとも爆笑されるだけのチームになった。野球を全く知らない者でも谷の名前だけは誰でも知っている。もちろんYAWARAの性奴隷としてのネームバリューONLYでここまでのし上がってきた訳だ。落合、新沼に続いて現代の特殊性欲3冠王を総ナメしたどてらい男である。破格の2億円プレイヤーにしてYAWARAの夜の寝技の練習台に成り下がれるのは、余程根性が座っているか、パリーグだからモテないのでつい魔が差したかのどっちかだ。キャバクラで「俺、2億円プレイヤーなんだよ」と口説いても「ハイハイ、わかったわかった」の一言でキャバ嬢に電波扱いされるのが日常茶飯事のパリーグ選手のヤケっぷりというのは察するに余りある。そして一連のYAWARAとのメイク・ラブ&マリッジ・ブルーウェーブ報道……オリックスの選手たちは野球以外に世間の冷笑とも闘い続けなければいけなくなったのである。谷がそこにいるだけで、オリックスというチーム名そのものが既に十字架となっているのだ。

まず、新人選手が育たなくなる。これは有望な高校球児が皆オリックス入りを回避した為だ。YAWARAの情夫がいるんである、先輩に。今まで『東スポ』を初め各種スポーツ紙誌の記事を見て腹を抱えてゲラゲラ笑っていた選手を、「谷さん」と、さん付けで呼ばなければいけなくなる。これはキツイ。しかも、もし谷の性格が性癖同様に歪んでいた場合にはYAWARAへのラブレターを代筆させられたり、わざとガラの悪いアロハシャツなどを着てすれ違いざまYAWARAのケツをなで回しながら「ヒュ〜。ねぇちゃんハクイやんけ！　これからワシと一緒にメイクドラマせぇへんけ！」とカラミ、イヤがるYAWARAを「やめたまえ！」と谷が助けに来るとかいった小芝居を強要されたり、夜は3P要員として駆り出されてゲッソリしたりするかもしれないんである。せっかくの野球人生をYAWARAにブチ壊しにされたくないと思えば賢明な野球少年なら誰もがオリックスだけは避けるはずだ。

オリックスのベンチの中では無論YAWARA話は御法度。だがベンチ内の暗黙の了解を破って谷にシュートを仕掛ける先輩選手もいるだろう。「（リック・ルードばりに腰クネダンスしながらニヤニヤして）昨晩は何発ヤッたんだぁ〜オイ。やっぱシオとかビシュビシュ吹くんだべ？　やっぱキャワイイ、カミさんがおると体が持たねぇなぁ〜。なんちって！」なんてことを言っても谷の後輩にあたる選手は死んでも笑うわけにはいかず、試合中ずっとYAWARAと谷のハードコア情事を思い浮かべてしまうが故に全然野球に身が入らず凡ミス連発、結果負け試合が多くなり最下位ロードを驀進、ひいては異例の石毛監督シーズン中更迭へと繋がり、最終的には面白半分&ヤケクソで元ロッ



切りにきて、それを隠すレフェリーの姿がPPVでは映っていたはずだが、テレ朝放送版ではカットされてた。PPV特典とはこれだったのか？　それにしても、今回あまりに切りすぎじゃないか。お風呂入るとき痛そう。

セミ　小橋vs蝶野。長い興行でもう疲れたので、小橋入場を見てから風呂に入る。風呂からあがると、蝶野がぽんぽん投げられてた。

メイン　高山vs永田。試合自体はなにも感じず覚えてない。試合後、新間のマイクにケロが「それは違う！」と叫ぶとこだけ面白かった。

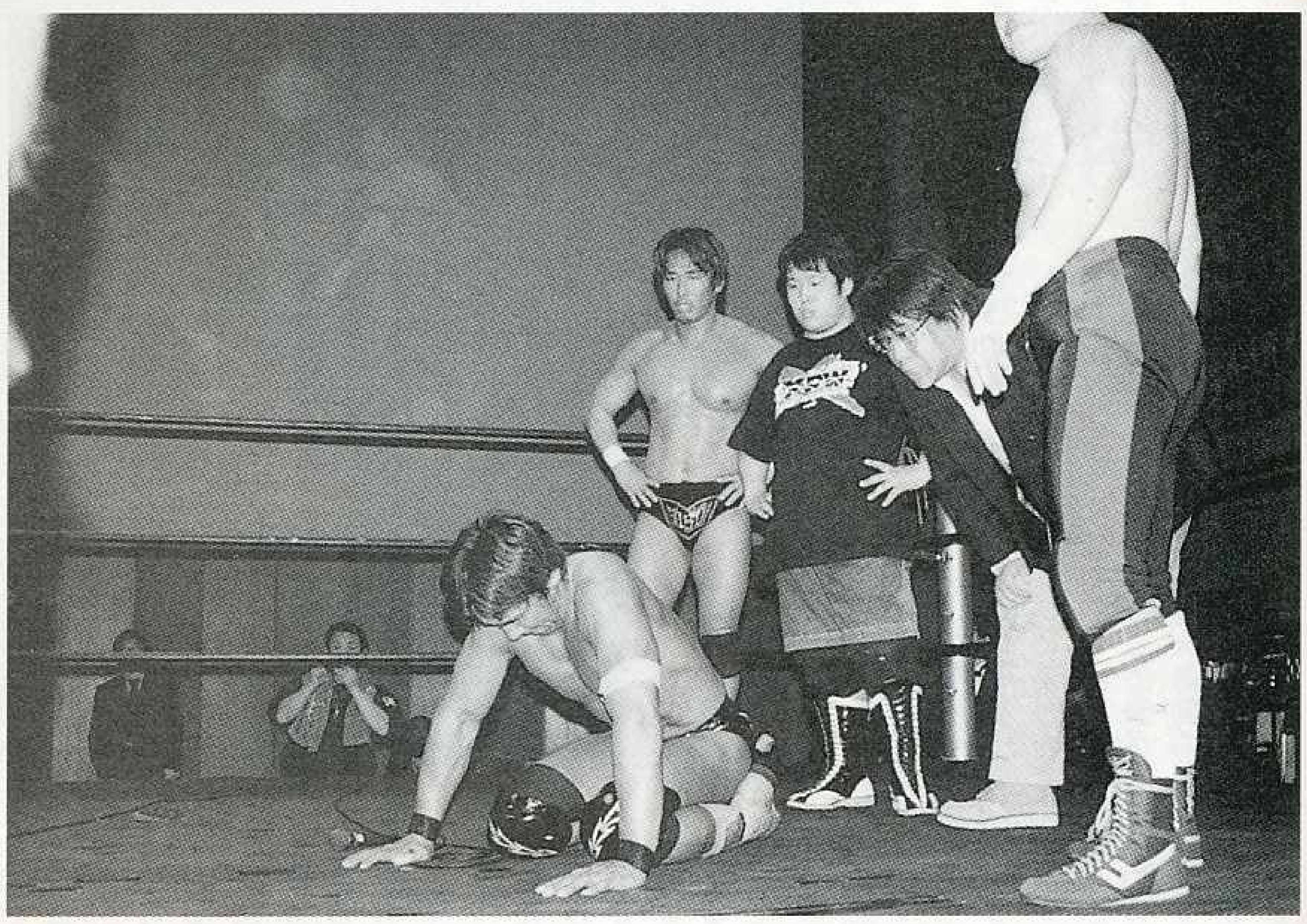
いくらいろいろ技だしても、闘いより協力作業にしか見えなくなった今のプロレスを、じっと見るのはやはり苦痛。ということで、今回見終わって頭に残っているのは、中西のリアルな姿と、ケロの「それは違う！」だけでした。

おしまい。

※追伸　前号見たけど、ジミー鈴木さんには、ぜひ前回アブダビでのジアン・マチャドvs高阪戦を見てぶったまげてほしいであります。

はなくま・ゆうさく
今度のプライドあたりで発売する新作Tシャツは、いいカンジです。





テの黒人選手レオン・リーを監督にしてしまうことになったのである。しかも久々に見たリー、マチャアキが昔やってたキャラクター・しりま千太郎のような牛乳瓶底メガネをかけていてシワッシワ！　まだ50歳なのにモダンジャズカルテットの一員と見間違うぐらいどえらくヨボヨボ！　父兄参観日にじいちゃんがやって来た家庭のようなわびさびをもオリックスにプラスしてくれたのだった。パーフェクト！

で、ヤケクソ&自暴自棄といえば、かなりええい、どうにでもなれ的なタイミングであのPWCが復活。PWCといえば伝説のシャッキング・高野俊二が社長でエースという、存在自体が悪い冗談みたいなどぐされインディー団体。俊二の奇跡的なチンタラプロレスは見ていてまったりしてくるガンジャテイストが最高だったが、この度、復活した俊二不在の新生PWCは『どりんくばぁ～』のオヤジ・維新力がエースという快挙&暴挙！　コクがないのにキレもない昨日栓を開けたビールのような維新力のスモー・ファイトは今も健在！　俺のクダラナイもの反応センサーが久々にビンビン、レッドゾーン振り切れた！　代表が森谷A・K・Aニセ大仁田！　駒沢オリンピック公園記念体育館で行われた旗揚げ前哨戦けじめマッチではキャパ800とかいう会場に約50人の客という厳かな雰囲気。

しかもその時の会場使用料の未払いを巡ってこれからどうしようもなく「あ～あ」なアングルが動き出す！　これから本連載ではPWCの動向をヤケクソで追い続けます！　さ～てこれから忙しくなるぞ！（下着ドロ等の活動が）。

――妄言多謝

ザ・検証

ども、コラム担当のチョロです。いやぁ〜、ナマ健介、最高でしたよ！　あの、とびっきりの笑顔に、極太の腕ッ！　さらに本人の口から「正直、スマン！」も聞けて言うことなし！　来月は人生相談かなぁ？　それとも、やっぱ、お宅訪問？　どっちもやりたいけど、その前にボクも仮面ライダーなんとか見て勉強しておかなきゃな。う〜ん、正直ド真ん中!!

今月の検証 by 椎名基樹

『アルティメット・クラッシュ』

年を重ねるごとに、ラブライフが楽しくなってきた。にもかかわらず、突然男性機能が裏切り始めたら、再びあなた自身がコントロールできるよう、医師に相談してください。

と、いうわけで、サッカーの王様、ペレのありがたいアドバイスから始まった、今月の『ザ・検証』。みなさん、いかがお過ごしですか？

そして、別に医師に相談したわけではないが、1発で最近の「新日ED」が治ってしまった興行が、もちろん「アルティメット・クラッシュ」なのである。この興行は、今年お亡くなりになった、ザ・クラッシュのジョー・サン、否、ジョー・ストラマー氏の死を悼んで、ミック・ジョーンズをはじめ残りのメンバーと、ホログラフィーのジョー・ストラマーの夢の競演という、あたかも、あの小泉首相も駆けつけたという、X・JAPANのhideさんのビデオコンサートの様な、ちょっと宗教じみた企画だったわけでは断じてない。もちろん、新日初めてのVTとプロレスの混合興行だったわけである。

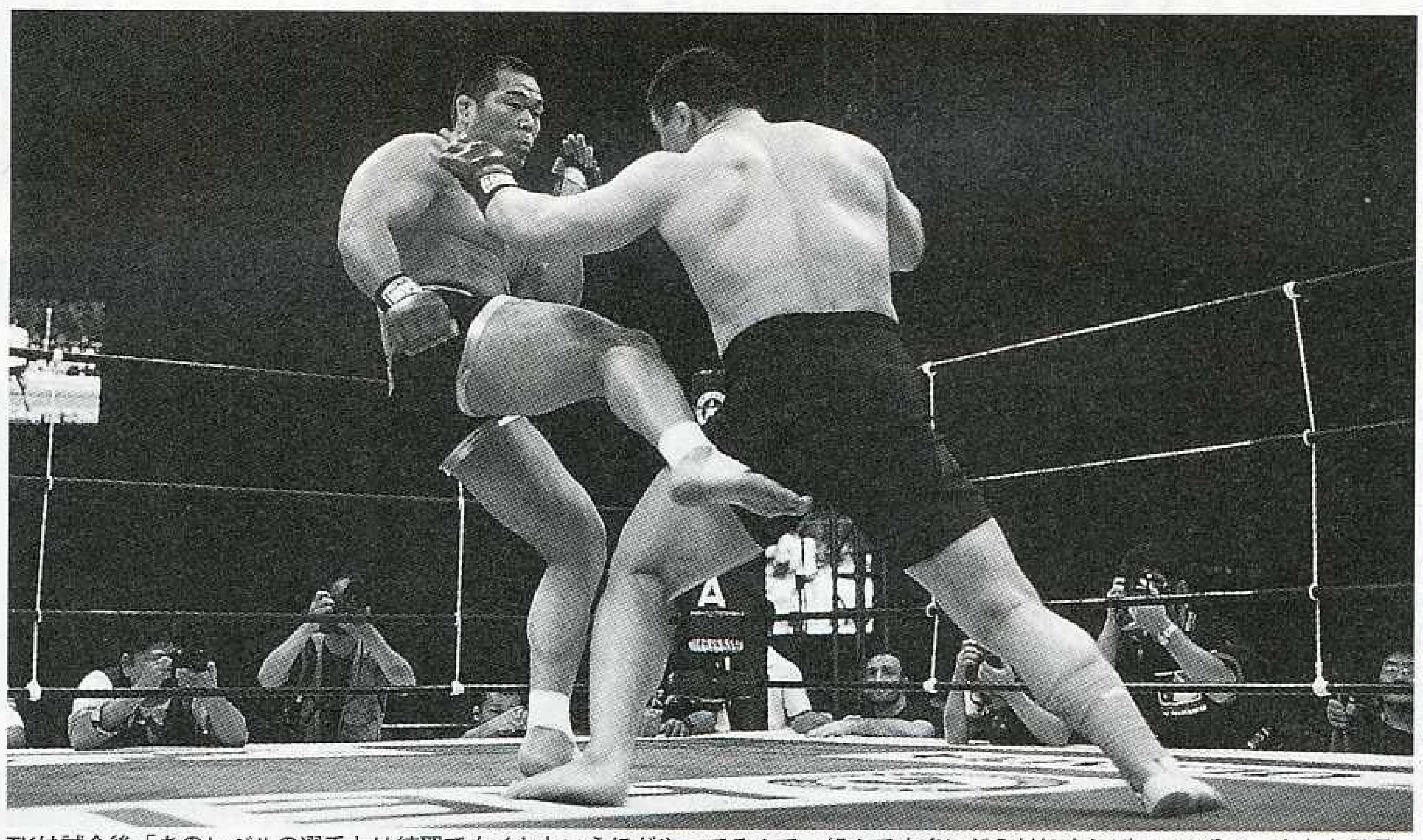
いや〜素晴らしかった！　感動した！　久々に新日の底力を見せてもらった！　プライドをはじめ他のVT団体ではマネできない、まがまがしいまでにエグイ、マッチメークで、ドキドキしたっす！

特にまがまがエグイ大賞は、もちろん藤田vs中西の同門対決。その重々しさに（もちろん二人の体型の話でない）観ている方が、胸が苦しかった。なぜ、あの二人がVTでやらなくてはならないんだ〜！

しかし、そう感じるからこそ面白かった。敗者の失うモノが大きいほど、観ていて面白いに決まってるもんね。しかし、結果として二人とも評価を上げたような気がする。負けたが健闘した中西はもちろん、藤田も、おらぁ見直したよ。オメーの道はイバラの道だ。イバラの道行くヤツぁエライよ。しかし、テレビのスピーカーから聞こえてくる、エンセンのセコンドの声が良くって、おらあ、思わず力入って中西応援しちゃったよ。あんなセコンドついてたら勇気でるよ。

しかし、そう思うと藤田は孤独だね。誰とどんな練習してんのかな？　エンセンとこで新日のVTやるヤツといっしょにガンガン練習した方が強くなんじゃやねえかな？

そして、次にドキドキしたのが、TKと朝青龍兄の試合。試合内容はああいう形で終わってしまったワケだが、試合後テレビに映し出された、朝青龍のあの憮然とした表情。もちろん、横綱が仇討ちにVTに出場することはありえないだろうけど、あのマジ顔見たら、勝手な想像が広がって楽しいよ。あんなシーンは他のVT団体では見たことない。



TKは試合後「あのレベルの選手とは練習でもイヤというほどやってるんで、組んですぐにどう対処すればいいか分かった」と発言

やはり「新日のVT」ならではの名シーンだったのだろう。

そして、「新日のVT」ならでは、という点では、LYOTO選手を猪木が鉄拳制裁したシーンが一番だろう。試合の方は今一歩だったけど、あれ一発で視聴者はもっていかれちゃうよ。さすが猪木、観ている人の気持ちがバッチリわかっていらっしゃいます。そして、殴られた後ニコニコしているLYOTOつうのも、ただ者じゃないと感じさせた。実力の方は、正直「こんなもんか」って思ったところもあったけど、あの体格であの技術は、他の日本人では見あたらないので、ブレイクする可能性は大いにありだとは思う。

しかし、彼を日本人として感情移入できるかどうかは、本人の努力しだいというところだろうか。ただ、最後はもう時間がないのはわかっていたんだから、十字を狙いに行って欲しかったです。

そーいえば2Rの終わりに、明らかに謙吾の意識が飛んで、レフェリーが一瞬止めたように見えたけど、そのままあやふやで続けたのも「新日のVT」って感じで良かった。もちろん、他の団体もあーしてくれって言ってるワケではないです。

それから謙吾選手、あれくらい寝技ができるんだったら、打撃を磨いて、タックルが切れれば、ヴァンダレイ・シウバタイプの良い選手になれそうなもんなのに、頑張って欲しいです。とにかく、先に手を出さなあ、シャーネーだろ！

その他、ジョシュはとにかくカッコいいし、ノルキアは可哀想だし、とにかく面白かった「アルティメット・クラッシュ」なのであった。

しかし、ひとつ提言したいのは「判定をなくしてくれ」ってことだ。プロレスなのか格闘技なのかという不毛な論争はつきることがないが、新日がやる以上やはり「プロレス」のアイデンティティーの中になければ未来はないように思う。もう、『PRIDE』っていう恐ろしく完成されたモノがあるわけだし。

そして、プロレスなのか格闘技なのかという線は、単純に「判定があるかないか」であると極論すれば言えるのではないか。判定があればそれに向けて試合をするのは選手として当然だ。判定があるにもかかわず、「観客の目を意識しろ」ばっかり選手に言って、よくわからないイエローカードが飛ぶ、『PRIDE』の「ちょっとな……」と感じる現象もある。もちろん、それはスポーツをエンターテインメントにする『PRIDE』の努力なのだけれど。新日は「新日のVT」を完成させるべきだと思う。それには判定はいらないのではないだろうか？

今月の検証 by せき詩郎

ミルコが人気を得るためには？

ミルコがサップに完勝した。

「何をいまさら」と思う人も多いだろうが、太平洋戦争が終わったことも知らずにずっとサイパンとかに隠れてて、やっと最近帰ってきた元日本兵の人なんかはこのことを知らないかもしれない。なので敢えて書いてみた。ミルコの左ストレートにサップは天龍プロレス以上に痛みの伝わるリアクションで倒れた。誰が見てもミルコの圧勝であった。

がしかし、お茶の間の人気者であるサップを倒したことによってミルコの人気がサップ並みに、もしくはサップ以上になったかというと、残念なことにそうではない。ミルコ人気は相変わらずだ。決して人気がないわけではないと思うのだが、お茶の間レベルではサップと雲泥の差である。ことは確かだろう。ミルコの強さはもう充分証明された。人気に実力が追いつかない人は多いが、ミルコの場合はその逆。人気が追いついていない。人気が実力に追いつけばミルコはスーパースター（死んでから何十年経っても『ミルコは生きていた』と新聞を賑わしたり、ミルコそっくりさんがコンサートを開いたりするくらい）になれることだろう。

キンチョーのCMや「ミルコです。感動です」と新作映画を紹介するCMに出たり、バラエティー番組（『おそく起きた朝は……』『今夜も千両箱』など）に出演したり、はたまたCDデビュー（鶴久政治と組んで）なんてことになるはずだ。

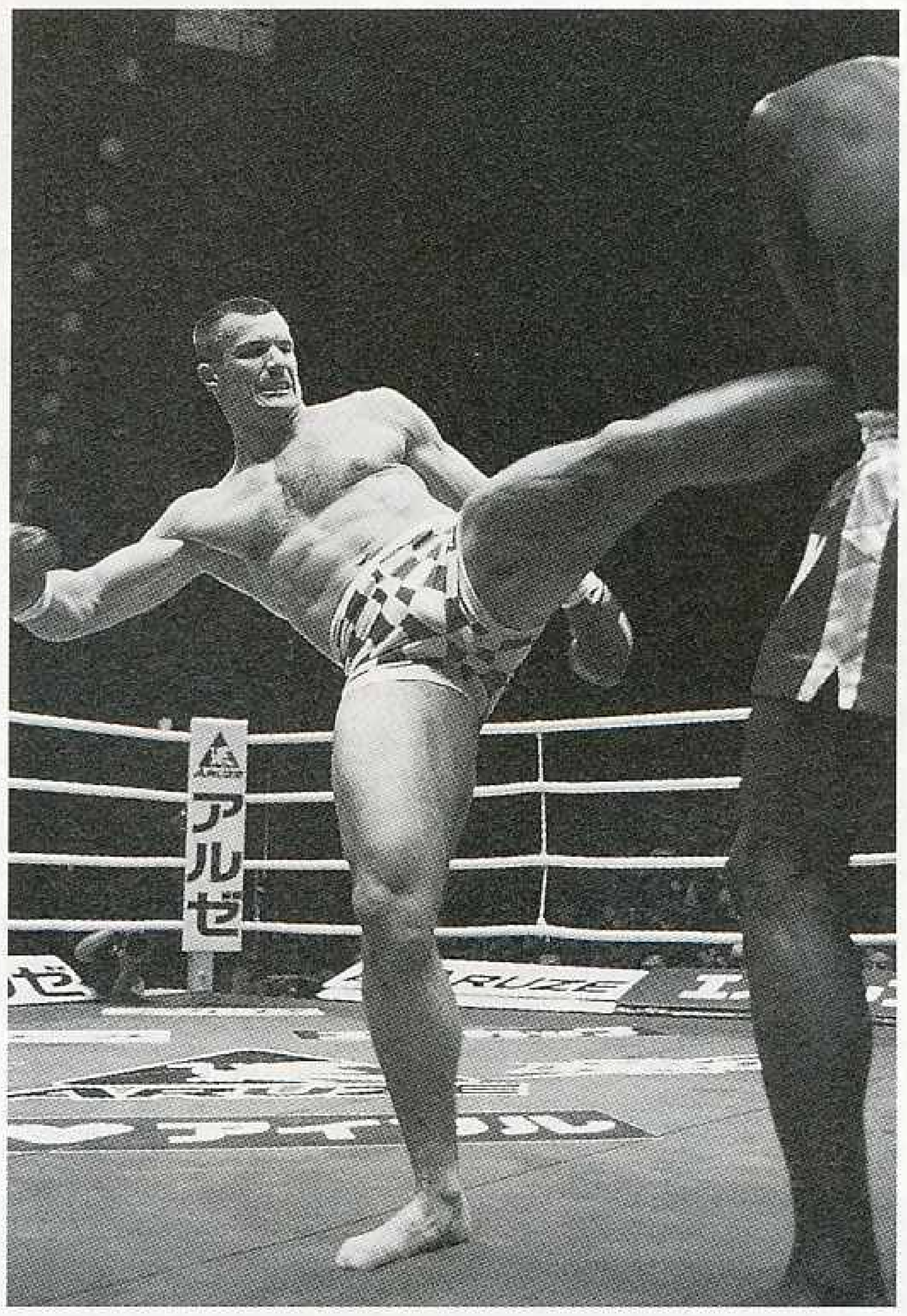
まあ、そこまでは一気にのぼりつめることはできないかもしれないが、『筋肉番付』に出るくらいはすぐできるであろう。筋肉で表現するミュージカルだかなんだかにだって出演できるはずだ。テレビだけではない、ラジオだってオールナイトの2部のDJくらいにはなれるはずだ。ミルコの軽快でユニークなトークにリスナーのみんなは身柄拘束されちゃうかも!?

などと考えていたら、某誌で担当している投稿ページに、まるで選挙演説カーや物干し竿売りの車のように私の目を覚まさせるハガキが届いた。それは「ミルコを金八先生の警官役に！」というものだった。

ミルコはクロアチアの警官ということを私はすっかり忘れていた。ミルコには警官という職業があったじゃないか！　サップにはない大きな武器があったではないか！　この武器を上手く生かせばサップ以上の人気を得ることだって不可能ではないだろう。

というわけで、今月はミルコが芸能活動を始めた場合、どんな仕事が一番彼に合っているのかを検証してみよう。なぜミルコのために私はそこまでするのかという疑問を感じたり、ミルコ本人は別に芸能活動なんてしたいと思ってはいないんじゃないかと考えたりもするのだが、ここまで書いてしまったものだから、もうあとには退けない。ここで退くと今月は他に書くことがない。書くとしたら「重力が地球の6分の1しかない月なら、健介は今よりもっと力持ちに！」くらいだ。それこそ誰も読みたくないだろう。やはり退いてられない。続けるしかない。

では警官という職業を生かした仕事をいくつかあげてみることにする。もっと良い案があったら編集部まで送ってもらいたい。みんなもミルコのために、しかもミルコの知らないところでやけに親身になってみよう！



【警官コントに挑戦する】
パイプ椅子のみで派出所を表現しながらの警官コント。これならミルコ一人でいますぐできる。本物の警官ならではの視点で、一般人には考えつかない笑いを提供してくれることだろう。10週勝ち抜いてグランプリ獲得することは間違いなしだ！

【あぶない刑事に出演する】
タカとユウジとそしてミルコ。クールでダンディ、そして軽快でジョーク好き、そんな3人が今日もハクい女を追って……もとい、犯罪を追って横浜を駆け巡る！　ミルコにとってアクションシーンはお手の物。キザなセリフで女性ファンが急増すること確実。

【ポリスアカデミーに出演する】
女市長の決断により、なんと警察官採用基準が撤廃された。その結果、史上最悪の新入生を迎えることになったポリスアカデミーは創立以来の大混乱!?　個性的なキャラが揃う中、どんな効果音でも出せちゃうミルコが今日も大活躍だ。

【天までとどけシリーズに出演する】
舞台は多摩の駐在所。隣接する一軒家に子供たち10人を含む一家12人が暮らしている。そんな大家族の大黒柱がミルコ。友情・いじめ・学業・将来……そんな日常が描かれる中、明らかに外人のミルコが目立ち、視聴者の目をひくはずだ。

【ロボコップに出演する】
近未来、犯罪都市デトロイト。ミルコはサイボーグ警官に改造され、犯罪から市民を守る為に活躍する。だが、次第に生前の記憶が甦り、悪夢にさいなまれるミルコ……。自ら口で「ギー、ガシャン。ウイーン」など音まで表現するミルコに脱帽することだろう。

【美味しんぼに出演する】
銀座。一ヶ月で旨いそばツユが出来ていたら屋台の営業許可証を渡してやるとミルコ。店主は山岡と協力しながらなんとかツユを完成。それを試すミルコ。「この野郎、窃盗犯だ。浅草の藪の味を盗みやがったな！」と言いつつも許可書を渡すのであった。

【胸キュン刑事に出演する】
音羽署捜査一課に配属された新人刑事ミルコ。彼は生まれつき持っている能力を使いながら事件を解決していくのだが……なんとその能力とは犯人に近づくと乳首が反応するというもの！　この他にもイクラを食べると透明人間になるミルコも。

【スケバン刑事に出演する】
ある日奇妙な組織に出会ったミルコ。母親の死刑を停止する代わりに特命刑事となる条件を受け入れ、学園で起こる様々な事件の解決していくことになる。ミルコが悪を倒すべく手にした武器はヨーヨーということで、コロコロ読者のちびっ子にも人気爆発だろう。

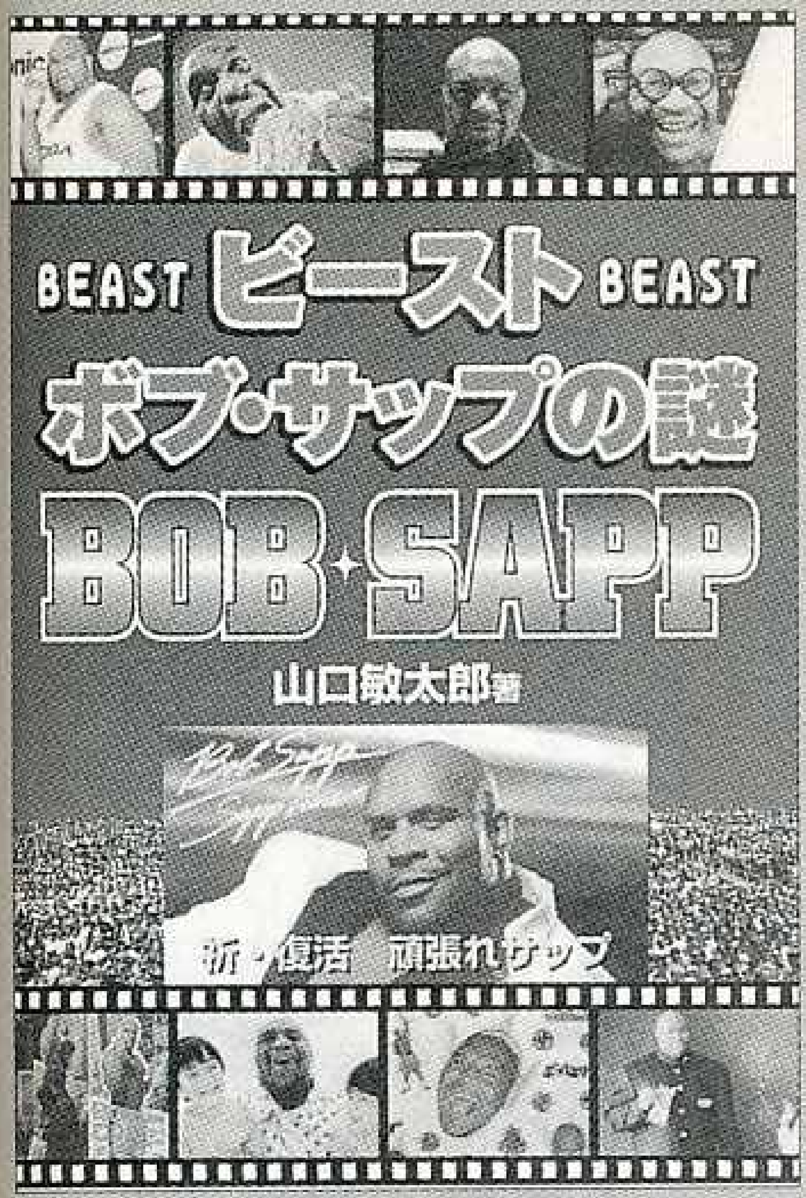
【箱根駅伝の先導をする】
白バイに乗ったミルコが箱根駅伝の先導を！　テレビを見る人が多い正月に何時間も映るわけだからミルコの知名度がグンとアップすることだろう。これなら無表情なミルコにでもできるはず。まさに適任だ。

PART 2

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである———（ネール元インド首相の娘への手紙）

吉田文豪人生劇場
書評の星座

え〜、今月は前号からの流れで妖怪王こと山口敏太郎君の『ボブ・サップの謎』とタダシ☆タナカ先生の著書を紹介……する予定にしていたんだが、軽い気持ちで読んだ永田本が思いっきりツボに入ったので急遽予定変更! タナカ先生の本ではなく永田本を紹介することになったので、「ふざけるな! 俺はタナカ本の書評が読みたいんだ!」と憤慨する読者の方々は、編集部宛にハガキでやメールで熱いメッセージを送るように。そんな読者の声に左右されやすい書評コーナー。〈e-mail:go@kamipro.com〉



『ビースト ボブ・サップの謎』
（山口敏太郎／コスミック／1300円）

大ベストセラーとなったミスター高橋本に一足遅く便乗した前作『暴露と闘え！ プロレスLOVE』に続いて、今度は謎本ブームに10年遅く便乗し、サップ・ブームにも半年遅く便乗してみせた便乗王、もとい妖怪王。

最初のページの1行目から「**2002年、一匹の野獣（ビースト）が米国から日本に上陸した**」といきなり派手に誤植するセンスだけでも、さすがは妖怪王としか言い様がないだろう。ビストって……（他にも「**ゴルード・バーグ**」「**ナインティーンナイン**」「**うんなん**」といった、読者をほどよく脱力させるフレーズが続出）。

それにしても、だ。これだけメディアに露出しまくって謎が皆無になってしまったサップを題材にして一体どんな謎を暴いているのかと思えば、これまたビックリ。「**サップの愛しい人が発覚?? トリニティって誰？**」と自分で質問しておいて「**なんとトリニティは猫なのだ**」と答えたりで、ひたすら謎でも何でもないことばかりを書き連ねていくから衝撃的なんてもんじゃないのである。

なにしろ「**日本のエース！ 田村もボブ・サップの前に沈んだ試合って知ってる？**」「**ホーストに勝った奇跡知ってる？**」などと読者の誰もが知っているレベルの試合を謎に仕立て上げ、その試合展開だけで大幅にページを埋めるスカスカっぷり（1行あたり10文字程度でガンガン改行するから、わずか11秒で終わった田村戦でも2ページ半！）には、こっちとしても驚くしかないって！

ひたすら『SRS−DX』の記事を大幅引用しまくる（ちなみにスポーツ紙関係はネットサーフしてコピー&ペーストしている模様）のもスカスカぶりを際立たせてくれるし、『フライデー』の記事をいくつか転載しているにもかかわらず『フライデー』初登場となった「〝K−1乱闘男〟が反則負け直後にエステ美女ともう『一戦』」というサップ唯一のスキャンダルには一切言及しない片手落ちぶりに至っては、もはや言葉がないというか。

引用にだけはうるさいボクに言わせれば、引用部分に批評や考察、もしくはツッコミなんかをちゃんと加えなければプロの仕事にはならないはずなのに、彼は「サップってすごいでしょ？」的な文章をお手軽に添えるだけで、あとは事実誤認と痛いギャグを次々と並べていくだけだからまったくお話にもならないのであった。

しかも、「**お笑いも大好きな筆者は、昔から浅草キッドがお気に入り**」なはずなのに、キッドが『SRS−DX』で連載している『底抜けアントンハイセル』も大幅引用し、「**玉袋のボケがさえている**」「**筆者の記憶が正しければ玉袋は、浅草キッド結成時はあまり『プロレス・格闘技』に対して詳しくなかったはずである。それが博士の影響で好きになり、ここまで極めたのだ。玉袋の探究心には頭が下がる思いだ**」と偉そうに言い放つ始末。

玉ちゃんは馬場vsブルーノ・サンマルチノ戦目当てに蔵前国技館へ行き、王貞治から届いた馬場宛の花輪を持って帰ったりのセンス溢れる小学生生活を送ってきたほどの男なんだから、探究心がないのが誰なのかはわざわざ言うまでもないはずなのだ。そう、妖怪王だよ！

せっかくだから、ついでに妖怪王の痛いギャグ部分も引用してみるとしよう。

「**『グレート。アントニオ』であるが『新間寿Tシャツ』『ターザン山本Tシャツ』『サダハルンバ谷川Tシャツ』という個性的な（？）ラインナップでマニアをうならせるお店だ**（爆笑）（**しかし、ターザン山本シャツって誰が買うんだ。しかも万一買っても着るのは勇気がいるよな〜**（笑）**新間さんのシャツもな〜欲しいような欲しくないような〜夢に出そうだな**（苦笑））」

以上、原文ママで引用したが、これだけで彼の悪文（カッコの中に同じ形のカッコは使わない！）&痛いギャグセンスは読者の皆様にも十分わかってもらえたことと思う。とにかく「**（あまりにもはまりすぎて噴き出さないように！）（筆者思うに伊東美咲ちゃんってかわいいな〜）（とほほ）（ぎゃふん　親父ギャグ）**」などと、妖怪王はカッコ内に余計な自己主張を入れすぎなのだ！

とにかく「**『ボブ・サップの謎』の解明は成功への第一歩だ！**」とブチ上げていること自体、完全に意味不明なんだが、とりあえず第一歩目からしくじり、謎を一つも解明できなかった妖怪王が今後もまず成功できそうもないことだけは明らかになったのであった。

『王者の挑戦　プロレス新時代のエースは俺だ』
（永田裕志／講談社／1300円）

なんだか極真本みたいな装丁だし、パラパラめくったらプロレスを完全なシュートファイトとして描いた「試合に負けて悔しかったが、頑張って次は勝った！」的な表現ばかりが目に付くしで、わざわざ自腹を切って買ったのにずっと読まずにいた、この本。

どうも「**IWGPヘビー級王座史上最多連続防衛記録を樹立！**」を記念してリリースしたら王座転落したタイミングの悪さと永田の●●のなさ（上井取締役・談）もあってあまり売れていない様子だが、これがまた想像以上の面白さ！　ただし、ツッコミなしでは伝わらないはずなので、ここはボクが突っ込んでみることとしよう。

まずは、冒頭部分から「**新日本プロレスの地盤がゆるんでしまったとたんに、新日本をあまり取り上げてくれなくなったマスコミに本気で腹を立てたこともあったし、『こんな時期にチャンピオンになるなんて、ついてない』と、嘆きたくなることさえあった**」と、「**新時代のエース**」のはずがえらく生々しいボヤキを聞かせていく彼氏。

「**お客さんが入らないことが、自分だけの責任のような気がして、とても寂しい気持ちになった。マスコミも、うちの話題を大きく取り上げてくれず、なんだか新日本プロレスが孤立していくような、そんな気がしてならなかった。俺は、いつもカリカリしていた。ときには感情的になって、トラブルばかり記事にしたがるプロレス記者たちに『つまらないことばかり書いてないで、試合を記事にしろ！』と文句を言ったり、ポジティブに書かれる他団体の記事に敏感になってしまったりと、精神的にも卑屈になっていた**」

そこまで文句を言っておきながら、いざ佐々木健介が離脱すると「戦力的には屁でもない。戦力外通告だよ！」と「**どうにも悔しくて、マスコミに怒りをぶちまけ**」てトラブルを記事にさせるから最高なんだが、すぐさま長州に電話で怒られたら「言い過ぎた」と大いに反省。

それでも『PRIDE』まがいのヒザ蹴りで賛否両論が分かれた藤田和之戦で自信をなんとか取り戻すと、02年5月の東京ドーム大会で永田は『PRIDE』帰りの高山善廣を迎え撃つことになるのであった。

「**俺たちの試合はダブルメインの第一試合目で、その直後に行われたダブルメイン第二試合目である蝶野正洋vs三沢光晴という歴史的な試合の直前に行われた。どちらの試合が凄まじい戦いだったかといえば、俺たちの試合がベストバウト賞を受賞したことが示しているとおり、永田vs高山によるダブルメインの第一試合目だった。俺たちは、世代との戦いに試合内容で勝ったのである**」

ああ、もうダブルメインダブルメインってうるさいよ！　これには「セミファイナルではなく、あくまでもメイン！」という永田の自負だけは感じられるものの、正直言ってこの試合がほとんど印象に残っちゃいないのはボクだけではないだろう。三沢vs蝶野がダメだったのは憶えてるが。

実際、いま02年5月発売の『紙プロ』50号を読み直してみたら、猪木会見でも井上（義啓）さんのロングインタビューでも座談会でも、この試合にだけは一切触れていないことが発覚！　それはそれで酷いよ！

結局、どうしても新日本に賞を与えなければいけない会社的なしがらみだけで『東スポ』プロレス大賞が回ってきたはずなのに、なぜか永田は大喜び。「**高山選手は、激闘の末、敗れたとはいえ、新日本プロレス30周年記念興行のダブルメインで堂々と戦い抜いたことで、世間の評価はうなぎ登りになった**」と、またもやダブルメインを強調して呑気に言い張るのであった。

……って、おい！　高山の評価が上がったのは『PRIDE』やNOAHでの身体を張った試合ぶりが評価されただけであって、決して永田相手の**「ダブルメイン」**が認められたわけじゃないよ！

それでも永田は、より失礼なことを言い放つのである。『猪木祭』で高山が**「サップに惨敗」**した話の流れで**「ボブ・サップに勝てるレスラーなどいないとまで言われている」**とあらかじめ前置きした永田は、なんと**「パワーだけは、絶対に勝つことができないが、俺は俺のやり方でサップに勝てるという自信はある」「あとは、具体的にどう攻めていくか、少しずつではあるが、イメージは固まりつつある」**と力強く豪語！　お前、男の中の男だよ！

……と思った瞬間、なぜか話は唐突にWRESTLE-1へと移行。

第2回大会で**「アーネスト・ホーストが、イス攻撃からのエビ固めというプロレスラー顔負けの試合運びでサップからカウント3を奪った。だが、あの試合からは〝プロレス魂〟というものがまったく見えなかった」**とサップにダメ出しするなり、**「俺がいつかボブ・サップに本当のプロレス魂を見せてやる」**と元気に吠えてみせるのであった……。結局、プロレスなのかよ！

それだけでも十分すぎるほどとんでもないのに、サップの話はまだ終わらない。

ライバルの**「中西学が本気になったら、藤田選手や高山選手なんか比べ物にならないぐらいのパワーを発揮するかもしれない」**と絶賛した流れで、中西は**「サップと戦った日本人の中でも、最高の試合を見せてくれたと思う。サップ相手にあれほどの試合ができるのは、やはり彼しかいない」**とキッパリ言い切るわけなのだ！　**「サップと戦った日本人」**といっても、中西とグレート・ムタ以外はみんなガチンコだったんだから、そんなこと言われたらヤマノリも田村も中迫もみんな怒るって！

もしかしたら猪木の「プロレスも格闘技も一緒なんだ！」という持論を、永田は誤解しているのではないだろうか？　ミルコ戦での敗北もプロレスの負けと一緒？

それでも、**「俺はもう一度、ミルコと再戦したい。〝プロレスキラー〟と呼ばれるその男を、俺の手でリングに沈めたい」**と非常にリスクの高いことを宣言しているだけで、ボクは許す。当然、勝てはしないのだろうが。

……と思ったら、**「もしもK-1やPRIDEの選手が新日本に乗り込んでくるようなことがあれば、いつでも相手になってやるというのが基本的な俺のスタンス」**なんて発言も飛び出すから、どうも信用できない男なのであった。永田裕志、恐るべし！

さて、そんな永田以上に恐ろしい男といえばもちろん長州力だが、なぜか永田は師匠のはずの長州批判もひっそり繰り返していたものである。

たとえば、2001年の春頃から**「〝野人ダンス〟や中西選手特有のラリアートなども見られなくなり、試合中の空まわりが多くなっていく」「誰かが彼の奇想天外なファイトスタイルに注文をつけたという噂もあるが……」**などと謎かけしているのも、その時期にリリースされた『期間限定　長州力』（アミューズ・ブックス）の長州発言と照らし合わせれば答えは明白なのだ。

「WCWまがいのわけの分かんないパフォーマンスなんか日本に帰ってきてやって、それでイケると思っているオツムが困ったもんなんだけどね（笑）。何をやっても動きは鈍いし、何をやっても客から笑いが起きる」

だからこそ中西は良かったはずなのに、おそらく長州が注文をつけて中西から奇想天外な面白さを奪い去ったと考えて間違いないのであった。もったいないなあ。

なお、永田が**「レガースをつけてファイトするのを誰よりも嫌っていた」**のも実は**「当時の現場監督だった長州力」**だった模様。だからこそ、**「長州さんを代表とする肉体中心で相手を攻めるパワープロレスは、俺のやりたいプロレスではなかった」**だの**「ラリアートばかりのプロレスとは方向性が違う」**だのと長州に対して牙を剥き、こんなことまで言い出すわけなのだろう。

「長州さんは、新日脱退後、ジョーニー・ローラーを新日マットに参戦させることについて批判していた。（略）長州さんは、ビジネスとして大仁田選手の新日本参戦を許し、自ら有刺鉄線電流爆破デスマッチの対戦相手となったが、俺からすると、大仁田選手よりもジョーニー・ローラーのほうが、はるかに〝プロレスラー〟だと言える。『ジョーニーを見習え！』と言いたくなるレスラーなんて、ごまんといる」

まったくその通りである。基本的に永田の発言には説得力が皆無なのに、なぜか対長州に関してだけはやたらと筋が通っていて、なおかつシュートな部分がチラついている気がするのはボクだけだろうか？

そんな2人のエピソードで、最もツボに入ったのがこの話。盟友の**「藤田選手が新日本を出て、PRIDEという総合格闘技の大会に」**転出したことで、永田もようやく**「共通の志を持った者同士で何かアクションを起こそうと一念発起」**したときのことだ。

要は、中西までもがラリアートを使うパワーファイト中心の流れに反発して、リアルな**「レスリングのスタイルを取り入れたプロレスの流れ」**を作るべく長州力に訴えたところ、**「意に反して、長州さんは、そのユニットに中西学を入れろと」**言い出したそうなのである。

もともと**「対中西」**を考えての発案だったのに、なぜ中西？　しかし、**「新ユニットの立ち上げを許してもらうためには、長州さんの意見に抵抗するわけにはいかなかった」**から、永田はやむなく条件を飲んだ。

これでどうにか**「長州さんも全面的なバックアップを約束してくれた」**と永田が浮かれていたとき、非情にも長州はあくまでも真顔でこんなことを言い出したわけである。**「おい、新チーム名は〝タマゴ〟でどうだ？」「おまえらは〝タマゴ〟で決定だ」**と……。

もちろん、いくら長州の意向だからといっても、そこまでセンスのないことを言われて黙っているような永田ではない。なにしろ**「プロレス新時代のエース」**だし。

すかさず**「せめてタマゴじゃなくてエッグにしてくださいよ」**と反抗し、**「ただの『エッグ』だけでは能がないから」「なんとかエッグ」**にしようと考えてG-EGGSが誕生したとのことなのだ！　なんだよ、それ。

「俺は安直にこの答えを導き出したわけではない。俺は、東京ドームが〝ビッグエッグ〟と呼ばれていることを思い出したのだ」

それこそ安直だし、永田のセンスも長州力レベルだよ！

そんなケタ外れな永田のセンスがうかがえる豆知識を、最後に紹介して話を終えるとしよう。永田は**「敬礼を通して、大舞台を何度もこなしてきた自信をアピールしている」**のだそうである。永田裕志、最強だ！

けだからまったくお話にもならないのであった。

ずなので、ここはボクが突っ込んでみることしよう。

を強調して呑気に言い張るのであった。

RADICAL CALENDAR

『紙プロ』編集部おススメ興行
★ 山口日昇 ◆ 堀江ガンツ ♥ ささきぃ
♠ 松澤チョロ ◎ ジャン斉藤 ● スモーノフ

5 May

27 TUE.

新日■栃木・鹿沼総合体育館(18:30)
ノア■北海道・滝川市青年体育センター(18:30)
LLPW■愛知・豊橋市総合体育館(14:00)
全女■北海道・千歳市スポーツセンター(18:30)

28 WED.

全女■北海道・室蘭町総合体育館(18:30)

29 THU.

ゼロワン■東京・後楽園ホール(18:30)★
全日■岡山・岡山武道館(18:30)
ノア■北海道・函館市民体育館(18:30)
全女■北海道・伊達市体育館(18:30)

30 FRI.

ゼロワン■三重・松阪市総合体育館(18:30)★
全日■徳島・徳島市立体育館(18:30)
IWA■大阪・大阪府立体育会館第2競技場(18:30)
全女■北海道・共和町体育館(18:30)
修斗■東京・北沢タウンホール(18:30)

31 SAT.

ゼロワン■京都・KBSホール(18:30)★
闘龍門■愛知・常滑市民アリーナ(18:30)
大阪■新潟・新潟フェイズ(18:30)
ノア■北海道・札幌メディアパーク (18:00)
WJ■広島・広島サンプラザ(18:30)
JD■東京・後楽園ホール(18:30)

6 June

1 SUN.

新日■三重・四日市中央緑地体育館(16:00)
全日■兵庫・神戸サンボーホール(16:00)
闘龍門■大阪・羽曳野市立総合スポーツセンター(17:00)
大阪■ 宮城・白石市文化体育活動センター (16:00)
ノア■北海道・札幌メディアパーク スピカ(15:00)
大日■東京・後楽園ホール(12:00)
WMF■東京・バトルスフィア東京 (14:00)
全女■北海道・札幌テイセンホール(12:00&18:30)
NEO■板橋区立産文ホール2Fホール(13:00)
国際■神奈川・鶴見青果市場(14:00)
ZST■東京・Zepp Tokyo(17:30)◆♥

2 MON.

新日本■三重・阿児アリーナ (18:30)
大阪・東京・後楽園ホール(18:30)
全女■北海道・稚内市総合体育館(18:30)

3 TUE.

全日■宮城・石巻市総合体育館(18:30)
大日■茨城・北茨城市民体育館(18:30)
全女■北海道・紋別市スポーツセンター(18:30)

4 WED.

新日■和歌山・岩出町民総合体育館 (18:30)
全日■栃木・宇都宮市体育館(18:30)
全女■北海道・枝幸町総合体育館(18:30)
SMACK GIRL■東京・六本木ベルファーレ(19:30)♠♥

5 THU.

ゼロワン■東京・後楽園ホール(18:30)★
新日■和歌山・田辺ハナヨアリーナ(18:30)
K-DOJO■千葉・Biue Field(19:00)
全日■宮城・宮城県スポーツセンター(18:30)
全女■北海道・北見市立体育センター(18:30)

6 FRI.

ゼロワン■千葉・千葉公園体育館(18:30)★
新日■京都・三段池公園総合体育館 (18:30)
闘龍門■神奈川・横浜赤レンガ倉庫 (18:30)
ノア■東京・日本武道館(18:00)
全女■北海道・士別市総合体育館(18:30)
国際■東京・後楽園ホール(19:00)

7 SAT.

ゼロワン■茨城・水戸市民体育館(18:30)★
新日■ 小浜市民体育館 (18:00)
K-DOJO■長崎・シーハットおおむら(18:30)
パンクラス■東京・ディファ有明(18:30)
闘龍門■新潟・長岡市厚生会館 (18:30)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
全女■北海道・鳥取ドーム(18:30)

8 SUN.

『PRIDE.26』■神奈川・横浜アリーナ(18:00)★◎♥
ゼロワン■神奈川 ・相模原市立総合体育館(17:00)★
K-DOJO■福岡・ウエルサンピア伊万里(15:00)
全日■神奈川・横浜文化体育館(15:00)
闘龍門■埼玉・ぺぺホール アトラス(17:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
ノア■東京・後楽園ホール(18:30)
WJ■静岡・浜松市体育館(16:00)

9 MON.

K-DOJO■佐賀・久留米リサーチセンター展示場(18:30)
闘龍門■福島・ 南東北総合卸センター (18:30)
WJ■群馬・伊勢崎市民体育館(18:30)

10 TUE.

新日■大阪・大阪府立体育館(18:00)
K-DOJO■福岡・福島青果市場特設リング(19:00)
全日■新潟・新潟市体育館(18:30)
闘龍門■山形市総合スポーツセンター(17:45)

11 WED.

新日■京都・京都市体育館 (18:00)
全日■長野・松本市総合体育館(18:30)
NEO■東京・Club ATOM(19:00)

13 FRI.

新日■東京・日本武道館(18:00)
全日■愛知・愛知県体育館(18:30)
K-DOJO■千葉・Biue Field(19:00)
全女■兵庫・ 高砂市総合体育館 (18:30)
JD■東京・北沢タウンホール(18:30)

14 SAT.

WJ■東京・ディファ有明(18:30)
ガイア■東京・後楽園ホール(18:30)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)

15 SUN.

闘龍門■岡山・山陽ハイツ体育館(15:00)
DDT■神奈川・横浜赤レンガ倉庫(15:00)
JD■神奈川・ JD柏道場(16:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
キングダム■東京・エキサイトスペース(18:00)

18 WED.

闘龍門■愛知・春日井市総合体育館(18:30)
全女■東京・ 八王子市民会館(18:30)

19 THU.

闘龍門■東京・後楽園ホール(18:30)◆
K-DOJO■千葉・Biue Field(19:00)
全女■石川・産業展示館2号館(18:00)

20 FRI.

闘龍門■愛知・豊橋市総合体育館(18:00)
WMF■岩手・一関文化センター体育館 (18:30)
全女■香川・高松市総合体育館(18:00)

21 SAT.

K-DOJO■千葉・Biue Field(19:00)
闘龍門■長野・上田市民体育館(17:00)
WMF■宮城・泉海洋センター (18:30)
JD■東京・ バトルスフィア東京(18:00)
NEO■板橋区立産文ホール2Fホール(18:30)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
全女■愛媛・テクスポート今治(18:00)

22 SUN.

パンクラス■大阪・梅田ステラホール(16:00)
闘龍門■三重・四日市オーストラリア記念館(18:00)
GAEA■愛知・昭和スポーツセンター(13:30)
アルシオン■東京・後楽園ホール(18:30)
JWP■埼玉・桂スタジオ(13:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
全女■香川・坂出サティホール(18:00)

25 WED.

『DEEP』■東京・後楽園ホール(18:00)◎

26 THU.

K-DOJO■千葉・Biue Field(19:00)

27 FRI.

修斗■広島・広島サンプラザ(18:30)

28 SAT.

K-DOJO■千葉・Biue Field(19:00)
NEO■板橋区立産文ホール2Fホール(18:30)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)

29 SUN.

K-1■埼玉・さいたまスーパーアリーナ(15:00)●
U-STYLE■大阪・梅田ステラホール(17:00)★
闘龍門■兵庫・神戸ワールド記念ホール(16:00)
K-DOJO■千葉・Biue Field(19:00)
ノア■東京・後楽園ホール(18:30)
大日本■神奈川・横浜赤レンガ倉庫(16:00)
WJ■北海道・道立総合体育センター (14:00)
全女■東京・後楽園ホール(12:00)
NEO■板橋区立産文ホール2Fホール(18:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)

パンクラス10周年に爆弾を投下したのは
なんと創始者であるこの男だった!!

船木誠勝



ある団体から
現役復帰のオファーが
実際にありましたよ

衝撃発言

聞き手／堀江ガンツ　撮影／吉場正和　designed by hisa (Two Three)

船木誠勝 衝撃発言

「『ミッション』ができたとき、パンクラスは終わりにしてもいいと思った」

"完全実力主義のプロレス団体"を試行錯誤しながら作り上げた、パンクラス創始者・船木誠勝の口から衝撃のコメントが飛び出した。

10周年という区切りの年に、鈴木みのるは新日本プロレスに参戦が決定。美濃輪育久は無期限の海外武者修行に出発。その一方で日本テレビの地上波中継が決まったりと、パンクラスに大きなうねりが起こっていることは間違いない。

そんないまのパンクラスを船木はどう見ているのか。そして消えない自らの現役復帰説についても言及。衝撃発言が続出した！

――船木さん、しばらく髭面が続いてますけど、これも映画の役作りですか？

船木　そうですね。次は漁師の役なんで、「剃るな」って言われて。

――ずっと髭の役が続いていると（笑）。

船木　続いてますね。日焼けサロンにも行かされましたから（笑）。ま、仕方ないです。

――漁師役ということは、これから遠くへロケに行くわけですか？

船木　沖縄近辺に行きますね。だから今度の横浜（5・18）には行けないんですよ。ちょうど島のほうに行ってるんで。9月ぐらいまで離れることになると思います。

――長いですね。じゃあ、しばらくお話が聞けなくなる前に、今日はたっぷりと聞かせていただきたいと思います！　最近の一番大きな出来事といったら、まず鈴木（みのる）さんが「パンクラス・ミッション」を作って、新日本プロレスに出るということと、時を同じくして新日本がバーリ・トゥードを始めたということで、この同時期に起きた全く逆のベクトルの事柄についてお話を聞いていこうと思うんですけど、船木さんは5・2の東京ドームっていうのは御覧になられましたか？

船木　見ました。ちゃんとPPVで。

――またもや、しっかりPPV買っていただけましたか（笑）。

船木　ええ（笑）。

――新日本プロレスが、バーリ・トゥードをやるって聞いて、船木さんは率直にどう思いましたか？

船木　これは恐らく上井さん（新日本プロレス取締役）がパンクラスを見ての影響もあるだろうと思いますね。

――あの鈴木vsライガー戦がきっかけだったと。

船木　あとは『PRIDE』やK―1の人気を無視してはいけないということだと思うんですけど、よく反対を喰らわないで「やる」っていう選手が出たなと思いますね。

――遡って15年近く前に、船木さんは"真剣勝負"を求めて新日本を飛び出したわけですけど、いまになって新日本がこうしてバーリ・トゥードをやることについてはいいことだと思いますか？

船木　どうですかね。自分の感覚では、真剣勝負というものをずっとやっていくと、結局、殺し合いになっちゃうっていうことが頭の中にずっとあったんで、そういう意味では「なんて危険な道に進むんだろう」っていう感覚で見てますね。やっぱり見る側はエスカレートしていきますから、最初にUFCが出てきたころはグラウンドで殴って失神したりするシーンを「スゲェ」って感覚で見てましたけども、今はそれも当たり前の光景になってますよね。そうなってくるといずれは「どっちかが死ぬルール」じゃないと、お客さんが納得しなくなると思いますよ。



――どっちかが死ぬルール！

船木　突き詰めるとそこまで行っちゃいますから、選手自身も生半可なルールだとやる気がしなくなってくるというか、より上の刺激を求めるんであれば、ホントに「負けたほうが死ぬ、勝ったほうが殺人者になる」ということになってしまうんじゃないですか。

――そ、そこまでいきますか！

船木　俺はそう思いますよ。だから、そういう意味ではバーリ・トゥードが残るか残らないか、残っていいものか悪いものなのかっていう境目に来てるなと思いますね。

――船木さんの場合は真剣勝負を続けていくうちに、殺すか殺されるかみたいな精神状態になってきたわけですか？

船木　やっぱり普通のパンクラスルールからパンクラチオンルール（ヒジ、頭突きまでアリのバーリ・トゥード）に変わって、最終的にヒクソン戦になってますから、ヒクソンとやる時は「殺してもいい」というつもりでいってましたね。

――以前は、入場時に手に持っていた真剣で「斬ってやろうと思った」とも言ってましたよね？

船木　「負けたら死ぬかもしれない」と思ったから、じゃあその前に入場して来たところで思いっきりバサバサ斬っちゃおうかなって。プロレスであればそういうことはあるじゃないですか。タイガー・ジェット・シンがサーベルでやる実戦版だと思ってましたから。それが公共の場で許される状況があの時 はあったんですよ。

――そ、そんな状況がありましたか⁉

船木　そこまで追いつめられたら、それも有りだなって、自分で思ったんで。試合前に真剣で殺しちゃったら、確かに試合を見に来てるお客さんは試合を見れなくて残念かもしれないですけど、別の凄いものが見れるわけだし、それもプロレスだったら有りかなと思ったんですよ。

――確かに5カウントまでの反則はOKですけど……。

船木　よくプロレスラーだったら目に指を入れてでも、何をやってでも勝てって言うじゃないですか。じゃあプロレスの代表だったら武器を使ってもいいだろうって思いましたね。まさかヒクソンも武器を使うとは考えてないだろうって。極論ですけどね。

――そりゃ考えませんよ（笑）。

船木　だからヒクソンはやっぱり競技者ですよね。武道家じゃないです。殺すつもり、死ぬつもりでは上がってないですから。

――でも、船木さんみたいにそこまで闘いを突き詰めるというか、そういう選手って今は皆無じゃないですか。みんな競技として、極められたらタップすればいいっていう選手ばかりですよね。だから今の選手と船木さんとでは、かなり感覚が違うんじゃないかと思うんですけど？

船木　違いますね。逆にそういうのをやったから、そこまでいくと危ないよって思いますから、あんまりエスカレートはして欲しくないですね。俺の二の舞いになって欲しくないし。結局は命を落とすところまで行っちゃうと思うんで、それはあまり勧めたくないですね。



新日本プロレスの「プロレス」へ参戦を決意した鈴木みのるは、パンクラス退団をも考えたようだが、結局『パンクラス・ミッション』という別セクションを作り留まることになった。それでも、“真剣勝負”を標榜し続けた鈴木のプロレス回帰は、パンクラスにとっても大きな転機であろう。

俺は以前から鈴木に「その道（プロレス）もあるよ」って勧めてたんですよ

――船木さんの世代の新日本プロレスの道場を経験した人と今の総合格闘技を試行してる人の“真剣勝負”に対する捉え方って全然違いますよね？

船木　そうですね。ホントの真剣勝負っていうのは俺は死ぬか生きるかの勝負だと思うんで、そこまで本質を持ってやらないと意味がないと思いますね。だから現役を続けていくうちに、普通のパンクラスルールじゃ飽き足らなくなっていた自分がいたんですよ。それでより過激な方向へとことん行ってやろう、ホントに殺し合いでどっちかが死ぬような闘いじゃないと燃えなくなっていたんです。

――そこまで行ってましたか！　そういった船木さんとは逆に、パンクラスを10年間やってきた鈴木選手が新日本プロレスで純プロレスをやるために「パンクラス・ミッション」というものを作りましたけど、それについてはどう思いましたか？

船木　俺はずいぶん前から「その道（プロレス）もあるよ」って勧めてたんですよ。

――そうなんですか！　どうしてて勧めてたんですか？

船木　鈴木に対する俺の愛情ですね。やっぱり光る場所に出て行って欲しいなって思いましたから。パンクラスのリングの中だとどうしても光れない状況になってきてたんで。だから今回の件については、本人もそれを感じたということとプラス、パンクラスの選手がアマチュア化してきてるんで、もっと“プロ”っていうものを意識して欲しいって感覚もあると思うし、そういうことも含めてちょうど歯車が合っての新日本プロレス出陣だと思いますね。

――じゃあ、船木さんは賛成なんですね。

船木　「新日本で試合する事になりました」って聞いた時に「あ、ホント。良かったじゃない」って言いました。

――鈴木さんからこの件について、相談はされてないわけですか？

船木　相談はされてないですね。俺に言うと怒られると思ったんじゃないですか。俺がいなくなってパンクラスを見ていかなきゃいけないのに、そういう方向に進むっていうことで。でも俺に話をして「スッキリした」って言ってましたね。俺は「やるんであれば中途半端なものじゃなくて、とことんまでやった方がいい」って言いましたから。

――今って格闘技方面の人がプロレスを求めて、プロレスが格闘技の興行的な人気を求めてっていう双方のベクトルがありますよね。

船木　だから俺が思うのは、総合の選手は「格闘技ができなくなったからプロレスに行く」っていう半端な気持ちで行ってほしくないんですよ。村上（和成）選手なんか本気でやってるじゃないですか。あのぐらいの気持ちでやらないとファンの気持ちは動かないですよね。だから、「パンクラス・ミッション」が成功するかどうかは、それこそ鈴木がプロレスに命を懸けれるかだと思いますよ。鈴木が中途半端にやってるとそのうち新日本プロレスに同化して終わりだと思うんですよ。

――取り込まれる選手は多いですよね。

船木　だからそうならないために、いま鈴木は相当な覚悟で行ってるんですよ。その先には「パンクラスの止まってる時間を自分が動かす」っていう目標を俺は直接聞いてるんで、それができるかできないかは今後の鈴木の新日本での頑張りにかかってますね。

――パンクラスの時間が止まってるっていうのは、どういうことですか?

船木　俺が引退してからどっかしら止まってるって。そこからもう一度、時計の針を動かすって鈴木は言ってましたね。

――確かに今のパンクラスって、総合格闘技団体としていい感じでシステムは確立されてますけど、昔みたいな前衛的で挑戦的なイメージが薄れている感じはしますよね。

船木　そうですね。だから、この前の後楽園のとき、入り口で自分のホームページのチラシを配ったんですけど、そのとき「あ、随分とファン層が変わったな」と思ったんですよね。まず、俺だって気付かない人がほとんどなんですよ。

――え!　船木さんが素通りされちゃったりするんですか?（笑）。

船木　素通りされて、もらっても「ふふん」って感じで、気付く人も「あ、本人がやってるんだ」くらいの感じで、それも5分の1ぐらいですね。その後に本部席で試合を見ると、他の道場から来てる選手の応援の人たちがいろんなところにかたまってるんですよ。いまは、それでお客さんが持ってるっていうところがあるんで。パンクラスの選手だけを応援しているお客さんだけではなくなってますね。

――修斗とかの会場の雰囲気と凄く似てきてますよね。

船木　それはそれでボクシングみたいな感じでいいとは思いますけど、プロという形ではあまり成り立ってないと思います。アマチュアの延長ですよね。だからその中でボクシングの世界戦みたいなことができる選手がいま何人いるかってっていうところにきてると思います。

――それは技術的な面だけでなく、プロとしてのオーラみたいなものもそうですよね。

船木　技術だけではないです。人間として「この人の試合を見に行きたい」と思わせるスケールのデカさがなかなか見えてこないですね。



93年９月21日、世界初の“完全実力主義プロレス団体”として旗揚げしたパンクラス。数々の実験と試行錯誤の末に、今年めでたく10周年を迎えたが、その姿はアマチュアの延長としての純格闘技団体となっていた。今後、プロ格闘技団体としてどんな進化を見せてくれるのか？

――パンクラスって船木さんが若い時から考えたり、まわりの選手と話したりして「理想のリングを作ろう」ということででてきたわけですけど、いまのパンクラスっていうのは、やはり「理想」っていうものとはちょっと違ってきてますか?

船木　蓋を開けてみるまでは、プロレスみたいな人気を博しながらの真剣勝負のリングになるだろうと思ってたんですよ。でも、真剣勝負にするとなかなかプロレスみたいな人気を博せないというギャップを埋められないというのが、現実でしたね。自分とか鈴木がチャンピオンだった時代は結局、新日本出身、ＵＷＦの時代を経た人間っていう目でファンも追いかけてたから持ってたのかなって。

会場入口でチラシを配ったら俺だって気づかない人がほとんどなんですよ

――そういった中で船木さんたちは「真剣勝負のプロレス」という道なき道を開拓してきたわけですけど、いまパンクラスはアマチュアの延長としての「純格闘技」になって、鈴木さんは純プロレスをやることになった。だからこそ、「パンクラスを終わらせてもいい」という発言になったわけですよね?

船木　前のパンクラスという意味でそうですね。俺個人としての意見では、そうした方がいいと思ったんですよ。明らかに二代目、三代目っていうのは、それを立ち上げた初代と同じ気持ちではできないですよね。だったら一回白紙に戻さして、そういう状況をもう一回作らないと、前みたいな形には絶対にならないと思いますね。

――いわゆる運動体とかそういうものにはならないと。

船木　ならないです（キッパリ）。勝手にやる奴はやるんで。そういう意味では自分たちがやった頃ってやりたくてやったんですよね。そういう風にやる場がなかったんで、「勝手に作ってやった」という感覚だったと思うんですよ。それがいまは、人が作ったものをそのままやってるだけの状態なんで、明らかに違いますよね。

――確かにＵＷＦやパンクラスの人気っていうのは試合自体もそうですけど、新しいものを作っていくっていう過渡期特有の魅力がありましたからね。

船木　だって自分たちがやってた頃って（尾崎）社長が嫌がる事ばかりやってましたから。「絶対に勝てる相手とは組まないでください」とか。それでも、たまたま結果は良かったですけど、やってたときは社長もハラハラしたと思いますよ。社長はまず選手を守るってことをやってますから、それは預かる身としては当たり前の事だと思うんですけど、それに甘えていたらおそらくファンの人も「この人は守られてるんだ」と思うじゃないですか。反抗じゃないですけど、社長に対しても「もっと過酷な場所に行きたいんです」ぐらいの気持ちがないと人気が出るのは無理ですね。

――現状に甘んじるなということですね。

船木　それなのに、出されたカードで「わかりました、いいですよ」っていう人間しかいなくなってきてるんですよ。でも、それじゃ保守的に見えちゃいますから。ケガをしてるから出たくないとか、そんなことは俺は一回もなかったし、靭帯とかやってても麻酔して出てましたから。なぜかって言ったら、当時はみんなが出ないと始まらないっていう状況もあったし、ポスターにも名前が書いてある限り出なきゃ行けないし、それでメシを食ってるわけですから、そういうのが当たり前でしたね。

――確かに今っていうのは3ヶ月に一回、4ヶ月に一回のペースですけど、船木さんの現役時代は、一月出ないと「あ、休んだ」って言われる世界でしたもんね（笑）。

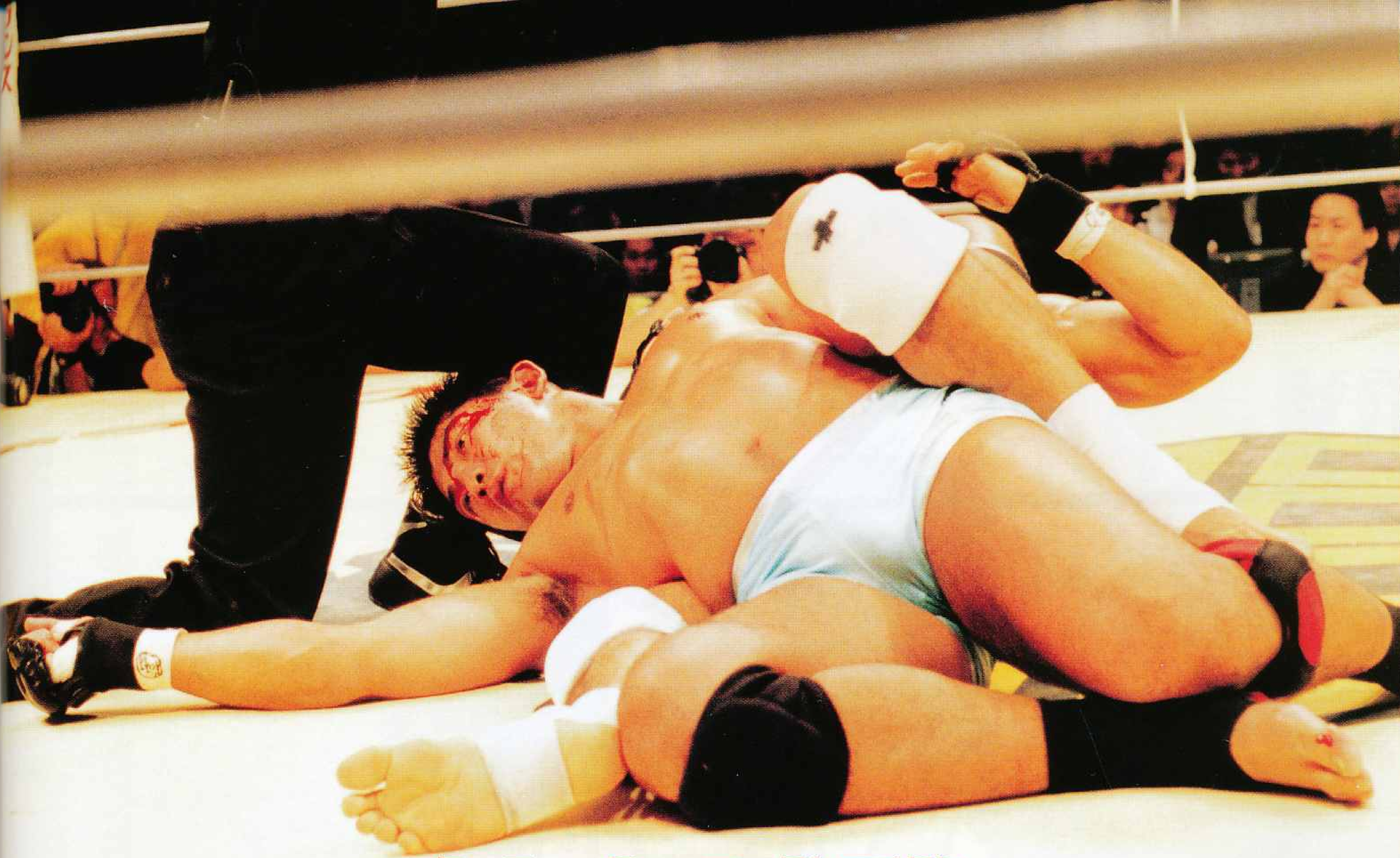
船木　出て当たり前っていう感覚で見られてましたね。それだけ今はお客さんにとって出なくてもそれほど気にかからないような選手が多いんじゃないですか。

――だから船木さんは、今のパンクラスの選手よりも、例えば『ＰＲＩＤＥ』で毎回メインをやらなくては いけない桜庭選手の気持ちの方がわかるんじゃないですか?

船木　わかります。桜庭選手もほぼボロボ

船木誠勝
衝撃発言





2000年5月26日、東京ドーム。文字通り命懸けでヒクソン・グレイシーとの闘いに挑んだ船木は、チョークで絞め落とされ失神。この一戦を最後に現役を退いた。はたして船木が再び“命懸けの闘い”に挑むことはあるのか？

船木誠勝 衝撃発言

ロ状態ですよね。だけど本人は逆に試合に出ないと悪い事しているような気持ちでいると思うんですよ。休みたいのは山々でしょうけど、膝にテーピングを巻いて出て来る桜庭選手をファンはプロとして認めてるんじゃないですか。あそこまで体を張ってる選手はいまなかなか見あたらないですね。

——しかも『PRIDE』でそれをやってるんですからね。

船木　凄い事だと思いますよ。

——そういえば、KOKをやってた頃の田村選手も「船木さんは凄い。船木さんの気持ちがよくわかる」って言ってましたよ。

船木　相当、大変だったんでしょうね。そのくらい体を酷使しないと、認めてくれないんですよね。ファンは自分が出来ないような事をやってくれてるからお金を払って、そこから勇気を貰って、「明日もまた頑張ろう」っていう気持ちで帰るわけじゃないですか。そのへんの感覚ですよね。

——そのへんはパンクラス・ismの選手からは感じられませんか？

船木　いまは逆にグラバカのほうがそれに近いものを持ってる気がしますね。だからパワーがあるんじゃないですか？　それはなぜかって言うと、一代目がまだいますし、人数も少ないからそういう状況ができてると思うんですよ。これから菊田選手が引退して次の選手が舵を取るようになった時にどう変わるか、もしかしたら今のパンクラス（ism）の下の選手と同じような状況がきてるかもしれないし、そういう意味ではパンクラスの中では高橋が一番それを経験してるし、自分もそれを経験したことがある人間なんですけど、高橋でさえも「パンクラス（ism）の中には教える気がしないヤツがいる」って言ってますからね。

——そうなんですか⁉

船木　教える気がしないって言うぐらい、打っても響かないんじゃないですか？　それだったら「高橋さん、練習見て下さい」って言う藤田（和之）選手に力が入っちゃっても当然じゃないですか。やる気があるんですから。高橋は藤田選手に教えたくてやってるんじゃないですよ。「アイツが真顔で頼んでくるからやってる」って言ってましたから。それだけ藤田選手は真剣なんですよね。

——パンクラス・ismの選手に今後も求めているのはその真剣さですか？

船木　だから、一番はやっぱり心ですよね。肉体や技術は作れても、気持ちだけは作って作れるものじゃないんで、一番難しい部分ですね。じゃあ、心を作るには状況を変えるしかないって思ったんですよ。現にグラバカの選手たちっていうのはアルバイトをしながらも練習に時間を割いてやってる連中もいますから、そういう選手に全部の時間を練習に費やしてるismの中で結果を出せない選手は、気持ちの問題しかないですからね。

——確かに入門テストを通過して入って来て、生活が保証されて、練習に時間を費やせるismの選手っていうのは、格闘技エリート集団になっていておかしくないですよね。

船木　ならなきゃいけないですね。それなのに、アルバイトしながらやってるグラバカの連中に勝てないっていうのは問題だと思うんですよ。それだけお金をかけてる会社の負担にもなってるってことに気づいて欲しい。それでギャラが少ないだの何だのって……もう話にならない！（怒）

——ひとつ不思議だなと思ったのは、パンクラスができて伊藤選手とか近藤選手とか渋谷選手とか若い選手がすぐに強くな

るシステムっていうのを船木さんは作り上げましたよね。でも、船木さんの引退後、彼らに続く選手がなかなか出ないのはなぜなんだろうということなんですけど。

船木　すぐに強くなれたのがいけなかったのかもしれないですね。俺とか鈴木が言うことを実行すればそうなると。じゃあ今は、言う人がいなくなって迷ってるわけじゃないですか。ホントは自分で見つけなきゃならないのに。そういう意味では國奥なんかはそれをいち早く察知して独自で強くなる道を探したからチャンピオンになるんでしょうね。自分が置かれた状況を把握して、今までとは違うんだという、練習をきる人間っていうのが成功するんですよ。

——2階級制覇したのは（現在は一冠）、そういった独自の努力の結果なわけですね。

船木　だから団体に守られてることが悪影響になるって言うんだったら、垣根をもう全部取っ払ってほしいですね。いまは他の団体とやってることは一緒なんだから、やってもいいと思うんですよ。

——細かな違いはあっても、基本的にどこもバーリ・トゥードですからね。

船木　パンクラスが何でルールを変えてきたかって言うと、他の団体、特にUFCの外国人選手が上がりやすくするための理由で変えたんですよ。外と交わるためにルールを変えたはずなのに、あまり交わってない。他の団体を持ってない道場の選手は（パンクラスに）ドンドン上がって、じゃあ、なんでこっちの選手が外に出ていかないのかって。

——確かにそれはそうですね。

船木　もし出たいんだったら、もっと真剣に「出たい」って言わないと社長だって出さないし、社長も最初は「大丈夫？」って言いますけど、「大丈夫？」って言うのは「一人暮しをしたい」という子供に対して言うのと一緒なんですよね。「お前、そんな覚悟があるのか？」っていう。そこで「やっていける！」って言えるか言えないか、その覚悟の差だと思うんですよね。社長は最初から選手の意向を汲む方向でいますから、絶対に「ダメだ！」って止めたことはいままでの中でないんですよ。そこまで覚悟がないから社長も思い切って出せないっていうのが現状だと思うんですよね。

——では、美濃輪選手はそうやってアピールした結果、一時退団という形になったわけですか？

船木　そうですね。どこまでの覚悟なのかはこれからの美濃輪の行動を見て判断するしかないですけど、美濃輪なんかは新しい可能性を求めて「出たい」って言ったわけですからね。一ヶ月ぐらい社長と話してましたよ。「ホントにホントに大丈夫なの？」って。でも美濃輪は失敗とか成功とか関係なしに言ってることだと思うんで、それでここから先、美濃輪がパンクラスのリングにいた時以上に光ればそれはそれで美濃輪は成功だと思うし、光らなければ、それぐらいの生半可な気持ちでしかなかったということですね。それがあたり前に自分に跳ね返ってくる世界なんで。



次にバーリ・トゥードやるなら殺し合いですね。そのかわり5億円用意してほしい

——団体としては困るでしょうけど、これってかつての新日本プロレスを飛び出した船木選手と一緒ですもんね。

船木　一緒ですね。何をやるのか全然わからないし、何をやりたくて出たのかもわからないし。ただ、そこで団体にいた時以上のことをやらないとファンはついていかないでしょうね。それでダメになったら「何やってんだ！」って世界ですから。そのぐらい真剣勝負で一人でやっていくっていうことは自分に返ってくるっていうのがありますから。単純は単純なんですよね。頑張らない奴は下で、頑張れば上に上がれるんですから。

——キャラクターを買われて、DEEPであったり今回、新日本に出た謙吾選手なんかはどういう感じで見てますか？

船木　謙吾はプロレス界で欲しがってるところあるんだから、俺個人としては出てもいいと思うんですよ。だけど本人は入ったからには何か一つ自分で納得した感覚を得てからじゃないと転向はしたくないと。謙吾は謙吾なりにそういう気持ちでやってるんでホントに痛い思いをして、「ここまでやってもダメなんだ」と納得するまでは負けてもやり続けると思いますね。

——新日本の上井さんなんかもデビュー当時から謙吾さんを「欲しい」って言ってたらしいですけどね（笑）。

船木　でも難しいですよね。本人が今のままで燃え尽きたい。何か一つ結果を残したいっていう気持ちでやってるらしいんで、逆にそこまで追いつめられてるからカチカチになっちゃってるかもしれないですね。この間の試合（5・2LYOTO戦）も負ける相手じゃないし、それほどの決定的なものを喰らってるわけじゃないのに自分が固くなって動けなかった気がしますよね。

——冨宅選手なんかU－STYLEに出たらいいんじゃないかなと思ったりするんですけど。

船木　出るんじゃないですか。

——あ、そんな話があるんですか⁉



ふなき・まさかつ■本名・船木優治（まさはる）。1969年3月13日、青森県弘前市出身。史上最年少15歳で新日本プロレスからデビュー。その後、第2次UWF、藤原組を経て、93年にパンクラスを設立。2000年5月26日、ヒクソン・グレイシーに敗れ引退。現在は俳優として活躍しているが、現役復帰を望む声は未だ後を絶たない。

船木　誘われてるのか「出たい」って言ってるのかわからないですけど。元々、冨宅はUWFに憧れて入って来た選手ですから、ここにきて憧れてるものに対しての本音が出て来てると思いますよ。確かにパンクラスを作った当初は、藤原組を解散して、「じゃあ、これから何をやっていくか」ってなったときに、「俺は真剣勝負の試合をやってみたい」、「お前はどう思う？お前はどう思う？」っていう感覚で聞いたんですよ。そしたらみんなが「自分もそう思います、自分もそう思います」って言ったんですけど、それは俺が先輩だからそういうふうに言ったのかもしれないし、解散して次に働く場所がないから言ったっていう選手も中にはいたかも知れないですよね。だから今、本音というか自分がホントにやりたい事を残り少ない選手生活の中でそれぞれが追求し始めてるってことは俺はいいことだと思うし。でも、高橋は真っ先に「真剣勝負をやりたい」って言ってましたから、あいつは真剣勝負の世界で生きていく人間だと思いますね。

――旗揚げメンバーが、それぞれ自分の道を追求し始めた中で、船木さんはＴＶの『ＷＲＥＳＴＲＥ―１』で「謎のマスクマンが現れた自分だと思ってくれ」って言ってましたけど（笑）、これは本気にしちゃっていいんですか？

船木　なんか言ってましたね（笑）。

プロレスのリングに上がる時はパンクラスを捨てて、そこの所属選手になります

――そんな他人事みたいに（笑）。

船木　だけど、実際にそれをやると考えると凄い重荷ですよね。どうやってインパクトを与えようかと思ったり、果たして何が受けるのかってわからないし、今それをやって受けるのかっていうのはやってみないとわからないですから難しいですよね。

――でも、スター不足が深刻なプロレス、格闘技界ですから、どこも船木さんみたいなタマは欲しいと思いますよ（笑）。

船木　実際、ある団体から話が来ましたよ。

――え！　オファーが来たんですか!?　それって5・1ドームのOBバトルロイヤルじゃないですよね？（笑）。

船木　いや、違います（笑）。ちょうどその時に膝を撮影でケガしてたんで、出ようと思っても出れない状況だったんですけど、そういうこともありましたね。

――では、もう一回だけ、総合格闘技とかバーリ・トゥードっていうのは考えないですか？

船木　次、やるんだったら殺し合いですね。そのかわり5億用意してもらわないと（笑）。

――5億で殺し合いですか（笑）。

船木　相手にも5億、俺にも5億。勝っても負けても、死んでも生きても5億ですね。そのぐらいのリスクだと思うんで、その人が関わってるまわりの人たち、家族を含めての5億ですね。人間の命ですから、そのぐらいはやっぱり5億で片付けるっていうのは確かに軽いかもしれないですけど、5億あれば、ある程度納得して生活もしていけると思うんで。

――いやぁ、船木さんのvs桜庭戦とかvs田村戦は誰もが見たいと思いますけど、殺し合いとなるとさすがに難しいですね（笑）。

船木　相手が了承しないとっていうのもあるし、プロレスの話が来た時も、やらないか、パンクラスを離れてそこの所属選手になっちゃうかどっちかですね。

――そこまでちゃんと具体的に考えてたんですか!?

船木　俺はそのぐらいの気持ちじゃないとできないって意味ですね。一瞬だけのエキシビジョンっていうのは俺の中にないし、やるって決めたらパンクラスを捨てなきゃいけないと思ってるんで、完全にビジネスとして割り切るしかないなって思いましたね。

――じゃあ逆に、パンクラスの選手には「やりたい事があるんだったらそういう信念を持って欲しい」ということですね。

船木　そのぐらいの気持ちで考えないとファンは納得しないですから。やっぱり真剣に物事を考えないと。

――わかりました。これをパンクラス10周年のメッセージとして受け止めさせていただきます！

船木　10年というちょうど区切りで、ここから15周年があるかどうかっていうのもこれからの選手の頑張り次第ですよね。ただ単に次の5年も同じ事をやりますっていうんじゃ、ファンはそこまで人は良くないですから。いまよりもっと盛大な15周年になるかどうかはこれから自分たちが作っていくものですからね。

【03年5月12日／パンクラス事務所にて収録】

PANCRASE 2003 HYBRID TOUR

5.18 横浜文化体育館







パンクラス頂上対決は意外な結果に!

菊田、薄氷ドロー防衛

近藤、体中マグマ爆発!!



3R、菊田が渾身のタックル！　これを切った近藤は上からパンチを連打！　大「近藤」コールの中、あと少しというところまで追い詰めるが時間切れ。判定は1－1でドロー。



しかし、3Rは近藤の打撃がヒット！　強すぎるダーティー・チャンプに対して天然ベビー・フェイスが怒涛のカンバック！　アメプロ的な展開のガチンコ勝負に場内は大興奮！



グランドの展開では菊田が有利、というか強すぎる！　1、2Rでは上を取り近藤を封じ込める。近藤もハーフガードなどでしのぐが、菊田はパス。マウントポジションも奪って見せた。



いつもの「不動心」Tシャツではなく、パンクラスのロゴが入ったTシャツを着て登場した近藤。パンクラスを背負う意気込みで外敵GRABAKAの大将・菊田との大一番に臨んだ。

初来日のエバンゲリスタ・サイボーグに要注目!



三崎和雄（GRABAKA）vs久松勇二（TIGER PLACE）は意地と意地がぶつかり合う激しい試合に！　3R2分34秒、チョークで三崎が勝利！



渋谷修身vsエバンゲリスタ・サイボーグ（アカデミア・ブドーカン）は1R1分20秒でサイボーグが豪快なパンチでKO勝利！　試合後、メインの勝者との対戦をアピールした。



郷野聡寛vsフラービオ・モウラ（アカデミア・ブドーカン）は、距離を取って相手の打撃を封じ込めたところで郷野の打撃が的確にヒット！　2－0で判定勝利を奪った。

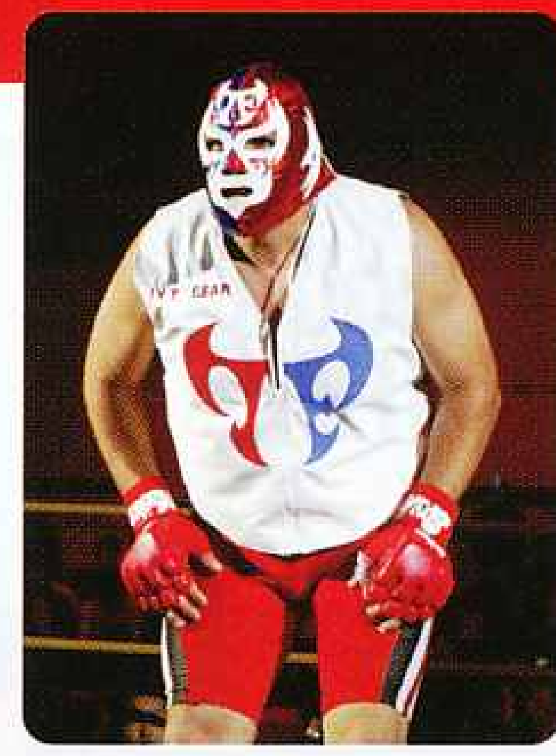
美濃輪パンクラス退団!
海外武者修行に出発!!



第一試合開始前、リングに登場した美濃輪育久は無期限での海外修行に出ることを発表した。「自分で納得するまでは帰ってくるつもりはない」と言うだけあって、尾崎社長も契約を結ばずに送り出すことになった。鈴木も「最後まで無謀でした」とは言うものの、あたたかく送り出す構え。行き先も、期限も決めず、修行の旅に出る美濃輪が日本に帰ってくる時には、どこにどんな姿になって現れるのか。期待しよう！









5.5DEEP　ルチャ・バレトド軍団またもや1勝もできず!

されど、やっぱり叫ぼう!

VIVA! メヒコ!!

LOVELY PORKY

ブラソ・デ・プラタ

「楽しいルチャを
やってるからこそ
道化じゃないことを
リングの内外で
証明しなきゃ
ならないんだ!」

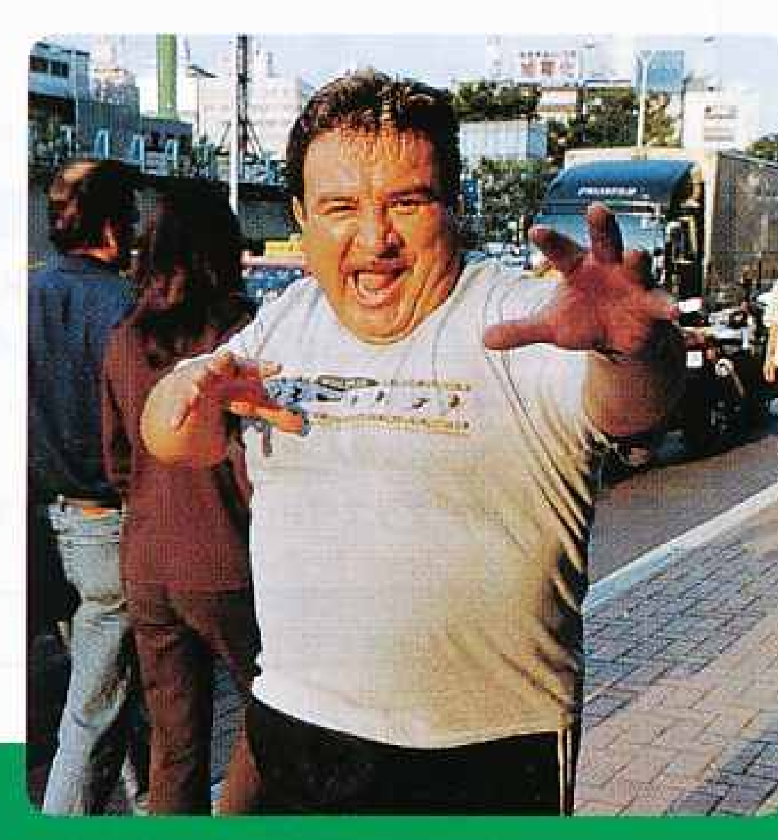


あのポルキー（豚）こと、ブラソ・デ・プラタが遂にVT出場!
プラタと言えば、コミカル・ルチャの代表選手ながら、
一歩控室に戻ると「メキシコ喧嘩最強」の呼び声も高い
ルチャの裏番長として有名だ。そんなプラタに
5･5DEEP矢野卓見戦の2日前、
ルチャドールにとっての"強さ"について大いに語ってもらった。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／松本崇　試合写真／乾晋也
designed by matsu（Two three）









飛べない豚はただの豚だ
カッコイイってこういうことさ!

――プラタさん、初めまして！ 実は『紙プロ』はルチャドールのバーリ・トゥード を応援してる雑誌なんですよ！（といって『紙プロ』バックナンバーをわたす）

プラタ おお！ 素晴らしい！

――というわけで、遂に〝メキシコケンカ最強〟と呼ばれるプラタさんが出てきてくれたので、『紙プロ』的にも実に嬉しいです！

プラタ グラーシアス！ まぁ、確かにリング内外で問題が起こったときは、控室で「ちょっと来てくれ」ということは頻繁にあったからねぇ（笑）。

――頻繁にありましたか（笑）。

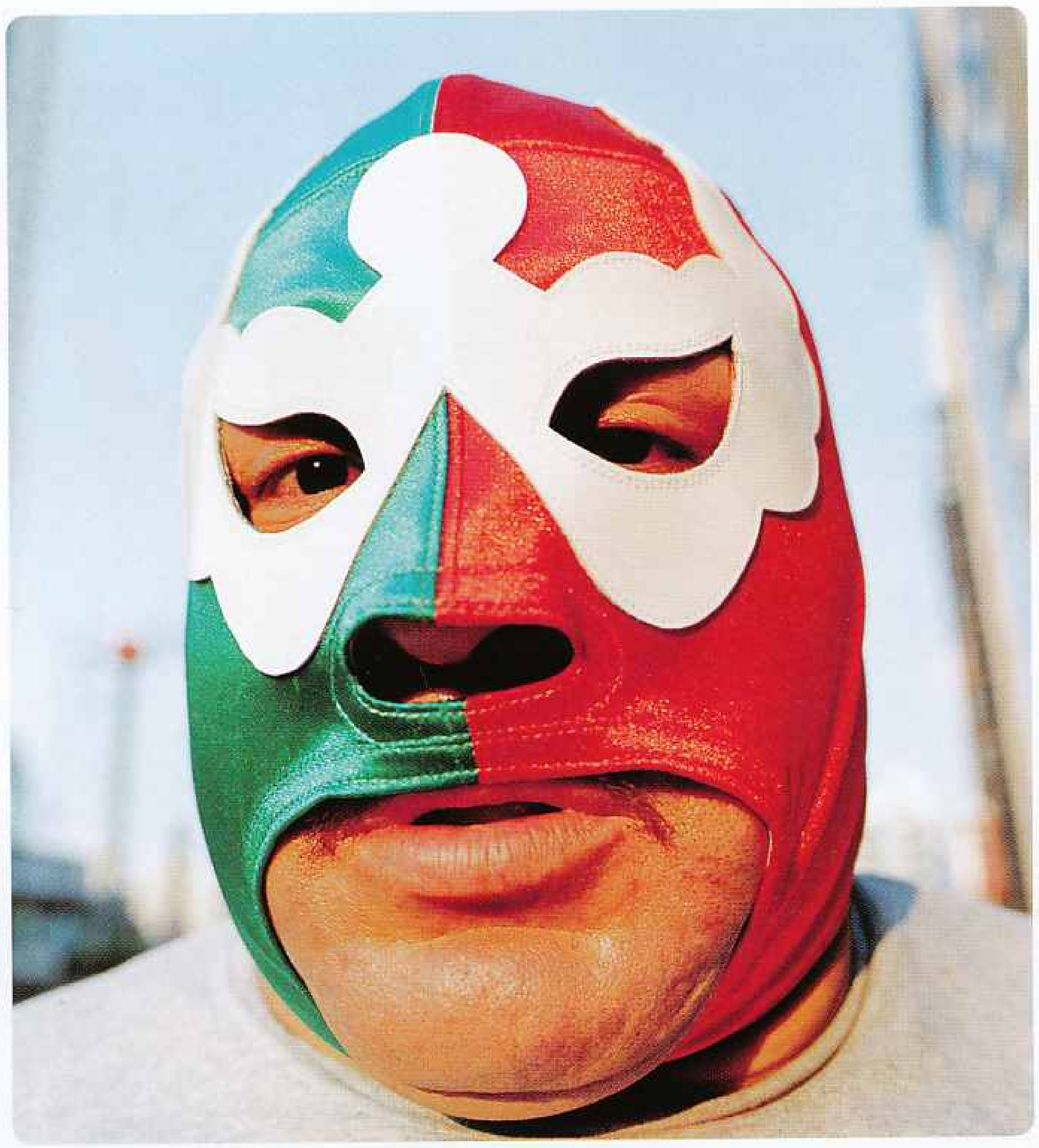
プラタ それから、ときどき道端でも「ルチャドールなんて大したことない」とか「ルチャはインチキだ」とかバカにするヤツがいたら、路上だろうがどこだろうがキッチリと分からせてきたよ（笑）。

――おぉ～、身体を張ってルチャリブレを守ってきたわけですね！

プラタ やっぱりメキシコでも「ルチャドールは弱いんじゃないか」とか「道化だ！」とか言う奴は多いんだ。それを「これでも道化か？」と分からせるのがルチャドールの使命でもあるんだよ。

――リング上では非常にコミカルなプラタさんが、一歩リングを離れると、ルチャの凄みを証明してきたんですね。

プラタ その通り！ やはりルチャの世界



フジナミ、ハマダ、パクチューがカール・ゴッチ式の練習をしていたから一緒にやったんだ

BRAZO DE PLATA

にも新人や海外から来た選手など、新しい選手がどんどん入っている。そういう選手たちはポルキー（プラタの愛称＝スペイン語で「豚」の意）のルチャを冗談でやってると思っている奴が多いが、そんなときは「冗談じゃない」ということを示さないと馬鹿にされるからね。ルチャドールにとって、そういった力は重要だよ。そのために、シュートの技術も磨いてきたしね。

――シュートの技術ですか！

プラタ そうだよ！ そんなもん7歳からやってるよ！

――シュートを7歳から！

プラタ シュートだけじゃない。オリンピカ（フリースタイル）、グレコ、サブミッション、ジャベ、そして伝統的なルチャリブレをみ～んな学んできたんだ。

――それはルチャの学校で学んだんですか？

プラタ いや、パパがルチャドールだったから、いつも家にはルチャドールがたくさん来ていたんだ。だから兄弟であるプラソ・デ・オロ、エル・ブラソと一緒にいつも彼らについてまわって、一緒に練習させてもらっていたんだよ。でも、パパは僕らをルチャドールにはしたくなかったみたいなんだ。だからいつもパパにはナイショで練習して、ママにだけ「僕はルチャドールになるよ」と言ってたんだ。

――プラタさんもルチャドールに憧れたんですか？

プラタ うん。やっぱりルチャの一家で生まれたので、ポルキーもルチャリブレを愛してるんだ。パパの影響だな。子供の頃からジムに出入りして、一緒に練習させてもらって、ジムや会場の掃除とかをやっていた。それで一番最初のデビューはチャリト・クロスというパパの名前でやったんだが、次にプラネタ（プラネット）に変身、それからオカマスタイルでもやったことがあるよ（笑）。これは15歳のときだね。

――15歳でオカマスタイルですか（笑）。となるとデビューは何歳なんですか？

プラタ これは内緒なんだけど、14歳にデビューしたよ。メヒコはライセンスがないと試合ができないんだけど、内緒で試合したんだ（笑）。

――ライセンスはごまかしたんですか？

スリルと笑いが同居！ これぞDEEPの名勝負だ!!

矢野卓見
2R22秒
ヒールホールド
ブラソ・デ・プラタ





そしてゴング。パンチでKO狙いのポルキーに対して、矢野はいつものように半身で蹴っては逃げる戦法で、デブとヤセの追いかけっこに。やってる本人大マジメながら館内は大爆笑！



リングに上がると四方に「押忍!」と気合いを入れるポルキー。やる気満々だ! コスチュームはアマレス風吊りパン。ちゃんと「PORKY（豚）」と入れてあるのがいい。



陽気なテーマ曲に乗って、メキシコ応援団が立ち上がって踊る中、ポルキーは美女を帯同して入場。ジャンパーで得意の“股こすり”まで披露! これからVTが行われるとはとても思えない!

プラタ　ノー問題！　コミッショナーに言われても「あ〜、忘れちゃった。スイマセン」とか言えばなんとかなったんだよ（笑）。

——ちゃんとしているようで、いい加減なんですね（笑）。14歳でデビューということは、デビュー前からルチャの練習と一緒にシュートの練習もしていたんですか？

プラタ　その通り。日本人のフジナミ（藤波辰爾）とよくやったよ。

——ドラゴンとシュートの練習ですか！（笑）。

プラタ　フジナミ、ハマダ（グラン浜田）、それからパクチュー（木村健悟）がカール・ゴッチ流の練習をしていたんで、それをいつも見ていたら「一緒に練習しよう」と言ってくれたんだ。だからフジナミはポルキーの先生だよ！

——へ〜。そういったシュート方面の練習というのは、他のルチャドールもやっていたりするんですか？

プラタ　ポキート（少し）。いまは昔と違って簡単にルチャドールになれるんだけど、昔はルチャの練習ももちろんしたけど、グレコの練習をその前にやったり、段階を踏んでルチャの練習をしていたんだ。

——では、昔のルチャドールは格闘技に近かったということですか？

プラタ　日本のアミーゴたちはルチャと言えば、空中戦を想像するだろうけど、グラウンドの固め技がかなりを占めていたんだ。ルチャドールというのはシュートを知らなくちゃいけない。飛ぶだけじゃないんだ。そして賢くなければならない。グラウンドもできて、頭も良くなくちゃならないんだ。

——プラタさんのケンカの話もよく聞きますけど、それは十代の頃ですか？

プラタ　そうだね。ボクはいつも路上でやってたんで、みんなボクのことを「路上のチャンピオン」と呼んでいたよ（笑）。



——路上のチャンピオン！　メヒコのマルコ・ファスだ（笑）。

プラタ　いまは息子もいるし、奥さんもいるから、我慢してるけど、問題が起きたらいつでも処理するよ（笑）。

——いまは凄く人当たりがいいプラタさんですけど、昔は〝ワル〟だったりしたんですか？

プラタ　ポルキーは吸ってないけど、マリファナ吸ってる奴とよくケンカしたよ（笑）。そしてポルキーが勝つと、奴らは「ポルキーと一緒にトレーニングしたい」と言ってくるから、みんなアミーゴになって更正して「チャンピオン、ありがとうございます」と言っていたよ（ニッコリ）。

——ワルを更正させる方でしたか（笑）。

プラタ　若いときからルチャドールだったから、仕事がいっぱいで悪いことなんてする暇はなかった。でも、新人でお金がないころは靴磨きのバイトとかもしていたよ。公園で靴磨きをしていたりすると、ボクサーがロードワークに来るんだ。すると、「彼らもスパーリング相手がほしいだろう」と思って、勝負を挑んだりね（笑）。

——ガハハハ！　通りすがりのボクサーにもケンカ売ってましたか（笑）。メキシコシティーって、治安があまり良くないところだと思いますけど、危険な目にあったりしたことはありませんか？

プラタ　そんなのいつもだよ！　いつでも泥棒が入るのがメキシコシティだから！

——いつ何時、誰のモノでも盗みますか（笑）。

プラタ　だから泥棒ともよくケンカしたよ。一度、40人の窃盗組織とケンカしてさすがに負けてしまったこともあるんだ。これはポルキーのケンカ歴で唯一の負けだよ。でも、すぐにルチャドール仲間に電話して復讐に向かったんだ。そしたら、テハノ、タンバとか、たくさん集まってくれて、みんなで窃盗組織をやっつけたんだ。

——ルチャ軍団が窃盗団を倒しましたか！　ミル・マスカラスの映画みたいですね（笑）。でも、カト・クン・リーは以前「ピストルの弾を避けた！」とか言ってましたけど、プラタさんはピストルを向けられたりしたことはないんですか？

プラタ　ずいぶん前の話になるけど、一度、



ようやく矢野を捕まえたプラタは、ネックロックの体勢のまま、矢野の首に全体重を浴びせかける。危ない！　首の骨が折れかねない危険なシュートテクニックだ。



なんとかネックロックを逃れた矢野は下からの十字を狙うが、プラタはこれも体重を掛けて外し、偶然か必然かパスガード！　そして顔面にパンチを叩き込んでいき、矢野は鼻から大流血！

1Rまさかの劣勢を強いられた矢野は、足下に潜り込むようにヒールホールド！　プラタはしばらくこらえてパンチを振り下ろしたが、矢野がさらに力をこめると遂にタップ！　矢野、大逆転勝利だ！





闘い終わり、健闘をたたえ合う両者。面白くて、ハラハラドキドキさせて、そしてスッキリと決着が付く。プロレス以上に理想的な「プロレス」を見せてくれた両者に拍手！

銃撃戦になったことがあるよ。
——じゅ、銃撃戦！
プラタ　奥さんといっしょにレストランに行ったんだけど、そこでタコスを食べてたら、突然、奥さんが「食べちゃダメ」って言うんで、何かと思って後ろを見たら、ピストルを持った6人の強盗がレストランに入ってきたんだ。その後すぐに警察も来て、他の客が人質みたいになって、間もなく銃撃戦が始まった。ポルキーはピストルを持ってなかったから這って逃げたんだけど、奥さんがたまたまピストルを持っていて、ポリスと奥さんが一緒になってピストルで強盗と闘ってるんだよ（笑）。ポルキーはその下を這って逃げるだけなのに（笑）。それで、警察とワイフの活躍により、見事強盗を取り押さえたんだ。
——凄まじい奥さんですね（笑）。でも銃撃戦まで経験してたら、リング上でやるバーリ・トゥードなんて怖くないですよね。
プラタ　うん。リングで恐れたことはないよ。だから、なぜポルキーがバレトドをやるのかと聞かれたら、「いつもケンカをやっていたからだ」と答えるんだ。
——先ほどはルチャドール同士のケンカの話もしてましたけど、それはどういったときに揉めるんですか？
プラタ　いろいろあるけど、タッグパートナーとケンカすることが多いな。やっぱり試合中、お客さんみんなが「ポルキー、ポルキー」って、ボクだけに声援が集まるから「なんでお前だけいいところ取るんだ」なんてイチャモン付けてきたりするんだ。そうしたら、控室で分からせてやるんだよ（笑）。
——そんな嫉妬が原因ですか（笑）。
プラタ　プロレスラー同士のケンカなんて、世界中どこでも原因はジェラシーばっかりだよ。だから、自分が上に立つにはやらなければいけない。そうすれば、ドレッシングルームで尊敬されるんだ。自分の本当の強さを示す必要があるんだよ。
——例えば、プラタさんはレスラー間で誰とケンカしましたか？
プラタ　メキシコ人ともケンカしたけど、やっぱり多いのはアメリカ人だな。メキシコマットに来るアメリカ人の中には、バンピーロ・カナディアンセみたいないい奴もいるけど、メキシコ人を馬鹿にする奴、低く見てる奴が多いんだ。メキシコのルチャドールはアメリカ人をアミーゴとして迎えているのに、我々を下に見てくる。名前は言いたくないけど、Sっていう奴なんかは、とにかく差別が激しかった。だから、もちろんぶん殴ってやったよ！　試合中でも試合後でも「俺は違うぞ」というのを見せてやったんだ！
——噂によるとカネックとも大喧嘩したって話ですけど。
プラタ　（口に人差し指をあてて）シークレット（笑）。
——やっぱりやっちゃいましたか（笑）。
プラタ　名前はイニシャルの「C」にしといてくれ（笑）。
——試合中にシュートになったりすることもありましたか？
プラタ　もちろんあるよ！　そんなもん数え切れないほどある！　例えばこれもアメリカ人に多いんだけど、ポルキーは体重はあるけど、背が低いから馬鹿にして、シュート的なものをやってきたりするんだ。その時は「ああ、そうかい。じゃあ、やってやるよ」ってことで、思い切りぶん殴ってやる。そうすると、向こうは身体がデカイのにポルキーよりずっと小さくなっちゃうんだ（笑）。だから、メキシコ人は特に強さが必要なんだ。強くなかったら、アメリカ人に馬鹿にされっぱなし、イタズラされっぱなしになる。この世界で生き抜くためには、やり返す強さが必要なんだよ。
——生き抜くために強さが必要なんですね。では、プラタさん以外にもやはり「ケンカ屋」と呼ばれるメキシカンはまだいるんですか？
プラタ　もちろんいるよ！　例えばラ・パルカ、ベスティア・サルバッヘ、ビジャノ4号、アポロ・ダンテスといったところかな。

BRAZO DE PLATA

自分が上に立つにはやらなければならない　そうすれば控室で尊敬されるんだ



——その中でもプラタさんが認める「コイツは強い」っていう選手は誰ですか？
プラタ　まぁ、一番はポルキーだけど（笑）、この中ならビジャノ4号だろうな。ビジャノ4号はホントに強いよ。
——じゃあ、彼らもバレトドの話がきたら、ほいほい出てくると思いますか？
プラタ　ああ、出てくるよ。実際、ビジャノ4号はやりたがってるよ。彼はいいよ～、クレイジーだよ！　ケンカした私が言うんだから間違いない（笑）。
——では、去年から日本でルチャドールがバレトドに出るようになりましたけど、プラタさんはそれを知ったときどう思いましたか？

DEEP INTERNATIONAL 2004

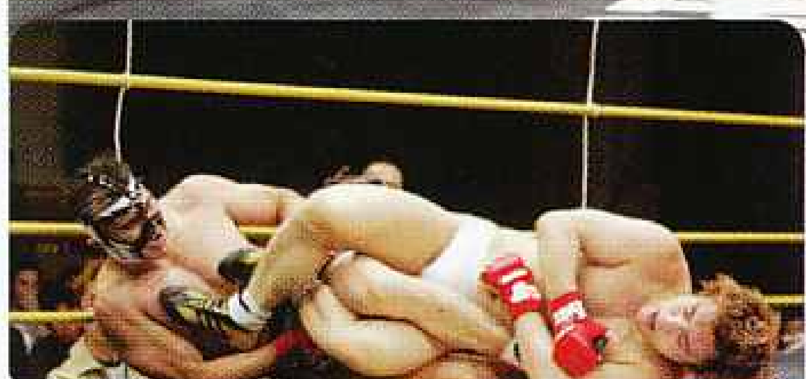
5.5　後楽園ホール

ルチャVT軍vs日本選抜5対5対抗戦はルチャの0勝4敗1引き分け!

秒殺負けに、病院送り、そして反則暴走。それでも印象に残ったのは、やはり全試合ルチャドールだった!

測定不能のド根性! エレクトロ、ヒールを耐えまくる!





因縁のパンクラスvsルチャが実現! ismの佐藤光留はタックルから一気にヒールホールドに行くが、エレクトロ・ショックはそれを必死に絶え、パンチやかかと蹴りで応酬! 一時は、ヒールを極められたままKO勝ちか?とも思われたが、2Rに再びヒールを極められ遂にタップ。エレクトロは試合後、救急車で運ばれるほどの重傷だったが、その根性には脱帽!

ドスJr.終始攻勢も反則失格負け



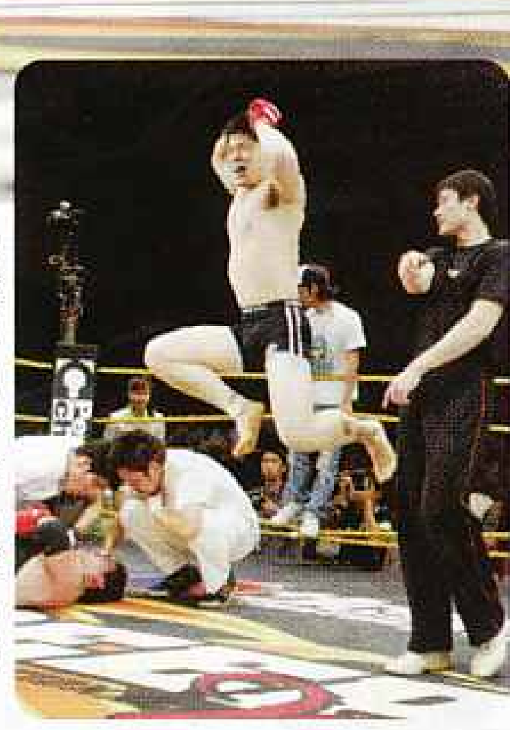




ドスJr.vs元リングス伊藤博之の大将戦。最後の砦として負けられないドスJr.は、開始早々、素早いタックルを決めテイクダウンに成功。そこから一方的に攻め、猪木－アリ状態になったところで伊藤の顔面にフットスタンプ! しかし、続けざまにロープを掴んだまま伊藤の顔面を踏みつけてしまい、伊藤は一時失神。ドスJr.は失格負けとなり、またしても大混乱の幕切れとなってしまった。

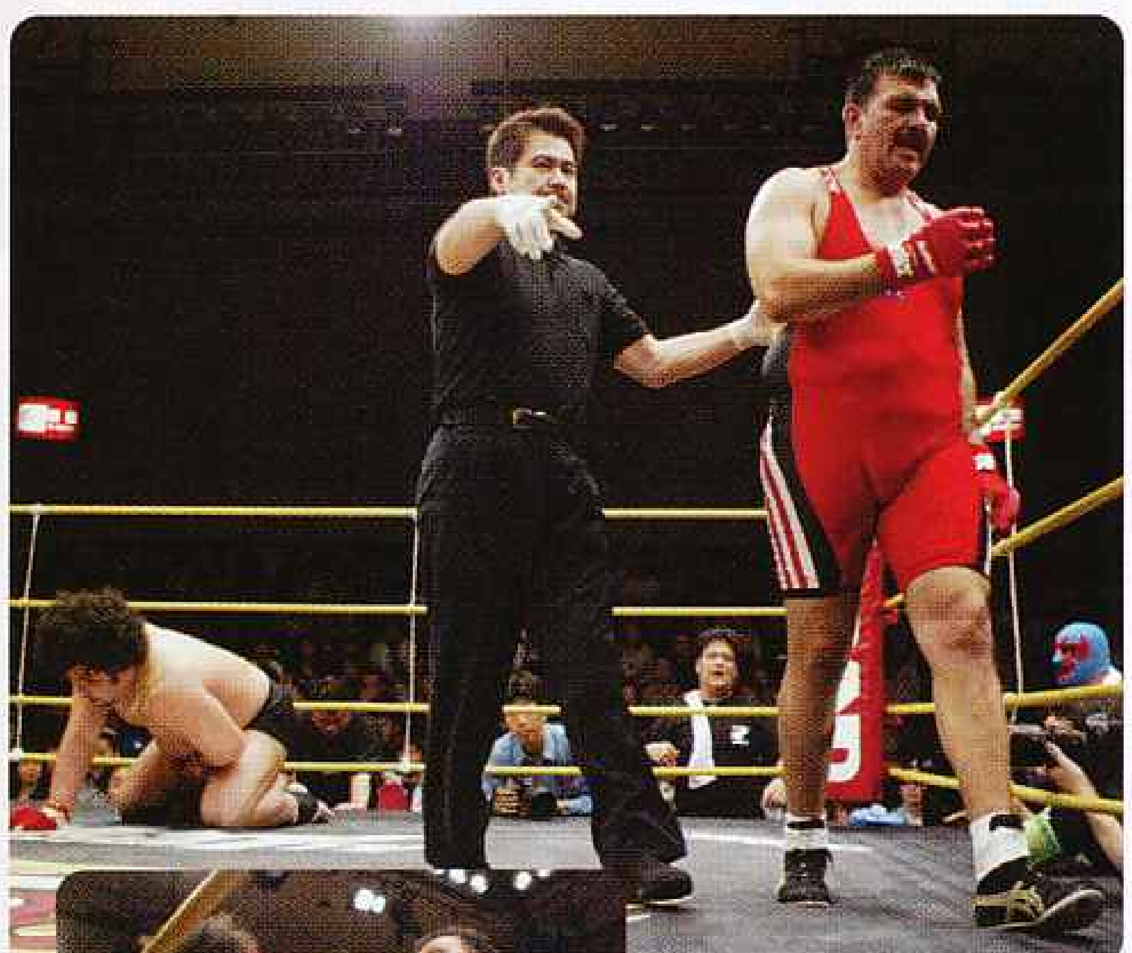
大久保、勝ってシェー! カト親子を破る





全面対抗戦の初戦は、大久保ちゃんvsカト・クン・リーJr.という、親子二代にわたるリベンジマッチ。カトはゴングと同時に、猫パンチとも違うなんとも形容しがたい不思議なパンチを連発し、なぜかこれが当たって大久保ちゃんを追い込んでいく。しかし、倒されると何も出来ず、父と同じ腕十字でタップアウト負け。何をそこまでと言いたくなるほど喜ぶ大久保ちゃんが印象的だった。

ボリクアも勝利目前に金的イエローでドロー





昨年3月大会で横井宏考と対戦し、判定まで持ち込んだメモ・ディアスこと、ベンガドール・ボリクアは、レスリング技術とパンチでジャイアント落合を追い込み、試合を有利に進める。そして3R。このままいけば、ルチャに勝利が舞い込むと思われた矢先に、ボリクアは膝蹴りを金的に入れてしまいイエローカード。結局、これが響きドロー。惜しい星を逃した。

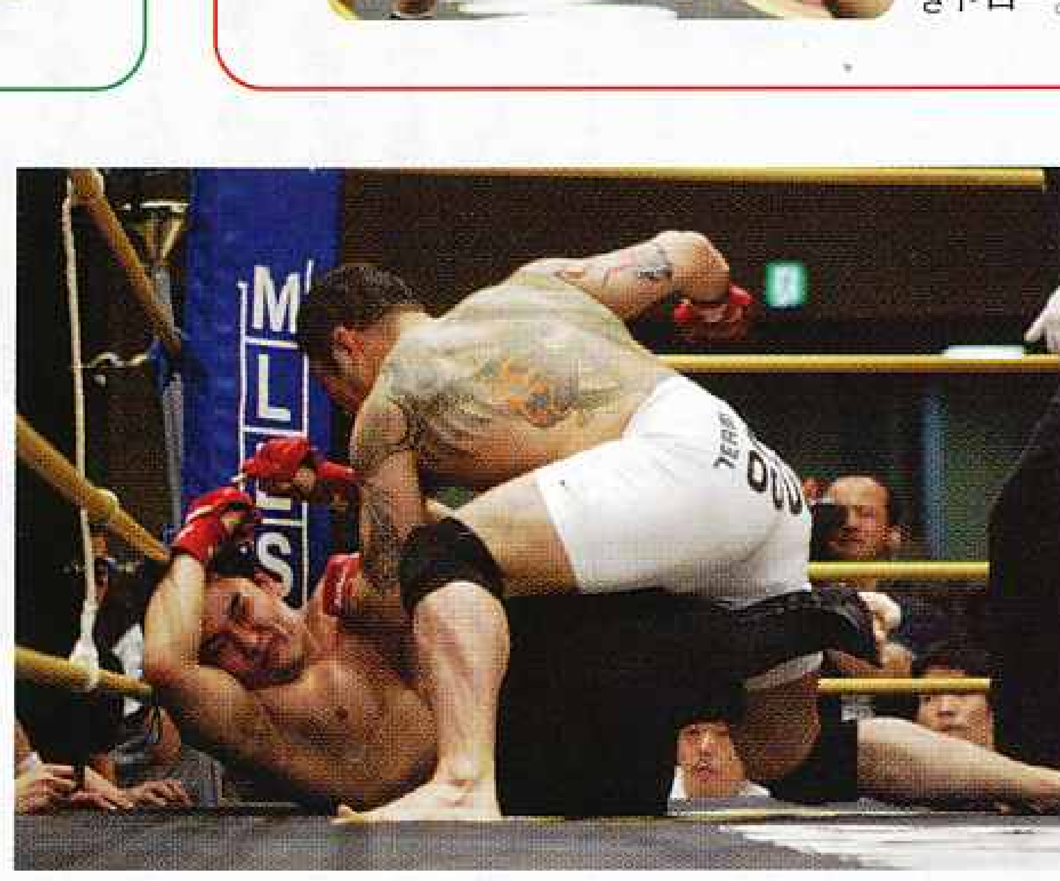
もうひとりのマスクマンクラフターMって何?



第1試合でU-FILEの越後と大戦したクラフターMは、2Rワンツーがアゴに入りあっけなくKO負け。それにしても、明らかに日本人とわかる格闘家にマスクを被せ、謎のマスクマンとして出場させるDEEPには首を傾げざるを得ない。不利を承知でマスクでVTに挑むルチャドールとは意味が違う。ハッキリ言ってルチャに対する冒涜だ。



グラバカの石川英司と修斗で活躍する桜井隆多の一戦は、意地と意地がぶつかり合う熱戦に。寝技でのドツキ合いの末、血だらけになりながら石川が最後まで攻め続け、2R4分22秒、TKO勝ち。



フューチャーキング・トーナメント82キロ以下級をオールKO勝ちで優勝した"モンモン・ファイター"藤沼弘秀は、K-DOJOの真霜を寄せ付けず1R2分9秒、KO勝ち。



小谷兄弟がセコンドについたRODEO STYLEのカツオは、深見智之に1R3分25秒、十字で一本負け。それにしても丸坊主で丸顔だからカツオなの……?

プラタ　やりたくて仕方がなかったよ！　でも、ポルキーには電話が来なかったんだ。だから今回DEEPから電話が来たとき、二つ返事でOKだよ！

——いまのところ、メキシコ勢の戦績があまりよくありませんが、それについてはどう思いますか？

プラタ　戦績は関係ないよ。重要なのは練習を積み重ねて、チャレンジすることだ。でも、ポルキーは負けたくないから動き回って必ず勝つよ！　ポルキーは太ってるけど、動きは速いし、スタミナだって十分なんだ。

——ちなみにこのバレトドに向けてどんな練習を積んできたんですか？

プラタ　一番重点を置いたのは、バレトド用のコンディション作り。このために9キロも減量してきたからね。ま、9キロ減ってもまだ131キロあるんだけど（笑）。

——まだ矢野選手の倍ありますね（笑）。

プラタ　あとはボクシングの練習もした。それからビジャノ4号、それからイホ・デ・プラタ（息子）と一緒にジムでバレトド特訓のスパーリングをたっぷりやってきたよ。彼らはポルキーの強さを知ってるからみんな応援してくれるんだ。あとは、路上で予行演習を少し（笑）。

——ガハハハ！　路上で前哨戦ですか！（笑）。

プラタ　でもそれはナイショ（笑）。いまはなるべくやらないようにしてるから。

——いまプラタさんは何歳なんですか？

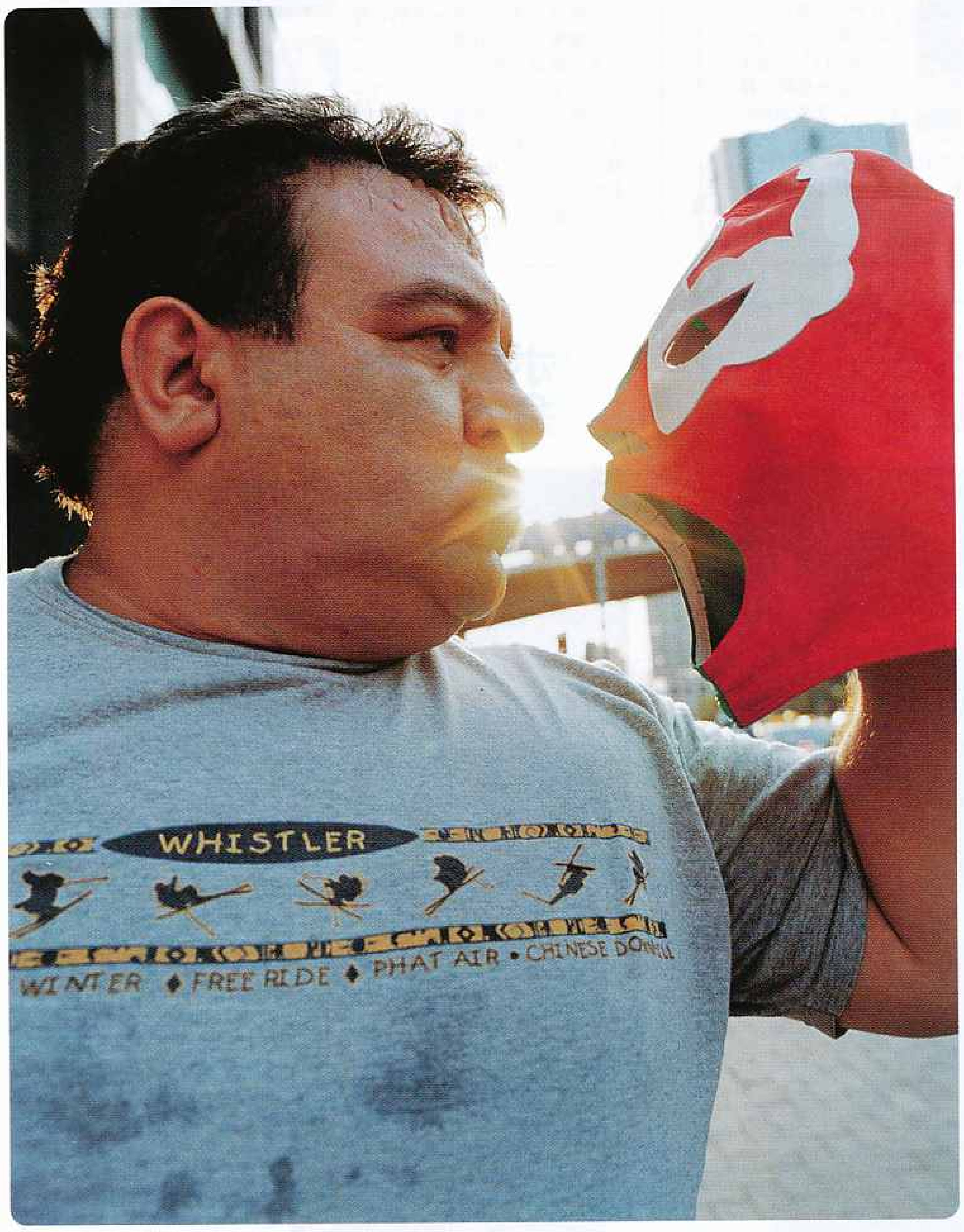
プラタ　40歳。

——40歳でまだケンカしてるんですか？（笑）。

プラタ　やっぱり好きなんだな、ケンカが。永遠にやり続けるんじゃないの（笑）。

フジナミにもゼヒ バレトドをやって欲しい 彼は強いよ！　だって ポルキーの先生だから！

ブラソ・デ・プラタ
BRAZO DE PLATA　1963年メキシコ・メキシコシティ出身。レスラー一家の三男。兄オロ、エル・ブラソとのトリオで活躍。81年新日本に初来日。90年にユニバに来日した際、そのコミカルなファイトで大人気となる。



——バーリ・トゥードのビデオを見たりはするんですか？

プラタ　見たことあるよ。バレトドで闘う人たちは、ただの乱暴者じゃないね。みんな頭を使ってるよ。賢いよ。

——誰か印象に残ってる選手はいますか？

プラタ　ブラジル人の身体のデカいチャンピオンがいたろう？

——アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラですか？

プラタ　そう、ノゲイラ！　彼のボディシザースは素晴らしいね。彼からはインテリジェンスを感じるよ。

——いやぁ、プラタさんの口からノゲイラの名前が出るとは思いませんでした（笑）。ちなみに明日の試合では、プラタさんはどんな闘い方をしますか？

プラタ　相手の方がバレトドの闘い方をよくわかってるだろうから、我慢して我慢して、チャンスをみてKOしたいね。

——対戦相手の矢野選手のことはしってますか？

プラタ　まったく知らない（笑）。ビデオもまだ見てないよ。

——研究しようとは思わないんですか？

プラタ　何をやってくるかわかったらケンカじゃないだろ？　やっぱりケンカは何が起こるかわからない方が面白いからね（笑）。

——彼は"東洋の神秘"と呼ばれていて、チョークで落とすのを得意にしてるんですけど、寝技への警戒心はありますか？

プラタ　ボクは今回パンチでKOするつもり。寝技にはなるべく行く前に終わらせるよ。バンバンバーン！ってね（ニッコリ）。

——ルチャの試合で何度も戦った後楽園ホールですけど、今回もやはり観客を意識しますか？

プラタ　それをしなかったら、ポルキーじゃないよ（笑）。でも、ルチャが好きなアミーゴたちも、みんなポルキーのバレトドを楽しみにしてくれるんじゃないかな。だからボクはルチャドールは強いってことを日本でも証明するためにリングに上がるよ！

——ちなみに昨日、東京ドームで新日本プロレスがバーリ・トゥードやってたの知ってますか？

プラタ　知ってるよ。ホントは見に行きたかったんだけど、着いたのが遅くて見れなかった。プロレスラーというのは、すべてを知っているので、そういうことを証明するのは必要だと思うよ。

——プロレスラーは本当に強いことを証明しつつ、いい試合を見せるということですね。

プラタ　その通り。それがプロレスラーだよ。昨日はフジナミも出たの？

——いや、残念ながらタクシーが追突事故を起こして、むち打ちで欠場中です（笑）。

プラタ　そうなのか、残念だな。フジナミにもゼヒ、バレトドをやってほしいね！　彼は強いよ！　なんといってもポルキーの先生なんだから！

【02年5月3日／都内・某ホテルにて収録】

DEEP 10th IMPACT　6・25後楽園ホール

マッハの相手は元UFC王者D・メネー！ 因縁ボッ発！ 朝日昇vsTAISHO

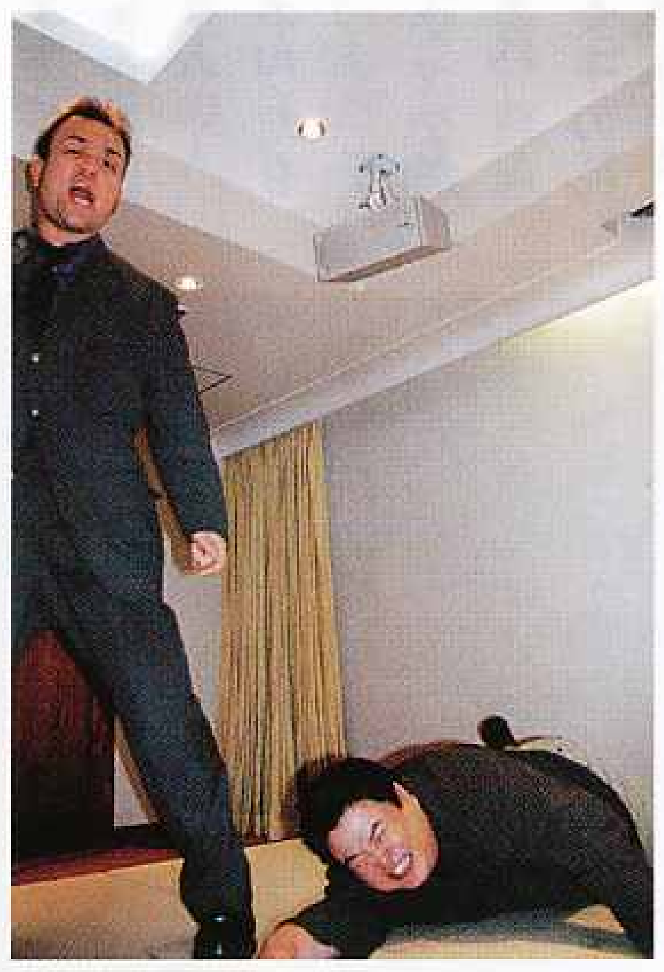


桜井"マッハ"速人
（マッハ修斗道場）



デイヴ・メネー
（ミネソタ・マーシャルアーツ・センター）

佐伯代表が入江秀忠に蹂躙された！



桜井マッハ速人の対戦相手は、元UFCミドル級王者のデイブ・メネー!! メネーは、2001年のリングス・KOK決勝トーナメントにも進出している実力者。一回戦で対戦した金原に敗れたが、金ちゃんにいわく「ダン・ヘンダーソンより全然強い」と言わしめた男である。ミドル級世界トップクラスの攻防が後楽園ホールで見られるなんて、なんと幸せなことか！　そして、2年半ぶりの復帰戦となる朝日昇は、柔術界では名の知れたTAISHOと対戦が決定。6日に行われた会見では、朝日のマネージメントを務める原校長が「正直、対戦相手には不満です」と挑発すると、TAISHOのマネージャー早川氏が「陰で修斗の事とか画策してるみたいだな。大体、お前まともな仕事してんのか!?」と突っかかり両者掴み合いの乱闘騒ぎに!!　このあと、なぜか会見中ずっと記者席の最前列に座っていた入江秀忠が「オイ、佐伯！ 3月の試合のあと俺が臆病だとか言ってるらしいな!!」と突然挑発。詳細は思い切り省略するので写真を見て頂きたいが、『DEEP』小劇場連発な会見となった!!

DEEP 10th IMPACT in KOURAKUEN HALL

6月25日（水）後楽園ホール
OPEN／17:30　START／18:30
（フューチャーファイト18:00〜）

桜井"マッハ"速人（マッハ修斗道場）	vs	デイヴ・メネー（ミネソタ・マーシャルアーツ・センター）
朝日昇（東京イエローマンズ）	vs	TAISHO（バルボーザ&NBJC）
MAX宮沢（荒武者総合格闘術）	vs	鬼木貴典（TEAM ROKEN）
入江秀忠（キングダム・エルガイツ）	vs	藤沼弘秀（荒武者総合格闘術）
大久保一樹（U-FILE CAMP.com）	vs	小野瀬哲也（フリー）
一宮章一（フリー）	vs	クラフターM（フリー）

■チケット情報
VIP ¥20,000（最前列・完売）
RS ¥12,000（残りわずか）A ¥10,000
B ¥7,000 C ¥5,000（完売）
※当日は全席種500円増し

■問い合わせ
DEEP事務局　TEL.052-339-0303

TOPICS

DEEP王者・上山龍紀『U-FILE CAMP町田』オープン!!
そして、DEEP9月大会タイトルマッチで復帰を宣言!!



ジム開設のお披露目会には、田村ほかU-FILEの選手はもちろん、坂田亘、高阪剛、佐伯代表らも駆けつけ、上山のジム開きを祝った。一国一城の主となった上山の今後に期待だ！

U-FILE CAMP町田ジム
チーフインストラクター　上山龍紀

入会金　一律　20,000円
月会費　一般　12,000円
学生　10,000円
女性　10,000円
所在地　東京都町田市原町田1-2-3（JR町田駅徒歩1分）
電話　042-739-1072
HP　http://www.u-filecamp.com



いきなり『DEEP』ミドル級タイトルマッチで復帰したい」と王者・上山。対戦相手は、現・修斗ライトヘビー級王者、須田匡昇が噂されている。

田村潔司が主宰する『U－FILE CAMP』の第2号ジムとして、愛弟子・上山龍紀が東京都町田市にジムを開設！ JR町田駅から徒歩1分（小田急町田駅からも徒歩3分）というバツグンの立地にできたこのジム。上山は『PRIDE』、『DEEP』、パンクラス、それからプロレス出場を目指す人はぜひ、自分と一緒に目指しましょう。初心者コースもあるので、少しでも格闘技に興味がある人や、もちろん女性も大歓迎です」と、幅広く形で会員を募集していく意向だ。

『U-FILE 4』開催！

6月1日（日）14:00STARAT
ボールドジムサウス東京ANNEX

予定カード
●Style-Gルール
初代軽量級チャンピオン決定戦
西内太志朗（第1回Style-G優勝）
vs 稲津航（第2回Style-G優勝）
●Style-Sトーナメント
●他、Style-U、S、G、E、各ワンマッチ

料金　2,000円

チケット取り扱い　U-FILE CAMP事務局
044-932-0282
http://www.u-filecamp.com

村浜は出場するのか!? そして田村の相手は？

U-STYLE大阪初上陸！
6月29日（日）
OPEN 16:00/START 17:00（予定）
大阪・梅田ステラホール

VIP…¥10,000・最前列（完売）
SRS…¥8,000　A…¥6,000　B…¥5,000
お問い合わせ
DEEP事務局　TEL.052-339-0303

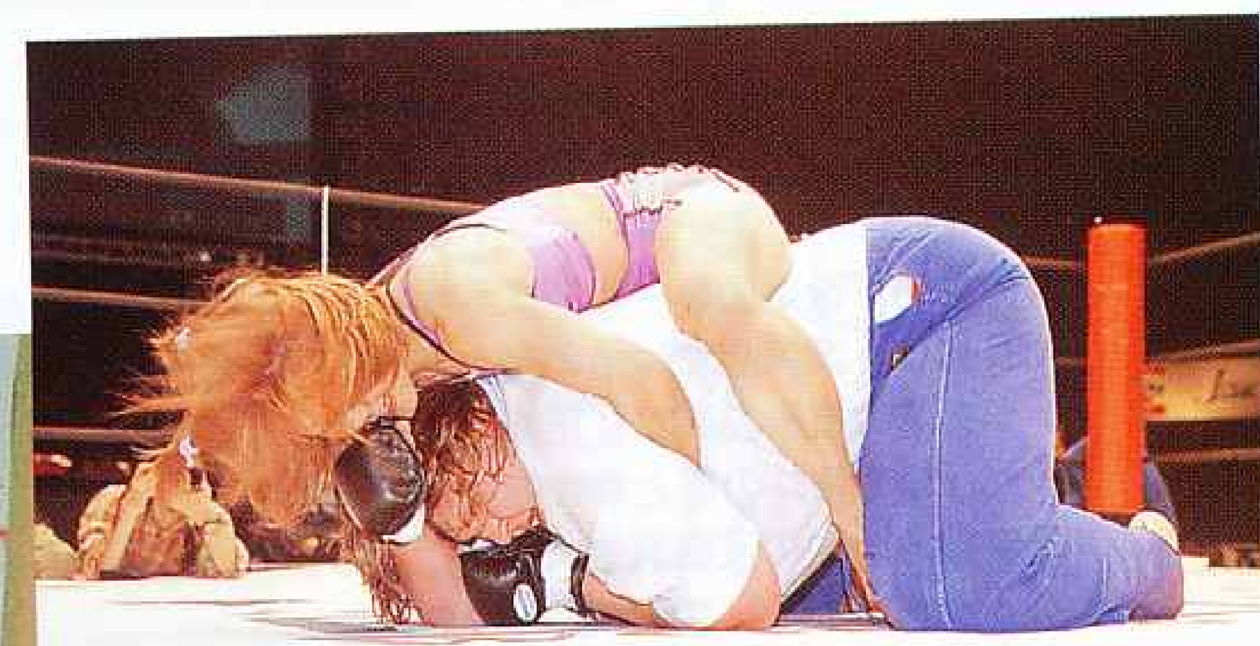
女子総合の先駆者

藪下めぐみ

昇り調子の女子総合にあえて提言!

「お金もらってリングに上がってるんだからもっとプロ意識を持たないとダメ!!」

2000年12月の『ReMix』武道館大会で、約100キロ近くの体重差があるグンダレンコと闘い、体格差の壁を見事乗り越え感動の勝利を掴んだのが、この藪下めぐみ。その後もプロレスラーとして試合をこなしながら、スマックガールなど格闘技系のリングにも上がり続けている。そんな藪下が現在の女子総合に対して言いたいことがあるというので、話を聞いてきました。





——ここ最近、昇り調子の女子総合格闘技界に何か言いたいことがあるって聞いてうかがったんですけど、どうですか、ここ最近の女子総合は?

藪下　スマックガールってReMixがきっかけでずっとやってるんですよね? 何回も潰れそうになったけど、篠さんがすっごい頑張って、ここまで持ってきましたからね。

——色々と言われたりもしてますけど、ボクも篠さんがいなかったら女子の総合は、ここまで浸透してなかったと思いますよ。

藪下　ですよね。だから、そういう人がいないと、いまの女子総合もないと思うし、あとは坂口一美ちゃんとか金井（広美）くんとか、張替（美佳）とかGF2の子や、それとナナチャンチンとかが女子の総合を支えてきたと思うんですよ、正直言って。

——あぁ〜、言われてみるとそうかもしれませんね。

藪下　星野育蒔が抜けて、スマックが分裂みたいな形になったときも、結局あの子たちがいなかったら、女子の総合ってなくなってたと思うんですよ。それがいまベルトが賭かった大会とかも出来るようになったじゃないですか? あの子たちがいたからいまがあるんだよっていうことをわかってない人が多いと思うんですよ。

——それは選手がですか? それとも見てるお客さんの方?

藪下　見てる方も最近また客層が変わってきてるんで一概には言えないですけど、昔から来てる人は凄いわかってると思うんですよ。その子たちがいたから、いま活躍してる選手もいると思うんだけどなぁ。

——ズバリ、わかってない選手が多いと感じてるようですね（笑）。藪下さんも自分の口からは言えないでしょうけど、現在の女子の総合を支えてきた第一人者ですからね。

藪下　そんなことないで〜す（笑）。で、私が言いたいのは、いま体重差云々とかルールとかにブーブー言ってる子が凄い多いと思うんですよ。

——よく耳に入ってきますね。まあ体重差って部分では男子の総合でもよく問題になるんですが、やっぱり、見てる方よりやる側は、かなり気になるもんなんでしょうね。

藪下　たしかに全く気にならないって言ったら嘘になりますよ。でも、あまりにもよく耳に入ってくるんで、それは違うやろと。

——ファンとかには、そういったことはそれほど伝わらないでしょうけど、裏側では結構問題になってるみたいですからね。

藪下　裏側はたぶん凄いと思うんですよ。第三者を通して「こっちはこう言った」「あっちはこう言った」っていうのは、お互い気分が良くないと思うんですよ。それだったら、ちゃんと当人同士が会って話をして、納得できた時点で試合をすべきだと思うんですよね。プロレスって急遽試合が決まるときってあるじゃないですか? それでもやるじゃないですか、レスラーって。でも格闘技ってどうなんですかね?

——スマックに限って言えば、カード発表は、男子の総合に比べると遅いですよね。この間のしなし vs カロリン戦は、それこそ体重云々で揉めたみたいで、大会前日発表でしたけど（笑）。

藪下　あの試合みたいに体重制限とか言い出すんだったら、まず外人とはできないでしょうね。外人さん相手にな

聞き手&撮影／松澤チョロ　designed by Tani-yan (Two Three)

ると小学生ぐらいになっちゃうんじゃないですか。しなし選手とか50キロ以下の軽いクラスになると。

——今回来日したオランダの選手とかは特にそうでしょうね。

薮下　アタシもオランダ行ったんですけど、自分の身長で小学校6年生とかうじゃうじゃいましたからね。まあ、体重は勝ってましたけどぉ（笑）。

——アハハハハ！

薮下　ホントに外人とやりたいんだったら体重のこと言ってたらまず出来ないと思う。逆に向こうに「減量してこい」って言ったらフェアじゃないじゃないですか？　日本に来るだけで時差ボケなってフェアじゃないのに。

——しかも、今回の相手は寝技をほとんど知らない選手でしたしね。

薮下　それで勝っても嬉しくないとアタシは思うんだけど。まあ外人に限らず、対戦相手の範囲を広げたいんだったら、体重気にしてたら出来ないでしょ。それに女子の総合やってる人の人口って増えては来てますけど、まだまだ少ないじゃないですか？　スマックで言っても50人もいますかね？　プロのリングに上がった子って。

——まだ、それぐらいですよね。

薮下　そのメンバーの中で、東京近郊でやってて、メンツっていうのは、そんなに変わらないじゃないですか？　でもギャラを貰って上がってる以上はプロなんだから。

——選ばれた人たちですからね。

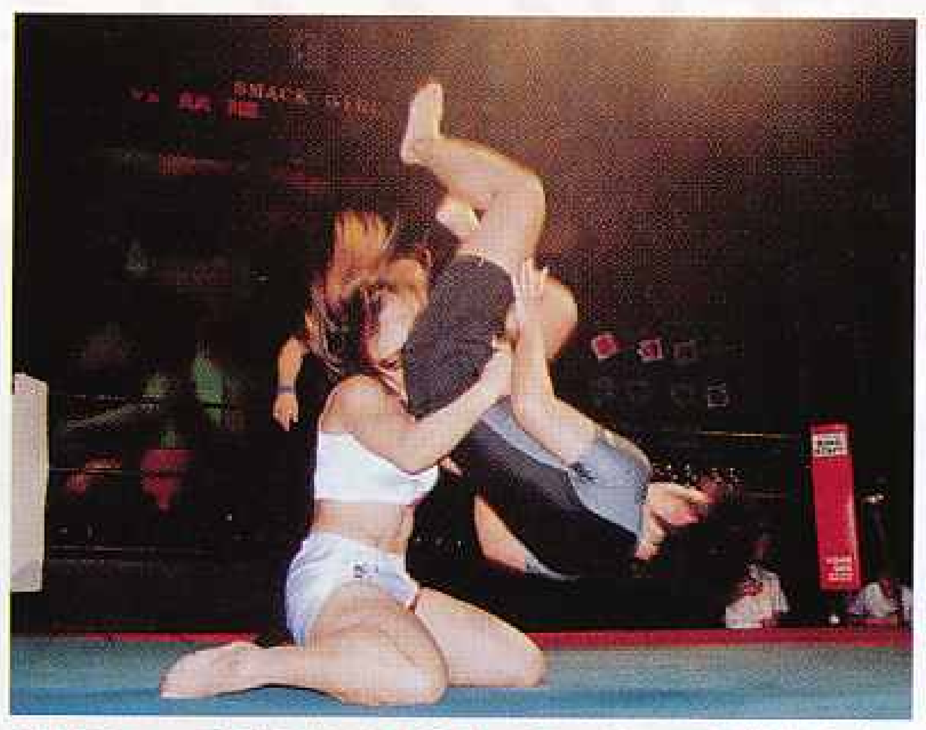
薮下　そうなんです。だから、そのルールに則ってやるべきだと思う。で、アタシも現にＲｅＭｉｘのときにルールで助けられた部分も凄くありましたけど。

——あのときは、たしかグラウンド20秒ルールでしたよね。

薮下　いまは30秒になりましたけど、そのルールで私はおっきい人とやってもグラウンドは20秒我慢すればいいやって思ったし、逆に彩丘さんとやったときは、そのルールに泣かされた部分もあったんですけど。なんでもスポーツにはルールがあるんだから、決められたルールの中でルール通りにやらないと。やっぱり選手がルールを変えるっておかしいと思うんですよね。

——男子でもグレイシーとかルールにうるさい人もいますけどね。

薮下　いや、ヒクソンとか実績を残してる人だとか、プロとしてお客さんを呼べる存在になって初めて、そういうことが言えると思うんですよ。



前回スマック登場時には完璧なパワーボムで対戦相手をマットに叩きつけた薮下。入場時にひらめいたプロレス技を出さないと気がすまないという薮下。これもプロ根性だ！

——女子の総合には、まだそこまでの存在の人がいないと？

薮下　いないと思うんですよね。もちろん、私も含めてですよ。周りのそういう風にしてしまった人たちも良くないと思うけど、これから女子の総合を盛り上げたいんであれば、ルールのことをブーブー言うんじゃなく、毎回選手同士で話して納得いくようなルールにしないと良くないと思うんですよね。そういう裏側の問題はお客さんにとっては全く関係ないじゃないですか？　お客さんにお金を払って見に来てもらってるって考えてないアマチュア頭の子が多いかなって。

——その辺はプロレスラーとしてプロとしてのキャリアが長い薮下さんは痛切に感じるわけですね。

薮下　ていうか、いろんなスポーツやってるアマチュアの子がスマックとかに上がって「プロってこんなもんか。誰でも出来るじゃん」って思われるのが凄い嫌なんですよ。アマチュアでも金メダル獲ったとか実績のある子が言うんだったらいいですよ。でも、そんな選手まだいないじゃないですか。

——まだいないですね。

薮下　それに女子の総合は、ハッキリ言ってまだレベルが低いから、正直誰が出てきても一般の素人の子の方が強い可能性だってあるじゃないですか？

——その可能性もありますよね。ただ、レベルが低くても、観客を満足させる闘いが見せられる子もいるわけだし。

薮下　そうなんです。またそこが女子の魅力かなっていう部分もあるじゃないですか？　男子みたいにズバ抜けて安定してる人って、そんなにいないと思うんですよ。まあ、重量級は別として、軽い方ではホントに大どんでん返しがあると思うんですよ。そういう女子ならではの面白さは絶対あるんで。

——そうですね。ただ、それこそ選手層も薄い中で主催者側も、ごねられて「出ない」って言われたら困っちゃうのが現状じゃないですか。

薮下　いっぱいいっぱいですよね。それはよくわかるんですよ。でも、人数少ないからって個人のわがままを聞いちゃうとキリがないと思うんです。だから、主催者がそういう風に決めたんであれば、それに則るべきだと思うんですよね。

——たとえば『ＰＲＩＤＥ』とかＫ－1のように、いやらしい話、ギャラで

5・7スマックで何が起こったのか!?



壮絶な打撃戦となったのがスマック常連の渡邊久江と初参戦の松川敬子戦。今回は同郷のガッツの応援はなかったものの、渡邊が強烈なパンチの連打で松川から見事ＫＯ勝利。まさにＯＫ牧場ッ!!



セミではゴルドー門下の美形ファイター、ファティア・アバハイヤが、３月のスマックに続き外国人選手との対戦となる久保田と激突！　反則攻撃で、らしさを見せたファイティアだが腕十字で敗戦！

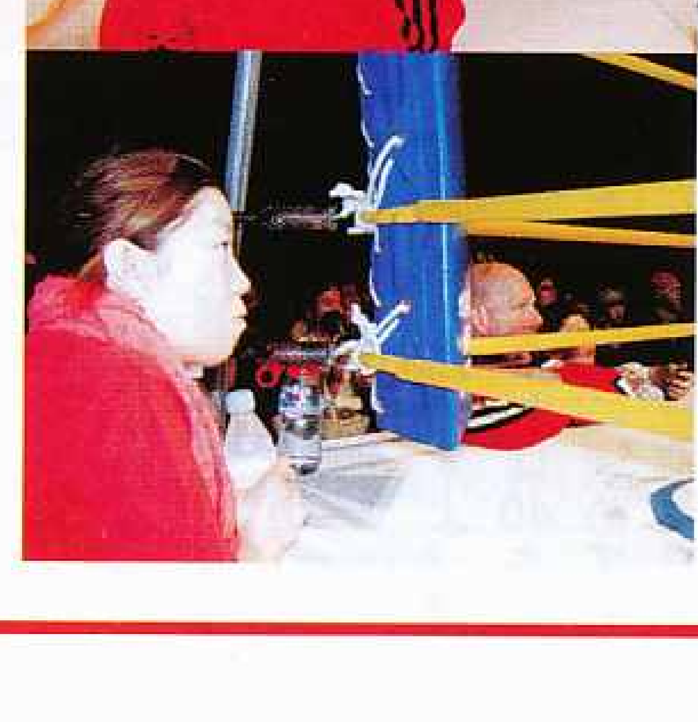


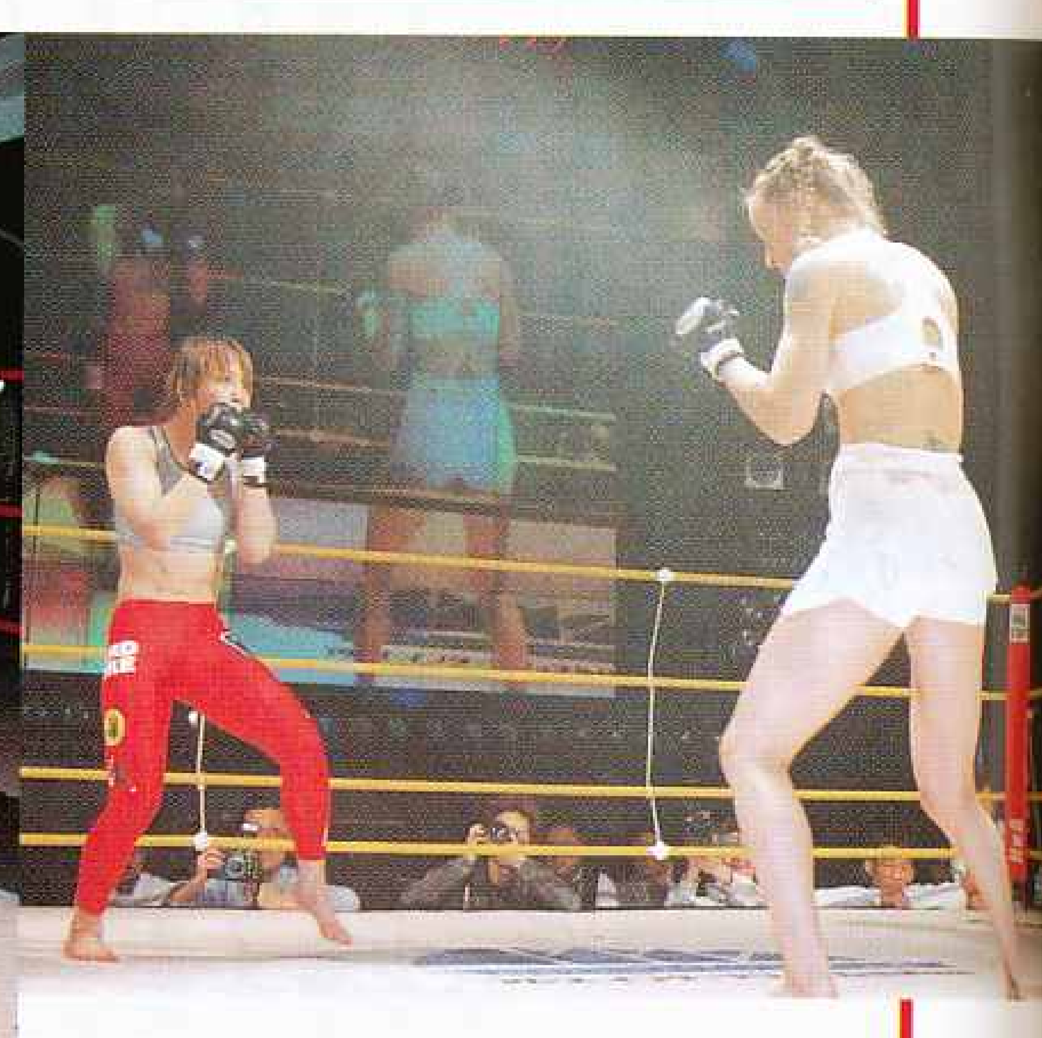
休憩明けにスマック４月大会で対戦した辻結花とＷＩＮＤＹ智美がリング上から挨拶。敗れた後も、しつこく再戦要求を繰り返すＷＩＮＤＹに辻ちゃんも困り顔。辻ちゃんの次の舞台はＤＥＥＰだ！



薮下と同じＳＯＤ所属の玉井敬子は前回スマックデビューの覆面レスラー唯我と対戦。体格差のある唯我相手にパンチで果敢に突っ込む玉井だったが、最後は払い腰からケサ固め＆首折りでタップ。







５・７スマックのメインは、なんと大会前日にカードが正式発表されるという異常事態。原因は本来53キロの選手のフブレクツと、対戦相手に50キロ以下を望む、しなし側と契約体重及びルール問題で揉めていたからだという。対戦カード発表前に自身のＨＰ上で、しなしは「外人の言い分ばかりでこっちの条件は飲んでくれないので困っている」などと書き込み、それを知ったゴルドーサイドは、かなりのエキサイトっぷりだった。結局50キロ契約として行われたこの一戦は打撃をかいくぐった、しなしが鮮やかな腕十字で一本勝ち！　しなしの相手は誰かいるのか!?　あと、見てみ、このタトゥー!!

納得させるっていうのも現段階では、まだ難しい状況だろうし（笑）。

薮下　まあ、たしかにお金で解決できるのが一番手っ取り早いですよね。「勝ったらいくらあげる」とか。それだったら、汚い言い方だけどお金で左右されたりもありそうですけど……私もそうだし（笑）。

——まあ、プロだったら、そこもこだわってもおかしくないですけどね。

薮下　プロって自分で思ってるんだったら、ギャラとかって結局自分の価値じゃないですか？　そこにこだわるのはおかしくないし、そのギャラがどこから出てくるっていったら、やっぱりお客さんのチケット代なわけだし、それだったら、自分のことはもちろんだけど、客を満足させるっていうプロ意識を持った子が出るべきだと思う。

——それは言えますね。

薮下　まあ女子の格闘家で、それだけで食えてる人は、まずいないですけどぉ。プロレスラーは別として格闘家専門で食ってるのは誰かいますか？

——ファイトマネーだけで生活できてる人って1人もいないですよね。

薮下　女子がそこまでなるには、あと2～3年かかると思うんですよ。このまま盛り上がってくれれば、そういう子も出てくるでしょうけど、いまのままじゃ難しいと思う。

——やってる立場として、盛り上がっていく可能性は感じてます？

薮下　アタシ、やってる立場とか、あんまり思ってないんですよ（笑）。ただ、盛り上がってほしいなっていうのはありますよ。ハッキリ言って、アタシとか高橋（洋子）さんとかは正直言うと土台でいいんですよ。

他の選手もナナチャンチンに負けないように、もっとプロ意識を持った方がいい！

——どんどん踏み台にして登っていってくれと（笑）。

薮下　そうなんです。だから、2～3年後が盛り上がってくれればそれでいいと思うんですよ。土台がいないと先がないと思うんですよね。あとは篠さん次第ですけど（笑）。

——それも大きいですよね（笑）。

薮下　定期的にやってるのはスマックしかないわけだし、現時点ではスマックのルールに則ってきっちりやれ、と。あんまりルールとかゴチャゴチャ言うと相手がいなくなると思うんですよ。

——でも薮下さんも前から「大きい外人とやりたい！」って、ずっと言ってますからね（笑）。

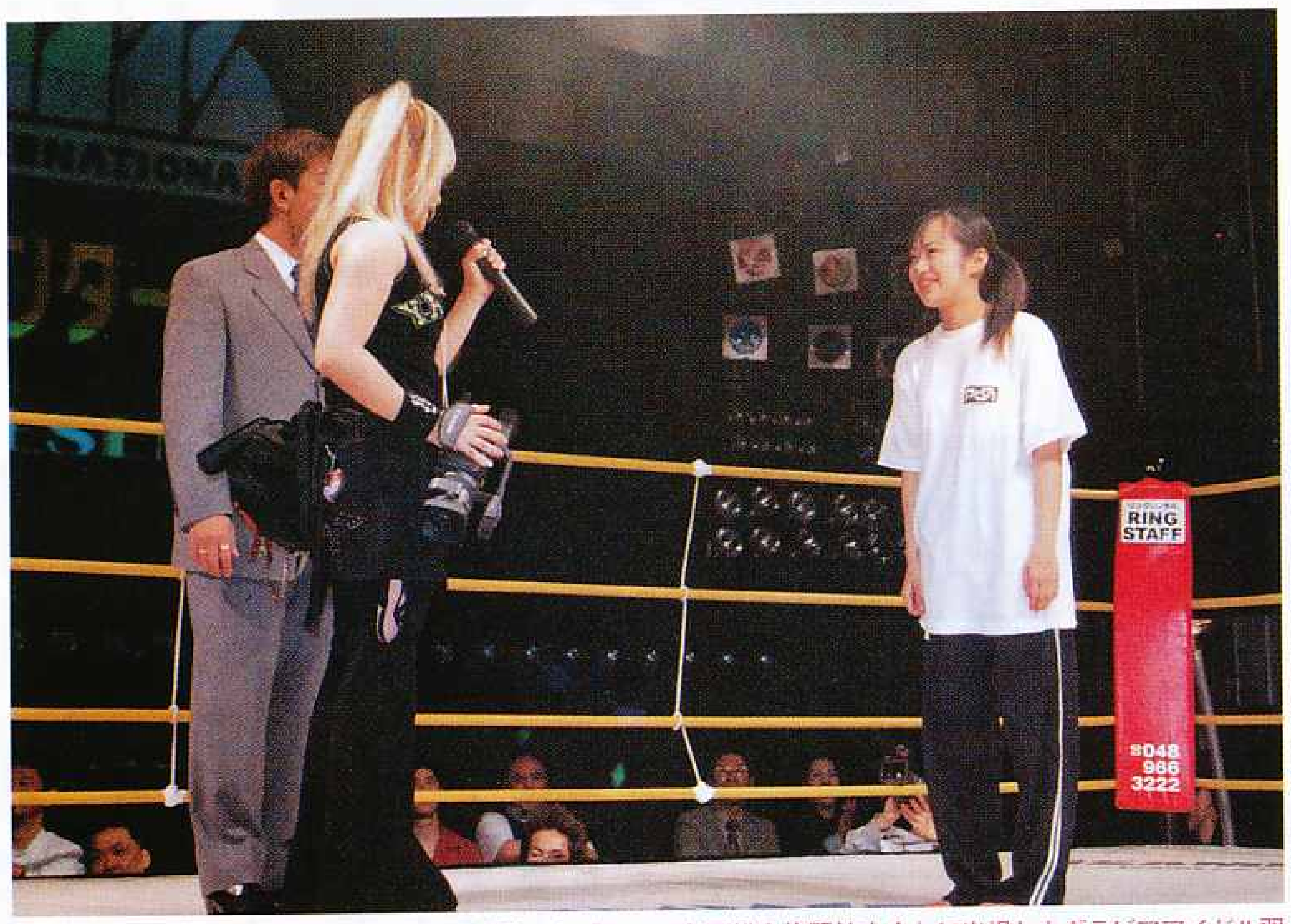
薮下　だから、人のことあんまり言えないんですけど（笑）。アタシもホントにやりたいのはおっきい外人だけど、呼ぶには当然お金もかかるんで。なので、どうしてもやりたくなったら自分から海外行ってやりま～す！

——それでもプロとしてオファーがあれば、どんな相手でも、その中で最大限のものを見せようと？

薮下　そうですね。一応アタシは、「いつ試合のオファーをかけてもらってもいいですよ」っていうことはスマックさんの方には言ってるんですよ。それが極端な話、前日であっても「体重さえ落とさなくても良ければアタシはオッケーします」って。

——減量だけは譲れないと？（笑）。

薮下　譲れない！（笑）。誰が相手だろうと減量する気はない（キッパリ）。



休憩明けには水野裕子の総合挑戦で話題を集めた「ＴＢＳ女子総合格闘技大会」に出場したグラビアアイドル羽柴まゆみ（ＢＣＧ）がリングに上がり、スマック参戦をアピール。「今日見る限り、私は、まだ強い人とはできないと思うんで、なんとかチャンチンって人とやってみたい！」とマイク。「なんとかチャンチン」扱いされたナナチャンチンも怒りの表情でリングイン。次回６月大会で実現が決定！　ナナチャンチン、遂に初勝利となるか!?

——昔も噂が出たことがある辻結花戦とか、もっと小さいですけど、しなしさんとかは体重差を気にする方なんで対戦は難しいでしょうね。

薮下　自然に体重が落ちて、お互いに納得がいく体重になって、話が合えば全然かまわないですよ、やる分には。だから、アタシは自分の体重さえ落とさなければ誰とでも全然かまわないし、負けるのも怖くないし。それが40何キロの子でも200キロでも300キロでも全然いいで～す（笑）。

——さすがに300キロはいないでしょう（笑）。でもやっぱり体重差があると面白い試合が出来ないとか、ケガする可能性も大きいってことで二の足を踏む選手が多いじゃないですか。

薮下　そうですね。まあでも体重を抜きにしてケガっていうのは格闘技やってる限り付き物だと思うんですよ。で、ケガとどういう風に友達になるかって、よくお母さんに言われたんですよ。「ケガして損するのは自分だよ」って。それ覚悟の上でやってるから、そのリスクは仕方がないですよね。でもやっぱり、おっきい人とやるとパワーも違うし体格差も当然違うんだけど、面白いんですよ（ニッコリ）。チョロさんも今度やってみてくださ～い！（笑）。

——いやいや、ボクはいいです（笑）。男子の総合とかは競技人口も増えて、階級も細かく分かれてますけど、女子も選手層が増えたら階級別っていうのはあった方がいいと思いますか？

薮下　あっていいと思うんですよ。競技人口が増えて来るんであれば40キロ台とか50キロ台とか大雑把に決めてもいいと思うから。でもいまの段階でそれを言ってしまうと、自分の対戦相手がいなくなって忘れられちゃうとか、そういうこともあると思うんですよ。ホントに強くて面白い試合をする人だったらインパクト残って、「あの人は何してるんだろうなぁ」って思われるだろうけど、いまそういう選手って何人います？

——う～ん、どうなんですかねぇ。逆にいまスマックのリングに上がってる人には、強さももちろん、競技人口を

おいでおいでカモン！
SOD女子格闘技道場！



スマックガールへゴルドーからの刺客２名が来日時、練習で使用したのが薮下も指導する『SOD女子格闘技道場』。同じく指導する高橋洋子もオランダ修行の経験があるためゴルドー一家とも和気あいあい。この日はスマックでも活躍するWINDY智美や、前号のゴルドー日記にも登場したキックの佐藤友則も顔を見せた。格闘技をやりたい女の子、全員集合!!

■営業時間 AM10:00～PM10:00
■東京都豊島区要町1-1-1要町KTビル5F
（営団地下鉄有楽町線・要町駅下車、4番出口より徒歩0分！）
■問い合わせ　TEL.03-5917-0026

増やすためにも、プロとしてインパクトを残すような試合をする選手が増えてほしいという感じですかね。

藪下　そういう選手がもっといてもいいと思うし、いないとダメだと思う。いまも、いろいろ頑張って見せようとしてる子もいるけど、それだったらナナチャンチンの方が華があるっていう気がするんですよ。思いません？

――あ、そこでナナチャンチン!?（笑）。前回のスマックでも試合前の映像でナナチャンチン不要論とかやってましたし、パフォーマンス先行で実力が伴わないんで試合させるべきではないっていう批判の声も多いじゃないですか？

藪下　いや、アタシはあの子は出すべきだと思う。負け続けててもいいと思うんですよ、あの子に限っては（笑）。

――あの子に限って（笑）。

藪下　いつか絶対勝てるチャンスはあるじゃないですか？

――ありますかねぇ？（笑）。

藪下　アタシはあると思います。だって勝ち続けるっていう方が絶対難しいと思うんですよ。

――そりゃそうですよ。負け続けるのは簡単じゃないですか？（笑）。

藪下　自分でタップすればいいわけですからね（笑）。でも、あれだけ一生懸命やって負け続けてるんですよ。それもある意味凄いと思うんですよ。本人はスッゴイ悩んでるみたいだけど、ああいう子もいないと。あれだけちっちゃくって、頑張ってるよっていう部分で、普通の女の子にしてみれば「ああいう子でも出来るんだ。じゃあ私もやってみよう！」って、思える存在だと思うんですよ。

――「ナナチャンチンだったら勝てそう」って言う子は多いですからね。

藪下　そう思わせた時点で勝ちですよ。負け続けてても「アタシとやらせてくれ！」っていう人が出てくるっていうのは、ナナチャンチンはプロとして勝ってると思うんですよ。

――女子総合の底辺拡大には役立ってるかもしれませんね（笑）。

藪下　そこなんです。もう全然ありじゃないですか。華も感じなくて「あの人、強いから嫌だ」って思われるより、「やりたい」って言われる方がいいと思うんですよね。だから、あの子は絶対欠かせないと思うし、出さないのはもったいない。それに、あの子が勝ったときは、みんな心から「良かったね」って会場は爆発すると思いますよ。

――そうかもしれませんね。

藪下　そう言わせたらナナチャンチンはプロとして一流じゃないですか。…
…ちょっと言い過ぎかな（笑）。

――調子に乗る可能性もありますけどね（笑）。でも、「あの子」って言ってますけど、ナナチャンチンは年齢サバ読み疑惑もありますし、その辺もプロですよね（笑）。ヘタしたら藪下さんより年上ですよ！

藪下　よく会場で「いくつ？」って、年のやり取りしてるから、おかしくって（笑）。おいしいとこ取りですよね。

――それに、ナナチャンチンは誰とやっても身長差も体重差もありますけど、文句は言わないですからね（笑）。

藪下　ですよね。やっぱり、ナナチャンチンって凄いかも（笑）。

――女子の総合は歴史は浅いですけど、たしかに、いままでの試合で印象に残る試合って考えたら、藪下vsグンダレンコとか星野育蒔vs鳥巣朱美戦っていう体重差のかなりある試合だったりしますからね。本人前にしてるんで言ってるわけじゃないですけど（笑）。

藪下　あぁ～、あの試合は凄かったですよねぇ。鳥巣さんデカかったですねぇ（しみじみと）。まあ自分をアピールしたかったらデカイ相手と人とやるべきですね。それは冗談だけど（笑）。

――まあ普通に考えれば、グンダレンコが出てる時点で体重制限とか言ってられないんですけどね（笑）。

藪下　でもぉ、あのとき、アタシ一千万円に目がくらんだ女なんでぇ。一千万ほしさとグンダレンコとやりたかったから出ただけですから（笑）。

――やっぱり、お金も重要ですよね（笑）。そういう意味でも“プロ”っていう意味を、スマックに出てる選手ももう一度よく考えた方がいいと？

藪下　わかってくれるのかなぁ。でもスッゴイ不思議！

――何がですか？

藪下　なんでもみんな体重のこと言うんだろう？　身長のこと忘れてんのかなぁ？　体重にこだわるんなら身長も気にしろって感じですよね（笑）。

――わかりました（笑）。じゃあ、最後に一言どうぞ！

藪下　他の選手もナナチャンチンに負けないように、もっともっとプロ意識を持った方がいいよ！（笑）。

――以上、藪下先輩から女子総合に対する提言でした！

【5月10日／豊島区・『SOD女子格闘技道場』にて収録】

女子格闘NEWS!!



スマックの7月大会にキーラ・グレイシー参戦内定が発表された。キーラは、あのヘンゾの妹の娘。まだ17歳とのことだが、ビジュアルもご覧のとおり抜群！対戦相手も含め、今から楽しみ!!

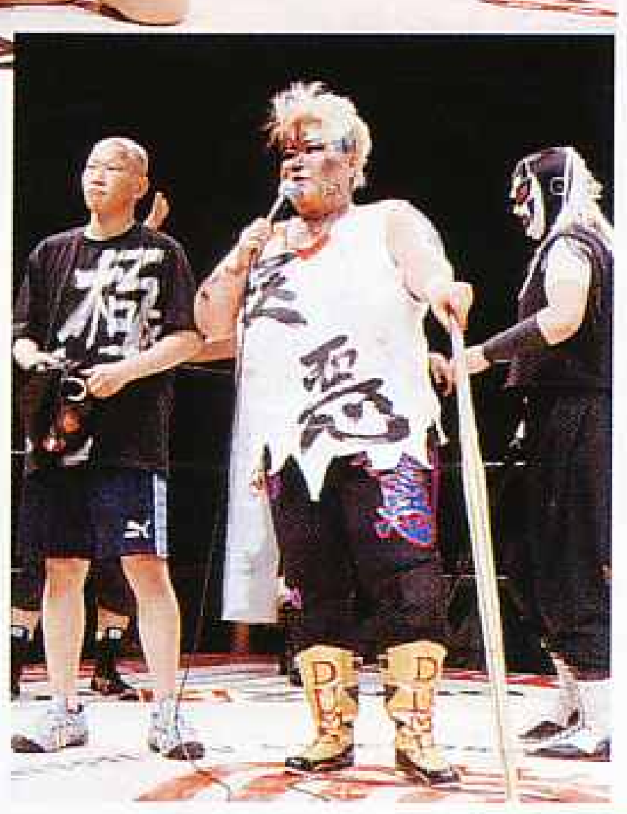


5月11日に品川区総合体育館で行われた『SmackGirl―F2』。この大会には以前『紙プロ』でインタビューした坂本奈緒子も出場。惜しくも敗れはしたが、6・4スマック出場!?



『紙プロ』的には、魔界女総裁となった小畑千代に注目。以前からの宣言どおり、試合後、神取に突っ掛かっていった小畑総裁。今後の抗争次第では念願の神取とのガチンコマッチが実現!?






敗れた藤井、スキンヘッドに変身!!

全女の35周年記念大会で組まれたバーリ・トゥードマッチは日本でも、その強さが知れ渡ってきたエリカ・モントーヤが顔面パンチ&ヒジからの三角絞めで藤井巳幸に圧勝！敗れた藤井は試合後、自らスキンヘッドになり、この日復活の極悪同盟に加入し、新リングネーム・サソリに変身！



ページ的に“ド真ん中”じゃなくて、正直スマン

巻末SPECIAL 超BIGインタビュー



健介、大好きッ!!

ヴァーッと佐々木健介

『紙プロ』初登場!!

現在の日本プロレス界で、これほど素敵な笑顔を持つレスラーがいるだろうか？ いや、いない!! 新日本時代は画面を通じてしか見る機会がなかった健介だが、WJ所属となり会見等で身近に接する機会がグンと増えた。いつだって、どこだって、健介は、とびきりの笑顔でボクらを迎えてくれる。いまだから言おう! 健介、大好きッ!! ド真ん中ッ!!

聞き手／松澤チョロ
撮影／福島俊彦
designed by matsu

健介　今日はよろしくお願いします！（ニッコリと微笑む）。

——こちらこそ、よろしくお願いします！　しかし、いつ見ても健介さんの笑顔は最高ですね（笑）。

健介　そうッスかぁ。それ、面と向かって言われると恥ずかしいんですけど（笑）。

——い、いや、大丈夫です。ボクはそっちの気はないんで（笑）。

健介　ガッハッハッハッ！

——いきなりですが、最近のプロレスラーって、見るからにレスラーって感じる選手が少なくなってると思いませんか？

健介　あぁ、それはありますよねぇ。

——その点、健介さんプロレスラーっていう雰囲気がプンプンしてますよね（笑）。

健介　そうッスか？（笑）。

——もちろん、そのぶっとい腕もそうですし、よく飲んで、よく食べて、練習もガンガンやるっていうイメージが健介さんにはあるんですけど、実際はどうでしょう？

健介　ホントそうだね、俺は。別にダイエットとかしようって思わないし、メシも食えるだけガンガン食って、酒なんかも毎日浴びるようには飲まないッスけど（笑）。

——浴びるまでは飲まないと？（笑）。

健介　でも飲むときはとことん朝まで飲んで、次の日そのまま試合やってるってこともあるし。そういう、ちょっと常識外れじゃないけど、バカなとこがレスラーは必要じゃないのかなって思うんですけど（笑）。

——絶対にそうあってほしいんですよ！

健介　そうッスよね（笑）。やっぱ酒ぐらい飲めないとレスラーじゃないっていうのが自分の中でありますから。誰だっけな？　忘れちゃったんですけどね、昔言われたことがあるんですよね、新日の頃。「内臓が強くならないと一流レスラーになれないぞ！」って。まあ、ホントに内臓弱いとメシもガンガン食えないだろうし。そういう意味では自分は本当に恵まれてるなあって思いますよね、身体的に。

——丈夫な身体だったんですね（笑）。

健介　でも、背が恵まれないから！（笑）。

——まあでも背が足りない分、余計に肉付けてやろうっていうことで、そのぶっとい腕になったんじゃないですか。

健介　そうッスね、それは自分的にありますね。それにマサ（斉藤）さんって背がボクとそんなに変わらないのに、アメリカで20年ぐらいやってたじゃないですか。

——マサさんの上半身はパンパンなんで、そんな小さな感じがしないですもんね。

健介　そうッスよね。ホント、マサさんに「殴られても蹴られても平気な身体作れ」って言われて、それからもう頑張りましたね。凄い説得力あったんですよ。それでもう「食べて、飲んで、練習！」って（笑）。

——理想のプロレスラー像ですね（笑）。マサさんが良いお手本になったと？

健介　うんうん、そうッスね！

——いまは家庭もあるわけですし、多少は落ちついたところもあるんでしょうけど、若手時代はムチャしたなとか、いまだから言える武勇伝とかって結構あるんですか？



5月18日、国士舘大学・学園祭でトークショーを行った健介。握手コーナーでは健介ファンの夫婦が「この子の名前も健介なんです」と紹介。子供好きの健介は、しっかりと健介を抱き上げ満面の笑み

Kensuke Sasaki

健介　武勇伝？　酒関係でですか？

——まあ、どっちでもいいんですけど。

健介　どんなもんですかねぇ……飲んでる量はわかんないんですよね。

——量的には結構イケるんですね？

健介　そう……最初は勢いだったんですよね。酒覚えたときは（笑）。でっかいピッチャーに、焼酎、ウイスキーとかブランデーとかなんかドボドボ入れられて、そんで食べ物が「ボンッ」って出て、それを「ガーッ」って混ぜられて「一気だ！」って言われて、それを両手で持って「ガーッ」って一気したりね（笑）。

——ほとんどイジメじゃないですか（笑）。

健介　そうそう（笑）。そういうの飲むと普通の酒も凄く美味しく感じるんですよ。

——まあ、そうでしょうね（笑）。

健介　でも、それでもうガンガン飲んで。やっぱり朝まで飲んでたらビンが並ぶじゃないですか。1人じゃないですよ、何人かいますけど。最初ビールから始まったりするんですけど、それでも焼酎あればビンが10本以上完璧に空いてるし。で、飲み出すとテキーラとか出てくるんですよね（笑）。

——勝手に出てくるんですか？（笑）。

健介　いや、知らないうちにテキーラいっちゃってるんですよ。ガッハッハッハッ！

——無意識でテキーラ！（笑）。

健介　それで7～8本空けたりとかしてたんで。気がつくと周りは、みんなドンドン潰れていくんですよね（笑）。

——飲んでて最後まで意識があるのは健介さんだけなんですか？

健介　ボクとあと1～2人くらいですね。その頃には、もうみんな横でブッ倒れてますから。もう酔っ払っちゃってね（笑）。

——そういったムチャな飲み方とかもプロレスラーらしいなって思うんですけどね。

健介　やっぱ……自分に言い聞かせてるのかも知れませんね。「俺はレスラーなんだから！」って。「こんなモンじゃあ、倒れるわけにはいかん！」って（笑）。

——素晴らしいですね！（笑）。最近はさすがに「健介、飲め！」っていう状況はそんなにないでしょうけど。

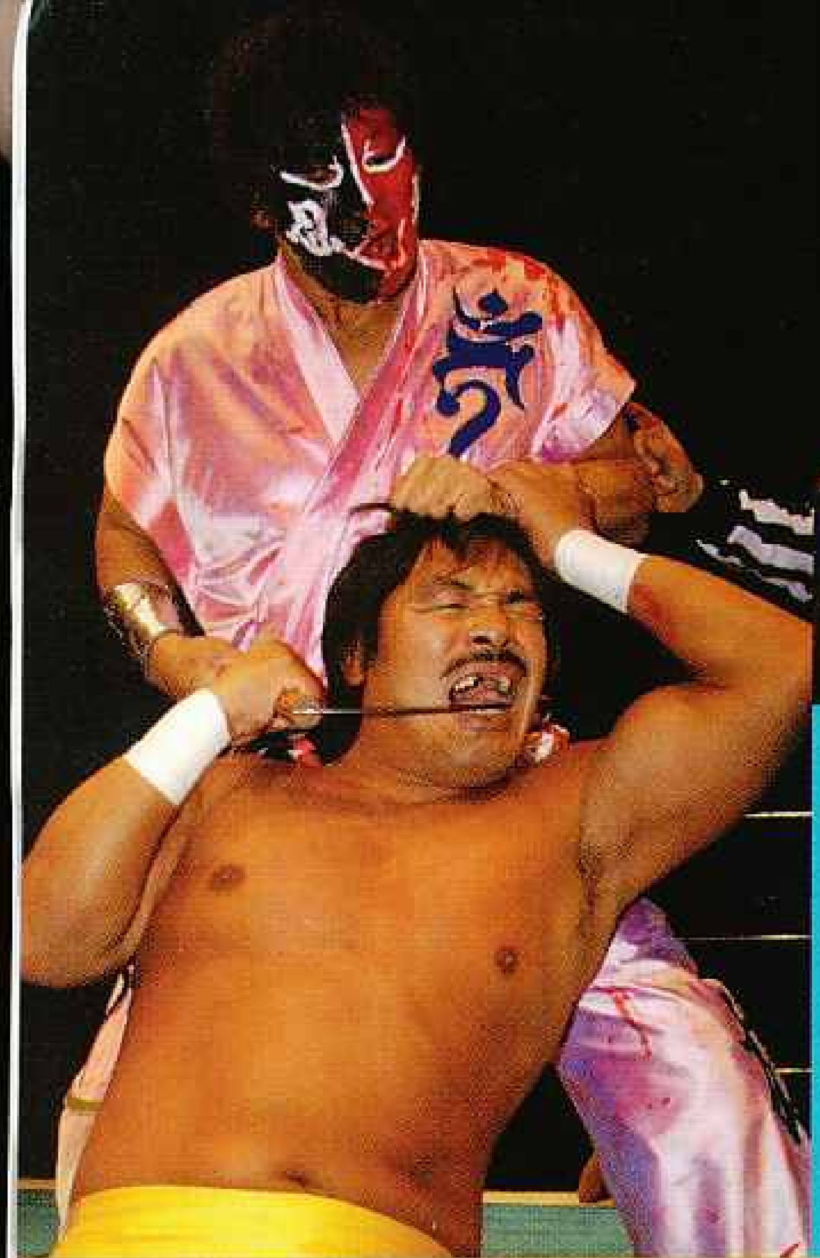
健介　まあ、そうッスね。……でもウチの社長は「ガンガン飲め！」って言いますよ。

——さすが福田社長ですね！（笑）。

健介　ホント凄いッスよ！　もうストレートだ、ロックだの、全然薄めるものが何もないですから（笑）。

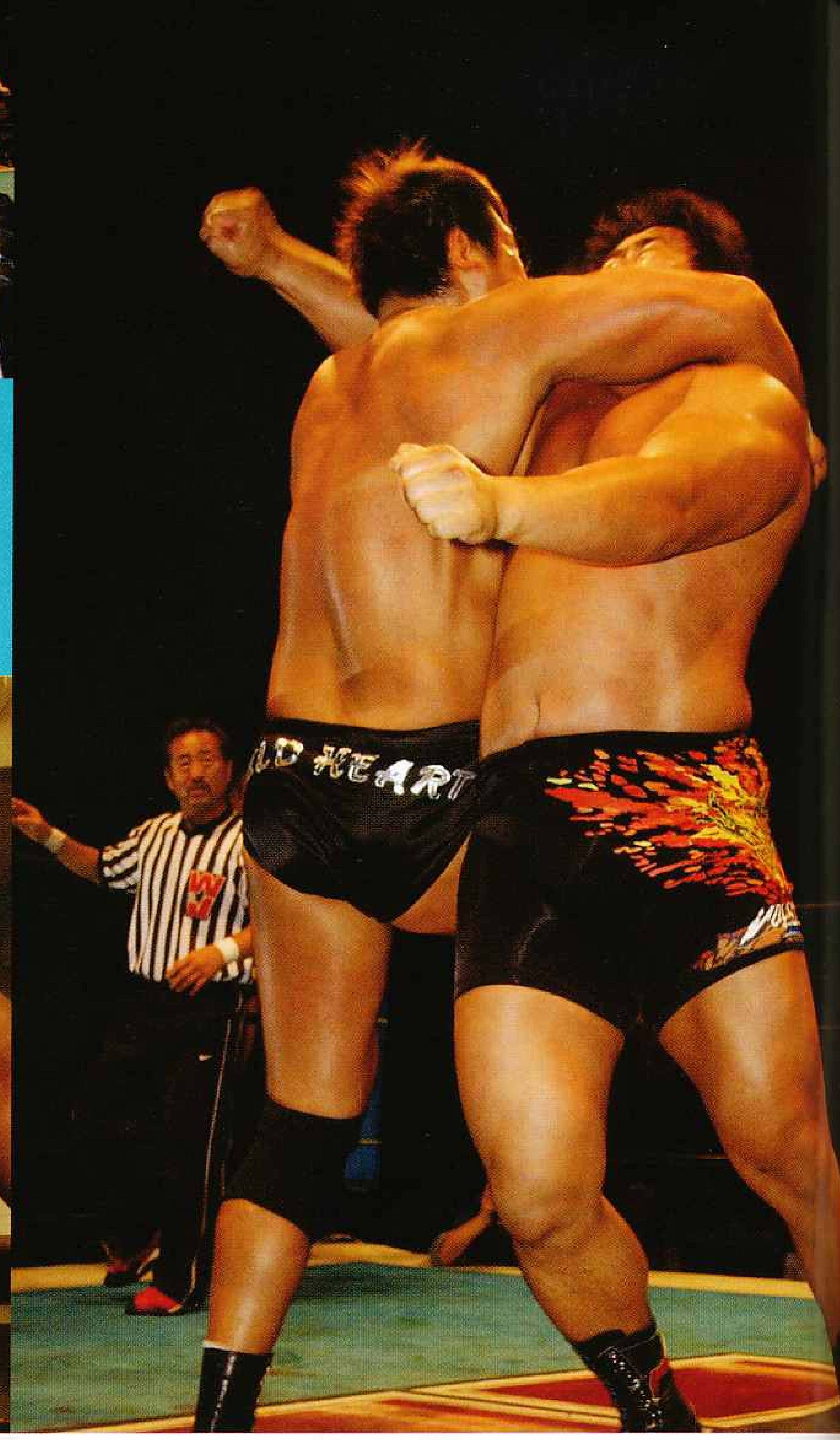
——それは凄いなぁ（笑）。そういえば鈴木健想さんが『ぴあ』でコラムを連載して






GWも“ド真ん中”!
WJ5月シリーズダイジェスト

【写真右＆下】5・4神戸で長州と組み、大森と初激突を果たした健介。試合後の近い将来の引退を匂わす長州発言に、健介は「元気ないっスね」とガックリ。5・18のトークライブでは遂に長州に牙を剥いた!【写真左】5・3大阪では馳と無効試合を演じたG・ニタが、試合後に「オイ、共同（通信）さんよ!　お前にビジョンはあるのか?」と人間語をしゃべった!【写真上】5・4神戸では石井智宏がタッグながら大仁田をピンする大金星邪!

るんですけど、それを読むと、健介さん夫妻に凄くお世話になってるってことで、「帰れ!」って言われるまでずっと泊まってるって書いてましたね（笑）。

健介　ガッハッハッハッ!　でもホント、健想はそうなんですよ（笑）。

――それで、幕張にアメリカ直輸入のスーパーが出来たってことで買い物に行ったんですよね。3tトラック借りて（笑）。

健介　はいはいはい（笑）。

――3tトラック借りて買い出しに行くだけでも凄いのに、さらにそのトラックに積みきれないくらい買い物をしたりだとか、3リットル入りのジュースを40本以上買うとか、この人たち普通じゃないなって、レスラー幻想が高まりましたよ（笑）。

健介　もうね、中途半端って嫌いだから、俺は!　最初は自分の車で行こうかなって考えたけど、絶対（駐車場に）入らないって思って、それで「よし、健想!　トラック借りに行くぞ!」って言って、ホントにトラック借りに行って（笑）。レンタカー借りてそれでバーッって行きましたね。

――3tトラックに入りきらないぐらいの買い物って何を買ったんですか?（笑）。

健介　いや～、いいなぁって思った物、バンバンッて買っちゃうんですよね（笑）。まだ作ってないんだけど勢いで買ったバスケットゴールがウチにあるんですけどね。

――バ、バスケットゴール⁉　ミニチュアサイズとかじゃなくてですか?

健介　ちゃうちゃう、普通の!

――エッ!　そんなものが普通にスーパーに売ってるんですか?

健介　アメリカのスーパー行くと売ってるの!　パイプもこんな太いヤツで「ボーンッ!」って、でっかいヤツ!　普通のバスケットゴールだから。

――組み立て式なんですか?

健介　うん!　組み立ててやるヤツなんだけど。まあ、ある程度形は出来てるんだ、でっかいから。それも買ったんだけど、まだ作ってなくて!　ハッハッハッハッ!

――バスケットゴールって健介さんがほしかったんですか?　それとも北斗さん?

健介　俺がほしかった!（笑）。

――ちなみに健介御殿にはバスケットゴールを置けるスペースはあるんですか?

健介　ま、置けるところありますね!

――それだったら、早く組み立てた方がいいですよ（笑）。

健介　まあ、それも勢いってヤツですね!

――勢い……。そりゃあ、さすがに3tトラックでも積みきれないですよね（笑）。

健介　ボクね、よく言われるんだけど、「これいくらだったんですか?」って。でも覚えてないんですよ。だって1個って、あまり買わないじゃないですか、なかなか。何個かまとめて買ったりするから……そこのスーパーで……30何万か使いましたよ。

――もはやプロレスラーというより、マイケル・ジャクソンみたいですね（笑）。あと、健介さんと言えば、豪邸が有名ですけど、高級家具とかやゴージャスな内装から、ファンの間でもかなり話題ですよ。

健介　そうなんですか（笑）。

――アレは趣味的には北斗さんの……。

健介　ウチのヤツですね。だって……。

――健介さんのイメージとは全然違うんで、これは明らかに北斗さんの影響なんだろうなって思いましたけど。

健介　あれね、家建てる前に家具買っちゃったんですよ。もう「家建てよう!」っていう話はしてたんですけど、間取り的なものって全然わからないじゃないですか。だからまず「家具買っちゃえ!」って（笑）。

――それも凄い話ですね（笑）。
健介　それで家具を見に行きたいって話をしてて、「じゃあ行こうか！」ってなって。行くにしても、その輸入……っていうかイタリア調の家具が欲しかったらしいんですよ。それが「夢」だって言われたら、男ならその夢を叶えてあげたいなって思うじゃないですか？（笑）。
――まあ、そうですよね（笑）。
健介　で、「どこに行く？」ってなったら岐阜にあったんですよね。で、岐阜に買いに……ちゅうか、最初は買いにじゃないですね、見に行ったんですよ（笑）。
――わざわざ岐阜まで見学に！
健介　どんなもんがあるのかなって見に行ったら、もう気に入ったもんばっかりあって！　そこに自分の理想の家具があるんですよね。家建てるのはもっと後だったんですけど、「こういうイスがアタシ、夢だった～！」って、そんなこと言われたら決めるしかないって思いますよ（笑）。
――逆に、この家具に見合う家を建てなきゃいけないと？（笑）。
健介　そうそう。ソファだけじゃないし、





僕が軽とか乗ってたらカッコ悪いじゃないですか（笑）

ソファ……長いソファがあるし、こういうのがあってって……何て言うんですか、イタリア調の毛じゃないですけど、デッカい柄の入ったような感じ？　何十万ってするんですよ！　俺、思わずマルを数えちゃいましたもん！（笑）。
――「いくらなんだろう？」って（笑）。
健介　「えっ！」って思って2回くらい数えましたもん。ビックリしちゃって。でも買ったもんねぇ……。ソファセットを2つ買って、（両手を広げ）こんなデカい鏡、木の模様が入って、こんな足が付いて、ダイニングテーブルが6人掛けで……。あとなんちゅーの？　いろいろ入れるヤツ……洒落たヤツあるじゃない？　そんなのまだほしいって言ってたから、「もうわかった！」って、開き直りですね（笑）。
――アハハハ！
健介　「よし買おう！」ってなって、そん時は見に行ったつもりだったのが、結局全部買っちゃったんですよね（笑）。
――アハハハ！　その豪快さは、さすがプロレスラー夫妻って感じですよね（笑）。
健介　そうかもしれない（笑）。
――そういえば、昔、健介さんはもの凄くでかいバイクとか乗ってましたよね？
健介　もう売っちゃったんですけど、HONDAのゴールドウイングの3輪のヤツですね。……あれはHONDAの逆輸入なんですよ。なんか好きでね。まだ独身の時だったんですけどね。
――あの辺の車とかバイクの選び方っていうのもプロレスラーだなって感じますね。
健介　あれも勢いだったッスね。
――独身の時から勢いまかせ？（笑）。
健介　独身の時に見て「ウワァッ！」って思って。これカッコいいなって思ってね。
――一目惚れみたいな感じですか（笑）。
健介　ホントそうなんですよ（笑）。
――トップレスラーになったら絶対に買ってやるぞ！って考えてたんですか。
健介　だって、こう……ボクが軽とか乗ってたらカッコ悪いじゃないですか（笑）。
――アハハハ！　まあインパクトはありますけどね（笑）。
健介　でも夢も何もないじゃないですか（笑）。やっぱり、レスラーっていう部分で意地っていうかね、みんなも頑張れば俺みたいにっていうか、俺以上にだってなれるんだよっていう気持ちもありますからね。そういう意味で、やっぱ自分の意地ッスよね。だから、いまだってキャデラックのでっかいのに乗ってるしね。
――いいですねぇ。
健介　やっぱりね、そういう「ちょっとバカじゃないの？」とか、「もっと節約すればいいのに」って冷静に考えたらそうなるのかもしれないけども、ちょっとバカなところが自分にもあるんですよね（笑）。
――アハハハハ！　でもやっぱり見栄を張るっていうのは必要ですよね。プロとして人に見られる商売ですからね。夢も与えなきゃいけないですし。
健介　そうそう。みんなに夢を持ってもらいたいっていう気持ちもあるんでね。
――あと、健介さんは昔からヘアスタイルとかも「これぞレスラー！」というか、かなり個性的でしたよね（笑）。
健介　いろいろやったよねぇ（笑）。
――よくプロレスファンのお父さんやお母さんが自分の子供を「健介ヘア」にしてるのを会場でよく見かけましたね（笑）。
健介　そうそう（笑）。いまは、俺、うしろ切っちゃってますからね。
――最近はちょっとおとなしいですね。
健介　パワー（・ウォリアー）の時は、もっと短くしてピンピンにして長くしてたんですけどね。ああいうのは、あの当時あまりいなかったですからね。
――ホント先駆けですよね。その後、天山さんや吉江さんみたいに個性的な人が増えてきましたけど（笑）。
健介　一回、天山が髪伸ばして真っ黒の時があったんですよね。そん時、俺と間違えられたって聞いたことありますね（笑）。それから金髪にしたとかって。けどまあ、人がやってない髪にしたかったっていうのがあるんですよ。なんか、普通がイヤだったんですよね。
――普通がイヤ！（笑）。コスチュームとかは逆に奥さんの北斗さんの影響が大きかったりするのかなって思うんですけど。北斗さんは現役時代からコスチュームとかメチャメチャ凝ってたし、プロ意識っていうのは凄い選手でしたからね。
健介　それはありますね。やっぱり、プロレスラーっていうのは、リング上っていうのがボクたちの闘いの場じゃないですか。言い方を変えればそこが仕事場じゃないですか。そういうものに対してボクはケチろうとは思わないですね。コスチュームにしてもこだわりたいなあって。何十万の時もあるし、百何十万の時もあったんですけどね（笑）。今回WJになってボルケーノって入れたのは、去年から、もう新日本でやってきて全ての溜まってきたものを「ボーンッ！」って爆発したい！　そういう自分の中でのイメージがあって。だからボルケーノ・イラクションって入ってるんですよ。
――ボルケーノ・イラクションですか？
健介　噴火するっていう感じの意味でね。ボルケーノだけだったら休火山も活火山もどっちの意味もあるんで。
――それが、WJで大会タイトルにもなっ



Kensuke Sasaki

てる『マグマ』とかに繋がってくるところはありますよね。

健介　それもあって、「よし！　ちょうどいいな」っていう感じですよ（笑）。

――それで、今回新しいコスチュームを作るにあたって、健介さんは仮面ライダーの本とかを持って、デザイナーさんにイメージ的なものを伝えたって聞いて、それは素敵だなって思ったんですよ！（笑）。

健介　うんうん。持ってったんですよ（笑）。

――そう言われてみれば、ちょっと仮面ライダー系だなって思って（笑）。

健介　そうそう（笑）。だから、俺の子供心が復活しちゃったんですよ。ガキの頃、仮面ライダーとか見てたけど、見てない時期ってやっぱりあって。去年くらいからもう一回見だしたんですよね。

――昔、放送してたヤツじゃなくて最近のものですか？

健介　そうそう、いまのヤツ。去年だったら仮面ライダー龍騎とか（笑）。

――携帯の着メロにしてたんですよね？

健介　よく知ってますね（笑）。でも、いまだったら仮面ライダー555ですか。

――ファ、ファイズ？

健介　555って書いてファイズ。フハハハ！　子供が見る番組なんだけど（笑）。

――ハマっちゃってるんですか？

健介　そうなんですよ（笑）。しかも日曜の凄い早朝ですからね。

――大体、それぐらいにやってますよね。

健介　普通、日曜日ってずっと寝てるから、最初その時間って知らなかったんですけどね。子供がきっかけでその時間やってるって知って、それからずっと見てますね。起きれないときもあるんで、もう毎週撮るようになってるんですけど。でも何て言うのかな？　子供心に帰りますよね。「あぁ～、やっぱり強いな！」とか、いろんな感情が湧いてくるんですよね。その変身する……俺、なに話してるんだろう？　馬鹿な話ばっかりしてるよ！（笑）。

――いや、そんなことないですよ。

健介　なんて言うの？　凄い流れがあって、ある時「ボンッ！」って変身してる時も凄い「ヴァーッ！」って鳥肌立ちますからね。ホント、ゾクゾクってきますよ。

――そういうもんですか（笑）。

健介　この前の……昨日の仮面ライダーも鳥肌立ちましたからね。日曜日だから子供と一緒に見てたんですけど、鳥肌モンでしたよ！

――そんなに凄いんですか？（笑）。

健介　プロレスラーって夢を与える商売だけど、逆に夢をもらってる感じがしますよね。だからなんか、俺って若返ってるんじゃないかって（笑）。ハッハッハッハッ！

――仮面ライダーで若返れますか（笑）。

健介　う～ん、どうだろ？（笑）。まあ、そういうのがあって自分のガウンを仮面ライダーっぽいのにイメージしたりね。

――変身した気になればリング上では、かなり強くなるんじゃないですか？　子供にも喜ばれるだろうし（笑）。

健介　そうだよね……うん（笑）。それもなんか面白いなあって思うんですけどね。だから……結構ハマってますね！

――ボクも今度から見てみます！　仮面ライダーじゃないですけど（笑）、レスラーとしてこれだけは誰にも負けないっていうのは何かありますか？

健介　誰にも負けない？　俺はもう、ぶきっちょかもしんないけど一本気なところは誰にも負けないと思いますよ。

――一本気ですか⁉　何かのプロフィールで、長所も短所も「バカ正直！」って書



コスチュームにしてもこだわりたいなぁって。百何十万の時もあったけど

いてましたよね？（笑）。
健介 ホントそうなんですよ（笑）。それが、いいとこであり悪いとこであり、だけど、そういうところが好きなんですよね（笑）。「バカじゃないか？」って言われるかもしれないですけど、そういうところは俺はいいんじゃないかなって思いますね。
——一本気というかその部分では誰にも負けないと。
健介 それは……負けない！ 絶対負けないと思う。なんか損してる部分もあると思うんですよ、自分で。もっと上手くやっていけるんだったら、もっと人生変わってるかなって。たぶん新日本も辞めることなかったんだなと思いますよ。上手くそういうこと出来るんだったら。
——世渡り上手になるよりも、自分の信念貫いてっていう方が……。
健介 それで、いいんじゃないのかなって。成功するか失敗するかわからないじゃん、先の話って。それは何にしてもそうだし。だけどもう、そういう性格なんですよね。
——新日本退団会見でも「大好きッ！」って言ってましたし、もちろん、いまでも少なからず新日本に対する気持ちは残ってるんですよね？
健介 うん。正直まだありますね。ホントそう。辞めた団体なんだけど……。
——やっぱり、いまでも大好きッって言える健介さんは一本気というか……。
健介 ホントはね、言わないんだろうけどね、普通は。だけどやっぱ……そうなんですよねぇ。でもダメなんですよ！ 俺、嘘付けないんですよ（笑）。
——でもそこが健介さんの魅力だと思いますよ。あと、嘘つけないっていうと、いろいろ辛い時期だったと思いますけど、藤田さんへの「正直スマン！」っていうマイクアピールはインパクトありましたね（笑）。
健介 あぁ（苦笑）。
——ファンとかにも散々突っ込まれてましたけど、あれも健介さんのストレートな気持ちだったと思うんですよ。
健介 あの発言っていうのは、いろんな意味で問題になったけどね（笑）。でもあれもなんて言うんですかね？ 俺がベルトを巻いてる時に、藤田とやることが決まったわけじゃないですか。で、俺はベルト獲られてしまったわけじゃないですか。「俺はチャレンジャーだ！」って気合いが入ってる状態って何回も経験してるし、ベルト持ってる人間とタイトル戦で当たる時には自分の気持ちが完全に入ってたから。「チャンピオンとやるんだ！」っていうね。
——なんとなくわかる気がしますね。
健介 その相手側の気持ちってわかるんですよね。俺もずっとそうだったから。その対戦でベルトがない……アイツに気持ち的に負けてるものは何もないですよ、俺は。ただベルトがないことに対してなんか……なんかちっと「悪い！」ってことになったんですよね。言わなきゃ、なんてことなかったんですよ（笑）。
——まあ、そうなんでしょうね（笑）。でも過ぎてしまえば、WJさんの「ド真ん中！」じゃないですけど、マット界にインパクト残したって意味では良かったんじゃないですか（笑）。
健介 フッハッハッハッ！ そうッスかね？ でも「正直スマン！」っていうTシャツ見たことあるんですよね（笑）。
——たしか、水道橋にあるプロレスショップで売ってましたね（笑）。
健介 そうなんですか（笑）。
——藤波さんの「こんな会社、辞めてやる！」Tシャツと一緒に売ってますよ（笑）。
健介 ハッハッハッハッ！
——ちょっと脱線してしまったので、話を戻しますが、7月の両国大会では、シングルのトーナメントをやって、その優勝者にはベルトを作る可能性もあるって永島さんが言ってたんですけど、やっぱり、ベルトは欲しいんじゃないですか？
健介 欲しいッスね。いまのままじゃ誰が1番なんだってわからない！ そのベルトを争って、もうトコトン頑張るしかないんで。やっぱ、なにか狙うモノが絶対欲しいッスね。欲しい、絶対欲しい。それ巻いてればWJの1番ってことですからね。



ささきけんすけ
S41年8月4日、福岡県福岡市出身。S60年6月、ジャパンプロレスに入門。S61年2月26日、後楽園での笹崎伸司戦でデビュー。新日本時代にはIWGPヘビー&タッグ、G1クライマックスなど数々のタイトルを手中に収めた。H14年11月、15年間在籍した新日本を退団。翌年1月、WJプロレスに入団

Kensuke Sasaki

——ド真ん中ヘビー級ベルトっていう噂も流れてますけど（笑）、やっぱり、カッコいいベルトが欲しいですよね。
健介 そうッスね！ 仮面ライダーは、いまもベルトしてるんですけど（笑）。
——アハハハハ！
健介 いまは携帯で番号押してベルトに差し込むんですよ。だからファイズだったら「5・5・5」押したりして、携帯をベルトに差し込むんですよ。
——ウルトラマンみたいに電池はすぐ切れないんですか？
健介 それは大丈夫です！（笑）。まあ、そういうのとは違うけど、ベルトを争っていかないと強くなれないですよ。漠然とした目標だけよりも、ちゃんとした目標がないとダメじゃないかなって思うんで。
——この夏は、さらなる、健介マグマの大噴火を期待してます！

【5月19日／WJプロレス事務所にて収録】



RADICAL PRESENTS
歴史を知らない者は黙って着ろ!!



★マサ斉藤Tシャツ①

★マサ斉藤Tシャツ②

★マサ斉藤Tシャツ③

★マサ斉藤Tシャツ④

★マサ斉藤Tシャツ④

男だったら、男だったらマサになりたい!!

目ン玉が飛び出るようなマサさんTシャツが出た!! 男のマストアイテム・マサ斉藤Tシャツでこの夏を乗り切れ!! ゴー・フォー・ブロック!!
【BAMBAMBIGELOW提供】
「ワールドスポーツプラザ」(TEL.03-3462-1001)で販売中!!

BAMBAMBIGELOW
[URL]http://www.bambam88.com
[渋谷店]03-3477-8939
[下北沢店]03-3460-1145

各1名様

PANCRASE

パンクラスのプレミアグッズがドドーンと登場!! 特に選手ミニフィギュアセットは、ヤンキー然としたみのる人形、餅つきパワーボムを敢行しそうな謙吾人形など、とにかく最高! 風になって買いに行け!! 【スモーノブ提供】

パンクラス
[TEL]03-5792-0815
[URL] http://www.pancrase.co.jp/

各1名様



★菊田早苗×近藤有己Tシャツ

菊田vs近藤に感動した編集部が自費購入!!



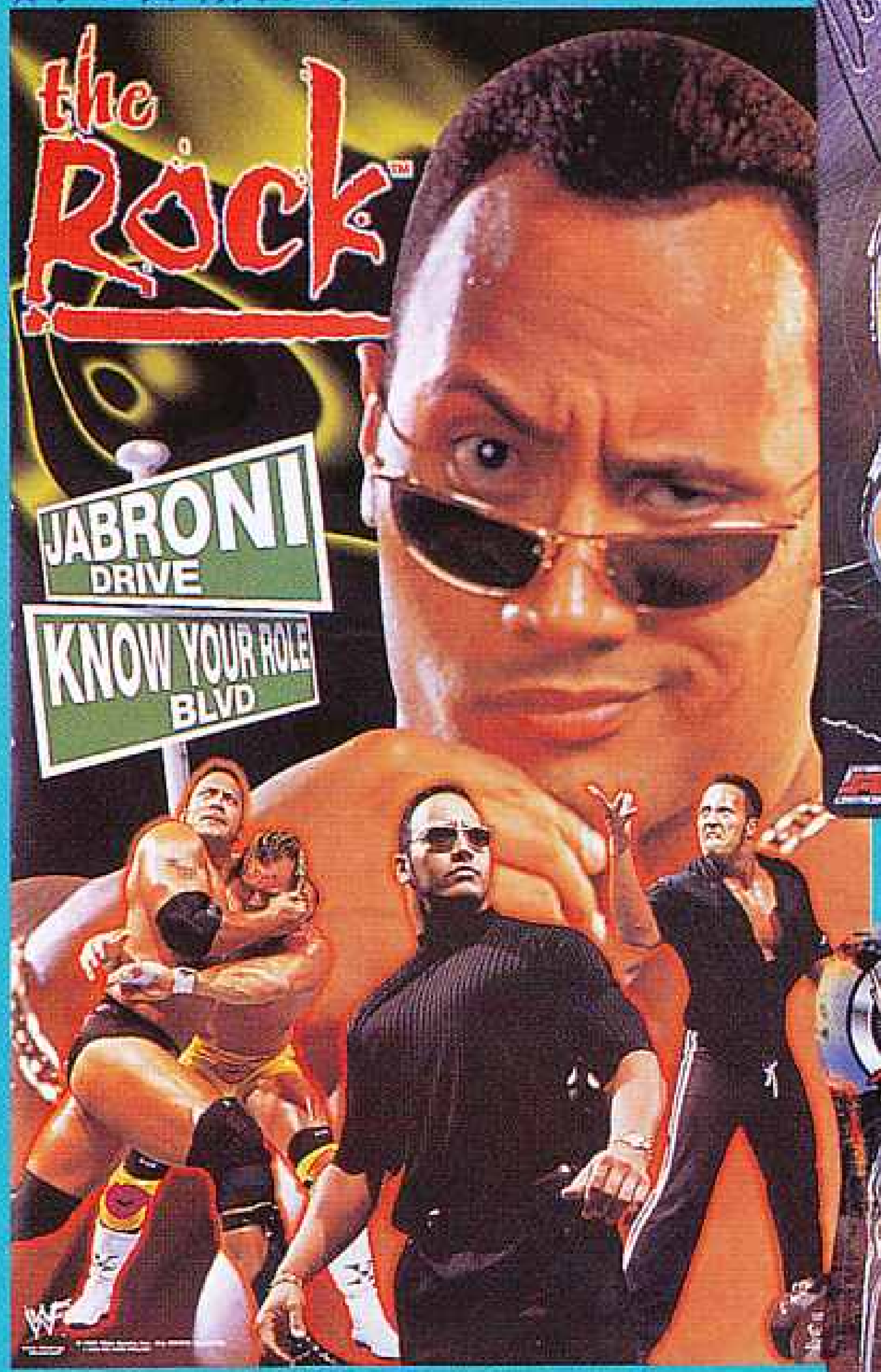
★シルバーリング



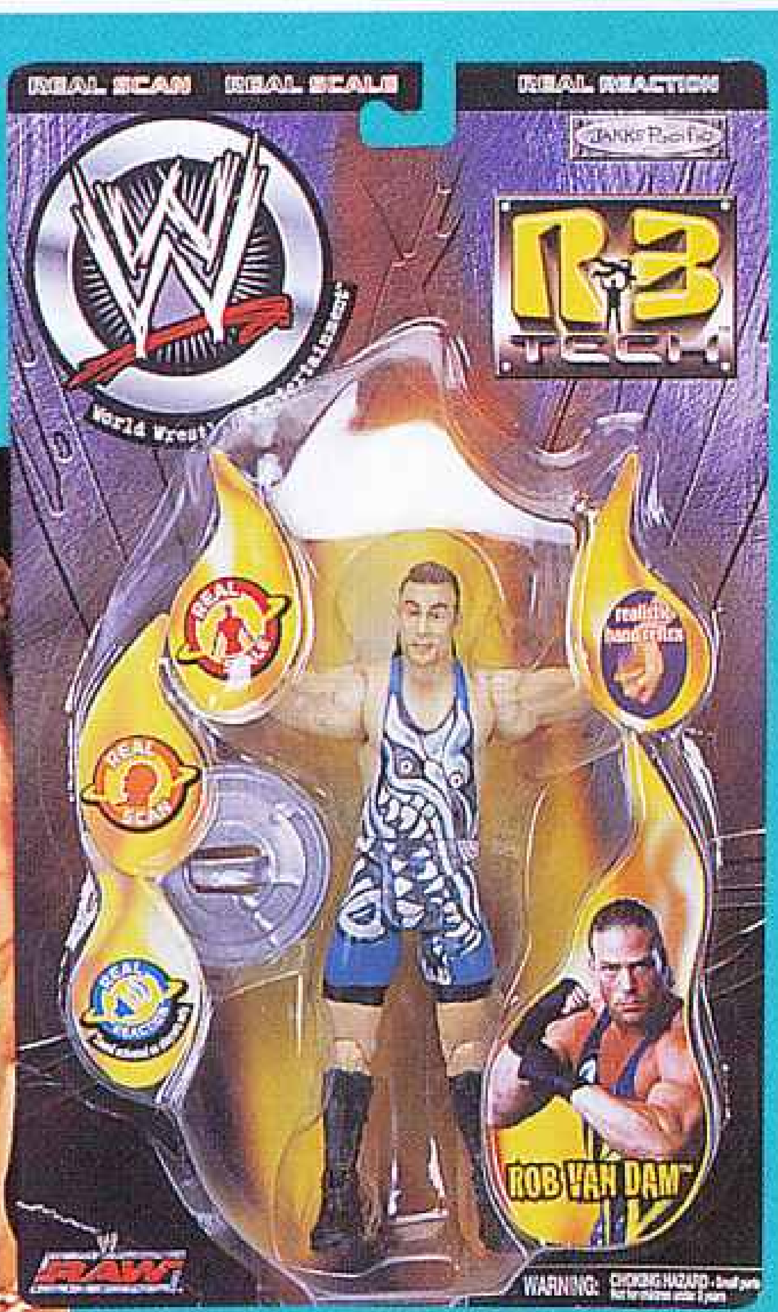
★選手ミニフィギュアセット

WWE

セットで1名様



★ザ・ロック特大ポスター



★ロブ・ヴァン・ダム　フィギュア



★トリプルH&クリス・ベノワ フィギュア

アレクのハワイ土産WWEグッズ!!

アレクサンダー大塚のハワイ土産はWWE三昧!! ロックの特大ポスター、フィギュアなど、WWEマニアにはたまらないセットを1名様にプレゼント!! んむはぁ〜。 【アレクサンダー大塚提供】

Mr.POGO

セットで1名様



★ミスターポーゴサイン入りハガキ



★関川哲夫選挙ポスター

伊勢崎市議会選挙に残念ながら落選してしまったポーゴ様の選挙グッズ!! この無念は次回で晴らしてくれ! 伊勢崎の暗黒街化熱望!

【ミスターポーゴ提供】

J STAR

3名様



★サブゥーTシャツ

大阪・京橋のプロレスショップから人気のサブゥTシャツが再飛来!! レトログッズが豊富! 【ジェイスター提供】

お問い合わせ

【URL】http://www.jstar.co.jp/

【TEL】06-6926-2888

GOTCH

3名様



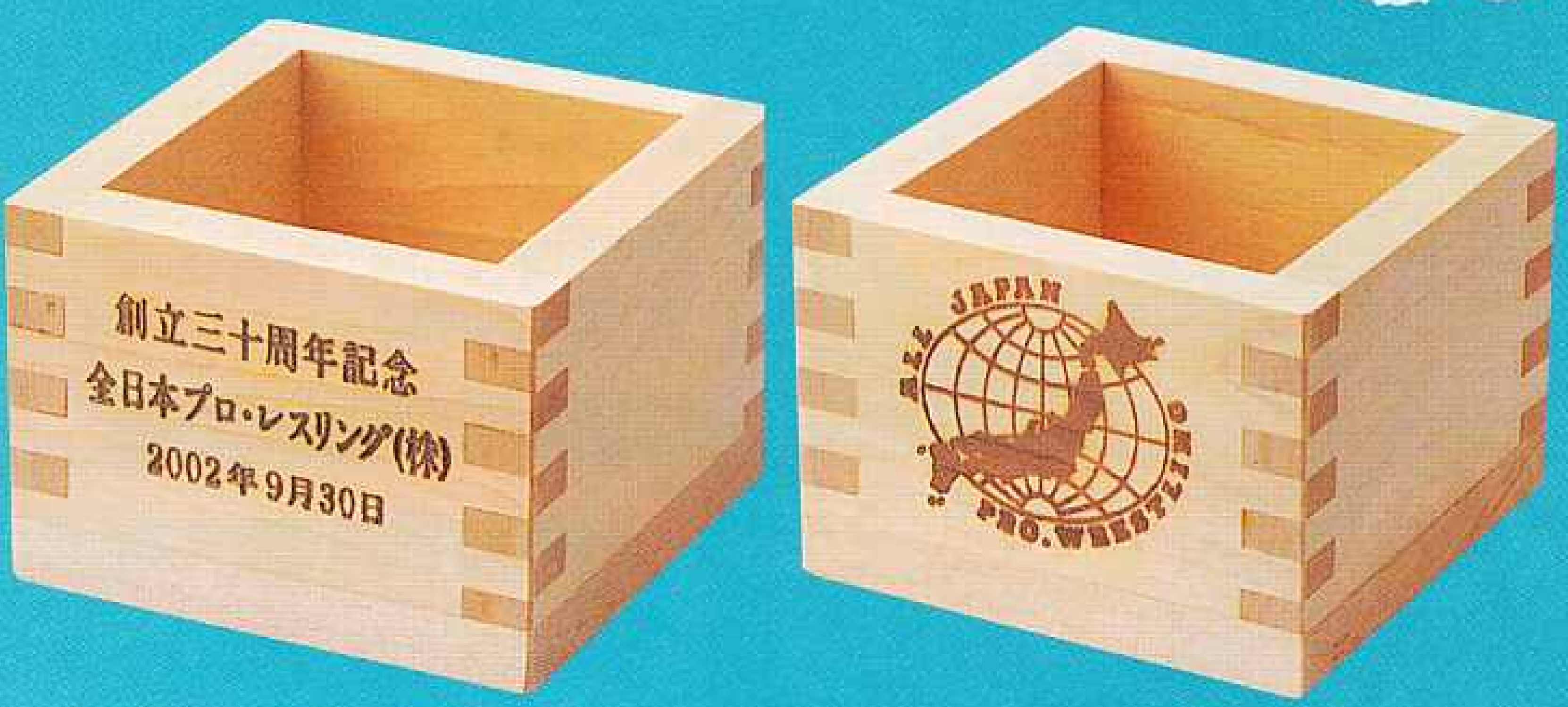
★居酒屋ごっちキーホルダー

本誌が取材場所として度々使用させて頂いてるカール・ゴッチ公認店「居酒屋ごっち」からのプレゼント!!

【居酒屋ごっち提供】高円寺南4-29-8 シャルマンハイム1F

ALL JAPAN

1名様



★全日本創立30周年記念「盃」

全日本の社長に武藤が就任したパーティーでジャン斉藤がコッソリ持ち帰った逸品! 嬉しいときも悲しいときもこの盃で酒をあおろう! 【編集部提供】

DOUBLE CROSS

各1名様



★謙吾フィギュア

★山ちゃん人形

季節外れの大掃除した編集部から発掘されたプレミア人形たち!! 昔は「良い人」だったと評判の山ちゃんとデビュー当時の謙吾を喰らえ!! 【編集部提供】

GANGAN

1名様



★小路晃Tシャツ

小路晃ファンクラブ会員のチョロに送られてきたTシャツをプレゼント!! アビダビ・コンバットは無念だったが、『PRIDE』でガンガンいってくれ、小路!! 【チョロ提供】

小路晃HP

【URL】http://www.a-hotaru.com/

TADASHI☆TANAKA

3名様



★タダシ☆タナカ「誰も知らなかったプロレス&格闘技の真実」

残念ながら『書評の星座』では採り上げられなかったタダシ☆タナカ先生本。皆さんが心の中でシュート書評してくれ!!

【タダシ☆タナカ提供】

幻冬舎・刊 ¥1300+税

IWGP

3名様



★IWGP列伝

歴史を知らない者は黙っていろ!……ということで、猪木さんもいる、坂口さんもいる、藤波社長もいるIWGP激闘歴史を綴ったビデオシリーズを8本まとめてプレゼント!! 池袋ウエストゲートパークではありません!! 【編集部提供】

応募要項

① 郵便番号・住所・電話番号
② 氏名 ③ 年齢・職業
④ 希望商品
⑤ 面白かった記事&その理由
⑥ つまらなかった記事&その理由
⑦ 好きな選手&嫌いな選手

応募券

【宛先】

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「11年目のハンサム」係まで

※締切は2003年6月25日(水)当日消印有効

KARATE

1名様



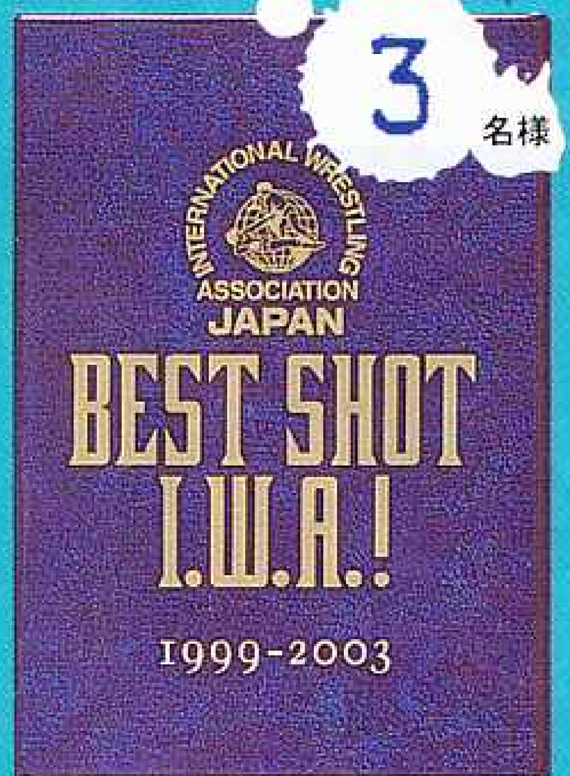
★格闘者 新・空手バカ一代

本誌スーパーバイザー吉田豪が帯文を書いた高森真士(真樹日佐夫先生)入魂の作品が復刻!! 入手困難な全3巻に書き下ろしの第4部を加えて堂々の完成だ!

【吉田豪提供】白夜書房・刊 ¥2800+税

I.W.A.

3名様



★BEST SHOT I.W.A.!

「最高ですか!?」と聞かれれば「最高です!」とすぐさま返事ができるIWAのDVD! 総集編が出ましたヨ!! GO!GO! キンロクさん!

【IWA提供】¥3810+税

TAKARAJIMA

3名様



★完全版 プロレス伝説 限定2大付録付き

選手のインタビュー&U系団体秘蔵映像収録DVD&オリジナル世界最強Tシャツが付いたプロレス伝説第2弾!! キングダム(not入江)の映像もあるぜよ!!

【宝島提供】宝島・刊 ¥2100+税

紙のプロレス
RADICAL

No.62
2003年6月25日発行

No.63は
6月下旬発売予定!
※地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

編集兼発行人
山口日昇

編集スタッフ
松澤チョロ
堀江ガンツ
ジャン斉藤
八木賢太郎(強制失禁させられたためやむなく非番)

スーパーバイザー
吉田豪

助っ人
片山ボン
ジャイ子

電気部
ささきぃ
スモーノブ

アートディレクター
出田さん(TwoThree)

デザイン
ヒサくん
マツくん
村松さん
グッチー
タニやん(以上TwoThree)

トメさん
はなえちゃん(以上さおとめの事務所)

海老沢勇
古賀ゆきえ(以上Zero graphics)

カメラマン
斉藤ユーリ
森鷹博
遠藤政文
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
福島俊彦
緒方秀美

試合写真
平工幸雄
乾晋也
吉澤晃

お勘定&衣料部
林"ヘックション"一枝

出前
出前持ち入江(TwoThree)

フィニッシュ
ツー・スリー
さおとめの事務所
ゼロ・グラフィックス

印刷
図書印刷株式会社

印刷人
大杉すぎすぎ昌也

発売元 株式会社ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町一番地 TEL.03-3357-2911(販売・営業)
発行元 株式会社ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 TEL.03-3403-5188(編集・制作)

紙のプロレス RADICAL
WANIMAGAZIN MOOK227
2003 NO.62
この夏、マット界に大爆発の予兆アリ!!

平成15年6月25日発行　編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社　〒160-8580　東京都新宿区内藤町1番地　電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス　〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　電話／03-3403-5188
ワニマガジン社　定価：本体838円＋税

9784898297070
ISBN4-89829-707-2
C9476 ¥838E
1929476008381
雑誌　69860—27

印刷：図書印刷株式会社